創立60周年記念誌

(財)全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部

発　刊　の　辞

㈶全国高体連バドミントン専門部
部長　木　戸　純　一

㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部が創立60周年を迎えることになりました。平成11年の創立50周年では、全国専門部の輝かしい歴史と偉業を貴重な記録として後世に残すため、記念誌が発刊されました。このたび、10年間の歩みを振り返り、将来の発展に寄与することを目的に60周年記念誌を発刊する運びとなりました。

全国専門部は、昭和26年全国高体連にバドミントンを通じて将来を担う高校生の育成と競技力向上を目指し、加盟を果たしました。現在、全国の部員登録数は、95,500名・6,500チーム、平成11年に比べて7,500名・500チーム増加しています。

他種目では、少子化の影響などで学校における運動部活動部員数の減少が深刻な状況にあるなか、選手・チーム数が増加していることは、全国各地で指導にあたられている顧問の先生方の情熱の賜と敬意を表します。また、国際舞台での活躍も目を見張るものがあります。アジアジュニア大会は、平成14年女子シングルス第三位・平成18年男子シングルス優勝、世界ジュニア大会では、平成19年男子シングルス・平成20年女子シングルスで準優勝し２大会連続で銀メダルを獲得、日本の高校生も確実に世界で戦える力を身につけてきました。これも、諸先輩方のご努力により、優秀な指導者と選手を数多く育成された成果の表れです。この10年間でバドミントンの競技ルールも大幅に変更になり、平成11年からユニフォームのカラー化に伴い見ためも変わり、見せるスポーツに近づいてきました。平成18年からはラリーポイント制が導入され、試合展開がスピード化されたことによりスリリングな試合が多く見られ、大変興味深くなりました。

今、高等学校スポーツをとり巻く環境は、大きく変化し、新しい時代を迎えようとしています。インターハイにおいても、開催地の財政難があげられ、各都道府県での独自開催を平成22年沖縄県を最後にブロック開催となります。平成23年は北東北ブロック青森県弘前市開催が決定していますが、今後、大会開催の財政確保や大会規模縮小などの緊急の課題があげられています。

現在、全国専門部がこのような組織に発展できました事には、これ迄の間、組織の育成にご尽力を賜りました歴代の部長先生をはじめ、バドミントンの諸関係の皆様方のご支援があった事を想い、厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、60周年記念誌編集に格段のご尽力を賜りました皆様に心から感謝の意を表し、発刊の挨拶とさせて戴きます。

祝　　辞

財団法人 日本バドミントン協会
会長 綿　貫　民　輔

㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部が、創立60周年を迎えられ、さらに、新しい足跡を刻まれてこられましたことに、心からお祝い申し上げます。また、この度は、記念誌を発刊され、その歴史を記録されましたことに対し敬意を表します。

さて、貴専門部は、昭和25年に発足して以来、全国高校総体及び全国選抜大会の開催のみならず、全日本研修合宿等幅広く活動され、バドミントンの普及と優秀な選手を数多く育成し、輩出されて来られました。このことが、オリンピックを始め国際大会での今日の日本選手の活躍に結び付いていると考えます。また、この少子化の時代及び子供たちのスポーツ離れの昨今、高校生の日本協会登録人数がこの10年間で、61,605名から95,474名と11,948名も増加しているなど、貴専門部が、本協会はもとより、日本のバドミントン界に残された功績は多大なものであります。

今日、貴専門部が着実に発展されてこられたのは、歴代の専門部の役員の方々等のご苦労はもちろんのこと、全国各地で常日頃から献身的に指導されている指導者及び選手の皆様の努力があってのことであります。また、小学生からの一貫した指導が定着してきました近年において、貴専門部が果たす役割には非常に重要なものがあります。これからも、関係各団体との連携を計りながら、バドミントンの普及と世界で活躍する選手の育成を目指して、より一層発展されますよう祈念し、祝辞といたします。

ごあいさつ
記念誌発行に寄せて

㈶全国高体連バドミントン専門部
顧問　遠　井　稔　男
（現 ㈶日本バドミントン協会参与）

㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部創立60周年記念事業の一環として60周年記念誌が刊行の運びにいたったことは、関係した一人として御同慶にたえません。専門部は昭和25年創立以来60年の歴史を刻みこみご尽力ご苦労をいただいた柳、森、小林、川田、遠井、大世古、保坂、伊佐山、木戸歴代部長をはじめ多くの役員の皆様方に深く感謝を申し上げます。

高松宮・同妃賜杯は伊沢副部長のお骨折りで御下賜いただきました。専門部にとりましては何よりもありがたいことであり明るい話題でありました。第１回大会は大きな御宮杯を添えることができましたことは最高の誇りであり感激でありました。全日本高等学校バドミントン選手権大会は、昭和26年１月13日から14日まで横浜フライヤージムでオープン参加により開催されました。16都道県、男42校、女42校、349名の選手が出場し急場の大会となったため高校生が中心となってさわやかな大会運営であったという。全国大会は昭和39年全国高体連指導のもと全国高等学校総合体育大会へと統合され現在に流れている。

特に、高校教育活動の一環として高校生の健全な育成と高校体育・スポーツ活動の発展に大きな貢献を果たしている、「力」と「技」と「明朗な精神」の大会精神を基に大会を重ねるたびに充実してまいりました。現在では国内三大会として開催地は実行委員会を組織し高校生一人一役を合言葉に、楽しみながら大会を盛り上げている傾向にありますが、バドミントンはすでに第１回にしてその精神があった。現在、バドミントン専門部は47都道府県5000校、プレーヤー90.000名を擁するまでに普及し日本一の競技人口を持つ組織になりました。また、日本バドミントンの基盤でありジュニアの中核をなしジュニアの中心である、日本ナショナルチームへの登竜門として高い関心を寄せている大会でもあります。日本バドミントン協会は、ジュニアの選手強化に力を入れ国際競技大会等に参加してはここ数年上位の成績を安定的におさめており、バドミントン界に明るい希望を与えている。北京オリンピックにバドミントン11名の選手を送った。特に、末綱・前田組が準々決で世界ナンバーワンのダブルスペアに勝って４位入賞したことは多くのバドミントン愛好に夢・感動を与え新しいファンをつくって終わった。ロンドンオリンピックに向けて専門部は、日本バドミントン協会ジュニア競技強化担当合同で国立トレーニングセンターを有効利用して競技力の向上を目指して、より綿密な計画を実行してロンドンオリンピックで今度こそメダルの獲得を期待したい。国民に愛され実践する生涯スポーツバドミントンとしてこの機会にさらなるファンの増加に一考すべき策を考える必要があろう。

最後に㈶全国高体連バドミントン専門部の更なる発展を祈念して、22年の部長の責めを終わりたいと思います。

バドミントン専門部
創立60周年を祝して

財団法人全国高等学校体育連盟
会長　三　田　清　一

財団法人全国高等学校体育連盟バドミントン専門部が、このたび創立60周年を迎えられるにあたり、記念誌を発刊されますことを心からお慶び申し上げます。

全国高等学校体育連盟は、昭和23年の新制高等学校発足と時を同じくして組織され、昭和25年に専門部を11部設置し活動を開始しました。バドミントン専門部は25年度に創設されましたが、早くも翌年の１月に全日本高等学校バドミントン選手権大会を横浜市で開催し、26年度には全国高等学校体育連盟に加盟し、現在の発展のスタートを切りました。

以来、60年の月日が流れるなか、バドミントンの競技人口は目覚ましく増加し、高体連加盟専門部の中でも上位５番目に位置しています。そして世界で活躍する選手を輩出し、今後さらなる充実発展が期待されます。北京オリンピックでの女子ダブルスにおける２つのペアの大活躍は日本国中の人々をテレビに釘づけにし、バドミントン人気にさらに拍車がかかったように思われます。

バドミントンは誰でも手軽に楽しめるスポーツであり、学校体育でも人気のある種目です。また、競技種目としては、ラケット競技の中では最も速いとされる初速が280キロ以上になるスマッシュや、スライスやドロップなどの変化球を打ち分けて相手を揺さぶるなど、独特の動きをするシャトルをどれほどコントロールできるか、集中力と持続力を要求される、奥の深さと魅力を持ったスポーツといえます。こうした特性を大いに活かし、60周年を契機にますます発展されますことを期待いたします。

終わりに、明日の日本を支える高校生の健全育成と選手強化を図っていただきました諸先輩のご努力に敬意を表しますとともに、バドミントン専門部及び高等学校の体育・スポーツ活動の一層の充実と発展にご尽力いただきますようお願い申し上げ、お祝いの言葉といたします。

㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部 創立60周年記念誌発刊によせて

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部
前部長　伊佐山　正和

㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部創立60周年記念事業の一環として「創立60周年記念誌」が発刊されますことは、高体連に携わった者としてこの上もない慶びであります。この長い歴史が築いてこられたのは諸先輩をはじめとした関係の方々のご尽力のたまものと感謝申し上げるとともに敬意を表したいと思います。

早いもので、副部長として保坂和也部長（現山梨県バドミントン協会長）とともに携わった平成11年７月岩手県雫石町での50周年記念式典、祝賀会から10年が経過しました。約３年の準備期間の中での保坂部長との20回以上の二人準備会。「他の専門部に対して恥ずかしくないものにしたい」がスタートでした。その内容は記念誌、式典、祝賀会、記念品、準備品等々たくさんありました。

記念誌の内容をどのようにするか？から始め、資料収集、記録収集、写真収集の方法をどうするか？が焦点でした。古い資料や写真の収集が難しく、充分に集めることは出来ませんでしたが、岡山県の毛利清志先生、滋賀県の藤上良信先生など大勢の方々に協力していただきどうにか出来上がりました。ご協力ありがとうございました。

式典関係では記念品の決定と表彰基準の改定が中心になりました。特に表彰基準が明記されていなかった部分もあったので、記念事業の準備と同時に表彰基準の改定にも手をつけなければならなくなってしまいました。

一つ一つ思い起こせばいろいろありましたが、良い経験になりました。

平成22年度の高校総体沖縄大会以後、高校総体も新たな環境で開催されることになります。全国専門部も新たな取り組みが必要になってくると思います。

60周年を迎えたこの時、足跡と業績を振り返るとともにその責任を認識し、70周年に向けて一段の活躍を期待します。

おわりに、「創立60周年記念誌」発刊を企画され、その任に当たられた関係の方々に敬意を表するとともに、㈶全国高体連バドミントン専門部の益々の充実、発展を祈念申し上げます。

創立60周年記念誌によせて

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部
元部長　保　坂　和　也
（現 山梨県バドミントン協会会長）

㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部の60周年を祝う記念式典・祝賀会が盛大に行われますことと、記念誌が発刊されますことを、心よりお祝い申し上げます。

私は平成９年度から平成14年度の６年間専門部長をさせていただきましたが、この間全国の高体連バドミントン専門部の皆様をはじめ、関係各位に支えていただき、どうにか務めることができました。

遠井・大世古元部長・故鈴木元副部長をはじめとした経験豊富な先生方と違い、私は右も左もわからない中での船出でした。まず会議の重要性を再認識し、各地区代表者（常任委員）との打ち合わせや会議に時間を割き、お互いに納得いくまで話し合いました。そこでの決定事項については全員で協力し合い、全国総体や全国選抜大会をスムーズに運営することや、諸問題の解決に当たっては各地区の意見を吸い上げ十分に検討することに重点をおきました。

各大会が成功裏に開催できましたのも、ひとえに開催県・市町村・高校体育連盟・専門部他関係各位のご指導・ご協力によるものと深く感謝申し上げます。

当時専門部創立半世紀という節目をむかえるにあたり、50周年記念行事をどのようにしていくか悩みの種でありました。年月の過ぎるのは早いもので、平成11年８月雫石プリンスホテルで50周年記念式典が行われてから10年の時が流れましたが、当時副部長で事務局長の伊佐山先生との記念誌作成や式典等の準備に何十回と行田女子高校や熊谷西高校に通ったこと、時には伊佐山先生に山梨の田舎まで資料を持って訪れていただいたことなど、昨日のように思い出されます。

創立50周年記念誌につきましては、654ページになる他の専門部に引けをとらない立派な記念誌に仕上がりました。半世紀の記録から出来事の写真や資料の収集、資金集めから始まり、原稿依頼など多くの方々の温かいご協力を戴き、完成することができました。これらの準備にあたり伊佐山先生の言い尽くせないご努力と事務能力の高さに支えられましたことを改めてご報告させていただきます。

昨年８月に行われた北京オリンピックでは、出場した選手全員が素晴らしい活躍をしました。以来マスコミに取り上げられることが多く、今までバドミントンに興味のなかった人の関心を引き寄せたことは大きな収穫であったと思います。これらの選手は当然高校で専門部の先生方のご指導により育った選手たちです。これを機会にますますレベルアップをはかり、オリンピックでメダル獲得のできる選手の養成に全力を尽くしてくれるものと期待しております。

昭和25年バドミントン専門部創立以来、多くの先輩諸氏のご努力により大きく発展をした高等学校体育連盟バドミントン専門部が、これからもますます発展してゆくことを心よりお祈りいたします。

最後になりましたが、60周年記念行事、記念誌作成にご苦労していただきました関係各位に敬意を表し、お祝いのことばに代えさせていただきます。

目　次

1）発刊の辞
　㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部　部長　木戸純一…… 1
2）発刊に寄せて
　㈶日本バドミントン協会　会長　綿貫民輔…… 2
　㈶全国高等学校体育連盟バドミトン専門部　顧問　遠井稔男…… 3
　㈶全国高等学校体育連盟　会長　坂田敬一…… 4
　前㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部　部長　伊佐山正和…… 5
　元㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部　部長　保坂和也…… 6
3）高体連マーク・歌…… 8
4）目次…… 10
5）青春のグラフィック…… 11
6）10年間（50周年～）のあゆみ…… 32
　㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部沿革・概要…… 33
　歴代役員…… 34
　地区高等学校体育連盟バドミトン専門部…… 37
　都道府県高等学校体育連盟バドミトン専門部…… 58
7）全国高等学校総合体育大会の記録…… 89
8）全国高等学校総合体育大会栄光のあと…… 154
9）全国高等学校総合体育大会学校対抗戦出場校一覧(男子)…… 156
　全国高等学校総合体育大会学校対抗戦出場校一覧(女子)…… 176
10）全国高等学校選抜大会の記録…… 197
11）全国高等学校選抜大会栄光のあと…… 250
12）全国高等学校選抜大会学校対抗戦出場校一覧(男子)…… 252
　全国高等学校選抜大会学校対抗戦出場校一覧(女子)…… 256
13）国際大会での活躍…… 260
14）優勝校監督・優秀選手代表寄稿文…… 265
15）全国高等学校総合体育大会を開催して…… 292
16）全国高等学校選抜大会を開催して…… 303
17）記念行事(創立60周年記念表彰)…… 313
18）全日本ジュニア研修合宿…… 315
19）㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部歴代役員一覧…… 317
20）㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部歴代部長・委員長一覧…… 319
21）㈶全国高等学校体育連盟バドミトン専門部実態調査…… 325
22）各都道府県高体連登録人員状況…… 327
23）㈶全国高等学校体育連盟バドミトン専門部規約及び運営に関する内規…… 328
24）編集後記…… 347

青春のグラフィック

全国高校総体

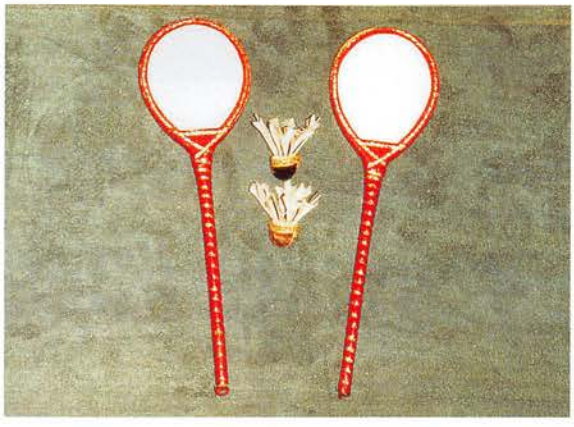
- 優勝旗・優勝杯等
- プログラム表紙（スローガン）
- 行　啓
- 会場準備
- 開会式
- 選手宣誓
- アトラクション
- 競　技
- 表彰式

全国選抜大会

- 優勝旗・優勝杯等
- プログラム表紙
- 競　技

記念式典

- 創立50周年風景



『バトルドアーと羽根』
チャック・ホーイ コレクション

『バドミントン』
スーザン・スライマン筆　1989年

『印度におけるバドミントンのゲーム』
THE GRAPHIC,Vol.9 P383, April, 25, 1874

『BADMINTON』
ジョージ・トーマス卿筆　1930年

全国高等学校総合体育大会 優勝杯・優勝旗・準優勝盾

男子団体

優勝

高松宮記念賜杯

優勝

文部科学大臣杯

優勝

(財)全国高等学校体育連盟
会長杯

優勝

(財)日本バドミントン協会
優勝旗

準優勝

(財)全国高等学校体育連盟
準優勝盾

女子団体

優勝

高松宮妃記念賜杯

優勝

文部科学大臣杯

優勝

(財)全国高等学校体育連盟
会長杯

優勝

(財)日本バドミントン協会
優勝旗

準優勝

(財)全国高等学校体育連盟
準優勝盾

男子ダブルス

優勝

(財)日本バドミントン協会
会長杯

準優勝

(財)全国高等学校体育連盟
トロフィー

男子シングルス

優勝

(財)全国高等学校体育連盟
トロフィー

準優勝

(財)全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部長杯

女子ダブルス

優勝

(財)日本バドミントン協会
会長杯

準優勝

(財)全国高等学校体育連盟
トロフィー

女子シングルス

優勝

(財)全国高等学校体育連盟
トロフィー

準優勝

(財)全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部長杯

全国高等学校総合体育大会プログラム表紙

（第51回～第60回大会まで）

第51回（H12年度）
岐阜県各務原市

第52回（H13年度）
熊本県八代市
宮原町・竜北町

第53回（H14年度）
茨城県
つくば市・牛久市

第54回（H15年度）
長崎県
長崎市・大村市

第55回（H16年度）
鳥取県鳥取市

第56回（H17年度）
千葉県野田市

第57回（H18年度）
奈良県
奈良市・大和郡山市

第58回（H19年度）
佐賀県
武雄市・江北町
小城市・大町町

第59回（H20年度）
埼玉県所沢市

第60回（H21年度）
大阪府大阪市

全国高等学校総合体育大会スローガン

（第51回～第60回大会まで）

第51回　平成12年度（岐阜）
切り開け岐阜から未来の１ページ

第52回　平成13年度（熊本）
このとき君が輝き風になる

第53回　平成14年度（茨城）
競え友よ 熱き力を 茨城で

第54回　平成15年度（長崎）
長崎が 君の鼓動で 熱くなる

第55回　平成16年度（鳥取）
君の輝く一瞬が今伝統となる

第56回　平成17年度（千葉）
輝きを胸に 夢をその手に 房総の夏

第57回　平成18年度（奈良）
君がひかり近畿の空は青くそまる

第58回　平成19年度（佐賀）
この夏佐賀に 君色の風が吹く

第59回　平成20年度（埼玉）
限界を超え 飛びたつ君よ 永遠の風になれ

第60回　平成21年度（大阪）
君が今 歴史の新たなページを創る

行啓

H13年(熊本) 皇太子殿下御視察

H19年(佐賀) 皇太子殿下御視察

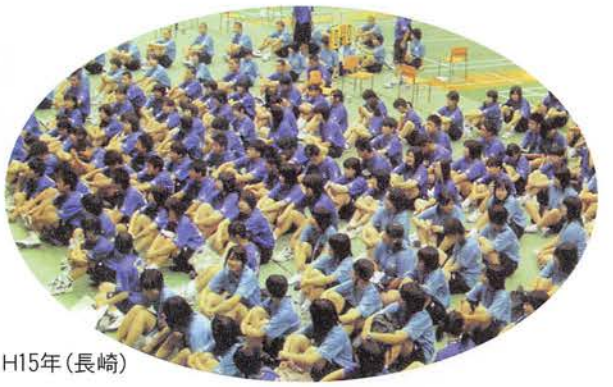
会場準備

H11年(岩手)高校推進委員会による啓発活動(400日前)

H12年(岐阜)「手づくりエリアマップ」贈呈式

H14年(茨城)「歓迎袋」袋詰め作業

H13年(熊本) 手づくり記念品展示



H15年(長崎)

H16年(鳥取)

H18年(奈良)

H19年(佐賀)

H20年(埼玉)

H11年（岩手）
国無形民俗文化財
（チャグチャグ馬コ）

H11年（岩手）案内所に出現したジャンボシャトル

H12年（岐阜）駐車場係

H14年（茨城）一人一役活動

H15年（長崎）一人一役

H13年（熊本）パソコンリハーサル

H17年（千葉）

H16年（鳥取）一人一役

H18年（奈良）

H19年（佐賀）

H20年（埼玉）

開会式

H11年(岩手)
学校対抗10年連続
出場校表彰

H12年(岐阜) ブラスバンド(岐阜県立各務原西高校)

H11年(岩手) 開会式会場
(岩手産業文化センター・
催事場)

H13年(熊本)

H14年(茨城) 歓迎のことば
茨城県立竹園高等学校　飯倉充美

H16年(鳥取)

H19年(佐賀)

H15年(長崎) 優勝旗・優勝杯返還

H18年(奈良)

H17年(千葉)
西武台千葉高等学校吹奏楽部

H20年(埼玉)

選手宣誓

H11年(岩手)
千田達也・佐々木歩美選手
(岩手県立前沢高校)

H13年(熊本)
左村正和(熊本県立八代東高校)
福間綾子(熊本信愛女学院高校)

H12年(岐阜)
縄田浩幸・大橋真理子
(岐阜県立岐阜商業高校)

H14年(茨城)
進藤陽介・綿引悠貴
(常総学院高校)

H15年(長崎)
中村正博(長崎県立西陵高校)
松本安紗美(長崎県立長崎東高校)

H16年(鳥取)
馬野杏菜(倉吉工業高校)
市橋悠介(米子北高校)

H17年(千葉)
松本千夏・池澤佑介
(西武台千葉高校)

H18年(奈良)
森山隆弘・奥谷彩香
(奈良県立添上高校)

H19年(佐賀)
筒井龍一郎(龍谷高校)
佐野友香(佐賀女子高校)

H20年(埼玉)
和田　周・平山祐香
(埼玉栄高校)

アトラクション

H13年（熊本） 大鞘名所保存会（砥原子供会）

H11年（岩手）滝沢駒踊り保存会

H16年（鳥取）
鳥取敬愛高等学校 傘踊り

H16年（鳥取）
鳥取東高等学校 吹奏楽部

H15年（長崎）
鶴鳴学園長崎女子高校 龍踊り保存会

H18年（奈良）吹奏楽演奏
奈良市立一条高等学校吹奏楽部

H20年（埼玉）
所沢市出身のシンガー
芦沢みゆきさん

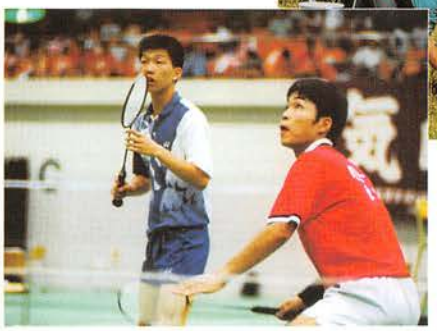
H20年（埼玉）
所沢市重松流
祭囃子保存会

H19年（佐賀）
佐賀女子高校 新体操部

競技

H11年(岩手)

ポニー乗馬運行広場
(岩手産業文化センター)



H12年(岐阜)

歓迎アーチ(各務原市総合体育館)

H13年(熊本)

H14年（茨城）

H15年（長崎）

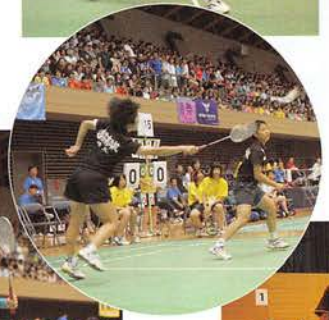
H16年（鳥取）

H17年（千葉）

H18年（奈良）

H19年（佐賀）

H20年（埼玉）



表彰式

H11年(岩手)

女子学校対抗／九州国際大学付属高等学校

女子シングルス／赤尾美代
(昭和女子高等学校)

H12年(岐阜)

男子ダブルス／佐藤翔治・佐々木翔
(関東第一高等学校)

女子学校対抗
滋賀女子高等学校

女子ダブルス／楊藹琳・廣瀬栄理子
(青森山田高等学校)

男子学校対抗
関東第一高等学校

H13年(熊本)

男子シングルス優勝／池田雄一
(関東第一高等学校)

女子学校対抗優勝
青森山田高等学校

男子学校対抗準優勝
八代東高等学校

H14年（茨城）

男子学校対抗優勝
関東第一高等学校

女子学校対抗優勝／青森山田高等学校

H15年（長崎）

男子シングルス優勝／数野健太
（延暦寺学園比叡山高等学校）

女子ダブルス優勝
金森裕子・村松瑞穂
（星陵高等学校）

男子学校対抗優勝
埼玉栄高等学校

女子学校対抗優勝／聖ウルスラ学院高等学校

女子ダブルス
佐々木彩香・水間可奈
（聖ウルスラ学院高等学校）

女子シングルス
今別府香里
（青森山田高等学校）

H16年（鳥取）

文部科学大臣表彰

男子シングルス
藤田真生
（関東第一高等学校）

男子ダブルス
遠藤大由・山田和司
（小松原高等学校）

H17年（千葉）

㈶日本バドミントン協会
優勝旗授与

女子ダブルス
江淵愛美・金山友萌
（富山県立高岡西高等学校）

女子シングルス
藤井瑞希
（青森山田高等学校）

男子シングルス
佐伯祐行
（岡山県立水島工業高等学校）

男子ダブルス
三橋智希・林　純司
（埼玉栄高等学校）

H18年（奈良）

高松宮記念杯　授与

男子ダブルス
田児賢一・松丸一輝
（埼玉栄高等学校）

女子ダブルス
藤井瑞希・垣内令佳
（青森山田高等学校）

H19年（佐賀）

女子学校対抗
青森山田高等学校

男子学校対抗
埼玉栄高等学校

H20年（埼玉）

学校対抗
男子：埼玉栄高等学校
女子：聖ウルスラ学院英智高等学校

全国高等学校選抜バドミントン大会　優勝杯・優勝旗・優勝盾・準優勝杯

男子団体

優勝

㈶日本バドミントン協会
会長杯

優勝

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部優勝旗

優勝

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部盾

準優勝

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部準優勝杯

女子団体

優勝

㈶日本バドミントン協会
会長杯

優勝

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部優勝旗

優勝

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部盾

準優勝

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部準優勝杯

個　人

優勝・男子ダブルス

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部優勝杯

優勝・男子シングルス

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部優勝杯

優勝・女子ダブルス

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部優勝杯

優勝・女子シングルス

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部優勝杯

全国高等学校選抜バドミントン大会プログラム表紙

（第28回～第37回大会まで）

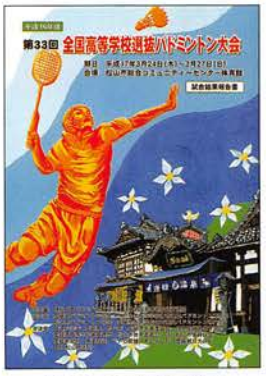
第28回（H11年度）
岐阜県各務原市

第29回（H12年度）
宮城県塩竈市

第30回（H13年度）
長崎県長崎市

第31回（H14年度）
静岡県富士宮市

第32回（H15年度）
山口県山口市



第33回（H16年度）
愛媛県松山市

第34回（H17年度）
福井県敦賀市

第35回（H18年度）
北海道札幌市

第36回（H19年度）
大分県日田市

第37回（H20年度）
新潟県新潟市

●開催予定●

21年度　第38回
埼玉県熊谷市

22年度　第39回
和歌山県和歌山市

23年度　第40回
広島県広島市

24年度　第41回
福岡県北九州市

25年度　第42回
長野県長野市

全国選抜競技

H15年度(山口)

H15年度(山口)

H16年度(愛媛)

H16年度(愛媛)

H17年度(福井)

H17年度(福井)

H18年度(北海道)記念大会
男子学校対抗優勝　埼玉栄高等学校

H18年度(北海道)

H18年度(北海道)

H18年度(北海道)記念大会
女子学校対抗優勝　青森山田高等学校

H19年度(大分)

H20年度(新潟)

H19年度(大分)

H20年度(新潟)
東総合スポーツセンター

H20年度(新潟)

'99 岩手インターハイ 全国高体連バドミントン専門部
創立50周年記念式典・祝賀会

（平成11年７月31日 雫石プリンスホテル）

部長
保坂和也
あいさつ

前部長
遠井稔男
あいさつ

最優秀監督受賞
藤上良信
（比叡山）

特別功労賞受賞
石川博義

創立50周年で
優勝旗を新調
保坂和也
高橋英夫
西牧育夫
伊佐山正和

優秀監督受賞
木内宏史
権藤浩二
岡野佳浩

〈祝賀会風景〉

万歳三唱
片岡輝明
（前四条畷学園
高校前監督）

全国高体連専門部
役員一同

(財)全国高等学校体育連盟バドミントン専門部 10年間(50周年～)のあゆみ

㈶全国高等学校体育連盟
バドミントン専門部
前部長　伊佐山　正和

歳月の流れとは早いもので、平成11年（1999年）7月31日の岩手県雫石町での創立50周年記念式典・祝賀会から10年が経ちました。平成８年度から全国専門部にお世話になってからの11年間の中でこの50周年は最大の仕事でした。準備期間はあまりなく部長の保坂和也先生（現山梨県バドミントン協会長）と二人三脚で準備をスタートしました。

まずは記念誌。どのような内容にするか？から相談を始めました。資料集め、記録集め、写真集めが大変でした。岡山県の毛利清志先生、滋賀県の藤上良信先生などたくさんの先生に協力していただき助かりました。

全国高校総体の第１回大会のプログラムがなかなか見つからず諦めていたところ、岩手県の佐々木彦士先生が手配していただき実物を使うことができました。記念誌の第１回大会の記録はプログラムを直接使用したものです。当時の各都道府県専門部委員長、各ブロック専門部委員長、原稿をお願いした方々の協力がなければ完成しませんでした。ありがとうございました。

次は式典。どのような基準で表彰するか？表彰基準が全国専門部規約に明記されていなかった部分もあったので、準備と同時に規約の追加・改定にも手をつけなければならなくなってしまいました。

優良校（全国高校総体学校対抗出場回数による表彰）表彰は出場回数が不明確な学校が多数あり、プログラムを一大会ずつ確かめながら確認していきました。

記念品として全国高校選抜学校対抗優勝旗、単複優勝杯、学校対抗準優勝杯も作成しました。

御協力いただきました全国各都道府県の方々に改めて感謝申しあげます。

【全国高校総体開催地】

平成11年(1999年)度	岩手県滝沢村
平成12年(2000年)度	岐阜県各務原市
平成13年(2001年)度	熊本県八代市・宮原町・竜北町
平成14年(2002年)度	茨城県つくば市・牛久市
平成15年(2003年)度	長崎県長崎市・大村市
平成16年(2004年)度	鳥取県鳥取市
平成17年(2005年)度	千葉県野田市
平成18年(2006年)度	奈良県奈良市
平成19年(2007年)度	佐賀県武雄市・江北町 小城市・大町町
平成20年(2008年)度	埼玉県所沢市
平成21年(2009年)度	大阪府大阪市

【全国高校選抜開催地】

平成11年(1999年)度	岐阜県各務原市
平成12年(2000年)度	宮城県塩竈市
平成13年(2001年)度	長崎県長崎市
平成14年(2002年)度	静岡県富士宮市
平成15年(2003年)度	山口県山口市
平成16年(2004年)度	愛媛県松山市
平成17年(2005年)度	福井県敦賀市
平成18年(2006年)度	北海道札幌市
平成19年(2007年)度	大分県日田市
平成20年(2008年)度	新潟県新潟市
平成21年(2009年)度	埼玉県熊谷市

この10年間、いろいろな出来事がありました。特に全国専門部の運営に関して大きな影響のあったことを幾つかあげたいと思います。

猛暑の中で開催された平成12年（2000年）度の岐阜県各務原市での全国高校総体。発汗のため競技が進行できないことが数多くあり、以後の夏の大会の運営に対して一考を要する大会になりました。以前より行っていた温度、湿度の測定による対応をより詳細に行い、競技会場の換気や冷房を行っていくきっかけになりました。

平成16年（2004年）度に鳥取県鳥取市で開催された全国高校総体から学校対抗戦の試合順序を単１・複１・複２・単２・単３から複１・複２・単１・単２・単３に変更しました。このことにより以前より選手の体調の管理も行いやすく、また試合運営も円滑に出来るようになりました。

帰国生徒や外国人留学生の大会参加資格が問題になったのもこの10年間での出来事でした。資格詐称問題や年齢詐称問題が部長委員長会議や監督会議でも大きく取り上げられ、質問や意見、抗議がたくさんありました。

競技中での事故やけがに対する対応も審議、検討してまいりました。㈶日本バドミントン協会の競技審判委員会にも頻繁に連絡を取り、指示、指導をいただきました。

最近では、全国高校総体の参加制限の改定（選手数の増数）と全国高校選抜の参加制限の改定（各ブロックからの出場数の増枠）を㈶全国高体連に申請中であります。

平成22年（2010年）度の沖縄県での全国高校総体を最後に全国高校総体を取り巻く環境も変わっていきます。高校教育の一環としての全国高校総体がより一層発展するよう、皆様の益々のご尽力の程お願い申しあげます。

◎50年～60年のあゆみ

(財)全国高体連バドミントン専門部沿革・概要

平成11年度 (1999年度)
第50回全国高等学校バドミントン選手権大会開催（岩手県滝沢村）
ウエアーのカラー化承認
創立50周年記念式典・祝賀会（雫石町　雫石プリンスホテル　平成11年７月31日）
創立50周年として、記念誌「翔」発刊
全国高等学校選抜バドミントン大会の学校対抗団体戦優勝旗、個人対抗単複優勝杯を作成
第28回全国高等学校選抜バドミントン大会開催（岐阜県各務原市）

平成12年度 (2000年度)
第51回全国高等学校バドミントン選手権大会開催（岐阜県各務原市）
ウエアーのカラー化に伴い、背面表示を鮮明な色・字体とする
第29回全国高等学校選抜バドミントン大会開催（宮城県塩竈市）

平成13年度 (2001年度)
第52回全国高等学校バドミントン選手権大会開催（熊本県八代市・宮原町・竜王町）
皇太子殿下ご観覧
第30回記念全国高等学校選抜バドミントン大会開催（長崎県長崎市・大村市）
（全県出場の学校対抗のみ）

平成14年度 (2002年度)
第53回全国高等学校バドミントン選手権大会開催（茨城県つくば市・牛久市）
学校対抗団体戦、マネージャーと選手との変更を認める
第31回全国高等学校選抜バドミントン大会開催（静岡県富士宮市）

平成15年度 (2003年度)
第54回全国高等学校バドミントン選手権大会開催（長崎県長崎市・大村市）
参加申込書に㈶日本バドミントン協会登録番号を記載　丈の短いウエアー承認
第32回全国高等学校選抜バドミントン大会開催（山口県山口市）

平成16年度 (2004年度)
第55回全国高等学校バドミントン選手権大会開催（鳥取県鳥取市）
学校対抗団体戦の試合順変更　S1．D1．D2．S2．S3 ⇒ D1．D2．S1．S2．S3
配宿センターを通しての利用を義務付け
㈶全国高体連専門部合宿（三重県）を、これまでの２月から１月に変更
第33回全国高等学校選抜バドミントン大会開催（愛媛県松山市）

平成17年度 (2005年度)
第56回全国高等学校バドミントン選手権大会開催（千葉県野田市）
第34回全国高等学校選抜バドミントン大会開催（福井県敦賀市）

平成18年度 (2006年度)
第57回全国高等学校バドミントン選手権大会開催（奈良県奈良市）
参加料値上げ（学校対抗戦　18,000円→23,000円、個人対抗戦　2,000円→2,500円）
第35回記念全国高等学校選抜バドミントン大会開催（北海道札幌市）（全県出場の学校対抗のみ）
ラリーポイント制実施　「個人情報保護について」法令遵守を同封

平成19年度 (2007年度)
第58回全国高等学校バドミントン選手権大会開催（佐賀県武雄市・江北町・小城市・大町町）
皇太子殿下ご観覧
㈶全国高体連専門部合宿を三重県から埼玉県に変更
第36回全国高等学校選抜バドミントン大会開催（大分県日田市）

平成20年度 (2008年度)
第59回全国高等学校バドミントン選手権大会開催（埼玉県所沢市）
第37回全国高等学校選抜バドミントン大会開催（新潟県新潟市）

平成21年度 (2009年度)
第60回全国高等学校バドミントン選手権大会開催（大阪府大阪市）
創立60周年記念式典・祝賀会（大阪市　ホテルアウィーナ大阪　平成21年８月１日）
創立60周年記念として、「創立60周年記念誌」発刊
全国高等学校バドミントン選手権大会の個人対抗戦単複優勝杯を作成
第38回全国高等学校選抜バドミントン大会開催（埼玉県熊谷市）

歴代役員

顧問

遠井　稔男
（平成８年度～）

大世古吉弘
（平成９年度～）

保坂　和也
（平成15年度～）

伊佐山正和
（平成19年度～）

部長

初　代

柳　　一夫
（昭和26年度～昭和28年度）

二　代

森　　義雄
（昭和29年度～昭和41年度）

三　代

小林　一茂
（昭和42年度～昭和45年度）

四　代

川田　　勇
（昭和46年度～昭和48年度）

五　代

遠井　稔男
（昭和49年度～平成７年度）

六　代

大世古吉弘
（平成８年度）

七　代

保坂　和也
（平成９年度～平成14年度）

八　代

伊佐山正和
（平成15年度～平成18年度）

九　代

木戸　純一
（平成19年度～）

副部長

伊沢　三郎
（昭和25年度～昭和44年度）

安楽　末夫
（昭和27年度～昭和40年度）

谷　　亮
（昭和40年度～昭和44年度）

遠井　稔男
（昭和45年度～昭和48年度）

山本　博
(昭和45年度～昭和55年度)

森田　精一
(昭和54年度～昭和63年度)

大世古吉弘
(昭和55年度～平成７年度)

鈴木　祐司
(昭和56年度～平成９年度)

保坂　和也
(平成７年度～平成８年度)

成田　光生
(平成９年度～平成14年度)

伊佐山正和
(平成11年度～平成14年度)

木戸　純一
(平成13年度～平成18年度)

平田　欽也
(平成15年度～)

河崎　正紀
(平成15年度～)

濱　久美雄
(平成19年度～)

帰山　好和
(平成21年度～)

山田　賢一
(平成21年度～)

事務局長

近藤　満
(昭和54年度～平成６年度)

舘野　政男
(平成７年度)

伊佐山正和
(平成８年度～平成14年度)

高橋　清治
(平成15年度)

平田　欽也
(平成16年度)

新井　研二
(平成17年度～)

事務局

高橋　清治
(平成12年度～平成14年度)

田部井秀郎
(平成11年度～)

本専門部規約（昭和55年７月31日制定）及び役員選出規程（昭和44年７月31日制定）により、常任副部長に加えて全国高等学校総合体育大会、開催都道府県高等学校体育連盟専門部部長、或は委員長を非常任副部長として運営を便ならしめた。その氏名は下記の通りである。

昭和35年度（第11回）福岡県久留米市
三原 ．邦吾
昭和36年度（第12回）青森県弘前市
小田桐孫一
昭和37年度（第13回）富山県高岡市
松岡　正雄
昭和38年度（第14回）山形県鶴岡市
中山　二郎
昭和39年度（第15回）京都府京都市
山本　　博
昭和40年度（第16回）熊本県熊本市
益田　　隷
昭和41年度（第17回）青森県弘前市
小野　正文
昭和42年度（第18回）石川県金沢市
飯田　良信
昭和43年度（第19回）広島県福山市
石井　　実
昭和44年度（第20回）群馬県桐生市
新井　　威・田中　章喜
昭和45年度（第21回）愛知県名古屋市
田中　章喜・森田　桂示
昭和46年度（第22回）香川県善通寺市
森田　桂示・豊岡　昭蔵
昭和47年度（第23回）山形県新庄市
豊岡　昭蔵・大世古吉弘
昭和48年度（第24回）三重県四日市市
大世古吉弘・松村　　栄
昭和49年度（第25回）佐賀県嬉野町・塩田町
松村　　栄・辺田　　紀
昭和50年度（第26回）茨城県水戸市
辺田　　紀・長浦　音吉
昭和51年度（第27回）長野県中野市
長浦　音吉・毛利　清志
昭和52年度（第28回）岡山県倉敷市
毛利　清志・中島　俊丈
昭和53年度（第29回）福島県会津若松市
中島　俊丈・澤　　長壽
昭和54年度（第30回）滋賀県大津市
澤　　長壽・森田　桂示
昭和55年度（第31回）香川県善通寺市
森田　桂示・斎藤　　栄
昭和56年度（第32回）神奈川県平塚市・藤沢市
斎藤　　栄・原口健二郎
昭和57年度（第33回）鹿児島県枕崎市・加世田市
原口健二郎・田中　章喜
昭和58年度（第34回）愛知県豊橋市
田中　章喜
昭和59年度（第35回）秋田県大曲市
河原山晴夫
昭和60年度（第36回）石川県金沢市
河原山晴夫・安藤　輝夫
昭和61年度（第37回）山口県下関市
安藤　輝夫
昭和62年度（第38回）北海道登別市
桝谷美智子
昭和63年度（第39回）兵庫県宝塚市
桝谷美智子・谷岡　敏男
平成１年度（第40回）高知県高知市
谷岡　敏男・白岩　良治
平成２年度（第41回）宮城県塩竈市・松島町
白岩　良治・石川　博義
平成３年度（第42回）静岡県富士市
石川　博義・山内　勇紀
平成４年度（第43回）宮崎県西都市・高鍋町
山内　勇紀・武井　祥子
平成５年度（第44回）栃木県宇都宮市
武井　祥子・二上　敏博
平成６年度（第45回）富山県高岡市
二上　敏博・山本　篤治
平成７年度（第46回）島根県松江市
山本　篤治
平成８年度（第47回）山梨県甲府市・竜王町
成田　光生
平成９年度（第48回）京都府長岡京市
高橋　清治・岸　　輝人
平成10年度（第49回）香川県高松市
岸　　輝人・伊藤　張二
平成11年度（第50回）岩手県滝沢村
伊藤　張二・岩田　甲司
平成12年度（第51回）岐阜県各務原市
岩田　甲司・茂見　　正
平成13年度（第52回）熊本県八代市・宮原町・竜北町
茂見　　正・征矢　　裕
平成14年度（第53回）茨城県つくば市・牛久市
征矢　　裕・春野　良三
平成15年度（第54回）長崎県長崎市・大村市
春野　良三・三村　俊彦
平成16年度（第55回）鳥取県鳥取市
三村　俊彦・中村　新一
平成17年度（第56回）千葉県野田市
中村　新一・錦　　秀知
平成18年度（第57回）奈良県奈良市・大和郡山市
錦　　秀知・築地　孝彦
平成19年度（第58回）佐賀県武雄市・江北町・小城市・大町町
築地　孝彦・上田　敏之
平成20年度（第59回）埼玉県所沢市
上田　敏之・大住　陽一
平成21年度（第60回）大阪府大阪市
大住　陽一・下地　敏彦

10年のあゆみ

地区高体連バドミントン専門部

北海道ブロック常任委員
北海道高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　酒井智史
（北海道札幌開成高校）

北海道高体連バドミントン専門部は笠井武彰（H９～H12）、上山功夫（H13～H15）、四宮知之（H16）、木本省三（H17～H18）、津田雅彰（H19～　）各専門部長の下、委員長に河崎正紀（H６～H14）、酒井智史（H15～H20）、平成19年度まで全道を11支部に分け各支部代表専門委員、若干名の部長指名専門委員で構成して参りましたが、少子化に伴う生徒減により平成20年度より支部再編が行われ10支部に減じての運営となりました。

大会は、平成19年度までは、全道を11支部に分けて予選を実施し、その後南北海道５支部、北北海道６支部で全国の予選を実施。最後に南北の１位どうしで全道決勝を行ってきましたが、平成20年度からは支部再編により南北海道４支部、北北海道６支部の計10支部に減となりました。平成20年度は第60回記念大会として実施し各支部からの団体出場枠を１増で開催。10チーム多く参加で盛り上がった大会とすることができましたが、今後、少子化・生徒減により高等学校の統廃合が進む中、全道高体連大会がこれまで同様、北海道の高校生のバドミントンの最高峰の大会として盛り上がり有る大会として続けていけるよう、北海道高体連による全道大会出場基準の早期の変更が望まれます。

また、個人戦ではより良いシード・組合せについて論議される中、平成20年度に南北海道、北北海道のベスト４以上の対戦について順位決定戦を導入されました。その熾烈な戦いを勝ち抜いた選手がインターハイで上位に食い込む健闘を見せてくれました。

以下に北海道高体連大会の結果を掲載いたしますが、この10年間、北海道高校バドミントン界を牽引してきたのは名実ともに男子の札幌第一高校の活躍と言って良いでしょう。昭和58年度から平成20年度まで26回連続全道１位を続け、この10年間に於いてもインターハイで３位１回（H11）、ベスト８　５回（H13、H14、H15、H18、H20）の成績を収めています。個人対抗でも、高島雅彦が準優勝（H17）、平池淳希が第３位（H20）という成績を収めています。この後、札幌第一の連勝がどこまで続くのか、札幌第一の悲願の全国優勝は、はたまた、札幌第一に代わり全国で活躍するチームが現れるか、今後の北海道選手の活躍が楽しみです。

《男子学校対抗》

回	年度	開催地	第１位	第２位	第３位
51	11	名寄市	札幌第一	旭川工業	札幌南 稚内商工
52	12	旭川市	札幌第一	旭川工業	札幌南 帯広大谷
53	13	釧路市	札幌第一	旭川工業	札幌商業 帯広柏葉
54	14	北見市	札幌第一	旭川工業	札幌商業 帯広農業
55	15	札幌市	札幌第一	旭川実業	札幌商業 旭川工業
56	16	倶知安町	札幌第一	旭川工業	北海学園札幌 旭川実業
57	17	苫小牧市	札幌第一	帯広大谷	北海学園札幌 旭川実業
58	18	深川市	札幌第一	旭川実業	北海学園札幌 帯広大谷
59	19	岩見沢市	札幌第一	旭川実業	北海学園札幌 帯広大谷
60	20	函館市	札幌第一	旭川実業	札幌龍谷学園 帯広大谷

《女子学校対抗》

回	年度	開催地	第１位	第２位	第３位
51	11	名寄市	札幌静修	旭川実業	とわの森三愛 旭川商業
52	12	旭川市	札幌静修	旭川実業	とわの森三愛 旭川商業
53	13	釧路市	旭川実業	札幌静修	とわの森三愛 旭川商業
54	14	北見市	札幌静修	旭川実業	とわの森三愛 帯広大谷
55	15	札幌市	札幌静修	旭川実業	とわの森三愛 旭川北
56	16	倶知安町	札幌静修	旭川実業	とわの森三愛 帯広大谷
57	17	苫小牧市	旭川実業	札幌静修	旭川北都商業 札幌北斗
58	18	深川市	とわの森三愛	旭川北都商業	札幌静修 旭川実業
59	19	岩見沢市	旭川実業	とわの森三愛	旭川北 札幌静修
60	20	函館市	とわの森三愛	旭川実業	札幌北斗 帯広三条

《個人対抗 男子ダブルス》

回	第1位	第2位	第3位
51	橋本・早坂 (札幌第一)	木村・竹村 (旭川工業)	長原・能登 (札幌第一) 谷平・加藤 (旭川工業)
52	谷平・竹村 (旭川工業)	早坂・石田 (札幌第一)	太田・長田 (札幌南) 川元・清野 (帯広大谷)
53	池添・山田 (札幌第一)	高畠・大泉 (旭川工業)	楢山・谷川 (札幌第一) 山ノ内・近澤(旭川工業)
54	小野寺・中野 (札幌第一)	竹村・和泉 (旭川工業)	山田和・工藤(札幌第一) 山ノ内・大泉(旭川工業)
55	小野寺・中野 (札幌第一)	十川・西垣 (帯広大谷)	山田・工藤 (札幌第一) 桜田・石澤 (旭川実業)
56	三瓶・加納 (札幌第一)	石澤・佐藤 (旭川実業)	高島・十河 (札幌第一) 松原・瓜屋 (帯広柏葉)
57	高島・大平 (札幌第一)	佐々・谷藤 (旭川実業)	神田・十河 (札幌第一) 中鉢・清水 (帯広大谷)
58	成田・田内 (札幌第一)	野口・谷藤 (旭川実業)	田渕・小野寺(札幌第一) 田垣・佐々 (旭川実業)
59	小野寺・田渕 (札幌第一)	牧野・鈴木 (旭川実業)	鈴木・石川 (札幌第一) 入江・加納 (帯広大谷)
60	牧野・島谷 (旭川実業)	平池・尾野 (札幌第一)	林　・白川 (帯広大谷) 小場・佐久間(札幌第一)

《個人対抗 女子ダブルス》

回	第1位	第2位	第3位
51	三品・中島 (札幌静修)	木村・渡邉 (旭川南)	立花・中村 (札幌静修) 福井・堀田 (旭川商業)
52	小野・岩島 (札幌静修)	三浦・福井 (旭川実業)	修田・三品 (札幌静修) 福井・堀田 (旭川商業)
53	岩島・阿野 (札幌静修)	和泉・平林 (旭川実業)	川合・鈴木 (とわの森) 菅原・堀田 (旭川商業)
54	三浦・福井 (旭川実業)	神田・阿野 (札幌静修)	和泉・平林 (旭川実業) 工藤・永野 (札幌静修)
55	工藤・永野 (札幌静修)	山本・神原 (旭川実業)	中鉢・河井 (札幌静修) 池邊・篠田 (旭川北都商)
56	永野・工藤 (札幌静修)	山本・神原 (旭川実業)	島　・高橋 (とわの森) 大竹・清野 (帯広南商)
57	小寺・堤 (札幌静修)	高橋・谷口 (帯広大谷)	木村・澤村 (札幌静修) 上村・佐藤 (旭川実業)
58	佐藤・高橋 (旭川実業)	蜜石・櫛引 (札幌静修)	松本・鈴木 (旭川北都商) 宮下・小久保(札幌静修)
59	佐藤・高橋 (旭川実業)	小久保・小野地 (札幌静修)	布宮・富永 (旭川東) 中川・本間 (とわの森)
60	中川・本間 (とわの森)	木下・稲谷 (旭川実業)	松尾・鐙　(とわの森) 佐野・佐々木 (旭川北)

《個人対抗 男子シングルス》

回	第1位	第2位	第3位
51	長原　正博 (札幌第一)	竹村　純 (旭川工業)	早坂 (札幌第一) 川島 (旭川北)
52	早坂　幸平 (札幌第一)	竹村　純 (旭川工業)	石田 (札幌第一) 川島 (旭川北)
53	谷川　雄輔 (札幌第一)	河原　悟 (旭川東)	楢山 (札幌第一) 竹村 (旭川工業)
54	山田　光大 (札幌第一)	竹村　幸洋 (旭川工業)	山田和 (札幌第一) 十川 (帯広大谷)
55	松浦晋太郎 (札幌第一)	十川　和也 (帯広大谷)	中野 (札幌第一) 森脇 (旭川工業)
56	高島　雅彦 (札幌第一)	荒木　隆佑 (釧路江南)	三瓶 (札幌第一) 大西 (旭川工業)
57	高島　雅彦 (札幌第一)	中鉢　隼人 (帯広大谷)	十河 (札幌第一) 野口 (旭川実業)
58	中鉢　隼人 (帯広大谷)	田渕　雄喜 (札幌第一)	鈴木 (札幌第一) 田垣 (旭川実業)
59	鈴木　陵麻 (札幌第一)	牧野　公亮 (旭川実業)	田渕 (札幌第一) 入江 (帯広大谷)
60	牧野　公亮 (旭川実業)	平池　淳希 (札幌第一)	中村 (札幌第一) 中木 (旭川実業)

《個人対抗 女子シングルス》

回	第1位	第2位	第3位
51	中島　輝美 (札幌静修)	菊池亜矢子 (旭川実業)	本田 (札幌静修) 武藤 (帯広三条)
52	本田いずみ (札幌静修)	平林　千佳 (旭川実業)	山田 (札幌第一) 三浦 (旭川実業)
53	和泉奈々恵 (旭川実業)	岩島恵里子 (札幌静修)	神田 (札幌静修) 堀田 (旭川商業)
54	和泉奈々恵 (旭川実業)	永野　陽子 (札幌静修)	神田 (札幌静修) 飛島 (旭川実業)
55	工藤　亜紀 (札幌静修)	小野早耶美 (旭川実業)	永野 (札幌静修) 河端 (旭川実業)
56	山本　美智 (旭川実業)	河井奈都樹 (札幌静修)	河端 (旭川実業) 工藤 (札幌静修)
57	八木麻由加 (とわの森三愛)	佐藤しおり (旭川実業)	宮下 (札幌静修) 河端 (旭川実業)
58	佐藤しおり (旭川実業)	八木麻由加 (とわの森三愛)	佐藤 (北斗) 齋藤 (旭川北都商)
59	佐藤しおり (旭川実業)	小久保陽香 (札幌静修)	木下 (旭川実業) 高野 (札幌静修)
60	本間　美穂 (とわの森三愛)	木下侑梨恵 (旭川実業)	阿部 (札幌北斗) 小野寺 (帯広大谷)

東北ブロック常任委員
東北高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 沼澤 隆
（東北生活文化大学高校）

東北高体連専門部は、松良千廣部長（常盤木学園高校長）に代わり13年度より照井 猛（前沢高校長）が部長に就任、その後は15年度より梶川秀毅（新庄南高校長）、17年度より松田文平（前沢高校長）、19年度に相馬俊二（むつ工業高校長）が歴任してきている。

また専門部委員長は、木戸純一（常盤木学園）から引き継ぎ、13年度より伊藤張二（前沢）、15年度遠藤淳一（日大山形）、17年度より沼澤隆（東北生活文化大高）が就任した。

此処10年の東北地区諸校の活躍は、全国においても輝かしい実績を誇っていると言えよう。とりわけインターハイ女子学校対抗においては、13年度から現在まで８年連続優勝を果たしており、東北を征する事が全国制覇に最も近いという状況下にある。

近年は富岡高校の活躍が古豪校に加わり、東北地区の層の厚さは更に際立ってきている。

少子化が叫ばれる中にもかかわらず、選手登録数は微増傾向にあり、関係者のご尽力に心から感謝申し上げ、今後も専門部の発展に東北一丸となって取り組んでいきたいと考えている。

全国高校総体・全国選抜大会の成績

平成11年度　第50回大会（滝沢村開催）
　個人ＧＳ３位　楊　藹琳（青森山田）
第28回選抜大会（岐阜県各務原市開催）
　個人ＧＤ優勝　佐野・金上（聖ウルスラ学院）
　個人ＧＳ優勝　楊　藹琳（青森山田）
平成12年度　第51回大会（各務原市開催）
　個人ＧＤ優勝　楊・廣瀬（青森山田）
　個人ＧＳ３位　楊　藹琳（青森山田）
　個人ＧＳ３位　廣瀬　栄理子（青森山田）
第29回選抜大会　（宮城県塩竈市開催）
　女子団体２位　青森山田
　個人ＧＤ優勝　楊・廣瀬（青森山田）
　個人ＢＤ３位　岩脇・西浦（青森山田）
　個人ＢＳ３位　鈕　佳平（青森山田）
　個人ＧＳ３位　廣瀬　栄理子（青森山田）
平成13年度　第52回大会（八代市他開催）
　女子団体優勝　青森山田
　個人ＧＤ優勝　金上・佐野（聖ウルスラ学院）
　個人ＧＤ２位　楊・廣瀬（青森山田）
　個人ＧＳ優勝　楊　藹琳（青森山田）
　個人ＧＳ３位　廣瀬　栄理子（青森山田）
第30回選抜大会　（長崎県長崎市開催）
　女子団体優勝　青森山田
平成14年度　第53回大会（つくば市他開催）
　女子団体優勝　青森山田
　個人ＧＳ優勝　平山　優（聖ウルスラ学院）
　個人ＧＳ２位　廣瀬　栄理子（青森山田）
　個人ＧＤ３位　廣瀬・今別府（青森山田）
第31回選抜大会　（静岡県富士宮市開催）
　女子団体３位　聖ウルスラ学院
　女子団体３位　青森山田
　個人ＧＳ優勝　平山　優（聖ウルスラ学院）
　個人ＢＤ３位　比内・佐藤（東奥学園）
　個人ＢＳ３位　川内　崇士（青森山田）
平成15年度　第54回大会（長崎市他開催）
　女子団体優勝　聖ウルスラ学院
　女子団体２位　青森山田
　個人ＧＳ優勝　今別府　香里（青森山田）
　個人ＧＳ２位　平山　優（聖ウルスラ学院）
　個人ＧＤ２位　平山・村松（聖ウルスラ学院）
　個人ＢＳ３位　川内　崇士（青森山田）
第32回選抜大会　（山口県山口市開催）
　女子団体２位　青森山田
　個人ＧＤ３位　今別府・大田（青森山田）
　個人ＧＳ３位　今別府　香里（青森山田）
平成16年度　第55回大会（鳥取市開催）
　女子団体優勝　青森山田
　女子団体２位　聖ウルスラ学院
　個人ＧＤ優勝　佐々木・水間（聖ウルスラ学院）
　個人ＧＤ３位　今別府・藤井（青森山田）
　個人ＧＳ優勝　今別府　香里（青森山田）
第33回選抜大会　（愛媛県松山市開催）
　女子団体優勝　青森山田

女子団体３位　聖ウルスラ学院
男子団体３位　青森山田
個人ＧＳ優勝　藤井　瑞希（青森山田）
個人ＢＤ３位　松浦・鈴木（青森山田）
個人ＧＤ３位　伊藤・村山（聖ウルスラ）

平成17年度　第56回大会（野田市開催）
女子団体優勝　青森山田
女子団体２位　聖ウルスラ学院英智
男子団体３位　青森山田
個人ＧＳ優勝　藤井　瑞希（青森山田）

第34回選抜大会　（福井県敦賀市開催）
女子団体２位　青森山田
女子団体３位　聖ウルスラ学院英智
個人ＧＤ優勝　藤井・垣岩（青森山田）
個人ＧＤ３位　伊藤・村山（聖ウルスラ英智）
個人ＧＳ２位　野尻野　匡世（尚志）
個人ＧＳ３位　藤井　瑞希（青森山田）

平成18年度　第57回大会（奈良市開催）
女子団体優勝　青森山田
女子団体２位　聖ウルスラ学院英智
個人ＧＤ優勝　藤井・垣岩（青森山田）
個人ＧＤ３位　伊藤・村山（聖ウルスラ英智）
個人ＧＳ優勝　藤井　瑞希（青森山田）

第35回選抜大会　（北海道札幌市開催）
女子団体優勝　青森山田
女子団体３位　聖ウルスラ学院英智

平成19年度　第58回大会（武雄市他開催）
女子団体優勝　青森山田
女子団体３位　聖ウルスラ学院英智
個人ＧＳ優勝　野尻野　匡世（尚志）
個人ＧＤ３位　西山・米元（青森山田）

第36回選抜大会　（佐賀県日田市開催）
女子団体優勝　聖ウルスラ学院英智
女子団体２位　青森山田
個人ＧＤ優勝　高橋・松友（聖ウルスラ英智）
個人ＧＤ２位　橋本・米元（青森山田）
個人ＢＤ３位　北島・中野（青森山田）
個人ＧＳ２位　松友　美佐紀（聖ウルスラ英智）
個人ＧＳ３位　橋本　結衣（青森山田）

平成20年度　第59回大会（所沢市開催）
女子団体優勝　聖ウルスラ学院英智
個人ＧＤ優勝　高橋・松友（聖ウルスラ英智）
個人ＧＤ３位　橋本・米元　（青森山田）
個人ＧＳ優勝　松友　美佐紀（聖ウルスラ英智）
個人ＧＳ２位　佐藤　冴香（常盤木学園）

東北選手権大会

開催地	順位	男　子	女　子
第28回 黒石市 平成11年	１位	東奥義塾	聖ウルスラ
	２位	青森山田	常盤木学園
	３位	東奥学園	東奥学園
	３位	前沢	千葉学園
第29回 秋田市 平成12年	１位	青森山田	聖ウルスラ
	２位	東奥義塾	青森山田
	３位	宮城工業	山形城北女
	３位	帝京安積	常盤木学園
第30回 北上市 平成13年	１位	青森山田	聖ウルスラ
	２位	東奥義塾	青森山田
	３位	帝京安積	常盤木学園
	３位	新庄工業	千葉学園
第31回 米沢市 平成14年	１位	青森山田	青森山田
	２位	東奥学園	聖ウルスラ
	３位	前沢	常盤木学園
	３位	帝京安積	千葉学園
第32回 郡山市 平成15年	１位	青森山田	青森山田
	２位	帝京安積	聖ウルスラ
	３位	福島工業	常盤木学園
	３位	東奥学園	千葉学園
第33回 塩竈市 平成16年	１位	青森山田	青森山田
	２位	帝京安積	聖ウルスラ
	３位	宮城工業	常盤木学園
	３位	東奥学園	山形市立商業
第34回 青森市 平成17年	１位	青森山田	青森山田
	２位	仙台商業	聖ウルスラ
	３位	前沢	常盤木学園
	３位	東奥学園	千葉学園
第35回 美郷町 平成18年	１位	青森山田	青森山田
	２位	東奥学園	聖ウルスラ英智
	３位	帝京安積	常盤木学園
	３位	仙台商業	花北青雲
第36回 花巻市 平成19年	１位	青森山田	青森山田
	２位	富岡	聖ウルスラ英智
	３位	秋田工業	常盤木学園
	３位	東奥学園	弘前学院聖愛
第37回 山形市 平成20年	１位	青森山田	聖ウルスラ英智
	２位	富岡高	青森山田
	３位	山形南	常盤木学園
	３位	鶴岡工業	尚志

全国選抜東北地区予選会

開催地	順位	男子	女子
第27回 秋田市 平成11年	1位	宮城工業	聖ウルスラ
	2位	鶴岡工業	千葉学園
	3位	帝京安積	東奥学園
	3位	東奥義塾	常盤木学園
第28回 郡山市 平成12年	1位	青森山田	聖ウルスラ
	2位	宮城工業	千葉学園
	3位	帝京安積	山形城北女
	3位	東奥義塾	常盤木学園
第29回 山形市 平成13年	1位	青森山田	青森山田
	2位	東奥学園	聖ウルスラ
	3位	帝京安積	常盤木学園
	3位	宮城工業	千葉学園
第30回 八戸市 平成14年	1位	青森山田	青森山田
	2位	帝京安積	聖ウルスラ
	3位	鶴岡工業	常盤木学園
	3位	東奥学園	千葉学園
第31回 仙台市 平成15年	1位	東奥学園	青森山田
	2位	青森山田	聖ウルスラ
	3位	帝京安積	常盤木学園
	3位	福島工業	千葉学園
第32回 秋田市 平成16年	1位	青森山田	聖ウルスラ
	2位	宮城工業	青森山田
	3位	弘前工業	前沢
	3位	帝京安積	常盤木学園
第33回 水沢市 平成17年	1位	青森山田	青森山田
	2位	前沢	聖ウルスラ
	3位	仙台商業	常盤木学園
	3位	東奥学園	山形西
第34回 山形市 平成18年	1位	青森山田	青森山田
	2位	東奥学園	聖ウルスラ英智
	3位	帝京安積	常盤木学園
	3位	仙台商業	弘前学院聖愛
第35回 福島市 平成19年	1位	青森山田	青森山田
	2位	東奥学園	聖ウルスラ英智
	3位	帝京安積	弘前学院聖愛
	3位	宮城工業	常盤木学園
第36回 弘前市 平成20年	1位	青森山田	聖ウルスラ英智
	2位	富岡高	青森山田
	3位	鶴岡工業	常盤木学園
	3位	宮城県業	山形城北
第37回 利府町 平成21年	1位	富岡高	聖ウルスラ英智
	2位	青森山田	青森山田
	3位	帝京安積	富岡
	3位	鶴岡工業	尚志

2008年 世界ジュニアバドミントン選手権大会
10／24～11／2　インド プネー市
女子シングルス 準優勝

関東ブロック常任委員
関東高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　帰山好和
（小松原高校）

創立50周年の岩手県滝沢村から早いもので10年が経ちました。ここに、全国高体連バドミントン専門部創立60周年を心よりお喜び申し上げます。『関東を制するものは全国を制する』の言葉通り、第50回大会からは関東が全国をリードするという形になってきました。（特に男子においてはすばらしい結果を残しています）これも一重に顧問の先生方の努力の賜物と考えております。これからも切磋琢磨し、すべての面で全国のリーダーシップを持てるような関東ブロックであってほしいと願っております。これから、ますますの全国高体連バドミントン専門部の発展と関東ブロックの活躍を祈念して、十年間の軌跡を残したいと思います。

関東大会　栄光の記録

	《男　子》	《女　子》
第45回	【甲府】	
優　勝	関東第一（東京）	埼玉栄（埼玉）
準優勝	上　尾（埼玉）	常総学院（茨城）
3　位	埼玉栄（埼玉）	淑徳巣鴨（東京）
	作新学院（栃木）	越谷南（埼玉）
第46回	【川崎】	
優　勝	関東第一（東京）	埼玉栄（埼玉）
準優勝	上　尾（埼玉）	日本橋女学館（東京）
3　位	埼玉栄（埼玉）	本庄第一（埼玉）
	作新学院（栃木）	富士見丘（神奈川）
第47回	【前橋】	
優　勝	関東第一（東京）	埼玉栄（埼玉）
準優勝	上　尾（埼玉）	常総学院（茨城）
3　位	埼玉栄（埼玉）	淑徳巣鴨（東京）
	作新学院（栃木）	上　尾（埼玉）
第48回	【東京】	
優　勝	関東第一（東京）	埼玉栄（埼玉）
準優勝	小松原（埼玉）	上　尾（埼玉）
3　位	埼玉栄（埼玉）	常総学院（茨城）
	藤　代（茨城）	大和西（神奈川）
第49回	【埼玉】	
優　勝	埼玉栄（埼玉）	上　尾（埼玉）
準優勝	作新学院（栃木）	淑徳巣鴨（東京）
3　位	関東第一（東京）	埼玉栄（埼玉）
	小松原（埼玉）	西武台千葉（千葉）
第50回	【千葉】	
優　勝	埼玉栄（埼玉）	埼玉栄（埼玉）
準優勝	小松原（埼玉）	越谷南（埼玉）
3　位	関東第一（東京）	上　尾（埼玉）
	作新学院（栃木）	淑徳巣鴨（東京）
第51回	【ひたちなか】	
優　勝	埼玉栄（埼玉）	越谷南（埼玉）
準優勝	関東第一（東京）	埼玉栄（埼玉）
3　位	西武台千葉（千葉）	伊勢崎清明（群馬）
	小松原（埼玉）	西武台千葉（千葉）
第52回	【宇都宮】	
優　勝	埼玉栄（埼玉）	越谷南（埼玉）
準優勝	関東第一（東京）	埼玉栄（埼玉）
3　位	西武台千葉（千葉）	西武台千葉（千葉）
	常総学院（茨城）	伊勢崎清明（群馬）
第53回	【甲府】	
優　勝	埼玉栄（埼玉）	埼玉栄（埼玉）
準優勝	関東第一（東京）	越谷南（埼玉）
3　位	西武台千葉（千葉）	伊勢崎清明（群馬）
	常総学院（茨城）	作新学院（栃木）
第54回	【小田原】	
優　勝	埼玉栄（埼玉）	埼玉栄（埼玉）
準優勝	関東第一（東京）	越谷南（埼玉）
3　位	川崎総合科学（神奈川）	作新学院（栃木）
	伊勢崎清明（群馬）	伊勢崎清明（群馬）

関東選抜大会　栄光の記録

	《男　子》	《女　子》
第28回	【川崎】	
学　校	対　抗	
優　勝	常総学院（茨城）	前橋東（群馬）
準優勝	作新学院（栃木）	西武台千葉（千葉）
3　位	宇都宮東（栃木）	土浦第三（茨城）

	藤　　代(茨城)	常総学院(茨城)
個　人	単	
優　勝	佐々木(関東第一)	広岡(埼玉栄)
準優勝	佐藤(関東第一)	橋本(埼玉栄)
3　位	関野(作新学院)	高橋(東葉)
	金子(明照樹徳)	福田(土浦第三)
個　人	複	
優　勝	佐藤・佐々木	橋本・広岡
	(関東第一)	(埼玉栄)
準優勝	菊田・槇野	杉山・陳
	(常総学院)	(本庄第一)
3　位	門倉・郡司	内田・朝倉
	(元石川)	(國學院久我山)
	会澤・斉藤	福田・高塚
	(埼玉栄)	(土浦第三)

第29回 【前橋】

学　校	対　抗	
優　勝	作新学院(栃木)	常総学院(茨城)
準優勝	前橋東(群馬)	西武台千葉(千葉)
3　位	桐生市立商業(群馬)	土浦第三(茨城)
	千葉敬愛(千葉)	前橋東(群馬)
個　人	単	
優　勝	池田(関東第一)	岩田(埼玉栄)
準優勝	小池(桐生商業)	陳(本庄第一)
3　位	小野(藤代)	岡田(西武台千葉)
	斉藤(作新学院)	木村(常総学院)
個　人	複	
優　勝	斉藤・堤	広岡・小池
	(埼玉栄)	(埼玉栄)
準優勝	佐藤・柴原	清水・綿引
	(関東第一)	(常総学院)
3　位	池之山・吉田	岡本・岡野
	(常総学院)	(常総学院)
	小野・青山	楠・筒井
	(藤代)	(富士見丘)

第30回 【世田谷】

学　校	対　抗(記念大会のため個人戦のみ)	
個　人	単	
優　勝	新開(関東第一)	岩田(埼玉栄)
準優勝	池田(関東第一)	田中(埼玉栄)
3　位	酒井(関東第一)	中井川(日本橋女)
	中尾(埼玉栄)	馬上(上尾)
個　人	複	
優　勝	土田・高木	岩田・蛭間
	(関東第一)	(埼玉栄)
準優勝	池田・新開	佐藤・小池
	(関東第一)	(西武台千葉)
3　位	井上・新井	中里・杉田
	(埼玉栄)	(本庄第一)
	中尾・黒田	綿引・岡本
	(埼玉栄)	(常総学院)

第31回 【久喜】

学　校	対　抗	
優　勝	作新学院(栃木)	前橋東(群馬)
準優勝	宇都宮南(栃木)	真岡女(栃木)
3　位	常総学院(茨城)	宇都宮南(栃木)
	藤代(茨城)	千葉敬愛(千葉)
個　人	単	
優　勝	遠藤(小松原)	馬上(上尾)
準優勝	堀川(関東第一)	李(本庄第一)
3　位	高木(関東第一)	神(淑徳巣鴨)
	尾池(前橋東)	木村(土浦第三)
個　人	複	
優　勝	中尾・黒田	馬上・冨島
	(埼玉栄)	(上尾)
準優勝	高木・松本	鈴木・櫻井
	(関東第一)	(上尾)
3　位	小樽・小林	山田・西山
	(実践学園)	(淑徳巣鴨)
	宗形・斉藤	蓬田・布施
	(埼玉栄)	(真岡女)

第32回 【野田】

学　校	対　抗	
優　勝	作新学院(栃木)	西武台千葉(千葉)
準優勝	常総学院(茨城)	前橋東(群馬)
3　位	千葉敬愛(千葉)	宇都宮南(栃木)
	西武台千葉(千葉)	真岡女(栃木)
個　人	単	
優　勝	遠藤(小松原)	李(本庄第一)
準優勝	堀川(関東第一)	皆川(西武台千葉)
3　位	吉田(前橋東)	内藤(元石川)
	黄倉(埼玉栄)	下山(明照樹徳)
個　人	複	
優　勝	小町谷・佐藤	内藤・清水

	(埼玉栄)	(元石川)
準優勝	安村・竹内	西山・山田
	(関東第一)	(淑徳巣鴨)
3　位	糸井・木村	久保田・丹羽
	(常総学院)	(前橋東)
	本田・大島	下山・小川
	(埼玉栄)	(明照樹徳)

第33回 【土浦】

学　校	対　抗	
優　勝	常総学院(茨城)	西武台千葉(千葉)
準優勝	前橋東(群馬)	真岡女(栃木)
3　位	宇都宮南(栃木)	伊勢崎女(群馬)
	藤代(茨城)	千葉敬愛(千葉)
個　人	単	
優　勝	上田(埼玉栄)	皆川(西武台千葉)
準優勝	佐々木(埼玉栄)	井上(埼玉栄)
3　位	小松崎(常総学院)	吉見(八王子)
	磯崎(藤沢翔陵)	川島(真岡女)
個　人	複	
優　勝	林・三橋	松本・宮川
	(埼玉栄)	(西武台千葉)
準優勝	本田・大島	石川・中原
	(埼玉栄)	(伊勢崎女)
3　位	竹内・高階	井上・上田
	(関東第一)	(埼玉栄)
	磯崎・宮川	富永・秋山
	(藤沢翔陵)	(越谷南)

第34回 【宇都宮】

学　校	対　抗	
優　勝	千葉敬愛(千葉)	伊勢崎清明(群馬)
準優勝	西武台千葉(千葉)	作新学院(栃木)
3　位	藤代(茨城)	西武台千葉(千葉)
	太田商業(群馬)	千葉敬愛(千葉)
個　人	単	
優　勝	田児(埼玉栄)	石川(伊勢崎清明)
準優勝	上田(埼玉栄)	中原(伊勢崎清明)
3　位	山田(関東第一)	三木(越谷南)
	武下(関東第一)	鈴木(西武台千葉)
個　人	複	
優　勝	田児・松丸	石川・中原
	(埼玉栄)	(伊勢崎清明)
準優勝	佐々木・上田	三木・大森
	(埼玉栄)	(越谷南)
3　位	増渕・松口	菊山・大谷
	(作新学院)	(常総学院)
	福岡・高野	佐藤・阿蘇
	(藤代)	(日本橋女)

第35回 【甲府】

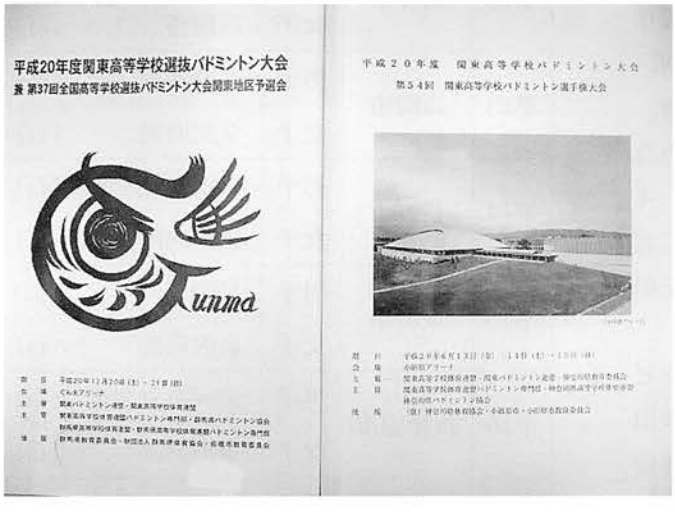
学　校	対　抗(記念大会の為個人戦のみ)	
個　人	単	
優　勝	佐藤(埼玉栄)	山口(埼玉栄)
準優勝	和田(埼玉栄)	平山(埼玉栄)
3　位	滝内(埼玉栄)	中森(埼玉栄)
	野口(埼玉栄)	青柳(作新学院)
個　人	複	
優　勝	野口・山崎	矢野・石井
	(埼玉栄)	(作新学院)
準優勝	武下・藤原	鈴木・木村
	(関東第一)	(日本橋女)
3　位	松本・小村	山口・小野
	(埼玉栄)	(埼玉栄)
	宮本・小池	鈴木・神田
	(関東第一)	(関東第一)

第36回 【小田原】

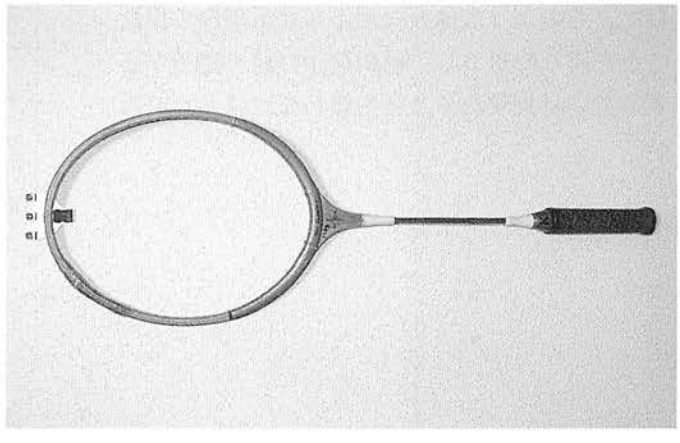
学　校	対　抗	
優　勝	常総学院(茨城)	伊勢崎清明(群馬)
準優勝	伊勢崎清明(群馬)	千葉敬愛(千葉)
3　位	西武台千葉(千葉)	作新学院(栃木)
	千葉敬愛(千葉)	常総学院(茨城)
個　人	単	
優　勝	和田(埼玉栄)	柏原(越谷南)
準優勝	木戸(関東第一)	森(埼玉栄)
3　位	長谷川(埼玉栄)	福田(宇都宮南)
	野口(常総学院)	鈴木(関東第一)
個　人	複	
優　勝	星野・小林	平山・瀬川
	(埼玉栄)	(埼玉栄)
準優勝	滝内・富山	宮・越沢
	(埼玉栄)	(伊勢崎清明)
3　位	丸尾・中村	鈴木・神田
	(伊勢崎清明)	(関東第一)
	野口・森田	柏原・原
	(常総学院)	(越谷南)

第37回 【前橋】

学　校　対　抗
優　勝　西武台千葉(千葉)作新学院(栃木)
準優勝　太田商業(群馬)　西武台千葉(千葉)
３　位　伊勢崎清明(群馬)太田商業(群馬)
　　甲府湯田(山梨)　伊勢崎清明(群馬)
個　人　単
優　勝　長谷川(埼玉栄)　藤井(埼玉栄)
準優勝　星野(埼玉栄)　中村(埼玉栄)
３　位　間瀬(関東第一)　福田(宇都宮南)
　　谷澤(法政二)　栗原(西武台千葉)
個　人　複
優　勝　星野・小林　山田・神中
　　(埼玉栄)　(埼玉栄)
準優勝　竹内・竹内　木村・瀬川
　　(埼玉栄)　(埼玉栄)
３　位　丸尾・中村　田代・谷口
　　(伊勢崎清明)　(作新学院)
　　西村・谷澤　栗原・柳
　　(法政二)　(西武台千葉)


平成20年度関東高等学校選抜バドミントン大会
兼 第37回全国高等学校選抜バドミントン大会関東地区予選会

平成２０年度　関東高等学校バドミントン大会
第３４回　関東高等学校バドミントン選手権大会



北信越ブロック常任委員
福井県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　坂井茂則
（金津高校）

北信越地区男子はこの10年、上半期は北信越を長年にわたりリードしてきた金沢市立工業高校が引き続き覇者として君臨。しかし下半期は、平成12年富山国体を期に富山勢がレベルアップ、平成17年度の全国高校選抜福井開催を期に福井がレベルアップしたため、優勝チームがめまぐるしく変わる激しい戦いとなった。女子はやはり北信越を長年リードしてきた金沢向陽が連覇した。しかし、決勝においての戦いは常に富山県勢との激しい戦いが繰り広げられた。

全国大会においては男女とも引き続き北信越の各県チームが団体・個人ともに上位に入賞する好成績を残した。特に女子の金沢向陽高校はインターハイ団体ベスト４以上７回、平成17年度全国選抜大会団体優勝、ベスト４以上２回。個人でもインターハイや全国選抜大会で優勝、ベスト４以上（表参照）数々の好成績を収めた。また、高岡西高校もインターハイ団体ベスト４以上３回という好成績を収めている。まさに北信越を制するもの全国を制するという伝統を引き継いでくれている。

さて、記憶に新しいところだが北京オリンピックでは、舛田圭太選手（金沢市立工業高校出身）がアテネオリンピックからの２大会に連続出場し、個人戦ダブルスで見事５位入賞を果たした。このような偉大な選手が北信越から出たことを誇りに思うし、舛田選手に続く選手が必ずや近い将来現れることを願わずにはいられない。

歴代ブロック委員長

年度	ブロック委員長
平成11年度	今井　良彦
平成12年度	今井　良彦
平成13年度	彼島　重範
平成14年度	彼島　重範
平成15年度	新井　研二
平成16年度	新井　研二
平成17年度	麦谷　正二
平成18年度	麦谷　正二
平成19年度	坂井　茂則
平成20年度	坂井　茂則

北信越高等学校バドミントン競技大会優勝校

平11	長岡市	男子	金沢市立工業　（石）
		女子	金沢向陽　（石）
平12	福井市	男子	高岡工芸　（富）
		女子	高岡西　（富）
平13	高岡市	男子	高岡第一　（富）
		女子	金沢向陽　（石）
平14	長野市	男子	金沢市立工業　（石）
		女子	金沢向陽　（石）
平15	金沢市	男子	足羽　（福）
		女子	金沢向陽　（石）
平16	新発田市	男子	金沢市立工業　（石）
		女子	金沢向陽　（石）
平17	福井市	男子	勝山　（福）
		女子	金沢向陽　（石）
平18	高岡市	男子	勝山　（福）
		女子	金沢向陽　（石）
平19	長野市	男子	金沢市立工業　（石）
		女子	高岡西　（富）
平20	金沢市	男子	勝山　（福）
		女子	金沢向陽　（石）

【全国大会上位入賞記録】

	全国高等学校総合体育大会			全国高等学校選抜大会		
1999 (H11年度)	女子T 男子D	2位 3位	金沢向陽高校 山下・広瀬（金沢市工）	男子T 女子D	2位 3位	高岡工芸高校 田井・梅津（金沢向陽）
2000 (H12年度)	女子T 男子D 男子D 女子D 女子S	2位 2位 3位 3位 優勝	高岡西高校 劉・川口（高岡工芸） 米・平田（高岡工芸） 加賀・西村（金沢向陽） 刘晶（高岡龍谷）	男子D 男子S 女子S	優勝 優勝 優勝	劉・平田（高岡工芸） 劉　志遠（高岡工芸） 刘晶（高岡龍谷）
2001 (H13年度)	女子T 男子D 男子S 女子S	3位 優勝 3位 2位	金沢向陽高校 劉・平田（高岡工芸） 劉　志遠（高岡工芸） 刘晶（高岡龍谷）			
2002 (H14年度)	女子T 男子D	3位 3位	金沢向陽高校 竹村・堂下（北越）	男子S 女子D	3位 2位	黒瀬尊敬（高岡工芸） 伊東・梨木（金沢向陽）
2003 (H15年度)	男子T 男子D 女子D 女子D	3位 3位 3位 3位	足羽高校 黒瀬・玉澤（高岡工芸） 木村・木村（金沢向陽） 伊東・今井（金沢向陽）	女子T	3位	金沢向陽高校
2004 (H16年度)	女子T 女子T 女子S	3位 3位 2位	高岡西高校 金沢向陽高校 樽野　恵（金沢向陽）	女子T 男子S 男子D 女子D 女子D 女子S	2位 3位 3位 優勝 3位 2位	金沢向陽高校 松川直弘（勝山） 斉藤・斉藤（足羽） 浜中・樽野（金沢向陽） 江淵・金山（高岡西） 江淵愛美（高岡西）
2005 (H17年度)	女子T 男子S 男子D 女子D 女子S	3位 3位 2位 優勝 3位	金沢向陽高校 松川直弘（勝山） 斉藤・斉藤（足羽） 江淵・金山（高岡西） 樽野　恵（金沢向陽）	男子T 女子T 男子D 女子D 女子S	3位 優勝 3位 2位 優勝	勝山高校 金沢向陽高校 松川・笹木（勝山） 樽野・木村（金沢向陽） 樽野　恵（金沢向陽）
2006 (H18年度)	男子T 女子T 男子S 女子D 女子S	3位 2位 3位 3位 2位	勝山高校 金沢向陽高校 松川直弘（勝山） 樽野・木村（金沢向陽） 樽野　恵（金沢向陽）			
2007 (H19年度)	女子T 女子T 女子D	2位 3位 優勝	金沢向陽高校 高岡西高校 村上・桜井（金沢向陽）	男子D 男子D 男子S 女子S	2位 3位 3位 優勝	千京・川西（勝山） 辻・新（金沢市工） 千京尚将（勝山） 三谷美菜津（金沢向陽）
2008 (H20年度)	女子D 女子S	3位 3位	高橋・古西　（高岡西） 三谷美菜津（金沢向陽）			

東海ブロック常任委員

下込貞司
（岡崎城西高校）

全国高体連バドミントン専門部の創立60周年を迎えられ、心よりお喜び申し上げます。

さて、東海ブロック専門部前委員長の平田欽也先生より平成15年に引き継ぎしてから、早６年が過ぎようとしています。東海４県（岐阜・静岡・愛知・三重）の各委員長をはじめ、素晴らしい先生方に恵まれ、あっという間の６年間でありました。関係各位の方々にはご協力やご高配を賜り深く感謝申し上げます。

近年は、高校生のスポーツ離れや少子化の影響もあって他競技では部員数が減少している中、東海ブロック専門部の登録会員数は１万人を超えるようになり、年々増加傾向にあります。これもひとえに競技に携わっておられる指導者の方々が日々努力された賜と感謝申し上げる次第でございます。

さて、ここで私なりに「東海ブロック専門部この10年のあゆみ」を振り返ってみますと、一つ目は世代交代の時代でありました。創立50周年を終えた数年後には、東海４県でほぼ同時期に30代の委員長が就任されました。それからは各委員長による組織内の機構改革やブロック改変などに着手され、大会運営が円滑になるよう努力してまいりました。それぞれの県では若返りが図られ、それに伴い底辺拡大という目標が達成されました。平成12年３月に岐阜県各務原市総合体育館で全国高校選抜大会が開催、その年の夏には全国高校総体が同会場で開催され、また、静岡県では平成15年３月に富士宮市体育館で全国高校選抜大会が開催されました。

このように大会の運営を円滑にできたのも、県協会や各市協会のご支援・ご協力の賜であり、委員長はじめ県高体連専門部の各先生方のお陰であります。全国大会の運営に携わってこられた先生方が、今丁度中心となって県専門部や東海ブロック専門部を守り立てて戴いていることは間違いありません。そして現在は、何よりも各委員長のご努力により、更に強い絆を築かれ、共通認識のもとで運営されていることであります。

二つ目は飛躍の時代であります。

「オグシオ」の愛称で知られている、小椋久美子選手（三洋電機）や昨年度までＮＴＴ東日本で活躍した松本徹選手は三重県の出身であります。しかし、残念ながら高校は県外へ。このような選手が県内から関西や関東・東北へと流出する傾向は少なくなく、ある意味、県外の方からは魅力ある選手の宝庫であったに違いありません。東海ブロック専門部の指導者は、誰しもが悔しさを抱きながらも全国で勝てる選手の育成を目指し努力されてきました。そして、その兆しが見えてきたのが、平成11年度に岐阜県各務原市で開催された全国選抜大会で、女子団体戦で県立岐阜商業（岐阜）が第３位、同校の後藤愛が女子単で第３位に入賞したのであります。特に女子の躍進が著しく、これを契機に、平成12年度の全国選抜大会では、女子団体戦で県立岐阜商業が初優勝。東海ブロック専門部からは初の快挙となったのです。平成13年度には同校が第３位。そして今度は、星陵（静岡）が平成14年度に女子団体戦初優勝を成し遂げました。個人戦でも、金森裕子（星陵）の女子単、臼井裕子・三輪紗弥香（県岐阜商）の女子複が共に第３位でした。平成15年度に男子複で辻井悠介・山岡悠二（久居・三重）が第３位となり、男子としては個人戦11年ぶりのベスト４入賞。平成16年度に女子単で奥幸那（県岐阜商）が第３位。

また、全国総体では女子団体戦で、平成12・13年に県立岐阜商業が第３位。これは、東海勢の女子としては、昭和42年に富田女子（岐阜）が第３位になった以来の、実に33年ぶりのベスト４入賞でした。平成14年に同じく県立岐阜商業が準優勝。平成15年に星陵が第３位。個人戦では、平成14年に林裕佳・脇田侑（県岐阜商）が女子複優勝。平成15年には金森裕子・村松瑞穂（星陵）が同種目で優勝。奥幸那（県岐阜商）

が平成16・18年に女子単第３位、平成17年に女子単準優勝。平成18年に打田しづか(岡崎城西・愛知）が女子単第３位、平成19年には女子単準優勝。同じく、女子複で打田しづか・藤田理恵子（岡崎城西）が準優勝となりました。

また、全日本ジュニア選手権大会においても、林裕佳・脇田侑（県岐阜商：H14. 女子複第３位)、脇田侑（H14. 女子単第３位)、金森裕子・村松瑞穂（星陵：H15. 女子複優勝)、奥幸那(県岐阜商:H17. 女子単第２位)、濱島未来（名経大市邨・愛知：H17. 女子単第３位)、打田しづか（岡崎城西：H18. 女子単第３位)、駒田直也・深尾淳（名経大市邨：H18. 男子複第３位)、真弓恵理子・清水亜矢（久居：H19. 女子複第３位)、峰歩美（岡崎城西：H20. 女子単優勝)。

この10年の飛躍は大変目覚ましく、近年では全国に「東海勢、強し！」と言わしめた結果となっています。これも各地域の指導者が競技力向上を目指し、ジュニア育成に力を注がれ、その選手達が地元で頑張ってくれた成果と考えます。これまでの団体戦や個人戦入賞者は、今や日本のトッププレーヤーとして実業団や大学で活躍している選手が多く、この東海ブロック専門部から国内大会はもとより、国際大会やオリンピック等で活躍することを信じて、これからも先生方のご指導が実を結ぶことを心から期待しております。

その他、当専門部で選手強化の目的から毎年12月下旬に実施している東海高等学校オープン大会は20回目を迎え、ブロック外の高校からも多数参加して戴いております。また、同時期には東海バドミントン連盟のご協力を得ながら東海地区日韓ジュニア交歓大会も、選手強化の一助として実施しております。

冒頭でも述べましたように、現在は11,500余名の登録数を有する専門部に発展しました。今後とも皆様方に心から感謝の意を表すとともに、更なる発展を目指し努力する次第であります。

最後に、この10年の東海高校総体・全国高校選抜東海地区予選の優勝校を掲載し、筆を置きます。

≪東海高校総体：団体優勝校≫

回数	開催地	男　子	女　子
46	富士市	岡崎城西(愛)	県岐阜商業(岐)
47	各務原市	県岐阜商業(岐)	県岐阜商業(岐)
48	久居市	久　　居(三)	県岐阜商業(岐)
49	豊橋市	久　　居(三)	県岐阜商業(岐)
50	富士宮市	大　　府(愛)	星　　陵(静)
51	高山市	岡崎城西(愛)	星　　陵(静)
52	伊勢市	岡崎城西(愛)	県岐阜商業(岐)
53	豊川市	暁　　(三)	岡崎城西(愛)
54	磐田市	名経大市邨(愛)	岡崎城西(愛)
55	各務原市	名経大市邨(愛)	名経大市邨(愛)

※この大会は、団体戦のみ実施しています。

≪全国高校選抜東海地区予選：団体優勝校≫

回数	開催地	男　子	女　子
27	伊勢市	岡崎城西(愛)	暁　　(三)
28	豊橋市	岡崎城西(愛)	市邨学園(愛)
29	焼津市	県岐阜商業(岐)	県岐阜商業(岐)
30	岐阜市	久　　居(三)	県岐阜商業(岐)
31	伊勢市	大　　府(愛)	県岐阜商業(岐)
32	豊橋市	岡崎城西(愛)	星　　陵(静)
33	袋井市	暁　　(三)	県岐阜商業(岐)
34	大垣市	暁　　(三)	県岐阜商業(岐)
35	四日市市	名経大市邨(愛)	岡崎城西(愛)
36	豊橋市	名経大市邨(愛)	県岐阜商業(岐)

※紙面の都合上、団体戦のみ掲載しています。
※全国高校選抜開催県のため、第28回大会の岐阜県と第31回大会の静岡県は不参加。

東海高校総体：優勝旗、選抜東海地区予選：優勝旗・個人優勝カップ

近畿ブロック常任委員
奈良県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　錦　　秀　知
（奈良市立一条高校）

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部が創立60周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。近畿ブロックは、「近畿はひとつ」を合言葉に、府県間の移動が容易という地理的な条件も相俟って、お互いに切磋琢磨するという素地が以前からあり、近畿専門部の中に強化スタッフを置き、近畿選抜合宿をはじめ全国高校総体直前練習会等連携した事業に取り組んでいます。歴代近畿ブロック常任委員は、山本博先生（京都府）が創設当初から長期にわたりお務めいただき、全国専門部の副部長も歴任され、近畿合宿をはじめ近畿の基盤を整備していただきました。その後、武田博利先生（奈良県）が引き継がれ、成田光生先生（京都府）へとその精神が受け継がれて参りました。1997年度から2006年度の10年間は濱久美雄先生（滋賀）が着任され、近畿合宿の再出発や競技規則の改正に伴う諸業務を迅速に遂行されました。その後は、全国専門部副部長に着任いただいております。1998年度から再出発した近畿合宿は、藤上良信先生（比叡山）をアドバイザーに、山本裕幸先生（西乙訓）を強化スタッフ長として、滋賀県を開催地として実施されました。2008年度からは、スタッフ長に友金幸雄先生（神戸村野工業）を迎え、大阪府に開催地を移しリニューアルが図られました。近畿専門部が主管して開催する大会の上位結果を掲載し、10年間の足跡とします。資料１は全国選抜近畿地区予選の上位結果、資料２は近畿高等学校選手権大会（１位は全国選抜地区第１代表）の上位結果です。全国大会での活躍は別掲資料に委ねさせていただきます。

資料１　全国高等学校選抜バドミントン大会近畿地区予選（団体戦）上位結果

回数	年度	種別	第一位	第二位	第三位	第三位
第28回 京都府	1999年（平成11年）	男子団体	此花学院高校	比叡山高校	添上高校	西乙訓高校
		女子団体	滋賀女子高校	園田学園高校	西乙訓高校	添上高校
第29回 滋賀県	2000年（平成12年）	男子団体	柏原高校	比叡山高校	神戸村野工業高校	京都両洋高校
		女子団体	滋賀女子高校	西乙訓高校	添上高校	夙川学院高校
第30回 奈良県（記念大会）	2001年（平成13年）	男子団体	比叡山高校	神戸村野工業高校	京都両洋高校	添上高校
		女子団体	滋賀女子高校	添上高校	四条畷学園高校	西乙訓高校
第31回 和歌山	2002年（平成14年）	男子団体	比叡山高校	柏原高校	神戸村野工業高校	京都両洋高校
		女子団体	滋賀女子高校	日ノ本学園高校	西乙訓高校	添上高校
第32回 大阪府	2003年（平成15年）	男子団体	比叡山高校	柏原高校	添上高校	京都両洋高校
		女子団体	滋賀女子高校	西山高校	園田学園高校	添上高校
第33回 兵庫県	2004年（平成16年）	男子団体	柏原高校	比叡山高校	神戸村野工業高校	添上高校
		女子団体	大津商業高校	西乙訓高校	日ノ本学園高校	添上高校
第34回 京都府	2005年（平成17年）	男子団体	比叡山高校	柏原高校	神戸村野工業高校	那賀高校
		女子団体	大津商業高校	日ノ本学園高校	西乙訓高校	添上高校
		＊女子団体・順位決定戦により西乙訓高等学校が地区第２代表として全国選抜に出場				
第35回 滋賀県（記念大会）	2006年（平成18年）	男子団体	比叡山高校	神戸村野工業高校	東大阪大学柏原高校	奈良市立一条高校
		女子団体	滋賀女子高校	四天王寺高校	夙川学院高校	京都西山高校
第36回 奈良県	2007年（平成19年）	男子団体	東大阪大学柏原高校	比叡山高校	奈良大学附属高校	神戸村野工業高校
		女子団体	京都西山高校	加古川東高校	尚久高校	滋賀女子高校
		＊女子団体・順位決定戦により尚久高等学校が地区第２代表として全国選抜に出場				
第37回 和歌山県	2008年（平成20年）	男子団体	東大阪大学柏原高校	比叡山高校	神戸村野工業高校	添上高校
		女子団体	京都西山高校	大津商業高校	添上高校	園田学園高校

資料１　全国高等学校選抜バドミントン大会近畿地区予選（個人戦・第２代表）結果

回・開催地	年度	種別	地区第２代表		種別	地区第２代表	
第28回 京都府	1999年（平成11年）	男子D	榎本良永 松川晋也	滋：比叡山高校	男子S	川前直樹	大：柏原高等学校
		女子D	西川夏紀 古川亜希子	滋：滋賀女子高校	女子S	澤　憂紀	滋：滋賀女子高等学校
第29回 滋賀県	2000年（平成12年）	男子D	小瀬広晃 増井弘行	大：柏原高校	男子S	小瀬広晃	大：柏原高等学校
		女子D	宮崎優花 小椋久美子	大：四天王寺高校	女子S	多谷郁恵	滋：滋賀女子高等学校
第30回 奈良県（記念大会）	2001年（平成13年）	全国選抜大会が記念大会のため、近畿団体選手権大会を開催（個人戦は実施せず）					
第31回 和歌山	2002年（平成14年）	男子D	庄　旭明 喜多勝人	大：柏原高校	男子S	守屋正彦	大：此花学院高校
		女子D	松尾静香 加際さつき	大：此花学院高校	女子S	三条麻菜	滋：滋賀女子高校
第32回 大阪府	2003年（平成15年）	男子D	早川賢一 早崎修平	滋：比叡山高校	男子S	喜多勝人	大：柏原高校
		女子D	若杉文音 生田奈津美	京：西山高校	女子S	垣岩真未	滋：滋賀女子高校
第33回 兵庫県	2004年（平成16年）	男子D	安田敬之 大滝涼太	大：柏原高校	男子S	川上直人	大：柏原高校
		女子D	竹内由佳利 深尾友里	大：樟蔭東高校	女子S	大蘇小真姫	滋：滋賀女子高校
第34回 京都府	2005年（平成17年）	男子D	井谷和弥 銭谷　翔	大：柏原高校	男子S	逢澤宏亮	滋：比叡山高校
		女子D	竹内由佳利 深尾友里	大：樟蔭東高校	女子S	北吉穂香	京：西乙訓高校
第35回 滋賀県（記念大会）	2006年（平成18年）	全国選抜大会が記念大会のため、近畿団体選手権大会を開催（個人戦は実施せず）					
第36回 奈良県	2007年（平成19年）	男子D	東野圭悟 大滝直人	大：柏原高校	男子S	東野圭悟	大：柏原高校
		女子D	遠藤真美 鈴木智子	兵：夙川学院高校	女子S	東野良美	大：四天王寺高校
第37回 和歌山県	2008年（平成20年）	男子D	鈴木雄一朗 一井将人	兵：神戸村野工業高校	男子S	平井優也	滋：比叡山高校
		女子D	高橋真理 松本　茜	京：京都西山高校	女子S	漆崎真子	兵：伊丹北高校

資料２　近畿高等学校バドミントン選手権大会上位結果

回数	年度	開催地	種別	1　位	2　位	3　位
第46回	1999	兵庫	男単	榎本　良永（滋・比叡山）	新開　裕介（大・此花学院）	川前　直樹（大・柏　原） 諸多　大輔（大・柏　原）
			女単	小椋久美子（大・四天王寺）	下野　鈴佳（大・四天王寺）	多谷　郁恵（滋・滋賀女子） 澤　憂妃（滋・滋賀女子）
			男複	川前　直樹 諸多　大輔（大・柏　原）	伊藤　博哲 大滝　祐紀（大・此花学院）	上原　一平 福島　哲也（兵・東播磨） 新開　裕介 田渕　太一（大・此花学院）
			女複	下野　鈴佳 小椋久美子（大・四天王寺）	多谷　郁恵 早川由希子（滋・滋賀女子）	川島　彩 澤　憂妃（滋・滋賀女子） 西川　夏紀 古川亜希子（滋・滋賀女子）
第47回	2000	京都	男単	銭谷　公浩（滋・比叡山）	小瀬　広晃（大・柏　原）	近藤　将之（大・柏　原） 大滝　祐紀（大・此花学院）
			女単	小椋久美子（大・四天王寺）	丸岡　智子（大・四条畷学園）	亀谷　望（大・四条畷学園） 宮崎　優花（大・四天王寺）
			男複	銭谷　公浩 森澤　駿（滋・比叡山）	山口　公洋 辻田　嘉章（滋・比叡山）	近藤　将之（大・柏　原） 吉川　洋輔 小瀬　広晃（大・柏　原） 増井　弘行
			女複	多谷　郁恵 早川由希子（滋・滋賀女子）	亀谷　望 丸岡　智子（大・四条畷学園）	小椋久美子（大・四天王寺） 宮崎　優花 目秦　香菜（奈・添　上） 霜方　久実
第48回	2001	滋賀	男単	山口　公洋（滋・比叡山）	数野　健太（滋・比叡山）	岸本　泰樹（兵・村野工業） 庄　旭明（大・柏　原）
			女単	目秦　香菜（奈・添　上）	北村　楢（滋・滋賀女子）	銭谷まゆ子（大・四条畷学園） 林　尚美（大・樟蔭東）
			男複	橋本　典晃 庄　旭明（大・柏　原）	一ノ瀬昇太 多谷　公志（滋・比叡山）	山口　公洋 辻田　嘉章（滋・比叡山） 岸本　泰樹 白井　亮次（兵・村野工業）
			女複	三条　幸菜 大北　朱美（滋・滋賀女子）	中川　彩 銭谷まゆ子（大・四条畷学園）	目秦　香菜 三宅　知佳（奈・添　上） 赤松　由紀 坂下　由佳（大・四条畷学園）
第49回	2002	奈良	男単	数野　健太（滋・比叡山）	庄　旭明（大・柏　原）	早川　賢一（滋・比叡山） 多谷　公志（滋・比叡山）
			女単	松尾　静香（大・此花学院）	垣岩　真未（滋・滋賀女子）	三条　麻菜（滋・滋賀女子） 柴村　美帆（京・西乙訓）
			男複	多谷　公志 早川　賢一（滋・比叡山）	数野　健太 吉田　浩司（滋・比叡山）	守屋　正彦（大・此花学院） 伊藤　雅俊 西山　智（奈・一　条） 森田　祐史
			女複	三条　麻菜 中村　百合（滋・滋賀女子）	松尾　静香 加隈さつき（大・此花学院）	出水　純子（兵・園田学園） 横関　舞 奥田奈津子（兵・夙川学院） 谷坂　優花
第50回	2003	和歌山	男単	早川　賢一（滋・比叡山）	喜多　勝人（大・柏　原）	犬山　陽介（大・柏　原） 早崎　修平（滋・比叡山）
			女単	松尾　静香（大・此花学院）	垣岩　真未（滋・滋賀女子）	若杉　文音（京・西　山） 大條小真姫（滋・滋賀女子）
			男複	喜多　勝人 浦窪　文也（大・柏　原）	早川　賢一 早崎　修平（滋・比叡山）	大佛　潤典 大滝　涼太（大・柏　原） 犬山　陽介 安田　敬之（大・柏　原）
			女複	松尾　静香 恵良友里亜（大・此花学院）	垣岩　真未 岡野由有佳（滋・滋賀女子）	大條小真姫 福森絵里菜（滋・滋賀女子） 生田奈津美 若杉　文音（京・西　山）
第51回	2004	大阪	男単	早崎　修平（滋・比叡山）	銭谷　翔（大・柏　原）	柳川　智（兵・村野工業） 樋口　龍太（大・柏　原）
			女単	北吉　穂香（京・西乙訓）	横関　彩（兵・園田学園）	野村このみ（兵・日ノ本学園） 吉田奈保美（奈・添　上）
			男複	早崎　修平 川下　剛士（滋・比叡山）	大滝　涼太 安田　敬之（大・柏　原）	杉本　祐斗 森田　正秀（奈・添　上） 鵜川　耕輔 諏訪　純平（京・西乙訓）
			女複	大條小真姫 福森絵里菜（滋・滋賀女子）	前田　志奈 前田　芳奈（滋・大津商業）	竹内由佳利 深尾　友里（大・樟蔭東） 内井　佑花 野村このみ（兵・日ノ本学園）
第52回	2005	兵庫	男単	井谷　和弥（大・柏　原）	川下　剛士（滋・比叡山）	銭谷　翔（大・柏　原） 逢澤　宏亮（滋・比叡山）
			女単	池原　朋恵（大・樟蔭東）	土井　杏奈（滋・滋賀女子）	北吉　穂香（京・西乙訓） 竹内由佳利（大・樟蔭東）
			男複	西澤　潤 川下　剛士（滋・比叡山）	銭谷　翔 巽　太志（大・柏　原）	逢澤　宏亮（滋・比叡山） 伊佐　俊彦 井谷　和弥（大・柏　原） 樋口　龍太
			女複	浦窪　真代 西川真奈美（奈・添　上）	竹内由佳利 深尾　友里（大・樟蔭東）	北吉　穂香（京・西乙訓） 岡本　優里 池原　朋恵（大・樟蔭東） 藤村　裕理
第53回	2006	京都	男単	土居　寛人（滋・比叡山）	和田　力也（大・東大阪大学柏原）	北野　圭（滋・比叡山） 河田　尚也（兵・村野工業）
			女単	土井　杏奈（滋・滋賀女子）	小口　晃佳（大・四天王寺）	西川真奈美（奈・添　上） 野田　郁恵（滋・滋賀女子）
			男複	土居　寛人 定清　大祐（滋・比叡山）	村上　俊 矢部　拓也（滋・比叡山）	河田　尚也（兵・村野工業） 植田　真伍 和田　力也（大・東大阪大学柏原） 柳澤　尚
			女複	小口　晃佳 津村　優衣（大・四天王寺）	土井　杏奈 仲川志都香（滋・滋賀女子）	下農　咲希（大・四天王寺） 西　友理 福葉菜保美（兵・夙川学院） 上所　愛
第54回	2007	滋賀	男単	村上　俊（滋・比叡山）	宇野　賢人（滋・比叡山）	黒田　匠馬（滋・比叡山） 松原　司（滋・比叡山）
			女単	由本しずか（兵・加古川東）	福万　尚子（大・樟蔭東）	西　友理（大・四天王寺） 東野　良美（大・四天王寺）
			男複	村上　俊 矢部　拓也（滋・比叡山）	東野　圭悟 大滝　直人（大・東大阪大学柏原）	尾崎　智洸（奈・奈良大学附属） 千木良　司 黒田　匠馬（滋・比叡山） 宇野　賢人
			女複	久後あすみ 西　友理（大・四天王寺）	小路　沙織 福万　尚子（大・樟蔭東）	名田　瑞希（大・樟蔭東） 吉村　柚香 東野　良美（大・四天王寺） 下農　咲希
第55回	2008	奈良	男単	東野　圭悟（大・東大阪大学柏原）	大滝　直人（大・柏　原）	山形　章悟（大・東大阪大学柏原） 佐藤　康志（大・東大阪大学柏原）
			女単	福万　尚子（大・樟蔭東）	阪口　智郁（大・樟蔭東）	漆崎　真子（兵・伊丹北） 下田菜都美（大・樟蔭東）
			男複	東野　圭悟 大滝　直人（大・東大阪大学柏原）	平井　優也 三浦　昴（滋・比叡山）	諸多　哲平（大・東大阪大学柏原） 児玉　智 佐藤　康志（大・東大阪大学柏原） 中村　崇晃
			女複	牧野　美咲 山本　紗椰（大・四天王寺）	村上　高子 河崎　綾佳（滋・大津商）	高橋　真理（京・西山） 松本　茜 樋口菜々実 樫山　朋美（京・桂）

中国ブロック常任委員
岡山県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　山田賢一
（岡山県立玉島商業高校）

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部の創立60周年を心よりお慶び申し上げます。

さて、私は中国ブロック専門部委員長を12年間務めさせていただきました。任期中、中国五県の先生方にはご協力、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに中国ブロック専門部を振り返ってみますと、ブロック諸問題（大会開催時期・申込方法や様式・参加料の値上げ・組み合わせ基準等）について各県委員長は基より各県の状況を踏まえ諸先生方に大変ご協力を頂きました。現在では、全国専門部にならってのスムーズな運営組織になっていると自負しています。

ここ10年間に中国ブロックで開催された全国大会は、平成15年度山口の選抜と平成16年度鳥取の総体があります。関係各位には大変お世話になりありがとうございました。今後、平成28年に全国総体が中国ブロック開催となっています。宜しくお願い申し上げます。

ここに全国総体・全国選抜大会でベスト８以上の学校及び選手を紹介します。

【全国総体】

平成11年50回大会（岩手）
　守屋仁美・谷口貴美（山陽女子）ベスト８
平成13年52回大会（熊本）
　水島工業　ベスト８
　佐伯浩一・麻生将豊（水島工業）準優勝
　佐伯浩一（水島工業）第３位
平成14年53回大会（茨城）
　水島工業　ベスト８
　浅原さゆり・黒田香織（笠岡商業）第３位
　周　艶（広島桜が丘）ベスト８
平成15年54回大会（長崎）
　笠岡商業　ベスト８
　浅原さゆり・黒田香織（笠岡商業）ベスト８
平成16年55回大会（鳥取）
　柳井工業　ベスト８
　佐伯祐行（水島工業）第３位
　三宅達也（水島工業）ベスト８
平成17年56回大会（千葉）
　水島工業　準優勝
　佐伯祐行・米元優樹（水島工業）ベスト８
　佐伯祐行（水島工業）優勝
　三宅達也（水島工業）ベスト８
平成18年57回大会（奈良）
　水島工業　ベスト８
　渡邉一磨（水島工業）ベスト８
平成19年58回大会（佐賀）
　渡邉一磨・末吉佑任（水島工業）ベスト８
　渡邉一磨（水島工業）ベスト８
平成20年59回大会（埼玉）
　松徳学院　ベスト８

【全国選抜】

平成13年29回大会（宮城）
　水島工業　第３位
　佐伯浩一・麻生将豊（水島工業）ベスト８
　佐伯浩一（水島工業）ベスト８
平成14年30回大会（長崎）
　水島工業　ベスト８
平成15年31回大会（静岡）
　浅原さゆり・黒田香織（笠岡商業）ベスト８
平成16年32回大会（山口）
　佐伯祐行（水島工業）第３位
平成17年33回大会（愛媛）
　水島工業　準優勝
　佐伯祐行・三宅達也（水島工業）ベスト８
　落合智世・岡田美紀（鈴峯女子）ベスト８
　佐伯祐行（水島工業）優勝
平成18年34回大会（福井）
　湯谷亮介・山本直矢（鳥取工業）ベスト８
　湯谷亮介（鳥取工業）第３位
　渡邉一磨（水島工業）ベスト８
平成19年35回大会（北海道）
　水島工業　ベスト８
　倉吉総合産業　ベスト８
平成20年36回大会（大分）
　水島工業　ベスト８
　土江奈津子（松徳学院）ベスト８

中国選手権大会（男子学校対抗戦）

年度	回	開催地	優勝	準優勝	3位
平成11年	42	松江	水島工業	大東	安佐北 山口
12年	43	山口	水島工業	大東	柳井工業 安佐北
13年	44	広島	水島工業	柳井工業	米子松陰 安佐北
14年	45	岡山	柳井工業	水島工業	境港工業 安佐北
15年	46	鳥取	水島工業	広島国泰寺	柳井工業 倉吉工業
16年	47	松江	柳井工業	水島工業	広島国泰寺 松江北
17年	48	山口	水島工業	柳井工業	倉吉総合産業 鳥取工業
18年	49	広島	水島工業	鳥取工業	柳井工業 松江北
19年	50	岡山	水島工業	柳井工業	松江北 倉吉総合産業
20年	51	鳥取	水島工業	鳥取工業	広島城北 大東

中国選手権大会（女子学校対抗戦）

年度	回	開催地	優勝	準優勝	3位
平成11年	42	松江	山陽女子	広島桜が丘	山口中央 笠岡商業
12年	43	山口	広島桜が丘	鈴峯女子	境 山陽女子
13年	44	広島	熊毛北	広島桜が丘	笠岡商業 境
14年	45	岡山	山陽女子	広島桜が丘	笠岡商業 倉吉工業
15年	46	鳥取	鈴峯女子	広島桜が丘	笠岡商業 熊毛北
16年	47	松江	広島桜が丘	山陽女子	大東 熊毛北
17年	48	山口	鈴峯女子	山陽女子	大東 熊毛北
18年	49	広島	熊毛北	清水ケ丘	倉敷中央 松徳学院
19年	50	岡山	倉敷中央	清水ケ丘	松徳学院 西大寺
20年	51	鳥取	松徳学院	熊毛北	清水ケ丘 倉吉東

中国選手権大会（男子個人ダブルス）

年度	回	優勝	準優勝	3位	3位
平成11年	42	多田・新宅 （安佐北）	嶋田・本池 （米子商業）	窪田・佐伯 （水島工業）	坂本・竹本 （山口）
12年	43	佐伯・麻生 （水島工業）	黒川・川上 （大東）	永井・浅原 （水島工業）	竹内・黒木 （水島工業）
13年	44	佐伯・麻生 （水島工業）	永井・浅原 （水島工業）	三崎・山縣 （下関中央工業）	内藤・米澤 （柳井工業）
14年	45	竹光・河野 （柳井工業）	三崎・山縣 （下関中央工業）	米田・秦岡 （大東）	田中・堀 （水島工業）
15年	46	三宅・石井 （水島工業）	堀・佐伯 （水島工業）	橋本・山平 （柳井工業）	松本・福山 （水島工業）
16年	47	橋本・山平 （柳井工業）	川崎・相原 （広島国泰寺）	三宅・石井 （水島工業）	黒川・藤原 （水島工業）
17年	48	佐伯・米元 （水島工業）	黒川・藤原 （水島工業）	服部・秋元 （西大寺）	三宅・石井 （水島工業）
18年	49	湯谷・山本 （鳥取工業）	石原・吉本 （柳井工業）	田淵・中野 （岡山理大附）	梶谷・森脇 （大東）
19年	50	渡邉・末吉 （水島工業）	吉本・上原 （柳井工業）	仲井・森本 （倉吉総合産業）	内富・田村 （徳山工業）
20年	51	逢澤・奥本 （水島工業）	青見・青見 （柳井商工）	林谷・田中 （米子北）	的場・青木 （鳥取工業）

中国選手権大会（女子個人ダブルス）

年度	回	優勝	準優勝	3位	3位
平成11年	42	守屋・谷口貴 （山陽女子）	三輪・中村 （中村女子）	今川・森山 （境）	立道・安村 （広島桜が丘）
12年	43	堀江・橋本 （鈴峯女子）	中村・西村 （中村女子）	高原・緒方 （山陽女子）	安村・岡崎 （広島桜が丘）
13年	44	浅原・黒田 （笠岡商業）	橋本・田淵 （総社）	周・高橋 （広島桜が丘）	松繁・松尾 （熊毛北）
14年	45	浅原・黒田 （笠岡商業）	周・霜山 （広島桜が丘）	松尾・末長 （熊毛北）	藤原・信組 （倉吉工業）
15年	46	浅原・黒田 （笠岡商業）	周・霜山 （広島桜が丘）	末長・川崎 （熊毛北）	宮崎・野口 （山陽女子）
16年	47	霜山・宮野 （広島桜が丘）	三宅・入江 （山陽女子）	落合・岡田 （鈴峯女子）	佐藤・井戸 （広島桜が丘）
17年	48	中尾・藤川 （倉敷中央）	花本・逸見 （熊毛北）	岩田・小山 （大東）	三宅・入江 （山陽女子）
18年	49	川田・中尾 （倉敷中央）	岡本・実光 （倉敷中央）	末吉・早川 （米子北）	逸見・藤井 （熊毛北）
19年	50	実光・岡本 （倉敷中央）	土江・山本 （松徳学院）	柳亭・三上 （清水ケ丘）	鈴木・河村 （熊毛北）
20年	51	宇津木・中原 （倉吉東）	鈴木・河村 （熊毛北）	土江・城市 （松徳学院）	豊田・吉廣 （清水ケ丘）

中国選手権大会（男子個人シングルス）

年度	回	優勝	準優勝	3位	3位
平成11年	42	佐伯 浩一 （水島工業）	窪田 基弘 （水島工業）	木村 裕二 （米子西）	多田 和生 （安佐北）
12年	43	水津 諒一 （徳山）	麻生 将豊 （水島工業）	佐伯 浩一 （水島工業）	新宅 地塩 （安佐北）
13年	44	佐伯 浩一 （水島工業）	麻生 将豊 （水島工業）	永井 大吉 （水島工業）	筒井 康司 （大東）
14年	45	竹光 唯至 （柳井工業）	秦岡 雅憲 （大東）	伊東 大地 （安佐北）	川崎 裕司 （広島国泰寺）
15年	46	竹中 裕紀 （倉吉工業）	山平 直輝 （柳井工業）	三宅 達也 （水島工業）	松尾 光平 （柳井工業）
16年	47	佐伯 祐行 （水島工業）	山平 直輝 （柳井工業）	松尾 光平 （柳井工業）	相原 正宗 （広島国泰寺）
17年	48	佐伯 祐行 （水島工業）	三宅 達也 （水島工業）	森本 有一 （倉吉総合産業）	米元 優樹 （水島工業）
18年	49	湯谷 亮介 （鳥取工業）	渡邉 一磨 （水島工業）	吉本 直樹 （柳井工業）	角田 碧 （松江北）
19年	50	渡邉 一磨 （水島工業）	逢澤 良亮 （水島工業）	角田 碧 （松江北）	末吉 佑任 （水島工業）
20年	51	逢澤 良亮 （水島工業）	小山 恭平 （大東）	大和 一輝 （広島桜が丘）	安田 僚 （水島工業）

中国選手権大会（女子個人シングルス）

年度	回	優勝	準優勝	3位	3位
平成11年	42	守屋 仁美 （山陽女子）	谷口 貴美 （山陽女子）	堀江 知代 （鈴峯女子）	岩田 直子 （山陽女子）
12年	43	安村 枝穂 （広島桜が丘）	柏野 則子 （山陽女子）	高原 由紀 （山陽女子）	橋本 理香 （鈴峯女子）
13年	44	周 艶 （広島桜が丘）	川下 彩香 （鈴峯女子）	藤原 由衣 （倉吉工業）	浅原さゆり （笠岡商業）
14年	45	周 艶 （広島桜が丘）	川下 彩香 （鈴峯女子）	藤原 由衣 （倉吉工業）	浅原さゆり （笠岡商業）
15年	46	藤原 由衣 （倉吉工業）	周 艶 （広島桜が丘）	浅原さゆり （笠岡商業）	才田 桃子 （山陽女子）
16年	47	落合 智世 （鈴峯女子）	近藤 雅子 （米子西）	越智ひとみ （熊毛北）	川田 茉依 （倉敷中央）
17年	48	落合 智世 （鈴峯女子）	藤井 綾香 （熊毛北）	三宅 司 （山陽女子）	柳亭 郁美 （清水ケ丘）
18年	49	柳亭 郁美 （清水ケ丘）	藤井 綾香 （熊毛北）	土江奈津子 （松徳学院）	戸田みよ子 （鈴峯女子）
19年	50	戸田みよ子 （鈴峯女子）	岡本麻菜美 （倉敷中央）	末吉 志織 （米子北）	実光 鮎佳 （倉敷中央）
20年	51	土江奈津子 （松徳学院）	山本ゆかり （松徳学院）	豊田 希美 （清水ケ丘）	吉廣 咲姫 （清水ケ丘）

四国ブロック専門部
愛媛県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　樽島博幸
（愛媛県立伊予農業高校）

平成10年から19年までの10年間、四国ブロック高体連バドミントン専門部の競技レベルは、過去45年間の香川県主導の状況から、他の３県が「打倒！香川！」を目標にジュニア（小・中学生）選手の育成に力を注ぎ、徐々にその成果が現れだした時代と言えます。現在では、男女ともに戦国時代の様相を呈している状況です。今後は、「香川王国」が復活し伝統を死守するのか、あるいは新たな「常勝校」が現れるのか、大変楽しみに感じられます。ただ深刻な問題として、四国４県全てにおいて、ジュニアのトップ選手が全国の強豪チームに流出している現象が起こっているという現実です。四国ブロックとしては、この選手たちが一人でも多く四国に留まってくれるよう全国の常勝校の一員に加わる学校が現れることと、四国四県全体のレベルアップを目指す必要があると考えます。四国ブロックとしても平成８年度から、毎年１回ではあるが、12月末に「四国高等学校バドミントン強化大会」を実施し続けています。こういった地道な努力がますます広がり、成果が現れるよう企画運営できたらと考えています。

全国高等学校総合体育大会においては、右記のように、平成10年度の男子学校対抗において高松商業高等学校（香川）の準優勝、同じく平成10年度の女子学校対抗において香川中央高等学校（香川）の第３位の成績以降、全国ベスト８までは男女とも７回は入賞しているものの、ベスト４の壁が高くそびえている感があります。四国ブロック内においては実力伯仲の感がありますが、全国での成績を見てみると、まだまだその実力を発揮できていないのが現状であります。あともう少しのところまで来ているのですが…。

全国大会（男子学校対抗）成績（ベスト８以上）

年度	大会	学校名（県名）	成績
H10	総体	高松商業（香川）	準優勝
H12	総体	高松商業（香川）	６位
H12	選抜	高松商業（香川）	８位
H15	総体	新　田（愛媛）	７位
H17	総体	英　明（香川）	８位
H18	選抜	英　明（香川）	６位
H19	選抜	英　明（香川）	６位

全国大会（女子学校対抗）成績（ベスト８以上）

年度	大会	学校名（県名）	成績
H10	総体	香川中央（香川）	３位
H12	総体	香川中央（香川）	７位
H12	選抜	香川中央（香川）	７位
H13	総体	香川中央（香川）	８位
H16	選抜	香川中央（香川）	８位
H17	総体	香川中央（香川）	７位
H19	選抜	高松商業（香川）	６位

四国ブロック内においては、男子の香川県立高松商業高等学校が四国高等学校バドミントン選手権大会（四国総体）15年連続優勝（S62～H13）及び全国高等学校選抜バドミントン大会四国地区予選会16年連続優勝（S60～H16）という前人未到の大記録を打ち立てました。また、女子の香川県立香川中央高等学校も四国総体において10年間のうちで７回優勝という栄冠を獲得しています。四国総体の出場資格は、各県のベスト４の学校（計16校）によるトーナメント戦で試合が行われていますが、過去にはベスト４全てが香川県という状況の結果がよく見られた時代もありました。文字通り、香川県対高知・愛媛・徳島連合軍といった模様でありました。マラソンに例えれば、ここ数年、やっと香川県の背中が見え、背後になんとか追いついたというのが本当のところだと言えます。しかし、今後の展開は、全く予想できない混沌とした状況が続くと思われます。

四国高等学校総合体育大会（男子団体）成績

年度	優勝校	準優勝校
H10	高松商業（香川）	坂出工業（香川）
H11	高松商業（香川）	坂出工業（香川）
H12	高松商業（香川）	坂出工業（香川）
H13	高松商業（香川）	高松第一（香川）
H14	新　田（愛媛）	高松第一（香川）
H15	新　田（愛媛）	高松商業（香川）
H16	高松商業（香川）	新　田（愛媛）
H17	英　明（香川）	高松中央（香川）
H18	英　明（香川）	香川中央（香川）
H19	英　明（香川）	高松商業（香川）

四国高等学校総合体育大会（女子団体）成績

年度	優勝校	準優勝校
H10	香川中央（香川）	高松商業（香川）
H11	香川中央（香川）	高松商業（香川）
H12	香川中央（香川）	新居浜西（愛媛）
H13	香川中央（香川）	坂出商業（香川）
H14	新居浜東（愛媛）	香川中央（香川）
H15	香川中央（香川）	高松商業（香川）
H16	香川中央（香川）	新　田（愛媛）
H17	香川中央（香川）	新　田（愛媛）
H18	新　田（愛媛）	香川中央（香川）
H19	城　東（徳島）	新　田（愛媛）

全国高等学校選抜大会（四国地区予選会）成績

年度	男子団体優勝校	女子団体優勝校
H10	高松商業（香川）	香川中央（香川）
H11	高松商業（香川）	香川中央（香川）
H12	高松商業（香川）	香川中央（香川）
H13	新　田（愛媛）	香川中央（香川）
H14	新　田（愛媛）	香川中央（香川）
H15	高松商業（香川）	新　田（愛媛）
H16	高松商業・新　田（香川）・（愛媛）	香川中央・新　田（香川）・（愛媛）
H17	香川中央（香川）	新　田（愛媛）
H18	英　明（香川）	新　田（愛媛）
H19	高松商業（香川）	高松商業（香川）

このように、四国ブロックが今後発展を遂げる兆しが伺える状況になったのも、前々代常任委員岸輝人先生（現香川県立小豆島高等学校）のご尽力により実現した「四国高等学校強化練習会」が、現在も「四国高等学校バドミントン強化大会」として13年目を迎えているところによるものが大きいと思われます。このような取り組みが、四国の中で続いていく限り四国のバドミントンの発展に繋がり、平成５年に高松商業高等学校が達成した「全国制覇」という悲願が、再び四国ブロックで叶うことを願っています。

６年前、私が前代常任委員の岡野佳浩先生（現香川県立香川中央高等学校）より、四国ブロック常任委員を引き継ぐことになりました。それは、愛媛県で初めて開催された平成16年度全国高等学校選抜大会が、無事に運営できるようにとの心遣いでした。岡野先生の配慮のお陰で、全国専門部理事の方々との連携も取れ、適切な指示の下に本県役員の迅速な対応で、無事終了することができました。就任したときは私自身、不安と重圧で大変でしたが、今ではこの経験はかけがえのない財産になりました。若輩者の私にこのような職務を与えていただいた諸先生方のご指導ご協力に感謝して終わりと致します。

九州ブロック常任委員
九州高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　築地孝彦
（佐賀女子高校）

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部の創立60周年を心よりお慶び申し上げます。今日まで発展・運営にご尽力いただいた関係先輩方に敬意を表します。

さて、九州ブロック専門部では、二つの大会と一合宿を九州高体連・九州バドミントン連盟と主催・共催として開催し専門部主管として取り組んでいます。

「九州高等学校バドミントン競技大会」

開催期日　　６月第３週（土・日・月）
開催場所　　九州８県での持ち回り
出場制限　　団体：各県、男女、各２チーム
　　個人・単：各県、男女、各４名
　　個人・複：各県、男女、各４組

昭和41年　大分県日田市にて開催されて以来、43回を重ねている。

○学校対抗

年度	開催県	男　子	女　子
昭和41年～ ※○内数字 優勝回数 ～平成10年		九州学院　⑩ 熊本学園　⑨ 瓊浦　⑤ 八代東　④ 芦北　② 日田林工　① 熊本　① 長崎東　①	熊本中央　⑭ 長崎商業　⑥ 熊本信愛　⑤ 昭和女子　② 長崎女子　② 佐賀女子　② 九州女学院① 九国大付　①
11	沖縄県	八代東	精華女子
12	鹿児島	八代東	長崎女子
13	宮崎県	八代東	九国大付
14	佐賀県	八代東	熊本中央
15	熊本県	八代東	熊本中央
16	福岡県	八代東	九国大付
17	長崎県	西陵	九国大付
18	大分県	八代東	九国大付
19	沖縄県	八代東	八代白百合
20	鹿児島	八代東	八代白百合

○個人・単

11	池田礼緒奈（熊本）	田上　千晴（熊本）
12	佐村　正和（熊本）	松田　友美（長崎）
13	有田　裕佑（熊本）	船橋　真波（熊本）
14	有田　裕佑（熊本）	吉村　征美（熊本）
15	中西　雄希（福岡）	吉村　征美（熊本）
16	川口謙太郎（熊本）	岡　ひとみ（熊本）
17	園田　啓悟（熊本）	谷口　智美（福岡）
18	武山　修三（熊本）	栗原　文音（福岡）
19	園田　啓悟（熊本）	栗原　文音（福岡）
20	渡邊　達哉（宮崎）	青柳　佐紀（熊本）

○個人・複

11	森田・森田（福岡）	松尾・藤本（福岡）
12	守田・斎藤（福岡）	松田・宇津（長崎）
13	松田・福澤（大分）	潮田・春田（福岡）
14	有田・西澤（熊本）	田村・山田（福岡）
15	橋本・木村（熊本）	吉村・前田（熊本）
16	中園・中嶋（福岡）	岡　・西　（熊本）
17	東　・島田（熊本）	江藤・田崎（熊本）
18	近藤・武山（熊本）	田村・上田（大分）
19	嘉村・園田（熊本）	栗原・植田（福岡）
20	末松・北野（福岡）	村岡・横山（熊本）

九州ブロックのバドミントンは、熊本県が他県を大きくリードしている。特に男子は、43回の大会で35回の優勝を飾り、他の追随を振り切っている感じはあるが、ここ数年、長崎・福岡・宮崎等の頑張りが目覚しいものがある。

女子においては、男子同様な傾向があったが長崎・大分・佐賀そして福岡の北部４県の活躍と宮崎・鹿児島・沖縄の努力により発展が楽しみである。

「全九州高等学校バドミントン競技大会」

開催期日　12月下旬
開催場所　九州８県での持ち回り
出場制限　団体：各県、男女、各２チーム
個人・単：各県、男女、各１名
個人・複：各県、男女、各１組

大会開催当初は、熊本市を中心において、個人・複の試合が行われ、その優勝ペアが地区代表で全国大会へ出場し、単・複を兼ねて参加していたようである。昭和49年より都道府県単位の団体戦が取り入れられたようである。その後、変遷を経て現在に至っている。

残念ながら、九州ブロックの成績が第１回から５回まで不明である。

○学校対抗

年度	開催県	男　子	女　子
11	宮崎県	八代東	長崎女子
12	福岡県	八代東	九国大付
13	沖縄県	八代東	熊本信愛
14	佐賀県	八代東	熊本中央
15	長崎県	八代東	熊本中央
16	熊本県	熊本学園大付	熊本信愛
17	鹿児島	八代東	九国大付
18	大分県	八代東	九国大付
19	宮崎県	自由ヶ丘	九国大付
20	福岡県	八代東	八代白百合

○個人・単

11	近藤　伸俊（福岡）	潮田　玲子（福岡）
12	左村　正和（熊本）	潮田　玲子（福岡）
13	有田　裕佑（熊本）	生田　紗雪（熊本）
14	古財　和輝（熊本）	関谷　真由（福岡）
15	川口謙太郎（熊本）	岡　ひとみ（熊本）
16	武山　修三（熊本）	大塚　珠世（長崎）
17	武山　修三（熊本）	栗原　文音（福岡）
18	園田　啓悟（熊本）	栗原　文音（福岡）
19	野原　大輔（沖縄）	村岡　尚実（熊本）
20	渡邊　達哉（宮崎）	室園　菜摘（福岡）

○個人・複

11	森田・斎藤（福岡）	松田・宇津（長崎）
12	左村・宮崎（熊本）	服部・倉満（大分）
13	永山・柿内（鹿児島）	吉田・北　（大分）
14	橋本・木村（熊本）	吉村・前田（熊本）
15	川口・木村（熊本）	岡　・西　（熊本）
16	小川・小川（長崎）	江藤・下田（熊本）
17	園田・嘉村（熊本）	宮内・加藤（大分）
18	園田・嘉村（熊本）	宮内・加藤（大分）
19	堤　・原田（福岡）	村岡・横山（熊本）
20	中井・城野（熊本）	室園・小田（福岡）

「九州地区ジュニアバドミントン強化合宿」

開催期日　１月４日～７日（３泊４日）
開催場所　鹿児島県日置市
吹上浜公園体育館
参加制限　各県　男女各６名
（中学生２名以上含む）

昭和63年より九州地区ジュニアの競技力向上を目指して九州バドミントン連盟主催により久留米市（久留米大学）にて第１回を開催（２泊３日　男女高校生各３名）。平成８年より福岡市に完成した「アクシオン福岡」へ移動し、３泊４日　男女高校生４名参加より実施。

平成19年より現在開催している吹上浜公園体育館へ移動。平成20年より中・高一貫強化と連携を深めて行くため中学生と指導者の参加を行った。

この合宿の成果が昭和後半から平成10年頃までの男女九州勢の全国大会等での活躍であり、北京オリンピック参加10名の内５名を生んだ原点といえる。今後も、これまで以上に互いに切磋琢磨し若い情熱に溢れた指導者達が九州を盛り上げて行くことを確信している。

10年のあゆみ

都道府県高体連バドミントン専門部

北北海道高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　水崎　忍
（北海道帯広三条高校）

北北海道は、名寄・旭川・空知（平成20年度、北空知と南空知の統合により、南空知は今年度から北北海道へ参加）・北見・根釧・十勝の６支部により構成されています。

平成20年度のインターハイ予選では、６支部合わせて、団体190校、複221校、単235校が支部予選を行い、支部予選上位校の参加による北海道大会が函館市で実施され、全国を目指した熱戦が繰り広げられました。近年は、北北海道においても少子化による高校の統廃合や間口減が進んでいますが、各支部の専門委員と協力し、バドミントン競技の更なる普及・発展に力を注いで行きたいと考えております。

さて、この10年間の北北海道を支部別の全国大会出場回数で振り返ると、インターハイでは、旭川支部が男子団体で９回（旭川工業５・旭川実業４）、十勝支部が１回（帯広大谷１）、女子では10回全て旭川支部（旭川実業９・旭川北都商業１）が出場しています。選抜大会でも傾向は同じで、旭川支部が男子団体で７回（旭川実業４・旭川工業３）、十勝支部が２回（帯広大谷２）、女子は９回全て旭川支部（旭川実業８・旭川北都商業１）という状況です（20年12月現在）。個人戦においても、全国大会への出場回数では、旭川支部を他支部が追うという勢力図が伺えます。近年でも、旭川支部の優位は続いていますが、支部間における力の差が少なくなり、各大会において激しい戦いが繰り広げられており、北北海道の更なるレベル向上につながるものと確信しております。

最後になりますが、全国高体連バドミントン専門部が60周年を機に、更なる発展を遂げますよう祈念いたします。

南北海道高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　酒井智史
（北海道札幌開成高校）

この10年間、男子では札幌第一が26連覇をつづける中、２位は札幌南（H11, H12）、北海学園札幌が札幌商業時代から７年連続２位（札商H13～H15, 北海学園札幌H16～H19）、札幌龍谷学園（H20）と入れ替わってきました。

女子では平成２年から平成17年まで16連覇の札幌静修に対し、平成６年から平成16年まで11年間２位の座に甘んじて来たとわの森三愛が遂に平成18年に優勝。そこから平成20年まで３連覇を続けています。また、札幌北斗が２度の２位（H17, 20）、４度の３位（H14, 16, 18, 19）と連続で上位入賞を果たし、３強時代の到来かと思わせます。

南北海道は、少子化による学校統廃合を受け、平成20年度より、札幌、函館、室蘭、小樽の４支部での構成となり、一極集中の札幌と他支部との対戦という色彩が強くなってきています。札幌支部勢が上位を占める中、男子では函館工業が６回（H13, 14, 16, 17, 18, 20）３位入賞、苫小牧工業が３回（H17, 18, 19）３位入賞と健闘し、その他に小樽潮陵、小樽工業、小樽桜陽、岩見沢緑陵、倶知安が３位入賞を果たしています。女子では函館工業が５回（H11, 15, 17, 18, 19）３位入賞と健闘、その他に苫小牧南、聖ベネディクトが１回ずつ３位入賞しています。今後、男子は札幌第一がどこまで連勝を続けるのか、札幌第一を破るチームはどこか。また、女子では混戦から抜け出すチームが誕生するのか、その動向が楽しみである。そして、その南北海道の代表が全国インターハイで活躍することを期待します。

青森県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 百川弘通
（青森県弘前実業高校）

平成11年、本県専門部に衝撃が走った。その年創部された青森山田高男子が、１年生のみのチームでありながら優勝したのである。女子は次の年からの優勝で、男子は10年連続、女子は９年連続優勝を現在まで成し遂げている。

昭和時代は、男子の東奥義塾高・弘前工業高、女子は千葉学園高・弘前学院聖愛高が覇を競っていたが、平成は男女とも青森山田の時代に突入したのである。インターハイにおいても、学校対抗戦男子は初出場以来、常にベスト８以上であり、平成17年度は３位に入賞している。

また、女子は、平成13年・14年の２年連続、平成16年から19年まで４年連続優勝している。個人戦では、平成15年川内崇士選手のシングルス３位、平成14年女子シングルス２位廣瀬栄理子選手、女子ダブルス３位今別府靖代・廣瀬栄理子組、平成15年・16年女子シングルス連続優勝の今別府香里選手、平成17年・18年女子シングルス連続優勝の藤井瑞希選手、平成18年女子ダブルス優勝藤井瑞希・垣岩令佳組と輝かしい成績を収め、本県専門部をトップレベルに引き上げてくれました。

さて、平成23年、北東北インターハイにおいて、バドミントン競技が本県で開催される運びとなりました。昭和36年弘前大会、昭和41年弘前大会に続き３度目の開催となります。財政事情厳しい本県にあって、様々な制約がすでに課されておりますが、本県専門部役員及び各校顧問の献身的協力体制は、インターハイでも発揮されるものと自負しております。ハード面で過去の大会に見劣りするかと思いますが、役員・顧問・生徒のソフト面で、他県選手団をもてなしていきたいと意を強くしております。

岩手県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 菊地 亨
（岩手県立前沢高校）

平成11年に本県で開催された「99岩手総体」で50周年記念式典を開催したことをつい最近のように思っていましたが、歳月はあっという間に流れていたということを痛切に感じています。この間、平成15年度より伊藤張二前委員長から専門部委員長を引き継ぎ、何もわからぬまま、がむしゃらに走ってきました。30代も前半であった私は、県専門部副委員長の先生方や常任委員の先生方に支えられて参りましたし、東北大会開催の折には、木戸（現全国専門部部長）先生や東北各県委員長の先生方にお力添えを頂きながら、何とか大会を開催して参りました。今後とも多くの皆様にお世話になりながらの県専門部の運営になると思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

さて、本県では平成28年に２巡目の国民体育大会開催が内定しております。岩手県バドミントン協会を中心に選手強化計画等の策定が進められておりますが、当専門部としても県協会とのパイプを密にしながら、国体に向けた選手強化と大会開催に向けた準備を進めていかなければなりません。この10年間、全国大会で上位入賞を果たすことができずにおりますが、本県の高校生が全国入賞することで後輩である小中学生にも夢を与えますので、競技力向上を重点課題として考えています。

また、北京五輪での日本選手の活躍は私たちバドミントン関係者のみならず多くのスポーツファンを魅了しました。それに続くような選手の育成を目指しながら、岩手県高体連バドミントン専門部を盛り上げていきたいと思います。

宮城県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　沼澤　　隆
（東北生活文化大学高校）

宮城県専門部は、専門部部長が松良千廣（常盤木学園高校校長）に代わり平成19年より光井　正（東北生活文化大学高校校長）が就任した。専門部委員長は木戸純一（常盤木学園高）から引き継ぎ平成14年より沼澤　隆（東北生活文化大学高）が就任した。

此処10年間の宮城県勢の活躍は目覚しいものがあり、特に女子については、常に全国上位に君臨している。なかでも平成20年には、聖ウルスラ学院英智高校が全国選抜・インターハイで団体優勝し、松友美佐紀が３冠を達成。また、佐藤冴香（常盤木学園）が世界ジュニアにおいてシングルスで日本人初の第２位となる快挙を成し遂げた。これらの輝かしい功績は次に続く選手・指導者を啓発し、さらなる技術及び意識向上の励みとなるものと言えよう。

年度	男子	女子
11	米谷工業	聖ウルスラ
12	宮城工業	聖ウルスラ
13	宮城工業	聖ウルスラ
14	仙台商業	聖ウルスラ
15	宮城工業	聖ウルスラ
16	宮城工業	聖ウルスラ
17	仙台商業	聖ウルスラ英智
18	仙台商業	聖ウルスラ英智
19	仙台商業	聖ウルスラ英智
20	宮城工業	聖ウルスラ英智

秋田県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　藤田　　理
（秋田県立秋田高校）

秋田県高体連バドミントン専門部の10年間のあゆみについて紹介いたします。

県内高校生のバドミントン人口は、この10年間で増加し、登録人数は平成13年には746人であったものが、平成19年には923名となりました。生徒数の減少が深刻な本県において、喜ばしいことであります。その主な理由として、地元国体の開催決定を契機に、中体連バドミントン部が復活するとともに、各地域にジュニアチームが成立したことによるジュニア層の拡大があります。また、高校からバドミントンを始めた選手らにも意欲を持たせるような取り組みも継続してきました。

平成19年秋田わか杉国体では、少年女子が５位入賞し、少年男子がベスト16にはいりました。これまでの本県高校生の競技レベルは全国に遠く及ばない状況が長く続いてきました。それを考えると、この成果は大きな前進でありました。今後、その競技レベルを維持・向上させるためには、ジュニア・高校・実業団の連携が一層必要になってくると思います。また、今年度から「国体記念　春季高等学校バドミントン選手権大会」が創設されました。この大会が高校生の競技力の向上と普及につながることに期待したいと思います。

また、新しい組織づくりとして「常任委員制度」を採用して来ました。委員長に集中していた業務を常任委員が分担し、各支部専門部の意見を幅広く取り入れながら部会の運営を行ってきました。この制度を発展させ、今後も開かれた部会運営を進めていきたいと思います。

山形県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 大山孝光
(山形市立商業高校)

この10年間の大会成績を振り返り、端的な言葉で表現するならば「主役交代、そして戦国時代へ」といった表現が適当であろうか。

本県で平成４年に開催された国体では関係各方面による強化策が実り、開催県に相応しい成績を残すことができた。しかしかつての「バドミントン王国・山形」復活を思わせる勢いは持続できず、残念ながら近年は低迷の一途を辿っている。復活が待たれるところである。

男子は、全国上位で活躍し県レベルで常勝を誇った日大山形にかわり、熱意ある地域一丸となった強化が実った鶴岡工業の台頭が目覚ましく、この間６回のインハイ団体出場を数えた。古豪復活の動きも見られ、山形市商（15年度）、山形南（20年度）はいずれも半世紀ぶりの全国出場を果たし、ＯＢ諸兄に大きな喜びを与えた。大学等で競技を続け、後進の範となる若い芽も確実に育っており、今後に期待したい。

女子は長きにわたって新庄南と城北女子が頂点を争ってきたが、これに山形市商が割って入った。14年度に城北女子の７連覇を阻み、その後山形市商が６年連続インハイ出場を果たした。20年度には共学なった山形城北が復活したが、今後も両校のライバル対決は続いていくであろう。もちろん伝統校新庄南も、堅実な成績を残し続けている。

専門部では遠藤淳一（日大山形）から現在の大山と委員長の交代があった。また、長きにわたって名門・新庄南を率いた高橋恵吾先生の若くしてのご逝去があった。県内高校生の強化にご尽力された先生に改めて哀悼の意を表するとともに、先生の遺志を引き継ぐべく若い指導者の今後益々の活躍を期待したい。

福島県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 鈴木孝幸
(福島県立平商業高校)

1. 専門部歴代役員一覧

年	県部会長	県委員長
11	永井祥一（浪江）	橋本遊二（帝京安積）
12	永井祥一（福島北）	橋本遊二（帝京安積）
13	永井祥一（福島北）	橋本遊二（帝京安積）
14	大森孝夫（長沼）	橋本遊二（帝京安積）
15	大森孝夫（平商業）	橋本遊二（帝京安積）
16	大森孝夫（平商業）	齊藤清人（小高工業）
17	大森孝夫（平商業）	鈴木孝幸（平商業）
18	大森孝夫（平商業）	鈴木孝幸（平商業）
19	筥崎勝信（桜が丘）	鈴木孝幸（平商業）
20	阿部　隆（清陵情報）	鈴木孝幸（平商業）

2. 高校体育大会優勝校一覧

年	男子学校対抗	女子学校対抗
11	帝京安積	郡山東
12	帝京安積	若松女子
13	帝京安積	清陵情報
14	帝京安積	清陵情報
15	帝京安積	帝京安積
16	帝京安積	帝京安積
17	帝京安積	尚志
18	帝京安積	尚志
19	富岡	尚志
20	富岡	富岡

3. 新人体育大会優勝校一覧

年	男子学校対抗	女子学校対抗
11	帝京安積	若松女子
12	帝京安積	清陵情報
13	帝京安積	清陵情報
14	帝京安積	清陵情報
15	帝京安積	帝京安積
16	帝京安積	安達
17	帝京安積	尚志
18	帝京安積	尚志
19	富岡	富岡
20	富岡	富岡

茨城県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　志子田 勝敏
（茨城県立石岡第一高校）

㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部が創立60周年を迎えられ、記念誌を発行されるにあたり、心よりお祝い申し上げます。

今年（2008年）は北京オリンピックが開催され、水泳の北島康介選手をはじめとする日本選手団の活躍が記憶に新しいところであります。バドミントン界においても、“オグシオ”（小椋久美子・潮田玲子）の美人ペアの出現で世間的にも脚光を浴びてきたところですが、“スエマエ”（末綱聡子・前田美順）ペアが世界ランク１位の中国ペアを倒し、ベスト４に入ったことは、日本人に勇気と感動を与えてくれました。男子でも“イケサカ”こと池田信太郎選手とペアを組んだ、本県出身の坂本修一選手（常総学院出・現日本ユニシス）が男子ダブルスに出場し活躍しております。出場枠の少ないバドミントン競技では、オリンピックに出場することは並大抵のことではありません。本県からは、シドニー・アテネ連続オリンピック出場の米倉加奈子選手（常総学院出・現ヨネックス）・アテネオリンピックの山本静香選手（常総学院出・現三菱電機コーチ）に次ぐ３人目の快挙であり本県バドミントン界の誇りでもあります。次期ロンドン大会にも、本県関係者が出場できることを願ってやみません。

では、この10年間のバドミントン専門部を振り返ってみたいと思います。

〈平成11年度〉

男子は木内広史先生が率いる常総学院が他校を圧倒し常勝チームを築いております。豊富な練習量が自信となり県内においては他の追随を許さぬ強さを誇っています。全国大会では優勝した関東一（東京）に関東大会同様ベスト８で当たってしまい、上位進出の夢は閉ざされてしまいましたが、立派な成績だと思います。個人戦でも、菊田・槙野組がベスト16に入賞しました。一方の女子は、磯部和弘先生の率いる常総と佐藤利昭先生が率いる土浦三との二強時代を迎えております。この両チームは交互に優勝を分け合っており、ライバル関係はずっと続きました。また今年度より、個人戦のシードを明確化するために、５～８位決定戦を導入いたしました。

〈平成12年度〉

今年度は、常総男子の菊田・槙野組が全国選抜で優勝するというううれしいニュースでスタートしました。本命の第１シードが海外遠征で棄権するというラッキーにも恵まれましたが、チャンスを確実に生かして頂点へと駆け上がりました。また団体でも３年ぶりに３位に入賞し、インターハイでもベスト８を堅持し、伝統の灯を守りました。女子ではインターハイ県予選で土浦三が常総を破り、本戦出場を果たしました。新チームになり、県内無敵を誇ってきた常総に陰りが見え始め、小野・青山を擁する藤代が団体で初優勝を飾り、台頭の兆しを感じさせました。また今年度より来るべき茨城インターハイに備え、強化事業も学校指定・個人指定とも始まり、県外の強豪校との交流試合も数回行いレベルアップを図りました。

〈平成13年度〉

翌年の茨城インターハイに備え、プレ大会として全日本ジュニア大会を誘致し、本番に備えました。なかなか会議の時間がとれず、ぶっつけ本番的要素も過分にありましたが、無事終了することが出来ました。その他の県予選においてもタイムテーブルを導入し、競技主任の先生方に運営の練習をしていただきました。その甲斐があって、翌年の本番では先生方が活き活きと活躍していた姿が思い出されます。競技の面でも着々と強化の成果が見られるようになり、特に常総女子が関東大会では準優勝、熊本インターハイでは、木村早紀がベスト８に入賞してくれました。新人戦では、翌年開催の長崎全国選抜大会が記念大会のため、優勝校がストレートで出場できることになりました。特に男子の予選では、個人戦終了時に茗渓・藤代・常総の

３校がポイントで並ぶという近年稀に見る接戦になりましたが、茗渓が激戦を制し初優勝を飾りました。小野満先生の歓喜に満ちた笑顔が今でも忘れられません。

〈平成14年度〉

この10年間の中で最も大きなイベントは地元で開催されたインターハイでしょう。私たちにとっても全国大会を主管する経験は初めてのことで不安でいっぱいでしたが、役員の先生方をはじめ、加盟校顧問の先生方、つくば市・牛久市の実行委員会の皆様、補助員として活躍してくれた各校部員の諸君、一人一役活動で手を貸してくださった協力校の皆様などのご協力の賜と心より感謝申し上げます。特に事務局として行政に出向して頂いた志子田勝敏先生（現石岡一）には、本当にお世話になりました。この紙面を借りて御礼申し上げたいと思います。さて、試合の方ですが、地元開催ということで出場枠が例年の倍となり、県予選では例年にない激戦となりました。特に男子は常総・藤代・茗渓の三つ巴の戦いになりましたが、常総・藤代が出場権を獲得しました。女子も常総と土浦三が出場権を獲得しました。茨城の役員・補助員の見守る中での本大会では、常総女子が見事ベスト８に入賞する検討を見せてくれました。更に個人戦では、女子ダブルスで清水・岡本（常総）ペアが全国準優勝という偉業を達成してくれました。地元の大声援に答えることができ、本当に良かったと思います。またこのペアは全日本ジュニアでも準優勝し、実力が本物であることを証明しました。また男子シングルスでも青山（藤代）がベスト８入賞を果たし、大会を盛り上げてくれました。今思い起こせば、様々なトラブルが発生しました。コートマットを何回もはり直したり、ムカデにさされるなどの事件もありましたが、関係者の素早い対応のお陰で解決することが出来ました。改めて人の力の偉大さを感じさせられました。

〈平成15年度〉

茨城インターハイという大きなイベントを成し終え、全体的に安堵感が漂う一年でした。そのような中、関東大会県予選で女子の常総が第１シードながら予選で姿を消すという大波乱がありました。その裏には、強豪校とはいえ部員不足からメンバーがそろわないということが、このような事態を引き起こしたものと思われます。代わって力をつけてきたのが国際千代田でした。顧問に元中央学院の鈴木良一先生と常総ＯＢの小島祐造先生を迎え入れ、強化につとめ関東大会にはこの年初出場を決めました。また有力中学生が県外に流出しているということを重く受け止め、この年から中学との合同強化練習会を開催しました。しかしお互いの思惑が合致せず、軌道に乗ることができず残念な結果に終わりました。

〈平成16年度〉

本年度は関東大会が開催されてから50 年目の節目の年になり、各県とも出場枠が拡大され盛大な大会になりました。県予選でも近年にない盛り上がりを見せ、男子は常総・藤代・霞ヶ浦・茗渓と例年の常連校の他に下妻一と古河一がうれしい初出場を決めました。女子でも常総・国際千代田・茗渓・土浦三・藤代と例年の顔ぶれに加え、18年ぶりに鉾田二高が出場を決めました。しかし関東大会予選の当日、かねてから病気療養中であった国際千代田の鈴木良一先生がお亡くなりになりました。本県バドミントン界に新風を吹き込み、なくてはならない存在だっただけに我々にとって大きな痛手になってしまいました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。さて試合結果ですが、再び男女とも常総の力が復活を見せてきた年でした。県内の大会ではほとんど常総が優勝を飾り、インターハイでも男子で糸井・木村のダブルスと須藤のシングルスがベスト16に入賞し、常総魂を全国に知らしめました。

〈平成17年度〉

本年度は、関東大会が茨城での開催となりました。インターハイを経験していたので、大きな混乱もなくスムーズに運営することが出来ました。地元枠で出場枠が６校に拡大し、厳しい予選会が繰り広げられました。伊奈の男子が初出場を決め、また女子でも出場権を獲得し、男女アベックでの出場となりました。ひたちなか

市民体育館で行われた関東大会では、男女の常総と女子の国際千代田がベスト８に入る健闘を見せてくれたことは、我々にとっても励みとなりました。インターハイ予選では常総男子が見事20年連続で出場を達成し表彰されました（この記録は現在も継続中)。勝ち続けるというのは本当に難しいことです。前任の小島一夫先生からバトンを引き継いだ木内先生でしたが、正直連続出場が危ない年もありました。しかし持ち前のバイタリティでその危機を乗り切り、記録を達成したことは本当に頭の下がる思いです。千葉県野田市で開催された本戦でも、個人戦で羽石・小松崎のダブルスと小松崎のシングルスがベスト16に入り、健闘を見せてくれました。

〈平成18年度〉

毎年のように関東大会出場を目指す県予選会は厳しい大会となりますが、特に本年度はレベルが高く激しい大会になりました。男子では藤代・茗渓・常総の常連校に石岡一が16 年ぶりの出場をきめ、古豪復活をアピールすることができました。一方の女子は、常総・茗渓・伊奈・藤代と例年の顔ぶれがそろいました。さて宇都宮市で開催された本大会では、男子の県勢が大変頑張ってくれました。常総が第３位に入賞し、藤代がベスト８に入りました。また女子でも、常総と茗渓が３回戦に進出し健闘を見せてくれたことは、我々にとっても励みとなりました。インターハイ予選では、稀に見る激戦となりました。男子では常総と藤代がつばぜり合いを展開し、ダブルスでは福岡・高野の藤代ペアが制し、シングルスでは常総の篠崎が優勝しました。団体でも第３シードから常総が意地の優勝を勝ち取り、伝統の力を感じざるを得ませんでした。女子でも常総と新興勢力の伊奈の争いになりましたが、常総の牙城は崩せませんでした。奈良インターハイではシングルスの篠崎がベスト16 に入る頑張りを見せてくれました。彼は地元中学から一度は他県の高校に進学しましたが、戻ってきてくれた転校生でした。半年は出場できないという不利な条件ながら、ラストチャンスを確実にものにし頑張りました。また今年度は久しぶりの事業として、指導者講習会を実施しました。つくば国際大の小島一夫先生と比叡山高校（滋賀）の藤上先生を講師に迎え、選手の指導法などをご教授いただきました。大勢の先生方にご参加いただき、また熱心に指導を受ける姿には敬服いたしました。

〈平成19 年度〉

毎年関東大会予選から専門部の一年がスタートしますが、例年厳しい大会が続いております。インターハイは優勝チームしか出られませんが、関東大会には４チーム出場できるので、チャンスが数段拡大するからです。男子は常総・藤代・茗渓・石岡一が勝ち残り、女子は伊奈が初優勝を飾り、茗渓が２位に、３位には石岡一が入りました。残る４位には強豪校常総を激戦の末に破った鉾田二が滑り込みました。さて甲府市で開催された本大会では、男子の常総が２年連続で第３位に入賞してくれました。レベルダウンが叫ばれていた本県勢にとっては、大変うれしい結果であったと思います。一方女子もなかなか県外で実績を上げるのが難しい中、伊奈が３回戦に進出しました。インターハイ予選では男子で、福岡・星野の藤代ペアが２年連続で県を制しました。女子では、常総・伊奈・茗渓が熾烈な争いを展開しダブルスで上林・黒澤（茗渓）が優勝し、２位には上野・大河内（伊奈）が入りました。シングルスで佐藤（常総）が意地を見せ、優勝を飾りました。

〈平成20年度〉

本年度の関東大会には、男子が常総・茗渓・石岡一・霞ヶ浦が女子では常総・石岡一・茗渓・藤代が勝ち上がり本戦に駒を進めました。常総の男子が粘ってベスト８に勝ち残りましたが、他のチームは関東の壁を破ることは出来ませんでした。インターハイでも男女とも常総を中心に出場しましまが、勝ち上がることは出来ませんでした。今後の活躍に期待したいと思います。また今年度は、全国教職員大会を牛久市・土浦市で開催し、インターハイ以来の全国大会を運営いたしました。全国から腕に自信のある先生方を招いての大会には、県内の先生方及び補助員の生徒諸君のご協力を頂戴し、厳しい中にもほのぼのとした雰囲気で大会を無事終

えることができて安堵しております。ご協力本当にありがとうございました。

〈結びに〉

50周年記念誌の時には、書ききれないほど県外大会の記録がありましたが、茨城インターハイ以降その数は激減し寂しい感があります。今一度「バドミントン王国茨城」の看板を掲げて頂きたいと思っておりますが、現実は容易ではありません。文頭にも書きましたが、本県からは３大会連続してオリンピック選手を輩出しております。この伝統は是非受け継がれていってもらいたいと思っております。最後に今後も益々茨城県高等学校体育連盟が発展いたしますことを切にお祈り申し上げ、筆を置きたいと思います。

【県外大会での主な結果】

団体ベスト８以上

個人ベスト16以上を記載

【インターハイ】

Ｄ＝ダブルス　Ｓ＝シングルス

平成11年度

団体ベスト８　　常総男子

男子Ｄベスト16　菊田・槙野（常総）

平成12年度

団体ベスト８　　常総男子

男子Ｄベスト８　菊田・槙野（常総）

男子Ｓベスト16　菊田　　学（常総）

女子Ｓベスト16　木村　早紀（常総）

平成13年度

女子Ｓベスト８　木村　早紀（常総）

平成14年度

団体ベスト８　　常総女子

女子Ｄ準優勝　　清水・岡本（常総）

男子Ｓベスト８　青山　　真（藤代）

男子Ｓベスト16　進藤　陽介（常総）

女子Ｓベスト16　綿引　悠貴（常総）

女子Ｓベスト16　原田　香里（常総）

平成16年度

男子Ｄベスト16　糸井・木村（常総）

男子Ｓベスト16　須藤　郷史（常総）

平成17年度

男子Ｄベスト16　羽石・小松崎（常総）

男子Ｓベスト16　小松崎佑也（常総）

平成18年度

男子Ｓベスト16　篠崎　晃彦（常総）

平成19年度

男子Ｄベスト16　福岡・星野（藤代）

【全国選抜】

平成11年度

団体ベスト８　常総男子

平成12年度

団体第３位　　常総男子

男子Ｄ優勝

菊田・槙野（常総）

【関東大会】

～団体戦のみの実施～

平成11年度　準優勝　　常総女子

　　ベスト８　常総男子･土浦三女子

平成12年度　ベスト８　常総男子

平成13年度　準優勝　　常総女子

　　ベスト８　常総男子

平成14年度　第３位　　藤代男子・常総女子

　　ベスト８　常総男子

平成15年度　ベスト８　藤代男子

平成16年度　ベスト８　常総男子

平成17年度　ベスト８　常総男子・常総女子

　　国際千代田女子

平成18年度　第３位　　常総男子

　　ベスト８　藤代男子

平成19年度　第３位　　常総男子

平成20年度　ベスト８　常総男子・常総女子

（文責副委員長　海老澤浩一）

栃木県高等学校体育連盟
バドミントン専門部

委員長　遠井　努
（栃木県立宇都宮南高校）

全国高体連バドミントン専門部創立60周年おめでとうございます。本県専門部は、平成11年度より、部長を吉田幸雄氏から、森田忠夫氏、水沼英雄氏、上野淑子氏と引き継がれ、本年度は、新部長に植田俊夫宇都宮南高等学校長をお迎えしました。私も舘野政男先生より引き継ぎ、新たな気持ちでスタートを切りました。新委員長として、植田俊夫専門部長のご助言・ご教示をいただき、前委員長館野政男先生をはじめ、専門部役員の先生方とともに、この任を精一杯努めさせていただきたいと思います。

各校顧問の先生方には競技人口の一層の拡大とさらなる技術向上・精神面の強化に努めていただいております。また、登録選手全員の公認審判員資格準３級取得を実施しており、加盟校の顧問の先生方のご協力に感謝とお礼を申し上げます。

登録選手が1600名を超え、各学校の生徒がますます意欲的に活動していることは、専門部一同、大変うれしく思っています。今後、本県選手が、全国で活躍し、オリンピックや世界選手権等の国際大会で戦い、活躍の場を広げることを夢みております。そのために、更なる普及・強化を念頭におき、県大会や講習会、強化練習会等、工夫と改善を心がけていきたいと思います。「栃木県高体連ホームページ」が19年度より立ち上がり、自身のホームページを未だ持たない本専門部としましては、本年度より要項や組み合わせ、大会結果など大いに利用させて頂いております。さらなる情報発信源として充実させていきたいと思います。

最後になりましたが、高体連事務局や関係団体各位には、日頃よりご指導とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

群馬県高等学校体育連盟
バドミントン専門部

委員長　栗原恒夫
（太田女子高校）

【平成11年度】

学校対抗戦では男女とも前東が出場した。男子は鶴岡工業（山形）と女子は一条（奈良）と対戦したが初戦を突破できなかった。

個人戦では男子複の津久井・津久井（桐商）が２回戦に進出が最高で、女子では単の南指原（前東）が３回戦進出が最高であった。

【平成12年度】

学校対抗戦では男子の桐商が強豪比叡山（滋賀）と対戦した。善戦したが２回戦で敗退した。女子の前東は鹿児島（鹿児島）と１回戦で対戦、２－３の惜敗であった。

個人戦は、男女単複とも３回戦進出が最高であったが、それぞれ善戦が目立った。

【平成13年度】

学校対抗戦では、男子の前東が２回戦で強豪水島工業（広島）と対戦し、善戦したが敗退した。女子の前東は前沢（岩手）と１回戦で対戦、２－３の惜敗であった。

個人戦は、男子複での３回戦進出が最高であったが、その他はすべて２回戦までで敗退してしまった。

【平成14年度】

学校対抗戦では男女とも前東が出場したが１回戦で敗退した。

個人戦は、男子単でベスト16進出が最高であったが、その他はすべて２回戦までで敗退してしまった。

【平成15年度】

学校対抗戦では桐生が県岐阜商（岐阜）と対戦し、敗退した。女子は２回戦で前東が長崎東（長崎）に敗退した。

個人戦は、女子単でベスト32進出が最高であったが、その他はすべて２回戦までで敗退した。

群馬県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 岩崎盛和
(群馬県太田市立商業高校)

【平成16年度】

学校対抗戦では男子の前東が柏原（大阪）に２回戦で、女子の樹徳が佐賀女子（佐賀）に初戦で敗退した。個人戦では男子の福田（前東）が単ベスト32、女子の下山・小川組（樹徳）が複ベスト32進出を果たした。

【平成17年度】

学校対抗戦では、男子の前東が柏原（大阪）に２回戦で、女子の清明が全国高校総体を制した青森山田（青森）に３回戦で敗れた。

個人戦は男子複の吉田・福田組（前東）がベスト16に進出。女子単では石川（清明）、中原（清明）がともにベスト32に、複でも石川・中原組（清明）がベスト16に進出を果たした。

【平成18年度】

学校対抗戦では、男女とも２回戦で敗退した。対戦校は男子の桐商が青森山田（青森）、女子の清明が樟蔭東（大阪）であった。

個人戦の男子は単複とも１・２回戦で敗退。女子は、石川・中原組（清明）が全国の強豪を次々と打ち破り、決勝戦へと駒を進めた。

結果は準優勝で輝かしい足跡を残した。

【平成19年度】

学校対抗戦では、男子の太商が３回戦で名経大市邨（愛知）に敗れた。女子の清明は２回戦で城東（徳島）に惜敗した。

個人戦では男女とも２回戦までで姿を消してしまった。

【平成20年度】

学校対抗戦では、男子の清明が２回戦で柏原（大阪）に敗れ、女子の清明は順調に勝ち進みベスト８に進出した。

個人戦では、男子単の丸尾（清明）が善戦し、ベスト８に進出。女子複では宮・内藤組（清明）が４回戦まで駒を進めた。

埼玉県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　上田敏之
（埼玉県立所沢西高校）

埼玉県高等学校バドミントン専門部
歴代部長・委員長

平成11年～平成13年（1999年～2001年）
吉野謙一郎　部長（越谷北　校長）
平成14年～平成15年（2002年～2003年）
中野　伸　部長（鷲宮　校長）
平成16年～平成18年（2004年～2007年）
國分　昌彦　部長（所沢西　校長）
平成19年～現在　（2007年～）
岩﨑　文雄　部長（所沢西　校長）
平成８年～平成16年（1996年～2004年）
帰山好和　委員長（小松原）
平成16年～現在　（2004年～）
上田敏之　委員長（所沢西）

あゆみ

平成17年　埼玉県高等学校体育連盟加盟50周年
（昭和30年加盟）

戦　績

（平成11年～平成20年）

全国高等学校総合体育大会
≪男子学校対抗≫
埼玉栄　優勝　５回（４連覇中）
準優勝２回　３位　２回
≪女子学校対抗≫
埼玉栄　準優勝１回　３位　３回
ベスト８　１回
越谷南　３位　１回　ベスト８　１回
≪男子シングルス≫
優勝　３名　準優勝　３名　ベスト８　１名
≪女子シングルス≫
３位　２名　ベスト８　２名
≪男子ダブルス≫
優勝　６組（６連覇中）
準優勝　３組　３位　３組
≪女子ダブルス≫
準優勝　１組　３位　１組　ベスト８　１組
全国高等学校選抜大会
≪男子学校対抗≫
埼玉栄　優勝　５回（４連覇中）
準優勝３回　ベスト８　１回
≪女子学校対抗≫
埼玉栄　優勝　１回
準優勝１回　３位　３回
越谷南　準優勝１回
≪男子シングルス≫
優勝　３名　準優勝　１名　３位　１名
≪女子シングルス≫
準優勝　１名　３位　１名　ベスト８　１名
≪男子ダブルス≫
優勝　１組
準優勝　３組　ベスト８　２組
≪女子ダブルス≫
ベスト８　３組

新王国といわれてから20年以上が経過。その勢いは現在も留まることはない。

【男子】

平成になってから上尾の活躍に始まり、ここ10年は埼玉栄がそれを上回る勢いで活躍している。この両校をずっと追っているのが古豪小松原である。全国総体のダブルスでは埼玉栄に小松原を挟み６年連続で優勝している。埼玉栄は団体、総体・選抜ともに４連覇中。総体のシングルス、ダブルス１・２位が３年連続。そして圧巻は今年のダブルス、ベスト４独占。この10年は快進撃であり、埼玉栄の勢いはしばらく続きそうである。

【女子】

男子の活躍が目覚ましいため目立たないが、コンスタントに入賞している。筆頭は埼玉栄であるが、越谷南、上尾、本庄第一が続いている。最近の５年は埼玉栄と越谷南がしのぎを削っている。平成20年度の全国総体ではこの両校がベスト４に入賞し地元開催を盛り上げた。

千葉県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 中村新一
（千葉県立木更津東高校）

歴代委員長

平成９年～14年　丸山　秀之（千葉商業）
平成15年～現在　中村　新一（木更津東）

このたび、全国高体連バドミントン専門部が創立60周年の記念すべき年を迎えられ、心よりお喜び申し上げます。

この10年で大きな出来事として、平成17年度、本県野田市を主会場とし全国高等学校総合体育大会を開催、成功裡に終了したことが挙げられます。この大会に向け本県では、平成15年度、関東選抜大会を総体と主会場を同じく開催、平成16年度、関東50周年記念大会を参加校数男女各53校という大きな規模で開催し、総体の運営を円滑に進めるよう準備、無事大役を務めたものと考えております。この総体では本県選手も地の利を得て、西武台千葉女子がベスト８、石川・平戸組（西武台千葉　男子）松本・皆川組（西武台千葉　女子）がともに３位という好成績を残し、大会に華を添えました。

また、平成14年度本格実施された千葉県の「県立高校再編計画」により県立高校の統廃合が進み、学校数が減少、県全体の運動部部活動の部員減少の傾向もあって、県高体連全体が15ブロック制から12地区制に平成19年度移行したことも大きな出来事でありました。これに伴い、組織改編や各規約・規定の改定等、基盤の再整備を行うとともに、県予選への参加枠拡大を図り、今まで以上に多くの選手が地区代表として活躍する場を設け、普及振興の一助としました。また、平成22年度千葉国体に向けて、高校生の強化事業を種々実施しています。

千葉県専門部は未熟な面がまだまだあり、様々な課題を抱えているのが現状です。今後とも諸先生方のご指導を仰ぎたいと存じます。

東京都高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 関根　忠
（淑徳巣鴨高校）

『夢が輝く時』をもとめて・60年

全国高体連バドミントン専門部創立60周年おめでとうございます。平成11年より部長を武田昭二先生が、専門委員長は高橋英夫先生が、そして副委員長は稲石一雄先生が務めている。この年、春の全国選抜に続き関東第一高校が全国高校総体を完全優勝する。その後高校総体、全国選抜、国民体育大会の三大大会に四年連続して完全制覇を成し遂げ、バドミントン界の歴史にその名を刻んだ。監督の渋谷実先生と選手陣に、心から敬意を表したい。

平成13年からは中川武夫先生を部長とする新体制の下、東京都での関東選抜大会が、翌年には関東大会が開催された。この間の『よさこい国体』では、27年ぶりに東京都が総合優勝を飾った。また平成16年には『トーマス杯・ユーバ杯』出場選手が淑徳巣鴨に一堂に会した。世界チャンピオンと日本選手との模範試合が実現し、東京の選手諸君の貴重な財産となった。

平成18年にはオリンピックを見据え、より理解しやすいラリーポイント制にルールが改正された。そして平成20年の北京オリンピックでは、小椋・潮田組の健闘は勿論、末綱・前田組においては世界チャンピオンを破り、日本人初のベスト４入りを果たした。彼女らに続けと平成25年の東京国体に向けて、ジュニア強化が進められている。さらに平成21年には関東選抜大会が、翌年には関東大会が東京開催となる。選手の今後に期待するとともに、ジュニア、中体連、高体連の密な連携を希求する。

最後に、諸先生方に支えられ、高体連が、そして我がバドミントン専門部が発展してゆくことを願って止まない。かけがえのない青春時代を生きる生徒一人一人の夢が叶うよう、今後も情熱を注いでゆく所存だ。夢が輝く時を祈る。

神奈川県高等学校体育連盟
バドミントン専門部

委員長　若狭孝三

（神奈川県立多摩高校）

神奈川県の10年間を振り返りますと、組織や役員の大幅な変更はありませんでしたが、専門部長につきましては、平成12年度まで加藤紀一（鵠沼）、平成13年度は国吉卓（市高津）、平成14年度よりは浅見洋一（藤沢翔陵）の校長先生にお願いをして現在に至っております。本県の他専門部でも同様でしょうが、若手教員の採用が少ないことから、役員の新陳代謝が活発ではありません。専門部運営は、大会等を含めて、スムーズには実施されているのですが、少しでも多くの若手役員の確保を待ちのぞんでいる現場の声をかなえる努力をしていくことが、今後の大きな課題となっています。

大きなイベントとしては、平成11年度の冬に関東選抜大会、平成12年度の春に関東大会を川崎市の「とどろきアリーナ」で、関東大会で初となるコートマットを設営し、他都県の参加者に大変喜ばれたと思われます。そして、平成19年度の冬と平成20年度の春に小田原市の「小田原アリーナ」で関東大会を開催し、本県専門部の役員の尽力により、大きなトラブルもなく終了することができました。

本県内でのバドミントン専門部の登録数は、少子化傾向にある中で、若干の減少はみるものの、女子に関しては１、２位を常に維持しているので、今後も現状を悪化させないようにしていきたいものです。

山梨県高等学校体育連盟
バドミントン専門部

委員長　岩佐宣寿

（山梨県立都留高校）

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部創立60周年おめでとうございます。多くの諸先輩方、関係各位のご努力、ご功績に深く敬意を表します。

さて、この10年を振り返ってみますと、競技レベルにおいて他県に大きく水を開けられています。過去におきましては、第１回大会からの甲府工業、続いて甲府商業の活躍。昭和31年の秋山真男シングルス優勝や昭和55年からは、日川高校の躍進があり、62年までに56年学校対抗戦の優勝や３位２回。シングルス準優勝１回、３位２回。ダブルス優勝１回、３位４回と輝かしい一時代を築きました。

しかしながら、平成８年地元甲府開催の際、甲府商の学校対抗戦での準々決勝に進出したのを最後に全国大会での入賞はなく、平成11年以降は、平成15年の三森（甲府商）の４回戦進出が最高であります。

本県の競技力低迷の要因には指導者の不足と高齢化、人材の発掘確保やジュニア育成強化の遅れ、貧弱な施設環境等、様々なものがあります。特にジュニア育成強化が常識となっている昨今、育成が進まない状況や中学校との連携不足があり、現在でも８割以上は高校から競技に入るという厳しい現状です。

しかし、この様な厳しい状況や山積する課題の中にあるものの、近年では若手顧問が定着し、スムーズな大会運営や学校間での交流が積極的に行われています。他競技では加盟校が減少の中、逆に加盟校及び登録数は増加傾向にあることがそれを証明しています。また各校のＯＢが他校のコーチに赴く等、相互理解や指導者の育成に繋がる明るい動きも出て参りました。

県関係者の努力により甲府、甲州、山梨、鰍沢、増穂など県下各地にジュニアクラブが発足。活動交流も定着活発化しつつあり、登録人数も10年前の３倍を数え、復活につながる兆しも窺え、再び山梨県チームの活躍を見る日が来ることを期待しています。我々専門部も一層の充実を図り、日々先進していきたいと思います。

新潟県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 山懸泰弘
(北越高校)

全国高体連バドミントン専門部が創立60周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。本県バドミントン専門部は上・中・下越・佐渡・新潟の５地区に分かれそれぞれ地区代表を中心として活発に活動が行われている。地区予選・県総体、県選抜大会は勿論のこと、県高体連主催の専門部技術講習会・県協会主催、県高体連後援の県１・２年生大会等を運営、また強豪揃いの北信越ブロックにおいて、互角、またそれ以上の実力を付けるために専門部独自の強化練習会を年２回ではあるが行い、熱心に強化に取り組んでおります。専門部の委員も年々若返りが行われ、指導力、実務においても優れた人材が出てきていることはうれしいことです。大会結果に目を向けてみると、学校対抗戦の女子では34年連続46回優勝の県内敵なしの新潟青陵高校が平成17年度の県総体で、北越高校に敗退し連覇が途切れた。また男子では17年連続23回の優勝を誇る北越高校が平成18年度の大会で長岡工業高校にまさかの敗退をする。個人戦では平成13年度のインターハイで竹村・堂下組(北越）が第３位に入り、本県男子において久々の入賞であった。新潟県バドミントン協会は県下全域を網羅した拠点地域型のスポーツクラブの設立、小学生から一般までの「一貫指導体制」の確率、昭和30年代から40年代のような全国を凌駕するような競技力を発揮するとともにバドミントン王国の復活を目指し、NPO法人新潟バドミントン・プロモーションを設立し平成16年４月より７地区２指導本部での活動を開始しました。その活動には高体連の先生方も指導に加わり目標達成に向けて頑張っているところです。平成21年３月末に新潟市東総合体育館を会場に第37回全国選抜バドミントン大会が開催されます。平成４年の第21回大会以来２度目の選抜大会であるが、宮沢稔（新潟青陵高校校長）専門部部長を中心に専門部員23人が総務・競技・審判・式典等で大会の成功を願い現在奮闘中であります。平成21年には二巡目の国体が新潟県五泉市で開催されます。選手強化は勿論ではあるが運営面で高体連の先生方が、また補助役員で生徒がその準備に当たっている。

この２大会を成功に導き、競技力、指導力の向上とともに本県バドミントン専門部の組織体制が充実し、これからの新たなるスタートになれればと考えている。

富山県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　麦谷正二
（富山県立高岡西高校）

全国高体連バドミントン専門部60周年おめでとうございます。

さて、過去10年を振り返りますと、最も記憶に残るのは平成12年の地元国体です。結果は少年男女ともに準優勝でしたが、成年男子が優勝、成年女子が３位となり総合優勝を成し遂げました。バドミントン王国とやまの力を証明した大会でした。また、全国高校総体、全国選抜大会、全日本ジュニア大会においては各種別あわせて優勝８回、準優勝５回、３位９回と毎年のように上位入賞を果たしてきました。

平成11年度の全国選抜大会では男子団体で高岡工芸が２位となり、男子としては初の上位入賞を果たしました。平成12年度は地元国体の年でもあり、富山県勢が大活躍しました。 高校総体では男子複で劉・川口（高岡工芸）が２位、米・平田（高岡工芸）が３位、女子団体で高岡西が２位、女子単で刘晶（高岡龍谷）が優勝を果たしました。選抜大会では男子複で劉・平田（高岡工芸）が優勝、男子単で劉（高岡工芸）が優勝し単複２冠、女子単で刘晶（高岡龍谷）が夏春連覇を成し遂げました。

平成13年度は前年度の勢いが衰えず、高校総体において男子複で劉・平田（高岡工芸）が優勝し春夏連覇、男子単で劉（高岡工芸）が３位、女子単で刘晶（高岡龍谷）が２位となりました。平成14年度の選抜大会では、男子単で黒瀬（高岡工芸）が３位、平成15年度の高校総体では男子複で黒瀬・玉澤（高岡工芸）が３位となりました。米、劉、平田、黒瀬の各選手は、現在トナミ運輸に所属し活躍しています。この頃まで男子の健闘が光りました。

その後平成16年度から今日までは、女子の活躍が目立つようになりました。平成16年度の高校総体では、女子団体で高岡西が３位となり、平成７年度の全国制覇以来久し振りに上位入賞を果たしました。その立て役者となったのは江淵選手と金山選手でした。二人は平成16年度の選抜大会で女子複３位、女子単では江淵が２位となりました。その勢いを持ち越し、平成17年度の高校総体女子複で優勝し、県勢女子複としては45年振りの快挙を成し遂げました。その年の全日本ジュニア大会でも女子複で優勝を果たしました。

平成19年度の高校総体では、女子団体で高岡西が３年振りに３位に入賞しました。今年度の高校総体では女子複で１年生の高橋・古西（高岡西）が３位に入賞し、その後の全日本ジュニア大会では女子複で優勝、女子単で高橋が３位となりました。二人は現在ジュニアナショナルチームU17のメンバーでもあり、今後の活躍が期待されます。

このような実績をあげることができたのも県協会や各市協会、ジュニア指導者の皆様方のご支援・ご協力の賜であり、県高体連専門部の各先生方のおかげである。今後とも皆様方に心から感謝の意を表すとともに、更なる発展を目指し努力する次第であります。

最後になりましたが、全国高体連バドミントン専門部の今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

石川県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 水内 浩
（金沢市立工業高校）

石川県バドミントン専門部は、平成20年の北京オリンピック３回目で、みごとダブルス５位入賞を果たした舛田圭太選手を輩出している。ここ10年では、金沢向陽高校が平成18年全国選抜団体優勝、全国総体では10、11、18、19年に４回の準優勝と全国に金沢向陽高校ここにありと輝いた10年であった。

平成11年は全国選抜男子ダブルスで金沢市立工業の山下・廣瀬組と同じくシングルスで山下淳が３位に入賞した。全国総体でも山下・廣瀬組が春の選抜に引き続き３位に入賞した。

平成12年は、全国選抜女子ダブルスで梅津・田井組が３位、全国総体でも加賀・西村組が３位に入賞した。

平成15年は、全国総体女子シングルスで金沢向陽の伊東可奈が３位、ダブルスでも木村咲・木村綾組、伊東・今井組が３位に入賞した。

平成16年は、全国総体女子シングルスで金沢向陽の樽野恵が決勝戦まで進出し、決勝も一歩届かず準優勝を勝ち取った。

平成17年は、全国総体で男子の金沢市立工業高校が３年連続のベスト８に進出した。女子シングルス２年生、樽野恵が３位に入賞した。

平成18年は、金沢向陽が全国選抜で全国優勝、全国高校総体で団体２位、国民体育大会で全国優勝と全国に輝いた一年であった。シングルスで金沢向陽の樽野恵が３年連続出場し２位、ダブルスでも樽野・木村組が３位に入賞した。

平成19年高校総体では、女子ダブルス金沢向陽の村上・桜井組が力を発揮し、優勝日本一の栄冠に輝いた。

平成20年全国選抜男子ダブルスで金沢市立工業の辻・新組が３位に入賞した。女子シングルスで金沢向陽の三谷美菜津が優勝日本一、高校総体でも３位に輝いた。

福井県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 坂井茂則
（福井県立金津高校）

本県には、県立学校29校、私立学校６校、計35校の高校があり、大会に出場してくる学校が29校ある。このように少ない高校数であるが、この10年、本県は県外大会においてすばらしい成績を残してきた。

平成11年度全国高校総体で男子ダブルスでは勝山高校の多田・田中組が地元の千田・川村組を熱戦の末下しベスト８に入賞。

平成12年度の全国高校選抜北信越予選会では、男子学校対抗戦において勝山高校が優勝。この後の全国高校選抜大会で高岡工芸高校の選手が個人戦ダブルス、シングルスで優勝したことを考慮すると快挙である。

平成15年度は北信越大会で足羽高校が21年ぶりに優勝。インターハイでは団体ベスト４、個人戦シングルスで梅林がベスト８入賞。国民体育大会５位、全国高校選抜大会３位入賞など輝かしい成績を収め、再び福井県が全国と肩を並べて戦える自信を取り戻してくれた。このことは平成11年度全国中学校大会福井開催でのジュニア強化がここへ来て大きく実を結んだものと確信している。

平成17年度北信越大会の男子決勝は、勝山と足羽が勝ち進み、本県同士での壮絶な試合が繰り広げられ、勝山が16年ぶり２回目の優勝。インターハイは個人戦ダブルスで斉藤・斉藤組（足羽高）が準優勝、松川・笹木組（勝山高）がベスト８、シングルスでは松川直弘（勝山高）が３位に入賞。国民体育大会では少年男子が３位に入賞。そして翌年３月24～27日に地元敦賀市で開催された全国高校選抜大会は、男子学校対抗戦で勝山が３位、足羽がベスト８、個人戦ダブルスで松川・笹木組（勝山高）が３位、シングルスで松川直弘（勝山高）がベスト８に入賞。女子もシングルスは三田村（勝山高）がベスト

８に入賞。地元勢の大活躍で大いに盛り上がった大会となった。

平成18年度に入っても勢いは続き、インターハイで男子学校対抗戦で勝山が３位、シングルスで松川直弘（勝山高）が３位、笹木里司（勝山高）がベスト８に入賞した。国民体育大会では少年男子が準優勝、全国高校選抜大会でも勝山がベスト８に入賞した。

平成19年度はインターハイで男子シングルスで千京尚将（勝山）がベスト８に入賞。国民体育大会では少年男子が３位に入賞し、全国高校選抜大会では男子個人戦シングルスで千京尚将（勝山）が３位、男子ダブルスで千京・川西（勝山高）が準優勝を果たした。

長野県高等学校体育連
バドミントン専門部
委員長　新井研二
（長野県田川高校）

①長野県の10年間は、生徒減ではあったが安定した登録数を確保し県内ほとんどの学校にバドミントン部を有して活動できている（平成17年度男子80校、女子89校）。平成19年度では登録数3010名で、県下で２番目の規模の専門部である。専門委員長は平成12年までの荒井和人氏（９年間）から新井研二氏（平成13年～）に引き継ぎ現在に至る。この間、全国に先駆けて平成12年度より専門部HPの運用を開始した。大きな改革点としては、海抜に応じたシャトルの番手について専門部が主体となって情報を共有したことである。気圧の低い県内特有の環境に合わせたシャトルの使用と供給が浸透してきており、平地に近い飛びで練習ができるようになっている（海抜200～300mにつきマイナス１番手が供給の面からも妥当）。

②全国大会で県内選手としては、大町北高校藤巻嵩寛選手が平成19年度全国選抜単ベスト16、平成20年度全国高校総体単ベスト16という成績を収めた。今後の活躍に期待がかかる。女子の競技力は依然として低迷している。

③県下でも登録数が非常に多い専門部ではあるが、そのほとんどが高校に入学してからバドミントンを始めている。普及の面では申し分ないが、競技力の面では全国にとても太刀打ちできない。県下にわずかに存在するジュニアクラブからの有力選手の県外流出が続いている。全県の課題としては、ジュニアの育成に力を入れ、有力な選手が１人でも多く県内の高校に進学できるような体制作りが必要である。また、大所帯の専門部に見合うような顧問の計画的な配置や、体育科教諭の採用が望まれる。

岐阜県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 武藤芳紀
(岐阜県立大垣東高校)

平成11年は、翌年の岐阜選抜・総体を控え、岩手県滝沢村で開催された全国選抜・全国総体を視察させていただいた。大会運営や審判業務等について多くのことを学ばせていただき、深く感謝している。翌12年３月各務原市において全国選抜大会を開催した。岐阜県にとっては初の高校生の全国大会であり、運営面では至らぬ点が多々あったと思うが、女子団体で県岐阜商が初の３位入賞を果たした。この結果には長年指導された大橋浩監督の功績が大きいが、その背後に県協会強化本部はじめ多くの方々の協力があったことも記しておきたい。

８月には全国総体を開催した。「岐阜の夏は暑い」の評判通り、否それ以上の猛暑に見舞われ、参加選手にとっては酷な大会になった。当時は空調装置を入れることが前提ではなかったが、申し訳なかったと思っている。この大会でも女子団体で県岐阜商が３位に入賞した。

その後、団体戦においては、県岐阜商・女子が翌13年の全国選抜で初優勝を果たしたのをはじめ、13年総体３位、14年選抜３位、14年総体準優勝と全国大会で安定して好成績を残すようになった。また、個人戦においても、14年総体で林裕佳・脇田侑組が複優勝、15年選抜で三輪紗弥香・臼井裕子組が複３位。谷斉監督に替わった後も奥幸那が16年総体・17年選抜・18年総体で単３位、17年総体では単２位入賞を果たしている。

このように、女子は他校を含め全国大会や東海大会で上位を争うことが多いが、男子についてはなかなか好成績を上げられなくなってきている。そこで岐阜県としては、平成24年の「ぎふ清流国体」に向け、男女そろって成果の上がるような強化対策を進めていくことを今後の課題としていきたいと考えている。

静岡県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 高嶋政和
(静岡県立沼津商業高校)

静岡のバドミントンの歴史は、昭和22年静岡県教育委員会の学校体育モデル校に指定された富士中学校に於いて、その時の体育主任塩川甫先生が教材としてバドミントンを取り入れたことに端を発する。

その後のあゆみについては「創立50周年記念誌」に掲載されている通りであるが、昭和30年代から40年代初頭にかけては静岡県バドミントン専門部にとってもインターハイで活躍する選手を多数輩出し黄金期であったといえる。

昭和42年度の全国高校総体での男子複準優勝を最後に低迷を続けていた静岡県であったが、平成14年度に入ると、翌年度に開催される静岡国体に向けての選手強化の取り組みの成果が結果として現れはじめた。この年の全国高校総体、女子複において星陵高校の村松・金森組がベスト８に進出、さらに地元静岡で開催された全国選抜大会では、女子学校対抗に於いて星陵高校が先の総体２回戦で敗れている熊本中央女子高校に競り勝ち見事に優勝、女子複でも村松・金森組が総体に続いてベスト８、女子単でも村松がベスト８、金森が第３位となる。さらに、平成15年度の全国高校総体でも村松、金森、米山の各選手の活躍で学校対抗で第３位、村松・金森組が複で優勝、村松、金森選手が単でベスト８となり静岡県高体連バドミントン専門部始まって以来の成績を収めた。

また、平成20年度には県内の高等学校で活動している部員数も二千人を超え、県内バドミントンの活性化も順調に進んでおり、今後更に飛躍できることと期待している。

愛知県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　鈴木敏夫
（愛知県立時習館高校）

平成11年度から平成20年度の10年間を振り返って見たとき、愛知県の高校バドミントンが大きく変わった10年間であったといえる。県内大会においては、男子は岡崎城西高校、女子は愛知淑徳高校、名経大市邨高校（旧市邨学園）の私学勢を軸に展開された。小・中学生からのジュニアの育成が実を結ぶようになり、中学校時代に好成績を収めた生徒が高校でも上位を独占し、高校入学からの初心者の上位進出は一段と困難なものになってきている。またこの10年間の後半には、私学の男女共学の流れの中で、名経大市邨高校に男子部が、そして岡崎城西高校に女子部は創設された。そして現在は名経大市邨高校、岡崎城西高校ともに男女の強豪校として東海大会や全国大会に出場している。

また全国総体においても、平成19年度には個人対抗において岡崎城西高校が女子単（打田しづか）、女子複（打田・藤田組）ともに準優勝をするなど愛知県選手も全国大会でも常に上位に進出するようになってきている。このようにこの10年間で愛知県の選手にとっての全国大会が、「参加する大会」から「優勝を狙う大会」へと確実に変化してきたといえる。

県内においても、多くの競技で競技人口の減少が問題化しつつあるなか、平成20年度現在も130校を超す加盟校、4,500名を超える登録数を有する専門部として活動している。これもひとえに各学校のバドミントン部顧問の先生方をはじめとして，多くの高体連の役員の先生方の努力のおかげだと感じている。

三重県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　宮島和也
（三重県立名帳西高校）

三重県と全国高体連バドミントン専門部との関わりといえば、大世古吉弘先生が全国の副部長を長く務められ、平成８年には部長に就任されご活躍された。その後、平田欽也先生が副部長としてその重責を受け継がれている。そういった関係もあって、平成４年度から平成18年度までの15年間、全日本ジュニアバドミントン研修合宿が本県で行われ、後に日本のトッププレーヤーに成長する金の卵の選手や全国の優れた指導者の方々が多数三重県に来ていただき、私たちに大いに刺激を与えて下さった。

三重県も高校生の競技人口がますます増加し、1700名を超える協会登録者を数えている。全国大会につながる試合をⅠ部、その他をⅡ部という区分けで大会を行っていたが、特に高校からバドミントンを始める選手が増えたので、平成18年度から初心者大会（単のみ）をⅢ部として区別し、３部制で大会を運営するようになった。ほとんどの高校が恵まれないコート数に多数の部員を抱えて活動しているが、顧問の先生方のご奮闘により、立派に大会出場ができる選手を育てている。大会運営も一部の先生方だけで行うのではなく、全顧問の先生方で分担し協力して行っている。年６回も行われる顧問会議は、毎回欠席による委任状の提出校は数校のみで、会員校のほとんどの学校の出席で成立している。本部役員の団結力も全国トップレベルと自負している。あとは、全国で活躍できる選手をもっと多く育てられるような環境を整えていくことが必要であると考える。

滋賀県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 清水十郎
（滋賀県立八日市高校）

平成11年度から20年度までの10年間、加盟校は安定して40数校を数え、女子部員数は県高体連の調査種目中トップもしくはそれに次ぐ位置をキープしている状況である。このことは、他種目が少子化や生徒の部活離れ等で部員数・加盟校数の減少に苦心する中で特筆すべきことである。本専門部の競技人口の拡大と普及活動に対する取り組みの成果であろう。また、「**お家芸―滋賀のバドミントン**」を継続し全国トップレベルの実力を保つための取り組みも活発に行われ優れた成果を収めている。県高体連発行の年報から全国大会での主な記述を拾い上げると、男子は比叡山高校、女子は滋賀女子高校（現 滋賀短大附属高校）により、11年度「総体で男子団体・複で３位」、12年度「**総体で女子団体が優勝**、男子団体が３位。選抜で女子複が準優勝、女子団体・単が３位」、13年度「総体で女子団体が準優勝、男子団体が３位」、14年度「総体で男子団体・単が３位。選抜で男子団体が３位」、15年度「**総体で男子単が優勝**・準優勝、男子複が３位。**国体で少年男子が優勝**。選抜で男子団体が３位」、16年度「総体で男子団体が３位、単・複が準優勝。国体で少年男子が３位。選抜で男子団体が３位」、17年度「総体で男子団体・単が３位。国体で少年男子が３位。選抜で男子複が３位」、18年度「総体で男子複が３位。選抜で男子団体が３位」、19年度「総体で男子団体が３位、女子単が３位。選抜で男子団体が準優勝、男子複が優勝」、20年度「総体で男子団体が３位、国体で少年男子が準優勝」となる。今後も専門部としての伝統に新しい力を加え、更なる成果を積み上げていきたい。

京都府高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 寺田裕昭
（京都西山高校）

昭和63年に国民体育大会を、平成９年にインターハイを開催し、強化策の終了した後の10年間であり、新たな歴史に向かって進み出した期間であったように感じます。専門委員長も永年勤められていた成田光生（元華頂女子）から高橋清治（現東稜）にバトンタッチされ新しい体制でのスタートでした。現在は平成16年から私に変わり、歴代の先生方の跡を継いでいるところです。日本協会の登録者数は、平成11年度1,299人、平成15年度1,788人、平成17年度2,057人、平成20年度12月現在約1,900人となっており、この間は登録者数の増加傾向にありこれは私立学校の共学化と、府協会主催の大会の増加によるものが大きいと思います。

また、この期間の全国大会出場回数を見るとインターハイでは男子西乙訓５回、京都両洋４回、桂１回、女子では西乙訓６回、京都西山５回、選抜大会では男子京都両洋１回、桂１回、女子では京都西山６回、西乙訓３回となっています。女子においては永年京都の女子のバドミントン界を支えてきた成安女子に変わって、西乙訓、京都西山の２強＋桂の争いになっています。競技実績においては、平成９年京都インターハイ以降良い結果を残していませんでしたが、平成16年度鳥取インターハイで女子シングルス柴村美帆（西乙訓）、女子ダブルス生田奈津美・若杉文音組（京都西山）がベスト８に入りました。また、平成17年度全国選抜福井大会で女子シングルスの北吉穂香（西乙訓）がベスト８に入りました。毎年２月には各地から有力校を招き合同交流大会を開催し京都府全体の競技力向上を目指して頑張っています。

大阪府高等学校体育連盟
バドミントン専門部

委員長　大住陽一

（大阪府立泉陽高校）

私が大阪府専門部委員長として初めての年、インターハイに参加させていただいたのが、第50回大会の岩手県滝沢村での大会でした。50周年の記念行事を含め、スケールの大きな大会で、驚いたのを覚えております。

以来この10年間は、私が専門部委員長を務めさせていただいたことになります。まさか第60回のインターハイを大阪で開催することになるとは思っても見ませんでしたが、これも何かの縁と考えて、準備にがんばっております。

この10年、大阪府は、男子は東大阪大学柏原高校の独壇場、女子は、数々の学校がトップを奪い合う戦国時代でありました。残念ながらインターハイでの優勝はありませんでしたが、全国選抜大会では平成15年度に女子学校対抗で此花学院、単でも同校の松尾静香選手が優勝、男子も平成16年度に男子複で東大阪大学柏原高校（当時は柏原高校）の安田敬之・大滝涼太組が優勝を遂げています。また、北京オリンピック女子複でベスト８となった小椋久美子選手（四天王寺高校）も輩出しました。第60回の記念大会である平成21年度の大阪でのインターハイでは、男女ともぜひ、いい成績を上げてもらいたいと期待しております。

大阪府の専門部としては、この10年は「現状維持」を続けることが精一杯でありました。常任委員の数もなかなか増えず、年齢だけがどんどんあがっていき、気がつくと20代、30代の若手と呼べる常任委員がごく少数となってしまい、後任の育成が急務となっています。大会を運営するのが精一杯で、強化の面でも、普及の面でも特筆すべきことは何もできず、恥ずかしい思いでいっぱいです。男子の選手が極端に少ない（女子の約４分の１）という大阪府特有の問題にもこれからがんばって取り組んでいきたいと考えています。

兵庫県高等学校体育連盟
バドミントン専門部

委員長　藤本和幸

（夙川学院高校）

兵庫県高体連バドミントン部の現況

【平成20年度バドミントン部加盟校数】

男子：85校　　女子：108校

【平成20年度日本協会登録者数】

男子：1015名　　女子：1475名

少子化が叫ばれる中、兵庫県のバドミントンは平成18年度にはピークの2602名の登録があり、その後も2500名前後の登録を記録している。また、平成20年度には県総体で女子団体の参加校数が初めて107校に達したことは非常に喜ばしいことである。

この10年間での特筆すべきでき事は平成18年度の国民体育大会を開催したことである。早くから強化に取り組んだものの、思うように競技成績が伸びず、片岡輝明先生や鈴木草麻生氏をやきもきさせた。しかし、少年女子が４位入賞をはたした。その後も19・20年と３年連続で４位入賞が続いている。また、３年間の主力であった山本しずか（加古川東）が、シングルスで全国総体や全国選抜で上位入賞をはたし、重くそして厚かった全国の扉をこじ開けてくれたことが印象に残る。また、男子では平成12年度から神戸村野工業が県内の主力チームとして兵庫県のレベルアップを支えてくれているがまだ充分な成果が出ていないのが現状である。ただし、国体を節目に県内の主要チームの指導者が若手にバトンタッチされ毎日の練習に励んでいることは、たいへん頼もしいことである。友金幸雄・細川泰大・寺町彰浩・北村祐介・高橋幸治をはじめとする若手指導者の成長に期待している。

奈良県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 錦　秀知
（奈良市立一条高校）

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部が創立60周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。奈良県高体連バドミントン専門部は1945年に上山当雄委員長（女子大附）のご尽力で創設され、爾来連綿と育んでこられました。翌46年から、岩井由治委員長（県立奈良商工）が61年まで着任いただき、全国で活躍する奈良の基礎を築いていただきました。62年から71年までは松尾良行委員長（奈良市立一条）が、つづいて72年から88年まで武田博利委員長（奈良市立一条）が、いずれも長きにわたりご活躍され、奈良県の黄金期を担っていただきました。その後、89年から94年は吉村禎訓委員長（正強・現奈良大附）が、95年から99年は、乾哲司委員長（県立添上）が、ご尽力くださり、専門部規約の整備をはじめ、専門部運営の改善に多大なご貢献をいただきました。00年から私が委員長を拝命し丁度10年目を迎え現在に至っております。

ここ10年間、全国大会での入賞（Best 4 以上）は皆無で、まことに寂しい限りですが、団体では、県立添上高校・奈良大学附属高校・大和高田市立高田商業高校・奈良市立一条高校、個人では、上記の高等学校に加え県立二階堂高校・県立奈良商業高校が出場を果たしておられます。今後は、ジュニア層の組織と相互に連携できるしくみの構築を図るとともに、一貫指導体制が共通理解されることを目標に掲げ、「奈良県から世界へ羽ばたく選手を」スローガンに、微力ながら、第２の黄金期を迎える準備をさせていただければと考えています。

和歌山県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 武藤隆志
（和歌山県立那賀高校）

本県専門部は、昭和26年に県高体連にて設置承認されてから今年で58年目を迎えます。那賀・光風工業（現和歌山工業）・向陽・星林・大成・熊野・新宮など８校で部活動として行われ、その後、桐蔭・和歌山工業・熊野では活動を止め、耐久・御坊商工（現紀央館）・吉備（現有田中央）・新宮商業（現新翔）が加わり、ほぼ８校から９校の時期が昭和50年代まで続いた。県勢では、昭和26年の札幌大会に男子・那賀が初参加、昭和27年の善通寺大会に男子・光風工業と向陽、女子・向陽と星林が参加して以来続いている。昭和46年和歌山国体が開かれ、協会や開催市町村が主体となり大会運営や諸準備が行われたが、選手強化や試合の審判員・線審の育成など高体連の役割は多大であった。昭和60年代から県大会以上の大会では１・２回戦負けが続き、中体連・ジュニア等と高校が連携した選手の育成など指導体制の確立が課題となった。しかし現在20校が加盟し、指導者数もまだまだ不十分とはいえ増加している。この結果、近畿大会等の運営面では、スタッフも充実し他府県に劣らない運営が出来るようになった。県内の試合においても勢力分布図は毎年変動があり、今までは高校からバドミントンを始めた選手が大多数であったが、近年ジュニア経験者が増えている。また、近畿大会出場選手対象強化合宿や、小中高合同強化練習会を月に１回行うなど強化に力を入れ県内の選手のレベルも少しずつ上がってきている。今後、さらに底辺を拡大しつつ、近畿・全国レベルで活躍できる選手の育成・強化が課題である。

鳥取県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　山下幸夫
（鳥取県立米子東高校）

このたび、全国高等学校体育連盟バドミントン専門部創立60周年を迎え、記念誌を発刊することを心からお喜び申し上げます。

50周年記念誌が発刊されてから10年が過ぎようとしてますが、その間鳥取県でも平成16年に全国高等学校総合体育大会を鳥取市で開催しました。全国の高校生の頂点を目指した大会が無事に成功に終わったのも、その当時の専門部長の伊佐山先生を始めとする専門部の先生方のご協力があったおかげだと思っています。

さて、この10年間を振り返れば鳥取県のバドミントン専門部の競技成績は第34回全国選抜大会で男子シングルスで湯谷（鳥工）が３位、男子ダブルスで湯谷・山本（鳥工）がベスト８、続く第35回記念大会で男子団体で倉吉総合産業高校がベスト８に入賞することができた。また、今年開催された第59回全国高等学校総合体育大会では女子団体で県勢としては初となるベスト16に入るなどめざましい活躍があった10年間であった。今後もより一層の努力を重ね、全国で活躍できる選手が鳥取県から一人でも多くでることを望んでいます。

最後になりますが、前専門委員長の三村俊彦先生（倉吉総合産業高校）から引き継いで４年が経とうとしていますが、本県の登録人数もほとんど減ることなく活発に活動しています。これからも本県同様、全国高等学校体育連盟バドミントン専門部がますます発展しますように祈念いたしましてあいさつとさせていただきます。

島根県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　足立弘健
（島根県立松江商業高校）

平成７年に松江市のくにびきメッセを主会場に全国高校総合体育大会（バドミントン競技）が開催され、大東高校が男子学校対抗戦でベスト８、個人対抗戦ダブルスで大東高校の勝部・土谷がベスト８という輝かしい成績を残しました。その後の今日までの島根県選手の活躍を振り返ってみたいと思います。島根インターハイの後の次の目標は、中国04総体での上位入賞でした。強化指定校を男子は松江北高校、女子は大東高校に決め、選手強化に取り組みました。男女共に選手層が薄く、残念ながら好成績を残すことが出来ませんでした。

その後、小学校・中学校でのジュニアの指導体制が充実して、県内の選手も少しずつ実力をつけていきました。そして、平成20年度の全国高校総体において松徳学院高校が、大活躍しました。４年連続出場で２回戦・３回戦をともにフルセットで破り一戦ごとに力を付けていき、ベスト８に進出。準々決勝は敗れ４強はなりませんでしたが、島根県勢女子初の８強入りを果たしました。土江奈津子はシングルスで、鮮やかな快進撃で準々決勝に進出。同種目のベスト８入りは島根県勢女子初の快挙。松徳学院高校は創部６年目の新鋭ですが、埼玉の地で新たな歴史を刻みました。

現在、島根県の選手のレベルは、全国大会に出場しても充分戦えるほど上がってきています。過去には、昭和31年に全国高校総体で松江商業高校が男子学校対抗戦で優勝しています。このまま順調に、選手の技術が向上して、いつの日か、もう一度全国制覇する日が来ることを待ち望んでいます。

岡山県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 山田賢一
(岡山県立玉島商業高校)

高体連専門部この10年間は、大きく飛躍した時期でありました。登録人数を見ると少子化といわれつつも昨年度まで増加または横ばい傾向にあります。平成11年㈶日本バドミントン協会のルール改正を、競技・運営に反映させると共に諸問題（強化事業・大会のあり方・登録のあり方・組み合わせ内規等）に取り組んできました。平成17年高等学校再編整備に伴い、県内５地区（従来７地区）に再編し、各地区の学校数均等も併せて行いました。平成18年のルール改正（ラリーポイント制）についても、各地区に於いて審判講習会など開き徹底を図ってきました。

県内選手の活躍状況については、毎年、全国大会でベスト８以上の成績を残しています。ここに主な成績を紹介すると、平成13年第29回全国選抜（塩竈）団体で水島工業が３位、同年全国総体（八代）シングルスで水島工業の佐伯浩一君が３位。また、第20回全国ジュニアでは優勝を飾っている。平成14年全国総体（つくば）ダブルスで笠岡商業の浅原さゆり・黒田香織組が３位。同年ダブルスでは第22回全日本ジュニア（神戸）で準優勝。平成16年全国選抜（山口）と全国総体（鳥取）で水島工業の佐伯祐行君がシングルスで３位。平成17年は水島工業の活躍が目覚ましく全国選抜（松山）団体で準優勝、シングルス優勝、同年全国総体（野田）においても同様な成績を残しました。県内大会（県総体）では、ここ10年間、男子は水島工業が連続優勝を飾り、女子は平成11年から13年までが山陽女子、14年から２年間笠岡商業、16年から２年間山陽女子、ここ３年間は倉敷中央が優勝を飾っています。

これからも、競技力向上を目指し、専門部の益々の発展を望んでいます。

広島県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 赤川雅美
(広島県立安芸府中高校)

戦績は、県総体学校対抗戦：男子は、９年～14年まで安佐北が６連覇を果たしている。15年に国泰寺が安佐北の７連覇を阻止し優勝を果たしている。以後、国泰寺、安古市、桜が丘（初優勝）が優勝し、19・20年と城北が２連覇している。今後は、城北を他校が追いかける構図となるであろう。女子は、11年に桜が丘が20年ぶりの優勝を果たし、以後17年まで鈴峯女子が３回、祇園北１回（初優勝）、桜が丘２回優勝している。18年からは清水ヶ丘が３連覇している。今後は、清水ヶ丘を新興勢力の安芸府中等が追いかける構図になるであろう。
全国大会：14年の高校総体で周（桜が丘）が女子単で５位に入賞。16年の選抜で落合･岡田（鈴峯女）が女子複で５位に入賞している。

歴代委員長は、11年～14年：新堀稔文先生。新堀先生は、平成元年に委員長に就任され14年までの７期14年間にわたり、ひろしま国体の成功をはじめ、本県専門部の隆盛期を支えられた。15年～17年：熊野一郎先生。熊野先生は、専門部の組織を再編されよりスムーズな専門部の運営にご尽力された。18年～：赤川雅美。

おわりにこの10年間を振り返ると、平成８年ひろしま国体の開催により、広島のレベルが少しずつではあるが全国のレベルに近づき始めた時代である。県民のバドミントンの認知度も高まり、各地でジュニアチームが発足し、底辺の拡大も一層進んだ。競技力の向上においては、ジュニアチームの熱心な指導と、それを引き継ぐ中体連の諸先生方の力添えも受け、全国大会での勝利を目指す機運が生まれてきた。県協会主催で小中高の合同練習会も行われるようになり、今後もなお一層の一貫した指導体制を構築することと指導者を育成することで競技力の向上並びに専門部の発展につなげたいと考えている。

山口県高等学校体育連盟
バドミントン専門部

委員長　松原康則

（山口県立柳井商工高校）

このたびは全国高体連バドミントン専門部が60周年を迎えられたということ、誠におめでとうございます。この間の歴代の諸先生方のご尽力に対しまして深く敬意を表したいと思います。

さて、この10年の間の山口県高体連専門部の歩みを振り返ってみたいと思います。まず、運営に関してですが、1997年（平成９年度）より５年間、永茂勝弘先生（野田学園高校）が、その後、2002年（平成14年度）より佐々木辰博先生（当時山口中央高校、現在は華陵高校に勤務）を専門委員長として運営が行われました。佐々木先生は平成15年度に地元山口市で開催された全国高校選抜大会の運営でも中心的に仕事をされ、無事大会を終えることができました。その際、全国の先生方にはご協力いただき大変お世話になりました。その後、2006年（平成18年度）より現委員長の松原（柳井商工）が引き継ぎ、現在に至っています。

競技成績のほうを見ますと男子では第51回大会からは柳井商工が８回、下関中央工業が１回、女子では熊毛北高校が９年連続で出場していますが、ここのところは各県ともジュニア指導の普及などで強化が進み、その中ではなかなか上位進出といったところまでには至っておりません。入賞となると平成16年度の第55回大会で柳井商工がベスト８に入っているのみです。競技力を向上させるためにどの学校も頑張っていますが、現状では厳しい現実を突きつけられており、更なる取り組みが必要となっております。

現在、山口県高体連バドミントン専門部は加盟校が男子23校、女子30校となり、加盟人数も733人となっております。緒先輩方のご尽力により築いてこられたものを更に発展させていくため今後も専門部が一丸となって頑張っていきたいと思っております。

徳島県高等学校体育連盟
バドミントン専門部

委員長　岡佐古拓也

（徳島県立城東高校）

徳島県におけるこの10年間は、大きく躍進したものであるといえる。これまでは、他県との差は歴然であったが、平成19年度には、徳島県勢として31年ぶりに四国総体で城東高校女子が団体と個人ダブルスを制覇し、インターハイでは２年連続で16強入りするなどの活躍がみられた。

県内大会では、男子は城東高校から徳島商業へと覇が移ったことが大きな変化である。しかし、県外選手との差は大きく、四国大会上位入賞はまだまだ遠いところにあり、強化が急務になっている。女子は城東高校が他を圧倒している。徳島中学校が全国中学総体で団体・個人で優勝したのをはじめ、上位入賞を果たしており、県内女子の競技力が飛躍的に伸びている。それらの選手が城東高校に多く入学し、県外遠征やレベルの高い練習を積むなど環境が整ったことが競技力の向上につながっている。

徳島県高体連専門委員長のたすきは、平岡嘉泰教諭（平成９年～11年・小松島高校）、寺内智子教諭（平成12年～14年城北高校）、多田巧教諭（平成15年～19年徳島市立高校）、岡佐古拓也（平成20年～　城東高校）とつないでいる。専門部主体の強化がまだまだうまく行えておらず、県協会や社会体協に頼っているのが現状である。専門部主催の強化練習会の開催やジュニアとの合同練習会を通し連携を密にするなどまだまだ大きな課題を残している。これらの課題を克服し、県外選手とのレベルの差を埋めることと、バドミントン人口の増加につなげていくことが急務であると考えている。

香川県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 林 一男
(香川県立坂出商業高校)

1．設立の経緯とその後の歩み

昭和21年６月、香川県学徒体育会が発足し、後に香川県学校体育会と改称された。小・中・高の全てを対象とした組織団体であったが、昭和27年に独立し、高松高校教諭の佐藤実一氏を専門部長（平成３年より専門委員長と改称）として香川県専門部が産声をあげた。

2．県内で開催された全国大会（高体連関係）

⑴第３回全日本高等学校選手権大会
善通寺町 昭和27年８月８日～10日

⑵第22回全国高等学校選手権大会
善通寺市 昭和46年８月１日～７日

⑶第31回全国高等学校選手権大会
善通寺市 昭和55年８月１日～６日

⑷第49回全国高等学校選手権大会
高松市 平成10年８月１日～６日

3．主な競技成績（平成11年度～20年度）

⑴全国高等学校選手権大会
男子団体ベスト８
高松商業（11・12年度）
英明（17年度）
女子団体ベスト８
香川中央（11・12・13・17年度）
男子個人ダブルス３位（19年度）
三好・藤井（英明）
女子個人ダブルス３位（17年度）
川西・岸本（香川中央）

⑵全国高等学校選抜大会
女子個人ダブルス準優勝（16年度）
川西・岸本（香川中央）

愛媛県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 樽島博幸
(愛媛県立伊予農業高校)

平成10年から19年までの10年間、愛媛県高体連バドミントン専門部の競技レベルは、過去50年間に匹敵するほどの大きな変化を遂げたと言えます。その要因の第一は、東・中予の各地区でジュニア（小・中学生）選手の育成が各市町村の社会体育を中心に本格的に運営され、熱心な指導の成果が現れ始めたことにあります。特に、新居浜地区は他を圧倒する実績を残しています。そういった実績のある選手たちが、高校に入学するようになってきたと言うことです。第二は、四国の他県からトップレベルの選手が愛媛に流入していることです。以上の状況により、地区大会・県大会ともに大変レベルの高い試合が繰り広げられることとなり、徐々に四国のチャンピオンや全国の強豪チームと対等に対戦できるまでに成長してきました。ただ、残念なことに、愛媛ジュニアのトップ選手が逆に全国の強豪チームに流出している現象が起こり始めました。もし、この選手たちが愛媛に残っていてくれたなら、全国大会において、もっとよい成績が残せたのではと考えると大変残念でなりません。裏を返せば、愛媛の競技レベルが全国レベルに近づいている証とも言えます。

また、58周年を迎えた愛媛県高体連バドミントン専門部の最大のイベントが、平成16年度第33回全国高等学校選抜バドミントン大会でした。全国大会は、愛媛県専門部としては初めての開催でした。役員全員が大会への期待と開催への不安が交錯した気持ちの中で、全国よりご参加いただきました選手・役員の皆様を心から歓迎すべく鋭意準備に取り組んで参りました。また、愛媛県らしい歓迎の気持ちを込めて、松山市長と県協会理事長による“始球式”、選手参加型のアトラクションとして本県発祥の“本家野球拳”など初の取組を交えて企画運営しました。振り

返れば、温暖な瀬戸内海気候とは裏腹に、大会期間中は毎日毎日が予期せぬトラブルの連続でした。しかし、日本バドミントン協会および全国バドミントン専門部役員の方々の適切な指示と、本県役員の迅速な対応で、無事クリアすることができました。この経験は、本県の関係教員・補助員生徒・代表選手全員の自信となり、必ず今後の愛媛のバドミントンの発展に繋がる財産になったものと確信しております。

愛媛県高等学校総合体育大会

年度	男子団体優勝校	女子団体優勝校
H10	新　田	新居浜西
H11	西条農業	新居浜西
H12	新居浜東	新居浜西
H13	新居浜東	新居浜東
H14	新　田	新居浜東
H15	新　田	新　田
H16	新　田	新　田
H17	新　田	新　田
H18	新居浜東	新　田
H19	新　田	新　田

愛媛県高等学校新人大会

年度	男子団体優勝校	女子団体優勝校
H10	西条農業	新居浜西
H11	新居浜東	新居浜西
H12	新居浜東	新　田
H13	新　田	新居浜東
H14	新　田	新　田
H15	新　田	新　田
H16	新　田	新　田
H17	新居浜東	新　田
H18	新　田	新　田
H19	新　田	新　田

高知県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　桑名　功
（高知県立高知東高校）

全国専門部が創立60周年を迎えられることを心よりお喜び申し上げます。また、本県専門部が50有余年の歴史をきざみ、発展を続けてきたことは、歴代の専門委員長の先生方および関係諸兄のご尽力の賜と、心より感謝申し上げます。

私が専門委員長を任されて丁度10年になりますが、元年高知総体の開催を契機に整備された組織体制が、さらに充実・発展した状態でバトンタッチされたため、それほどの苦労もなく10年間その職務に当たらせていただきました。その中で、平成14年の「よさこい高知国体」の開催は、競技力向上面での体制整備等において、大きな礎となるものでした。現状では、四国・全国に通用する競技力はないものの、ここ数年はジュニア層のレベルアップが見られるようになり、今後に期待が持てる状況となっています。

専門部の運営面では、若い専門の顧問（運営委員）の数が増え、大会運営や選手強化等において、今後さらに充実してくるものと期待されます。その中、大会運営をより効率よくするため、平成14年度から「大会運営ソフト」を導入し、パソコンを使った大会運営を開始しました。それにより、会員登録から大会申込・組合せ抽選・記録整理まで、スムーズな運営が可能となりました。全てが完成とは言えませんが、成果は大きいと実感しています。

本県では登録数が年々増加しており、この10年で30％程の伸びが見られました。しかし、絶対数では全国的に最下位に近く、競技力も低い状況でありますので、今後も全国専門部のお力添えをいただきながら、今以上に高校生のより積極的な活動を支援できる組織となるように、取り組みを進めていきたいと考えています。

福岡県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 明神憲一
（九州国際大学付属高校）

全国高体連バドミントン専門部創立60周年を迎えるにあたり今日の発展を皆さんと共に喜びたいと思います。合わせて60年の輝かしい歴史と伝統を築いてこられました諸先輩の方々に対し心から敬意と感謝の言葉を申し上げます。

平成11年度から平成20年度までの10年間振り返ってみると、平成５年以来12年間専門委員長をしていた浜司晃（精華女子）先生が平成16年度で退任されました。この12年間は、福岡県の黄金期で、前専門委員長の横溝安伸（現九州国際大学付属）先生が「打倒熊本」を掲げ、強化合宿や県外遠征など数多く実施し、着実に力をつけた。その後浜司先生の時に九州で確固たる地位を築き、今度は、「全国制覇」を掲げ県内での鎬を削る争いが始まった。特に、女子の精華女子と九国大付の争いは熾烈なもので、「県を制すれば全国を制する」とまで言われた。しかし、平成12年以降全国上位には行くが、なかなか優勝することができなかった。平成17年度より専門委員長を引継ぎ、県協会とも連携を密にし、ジュニア一貫指導体制を構築し「夢プラン」「オール福岡」などを実施し県全体のレベルがアップした。平成20年度の大分国体では、福岡県生え抜きの選手で見事に初優勝を飾った。また、この10年福岡県高体連で活躍した選手がアテネオリンピック（森かおり・九国大付）（吉冨桂子・精華女子）に続き、北京オリンピック（池田信太郎　潮田玲子・九国大付）にも出場した。オグシオの活躍によりバドミントンが一躍人気スポーツとなり、関係者や子供達に大きな喜びを与えた。これからますます子供達の関心が高まり、競技人口も増加していくことを期待している。平成25年は、地元福岡での総体が予定されている。この地元の総体で全種目優勝を目指し全力で頑張りたいと思う。

最後に全国高体連バドミントン専門部の今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

佐賀県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 築地孝彦
（佐賀女子高校）

佐賀県高等学校バドミントン専門部が発足して36年、全国高等学校体育連盟へ昭和48年全国で一番遅い加盟と思います。翌49年には、嬉野・塩田町において全国高等学校総合体育大会を開催しています。そして、50年は、国体リハーサルの九州総体、51年牛津町での国体と大会を運営する為の専門部発足の感がするスタートでした。その後、九州高等学校体育大会４回、全九州高等学校選抜大会４回の開催等を行ってきました。しかし、平成19年の「2007　青春・佐賀総体」は、大変でした。けど、やる価値はあると思います。多くのことを学び、学ばされ、多くの人々と出会い、教えてもらいました。運営する側の貴重な体験から得たことを活用しながら今後も努力していきたいと思います。

次に、競技力について考えてみると、平成10年度以前は、佐賀女子高等学校の平成２年度全国高等学校総合体育大会優勝等女子の活躍が目立っていたが、近年、女子もベスト８程度の成績にとどまっている。男子においては、九州・全国大会ともに３回戦へ進出するのが難しい状況にある。これを打開して行くには中学生まで頑張ってきた生徒が県外へ進学せず県内の高校で努力し指導者とともに全国高校総体開催で見せたすばらしい高校生の力を発揮して、地方の個性を生かした競技力の向上に取り組み、高校総体開催時以上の注目を得ることが出来るよう佐賀県高等学校体育連盟バドミントン部員一同頑張りたいと思います。

長崎県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　中尾勘治
（長崎県立大村工業高校）

はじめに、本県の専門委員長として昭和45年度より平成17年度までの36年間の長きに渡り、専門部の運営・発展と選手の強化にご尽力いただいた長崎女子高等学校の春野良三先生に感謝の意を表します。

本県選手の活躍を振り返ってみると、まず平成11年には長崎女子の松田友美選手の活躍が光る。九州大会・インターハイとも個人戦シングルスで３位であった。平成12年には、松田選手が九州大会では三冠を達成している。平成13年には同校の宇津・小森組が九州大会３位、インターハイベスト８であった。平成14年には西陵が男子団体で九州大会３位、個人戦シングルスにおいても中村正博選手が九州ブロックを勝ち上がり全国選抜大会に出場した。平成15年は長崎県でインターハイが開催された。西陵・長崎東・長崎女子の各選手が活躍してくれた。平成16年には、長崎東の白山愛子・白山麻衣子組が九州大会準優勝。男子団体も西陵が準優勝。そのほか九州選抜大会男子ダブルスでは小山・小川組、女子シングルスでは長崎女子の大塚珠代選手が優勝している。平成17年には九州大会で西陵が初優勝を飾り、長崎女子も３位となった。インターハイでは大塚珠代選手がシングルスベスト８入りを果たした。平成18年にはインターハイで、西陵が団体と個人ダブルス永田・荒木組、シングルス中村祐文選手がそれぞれベスト８に入った。平成19・20年にも林貴昭先生率いる西陵高校は同様の戦績を残している。まさに全国の強豪の一角を担う力をつけてきたと言え今後の活躍がたいへん期待される。

熊本県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　井上哲章
（熊本県立翔陽高校）

10年間を振り返って

全高体連バドミントン専門部の60周年おめでとうございます。

この10年間を振り返ってみると、男子の活躍が目につく。男子団体の第50回大会、52回大会、57回大会、58回大会、59回大会と八代東の２位と優勝には届かなかったものの、立派な成績を収めた。八代東は第53回大会、55回大会も３位に入賞しており、10年間に７回の上位入賞を果たし、全国にその名を轟かせている。女子も第50回大会、57回大会の信愛女学院や第54回大会の熊本中央、第59回大会の八代白百合など３位入賞を果たした。

個人戦では第50回大会の田上・松本組（複２位 信愛女学院）、第54回大会の吉村征美（単３位 熊本中央）、第55回大会の岡ひとみ（単３位 熊本中央）、岡・西組（複３位 熊本中央）、第58回大会の嘉村健士、園田啓悟（ともに単３位 八代東）、嘉村・園田（複３位 八代東）が上位に入賞している。

個人戦より団体戦の上位入賞が目につくが、チームが一丸となって戦っている証拠であろう。特に男子の八代東高校は13年連続で全国大会に出場し、最後まであきらめずにシャトルを追う姿は観客の感動をよんでいる。

この10年間には熊本県では八代インターハイが開催され、全国高体連バドミントン専門部は勿論のこと、各方面の方々に多大なるご指導とご協力をいただき、ありがとうございました。熊本県高体連バドミントン専門部としてもより一層のバドミントンの技術と競技意識の向上に努めたいと思っています。

全高体連バドミントン専門部の今後のますますのご発展を祈念申し上げます。

大分県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 阿南典久
（大分県立大分商業高校）

全国高体連バドミントン専門部60周年の節目に当たり、大分県高体連専門部のこの10年の歩みをトピックスで振り返ります。

＊平成11年度　大分県選手初の高校総体優勝
赤尾美代（昭和女子）　個人女子単１位
赤尾・赤尾（昭和女子）個人女子複３位
＊平成12年度　全国選抜大会
服部・倉満（昭和女子）個人女子複３位
＊平成13年度　全国高校総体
服部・倉満（昭和女子）個人女子複３位
＊平成15年度　吉田信之前委員長　全国表彰
＊平成17年度　全国選抜大会
田村千秋（昭和学園）　個人女子単３位
＊平成18年度　全九州総体を開催（別府市）
全九州選抜大会を開催（別府市）
＊平成19年度　全国高校総体
宮内・加藤（別府鶴見丘）個人女子複３位
第36回全国選抜大会を開催（日田市）
＊平成20年度　第63回国民体育大会
少年男子、女子アベック入賞

この間、升巴（大分支部）豊田・渡邉（別杵支部）吉田・吉田（県北支部）鈴木（県南支部）の各支部長と共に一丸となり、競技専門部の発展に努めて参りました。普及と強化の芽が少しずつ出始めたこと、さらには全国選抜大会も開催できたことはうれしい限りです。これもひとえに全国高体連の先生方のご指導のお陰と心より感謝申し上げます。

大分県は、まだまだ小規模県ではありますが、末綱選手に続くオリンピック選手の育成を目標に、競技力向上とバドミントンの普及に邁進していく所存です。

宮崎県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 石井正樹
（宮崎県立都城泉ヶ丘高校）

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部創立60周年おめでとうございます。

この10年間、宮崎県ではバドミントンは競技スポーツにとどまらず、県民スポーツの一つとしてますます大きな拡がりをみせております。今年度高校総体の参加をみても、県内公私立59校中47校、人数は男子258名、女子361名、合計619名になり、近年少子化にもかかわらず50名ほど増加しています。

こうした中、競技力向上が一番の課題でしたが、現専門委員の山内勉先生（西都商業高校）、田原秀典先生（高鍋高校）を中心に県協会と連携を図りながら、合同強化練習を実施し、全国レベルまで引き上げることを目標に努力してきました。その結果、渡邊達哉（日章学園）が、平成20年度全日本ジュニア選手権大会で優勝できたことは、関係者全ての今後の自信になったと思います。また強化事業では、熊本県の協力に大変感謝しています。特に現専門委員長の井上哲章先生、前専門委員長の茂見正先生、指導していただいた先生方にお礼を申し上げます。

現在男子は日章学園、女子は宮崎商業が二連勝中で、全国での上位進出を目指しており、全国大会で宮崎県チームの活躍が期待されます。

このような発展は、前専門委員長松浦良一先生（平成８年～18年）を中心とした各高校部関係者の努力と、県及び地区協会の絶大な御協力・御支援の賜物であり、感謝申し上げます。

鹿児島県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　平岡旭洋
（薩南工業高等学校）

全国高体連バドミントン専門部創立60周年を心からお祝い申し上げます。

全国高校総体への参加は、昭和34年の第10回大会（会津若松市）に川内高校の男子が初めて出場している。また、翌年には、鹿児島高校男子、川内高校女子と、男女での出場を果たした。この年の鹿児島高校初出場の陰には、故南直治先生（熊本信愛女学院高校）が若き指導者として奉職されたことも記しておきたい。

鹿児島県のバドミントン専門部は、昭和43年に鹿児島県高等学校体育連盟が発足したと同時に誕生し、今年で創立40周年を迎える。

初代専門委員長には別府照先生が就任し、昭和47年鹿児島国体（太陽国体）を開催、成功させる等、昭和55年までの12年間にわたり、県高体連専門部発展の基礎を築かれた。昭和56年からは原口健二先生が引き継ぎ、昭和57年の鹿児島インターハイを専門部・県協会の総力をあげて、地元の絶大な支持を受け、大成功させた。平成３年からは前野親二郎先生が、平成18年までの17年間という長きにわたり、競技力の向上、バドミントンの普及に甚大な影響を与えた。平成19年からは、平岡旭洋がその後を引き継ぎ、現在に至っている。

現在、本県が抱えている大きな課題は、『競技力の向上』である。小中学校が全国大会で優勝し、また、本県出身の前田美順選手がオリンピックに出場する等の成果は出てきているが、県全体として、まだまだ力不足である。高体連専門部としても、10年後の南九州ブロック開催のインターハイに向け、『競技力の向上』を目指して取り組んでいきたい。

沖縄県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　下地敏彦
（沖縄県立南部商業高校）

全国高体連バドミントン専門部創立60周年おめでとうございます。私が本県専門委員長に就いたのが平成12年で最初に携わった大会が県総体でした。離島（石垣島）大会ということでことさら忙しく、委員長の任務がこれ程までに大変なのかを痛感させられました。早いものであれから約10年が過ぎようとしています。この10年をふり返ってみると運営面にかんしては、各専門部員との協力連携のもと毎年のように充実していますが、競技面からみれば「低迷期」の一言に就きます。戦績でみると、この10年で九州・全国大会を通し学校対抗でベスト８進出は平成11年度九州総体男子豊見城南のみで、個人戦も平成11年～18年ではベスト８以上の進出者は皆無、３回戦進出の３事例が最上位の成績と全く振るわない状況でした。その状況下からの脱却を図るべく、平成16年度より赤嶺靖先生を中心に小・中・高合同での強化練習に着手し少しずつではあるがその成果もあらわれています。平成19年度九州選抜男子単で野原（沖水）が県勢初の優勝、女子単では上村（糸満）が準優勝という成績を収め県高体連関係者に大きな自信と勇気をあたえました。

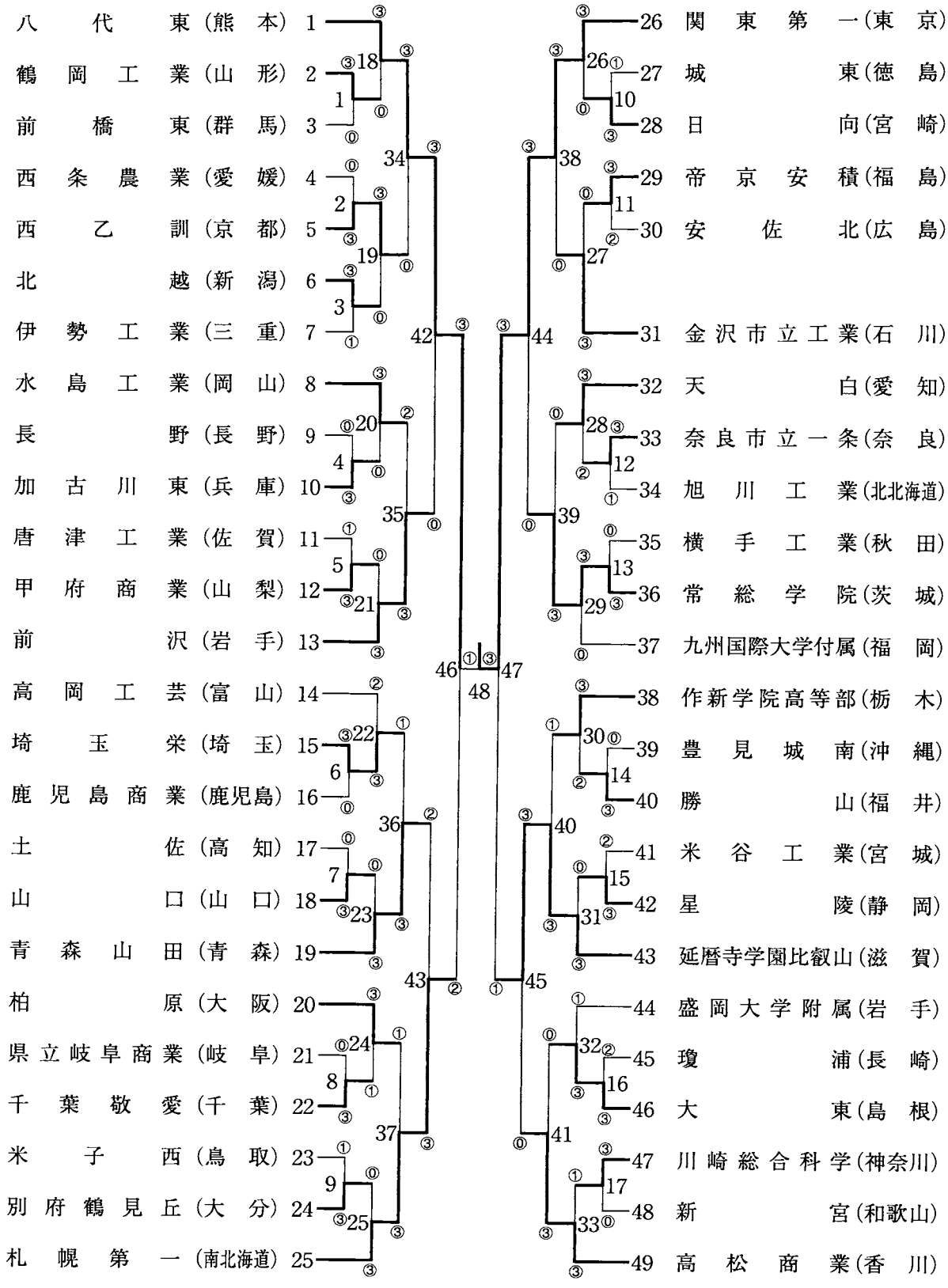
平成22年度には本県で全国総体「美ら島総体2010」が開催されます。現在、運営面競技面での準備に、開催市である糸満市と県高体連連携のもと総力を挙げて取り組んでいます。この全国総体を是が非でも成功に導き沖縄県高体連バドミントン専門部の新たなるスタートのきっかけにしたいと思います。

全国高等学校総合体育大会の記録

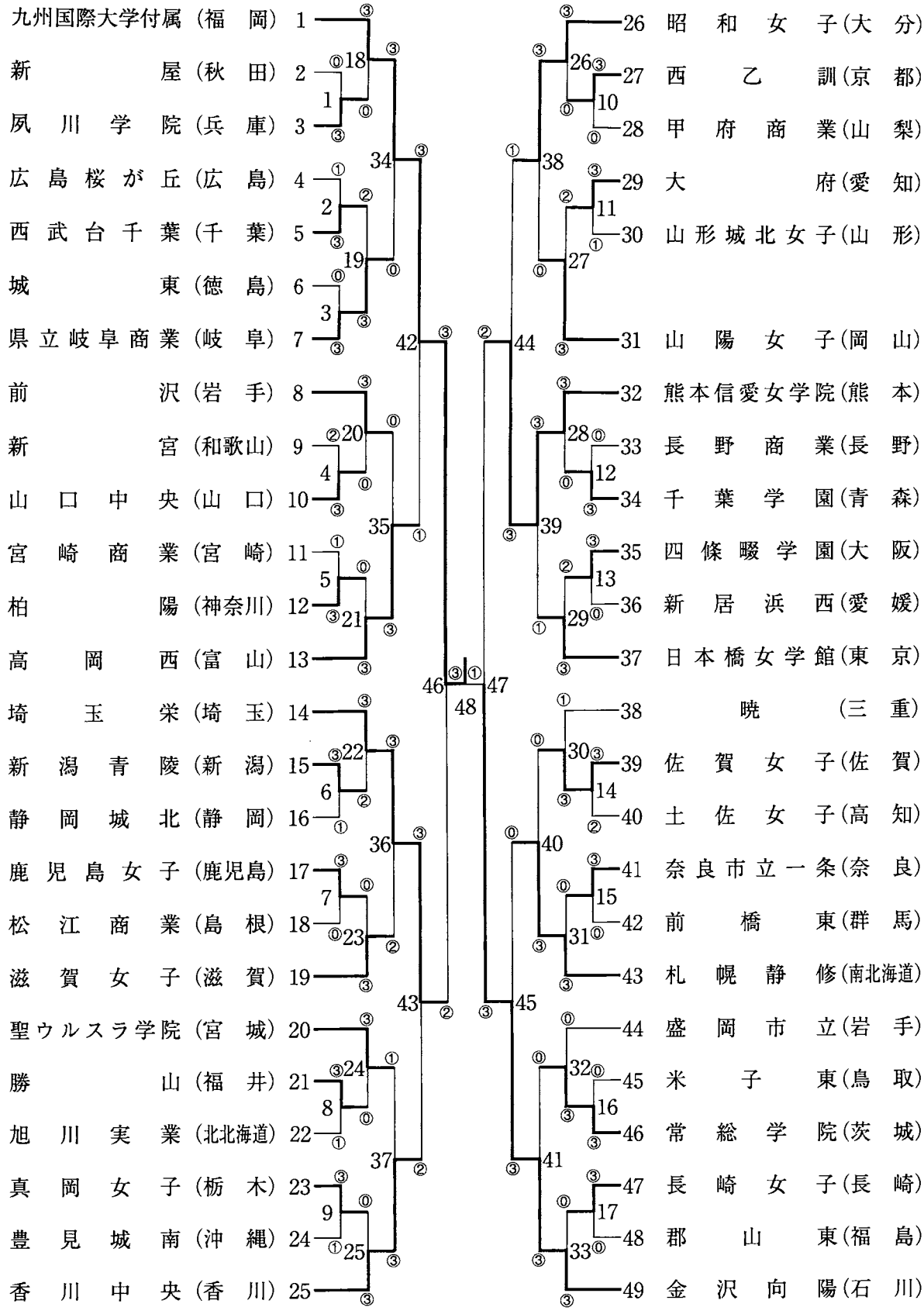
第50回全国高等学校バドミントン選手権大会（1999年度）

期日▶平成11年８月１日～６日
会場▶岩手産業文化センター・滝沢村総合公園体育館・盛岡大学体育館・滝沢村東部体育館

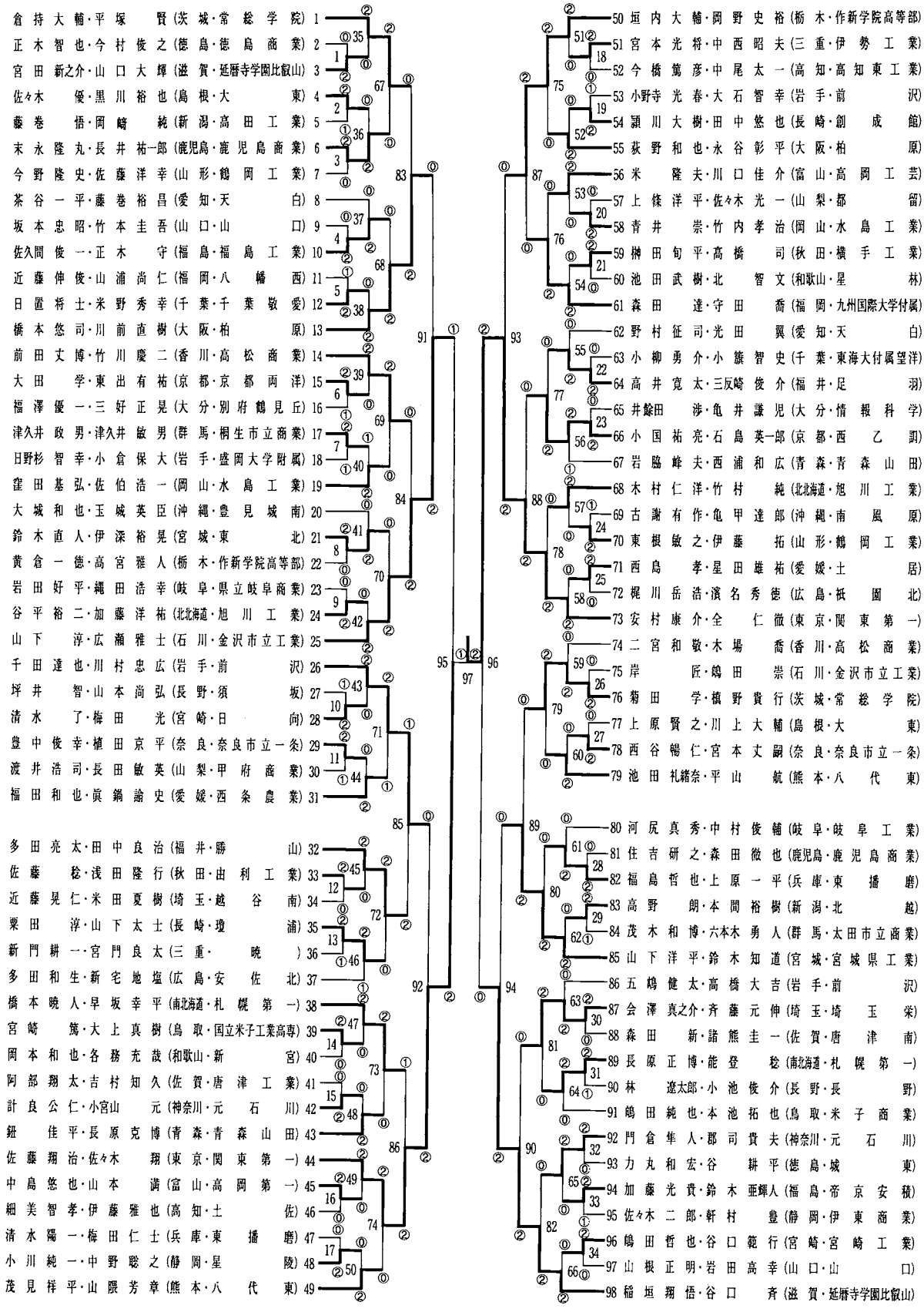
男子団体（49校）



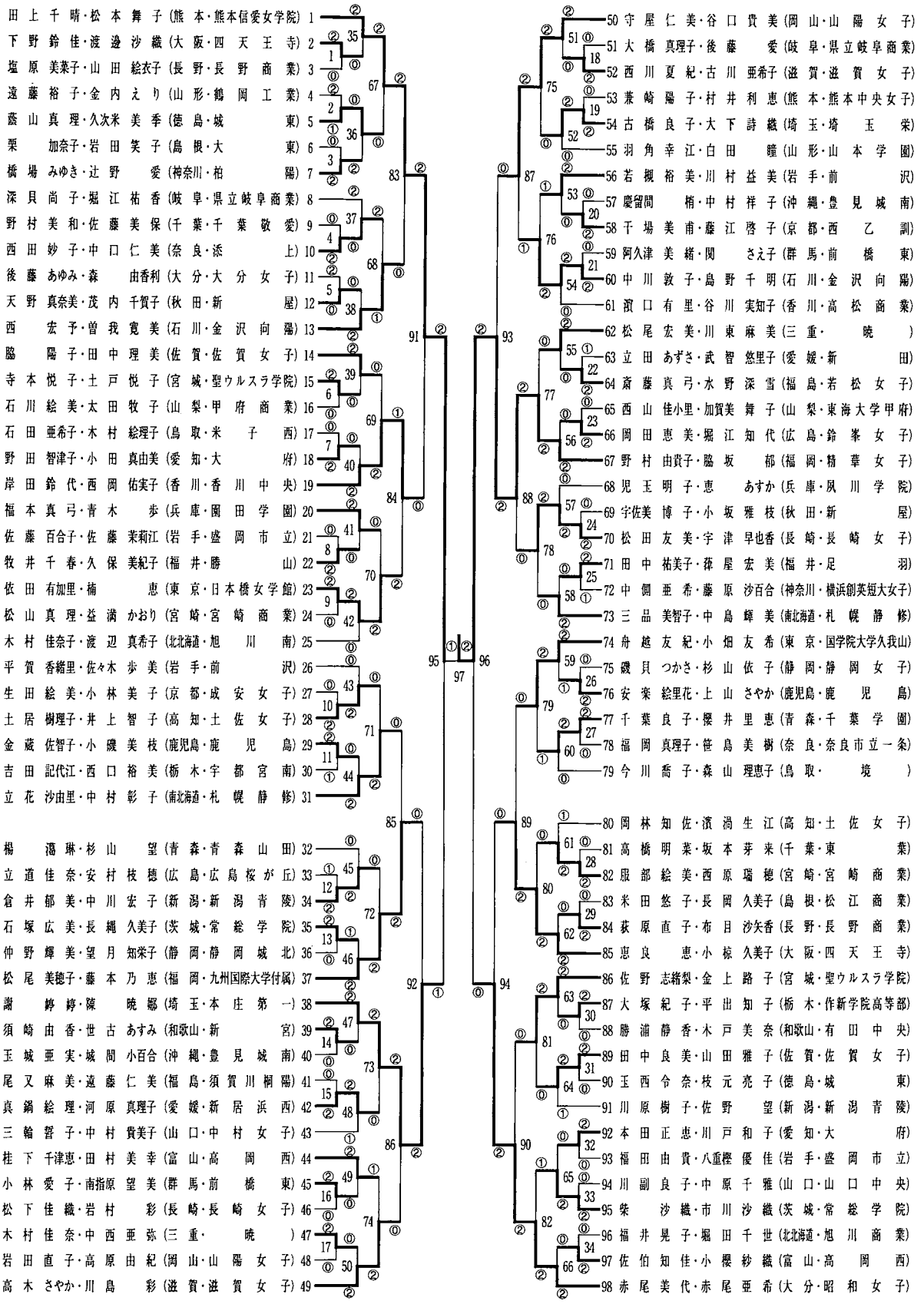
女子団体（49校）


九州国際大学付属（福　岡）1
新　屋（秋　田）2
夙　川　学　院（兵　庫）3
広島桜が丘（広　島）4
西武台千葉（千　葉）5
城　東（徳　島）6
県立岐阜商業（岐　阜）7
前　沢（岩　手）8
新　宮（和歌山）9
山口中央（山　口）10
宮崎商業（宮　崎）11
柏　陽（神奈川）12
高　岡　西（富　山）13
埼　玉　栄（埼　玉）14
新潟青陵（新　潟）15
静岡城北（静　岡）16
鹿児島女子（鹿児島）17
松江商業（島　根）18
滋賀女子（滋　賀）19
聖ウルスラ学院（宮　城）20
勝　山（福　井）21
旭川実業（北北海道）22
真岡女子（栃　木）23
豊見城南（沖　縄）24
香川中央（香　川）25
26 昭和女子（大　分）
27 西乙訓（京　都）
28 甲府商業（山　梨）
29 大　府（愛　知）
30 山形城北女子（山　形）
31 山陽女子（岡　山）
32 熊本信愛女学院（熊　本）
33 長野商業（長　野）
34 千葉学園（青　森）
35 四條畷学園（大　阪）
36 新居浜西（愛　媛）
37 日本橋女学館（東　京）
38 暁　（三　重）
39 佐賀女子（佐　賀）
40 土佐女子（高　知）
41 奈良市立一条（奈　良）
42 前　橋　東（群　馬）
43 札幌静修（南北海道）
44 盛岡市立（岩　手）
45 米子東（鳥　取）
46 常総学院（茨　城）
47 長崎女子（長　崎）
48 郡山東（福　島）
49 金沢向陽（石　川）

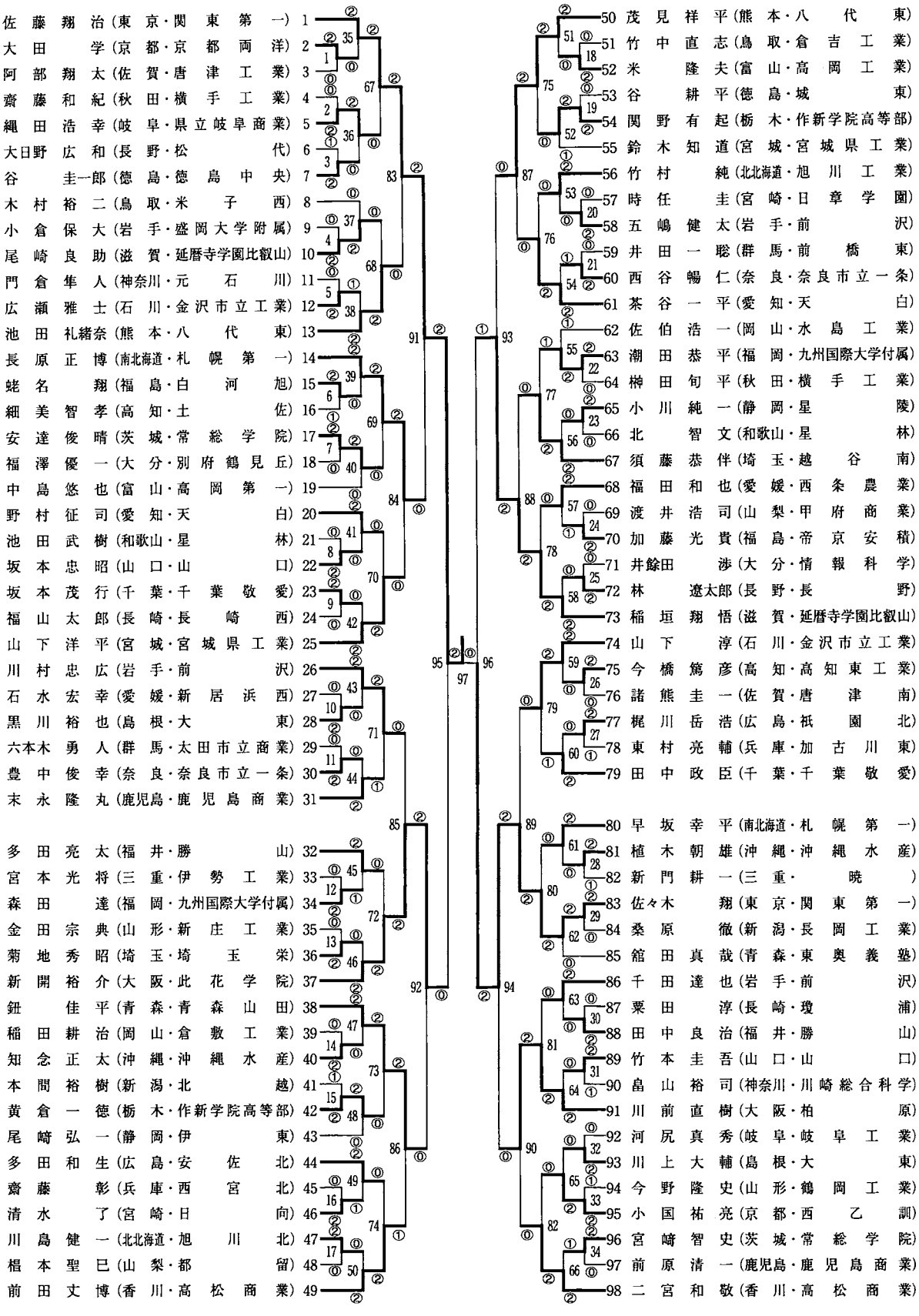
男子ダブルス（98組）


倉持大輔・平塚　賢（茨城・常総学院）1
正木智也・今村俊之（徳島・徳島商業）2
宮田新之介・山口大輝（滋賀・延暦寺学園比叡山）3
佐々木　優・黒川裕也（島根・大東）4
藤巻　悟・岡崎　純（新潟・高田工業）5
末永隆丸・長井祐一郎（鹿児島・鹿児島商業）6
今野隆史・佐藤洋幸（山形・鶴岡工業）7
茶谷一平・藤巻裕昌（愛知・天白）8
坂本忠昭・竹本圭吾（山口・山口）9
佐久間俊一・正木　守（福島・福島工業）10
近藤伸俊・山浦尚仁（福岡・八幡西）11
日置将士・米野秀幸（千葉・千葉敬愛）12
橋本悠司・川前直樹（大阪・柏原）13
前田丈博・竹川慶二（香川・高松商業）14
大田　学・東出有祐（京都・京都両洋）15
福澤優一・三好正晃（大分・別府鶴見丘）16
津久井政男・津久井敏男（群馬・桐生市立商業）17
日野杉智幸・小倉保大（岩手・盛岡大学附属）18
窪田基弘・佐伯浩一（岡山・水島工業）19
大城和也・玉城英臣（沖縄・豊見城南）20
鈴木直人・伊深裕晃（宮城・東北）21
黄倉一徳・高宮雅人（栃木・作新学院高等部）22
岩田好平・縄田浩幸（岐阜・県立岐阜商業）23
谷平裕二・加藤洋祐（北北海道・旭川工業）24
山下　淳・広瀬雅士（石川・金沢市立工業）25
千田達也・川村忠広（岩手・前沢）26
坪井　智・山本尚弘（長野・須坂）27
清水　了・梅田　光（宮崎・日向）28
豊中俊幸・植田京平（奈良・奈良市立一条）29
渡井浩司・長田敏英（山梨・甲府商業）30
福田和也・眞鍋諭史（愛媛・西条農業）31
多田亮太・田中良治（福井・勝山）32
佐藤　稔・浅田隆行（秋田・由利工業）33
近藤晃仁・米田夏樹（埼玉・越谷南）34
粟田　淳・山下太士（長崎・瓊浦）35
新門耕一・宮門良太（三重・暁　）36
多田和生・新宅地塩（広島・安佐北）37
橋本暁人・早坂幸平（南北海道・札幌第一）38
宮崎　篤・大上真樹（鳥取・国立米子工業高専）39
岡本和也・各務充哉（和歌山・新宮）40
阿部翔太・吉村知久（佐賀・唐津工業）41
計良公仁・小宮山元（神奈川・元石川）42
鈕　佳平・長原克博（青森・青森山田）43
佐藤翔治・佐々木翔（東京・関東第一）44
中島悠也・山本満（富山・高岡第一）45
細美智孝・伊藤雅也（高知・土佐）46
清水陽一・梅田仁士（兵庫・東播磨）47
小川純一・中野聡之（静岡・星陵）48
茂見祥平・山際芳章（熊本・八代東）49
垣内大輔・岡野史裕（栃木・作新学院高等部）50
宮本光将・中西昭夫（三重・伊勢工業）51
今橋篤彦・中尾太一（高知・高知東工業）52
小野寺光春・大石智幸（岩手・前沢）53
頴川大樹・田中悠也（長崎・創成館）54
荻野和也・永谷彰平（大阪・柏原）55
米　隆夫・川口佳介（富山・高岡工芸）56
上條洋平・佐々木光一（山梨・都留）57
青井　崇・竹内孝治（岡山・水島工業）58
樋田旬平・高橋　司（秋田・横手工業）59
池田武樹・北　智文（和歌山・星林）60
森田　達・守田　喬（福岡・九州国際大学付属）61
野村征司・光田　翼（愛知・天白）62
小柳勇介・小簇智史（千葉・東海大付属望洋）63
高井寛太・三反崎俊介（福井・足羽）64
井餘田　渉・亀井謙児（大分・情報科学）65
小国祐亮・石島英一郎（京都・西乙訓）66
岩脇峰夫・西浦和広（青森・青森山田）67
木村仁洋・竹村　純（北北海道・旭川工業）68
古謝有作・亀甲達郎（沖縄・南風原）69
東根敏之・伊藤　拓（山形・鶴岡工業）70
西島　孝・星田雄祐（愛媛・土居）71
梶川岳浩・濱名秀徳（広島・祇園北）72
安村康介・全　仁徹（東京・関東第一）73
二宮和敬・木場　喬（香川・高松商業）74
岸　匠・鴫田　崇（石川・金沢市立工業）75
菊田　学・槇野貴行（茨城・常総学院）76
上原賢之・川上大輔（島根・大東）77
西谷暢仁・宮本丈嗣（奈良・奈良市立一条）78
池田礼緒奈・平山　航（熊本・八代東）79
河尻真秀・中村俊輔（岐阜・岐阜工業）80
住吉研之・森田徹也（鹿児島・鹿児島商業）81
福島哲也・上原一平（兵庫・東播磨）82
高野　朗・本間裕樹（新潟・北越）83
茂木和博・六本木勇人（群馬・太田市立商業）84
山下洋平・鈴木知道（宮城・宮城県工業）85
五嶋健太・高橋大吉（岩手・前沢）86
会澤真之介・斉藤元伸（埼玉・埼玉栄）87
森田　新・諸熊圭一（佐賀・唐津南）88
長原正博・能登　稔（南北海道・札幌第一）89
林　遼太郎・小池俊介（長野・長野）90
鴫田純也・本池拓也（鳥取・米子商業）91
門倉隼人・郡司貴夫（神奈川・元石川）92
力丸和宏・谷　耕平（徳島・城東）93
加藤光貴・鈴木亜輝人（福島・帝京安積）94
佐々木二郎・軒村　豊（静岡・伊東商業）95
鴫田哲也・谷口範行（宮崎・宮崎工業）96
山根正明・岩田高幸（山口・山口）97
稲垣翔悟・谷口　斉（滋賀・延暦寺学園比叡山）98

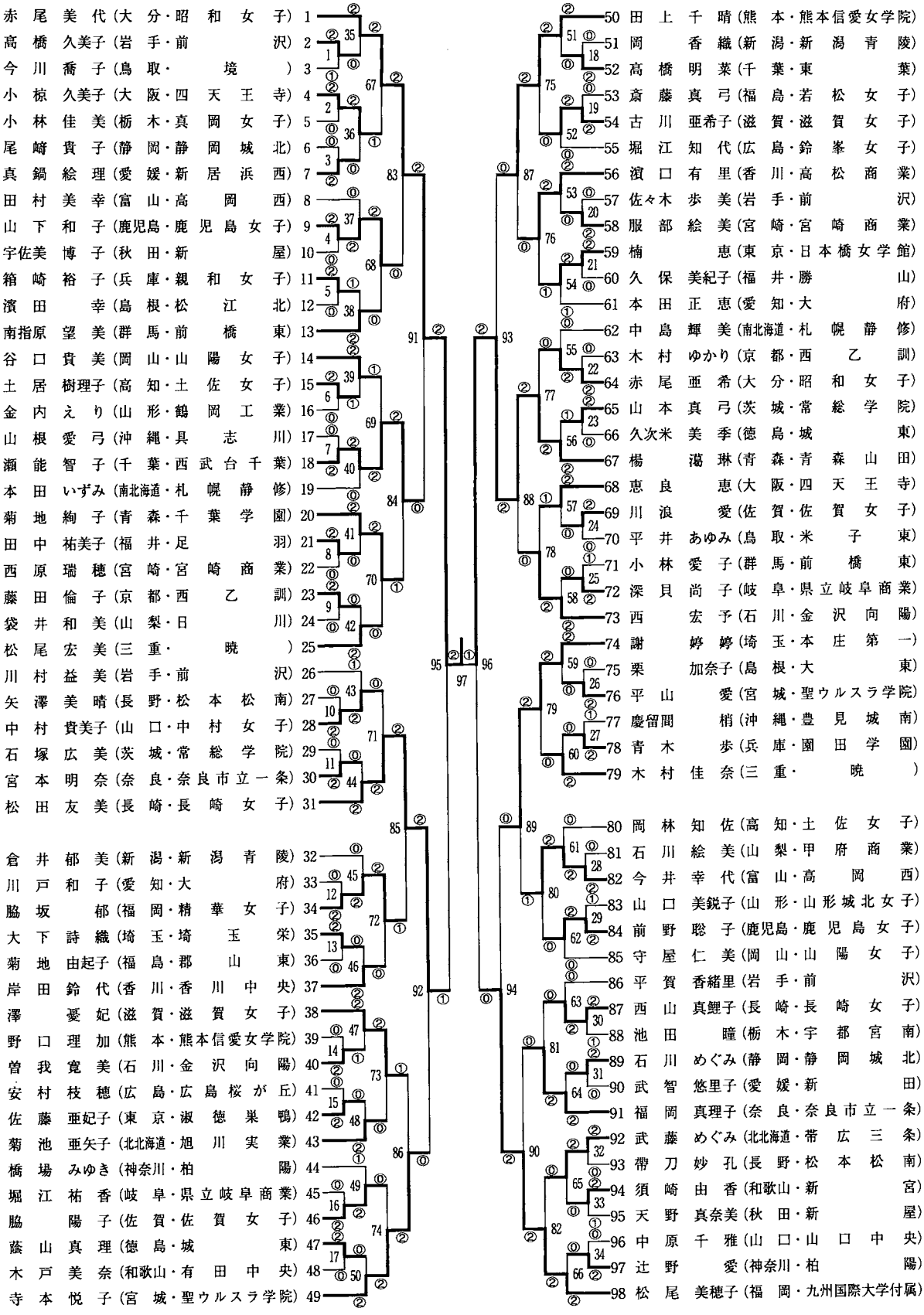
女子ダブルス（98組）


田上千晴・松本舞子（熊本・熊本信愛女学院） 1
下野鈴佳・渡邊沙織（大阪・四天王寺） 2
塩原美菜子・山田絵衣子（長野・長野商業） 3
遠藤裕子・金内えり（山形・鶴岡工業） 4
蓑山真理・久次米美季（徳島・城東） 5
栗加奈子・岩田笑子（島根・大東） 6
橋場みゆき・辻野愛（神奈川・柏陽） 7
深貝尚子・堀江祐香（岐阜・県立岐阜商業） 8
野村美和・佐藤美保（千葉・千葉敬愛） 9
西田妙子・中口仁美（奈良・添上） 10
後藤あゆみ・森由香利（大分・大分女子） 11
天野真奈美・茂内千賀子（秋田・新屋） 12
西宏予・曽我寛美（石川・金沢向陽） 13
脇陽子・田中理美（佐賀・佐賀女子） 14
寺本悦子・土戸悦子（宮城・聖ウルスラ学院） 15
石川絵美・太田牧子（山梨・甲府商業） 16
石田亜希子・木村絵理子（鳥取・米子西） 17
野田智津子・小田真由美（愛知・大府） 18
岸田鈴代・西岡佑実子（香川・香川中央） 19
福本真弓・青木歩（兵庫・園田学園） 20
佐藤百合子・佐藤茉莉江（岩手・盛岡市立） 21
牧井千春・久保美紀子（福井・勝山） 22
依田有加里・楠恵（東京・日本橋女学館） 23
松山真理・益満かおり（宮崎・宮崎商業） 24
木村佳奈子・渡辺真希子（北北海道・旭川南） 25
平賀香緒里・佐々木歩美（岩手・前沢） 26
生田絵美・小林美子（京都・成安女子） 27
土居樹理子・井上智子（高知・土佐女子） 28
金蔵佐智子・小磯美枝（鹿児島・鹿児島） 29
吉田記代江・西口裕美（栃木・宇都宮南） 30
立花沙由里・中村彰子（南北海道・札幌静修） 31
楊鴻琳・杉山望（青森・青森山田） 32
立道佳奈・安村枝穂（広島・広島桜が丘） 33
倉井郁美・中川宏子（新潟・新潟青陵） 34
石塚広美・長縄久美子（茨城・常総学院） 35
仲野輝美・望月知栄子（静岡・静岡城北） 36
松尾美穂子・藤本乃恵（福岡・九州国際大学付属） 37
謝婷婷・陳暁鄒（埼玉・本庄第一） 38
須崎由香・世古あすみ（和歌山・新宮） 39
玉城亜実・城間小百合（沖縄・豊見城南） 40
尾又麻美・遠藤仁美（福島・須賀川桐陽） 41
真鍋絵理・河原真理子（愛媛・新居浜西） 42
三輪智子・中村貴美子（山口・中村女子） 43
桂下千津恵・田村美幸（富山・高岡西） 44
小林愛子・南指原望美（群馬・前橋東） 45
松下佳織・岩村彩（長崎・長崎女子） 46
木村佳奈・中西亜弥（三重・暁） 47
岩田直子・高原由紀（岡山・山陽女子） 48
高木さやか・川島彩（滋賀・滋賀女子） 49
守屋仁美・谷口貴美（岡山・山陽女子） 50
大橋真理子・後藤愛（岐阜・県立岐阜商業） 51
西川夏紀・古川亜希子（滋賀・滋賀女子） 52
兼崎陽子・村井利恵（熊本・熊本中央女子） 53
古橋良子・大下詩織（埼玉・埼玉栄） 54
羽角幸江・白田瞳（山形・山本学園） 55
若槻裕美・川村益美（岩手・前沢） 56
慶留間楠・中村祥子（沖縄・豊見城南） 57
千場美甫・藤江啓子（京都・西乙訓） 58
阿久津美緒・関さえ子（群馬・前橋東） 59
中川敦子・島野千明（石川・金沢向陽） 60
濵口有里・谷川実知子（香川・高松商業） 61
松尾宏美・川東麻美（三重・暁） 62
立田あずさ・武智悠里子（愛媛・新田） 63
斎藤真弓・水野深雪（福島・若松女子） 64
西山佳小里・加賀美舞子（山梨・東海大学甲府） 65
岡田恵美・堀江知代（広島・鈴峯女子） 66
野村由貴子・脇坂郁（福岡・精華女子） 67
児玉明子・恵あすか（兵庫・夙川学院） 68
宇佐美博子・小坂雅枝（秋田・新屋） 69
松田友美・宇津早也香（長崎・長崎女子） 70
田中祐美子・葺屋宏美（福井・足羽） 71
中側亜希・藤原沙百合（神奈川・横浜創英短大女子） 72
三品美智子・中島輝美（南北海道・札幌静修） 73
舟越友紀・小畑友希（東京・国学院大学久我山） 74
磯貝つかさ・杉山依子（静岡・静岡女子） 75
安楽絵里花・上山さやか（鹿児島・鹿児島） 76
千葉良子・櫻井里恵（青森・千葉学園） 77
福岡真理子・笹島美樹（奈良・奈良市立一条） 78
今川喬子・森山理恵子（鳥取・境） 79
岡林知佐・濱渦生江（高知・土佐女子） 80
高橋明菜・坂本芽来（千葉・東葉） 81
服部絵美・西原瑞穂（宮崎・宮崎商業） 82
米田悠子・長岡久美子（島根・松江商業） 83
荻原直子・布目沙矢香（長野・長野商業） 84
恵良恵・小椋久美子（大阪・四天王寺） 85
佐野志緒梨・金上路子（宮城・聖ウルスラ学院） 86
大塚紀子・平出知子（栃木・作新学院高等部） 87
勝浦静香・木戸美奈（和歌山・有田中央） 88
田中良美・山田雅子（佐賀・佐賀女子） 89
玉西令奈・枝元亮子（徳島・城東） 90
川原樹子・佐野望（新潟・新潟青陵） 91
本田正恵・川戸和子（愛知・大府） 92
福田由貴・八重樫優佳（岩手・盛岡市立） 93
川副良子・中原千雅（山口・山口中央） 94
柴沙織・市川沙織（茨城・常総学院） 95
福井晃子・堀田千世（北北海道・旭川商業） 96
佐伯知佳・小櫻紗織（富山・高岡西） 97
赤尾美代・赤尾亜希（大分・昭和女子） 98

男子シングルス（98名）


1 佐藤翔治（東京・関東第一）
2 大田学（京都・京都両洋）
3 阿部翔太（佐賀・唐津工業）
4 齋藤和紀（秋田・横手工業）
5 縄田浩幸（岐阜・県立岐阜商業）
6 大日野広和（長野・松代）
7 谷圭一郎（徳島・徳島中央）
8 木村裕二（鳥取・米子西）
9 小倉保大（岩手・盛岡大学附属）
10 尾崎良助（滋賀・延暦寺学園比叡山）
11 門倉隼人（神奈川・元石川）
12 広瀬雅士（石川・金沢市立工業）
13 池田礼緒奈（熊本・八代東）
14 長原正博（南北海道・札幌第一）
15 蛯名翔（福島・白河旭）
16 細美智孝（高知・土佐）
17 安達俊晴（茨城・常総学院）
18 福澤優一（大分・別府鶴見丘）
19 中島悠也（富山・高岡第一）
20 野村征司（愛知・天白）
21 池田武樹（和歌山・星林）
22 坂本忠昭（山口・山口）
23 坂本茂行（千葉・千葉敬愛）
24 福山太郎（長崎・長崎西）
25 山下洋平（宮城・宮城県工業）
26 川村忠広（岩手・前沢）
27 石水宏幸（愛媛・新居浜西）
28 黒川裕也（島根・大東）
29 六本木勇人（群馬・太田市立商業）
30 豊中俊幸（奈良・奈良市立一条）
31 末永隆丸（鹿児島・鹿児島商業）
32 多田亮太（福井・勝山）
33 宮本光将（三重・伊勢工業）
34 森田達（福岡・九州国際大学付属）
35 金田宗典（山形・新庄工業）
36 菊地秀昭（埼玉・埼玉栄）
37 新開裕介（大阪・此花学院）
38 鈕佳平（青森・青森山田）
39 稲田耕治（岡山・倉敷工業）
40 知念正太（沖縄・沖縄水産）
41 本間裕樹（新潟・北越）
42 黄倉一徳（栃木・作新学院高等部）
43 尾崎弘一（静岡・伊東）
44 多田和生（広島・安佐北）
45 齋藤彰（兵庫・西宮北）
46 清水了（宮崎・日向）
47 川島健一（北北海道・旭川北）
48 椙本聖巳（山梨・都留）
49 前田丈博（香川・高松商業）
50 茂見祥平（熊本・八代東）
51 竹中直志（鳥取・倉吉工業）
52 米隆夫（富山・高岡工業）
53 谷耕平（徳島・城東）
54 関野有起（栃木・作新学院高等部）
55 鈴木知道（宮城・宮城県工業）
56 竹村純（北北海道・旭川工業）
57 時任圭（宮崎・日章学園）
58 五嶋健太（岩手・前沢）
59 井田一聡（群馬・前橋東）
60 西谷暢仁（奈良・奈良市立一条）
61 茶谷一平（愛知・天白）
62 佐伯浩一（岡山・水島工業）
63 潮田恭平（福岡・九州国際大学付属）
64 榊田旬平（秋田・横手工業）
65 小川純一（静岡・星陵）
66 北智文（和歌山・星林）
67 須藤恭伴（埼玉・越谷南）
68 福田和也（愛媛・西条農業）
69 渡井浩司（山梨・甲府商業）
70 加藤光貴（福島・帝京安積）
71 井餘田渉（大分・情報科学）
72 林遼太郎（長野・長野）
73 稲垣翔悟（滋賀・延暦寺学園比叡山）
74 山下淳（石川・金沢市立工業）
75 今橋篤彦（高知・高知東工業）
76 諸熊圭一（佐賀・唐津南）
77 梶川岳浩（広島・祇園北）
78 東村亮輔（兵庫・加古川東）
79 田中政臣（千葉・千葉敬愛）
80 早坂幸平（南北海道・札幌第一）
81 植木朝雄（沖縄・沖縄水産）
82 新門耕一（三重・暁）
83 佐々木翔（東京・関東第一）
84 桑原徹（新潟・長岡工業）
85 舘田真哉（青森・東奥義塾）
86 千田達也（岩手・前沢）
87 粟田淳（長崎・瓊浦）
88 田中良治（福井・勝山）
89 竹本圭吾（山口・山口）
90 畠山裕司（神奈川・川崎総合科学）
91 川前直樹（大阪・柏原）
92 河尻真秀（岐阜・岐阜工業）
93 川上大輔（島根・大東）
94 今野隆史（山形・鶴岡工業）
95 小国祐亮（京都・西乙訓）
96 宮崎智史（茨城・常総学院）
97 前原清一（鹿児島・鹿児島商業）
98 二宮和敬（香川・高松商業）

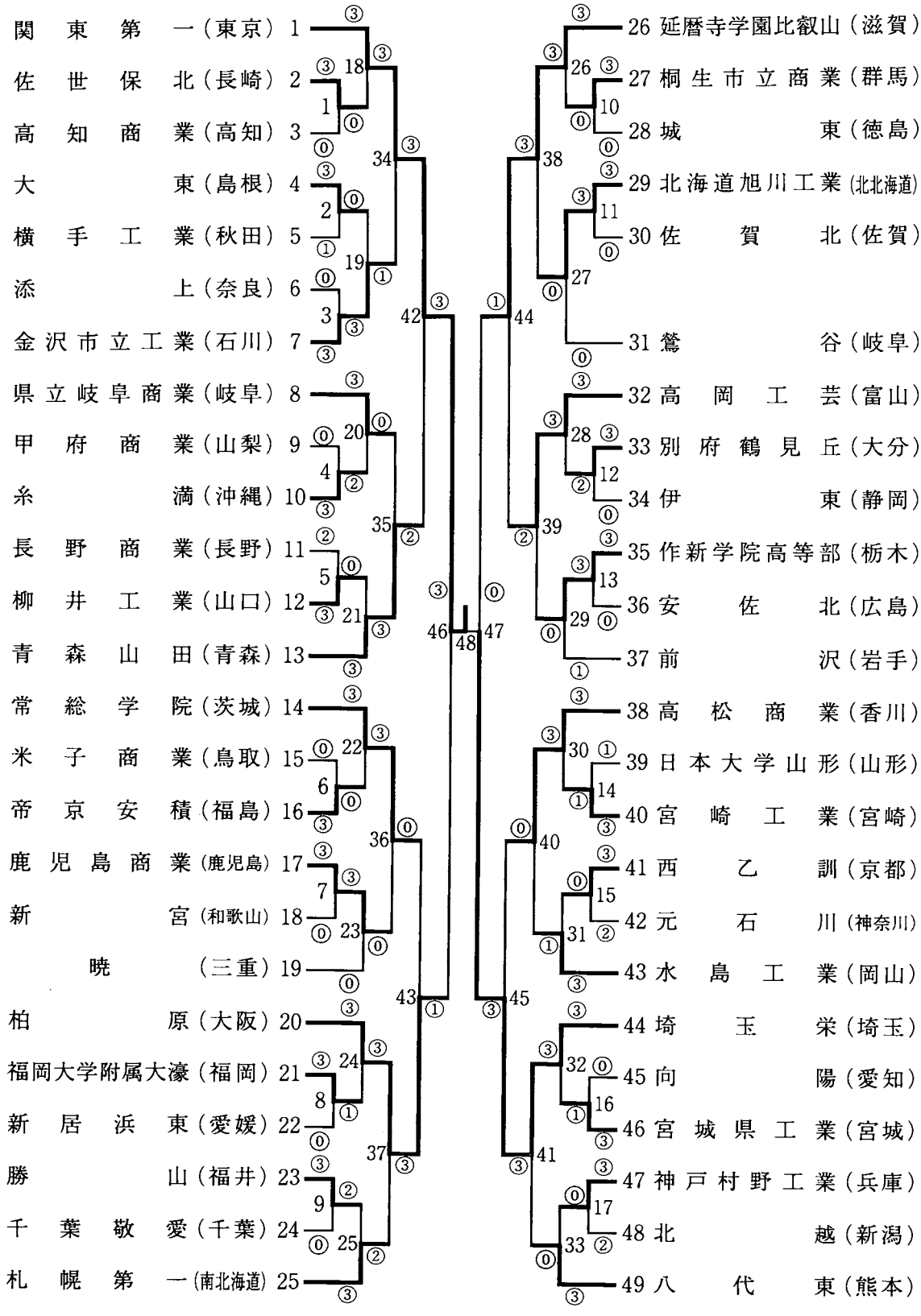
女子シングルス（98名）


1 赤尾美代（大分・昭和女子）
2 高橋久美子（岩手・前沢）
3 今川喬子（鳥取・境）
4 小椋久美子（大阪・四天王寺）
5 小林佳美（栃木・真岡女子）
6 尾崎貴子（静岡・静岡城北）
7 真鍋絵理（愛媛・新居浜西）
8 田村美幸（富山・高岡西）
9 山下和子（鹿児島・鹿児島女子）
10 宇佐美博子（秋田・新屋）
11 箱崎裕子（兵庫・親和女子）
12 濱田幸（島根・松江北）
13 南指原望美（群馬・前橋東）
14 谷口貴美（岡山・山陽女子）
15 土居樹理子（高知・土佐女子）
16 金内えり（山形・鶴岡工業）
17 山根愛弓（沖縄・具志川）
18 瀬能智子（千葉・西武台千葉）
19 本田いずみ（南北海道・札幌静修）
20 菊地絢子（青森・千葉学園）
21 田中祐美子（福井・足羽）
22 西原瑞穂（宮崎・宮崎商業）
23 藤田倫子（京都・西乙訓）
24 袋井和美（山梨・日川）
25 松尾宏美（三重・暁）
26 川村益美（岩手・前沢）
27 矢澤美晴（長野・松本松南）
28 中村貴美子（山口・中村女子）
29 石塚広美（茨城・常総学院）
30 宮本明奈（奈良・奈良市立一条）
31 松田友美（長崎・長崎女子）
32 倉井郁美（新潟・新潟青陵）
33 川戸和子（愛知・大府）
34 脇坂郁（福岡・精華女子）
35 大下詩織（埼玉・埼玉栄）
36 菊地由起子（福島・郡山東）
37 岸田鈴代（香川・香川中央）
38 澤憂妃（滋賀・滋賀女子）
39 野口理加（熊本・熊本信愛女学院）
40 曽我寛美（石川・金沢向陽）
41 安村枝穂（広島・広島桜が丘）
42 佐藤亜妃子（東京・淑徳巣鴨）
43 菊池亜矢子（北北海道・旭川実業）
44 橋場みゆき（神奈川・柏陽）
45 堀江祐香（岐阜・県立岐阜商業）
46 脇陽子（佐賀・佐賀女子）
47 藤山真理（徳島・城東）
48 木戸美奈（和歌山・有田中央）
49 寺本悦子（宮城・聖ウルスラ学院）
50 田上千晴（熊本・熊本信愛女学院）
51 岡香織（新潟・新潟青陵）
52 高橋明菜（千葉・東葉）
53 斎藤真弓（福島・若松女子）
54 古川亜希子（滋賀・滋賀女子）
55 堀江知代（広島・鈴峯女子）
56 濵口有里（香川・高松商業）
57 佐々木歩美（岩手・前沢）
58 服部絵美（宮崎・宮崎商業）
59 楠恵（東京・日本橋女学館）
60 久保美紀子（福井・勝山）
61 本田正恵（愛知・大府）
62 中島輝美（南北海道・札幌静修）
63 木村ゆかり（京都・西乙訓）
64 赤尾亜希（大分・昭和女子）
65 山本真弓（茨城・常総学院）
66 久次米美季（徳島・城東）
67 楊濤琳（青森・青森山田）
68 恵良恵（大阪・四天王寺）
69 川浪愛（佐賀・佐賀女子）
70 平井あゆみ（鳥取・米子東）
71 小林愛子（群馬・前橋東）
72 深貝尚子（岐阜・県立岐阜商業）
73 西宏予（石川・金沢向陽）
74 謝婷婷（埼玉・本庄第一）
75 栗加奈子（島根・大東）
76 平山愛（宮城・聖ウルスラ学院）
77 慶留間梢（沖縄・豊見城南）
78 青木歩（兵庫・園田学園）
79 木村佳奈（三重・暁）
80 岡林知佐（高知・土佐女子）
81 石川絵美（山梨・甲府商業）
82 今井幸代（富山・高岡西）
83 山口美鋭子（山形・山形城北女子）
84 前野聡子（鹿児島・鹿児島女子）
85 守屋仁美（岡山・山陽女子）
86 平賀香緒里（岩手・前沢）
87 西山真鯉子（長崎・長崎女子）
88 池田瞳（栃木・宇都宮南）
89 石川めぐみ（静岡・静岡城北）
90 武智悠里子（愛媛・新田）
91 福岡真理子（奈良・奈良市立一条）
92 武藤めぐみ（北北海道・帯広三条）
93 帯刀妙孔（長野・松本松南）
94 須崎由香（和歌山・新宮）
95 天野真奈美（秋田・新屋）
96 中原千雅（山口・山口中央）
97 辻野愛（神奈川・柏陽）
98 松尾美穂子（福岡・九州国際大学付属）

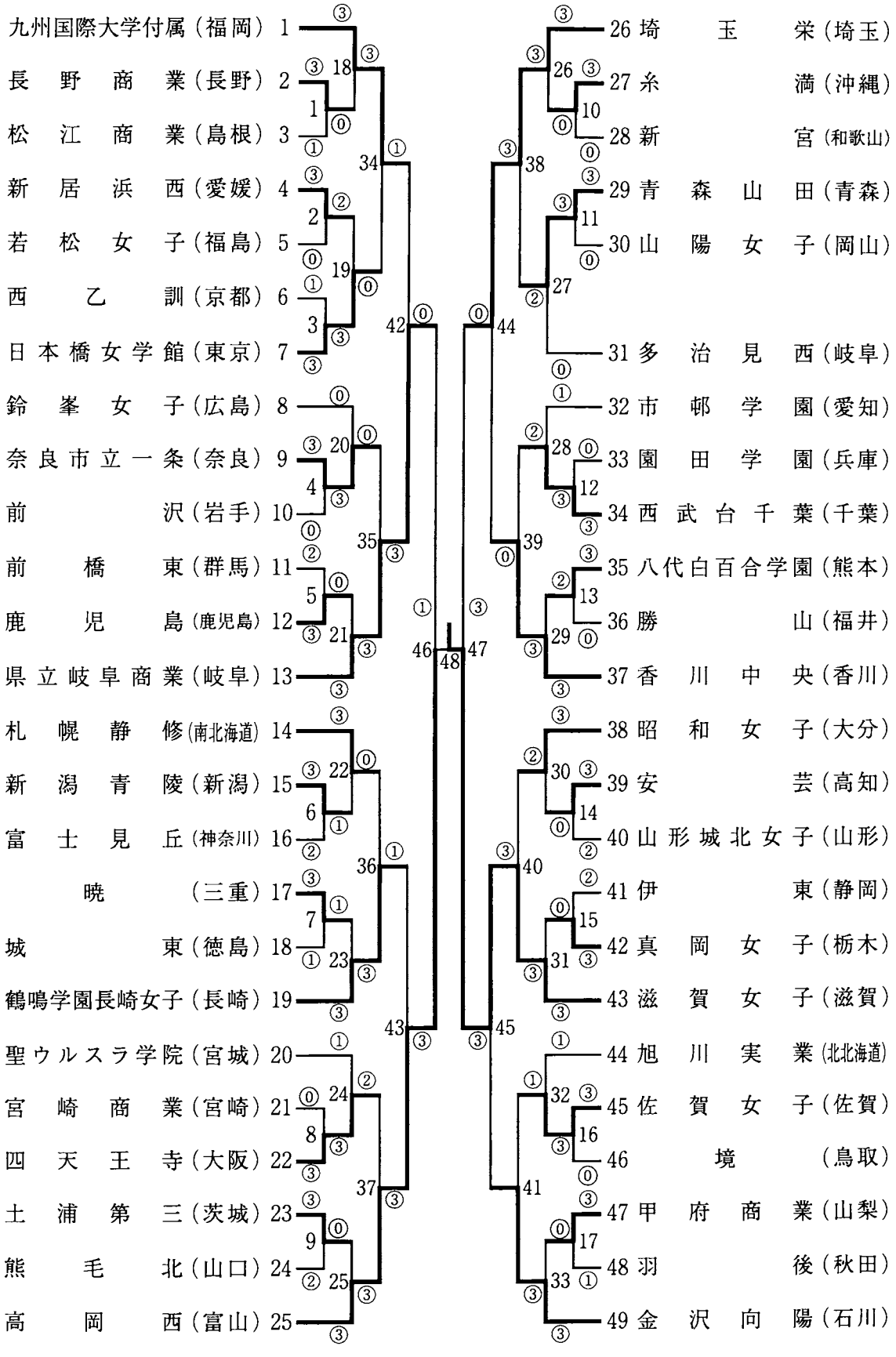
第51回全国高等学校バドミントン選手権大会（2000年度）

期日▶平成12年８月１日～６日
会場▶各務原市総合体育館・各務原高等学校体育館・蘇原中学校体育館
東海女子大学体育館・東海女子短期大学体育館・岐阜女子商業高等学校体育館

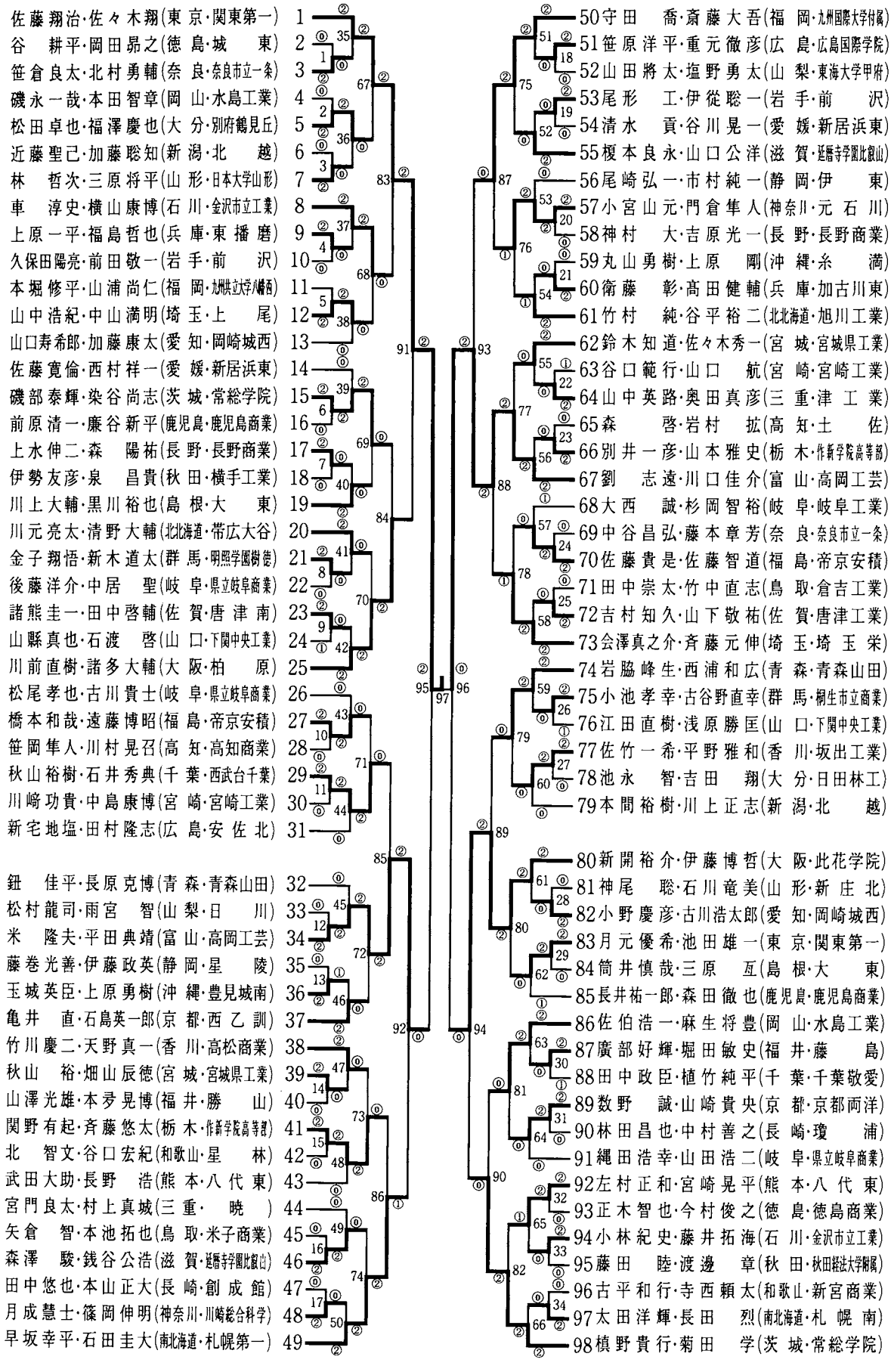
男子団体（49校）



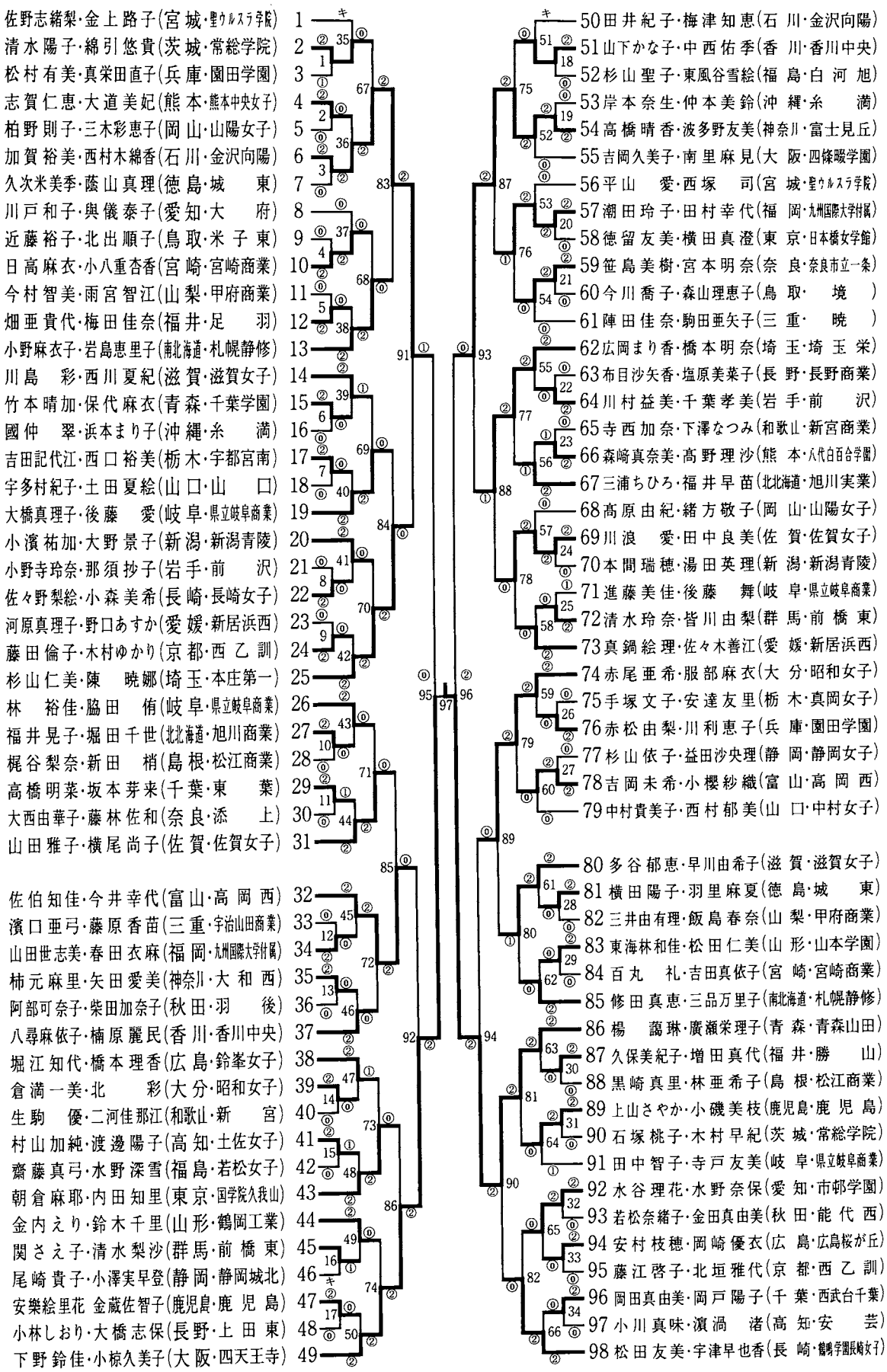
女子団体（49校）


九州国際大学付属（福岡） 1
長野商業（長野） 2
松江商業（島根） 3
新居浜西（愛媛） 4
若松女子（福島） 5
西乙訓（京都） 6
日本橋女学館（東京） 7
鈴峯女子（広島） 8
奈良市立一条（奈良） 9
前沢（岩手） 10
前橋東（群馬） 11
鹿児島（鹿児島） 12
県立岐阜商業（岐阜） 13
札幌静修（南北海道） 14
新潟青陵（新潟） 15
富士見丘（神奈川） 16
暁（三重） 17
城東（徳島） 18
鶴鳴学園長崎女子（長崎） 19
聖ウルスラ学院（宮城） 20
宮崎商業（宮崎） 21
四天王寺（大阪） 22
土浦第三（茨城） 23
熊毛北（山口） 24
高岡西（富山） 25
26 埼玉栄（埼玉）
27 糸満（沖縄）
28 新宮（和歌山）
29 青森山田（青森）
30 山陽女子（岡山）
31 多治見西（岐阜）
32 市邨学園（愛知）
33 園田学園（兵庫）
34 西武台千葉（千葉）
35 八代白百合学園（熊本）
36 勝山（福井）
37 香川中央（香川）
38 昭和女子（大分）
39 安芸（高知）
40 山形城北女子（山形）
41 伊東（静岡）
42 真岡女子（栃木）
43 滋賀女子（滋賀）
44 旭川実業（北北海道）
45 佐賀女子（佐賀）
46 境（鳥取）
47 甲府商業（山梨）
48 羽後（秋田）
49 金沢向陽（石川）

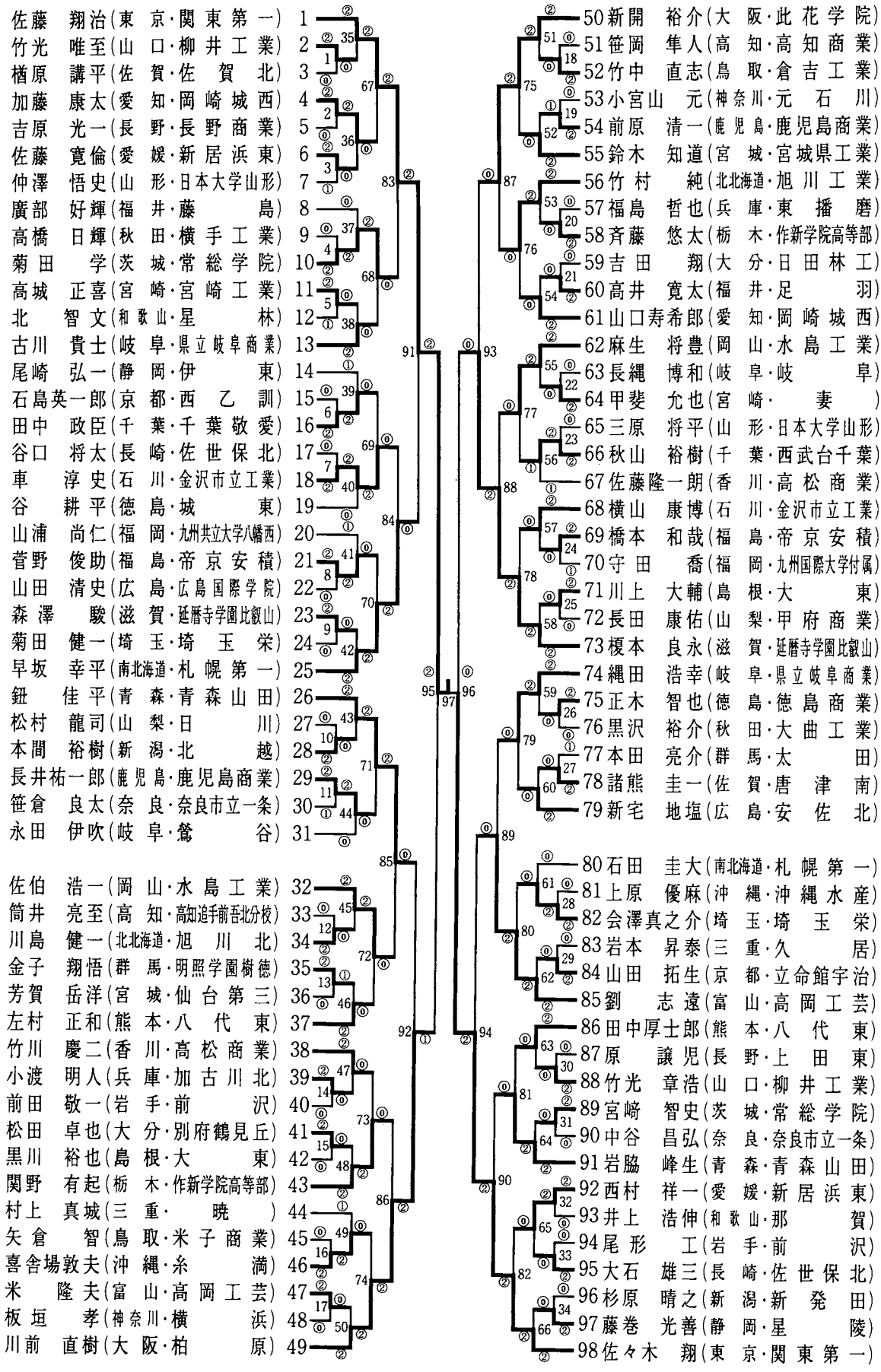
男子ダブルス（98組）


佐藤翔治・佐々木翔(東京・関東第一) 1
谷　耕平・岡田昂之(徳島・城　東) 2
笹倉良太・北村勇輔(奈良・奈良市立一条) 3
磯永一哉・本田智章(岡山・水島工業) 4
松田卓也・福澤慶也(大分・別府鶴見丘) 5
近藤聖己・加藤聡知(新潟・北　越) 6
林　哲次・三原将平(山形・日本大学山形) 7
車　淳史・横山康博(石川・金沢市立工業) 8
上原一平・福島哲也(兵庫・東播磨) 9
久保田陽亮・前田敬一(岩手・前　沢) 10
本堀修平・山浦尚仁(福岡・九州共立大学八幡西) 11
山中浩紀・中山満明(埼玉・上　尾) 12
山口寿希郎・加藤康太(愛知・岡崎城西) 13
佐藤寛倫・西村祥一(愛媛・新居浜東) 14
磯部泰輝・染谷尚志(茨城・常総学院) 15
前原清一・廉谷新平(鹿児島・鹿児島商業) 16
上水伸二・森　陽祐(長野・長野商業) 17
伊勢友彦・泉　昌貴(秋田・横手工業) 18
川上大輔・黒川裕也(島根・大　東) 19
川元亮太・清野大輔(北北海道・帯広大谷) 20
金子翔悟・新木道太(群馬・明照学園樹徳) 21
後藤洋介・中居　聖(岐阜・県立岐阜商業) 22
諸熊圭一・田中啓輔(佐賀・唐津南) 23
山縣真也・石渡　啓(山口・下関中央工業) 24
川前直樹・諸多大輔(大阪・柏　原) 25
松尾孝也・古川貴士(岐阜・県立岐阜商業) 26
橋本和哉・遠藤博昭(福島・帝京安積) 27
笹岡隼人・川村晃召(高知・高知商業) 28
秋山裕樹・石井秀典(千葉・西武台千葉) 29
川崎功貴・中島康博(宮崎・宮崎工業) 30
新宅地塩・田村隆志(広島・安佐北) 31
鈕　佳平・長原克博(青森・青森山田) 32
松村龍司・雨宮　智(山梨・日　川) 33
米　隆夫・平田典靖(富山・高岡工芸) 34
藤巻光善・伊藤政英(静岡・星　陵) 35
玉城英臣・上原勇樹(沖縄・豊見城南) 36
亀井　直・石島英一郎(京都・西乙訓) 37
竹川慶二・天野真一(香川・高松商業) 38
秋山　裕・畑山辰徳(宮城・宮城県工業) 39
山澤光雄・本尋晃博(福井・勝　山) 40
関野有起・斉藤悠太(栃木・作新学院高等部) 41
北　智文・谷口宏紀(和歌山・星　林) 42
武田大助・長野　浩(熊本・八代東) 43
宮門良太・村上真城(三重・　暁　) 44
矢倉　智・本池拓也(鳥取・米子商業) 45
森澤　駿・銭谷公浩(滋賀・延暦寺学園比叡山) 46
田中悠也・本山正大(長崎・創成館) 47
月成慧士・篠岡伸明(神奈川・川崎総合科学) 48
早坂幸平・石田圭大(南北海道・札幌第一) 49
守田　喬・斎藤大吾(福岡・九州国際大学付属) 50
笹原洋平・重元徹彦(広島・広島国際学院) 51
山田將太・塩野勇太(山梨・東海大学甲府) 52
尾形　工・伊從聡一(岩手・前　沢) 53
清水　貢・谷川晃一(愛媛・新居浜東) 54
榎本良永・山口公洋(滋賀・延暦寺学園比叡山) 55
尾崎弘一・市村純一(静岡・伊　東) 56
小宮山元・門倉隼人(神奈川・元石川) 57
神村　大・吉原光一(長野・長野商業) 58
丸山勇樹・上原　剛(沖縄・糸　満) 59
衛藤　彰・髙田健輔(兵庫・加古川東) 60
竹村　純・谷平裕二(北北海道・旭川工業) 61
鈴木知道・佐々木秀一(宮城・宮城県工業) 62
谷口範行・山口　航(宮崎・宮崎工業) 63
山中英路・奥田真彦(三重・津工業) 64
森　啓・岩村　拡(高知・土　佐) 65
別井一彦・山本雅史(栃木・作新学院高等部) 66
劉　志遠・川口佳介(富山・高岡工芸) 67
大西　誠・杉岡智裕(岐阜・岐阜工業) 68
中谷昌弘・藤本章芳(奈良・奈良市立一条) 69
佐藤貴是・佐藤智道(福島・帝京安積) 70
田中崇太・竹中直志(鳥取・倉吉工業) 71
吉村知久・山下敬祐(佐賀・唐津工業) 72
会澤真之介・斉藤元伸(埼玉・埼玉栄) 73
岩脇峰生・西浦和広(青森・青森山田) 74
小池孝幸・古谷野直幸(群馬・桐生市立商業) 75
江田直樹・浅原勝匡(山口・下関中央工業) 76
佐竹一希・平野雅和(香川・坂出工業) 77
池永　智・吉田　翔(大分・日田林工) 78
本間裕樹・川上正志(新潟・北　越) 79
新開裕介・伊藤博哲(大阪・此花学院) 80
神尾　聡・石川竜美(山形・新庄北) 81
小野慶彦・古川浩太郎(愛知・岡崎城西) 82
月元優希・池田雄一(東京・関東第一) 83
筒井慎哉・三原　亙(島根・大　東) 84
長井祐一郎・森田徹也(鹿児島・鹿児島商業) 85
佐伯浩一・麻生将豊(岡山・水島工業) 86
廣部好輝・堀田敏史(福井・藤　島) 87
田中政臣・植竹純平(千葉・千葉敬愛) 88
数野　誠・山崎貴央(京都・京都両洋) 89
林田昌也・中村善之(長崎・瓊　浦) 90
縄田浩幸・山田浩二(岐阜・県立岐阜商業) 91
左村正和・宮崎晃平(熊本・八代東) 92
正木智也・今村俊之(徳島・徳島商業) 93
小林紀史・藤井拓海(石川・金沢市立工業) 94
藤田　睦・渡邊　章(秋田・秋田経法大学附属) 95
古平和行・寺西頼太(和歌山・新宮商業) 96
太田洋輝・長田　烈(南北海道・札幌南) 97
槙野貴行・菊田　学(茨城・常総学院) 98

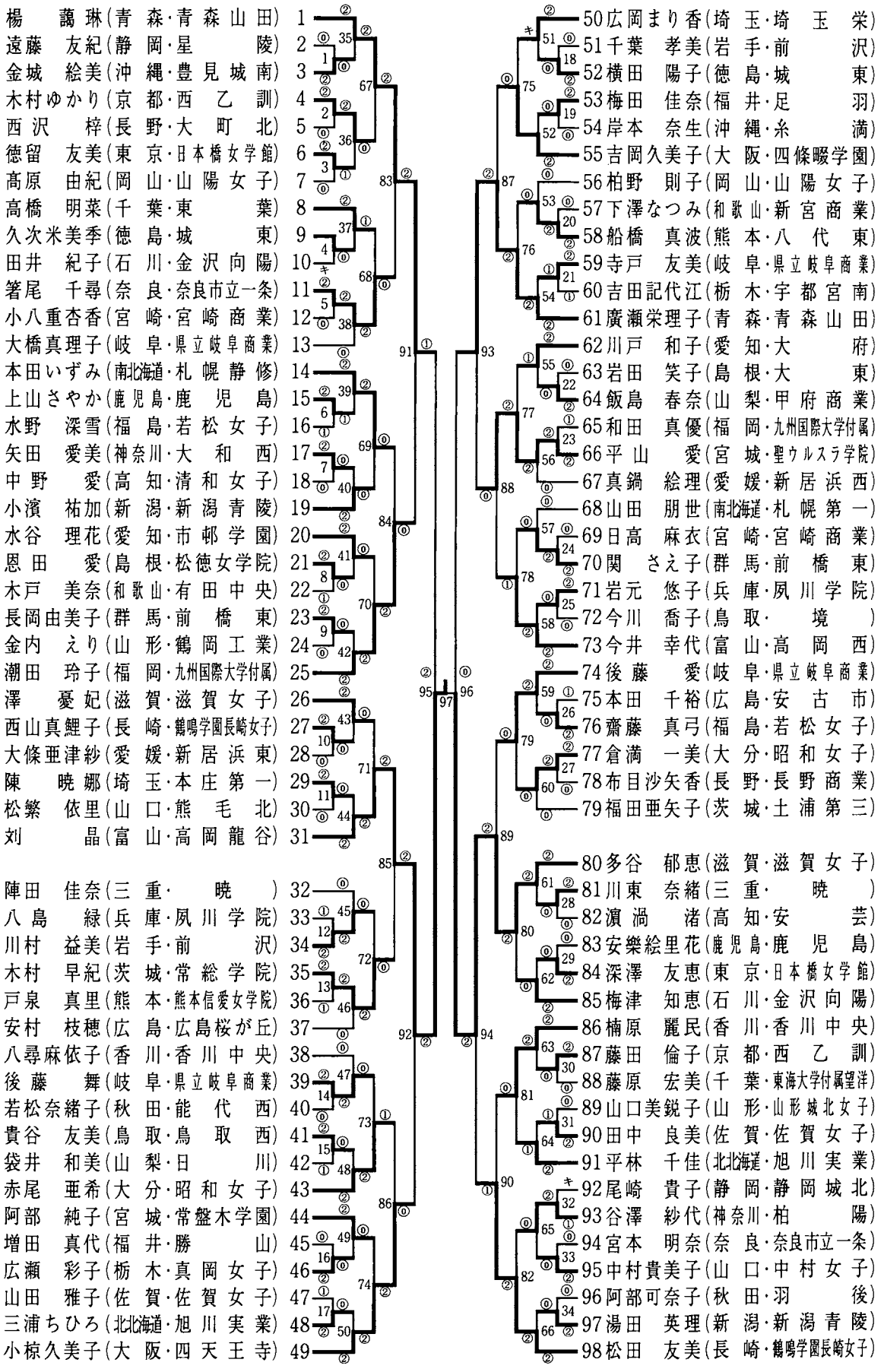
女子ダブルス（98組）


1 佐野志緒梨・金上路子(宮城・聖ウルスラ学院)
2 清水陽子・綿引悠貴(茨城・常総学院)
3 松村有美・真栄田直子(兵庫・園田学園)
4 志賀仁恵・大道美妃(熊本・熊本中央女子)
5 柏野則子・三木彩恵子(岡山・山陽女子)
6 加賀裕美・西村木綿香(石川・金沢向陽)
7 久次米美季・蔭山真理(徳島・城東)
8 川戸和子・與儀泰子(愛知・大府)
9 近藤裕子・北出順子(鳥取・米子東)
10 日高麻衣・小八重杏香(宮崎・宮崎商業)
11 今村智美・雨宮智江(山梨・甲府商業)
12 畑亜貴代・梅田佳奈(福井・足羽)
13 小野麻衣子・岩島恵里子(南北海道・札幌静修)
14 川島彩・西川夏紀(滋賀・滋賀女子)
15 竹本晴加・保代麻衣(青森・千葉学園)
16 國仲翠・浜本まり子(沖縄・糸満)
17 吉田記代江・西口裕美(栃木・宇都宮南)
18 宇多村紀子・土田夏絵(山口・山口)
19 大橋真理子・後藤愛(岐阜・県立岐阜商業)
20 小濱祐加・大野景子(新潟・新潟青陵)
21 小野寺玲奈・那須抄子(岩手・前沢)
22 佐々野梨絵・小森美希(長崎・長崎女子)
23 河原真理子・野口あすか(愛媛・新居浜西)
24 藤田倫子・木村ゆかり(京都・西乙訓)
25 杉山仁美・陳暁娜(埼玉・本庄第一)
26 林裕佳・脇田侑(岐阜・県立岐阜商業)
27 福井晃子・堀田千世(北北海道・旭川商業)
28 梶谷梨奈・新田梢(島根・松江商業)
29 高橋明菜・坂本芽来(千葉・東葉)
30 大西由華子・藤林佐和(奈良・添上)
31 山田雅子・横尾尚子(佐賀・佐賀女子)
32 佐伯知佳・今井幸代(富山・高岡西)
33 濱口亜弓・藤原香苗(三重・宇治山田商業)
34 山田世志美・春田衣麻(福岡・九州国際大学附属)
35 柿元麻里・矢田愛美(神奈川・大和西)
36 阿部可奈子・柴田加奈子(秋田・羽後)
37 八尋麻依子・楠原麗民(香川・香川中央)
38 堀江知代・橋本理香(広島・鈴峯女子)
39 倉満一美・北彩(大分・昭和女子)
40 生駒優・二河佳那江(和歌山・新宮)
41 村山加純・渡邊陽子(高知・土佐女子)
42 齋藤真弓・水野深雪(福島・若松女子)
43 朝倉麻耶・内田知里(東京・国学院久我山)
44 金内えり・鈴木千里(山形・鶴岡工業)
45 関さえ子・清水梨沙(群馬・前橋東)
46 尾崎貴子・小澤実早登(静岡・静岡城北)
47 安樂絵里花・金蔵佐智子(鹿児島・鹿児島)
48 小林しおり・大橋志保(長野・上田東)
49 下野鈴佳・小椋久美子(大阪・四天王寺)
50 田井紀子・梅津知恵(石川・金沢向陽)
51 山下かな子・中西佑季(香川・香川中央)
52 杉山聖子・東風谷雪絵(福島・白河旭)
53 岸本奈生・仲本美鈴(沖縄・糸満)
54 高橋晴香・波多野友美(神奈川・富士見丘)
55 吉岡久美子・南里麻見(大阪・四條畷学園)
56 平山愛・西塚司(宮城・聖ウルスラ学院)
57 潮田玲子・田村幸代(福岡・九州国際大学附属)
58 徳留友美・横田真澄(東京・日本橋女学館)
59 笹島美樹・宮本明奈(奈良・奈良市立一条)
60 今川喬子・森山理恵子(鳥取・境)
61 陣田佳奈・駒田亜矢子(三重・暁)
62 広岡まり香・橋本明奈(埼玉・埼玉栄)
63 布目沙矢香・塩原美菜子(長野・長野商業)
64 川村益美・千葉孝美(岩手・前沢)
65 寺西加奈・下澤なつみ(和歌山・新宮商業)
66 森崎真奈美・高野理沙(熊本・八代白百合学園)
67 三浦ちひろ・福井早苗(北北海道・旭川実業)
68 髙原由紀・緒方敬子(岡山・山陽女子)
69 川浪愛・田中良美(佐賀・佐賀女子)
70 本間瑞穂・湯田英理(新潟・新潟青陵)
71 進藤美佳・後藤舞(岐阜・県立岐阜商業)
72 清水玲奈・皆川由梨(群馬・前橋東)
73 真鍋絵理・佐々木善江(愛媛・新居浜西)
74 赤尾亜希・服部麻衣(大分・昭和女子)
75 手塚文子・安達友里(栃木・真岡女子)
76 赤松由梨・川利恵子(兵庫・園田学園)
77 杉山依子・益田沙央理(静岡・静岡女子)
78 吉岡未希・小櫻紗織(富山・高岡西)
79 中村貴美子・西村郁美(山口・中村女子)
80 多谷郁恵・早川由希子(滋賀・滋賀女子)
81 横田陽子・羽里麻夏(徳島・城東)
82 三井由有理・飯島春奈(山梨・甲府商業)
83 東海林和佳・松田仁美(山形・山本学園)
84 百丸礼・吉田真依子(宮崎・宮崎商業)
85 修田真恵・三品万里子(南北海道・札幌静修)
86 楊藹琳・廣瀬栄理子(青森・青森山田)
87 久保美紀子・増田真代(福井・勝山)
88 黒崎真里・林亜希子(島根・松江商業)
89 上山さやか・小磯美枝(鹿児島・鹿児島)
90 石塚桃子・木村早紀(茨城・常総学院)
91 田中智子・寺戸友美(岐阜・県立岐阜商業)
92 水谷理花・水野奈保(愛知・市邨学園)
93 若松奈緒子・金田真由美(秋田・能代西)
94 安村枝穂・岡崎優衣(広島・広島桜が丘)
95 藤江啓子・北垣雅代(京都・西乙訓)
96 岡田真由美・岡戸陽子(千葉・西武台千葉)
97 小川真味・濵渦渚(高知・安芸)
98 松田友美・宇津早也香(長崎・鶴鳴学園長崎女子)

男子シングルス（98名）


1 佐藤 翔治（東 京・関東第一）
2 竹光 唯至（山 口・柳井工業）
3 楢原 講平（佐 賀・佐 賀 北）
4 加藤 康太（愛 知・岡崎城西）
5 吉原 光一（長 野・長野商業）
6 佐藤 寛倫（愛 媛・新居浜東）
7 仲澤 悟史（山 形・日本大学山形）
8 廣部 好輝（福 井・藤 島）
9 高橋 日輝（秋 田・横手工業）
10 菊田 学（茨 城・常総学院）
11 高城 正喜（宮 崎・宮崎工業）
12 北 智文（和歌山・星 林）
13 古川 貴士（岐 阜・県立岐阜商業）
14 尾崎 弘一（静 岡・伊 東）
15 石島英一郎（京 都・西 乙 訓）
16 田中 政臣（千 葉・千葉敬愛）
17 谷口 将太（長 崎・佐世保北）
18 車 淳史（石 川・金沢市立工業）
19 谷 耕平（徳 島・城 東）
20 山浦 尚仁（福 岡・九州共立大学八幡西）
21 菅野 俊助（福 島・帝京安積）
22 山田 清史（広 島・広島国際学院）
23 森澤 駿（滋 賀・延暦寺学園比叡山）
24 菊田 健一（埼 玉・埼 玉 栄）
25 早坂 幸平（南北海道・札幌第一）
26 鈕 佳平（青 森・青森山田）
27 松村 龍司（山 梨・日 川）
28 本間 裕樹（新 潟・北 越）
29 長井祐一郎（鹿児島・鹿児島商業）
30 笹倉 良太（奈 良・奈良市立一条）
31 永田 伊吹（岐 阜・鷲 谷）
32 佐伯 浩一（岡 山・水島工業）
33 筒井 亮至（高 知・高知追手前吾北分校）
34 川島 健一（北北海道・旭 川 北）
35 金子 翔悟（群 馬・明照学園樹徳）
36 芳賀 岳洋（宮 城・仙台第三）
37 左村 正和（熊 本・八 代 東）
38 竹川 慶二（香 川・高松商業）
39 小渡 明人（兵 庫・加古川北）
40 前田 敬一（岩 手・前 沢）
41 松田 卓也（大 分・別府鶴見丘）
42 黒川 裕也（島 根・大 東）
43 関野 有起（栃 木・作新学院高等部）
44 村上 真城（三 重・ 暁 ）
45 矢倉 智（鳥 取・米子商業）
46 喜舎場敦夫（沖 縄・糸 満）
47 米 隆夫（富 山・高岡工芸）
48 板垣 孝（神奈川・横 浜）
49 川前 直樹（大 阪・柏 原）
50 新開 裕介（大 阪・此花学院）
51 笹岡 隼人（高 知・高知商業）
52 竹中 直志（鳥 取・倉吉工業）
53 小宮山 元（神奈川・元 石 川）
54 前原 清一（鹿児島・鹿児島商業）
55 鈴木 知道（宮 城・宮城県工業）
56 竹村 純（北北海道・旭川工業）
57 福島 哲也（兵 庫・東 播 磨）
58 斉藤 悠太（栃 木・作新学院高等部）
59 吉田 翔（大 分・日田林工）
60 高井 寛太（福 井・足 羽）
61 山口寿希郎（愛 知・岡崎城西）
62 麻生 将豊（岡 山・水島工業）
63 長縄 博和（岐 阜・岐 阜）
64 甲斐 允也（宮 崎・ 妻 ）
65 三原 将平（山 形・日本大学山形）
66 秋山 裕樹（千 葉・西武台千葉）
67 佐藤隆一朗（香 川・高松商業）
68 横山 康博（石 川・金沢市立工業）
69 橋本 和哉（福 島・帝京安積）
70 守田 喬（福 岡・九州国際大学付属）
71 川上 大輔（島 根・大 東）
72 長田 康佑（山 梨・甲府商業）
73 榎本 良永（滋 賀・延暦寺学園比叡山）
74 縄田 浩幸（岐 阜・県立岐阜商業）
75 正木 智也（徳 島・徳島商業）
76 黒沢 裕介（秋 田・大曲工業）
77 本田 亮介（群 馬・太 田）
78 諸熊 圭一（佐 賀・唐 津 南）
79 新宅 地塩（広 島・安 佐 北）
80 石田 圭大（南北海道・札幌第一）
81 上原 優麻（沖 縄・沖縄水産）
82 会澤真之介（埼 玉・埼 玉 栄）
83 岩本 昇泰（三 重・久 居）
84 山田 拓生（京 都・立命館宇治）
85 劉 志遠（富 山・高岡工芸）
86 田中厚士郎（熊 本・八 代 東）
87 原 譲児（長 野・上 田 東）
88 竹光 章浩（山 口・柳井工業）
89 宮崎 智史（茨 城・常総学院）
90 中谷 昌弘（奈 良・奈良市立一条）
91 岩脇 峰生（青 森・青森山田）
92 西村 祥一（愛 媛・新居浜東）
93 井上 浩伸（和歌山・那 賀）
94 尾形 工（岩 手・前 沢）
95 大石 雄三（長 崎・佐世保北）
96 杉原 晴之（新 潟・新 発 田）
97 藤巻 光善（静 岡・星 陵）
98 佐々木 翔（東 京・関東第一）

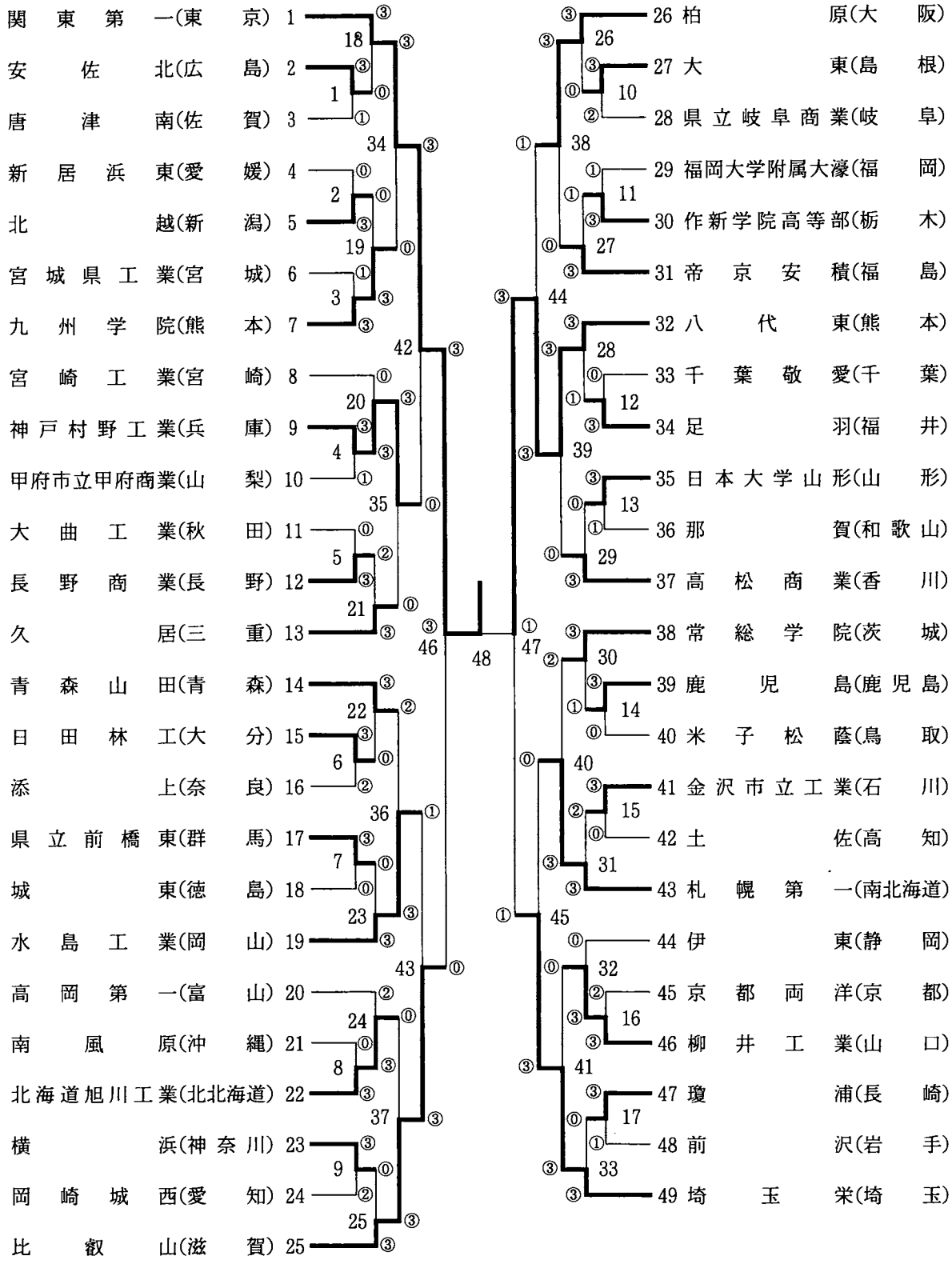
女子シングルス（98名）


楊　蘊琳（青森・青森山田）1
遠藤　友紀（静岡・星陵）2
金城　絵美（沖縄・豊見城南）3
木村ゆかり（京都・西乙訓）4
西沢　梓（長野・大町北）5
徳留　友美（東京・日本橋女学館）6
髙原　由紀（岡山・山陽女子）7
髙橋　明菜（千葉・東葉）8
久次米美季（徳島・城東）9
田井　紀子（石川・金沢向陽）10
箸尾　千尋（奈良・奈良市立一条）11
小八重杏香（宮崎・宮崎商業）12
大橋真理子（岐阜・県立岐阜商業）13
本田いずみ（南北海道・札幌静修）14
上山さやか（鹿児島・鹿児島）15
水野　深雪（福島・若松女子）16
矢田　愛美（神奈川・大和西）17
中野　愛（高知・清和女子）18
小濱　祐加（新潟・新潟青陵）19
水谷　理花（愛知・市邨学園）20
恩田　愛（島根・松徳女学院）21
木戸　美奈（和歌山・有田中央）22
長岡由美子（群馬・前橋東）23
金内　えり（山形・鶴岡工業）24
潮田　玲子（福岡・九州国際大学付属）25
澤　憂妃（滋賀・滋賀女子）26
西山真鯉子（長崎・鶴鳴学園長崎女子）27
大條亜津紗（愛媛・新居浜東）28
陳　暁娜（埼玉・本庄第一）29
松繁　依里（山口・熊毛北）30
刘　晶（富山・高岡龍谷）31
陣田　佳奈（三重・暁）32
八島　緑（兵庫・夙川学院）33
川村　益美（岩手・前沢）34
木村　早紀（茨城・常総学院）35
戸泉　真里（熊本・熊本信愛女学院）36
安村　枝穂（広島・広島桜が丘）37
八尋麻依子（香川・香川中央）38
後藤　舞（岐阜・県立岐阜商業）39
若松奈緒子（秋田・能代西）40
貴谷　友美（鳥取・鳥取西）41
袋井　和美（山梨・日川）42
赤尾　亜希（大分・昭和女子）43
阿部　純子（宮城・常盤木学園）44
増田　真代（福井・勝山）45
広瀬　彩子（栃木・真岡女子）46
山田　雅子（佐賀・佐賀女子）47
三浦ちひろ（北北海道・旭川実業）48
小椋久美子（大阪・四天王寺）49
50広岡まり香（埼玉・埼玉栄）
51千葉　孝美（岩手・前沢）
52横田　陽子（徳島・城東）
53梅田　佳奈（福井・足羽）
54岸本　奈生（沖縄・糸満）
55吉岡久美子（大阪・四條畷学園）
56柏野　則子（岡山・山陽女子）
57下澤なつみ（和歌山・新宮商業）
58船橋　真波（熊本・八代東）
59寺戸　友美（岐阜・県立岐阜商業）
60吉田記代江（栃木・宇都宮南）
61廣瀬栄理子（青森・青森山田）
62川戸　和子（愛知・大府）
63岩田　笑子（島根・大東）
64飯島　春奈（山梨・甲府商業）
65和田　真優（福岡・九州国際大学付属）
66平山　愛（宮城・聖ウルスラ学院）
67真鍋　絵理（愛媛・新居浜西）
68山田　朋世（南北海道・札幌第一）
69日高　麻衣（宮崎・宮崎商業）
70関　さえ子（群馬・前橋東）
71岩元　悠子（兵庫・夙川学院）
72今川　喬子（鳥取・境）
73今井　幸代（富山・高岡西）
74後藤　愛（岐阜・県立岐阜商業）
75本田　千裕（広島・安古市）
76齋藤　真弓（福島・若松女子）
77倉満　一美（大分・昭和女子）
78布目沙矢香（長野・長野商業）
79福田亜矢子（茨城・土浦第三）
80多谷　郁恵（滋賀・滋賀女子）
81川東　奈緒（三重・暁）
82濵渦　渚（高知・安芸）
83安樂絵里花（鹿児島・鹿児島）
84深澤　友恵（東京・日本橋女学館）
85梅津　知恵（石川・金沢向陽）
86楠原　麗民（香川・香川中央）
87藤田　倫子（京都・西乙訓）
88藤原　宏美（千葉・東海大学付属望洋）
89山口美鋭子（山形・山形城北女子）
90田中　良美（佐賀・佐賀女子）
91平林　千佳（北北海道・旭川実業）
92尾崎　貴子（静岡・静岡城北）
93谷澤　紗代（神奈川・柏陽）
94宮本　明奈（奈良・奈良市立一条）
95中村貴美子（山口・中村女子）
96阿部可奈子（秋田・羽後）
97湯田　英理（新潟・新潟青陵）
98松田　友美（長崎・鶴鳴学園長崎女子）

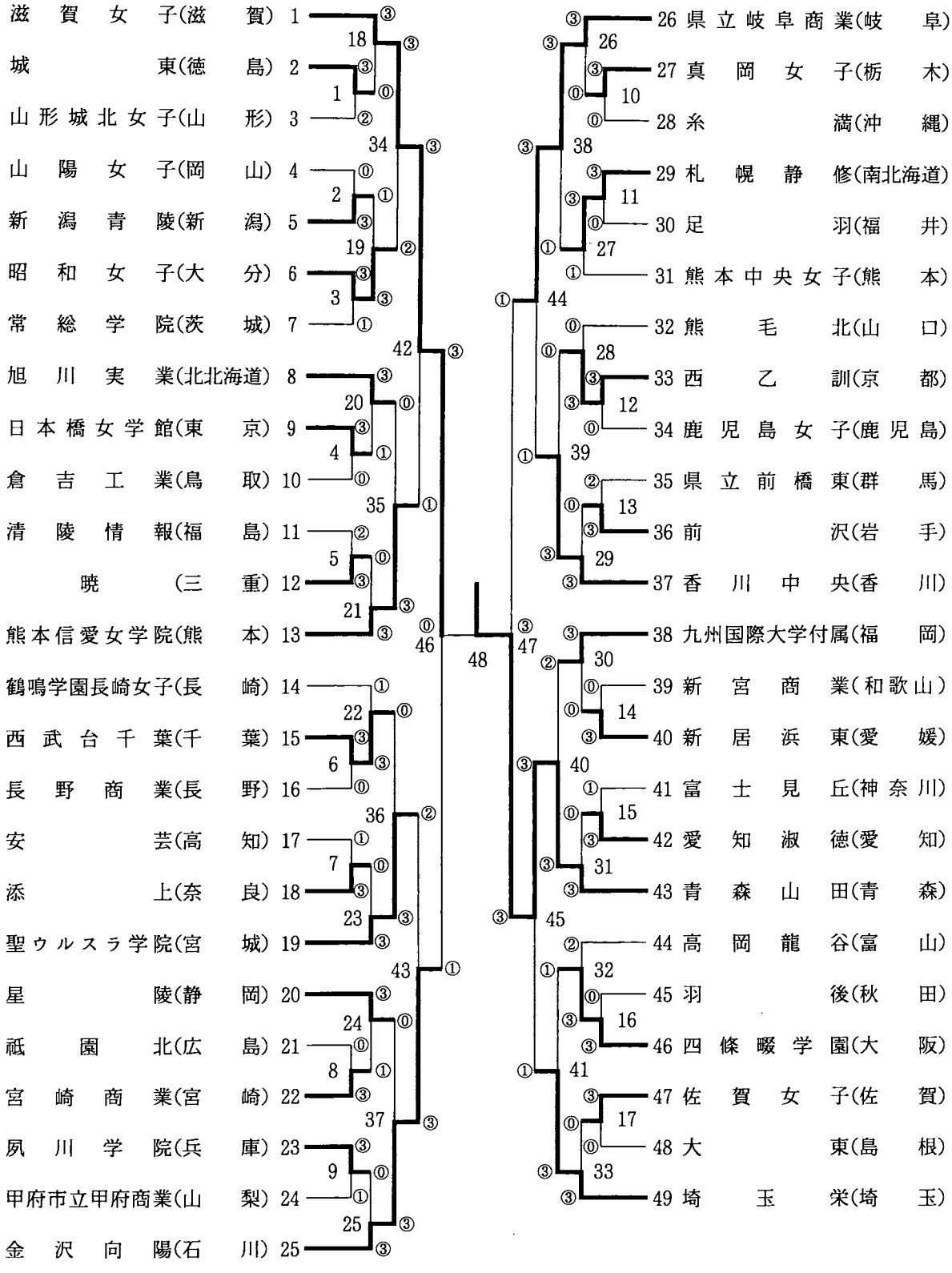
第52回全国高等学校バドミントン選手権大会（2001年度）

期日▶平成13年８月１日～６日
会場▶八代市総合体育館・宮原町民体育館・竜北町体育センター・熊本県立八代高等学校体育館
熊本県立八代東高等学校体育館・熊本県立八代工業高等学校体育館・八代白百合学園高等学校体育館

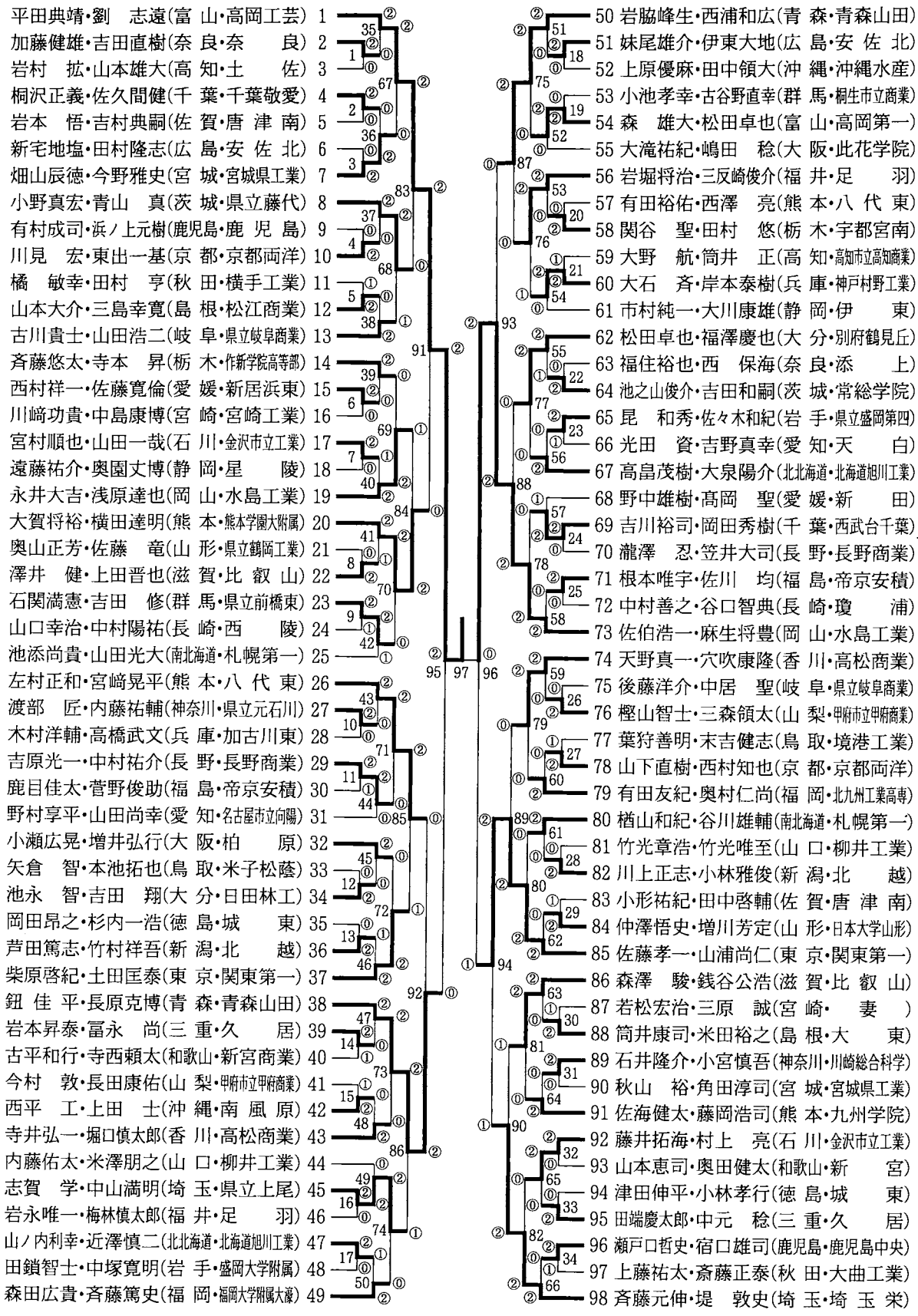
男子団体（49校）



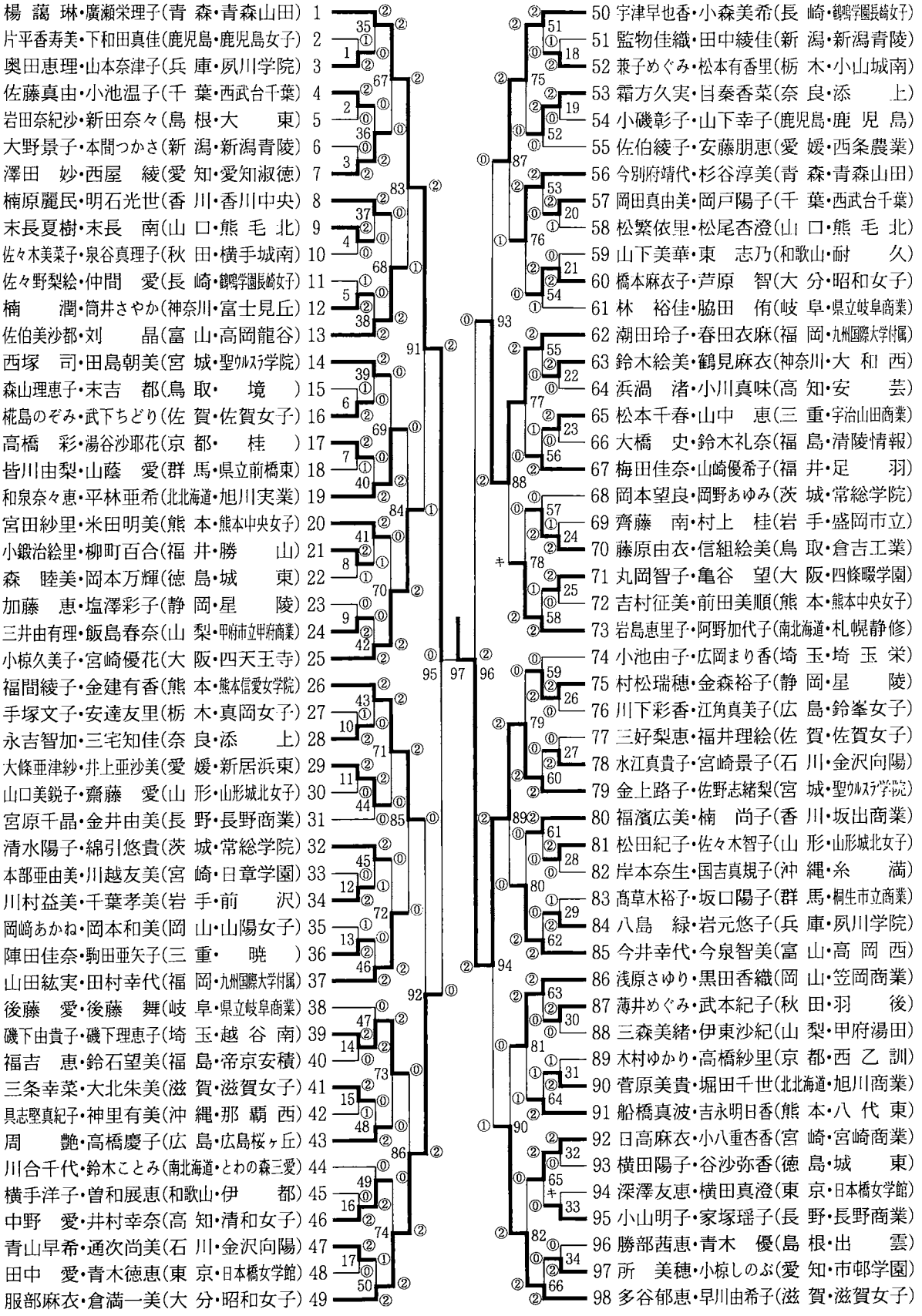
女子団体（49校）


滋賀女子(滋賀) 1
城東(徳島) 2
山形城北女子(山形) 3
山陽女子(岡山) 4
新潟青陵(新潟) 5
昭和女子(大分) 6
常総学院(茨城) 7
旭川実業(北北海道) 8
日本橋女学館(東京) 9
倉吉工業(鳥取) 10
清陵情報(福島) 11
暁(三重) 12
熊本信愛女学院(熊本) 13
鶴鳴学園長崎女子(長崎) 14
西武台千葉(千葉) 15
長野商業(長野) 16
安芸(高知) 17
添上(奈良) 18
聖ウルスラ学院(宮城) 19
星陵(静岡) 20
祇園北(広島) 21
宮崎商業(宮崎) 22
夙川学院(兵庫) 23
甲府市立甲府商業(山梨) 24
金沢向陽(石川) 25
26 県立岐阜商業(岐阜)
27 真岡女子(栃木)
28 糸満(沖縄)
29 札幌静修(南北海道)
30 足羽(福井)
31 熊本中央女子(熊本)
32 熊毛北(山口)
33 西乙訓(京都)
34 鹿児島女子(鹿児島)
35 県立前橋東(群馬)
36 前沢(岩手)
37 香川中央(香川)
38 九州国際大学付属(福岡)
39 新宮商業(和歌山)
40 新居浜東(愛媛)
41 富士見丘(神奈川)
42 愛知淑徳(愛知)
43 青森山田(青森)
44 高岡龍谷(富山)
45 羽後(秋田)
46 四條畷学園(大阪)
47 佐賀女子(佐賀)
48 大東(島根)
49 埼玉栄(埼玉)

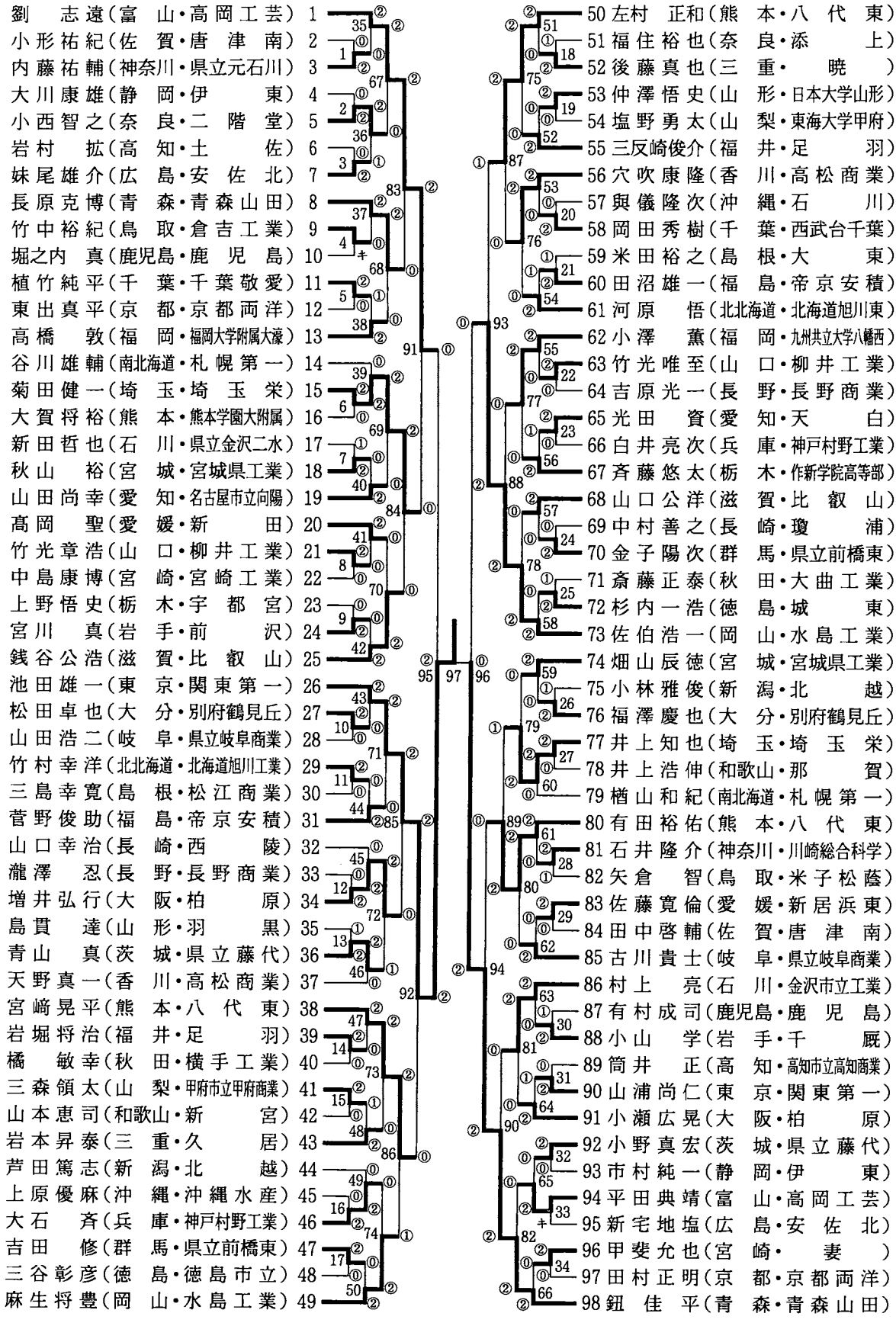
男子ダブルス（98組）


平田典靖・劉　志遠(富　山・高岡工芸) 1
加藤健雄・吉田直樹(奈　良・奈　　良) 2
岩村　拡・山本雄大(高　知・土　　佐) 3
桐沢正義・佐久間健(千　葉・千葉敬愛) 4
岩本　悟・吉村典嗣(佐　賀・唐　津　南) 5
新宅地塩・田村隆志(広　島・安　佐　北) 6
畑山辰徳・今野雅史(宮　城・宮城県工業) 7
小野真宏・青山　真(茨　城・県立藤代) 8
有村成司・浜ノ上元樹(鹿児島・鹿　児　島) 9
川見　宏・東出一基(京　都・京都両洋) 10
橘　敏幸・田村　亨(秋　田・横手工業) 11
山本大介・三島幸寛(島　根・松江商業) 12
古川貴士・山田浩二(岐　阜・県立岐阜商業) 13
斉藤悠太・寺本　昇(栃　木・作新学院高等部) 14
西村祥一・佐藤寛倫(愛　媛・新居浜東) 15
川﨑功貴・中島康博(宮　崎・宮崎工業) 16
宮村順也・山田一哉(石　川・金沢市立工業) 17
遠藤祐介・奥園丈博(静　岡・星　　陵) 18
永井大吉・浅原達也(岡　山・水島工業) 19
大賀将裕・横田達明(熊　本・熊本学園大附属) 20
奥山正芳・佐藤　竜(山　形・県立鶴岡工業) 21
澤井　健・上田晋也(滋　賀・比　叡　山) 22
石関満憲・吉田　修(群　馬・県立前橋東) 23
山口幸治・中村陽祐(長　崎・西　　陵) 24
池添尚貴・山田光大(南北海道・札幌第一) 25
左村正和・宮﨑晃平(熊　本・八　代　東) 26
渡部　匠・内藤祐輔(神奈川・県立元石川) 27
木村洋輔・高橋武文(兵　庫・加古川東) 28
吉原光一・中村祐介(長　野・長野商業) 29
鹿目佳太・菅野俊助(福　島・帝京安積) 30
野村享平・山田尚幸(愛　知・名古屋市立向陽) 31
小瀬広晃・増井弘行(大　阪・柏　　原) 32
矢倉　智・本池拓也(鳥　取・米子松蔭) 33
池永　智・吉田　翔(大　分・日田林工) 34
岡田昂之・杉内一浩(徳　島・城　　東) 35
芦田篤志・竹村祥吾(新　潟・北　　越) 36
柴原啓紀・土田匡泰(東　京・関東第一) 37
鈕　佳　平・長原克博(青　森・青森山田) 38
岩本昇泰・冨永　尚(三　重・久　　居) 39
古平和行・寺西頼太(和歌山・新宮商業) 40
今村　敦・長田康佑(山　梨・甲府市立甲府商業) 41
西平　工・上田　士(沖　縄・南　風　原) 42
寺井弘一・堀口慎太郎(香　川・高松商業) 43
内藤佑太・米澤朋之(山　口・柳井工業) 44
志賀　学・中山満明(埼　玉・県立上尾) 45
岩永唯一・梅林慎太郎(福　井・足　　羽) 46
山ノ内利幸・近澤慎二(北北海道・北海道旭川工業) 47
田鎖智士・中塚寛明(岩　手・盛岡大学附属) 48
森田広貴・斉藤篤史(福　岡・福岡大学附属大濠) 49
50 岩脇峰生・西浦和広(青　森・青森山田)
51 妹尾雄介・伊東大地(広　島・安　佐　北)
52 上原優麻・田中領大(沖　縄・沖縄水産)
53 小池孝幸・古谷野直幸(群　馬・桐生市立商業)
54 森　雄大・松田卓也(富　山・高岡第一)
55 大滝祐紀・嶋田　稔(大　阪・此花学院)
56 岩堀将治・三反崎俊介(福　井・足　　羽)
57 有田裕佑・西澤　亮(熊　本・八　代　東)
58 関谷　聖・田村　悠(栃　木・宇都宮南)
59 大野　航・筒井　正(高　知・高知市立高知商業)
60 大石　斉・岸本泰樹(兵　庫・神戸村野工業)
61 市村純一・大川康雄(静　岡・伊　　東)
62 松田卓也・福澤慶也(大　分・別府鶴見丘)
63 福住裕也・西　保海(奈　良・添　　上)
64 池之山俊介・吉田和嗣(茨　城・常総学院)
65 昆　和秀・佐々木和紀(岩　手・県立盛岡第四)
66 光田　資・吉野真幸(愛　知・天　　白)
67 高畠茂樹・大泉陽介(北北海道・北海道旭川工業)
68 野中雄樹・髙岡　聖(愛　媛・新　　田)
69 吉川裕司・岡田秀樹(千　葉・西武台千葉)
70 瀧澤　忍・笠井大司(長　野・長野商業)
71 根本唯宇・佐川　均(福　島・帝京安積)
72 中村善之・谷口智典(長　崎・瓊　　浦)
73 佐伯浩一・麻生将豊(岡　山・水島工業)
74 天野真一・穴吹康隆(香　川・高松商業)
75 後藤洋介・中居　聖(岐　阜・県立岐阜商業)
76 樫山智士・三森領太(山　梨・甲府市立甲府商業)
77 葉狩善明・末吉健志(鳥　取・境港工業)
78 山下直樹・西村知也(京　都・京都両洋)
79 有田友紀・奥村仁尚(福　岡・北九州工業高専)
80 楢山和紀・谷川雄輔(南北海道・札幌第一)
81 竹光章浩・竹光唯至(山　口・柳井工業)
82 川上正志・小林雅俊(新　潟・北　　越)
83 小形祐紀・田中啓輔(佐　賀・唐　津　南)
84 仲澤悟史・増川芳定(山　形・日本大学山形)
85 佐藤孝一・山浦尚仁(東　京・関東第一)
86 森澤　駿・銭谷公浩(滋　賀・比　叡　山)
87 若松宏治・三原　誠(宮　崎・　　妻　)
88 筒井康司・米田裕之(島　根・大　　東)
89 石井隆介・小宮慎吾(神奈川・川崎総合科学)
90 秋山　裕・角田淳司(宮　城・宮城県工業)
91 佐海健太・藤岡浩司(熊　本・九州学院)
92 藤井拓海・村上　亮(石　川・金沢市立工業)
93 山本恵司・奥田健太(和歌山・新　　宮)
94 津田伸平・小林孝行(徳　島・城　　東)
95 田端慶太郎・中元　稔(三　重・久　　居)
96 瀬戸口哲史・宿口雄司(鹿児島・鹿児島中央)
97 上藤祐太・斎藤正泰(秋　田・大曲工業)
98 斉藤元伸・堤　敦史(埼　玉・埼　玉　栄)

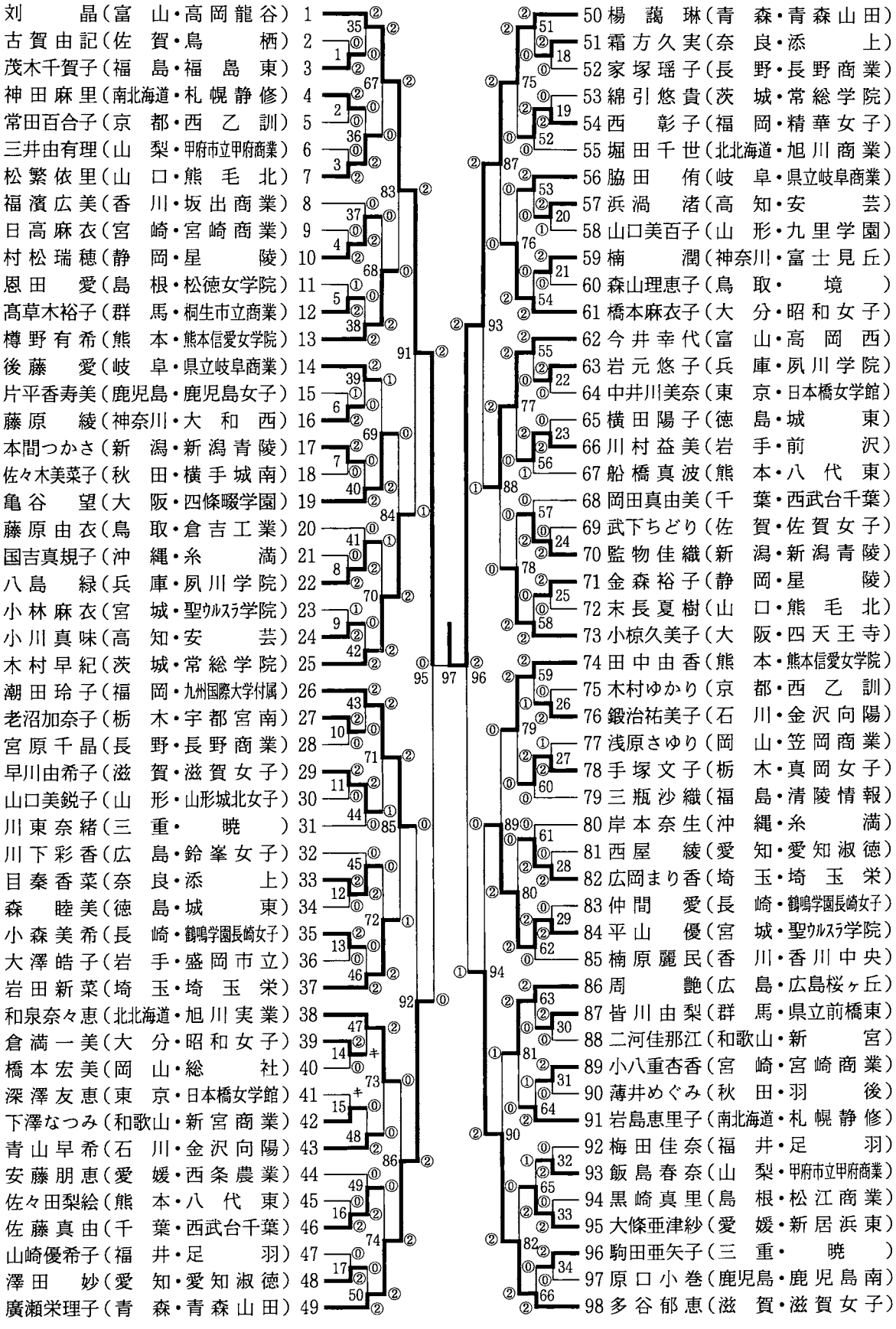
女子ダブルス（98組）


楊 藹 琳・廣瀬栄理子(青 森・青森山田) 1
片平香寿美・下和田真佳(鹿児島・鹿児島女子) 2
奥田恵理・山本奈津子(兵 庫・夙川学院) 3
佐藤真由・小池温子(千 葉・西武台千葉) 4
岩田奈紀沙・新田奈々(島 根・大 東) 5
大野景子・本間つかさ(新 潟・新潟青陵) 6
澤田 妙・西屋 綾(愛 知・愛知淑徳) 7
楠原麗民・明石光世(香 川・香川中央) 8
末長夏樹・末長 南(山 口・熊 毛 北) 9
佐々木美菜子・泉谷真理子(秋 田・横手城南) 10
佐々野梨絵・仲間 愛(長 崎・鶴鳴学園長崎女子) 11
楠 潤・筒井さやか(神奈川・富士見丘) 12
佐伯美沙都・刘 晶(富 山・高岡龍谷) 13
西塚 司・田島朝美(宮 城・聖ウルスラ学院) 14
森山理恵子・末吉 都(鳥 取・ 境) 15
椛島のぞみ・武下ちどり(佐 賀・佐賀女子) 16
高橋 彩・湯谷沙耶花(京 都・ 桂) 17
皆川由梨・山蔭 愛(群 馬・県立前橋東) 18
和泉奈々恵・平林亜希(北北海道・旭川実業) 19
宮田紗里・米田明美(熊 本・熊本中央女子) 20
小鍛治絵里・柳町百合(福 井・勝 山) 21
森 睦美・岡本万輝(徳 島・城 東) 22
加藤 恵・塩澤彩子(静 岡・星 陵) 23
三井由有理・飯島春奈(山 梨・甲府市立甲府商業) 24
小椋久美子・宮崎優花(大 阪・四天王寺) 25
福間綾子・金建有香(熊 本・熊本信愛女学院) 26
手塚文子・安達友里(栃 木・真岡女子) 27
永吉智加・三宅知佳(奈 良・添 上) 28
大條亜津紗・井上亜沙美(愛 媛・新居浜東) 29
山口美鋭子・齋藤 愛(山 形・山形城北女子) 30
宮原千晶・金井由美(長 野・長野商業) 31
清水陽子・綿引悠貴(茨 城・常総学院) 32
本部亜由美・川越友美(宮 崎・日章学園) 33
川村益美・千葉孝美(岩 手・前 沢) 34
岡﨑あかね・岡本和美(岡 山・山陽女子) 35
陣田佳奈・駒田亜矢子(三 重・ 暁) 36
山田紘実・田村幸代(福 岡・九州国際大学付属) 37
後藤 愛・後藤 舞(岐 阜・県立岐阜商業) 38
磯下由貴子・磯下理恵子(埼 玉・越 谷 南) 39
福吉 恵・鈴石望美(福 島・帝京安積) 40
三条幸菜・大北朱美(滋 賀・滋賀女子) 41
具志堅真紀子・神里有美(沖 縄・那 覇 西) 42
周 艶・高橋慶子(広 島・広島桜ヶ丘) 43
川合千代・鈴木ことみ(南北海道・とわの森三愛) 44
横手洋子・曽和展恵(和歌山・伊 都) 45
中野 愛・井村幸奈(高 知・清和女子) 46
青山早希・通次尚美(石 川・金沢向陽) 47
田中 愛・青木徳恵(東 京・日本橋女学館) 48
服部麻衣・倉満一美(大 分・昭和女子) 49
宇津早也香・小森美希(長 崎・鶴鳴学園長崎女子) 50
監物佳織・田中綾佳(新 潟・新潟青陵) 51
兼子めぐみ・松本有香里(栃 木・小山城南) 52
霜方久実・目秦香菜(奈 良・添 上) 53
小磯彰子・山下幸子(鹿児島・鹿 児 島) 54
佐伯綾子・安藤朋恵(愛 媛・西条農業) 55
今別府靖代・杉谷淳美(青 森・青森山田) 56
岡田真由美・岡戸陽子(千 葉・西武台千葉) 57
松繁依里・松尾杏澄(山 口・熊 毛 北) 58
山下美華・東 志乃(和歌山・耐 久) 59
橋本麻衣子・芦原 智(大 分・昭和女子) 60
林 裕佳・脇田 侑(岐 阜・県立岐阜商業) 61
潮田玲子・春田衣麻(福 岡・九州国際大学付属) 62
鈴木絵美・鶴見麻衣(神奈川・大 和 西) 63
浜渦 渚・小川真味(高 知・安 芸) 64
松本千春・山中 恵(三 重・宇治山田商業) 65
大橋 史・鈴木礼奈(福 島・清陵情報) 66
梅田佳奈・山崎優希子(福 井・足 羽) 67
岡本望良・岡野あゆみ(茨 城・常総学院) 68
齊藤 南・村上 桂(岩 手・盛岡市立) 69
藤原由衣・信組絵美(鳥 取・倉吉工業) 70
丸岡智子・亀谷 望(大 阪・四條畷学園) 71
吉村征美・前田美順(熊 本・熊本中央女子) 72
岩島恵里子・阿野加代子(南北海道・札幌静修) 73
小池由子・広岡まり香(埼 玉・埼 玉 栄) 74
村松瑞穂・金森裕子(静 岡・星 陵) 75
川下彩香・江角真美子(広 島・鈴峯女子) 76
三好梨恵・福井理絵(佐 賀・佐賀女子) 77
水江真貴子・宮崎景子(石 川・金沢向陽) 78
金上路子・佐野志緒梨(宮 城・聖ウルスラ学院) 79
福濱広美・楠 尚子(香 川・坂出商業) 80
松田紀子・佐々木智子(山 形・山形城北女子) 81
岸本奈生・国吉真規子(沖 縄・糸 満) 82
髙草木裕子・坂口陽子(群 馬・桐生市立商業) 83
八島 緑・岩元悠子(兵 庫・夙川学院) 84
今井幸代・今泉智美(富 山・高 岡 西) 85
浅原さゆり・黒田香織(岡 山・笠岡商業) 86
薄井めぐみ・武本紀子(秋 田・羽 後) 87
三森美緒・伊東沙紀(山 梨・甲府湯田) 88
木村ゆかり・高橋紗里(京 都・西 乙 訓) 89
菅原美貴・堀田千世(北北海道・旭川商業) 90
船橋真波・吉永明日香(熊 本・八 代 東) 91
日高麻衣・小八重杏香(宮 崎・宮崎商業) 92
横田陽子・谷沙弥香(徳 島・城 東) 93
深澤友恵・横田真澄(東 京・日本橋女学館) 94
小山明子・家塚瑶子(長 野・長野商業) 95
勝部茜恵・青木 優(島 根・出 雲) 96
所 美穂・小椋しのぶ(愛 知・市邨学園) 97
多谷郁恵・早川由希子(滋 賀・滋賀女子) 98

男子シングルス（98名）


劉　志遠（富　山・高岡工芸）1
小形祐紀（佐　賀・唐　津　南）2
内藤祐輔（神奈川・県立元石川）3
大川康雄（静　岡・伊　　東）4
小西智之（奈　良・二　階　堂）5
岩村　拡（高　知・土　　佐）6
妹尾雄介（広　島・安　佐　北）7
長原克博（青　森・青森山田）8
竹中裕紀（鳥　取・倉吉工業）9
堀之内　真（鹿児島・鹿　児　島）10
植竹純平（千　葉・千葉敬愛）11
東出真平（京　都・京都両洋）12
高橋　敦（福　岡・福岡大学附属大濠）13
谷川雄輔（南北海道・札幌第一）14
菊田健一（埼　玉・埼　玉　栄）15
大賀将裕（熊　本・熊本学園大附属）16
新田哲也（石　川・県立金沢二水）17
秋山　裕（宮　城・宮城県工業）18
山田尚幸（愛　知・名古屋市立向陽）19
髙岡　聖（愛　媛・新　　田）20
竹光章浩（山　口・柳井工業）21
中島康博（宮　崎・宮崎工業）22
上野悟史（栃　木・宇　都　宮）23
宮川　真（岩　手・前　　沢）24
銭谷公浩（滋　賀・比　叡　山）25
池田雄一（東　京・関東第一）26
松田卓也（大　分・別府鶴見丘）27
山田浩二（岐　阜・県立岐阜商業）28
竹村幸洋（北北海道・北海道旭川工業）29
三島幸寛（島　根・松江商業）30
菅野俊助（福　島・帝京安積）31
山口幸治（長　崎・西　　陵）32
瀧澤　忍（長　野・長野商業）33
増井弘行（大　阪・柏　　原）34
島貫　達（山　形・羽　　黒）35
青山　真（茨　城・県立藤代）36
天野真一（香　川・高松商業）37
宮崎晃平（熊　本・八　代　東）38
岩堀将治（福　井・足　　羽）39
橘　敏幸（秋　田・横手工業）40
三森領太（山　梨・甲府市立甲府商業）41
山本恵司（和歌山・新　　宮）42
岩本昇泰（三　重・久　　居）43
芦田篤志（新　潟・北　　越）44
上原優麻（沖　縄・沖縄水産）45
大石　斉（兵　庫・神戸村野工業）46
吉田　修（群　馬・県立前橋東）47
三谷彰彦（徳　島・徳島市立）48
麻生将豊（岡　山・水島工業）49
50 左村　正和（熊　本・八　代　東）
51 福住裕也（奈　良・添　　上）
52 後藤真也（三　重・　暁　　）
53 仲澤悟史（山　形・日本大学山形）
54 塩野勇太（山　梨・東海大学甲府）
55 三反崎俊介（福　井・足　　羽）
56 穴吹康隆（香　川・高松商業）
57 與儀隆次（沖　縄・石　　川）
58 岡田秀樹（千　葉・西武台千葉）
59 米田裕之（島　根・大　　東）
60 田沼雄一（福　島・帝京安積）
61 河原　悟（北北海道・北海道旭川東）
62 小澤　薫（福　岡・九州共立大学八幡西）
63 竹光唯至（山　口・柳井工業）
64 吉原光一（長　野・長野商業）
65 光田　資（愛　知・天　　白）
66 白井亮次（兵　庫・神戸村野工業）
67 斉藤悠太（栃　木・作新学院高等部）
68 山口公洋（滋　賀・比　叡　山）
69 中村善之（長　崎・瓊　　浦）
70 金子陽次（群　馬・県立前橋東）
71 斎藤正泰（秋　田・大曲工業）
72 杉内一浩（徳　島・城　　東）
73 佐伯浩一（岡　山・水島工業）
74 畑山辰徳（宮　城・宮城県工業）
75 小林雅俊（新　潟・北　　越）
76 福澤慶也（大　分・別府鶴見丘）
77 井上知也（埼　玉・埼　玉　栄）
78 井上浩伸（和歌山・那　　賀）
79 楢山和紀（南北海道・札幌第一）
80 有田裕佑（熊　本・八　代　東）
81 石井隆介（神奈川・川崎総合科学）
82 矢倉　智（鳥　取・米子松蔭）
83 佐藤寛倫（愛　媛・新居浜東）
84 田中啓輔（佐　賀・唐　津　南）
85 古川貴士（岐　阜・県立岐阜商業）
86 村上　亮（石　川・金沢市立工業）
87 有村成司（鹿児島・鹿　児　島）
88 小山　学（岩　手・千　　厩）
89 筒井　正（高　知・高知市立高知商業）
90 山浦尚仁（東　京・関東第一）
91 小瀬広晃（大　阪・柏　　原）
92 小野真宏（茨　城・県立藤代）
93 市村純一（静　岡・伊　　東）
94 平田典靖（富　山・高岡工芸）
95 新宅地塩（広　島・安　佐　北）
96 甲斐允也（宮　崎・　妻　　）
97 田村正明（京　都・京都両洋）
98 鈕　佳平（青　森・青森山田）

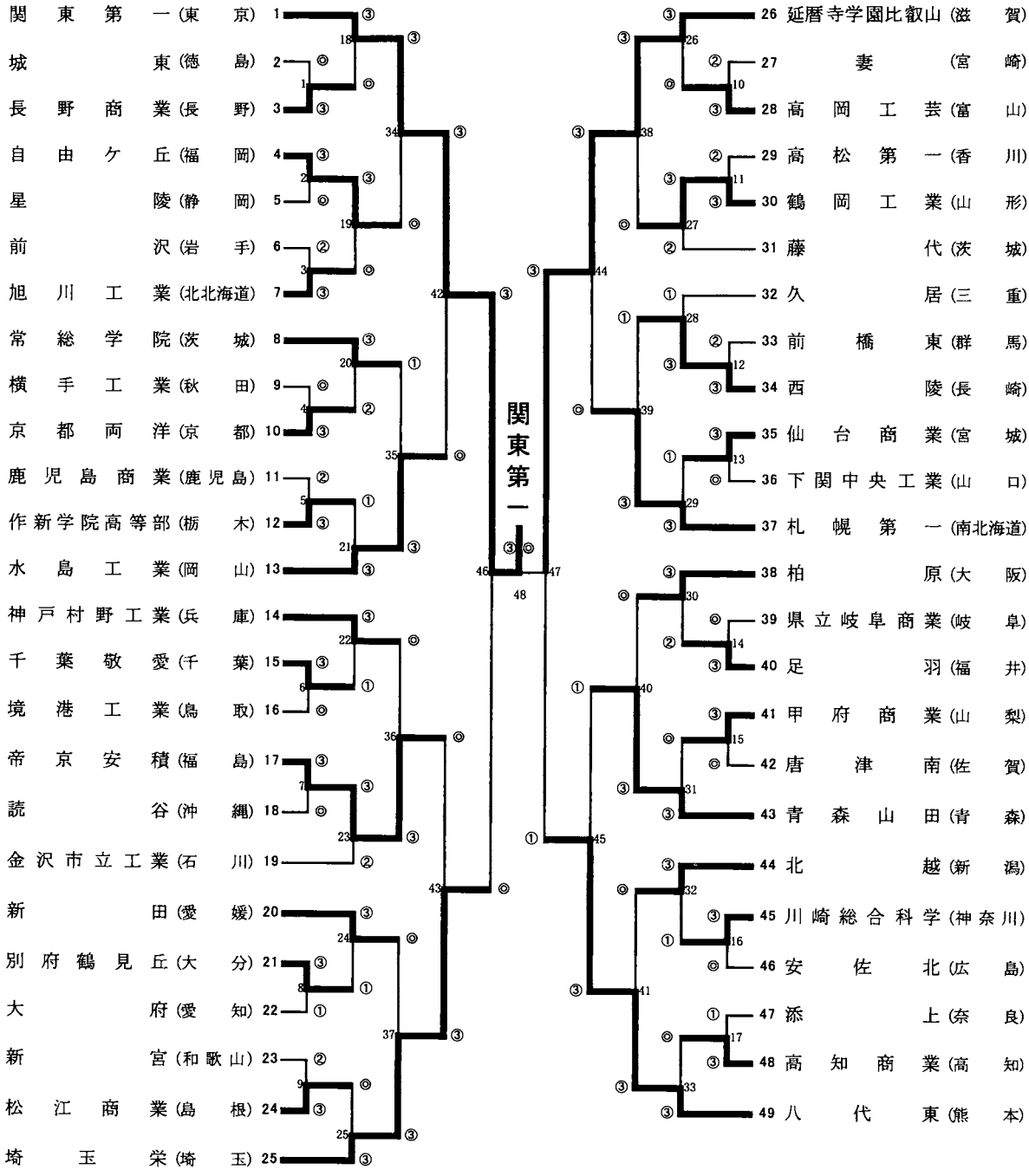
女子シングルス（98名）


刈　　晶（富　山・高岡龍谷）1
古賀由記（佐　賀・鳥　　栖）2
茂木千賀子（福　島・福　島　東）3
神田麻里（南北海道・札幌静修）4
常田百合子（京　都・西　乙　訓）5
三井由有理（山　梨・甲府市立甲府商業）6
松繁依里（山　口・熊　毛　北）7
福濱広美（香　川・坂出商業）8
日高麻衣（宮　崎・宮崎商業）9
村松瑞穂（静　岡・星　　陵）10
恩田　愛（島　根・松徳女学院）11
髙草木裕子（群　馬・桐生市立商業）12
樽野有希（熊　本・熊本信愛女学院）13
後藤　愛（岐　阜・県立岐阜商業）14
片平香寿美（鹿児島・鹿児島女子）15
藤原　綾（神奈川・大　和　西）16
本間つかさ（新　潟・新潟青陵）17
佐々木美菜子（秋　田・横手城南）18
亀谷　望（大　阪・四條畷学園）19
藤原由衣（鳥　取・倉吉工業）20
国吉真規子（沖　縄・糸　　満）21
八島　緑（兵　庫・夙川学院）22
小林麻衣（宮　城・聖ｳﾙｽﾗ学院）23
小川真味（高　知・安　　芸）24
木村早紀（茨　城・常総学院）25
潮田玲子（福　岡・九州国際大学付属）26
老沼加奈子（栃　木・宇都宮南）27
宮原千晶（長　野・長野商業）28
早川由希子（滋　賀・滋賀女子）29
山口美鋭子（山　形・山形城北女子）30
川東奈緒（三　重・　暁　）31
川下彩香（広　島・鈴峯女子）32
目秦香菜（奈　良・添　　上）33
森　睦美（徳　島・城　　東）34
小森美希（長　崎・鶴鳴学園長崎女子）35
大澤皓子（岩　手・盛岡市立）36
岩田新菜（埼　玉・埼　玉　栄）37
和泉奈々恵（北北海道・旭川実業）38
倉満一美（大　分・昭和女子）39
橋本宏美（岡　山・総　　社）40
深澤友恵（東　京・日本橋女学館）41
下澤なつみ（和歌山・新宮商業）42
青山早希（石　川・金沢向陽）43
安藤朋恵（愛　媛・西条農業）44
佐々田梨絵（熊　本・八　代　東）45
佐藤真由（千　葉・西武台千葉）46
山崎優希子（福　井・足　　羽）47
澤田　妙（愛　知・愛知淑徳）48
廣瀬栄理子（青　森・青森山田）49
楊　藹　琳（青　森・青森山田）50
霜方久実（奈　良・添　　上）51
家塚瑶子（長　野・長野商業）52
綿引悠貴（茨　城・常総学院）53
西　彰子（福　岡・精華女子）54
堀田千世（北北海道・旭川商業）55
脇田　侑（岐　阜・県立岐阜商業）56
浜渦　渚（高　知・安　　芸）57
山口美百子（山　形・九里学園）58
楠　潤（神奈川・富士見丘）59
森山理恵子（鳥　取・　境　）60
橋本麻衣子（大　分・昭和女子）61
今井幸代（富　山・高　岡　西）62
岩元悠子（兵　庫・夙川学院）63
中井川美奈（東　京・日本橋女学館）64
横田陽子（徳　島・城　　東）65
川村益美（岩　手・前　　沢）66
船橋真波（熊　本・八　代　東）67
岡田真由美（千　葉・西武台千葉）68
武下ちどり（佐　賀・佐賀女子）69
監物佳織（新　潟・新潟青陵）70
金森裕子（静　岡・星　　陵）71
末長夏樹（山　口・熊　毛　北）72
小椋久美子（大　阪・四天王寺）73
田中由香（熊　本・熊本信愛女学院）74
木村ゆかり（京　都・西　乙　訓）75
鍛治祐美子（石　川・金沢向陽）76
浅原さゆり（岡　山・笠岡商業）77
手塚文子（栃　木・真岡女子）78
三瓶沙織（福　島・清陵情報）79
岸本奈生（沖　縄・糸　　満）80
西屋　綾（愛　知・愛知淑徳）81
広岡まり香（埼　玉・埼　玉　栄）82
仲間　愛（長　崎・鶴鳴学園長崎女子）83
平山　優（宮　城・聖ｳﾙｽﾗ学院）84
楠原麗民（香　川・香川中央）85
周　　艶（広　島・広島桜ヶ丘）86
皆川由梨（群　馬・県立前橋東）87
二河佳那江（和歌山・新　　宮）88
小八重杏香（宮　崎・宮崎商業）89
薄井めぐみ（秋　田・羽　　後）90
岩島恵里子（南北海道・札幌静修）91
梅田佳奈（福　井・足　　羽）92
飯島春奈（山　梨・甲府市立甲府商業）93
黒崎真里（島　根・松江商業）94
大條亜津紗（愛　媛・新居浜東）95
駒田亜矢子（三　重・　暁　）96
原口小巻（鹿児島・鹿児島南）97
多谷郁恵（滋　賀・滋賀女子）98

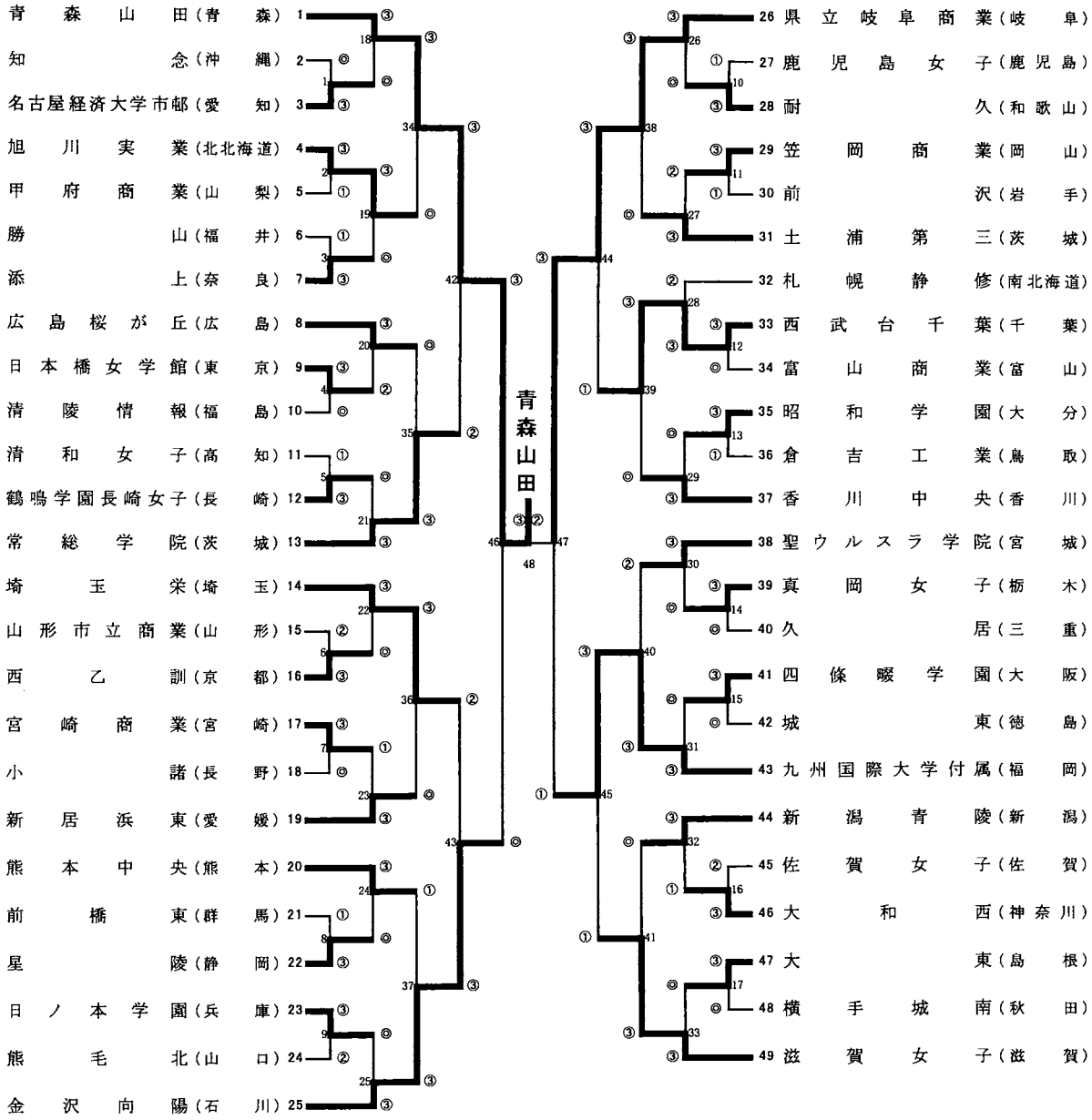
第53回全国高等学校バドミントン選手権大会（2002年度）

期日▶平成14年８月１日～６日
会場▶つくばカピオ・茨城県立竹園高等学校体育館・桜圏民センター体育館
牛久運動公園体育館・茨城県立牛久栄進高等学校体育館・東洋大学附属牛久高等学校体育館

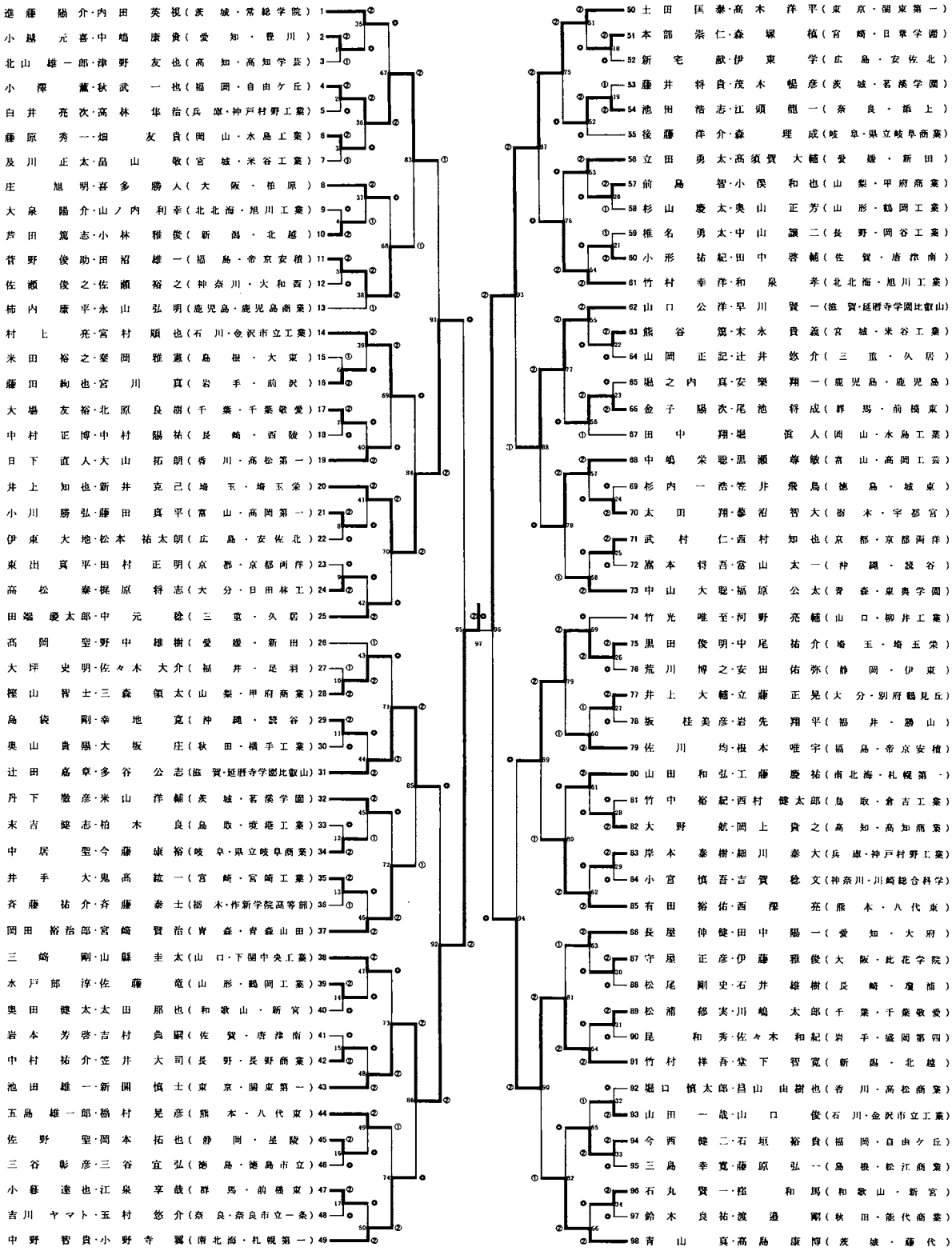
男子団体（49校）



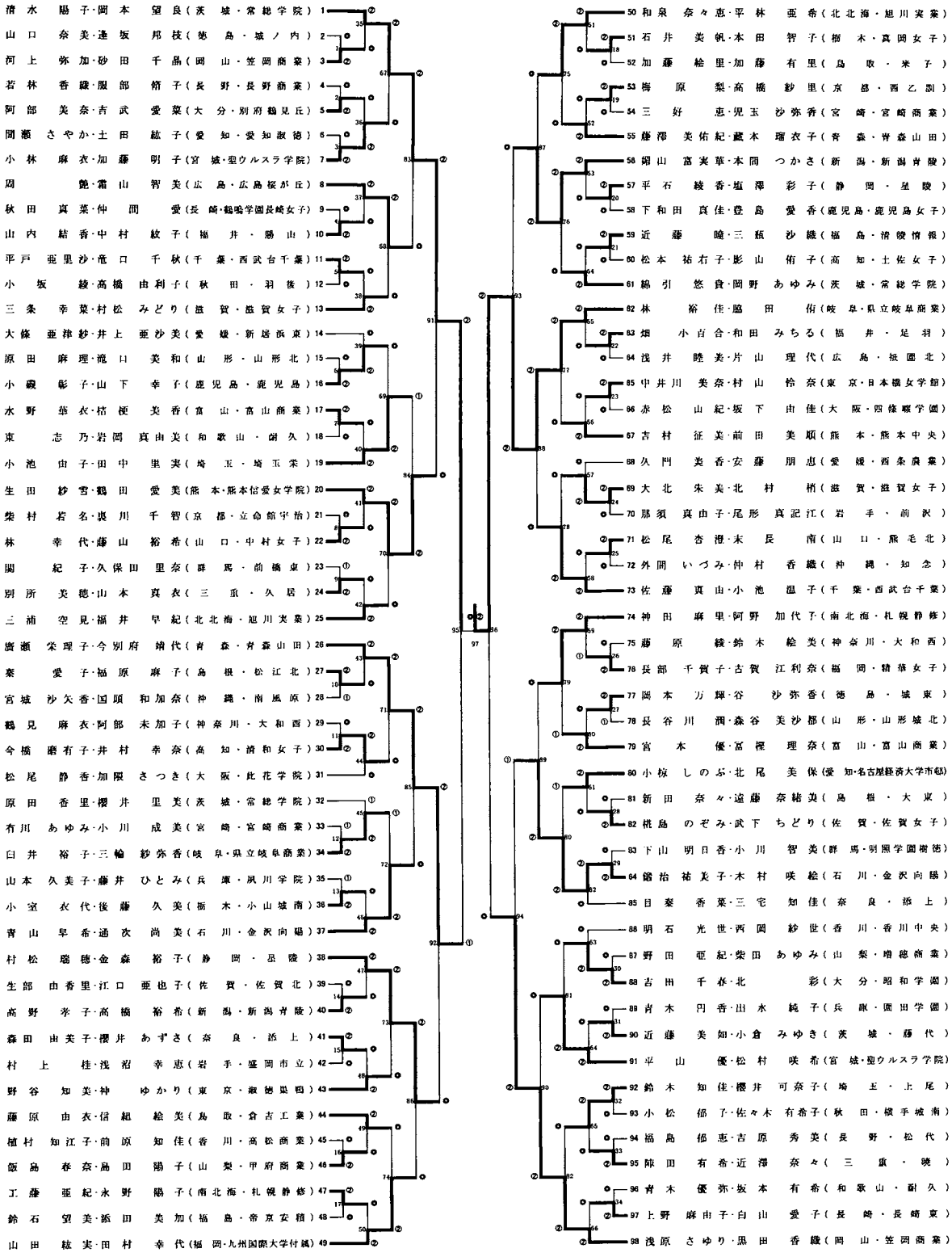
女子団体（49校）


青森山田（青森）1
知念（沖縄）2
名古屋経済大学市邨（愛知）3
旭川実業（北北海道）4
甲府商業（山梨）5
勝山（福井）6
添上（奈良）7
広島桜が丘（広島）8
日本橋女学館（東京）9
清陵情報（福島）10
清和女子（高知）11
鶴鳴学園長崎女子（長崎）12
常総学院（茨城）13
埼玉栄（埼玉）14
山形市立商業（山形）15
西乙訓（京都）16
宮崎商業（宮崎）17
小諸（長野）18
新居浜東（愛媛）19
熊本中央（熊本）20
前橋東（群馬）21
星陵（静岡）22
日ノ本学園（兵庫）23
熊毛北（山口）24
金沢向陽（石川）25
青森山田
26 県立岐阜商業（岐阜）
27 鹿児島女子（鹿児島）
28 耐久（和歌山）
29 笠岡商業（岡山）
30 前沢（岩手）
31 土浦第三（茨城）
32 札幌静修（南北海道）
33 西武台千葉（千葉）
34 富山商業（富山）
35 昭和学園（大分）
36 倉吉工業（鳥取）
37 香川中央（香川）
38 聖ウルスラ学院（宮城）
39 真岡女子（栃木）
40 久居（三重）
41 四條畷学園（大阪）
42 城東（徳島）
43 九州国際大学付属（福岡）
44 新潟青陵（新潟）
45 佐賀女子（佐賀）
46 大和西（神奈川）
47 大東（島根）
48 横手城南（秋田）
49 滋賀女子（滋賀）

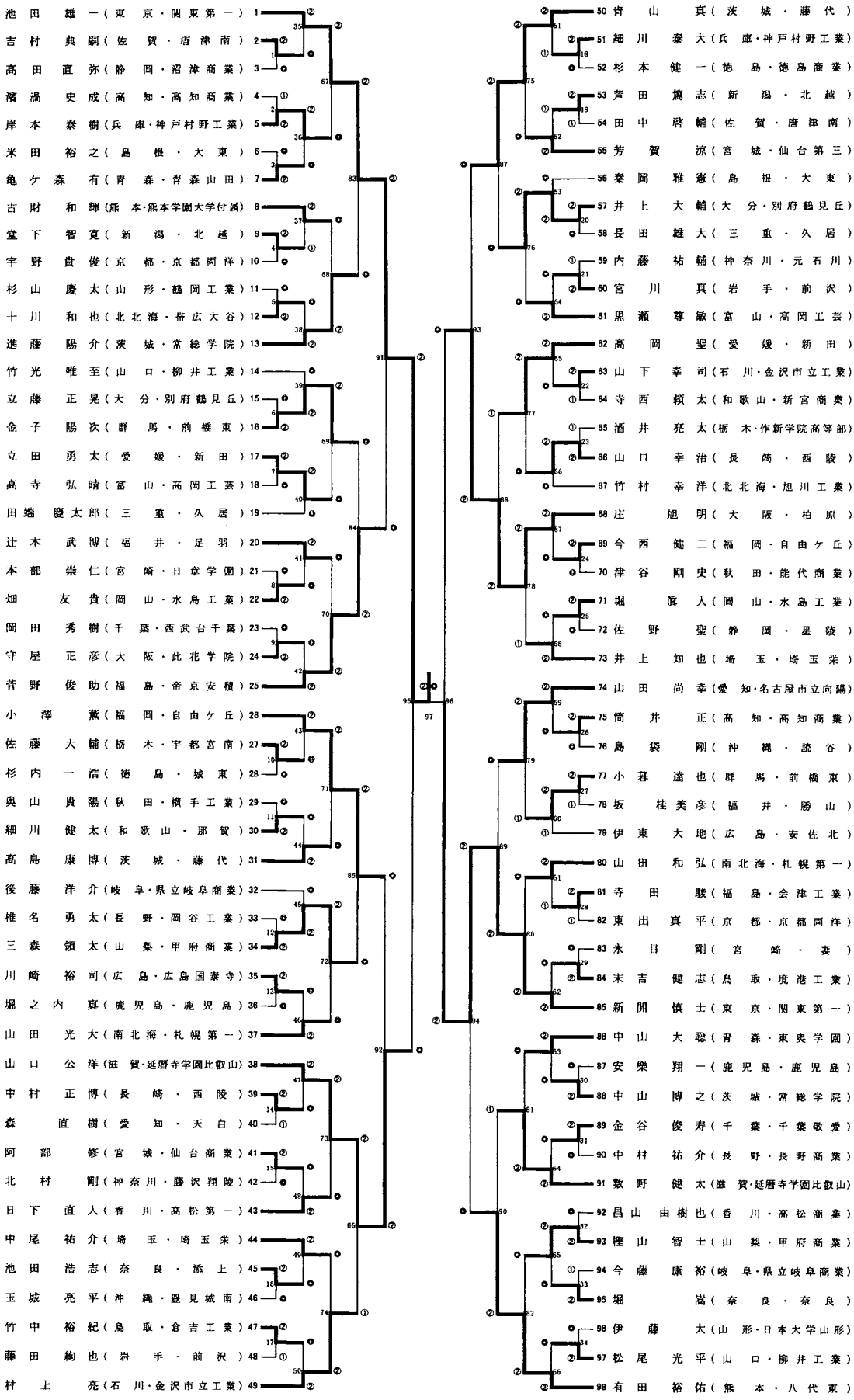
男子ダブルス（98組）


進藤 陽介・内田 英視（茨 城・常総学院） 1
小越 元喜・中嶋 康貴（愛 知・豊 川） 2
北山 雄一郎・津野 友也（高 知・高知学芸） 3
小澤 薫・秋武 一也（福 岡・自由ケ丘） 4
白井 亮次・高林 隼治（兵 庫・神戸村野工業） 5
藤原 秀一・畑 友貴（岡 山・水島工業） 6
及川 正太・畠山 敬（宮 城・米谷工業） 7
庄 旭明・喜多 勝人（大 阪・柏 原） 8
大泉 陽介・山ノ内 利幸（北北海・旭川工業） 9
芦田 篤志・小林 雅俊（新 潟・北 越） 10
笹野 俊助・田沼 雄一（福 島・帝京安積） 11
佐瀬 俊之・佐瀬 裕之（神奈川・大和西） 12
柿内 康平・永山 弘明（鹿児島・鹿児島商業） 13
村上 亮・宮村 順也（石 川・金沢市立工業） 14
米田 裕之・秦岡 雅憲（島 根・大 東） 15
藤田 絢也・宮川 真（岩 手・前 沢） 16
大場 友裕・北原 良朗（千 葉・千葉敬愛） 17
中村 正博・中村 陽祐（長 崎・西 陵） 18
日下 直人・大山 拓朗（香 川・高松第一） 19
井上 知也・新井 克己（埼 玉・埼玉栄） 20
小川 勝弘・藤田 真平（富 山・高岡第一） 21
伊東 大地・松本 祐太朗（広 島・安佐北） 22
東出 真平・田村 正明（京 都・京都両洋） 23
高松 泰・梶原 将志（大 分・日田林工） 24
田端 慶太郎・中元 稔（三 重・久 居） 25
髙岡 聖・野中 雄樹（愛 媛・新 田） 26
大坪 史明・佐々木 大介（福 井・足 羽） 27
樫山 智士・三森 領太（山 梨・甲府商業） 28
島袋 剛・幸地 寛（沖 縄・読 谷） 29
奥山 貴陽・大坂 庄（秋 田・横手工業） 30
辻田 晶章・多谷 公志（滋 賀・延暦寺学園比叡山） 31
丹下 徹彦・米山 洋輔（茨 城・若葉学園） 32
末吉 健志・柏木 良（島 取・境港工業） 33
中居 聖・今藤 康裕（岐 阜・県立岐阜商業） 34
井手 大・鬼高 紘一（宮 崎・宮崎工業） 35
斉藤 祐介・斉藤 泰士（栃 木・作新学院高等部） 36
岡田 裕治郎・宮崎 賢治（青 森・青森山田） 37
三崎 剛・山縣 圭太（山 口・下関中央工業） 38
水戸部 淳・佐藤 竜（山 形・鶴岡工業） 39
奥田 健太・太田 那也（和歌山・新 宮） 40
岩本 芳啓・吉村 典嗣（佐 賀・唐津南） 41
中村 祐介・笠井 大司（長 野・長野商業） 42
池田 雄一・新開 慎士（東 京・開 東第一） 43
五島 雄一郎・稲村 晃彦（熊 本・八代東） 44
佐野 聖・岡本 拓也（静 岡・星 陵） 45
三谷 彰彦・三谷 宜弘（徳 島・徳島市立） 46
小暮 達也・江泉 享哉（群 馬・前橋東） 47
吉川 ヤマト・玉村 悠介（奈 良・奈良市立一条） 48
中野 智貴・小野寺 翼（南北海・札幌第一） 49
土田 匡泰・高木 洋平（東 京・開東第一） 50
本部 崇仁・森塚 植（宮 崎・日章学園） 51
新宅 献・伊東 学（広 島・安佐北） 52
藤井 将貴・茂木 暢彦（茨 城・若葉学園） 53
池田 浩志・江頭 龍一（奈 良・添 上） 54
後藤 洋介・森 理成（岐 阜・県立岐阜商業） 55
立田 勇太・高須賀 大輔（愛 媛・新 田） 56
前島 智・小俣 和也（山 梨・甲府商業） 57
杉山 慶太・奥山 正芳（山 形・鶴岡工業） 58
椎名 勇太・中山 譲二（長 野・岡谷工業） 59
小形 祐紀・田中 啓輔（佐 賀・唐津南） 60
竹村 幸洋・和泉 孝（北北海・旭川工業） 61
山口 公洋・早川 賢一（滋 賀・延暦寺学園比叡山） 62
熊谷 篤・末永 貴義（宮 城・米谷工業） 63
山岡 正記・辻井 悠介（三 重・久 居） 64
堀之内 真・安楽 翔一（鹿児島・鹿児島） 65
金子 陽次・尾池 将成（群 馬・前橋東） 66
田中 翔・堀 貴人（岡 山・水島工業） 67
中嶋 栄聡・黒瀬 尊敏（富 山・高岡工芸） 68
杉内 一浩・笠井 飛鳥（徳 島・城 東） 69
太田 翔・藤沼 智大（栃 木・宇都宮） 70
武村 仁・西村 知也（京 都・京都両洋） 71
嵩本 将吾・富山 太一（沖 縄・読 谷） 72
中山 大聡・福原 公太（青 森・東奥学園） 73
竹光 唯至・河野 亮輔（山 口・柳井工業） 74
黒田 俊明・中尾 祐介（埼 玉・埼玉栄） 75
荒川 博之・安田 佑弥（静 岡・伊 東） 76
井上 大輔・立藤 正晃（大 分・別府鶴見丘） 77
坂 桂美彦・岩先 翔平（福 井・勝 山） 78
佐川 均・根本 唯宇（福 島・帝京安積） 79
山田 和弘・工藤 慶祐（南北海・札幌第一） 80
竹中 裕紀・西村 健太郎（鳥 取・倉吉工業） 81
大野 航・岡上 貴之（高 知・高知商業） 82
岸本 泰樹・細川 泰大（兵 庫・神戸村野工業） 83
小宮 慎吾・吉賀 稔文（神奈川・川崎総合科学） 84
有田 裕佑・西澤 亮（熊 本・八代東） 85
長屋 伸健・田中 陽一（愛 知・大 府） 86
守屋 正彦・伊藤 雅俊（大 阪・比花学院） 87
松尾 剛史・石井 雄樹（長 崎・鷹 南） 88
松浦 郁実・川嶋 太郎（千 葉・千葉敬愛） 89
尾 和秀・佐々木 和紀（岩 手・盛岡第四） 90
竹村 祥吾・堂下 智寛（新 潟・北 越） 91
堀口 慎太郎・昌山 由樹也（香 川・高松商業） 92
山田 一哉・山口 俊（石 川・金沢市立工業） 93
今西 健二・石垣 裕貴（福 岡・自由ケ丘） 94
三島 幸寛・藤原 弘一（島 根・松江商業） 95
石丸 賢一・稙 和馬（和歌山・新 宮） 96
鈴木 良祐・渡邉 剛（秋 田・能代商業） 97
青山 真・高島 康博（茨 城・藤 代） 98

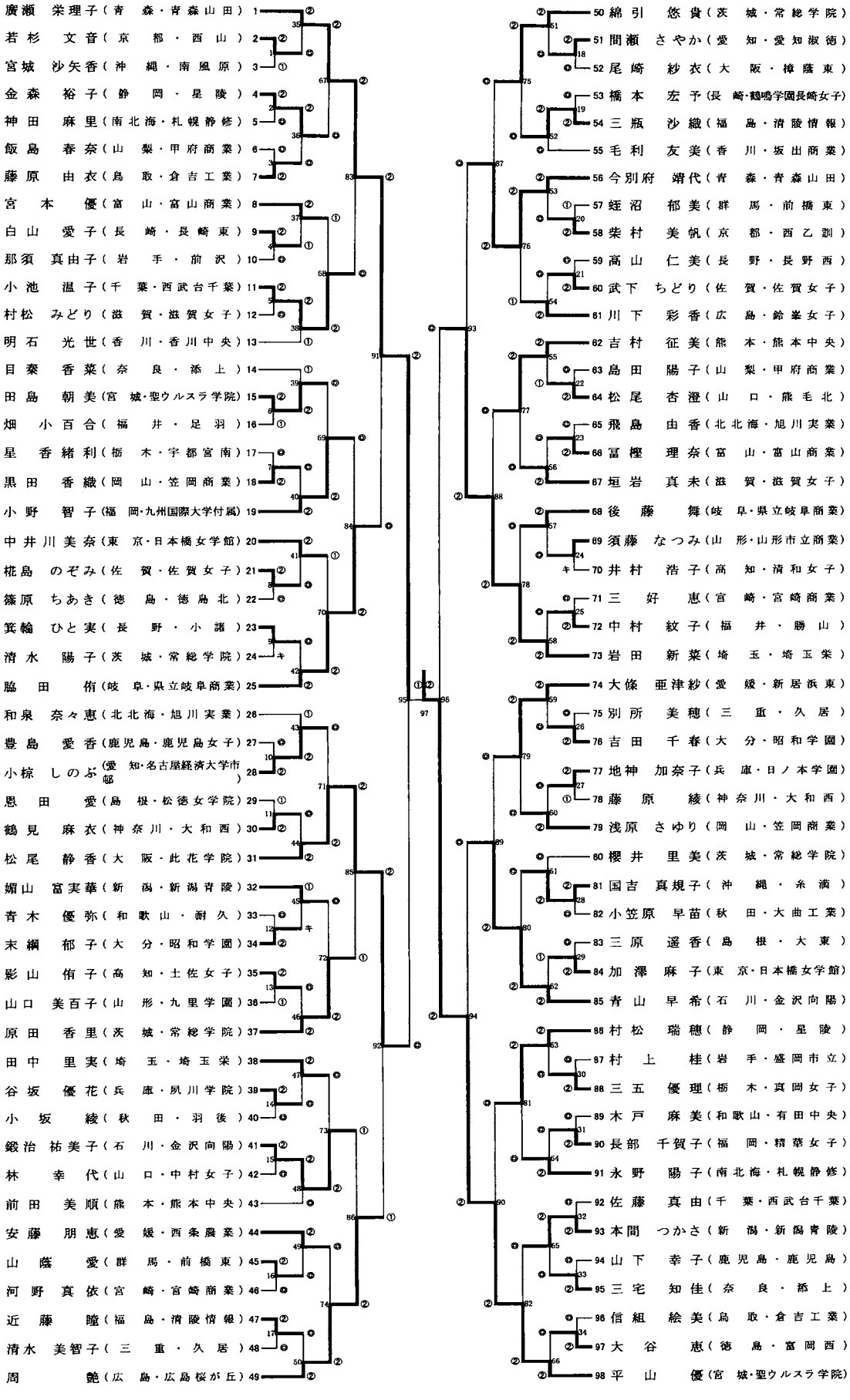
女子ダブルス（98組）


清水 陽子・岡本 望良（茨 城・常総学院） 1
山口 奈美・逢坂 邦枝（徳 島・城ノ内） 2
河上 弥加・砂田 千晶（岡 山・笠岡商業） 3
若林 香織・服部 楢子（長 野・長野商業） 4
阿部 美奈・吉武 愛菜（大 分・別府鶴見丘） 5
間瀬 さやか・土田 紘子（愛 知・愛知淑徳） 6
小林 麻衣・加藤 明子（宮 城・聖ウルスラ学院） 7
岡 艶・霜山 智美（広 島・広島椋が丘） 8
秋田 真菜・仲間 愛（長 崎・鶴鳴学園長崎女子） 9
山内 結香・中村 紋子（福 井・勝 山） 10
平戸 亜里沙・竜口 千秋（千 葉・西武台千葉） 11
小坂 綾・高橋 由利子（秋 田・羽 後） 12
三条 幸菜・村松 みどり（滋 賀・滋賀女子） 13
大條 亜津紗・井上 亜沙美（愛 媛・新居浜東） 14
原田 麻理・滝口 美和（山 形・山形北） 15
小磯 彰子・山下 幸子（鹿児島・鹿児島） 16
水野 華衣・桔梗 美香（富 山・富山商業） 17
東 志乃・岩岡 真由美（和歌山・向 陽） 18
小池 由子・田中 里実（埼 玉・埼玉栄） 19
生田 紗雪・鶴田 愛美（熊 本・熊本信愛女学院） 20
柴村 若名・裏川 千智（京 都・立命館宇治） 21
林 幸代・藤山 裕希（山 口・中村女子） 22
関 紀子・久保田 里奈（群 馬・前橋東） 23
別所 美穂・山本 真衣（三 重・久 居） 24
三浦 空見・福井 早紀（北北海・旭川実業） 25
廣瀬 栄理子・今別府 靖代（青 森・青森山田） 26
秦 愛子・福原 麻子（島 根・松江北） 27
宮城 沙矢香・国頭 和加奈（神 縄・南風原） 28
鶴見 麻衣・阿部 未加子（神奈川・大和西） 29
今橋 磨有子・井村 幸奈（高 知・清和女子） 30
松尾 静香・加隈 さつき（大 阪・此花学院） 31
原田 香里・櫻井 里美（茨 城・常総学院） 32
有川 あゆみ・小川 成美（宮 崎・宮崎商業） 33
臼井 裕子・三輪 紗弥香（岐 阜・県立岐阜商業） 34
山本 久美子・藤井 ひとみ（兵 庫・夙川学院） 35
小室 衣代・後藤 久美（栃 木・小山城南） 36
青山 早希・通次 尚美（石 川・金沢向陽） 37
村松 璐穂・金森 裕子（静 岡・呉 陵） 38
生部 由香里・江口 亜也子（佐 賀・佐賀北） 39
高野 幸子・高橋 裕希（新 潟・新潟青陵） 40
森田 由美子・櫻井 あずさ（奈 良・添 上） 41
村上 桂・浅沼 幸恵（岩 手・盛岡市立） 42
野谷 知美・神 ゆかり（東 京・淑徳巣鴨） 43
藤原 由衣・信組 絵美（鳥 取・倉吉工業） 44
植村 知江子・前原 知佳（香 川・高松商業） 45
飯島 春奈・島田 陽子（山 梨・甲府商業） 46
工藤 亜紀・永野 陽子（南北海・札幌静修） 47
鈴石 望美・浜田 美加（福 島・帝京安積） 48
山田 紘実・田村 幸代（福 岡・九州国際大学付属） 49
和泉 奈々恵・平林 亜希（北北海・旭川実業） 50
石井 美帆・本田 智子（栃 木・真岡女子） 51
加藤 絵里・加藤 有里（島 取・米 子） 52
梅原 梨・高橋 紗里（京 都・西乙訓） 53
三好 恵・児玉 沙弥香（宮 崎・宮崎商業） 54
藤澤 美佑紀・藏本 瑠衣子（青 森・青森山田） 55
錦山 富実華・本間 つかさ（新 潟・新潟青陵） 56
平石 綾香・塩澤 彩子（静 岡・星 陵） 57
下和田 真佳・豊島 愛香（鹿児島・鹿児島女子） 58
近藤 瞳・三瓶 沙織（福 島・福島情報） 59
松本 祐右子・影山 侑子（高 知・土佐女子） 60
綿引 悠貴・岡野 あゆみ（茨 城・常総学院） 61
林 裕佳・脇田 侑（岐 阜・県立岐阜商業） 62
畑 小百合・和田 みちる（福 井・足 羽） 63
浅井 睦美・片山 理代（広 島・祇園北） 64
中井川 美奈・村山 怜奈（東 京・日本橋女学館） 65
赤松 山紀・坂下 由佳（大 阪・四條畷学園） 66
吉村 征美・前田 美順（熊 本・熊本中央） 67
久門 美香・安藤 朋恵（愛 媛・西条農業） 68
大北 朱美・北村 楢（滋 賀・滋賀女子） 69
那須 真由子・尾形 真紀江（岩 手・前 沢） 70
松尾 杏澄・末長 南（山 口・熊毛北） 71
外間 いづみ・仲村 香織（神 縄・知 念） 72
佐藤 真由・小池 温子（千 葉・西武台千葉） 73
神田 麻里・阿野 加代子（南北海・札幌静修） 74
藤原 綾・鈴木 絵美（神奈川・大和西） 75
長部 千賀子・古賀 江利奈（福 岡・精華女子） 76
岡本 万輝・谷 沙弥香（徳 島・城 東） 77
長谷川 潤・森谷 美沙都（山 形・山形城北） 78
宮本 優・富樫 理奈（富 山・富山商業） 79
小椋 しのぶ・北尾 美保（愛 知・名古屋経済大学市邨） 80
新田 奈々・遠藤 奈緒美（島 根・大 東） 81
桃島 のぞみ・武下 ちどり（佐 賀・佐賀女子） 82
下山 明日香・小川 智美（群 馬・明照学園樹徳） 83
館治 祐美子・木村 咲絵（石 川・金沢向陽） 84
目秦 香菜・三宅 知佳（奈 良・添 上） 85
明石 光世・西岡 紗世（香 川・香川中央） 86
野田 亜紀・柴田 あゆみ（山 梨・増穂商業） 87
吉田 千春・北 彩（大 分・昭和学園） 88
青木 円香・出水 純子（兵 庫・園田学園） 89
近藤 美加・小倉 みゆき（茨 城・藤 代） 90
平山 優・松村 咲希（宮 城・聖ウルスラ学院） 91
鈴木 知佳・櫻井 可奈子（埼 玉・上 尾） 92
小松 侃子・佐々木 有希子（秋 田・横手城南） 93
福島 侃恵・吉原 秀美（長 野・松 代） 94
陳田 有希・近澤 奈々（三 重・暁 95
青木 優弥・坂本 有希（和歌山・耐 久） 96
上野 麻由子・白山 愛子（長 崎・長崎東） 97
浅原 さゆり・黒田 香織（岡 山・笠岡商業） 98

男子シングルス（98名）


池田雄一（東京・関東第一）1
吉村典嗣（佐賀・唐津南）2
高田直弥（静岡・沼津商業）3
濱渦史成（高知・高知商業）4
岸本泰樹（兵庫・神戸村野工業）5
米田裕之（島根・大東）6
亀ケ森有（青森・青森山田）7
古財和輝（熊本・熊本学園大学付属）8
堂下智寛（新潟・北越）9
宇野貴俊（京都・京都両洋）10
杉山慶太（山形・鶴岡工業）11
十川和也（北北海・帯広大谷）12
進藤陽介（茨城・常総学院）13
竹光唯至（山口・柳井工業）14
立藤正晃（大分・別府鶴見丘）15
金子陽次（群馬・前橋東）16
立田勇太（愛媛・新田）17
高寺弘晴（富山・高岡工芸）18
田端慶太郎（三重・久居）19
辻本武博（福井・足羽）20
本部崇仁（宮崎・日章学園）21
畑友貴（岡山・水島工業）22
岡田秀樹（千葉・西武台千葉）23
守屋正彦（大阪・此花学院）24
背野俊助（福島・帝京安積）25
小澤薫（福岡・自由ケ丘）26
佐藤大輔（栃木・宇都宮南）27
杉内一浩（徳島・城東）28
奥山貴陽（秋田・横手工業）29
細川健太（和歌山・那賀）30
高島康博（茨城・藤代）31
後藤洋介（岐阜・県立岐阜商業）32
椎名勇太（長野・岡谷工業）33
三森領太（山梨・甲府商業）34
川崎裕司（広島・広島国泰寺）35
堀之内真（鹿児島・鹿児島）36
山田光大（南北海・札幌第一）37
山口公洋（滋賀・延暦寺学園比叡山）38
中村正博（長崎・西陵）39
森直樹（愛知・天白）40
阿部修（宮城・仙台商業）41
北村剛（神奈川・藤沢翔陵）42
日下直人（香川・高松第一）43
中尾祐介（埼玉・埼玉栄）44
池田浩志（奈良・添上）45
玉城亮平（沖縄・豊見城南）46
竹中裕紀（鳥取・倉吉工業）47
藤田絢也（岩手・前沢）48
村上亮（石川・金沢市立工業）49
肯山真（茨城・藤代）50
細川泰大（兵庫・神戸村野工業）51
杉本健一（徳島・徳島商業）52
芦田篤志（新潟・北越）53
田中啓輔（佐賀・唐津南）54
芳賀涼（宮城・仙台第三）55
秦岡雅憲（島根・大東）56
井上大輔（大分・別府鶴見丘）57
長田雄大（三重・久居）58
内藤祐輔（神奈川・元石川）59
宮川真（岩手・前沢）60
黒瀬尊敏（富山・高岡工芸）61
高岡聖（愛媛・新田）62
山下幸司（石川・金沢市立工業）63
寺西頼太（和歌山・新宮商業）64
酒井亮太（栃木・作新学院高等部）65
山口幸治（長崎・西陵）66
竹村幸洋（北北海・旭川工業）67
庄旭明（大阪・柏原）68
今西健二（福岡・自由ケ丘）69
津谷剛史（秋田・能代商業）70
堀眞人（岡山・水島工業）71
佐野聖（静岡・星陵）72
井上知也（埼玉・埼玉栄）73
山田尚幸（愛知・名古屋市立向陽）74
筒井正（高知・高知商業）75
島袋剛（沖縄・読谷）76
小暮達也（群馬・前橋東）77
坂桂美彦（福井・勝山）78
伊東大地（広島・安佐北）79
山田和弘（南北海・札幌第一）80
寺田駿（福島・会津工業）81
東出真平（京都・京都両洋）82
永目剛（宮崎・妻）83
末吉健志（鳥取・境港工業）84
新開慎士（東京・関東第一）85
中山大聡（青森・東奥学園）86
安樂翔一（鹿児島・鹿児島）87
中山博之（茨城・常総学院）88
金谷俊寿（千葉・千葉敬愛）89
中村祐介（長野・長野商業）90
数野健太（滋賀・延暦寺学園比叡山）91
昌山由樹也（香川・高松商業）92
樫山智士（山梨・甲府商業）93
今藤康裕（岐阜・県立岐阜商業）94
堀凱（奈良・奈良）95
伊藤大（山形・日本大学山形）96
松尾光平（山口・柳井工業）97
有田裕佑（熊本・八代東）98

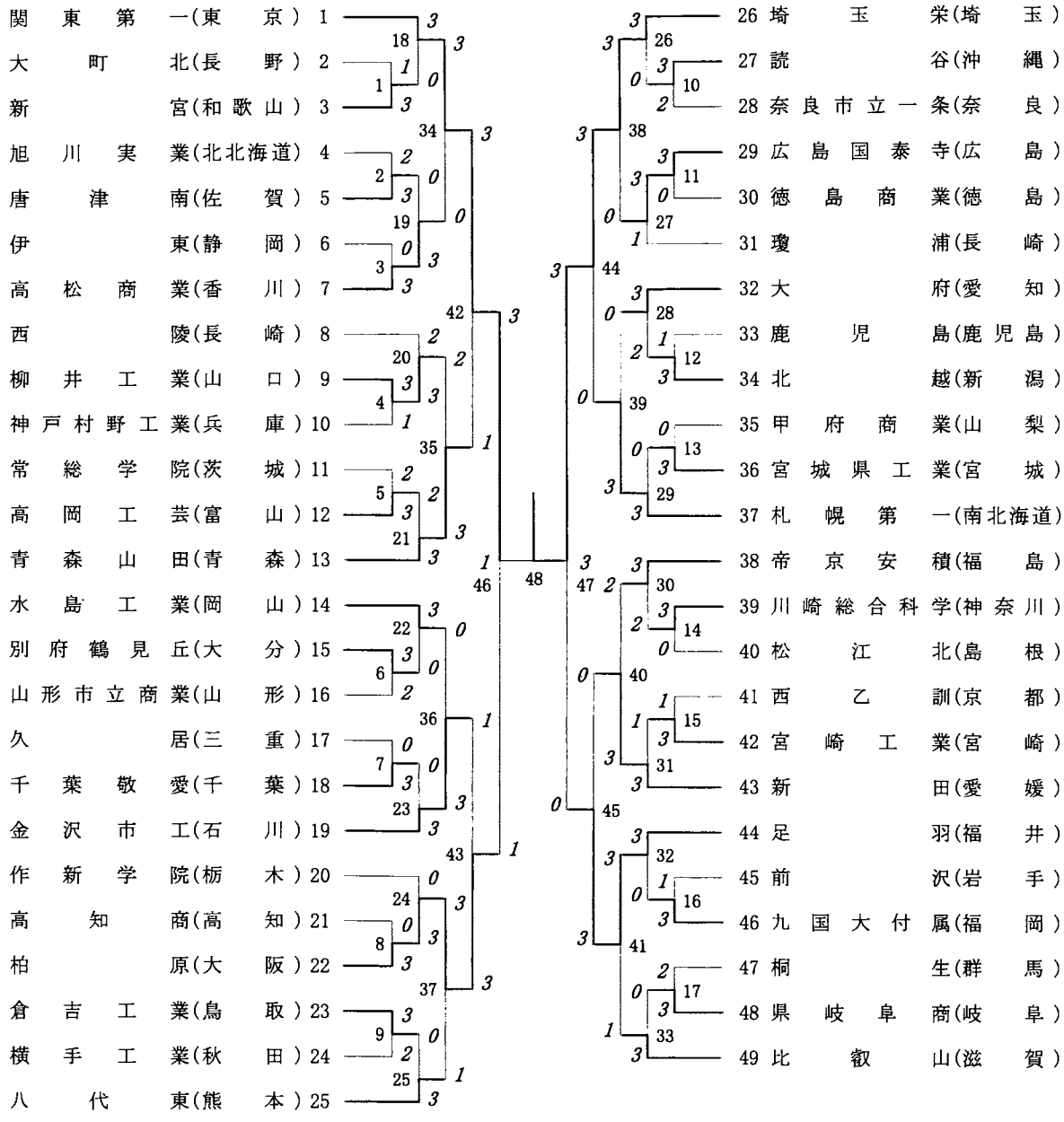
女子シングルス（98名）


1 廣瀬 栄理子（青 森・青森山田）
2 若杉 文音（京 都・西 山）
3 宮城 沙矢香（沖 縄・南風原）
4 金森 裕子（静 岡・星 陵）
5 神田 麻里（南北海・札幌静修）
6 飯島 春奈（山 梨・甲府商業）
7 藤原 由衣（鳥 取・倉吉工業）
8 宮本 優（富 山・富山商業）
9 白山 愛子（長 崎・長崎東）
10 那須 真由子（岩 手・前沢）
11 小池 温子（千 葉・西武台千葉）
12 村松 みどり（滋 賀・滋賀女子）
13 明石 光世（香 川・香川中央）
14 目黒 香菜（奈 良・添上）
15 田島 朝美（宮 城・聖ウルスラ学院）
16 畑 小百合（福 井・足羽）
17 星 香緒利（栃 木・宇都宮南）
18 黒田 香織（岡 山・笠岡商業）
19 小野 智子（福 岡・九州国際大学付属）
20 中井川美奈（東 京・日本橋女学館）
21 桃島 のぞみ（佐 賀・佐賀女子）
22 篠原 ちあき（徳 島・徳島北）
23 箕輪 ひと実（長 野・小諸）
24 清水 陽子（茨 城・常総学院）
25 脇田 侑（岐 阜・県立岐阜商業）
26 和泉 奈々恵（北北海・旭川実業）
27 豊島 愛香（鹿児島・鹿児島女子）
28 小椋 しのぶ（愛 知・名古屋経済大学市邸）
29 恩田 愛（島 根・松徳女学院）
30 鶴見 麻衣（神奈川・大和西）
31 松尾 静香（大 阪・此花学院）
32 媚山 富実華（新 潟・新潟青陵）
33 青木 優弥（和歌山・耐久）
34 末綱 郁子（大 分・昭和学園）
35 影山 侑子（高 知・土佐女子）
36 山口 美百子（山 形・九里学園）
37 原田 香里（茨 城・常総学院）
38 田中 里実（埼 玉・埼玉栄）
39 谷坂 優花（兵 庫・夙川学院）
40 小坂 綾（秋 田・羽後）
41 鍛治 祐美子（石 川・金沢向陽）
42 林 幸代（山 口・中村女子）
43 前田 美順（熊 本・熊本中央）
44 安藤 朋恵（愛 媛・西条農業）
45 山蔭 愛（群 馬・前橋東）
46 河野 真依（宮 崎・宮崎商業）
47 近藤 瞳（福 島・清陵情報）
48 清水 美智子（三 重・久居）
49 周 艶（広 島・広島桜が丘）
50 綿引 悠貴（茨 城・常総学院）
51 間瀬 さやか（愛 知・愛知淑徳）
52 尾崎 紗衣（大 阪・樟蔭東）
53 橋本 宏予（長 崎・鶴鳴学園長崎女子）
54 三瓶 沙織（福 島・清陵情報）
55 毛利 友美（香 川・坂出商業）
56 今別府 靖代（青 森・青森山田）
57 蛭沼 郁美（群 馬・前橋東）
58 柴村 美帆（京 都・西乙訓）
59 高山 仁美（長 野・長野西）
60 武下 ちどり（佐 賀・佐賀女子）
61 川下 彩香（広 島・鈴峯女子）
62 吉村 征美（熊 本・熊本中央）
63 島田 陽子（山 梨・甲府商業）
64 松尾 杏澄（山 口・熊毛北）
65 飛島 由香（北北海・旭川実業）
66 冨樫 理奈（富 山・富山商業）
67 垣岩 真未（滋 賀・滋賀女子）
68 後藤 舞（岐 阜・県立岐阜商業）
69 須藤 なつみ（山 形・山形市立商業）
70 井村 浩子（高 知・清和女子）
71 三好 恵（宮 崎・宮崎商業）
72 中村 紋子（福 井・勝山）
73 岩田 新菜（埼 玉・埼玉栄）
74 大條 亜津紗（愛 媛・新居浜東）
75 別所 美穂（三 重・久居）
76 吉田 千春（大 分・昭和学園）
77 地神 加奈子（兵 庫・日ノ本学園）
78 藤原 綾（神奈川・大和西）
79 浅原 さゆり（岡 山・笠岡商業）
80 櫻井 里美（茨 城・常総学院）
81 国吉 真規子（沖 縄・糸満）
82 小笠原 早苗（秋 田・大曲工業）
83 三原 遥香（島 根・大東）
84 加澤 麻子（東 京・日本橋女学館）
85 青山 早希（石 川・金沢向陽）
86 村松 瑞穂（静 岡・星陵）
87 村上 桂（岩 手・盛岡市立）
88 三五 優理（栃 木・真岡女子）
89 木戸 麻美（和歌山・有田中央）
90 長部 千賀子（福 岡・精華女子）
91 永野 陽子（南北海・札幌静修）
92 佐藤 真由（千 葉・西武台千葉）
93 本間 つかさ（新 潟・新潟青陵）
94 山下 幸子（鹿児島・鹿児島）
95 三宅 知佳（奈 良・添上）
96 信組 絵美（鳥 取・倉吉工業）
97 大谷 恵（徳 島・富岡西）
98 平山 優（宮 城・聖ウルスラ学院）

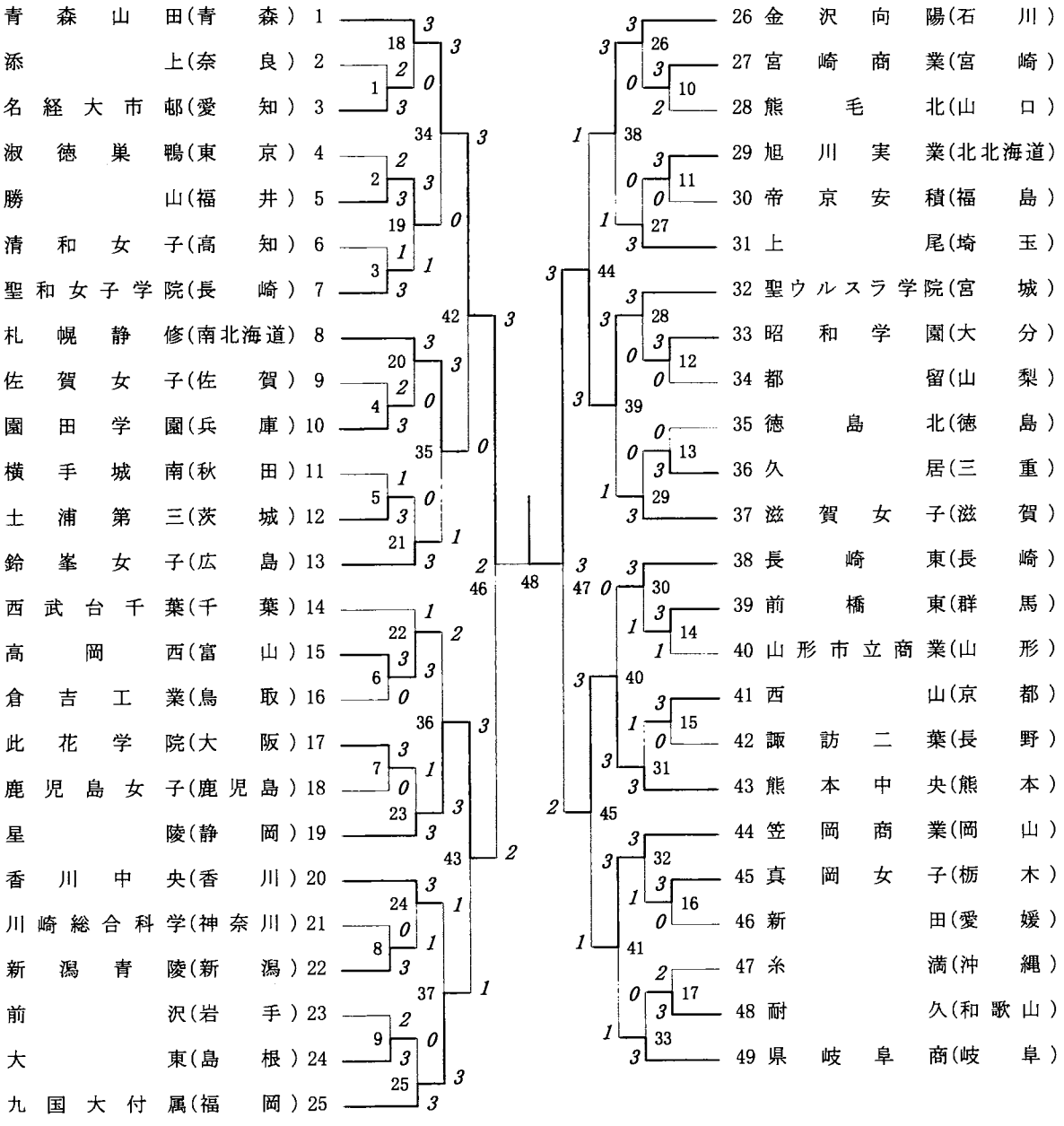
第54回全国高等学校バドミントン選手権大会（2003年度）

期日▶平成15年７月28日～８月２日
会場▶大村市体育文化センター・長崎県立大村高等学校第一体育館・長崎市民体育館
長崎女子短期大学体育館・長崎県立長崎南高等学校体育館(情熱館・気魄館)

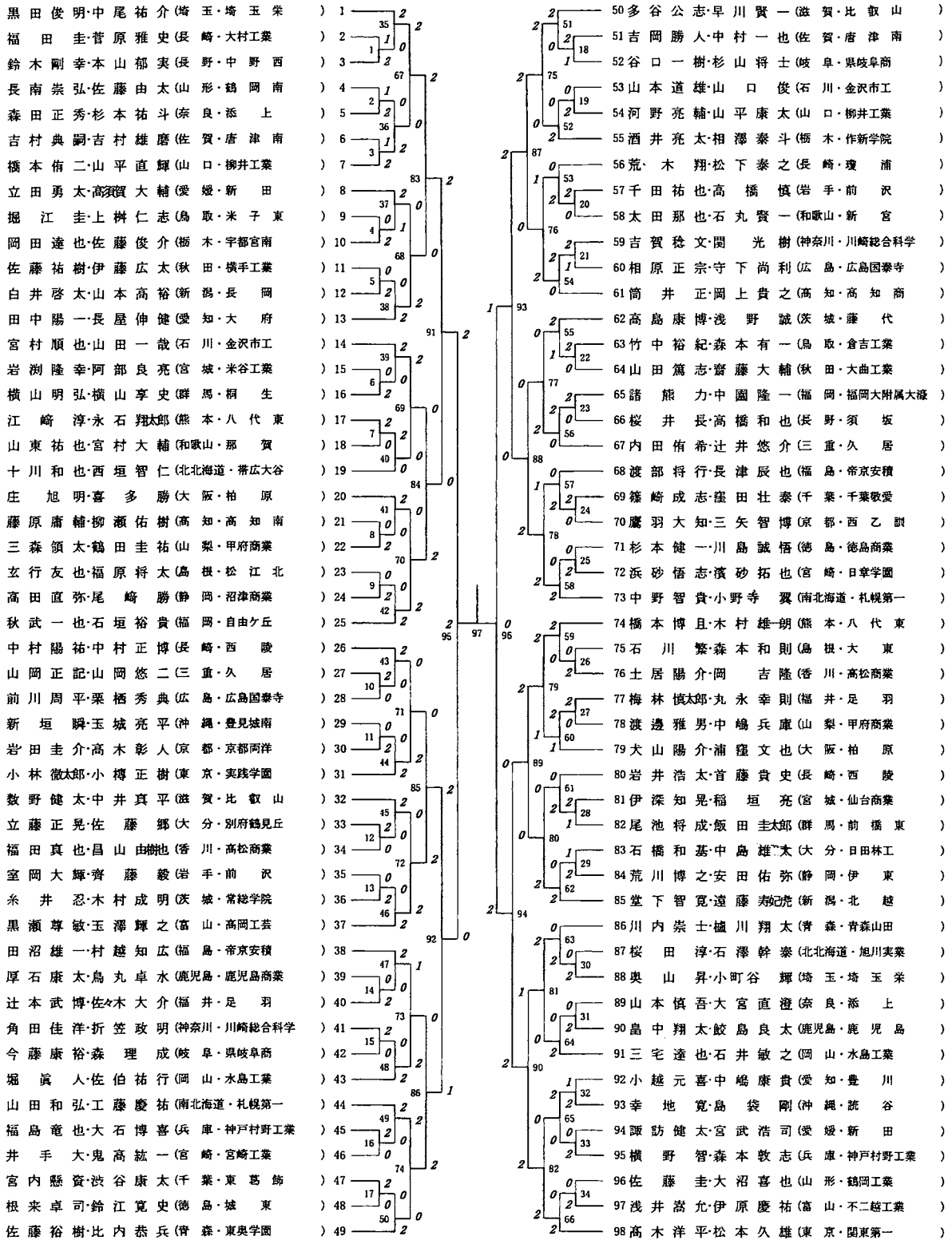
男子団体（49校）



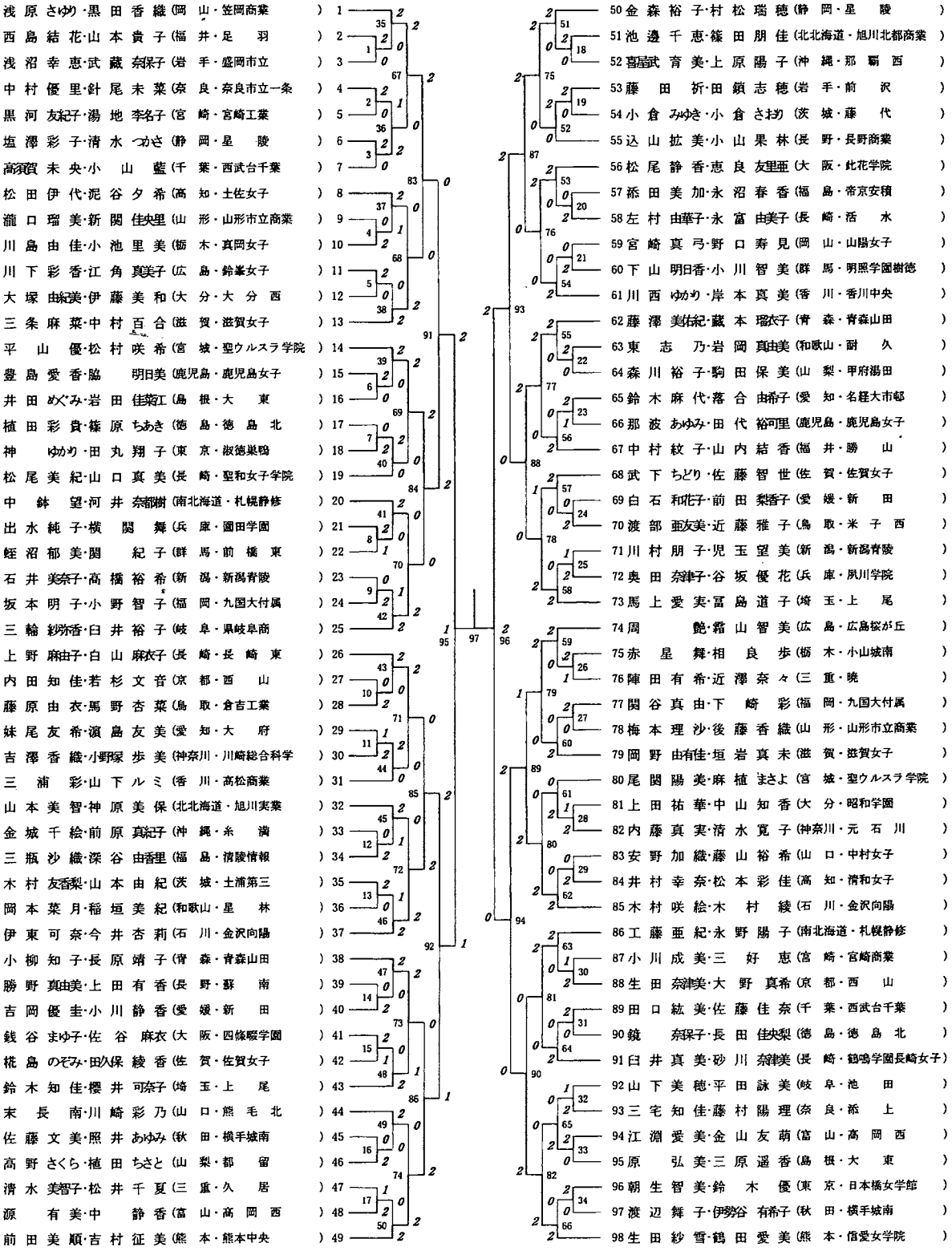
女子団体（49校）


青森山田(青森) 1
添上(奈良) 2
名経大市邨(愛知) 3
淑徳巣鴨(東京) 4
勝山(福井) 5
清和女子(高知) 6
聖和女子学院(長崎) 7
札幌静修(南北海道) 8
佐賀女子(佐賀) 9
園田学園(兵庫) 10
横手城南(秋田) 11
土浦第三(茨城) 12
鈴峯女子(広島) 13
西武台千葉(千葉) 14
高岡西(富山) 15
倉吉工業(鳥取) 16
此花学院(大阪) 17
鹿児島女子(鹿児島) 18
星陵(静岡) 19
香川中央(香川) 20
川崎総合科学(神奈川) 21
新潟青陵(新潟) 22
前沢(岩手) 23
大東(島根) 24
九国大付属(福岡) 25
26 金沢向陽(石川)
27 宮崎商業(宮崎)
28 熊毛北(山口)
29 旭川実業(北北海道)
30 帝京安積(福島)
31 上尾(埼玉)
32 聖ウルスラ学院(宮城)
33 昭和学園(大分)
34 都留(山梨)
35 徳島北(徳島)
36 久居(三重)
37 滋賀女子(滋賀)
38 長崎東(長崎)
39 前橋東(群馬)
40 山形市立商業(山形)
41 西山(京都)
42 諏訪二葉(長野)
43 熊本中央(熊本)
44 笠岡商業(岡山)
45 真岡女子(栃木)
46 新田(愛媛)
47 糸満(沖縄)
48 耐久(和歌山)
49 県岐阜商(岐阜)

男子ダブルス（98組）


黒田俊明・中尾祐介（埼玉・埼玉栄） 1
福田圭・菅原雅史（長崎・大村工業） 2
鈴木剛幸・本山郁実（長野・中野西） 3
長南崇弘・佐藤由太（山形・鶴岡南） 4
森田正秀・杉本祐斗（奈良・添上） 5
吉村典嗣・吉村雄磨（佐賀・唐津南） 6
橋本侑二・山平直輝（山口・柳井工業） 7
立田勇太・高須賀大輔（愛媛・新田） 8
堀江圭・上榊仁志（鳥取・米子東） 9
岡田達也・佐藤俊介（栃木・宇都宮南） 10
佐藤祐樹・伊藤広太（秋田・横手工業） 11
白井啓太・山本高裕（新潟・長岡） 12
田中陽一・長屋伸健（愛知・大府） 13
宮村順也・山田一哉（石川・金沢市工） 14
岩渕隆幸・阿部良亮（宮城・米谷工業） 15
横山明弘・横山享史（群馬・桐生） 16
江崎淳・永石翔太郎（熊本・八代東） 17
山東祐也・宮村大輔（和歌山・那賀） 18
十川和也・西垣智仁（北海道・帯広大谷） 19
庄旭明・喜多勝（大阪・柏原） 20
藤原庸輔・柳瀬佑樹（高知・高知南） 21
三森領太・鶴田圭祐（山梨・甲府商業） 22
玄行友也・福原将太（島根・松江北） 23
高田直弥・尾崎勝（静岡・沼津商業） 24
秋武一也・石垣裕貴（福岡・自由ケ丘） 25
中村陽祐・中村正博（長崎・西陵） 26
山岡正記・山岡悠二（三重・久居） 27
前川周平・栗栖秀典（広島・広島国泰寺） 28
新垣瞬・玉城亮平（沖縄・豊見城南） 29
岩田圭介・高木彰人（京都・京都両洋） 30
小林徹太郎・小樽正樹（東京・実践学園） 31
数野健太・中井真平（滋賀・比叡山） 32
立藤正晃・佐藤郷（大分・別府鶴見丘） 33
福田真也・昌山由樹地（香川・高松商業） 34
室岡大輝・齊藤毅（岩手・前沢） 35
糸井忍・木村成明（茨城・常総学院） 36
黒瀬尊敏・玉澤輝之（富山・高岡工芸） 37
田沼雄一・村越知広（福島・帝京安積） 38
厚石康太・鳥丸卓水（鹿児島・鹿児島商業） 39
辻本武博・佐々木大介（福井・足羽） 40
角田佳洋・折笠政明（神奈川・川崎総合科学） 41
今藤康裕・森理成（岐阜・県岐阜商） 42
堀眞人・佐伯祐行（岡山・水島工業） 43
山田和弘・工藤慶祐（南北海道・札幌第一） 44
福島竜也・大石博喜（兵庫・神戸村野工業） 45
井手大・鬼高紘一（宮崎・宮崎工業） 46
宮内懸資・渋谷康太（千葉・東葛飾） 47
根来卓司・鈴江寛史（徳島・城東） 48
佐藤裕樹・比内恭兵（青森・東奥学園） 49
多谷公志・早川賢一（滋賀・比叡山） 50
吉岡勝人・中村一也（佐賀・唐津南） 51
谷口一樹・杉山将士（岐阜・県岐阜商） 52
山本道雄・山口俊（石川・金沢市工） 53
河野亮輔・山平康太（山口・柳井工業） 54
酒井亮太・相澤泰斗（栃木・作新学院） 55
荒木翔・松下泰之（長崎・瓊浦） 56
千田祐也・高橋慎（岩手・前沢） 57
太田那也・石丸賢一（和歌山・新宮） 58
吉賀稔文・関光樹（神奈川・川崎総合科学） 59
相原正宗・守下尚利（広島・広島国泰寺） 60
筒井正・岡上貴之（高知・高知商） 61
高島康博・浅野誠（茨城・藤代） 62
竹中裕紀・森本有一（鳥取・倉吉工業） 63
山田篤志・齋藤大輔（秋田・大曲工業） 64
諸熊力・中園隆一（福岡・福岡大附属大濠） 65
桜井長・高橋和也（長野・須坂） 66
内田侑希・辻井悠介（三重・久居） 67
渡部将行・長津辰也（福島・帝京安積） 68
篠崎成志・窪田壮泰（千葉・千葉敬愛） 69
鷹羽大知・三矢智博（京都・西乙訓） 70
杉本健一・川島誠悟（徳島・徳島商業） 71
浜砂悟志・濱砂拓也（宮崎・日章学園） 72
中野智貴・小野寺翼（南北海道・札幌第一） 73
橋本博且・木村雄朗（熊本・八代東） 74
石川繁・森本和則（島根・大東） 75
土居陽介・岡吉隆（香川・高松商業） 76
梅林慎太郎・丸永幸則（福井・足羽） 77
渡邊雅男・中嶋兵庫（山梨・甲府商業） 78
犬山陽介・浦窪文也（大阪・柏原） 79
岩井浩太・首藤貴史（長崎・西陵） 80
伊深知晃・稲垣充（宮城・仙台商業） 81
尾池将成・飯田圭太郎（群馬・前橋東） 82
石橋和基・中島雄太（大分・日田林工） 83
荒川博之・安田佑弥（静岡・伊東） 84
堂下智寛・遠藤寿記虎（新潟・北越） 85
川内崇士・樋川翔太（青森・青森山田） 86
桜田淳・石澤幹泰（北北海道・旭川実業） 87
奥山昇・小町谷輝（埼玉・埼玉栄） 88
山本慎吾・大宮直澄（奈良・添上） 89
畠中翔太・鮫島良太（鹿児島・鹿児島） 90
三宅達也・石井敏之（岡山・水島工業） 91
小越元喜・中嶋康貴（愛知・豊川） 92
幸地寛・島袋剛（沖縄・読谷） 93
諏訪健太・宮武浩司（愛媛・新田） 94
横野智・森本敦志（兵庫・神戸村野工業） 95
佐藤圭・大沼喜也（山形・鶴岡工業） 96
浅井嵩允・伊原慶祐（富山・不二越工業） 97
高木洋平・松本久雄（東京・関東第一） 98

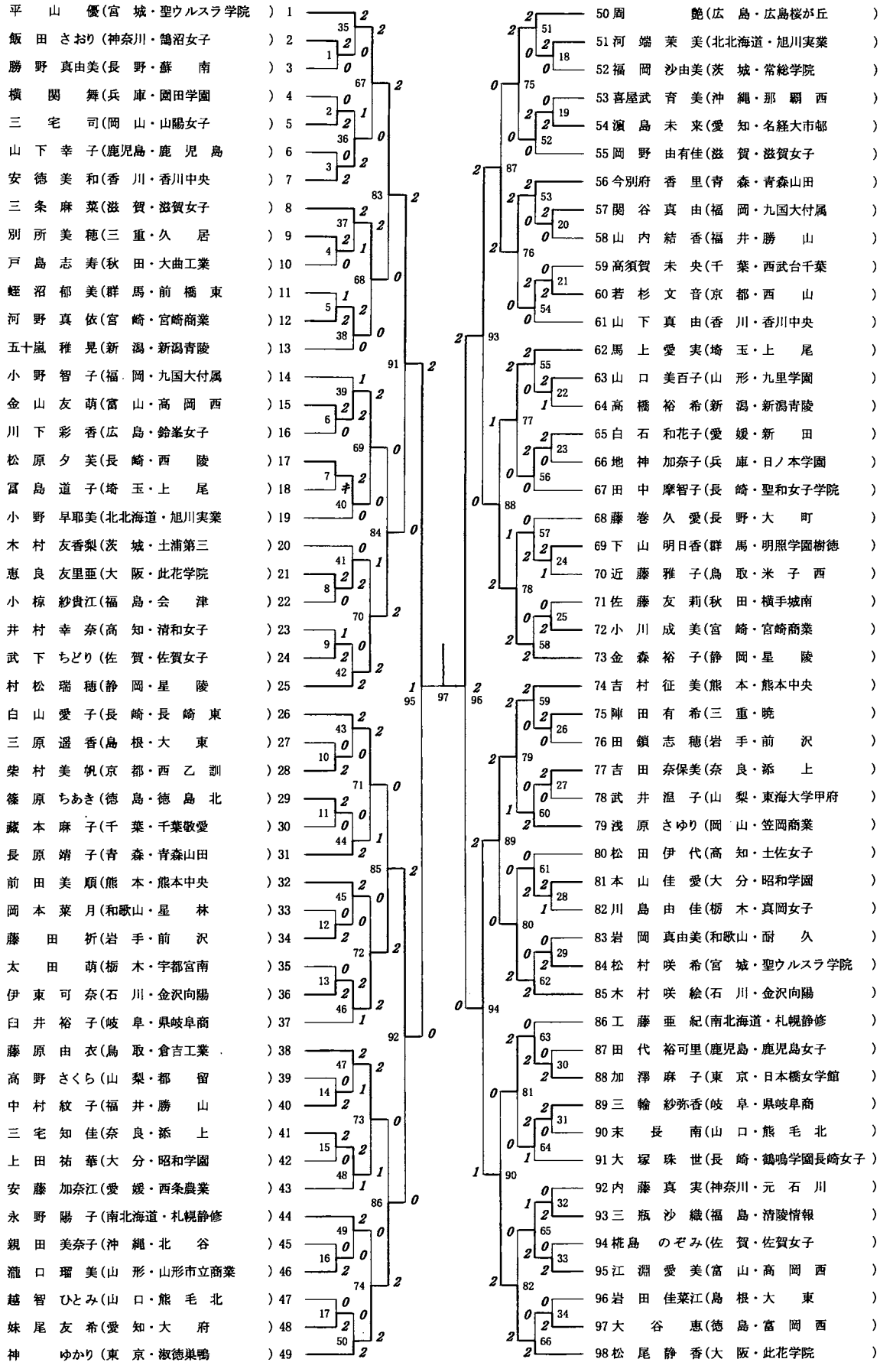
女子ダブルス（98組）


浅原さゆり・黒田香織（岡　山・笠岡商業）1
西島結花・山本貴子（福　井・足　羽）2
浅沼幸恵・武蔵奈保子（岩　手・盛岡市立）3
中村優里・針尾未菜（奈　良・奈良市立一条）4
黒河友紀子・湯地李名子（宮　崎・宮崎工業）5
塩澤彩子・清水つかさ（静　岡・星　陵）6
高須賀未央・小山藍（千　葉・西武台千葉）7
松田伊代・泥谷夕希（高　知・土佐女子）8
瀧口瑠美・新関佳央里（山　形・山形市立商業）9
川島由佳・小池里美（栃　木・真岡女子）10
川下彩香・江角真美子（広　島・鈴峯女子）11
大塚由紀美・伊藤美和（大　分・大分西）12
三条麻菜・中村百合（滋　賀・滋賀女子）13
平山優・松村咲希（宮　城・聖ウルスラ学院）14
豊島愛香・脇明日美（鹿児島・鹿児島女子）15
井田めぐみ・岩田佳菜江（島　根・大　東）16
植田彩貴・篠原ちあき（徳　島・徳島北）17
神ゆかり・田丸翔子（東　京・淑徳巣鴨）18
松尾美紀・山口真美（長　崎・聖和女子学院）19
中鉢望・河井奈都樹（南北海道・札幌静修）20
出水純子・横関舞（兵　庫・園田学園）21
蛭沼郁美・関紀子（群　馬・前橋東）22
石井美奈子・高橋裕希（新　潟・新潟青陵）23
坂本明子・小野智子（福　岡・九国大付属）24
三輪紗弥香・臼井裕子（岐　阜・県岐阜商）25
上野麻由子・白山麻衣子（長　崎・長崎東）26
内田知佳・若杉文音（京　都・西　山）27
藤原由衣・馬野杏菜（鳥　取・倉吉工業）28
妹尾友希・濵島友美（愛　知・大　府）29
吉澤香織・小野塚歩美（神奈川・川崎総合科学）30
三浦彩・山下ルミ（香　川・高松商業）31
山本美智・神原美保（北北海道・旭川実業）32
金城千絵・前原真紀子（沖　縄・糸　満）33
三瓶沙織・深谷由香里（福　島・清陵情報）34
木村友香梨・山本由紀（茨　城・土浦第三）35
岡本菜月・稲垣美紀（和歌山・星　林）36
伊東可奈・今井杏莉（石　川・金沢向陽）37
小柳知子・長原靖子（青　森・青森山田）38
勝野真由美・上田有香（長　野・駒　南）39
吉岡優圭・小川静香（愛　媛・新　田）40
銭谷まゆ子・佐谷麻衣（大　阪・四條畷学園）41
椛島のぞみ・田久保綾香（佐　賀・佐賀女子）42
鈴木知佳・櫻井可奈子（埼　玉・上　尾）43
末長南・川崎彩乃（山　口・熊毛北）44
佐藤文美・照井あゆみ（秋　田・横手城南）45
高野さくら・植田ちさと（山　梨・都　留）46
清水美智子・松井千夏（三　重・久　居）47
源有美・中静香（富　山・高岡西）48
前田美順・吉村征美（熊　本・熊本中央）49
金森裕子・村松瑞穂（静　岡・星　陵）50
池邊千恵・篠田朋佳（北北海道・旭川北都商業）51
喜屋武育美・上原陽子（沖　縄・那　覇　西）52
藤田祈・田鎖志穂（岩　手・前　沢）53
小倉みゆき・小倉さおり（茨　城・藤　代）54
込山拡美・小山果林（長　野・長野商業）55
松尾静香・恵良友里亜（大　阪・此花学院）56
添田美加・永沼春香（福　島・帝京安積）57
左村由華子・永富由美子（長　崎・活　水）58
宮崎真弓・野口寿見（岡　山・山陽女子）59
下山明日香・小川智美（群　馬・明照学園樹徳）60
川西ゆかり・岸本真美（香　川・香川中央）61
藤澤美佳紀・藏本瑠衣子（青　森・青森山田）62
東志乃・岩岡真由美（和歌山・耐　久）63
森川裕子・駒田保美（山　梨・甲府湯田）64
鈴木麻代・落合由希子（愛　知・名経大市邨）65
那波あゆみ・田代裕可里（鹿児島・鹿児島女子）66
中村紋子・山内結香（福　井・勝　山）67
武下ちどり・佐藤智世（佐　賀・佐賀女子）68
白石和花子・前田梨香子（愛　媛・新　田）69
渡部亜友美・近藤雅子（鳥　取・米子西）70
川村朋子・児玉望美（新　潟・新潟青陵）71
奥田奈津子・谷坂優花（兵　庫・夙川学院）72
馬上愛実・冨島道子（埼　玉・上　尾）73
周艶・霜山智美（広　島・広島桜が丘）74
赤星舞・相良歩（栃　木・小山城南）75
陣田有希・近澤奈々（三　重・暁）76
関谷真由・下崎彩（福　岡・九国大付属）77
梅本理沙・後藤香織（山　形・山形市立商業）78
岡野由有佳・垣岩真未（滋　賀・滋賀女子）79
尾関陽美・麻植まさよ（宮　城・聖ウルスラ学院）80
上田祐華・中山知香（大　分・昭和学園）81
内藤真実・清水寛子（神奈川・元　石　川）82
安野加織・藤山裕希（山　口・中村女子）83
井村幸奈・松本彩佳（高　知・清和女子）84
木村咲絵・木村綾（石　川・金沢向陽）85
工藤亜紀・永野陽子（南北海道・札幌静修）86
小川成美・三好恵（宮　崎・宮崎商業）87
生田奈津美・大野真希（京　都・西　山）88
田口紘美・佐藤佳奈（千　葉・西武台千葉）89
鏡奈保子・長田佳央梨（徳　島・徳島北）90
臼井真美・砂川奈津美（長　崎・鶴鳴学園長崎女子）91
山下美穂・平田詠美（岐　阜・池　田）92
三宅知佳・藤村陽理（奈　良・添　上）93
江淵愛美・金山友萌（富　山・高岡西）94
原弘美・三原遥香（島　根・大　東）95
朝生智美・鈴木優（東　京・日本橋女学館）96
渡辺舞子・伊勢谷有希子（秋　田・横手城南）97
生田紗雪・鶴田愛美（熊　本・信愛女学院）98

男子シングルス（98名）

1 庄　旭　明（大　阪・柏　原）
2 相原正宗（広　島・広島国泰寺）
3 升巴勇希（大　分・大分上野丘）
4 室岡大輝（岩　手・前　沢）
5 宗形俊克（埼　玉・埼玉栄）
6 中田祐樹（長　崎・佐世保工業）
7 荻澤岳彦（長　野・大町北）
8 山岡正記（三　重・久　居）
9 厚石康太（鹿児島・鹿児島商業）
10 佐藤圭（山　形・鶴岡工業）
11 須藤郷史（茨　城・常総学院）
12 森田祐史（奈　良・奈良市立一条）
13 高須賀大輔（愛　媛・新　田）
14 松浦晋太郎（南北海道・札幌第一）
15 森理成（岐　阜・県岐阜商）
16 金谷俊寿（千　葉・千葉敬愛）
17 高木彰人（京　都・京都両洋）
18 星野健太朗（新　潟・北　越）
19 中西雄希（福　岡・九国大付属）
20 尾池将成（群　馬・前橋東）
21 佐伯祐行（岡　山・水島工業）
22 岡上貴之（高　知・高知商）
23 大岡兄昌（福　井・足　羽）
24 青木基晴（佐　賀・唐津商業）
25 田沼雄一（福　島・帝京安積）
26 中村正博（長　崎・西　陵）
27 北村圭佑（鳥　取・米子西）
28 高田直弥（静　岡・沼津商業）
29 関光樹（神奈川・川崎総合科学）
30 川上雅央（秋　田・秋田高専）
31 岡吉隆（香　川・高松商業）
32 佐藤裕樹（青　森・東奥学園）
33 鬼高紘一（宮　崎・宮崎工業）
34 浅井祐貴（石　川・星　稜）
35 太田那也（和歌山・新　宮）
36 玄行友也（島　根・松江北）
37 堀川善生（東　京・関東第一）
38 橋本博且（熊　本・八代東）
39 伊深裕貴（宮　城・仙台商業）
40 三浦時央（愛　知・岡崎城西）
41 酒井亮太（栃　木・作新学院）
42 福島竜也（兵　庫・神戸村野工業）
43 山平直輝（山　口・柳井工業）
44 早川賢一（滋　賀・比叡山）
45 玉城亮平（沖　縄・豊見城南）
46 杉本健一（徳　島・徳島商業）
47 出月奏也（山　梨・東海大学甲府）
48 森脇貴生（北北海道・旭川工業）
49 黒瀬尊敏（富　山・高岡工芸）
50 川内崇士（青　森・青森山田）
51 山東祐也（和歌山・那　賀）
52 米久保智（長　野・松本第一）
53 岡田秀樹（千　葉・西武台千葉）
54 浜砂悟志（宮　崎・日章学園）
55 今藤康裕（岐　阜・県岐阜商）
56 十川和也（北北海道・帯広大谷）
57 筒井正（高　知・高知商）
58 林佳介（神奈川・大　井）
59 吉村典嗣（佐　賀・唐津南）
60 喜多勝人（大　阪・柏　原）
61 竹中裕紀（鳥　取・倉吉工業）
62 立田勇太（愛　媛・新　田）
63 高橋慎（岩　手・前　沢）
64 相澤泰斗（栃　木・作新学院）
65 有田雄紀（福　岡・九国大付属）
66 岩本和久（三　重・久　居）
67 宮村順也（石　川・金沢市工）
68 和泉孝明（長　崎・西　陵）
69 大石博喜（兵　庫・神戸村野工業）
70 鈴木学（山　形・山形市立商業）
71 梅林慎太郎（福　井・足　羽）
72 松尾光平（山　口・柳井工業）
73 三森領太（山　梨・甲府商業）
74 古財和輝（熊　本・熊本学園大学付属）
75 横山享史（群　馬・桐　生）
76 西山智（奈　良・奈良市立一条）
77 千崎将（宮　城・宮城県工業）
78 玉澤輝之（富　山・高岡工芸）
79 三宅達也（岡　山・水島工業）
80 中野智貴（南北海道・札幌第一）
81 福田真也（香　川・高松商業）
82 中尾祐介（埼　玉・埼玉栄）
83 鮫島良太（鹿児島・鹿児島）
84 川崎裕司（広　島・広島国泰寺）
85 田中陽一（愛　知・大　府）
86 中村陽祐（長　崎・西　陵）
87 尾崎勝（静　岡・沼津商業）
88 代重拓朗（福　島・帝京安積）
89 立藤正晃（大　分・別府鶴見丘）
90 櫻井成也（京　都・西城陽）
91 高木洋平（東　京・関東第一）
92 堂下智寛（新　潟・北　越）
93 島袋剛（沖　縄・読谷）
94 高島康博（茨　城・藤　代）
95 伊藤広明（秋　田・秋田高専）
96 稲垣圭介（島　根・松江工業）
97 島武尊（徳　島・徳島商業）
98 数野健太（滋　賀・比叡山）

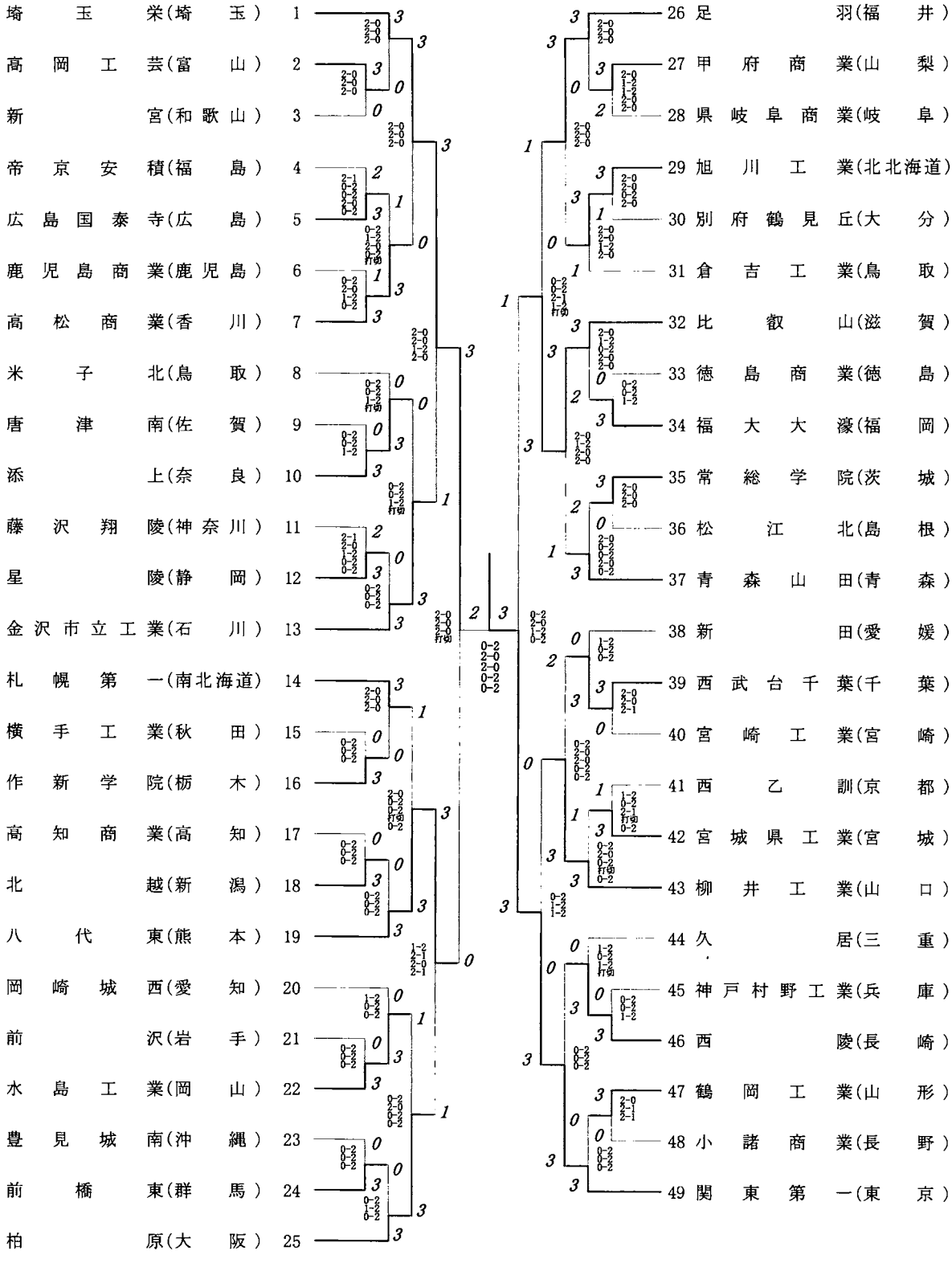
女子シングルス（98名）


平　山　優(宮　城・聖ウルスラ学院　) 1
飯　田　さおり(神奈川・鵠沼女子　) 2
勝　野　真由美(長　野・蘇　南　) 3
横　関　舞(兵　庫・園田学園　) 4
三　宅　司(岡　山・山陽女子　) 5
山　下　幸　子(鹿児島・鹿　児　島　) 6
安　徳　美　和(香　川・香川中央　) 7
三　条　麻　菜(滋　賀・滋賀女子　) 8
別　所　美　穂(三　重・久　居　) 9
戸　島　志　寿(秋　田・大曲工業　) 10
蛭　沼　郁　美(群　馬・前　橋　東　) 11
河　野　真　依(宮　崎・宮崎商業　) 12
五十嵐　稚　晃(新　潟・新潟青陵　) 13
小　野　智　子(福　岡・九国大付属　) 14
金　山　友　萌(富　山・高　岡　西　) 15
川　下　彩　香(広　島・鈴峯女子　) 16
松　原　夕　芙(長　崎・西　陵　) 17
冨　島　道　子(埼　玉・上　尾　) 18
小　野　早耶美(北北海道・旭川実業　) 19
木　村　友香梨(茨　城・土浦第三　) 20
恵　良　友里亜(大　阪・此花学院　) 21
小　椋　紗貴江(福　島・会　津　) 22
井　村　幸　奈(高　知・清和女子　) 23
武　下　ちどり(佐　賀・佐賀女子　) 24
村　松　瑞　穂(静　岡・星　陵　) 25
白　山　愛　子(長　崎・長　崎　東　) 26
三　原　遥　香(島　根・大　東　) 27
柴　村　美　帆(京　都・西　乙　訓　) 28
篠　原　ちあき(徳　島・徳　島　北　) 29
藏　本　麻　子(千　葉・千葉敬愛　) 30
長　原　靖　子(青　森・青森山田　) 31
前　田　美　順(熊　本・熊本中央　) 32
岡　本　菜　月(和歌山・星　林　) 33
藤　田　祈(岩　手・前　沢　) 34
太　田　萌(栃　木・宇都宮南　) 35
伊　東　可　奈(石　川・金沢向陽　) 36
臼　井　裕　子(岐　阜・県岐阜商　) 37
藤　原　由　衣(鳥　取・倉吉工業　) 38
高　野　さくら(山　梨・都　留　) 39
中　村　紋　子(福　井・勝　山　) 40
三　宅　知　佳(奈　良・添　上　) 41
上　田　祐　華(大　分・昭和学園　) 42
安　藤　加奈江(愛　媛・西条農業　) 43
永　野　陽　子(南北海道・札幌静修　) 44
親　田　美奈子(沖　縄・北　谷　) 45
瀧　口　瑠　美(山　形・山形市立商業　) 46
越　智　ひとみ(山　口・熊　毛　北　) 47
妹　尾　友　希(愛　知・大　府　) 48
神　　ゆかり(東　京・淑徳巣鴨　) 49
50 周　　艶(広　島・広島桜が丘　)
51 河　端　茉　美(北北海道・旭川実業　)
52 福　岡　沙由美(茨　城・常総学院　)
53 喜屋武　育　美(沖　縄・那　覇　西　)
54 濵　島　未　来(愛　知・名経大市邨　)
55 岡　野　由有佳(滋　賀・滋賀女子　)
56 今別府　香　里(青　森・青森山田　)
57 関　谷　真　由(福　岡・九国大付属　)
58 山　内　結　香(福　井・勝　山　)
59 髙須賀　未　央(千　葉・西武台千葉　)
60 若　杉　文　音(京　都・西　山　)
61 山　下　真　由(香　川・香川中央　)
62 馬　上　愛　実(埼　玉・上　尾　)
63 山　口　美百子(山　形・九里学園　)
64 髙　橋　裕　希(新　潟・新潟青陵　)
65 白　石　和花子(愛　媛・新　田　)
66 地　神　加奈子(兵　庫・日ノ本学園　)
67 田　中　摩智子(長　崎・聖和女子学院　)
68 藤　巻　久　愛(長　野・大　町　)
69 下　山　明日香(群　馬・明照学園樹徳　)
70 近　藤　雅　子(鳥　取・米　子　西　)
71 佐　藤　友　莉(秋　田・横手城南　)
72 小　川　成　美(宮　崎・宮崎商業　)
73 金　森　裕　子(静　岡・星　陵　)
74 吉　村　征　美(熊　本・熊本中央　)
75 陣　田　有　希(三　重・暁　)
76 田　鎖　志　穂(岩　手・前　沢　)
77 吉　田　奈保美(奈　良・添　上　)
78 武　井　温　子(山　梨・東海大学甲府　)
79 浅　原　さゆり(岡　山・笠岡商業　)
80 松　田　伊　代(高　知・土佐女子　)
81 本　山　佳　愛(大　分・昭和学園　)
82 川　島　由　佳(栃　木・真岡女子　)
83 岩　岡　真由美(和歌山・耐　久　)
84 松　村　咲　希(宮　城・聖ウルスラ学院　)
85 木　村　咲　絵(石　川・金沢向陽　)
86 工　藤　亜　紀(南北海道・札幌静修　)
87 田　代　裕可里(鹿児島・鹿児島女子　)
88 加　澤　麻　子(東　京・日本橋女学館　)
89 三　輪　紗弥香(岐　阜・県岐阜商　)
90 末　　長　　南(山　口・熊　毛　北　)
91 大　塚　珠　世(長　崎・鶴鳴学園長崎女子　)
92 内　藤　真　実(神奈川・元　石　川　)
93 三　瓶　沙　織(福　島・清陵情報　)
94 桃　島　のぞみ(佐　賀・佐賀女子　)
95 江　淵　愛　美(富　山・高　岡　西　)
96 岩　田　佳菜江(島　根・大　東　)
97 大　谷　恵(徳　島・富　岡　西　)
98 松　尾　静　香(大　阪・此花学院　)

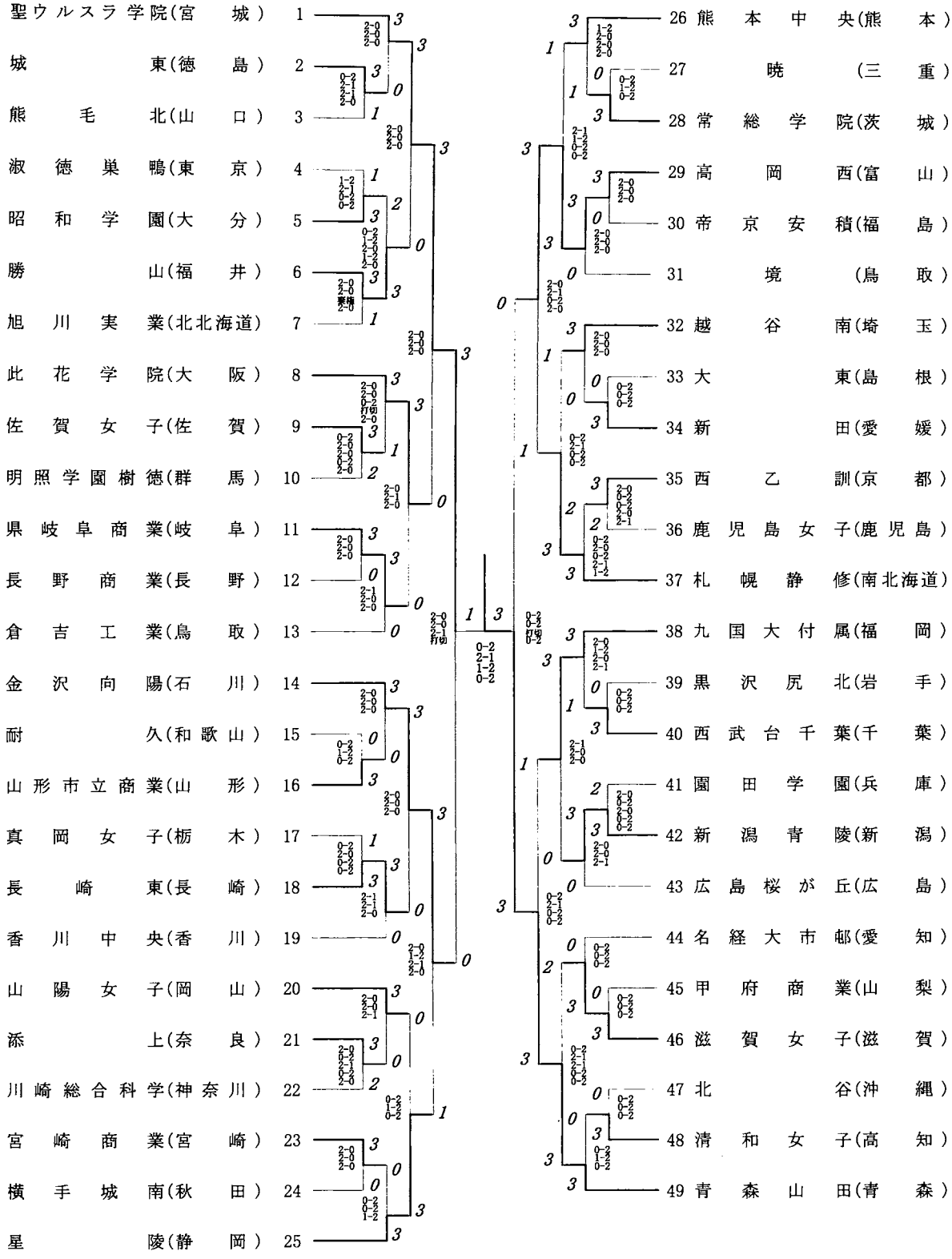
第55回全国高等学校バドミントン選手権大会（2004年度）

期日▶平成16年８月１日～６日
会場▶男子／鳥取県立鳥取産業体育館・鳥取市民体育館
　　女子／鳥取県民体育館・鳥取県立鳥取東高等学校体育館

男 子 団 体（49校）

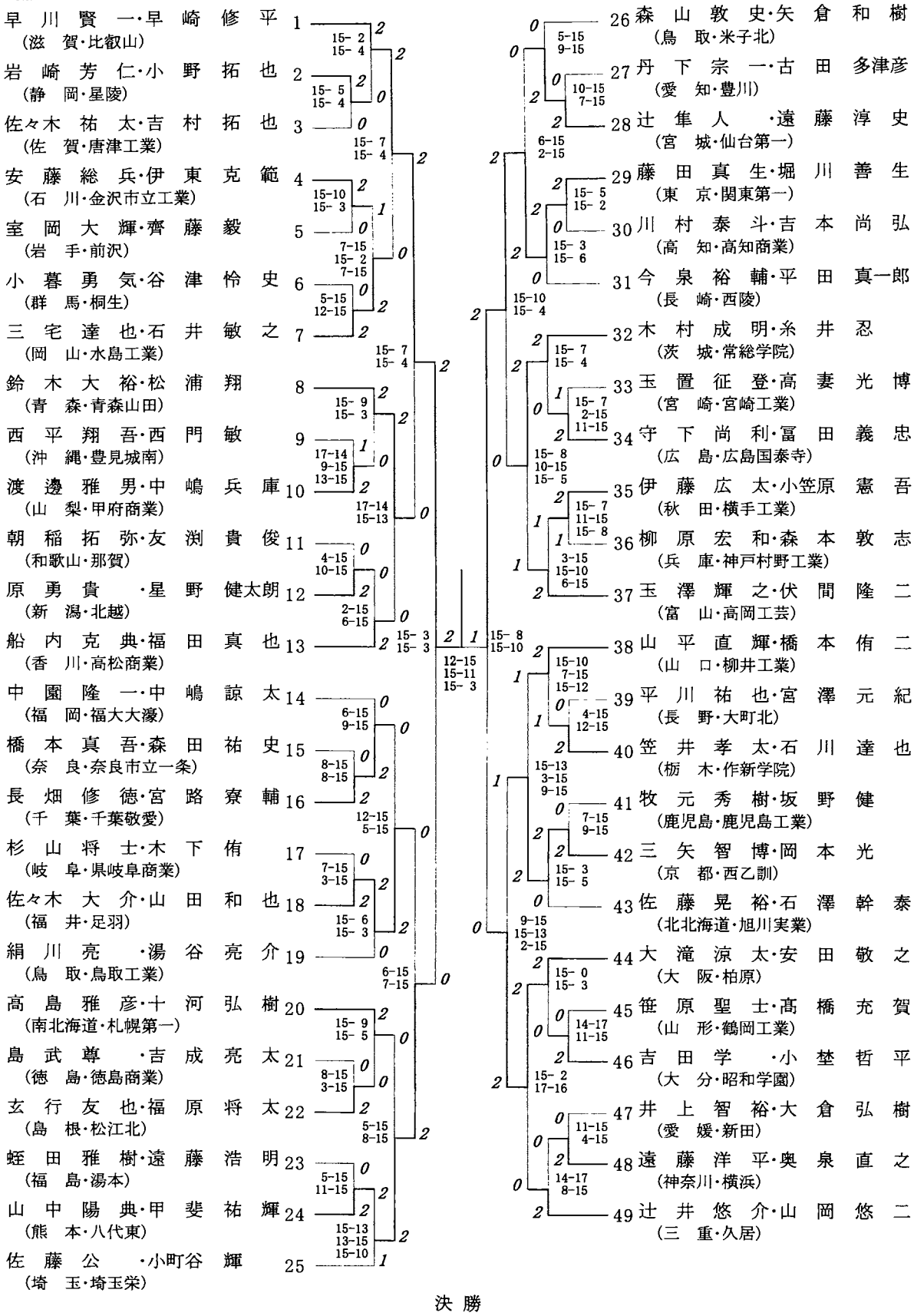


女子団体（49校）


聖ウルスラ学院(宮　城) 1
城東(徳　島) 2
熊毛北(山　口) 3
淑徳巣鴨(東　京) 4
昭和学園(大　分) 5
勝山(福　井) 6
旭川実業(北北海道) 7
此花学院(大　阪) 8
佐賀女子(佐　賀) 9
明照学園樹徳(群　馬) 10
県岐阜商業(岐　阜) 11
長野商業(長　野) 12
倉吉工業(鳥　取) 13
金沢向陽(石　川) 14
耐久(和歌山) 15
山形市立商業(山　形) 16
真岡女子(栃　木) 17
長崎東(長　崎) 18
香川中央(香　川) 19
山陽女子(岡　山) 20
添上(奈　良) 21
川崎総合科学(神奈川) 22
宮崎商業(宮　崎) 23
横手城南(秋　田) 24
星陵(静　岡) 25
26 熊本中央(熊　本)
27 暁(三　重)
28 常総学院(茨　城)
29 高岡西(富　山)
30 帝京安積(福　島)
31 境(鳥　取)
32 越谷南(埼　玉)
33 大東(島　根)
34 新田(愛　媛)
35 西乙訓(京　都)
36 鹿児島女子(鹿児島)
37 札幌静修(南北海道)
38 九国大付属(福　岡)
39 黒沢尻北(岩　手)
40 西武台千葉(千　葉)
41 園田学園(兵　庫)
42 新潟青陵(新　潟)
43 広島桜が丘(広　島)
44 名経大市邨(愛　知)
45 甲府商業(山　梨)
46 滋賀女子(滋　賀)
47 北谷(沖　縄)
48 清和女子(高　知)
49 青森山田(青　森)

男子ダブルス（98組）

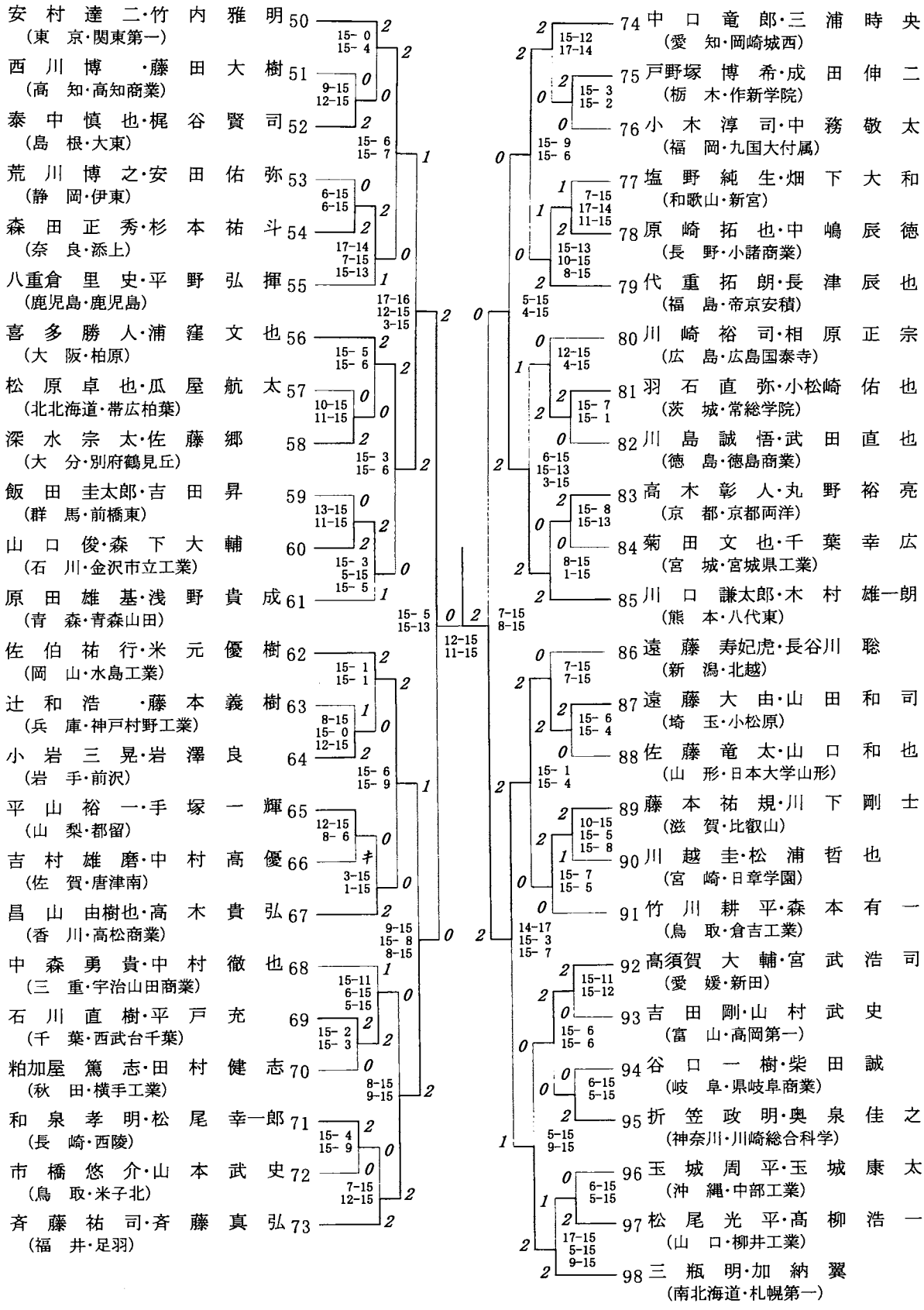
No. 1



決勝

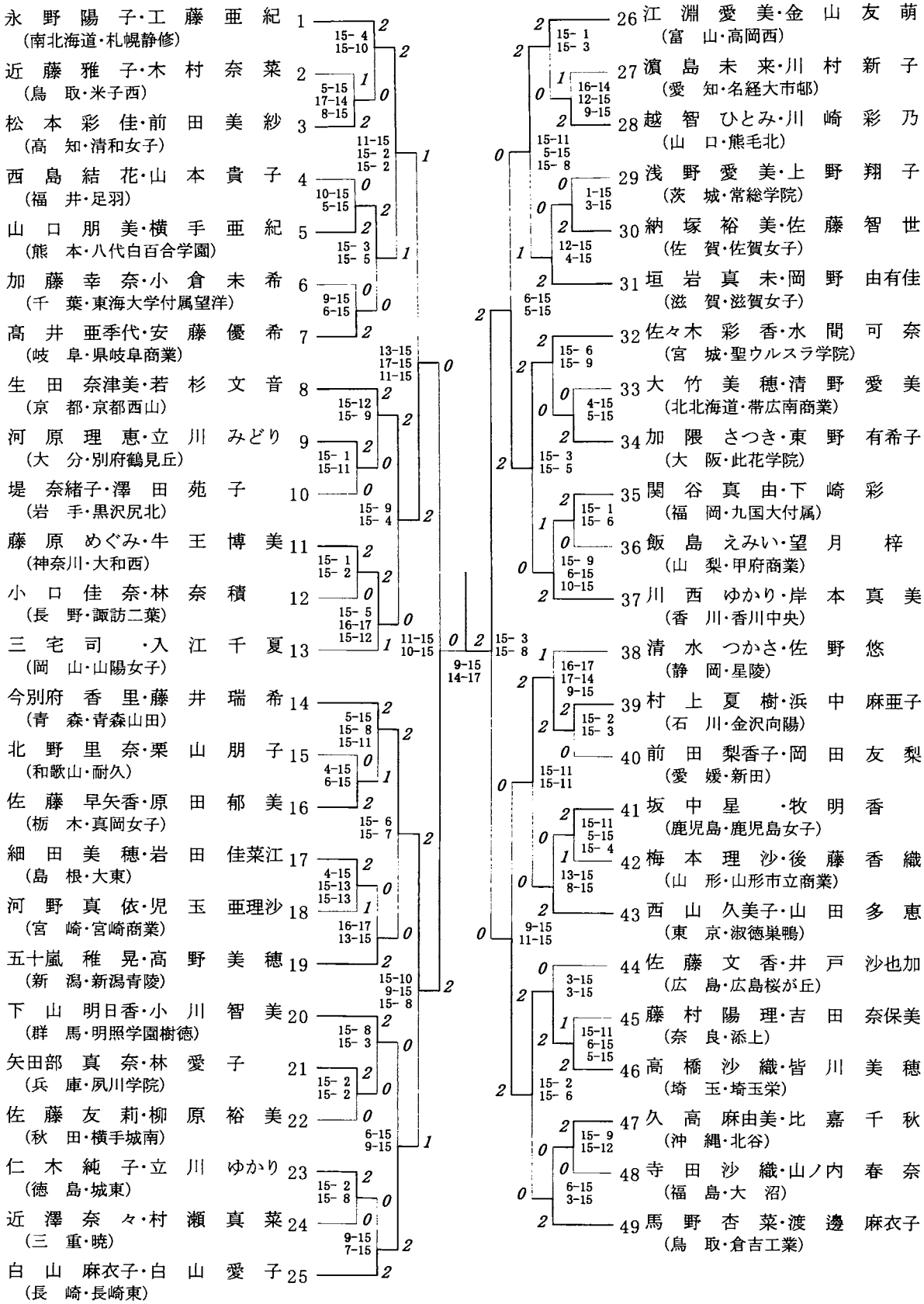
早川賢一・早崎修平（滋賀・比叡山） 0 — 14-17 8-15 — ② 遠藤大由・山田和司（埼玉・小松原）

No. 2


安村達二・竹内雅明 50
(東京・関東第一)
西川博・藤田大樹 51
(高知・高知商業)
泰中慎也・梶谷賢司 52
(島根・大東)
荒川博之・安田佑弥 53
(静岡・伊東)
森田正秀・杉本祐斗 54
(奈良・添上)
八重倉里史・平野弘揮 55
(鹿児島・鹿児島)
喜多勝人・浦窪文也 56
(大阪・柏原)
松原卓也・瓜屋航太 57
(北北海道・帯広柏葉)
深水宗太・佐藤郷 58
(大分・別府鶴見丘)
飯田圭太郎・吉田昇 59
(群馬・前橋東)
山口俊・森下大輔 60
(石川・金沢市立工業)
原田雄基・浅野貴成 61
(青森・青森山田)
佐伯祐行・米元優樹 62
(岡山・水島工業)
辻和浩・藤本義樹 63
(兵庫・神戸村野工業)
小岩三晃・岩澤良 64
(岩手・前沢)
平山裕一・手塚一輝 65
(山梨・都留)
吉村雄磨・中村高優 66
(佐賀・唐津南)
昌山由樹也・高木貴弘 67
(香川・高松商業)
中森勇貴・中村徹也 68
(三重・宇治山田商業)
石川直樹・平戸充 69
(千葉・西武台千葉)
粕加屋篤志・田村健志 70
(秋田・横手工業)
和泉孝明・松尾幸一郎 71
(長崎・西陵)
市橋悠介・山本武史 72
(鳥取・米子北)
斉藤祐司・斉藤真弘 73
(福井・足羽)
中口竜郎・三浦時央 74
(愛知・岡崎城西)
戸野塚博希・成田伸二 75
(栃木・作新学院)
小木淳司・中務敬太 76
(福岡・九国大付属)
塩野純生・畑下大和 77
(和歌山・新宮)
原崎拓也・中嶋辰徳 78
(長野・小諸商業)
代重拓朗・長津辰也 79
(福島・帝京安積)
川崎裕司・相原正宗 80
(広島・広島国泰寺)
羽石直弥・小松崎佑也 81
(茨城・常総学院)
川島誠悟・武田直也 82
(徳島・徳島商業)
高木彰人・丸野裕亮 83
(京都・京都両洋)
菊田文也・千葉幸広 84
(宮城・宮城県工業)
川口謙太郎・木村雄一朗 85
(熊本・八代東)
遠藤寿妃虎・長谷川聡 86
(新潟・北越)
遠藤大由・山田和司 87
(埼玉・小松原)
佐藤竜太・山口和也 88
(山形・日本大学山形)
藤本祐規・川下剛士 89
(滋賀・比叡山)
川越圭・松浦哲也 90
(宮崎・日章学園)
竹川耕平・森本有一 91
(鳥取・倉吉工業)
高須賀大輔・宮武浩司 92
(愛媛・新田)
吉田剛・山村武史 93
(富山・高岡第一)
谷口一樹・柴田誠 94
(岐阜・県岐阜商業)
折笠政明・奥泉佳之 95
(神奈川・川崎総合科学)
玉城周平・玉城康太 96
(沖縄・中部工業)
松尾光平・髙柳浩一 97
(山口・柳井工業)
三瓶明・加納翼 98
(南北海道・札幌第一)

女子ダブルス（98組）

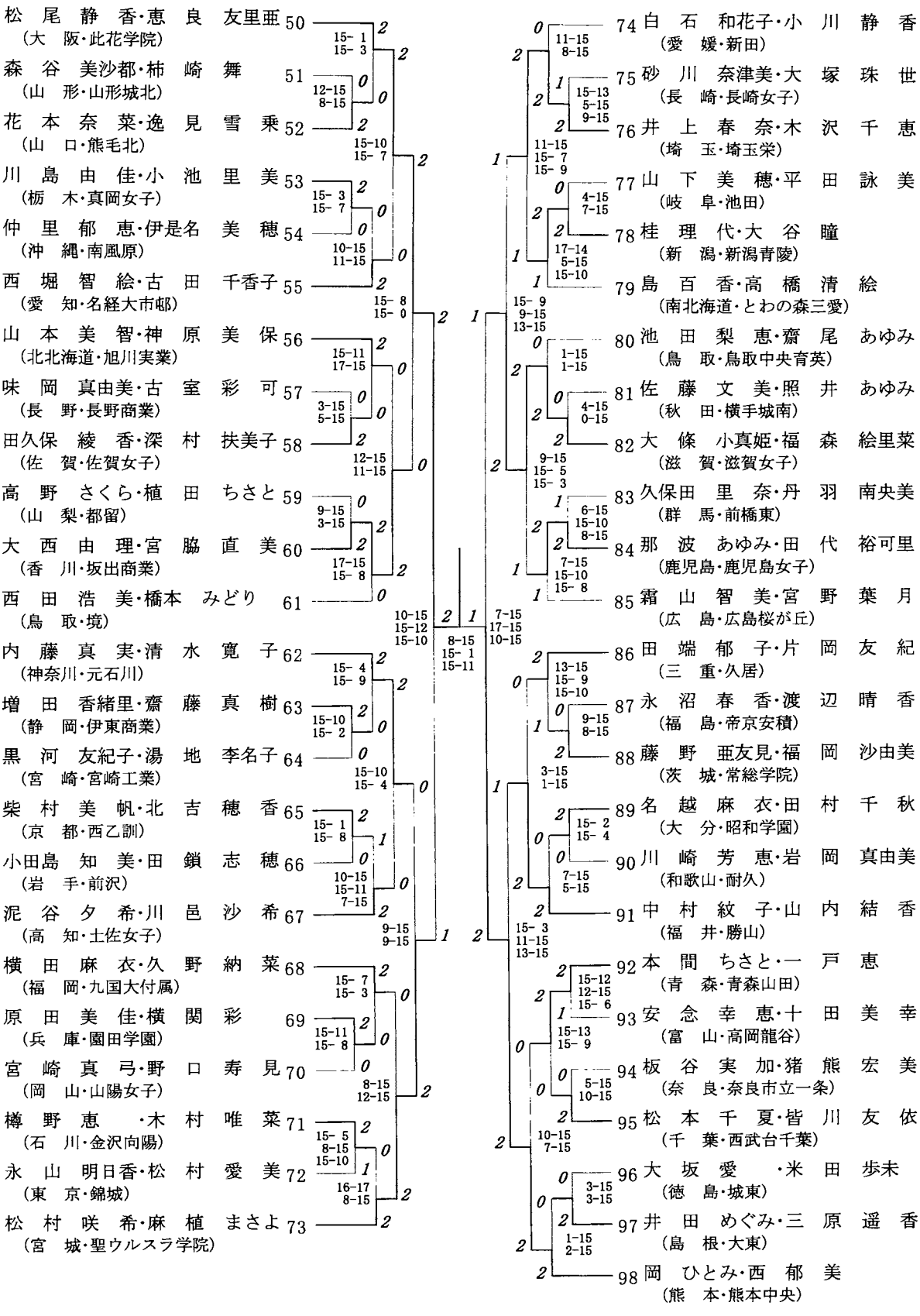
No. 1



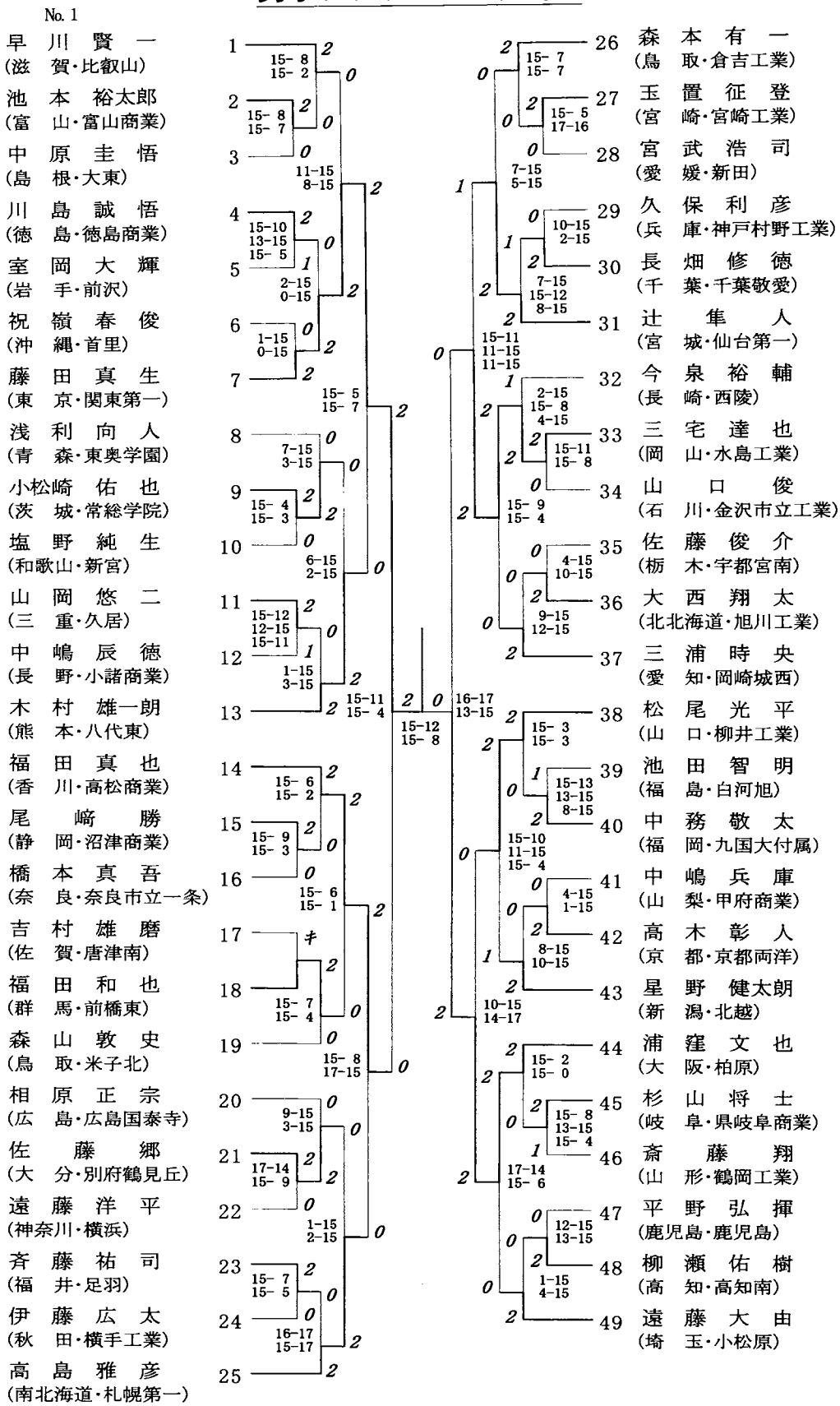
決勝

佐々木彩香・水間可奈（宮　城・聖ウルスラ学院）　②　15-8 17-16　0　松尾静香・恵良友里亜（大　阪・此花学院）

No. 2


松尾静香・恵良友里亜 50
(大阪・此花学院)
森谷美沙都・柿崎舞 51
(山形・山形城北)
花本奈菜・逸見雪乗 52
(山口・熊毛北)
川島由佳・小池里美 53
(栃木・真岡女子)
仲里郁恵・伊是名美穂 54
(沖縄・南風原)
西堀智絵・古田千香子 55
(愛知・名経大市邨)
山本美智・神原美保 56
(北北海道・旭川実業)
味岡真由美・古室彩可 57
(長野・長野商業)
田久保綾香・深村扶美子 58
(佐賀・佐賀女子)
高野さくら・植田ちさと 59
(山梨・都留)
大西由理・宮脇直美 60
(香川・坂出商業)
西田浩美・橘本みどり 61
(鳥取・境)
内藤真実・清水寛子 62
(神奈川・元石川)
増田香緒里・齋藤真樹 63
(静岡・伊東商業)
黒河友紀子・湯地李名子 64
(宮崎・宮崎工業)
柴村美帆・北吉穂香 65
(京都・西乙訓)
小田島知美・田鎖志穂 66
(岩手・前沢)
泥谷夕希・川邑沙希 67
(高知・土佐女子)
横田麻衣・久野納菜 68
(福岡・九国大付属)
原田美佳・横関彩 69
(兵庫・園田学園)
宮崎真弓・野口寿見 70
(岡山・山陽女子)
樽野恵・木村唯菜 71
(石川・金沢向陽)
永山明日香・松村愛美 72
(東京・錦城)
松村咲希・麻植まさよ 73
(宮城・聖ウルスラ学院)
白石和花子・小川静香 74
(愛媛・新田)
砂川奈津美・大塚珠世 75
(長崎・長崎女子)
井上春奈・木沢千恵 76
(埼玉・埼玉栄)
山下美穂・平田詠美 77
(岐阜・池田)
桂理代・大谷瞳 78
(新潟・新潟青陵)
島百香・高橋清絵 79
(南北海道・とわの森三愛)
池田梨恵・齋尾あゆみ 80
(鳥取・鳥取中央育英)
佐藤文美・照井あゆみ 81
(秋田・横手城南)
大條小真姫・福森絵里菜 82
(滋賀・滋賀女子)
久保田里奈・丹羽南央美 83
(群馬・前橋東)
那波あゆみ・田代裕可里 84
(鹿児島・鹿児島女子)
霜山智美・宮野葉月 85
(広島・広島桜が丘)
田端郁子・片岡友紀 86
(三重・久居)
永沼春香・渡辺晴香 87
(福島・帝京安積)
藤野亜友見・福岡沙由美 88
(茨城・常総学院)
名越麻衣・田村千秋 89
(大分・昭和学園)
川崎芳恵・岩岡真由美 90
(和歌山・耐久)
中村紋子・山内結香 91
(福井・勝山)
本間ちさと・一戸恵 92
(青森・青森山田)
安念幸恵・十田美幸 93
(富山・高岡龍谷)
板谷実加・猪熊宏美 94
(奈良・奈良市立一条)
松本千夏・皆川友依 95
(千葉・西武台千葉)
大坂愛・米田歩未 96
(徳島・城東)
井田めぐみ・三原遥香 97
(島根・大東)
岡ひとみ・西郁美 98
(熊本・熊本中央)

男子シングルス（98名）

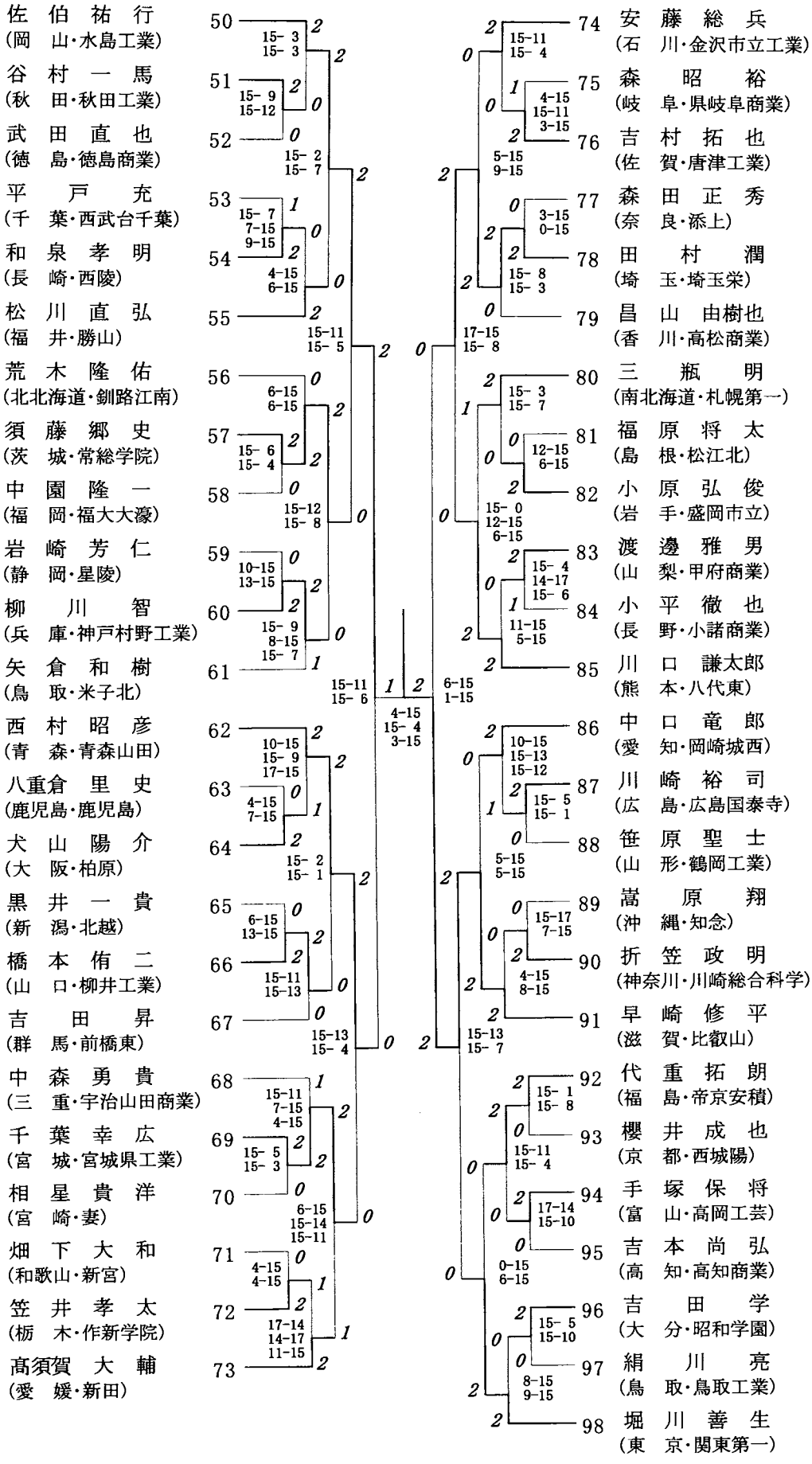


決勝

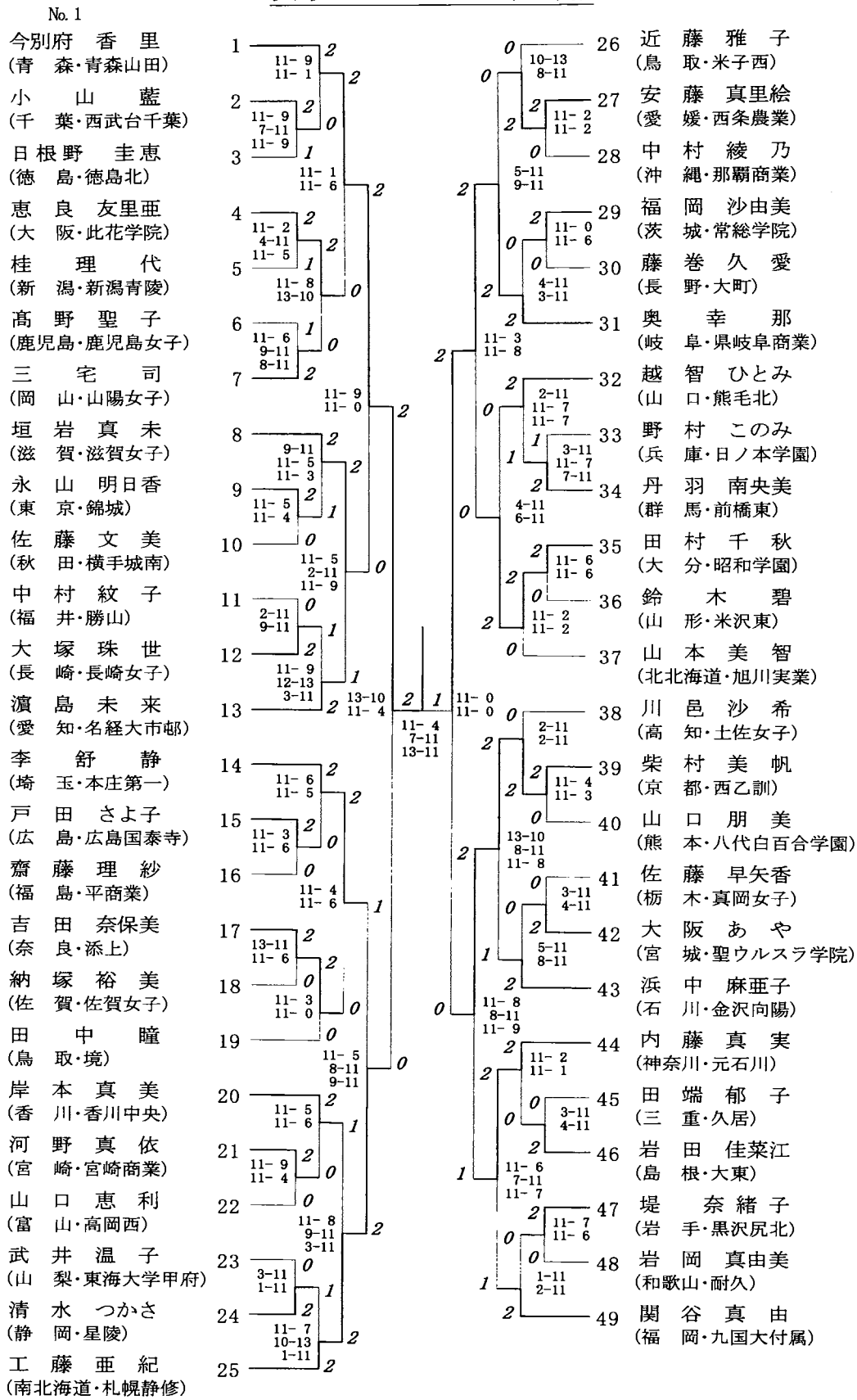
藤田真生 ② 15-9 15-4 0 早崎修平

（東京・関東第一）　（滋賀・比叡山）

No. 2


佐伯祐行 (岡山・水島工業)
谷村一馬 (秋田・秋田工業)
武田直也 (徳島・徳島商業)
平戸充 (千葉・西武台千葉)
和泉孝明 (長崎・西陵)
松川直弘 (福井・勝山)
荒木隆佑 (北北海道・釧路江南)
須藤郷史 (茨城・常総学院)
中園隆一 (福岡・福大大濠)
岩崎芳仁 (静岡・星陵)
柳川智 (兵庫・神戸村野工業)
矢倉和樹 (鳥取・米子北)
西村昭彦 (青森・青森山田)
八重倉里史 (鹿児島・鹿児島)
犬山陽介 (大阪・柏原)
黒井一貴 (新潟・北越)
橋本侑二 (山口・柳井工業)
吉田昇 (群馬・前橋東)
中森勇貴 (三重・宇治山田商業)
千葉幸広 (宮城・宮城県工業)
相星貴洋 (宮崎・妻)
畑下大和 (和歌山・新宮)
笠井孝太 (栃木・作新学院)
髙須賀大輔 (愛媛・新田)
安藤総兵 (石川・金沢市立工業)
森昭裕 (岐阜・県岐阜商業)
吉村拓也 (佐賀・唐津工業)
森田正秀 (奈良・添上)
田村潤 (埼玉・埼玉栄)
昌山由樹也 (香川・高松商業)
三瓶明 (南北海道・札幌第一)
福原将太 (島根・松江北)
小原弘俊 (岩手・盛岡市立)
渡邊雅男 (山梨・甲府商業)
小平徹也 (長野・小諸商業)
川口謙太郎 (熊本・八代東)
中口竜郎 (愛知・岡崎城西)
川崎裕司 (広島・広島国泰寺)
笹原聖士 (山形・鶴岡工業)
嵩原翔 (沖縄・知念)
折笠政明 (神奈川・川崎総合科学)
早崎修平 (滋賀・比叡山)
代重拓朗 (福島・帝京安積)
櫻井成也 (京都・西城陽)
手塚保将 (富山・高岡工芸)
吉本尚弘 (高知・高知商業)
吉田学 (大分・昭和学園)
絹川亮 (鳥取・鳥取工業)
堀川善生 (東京・関東第一)

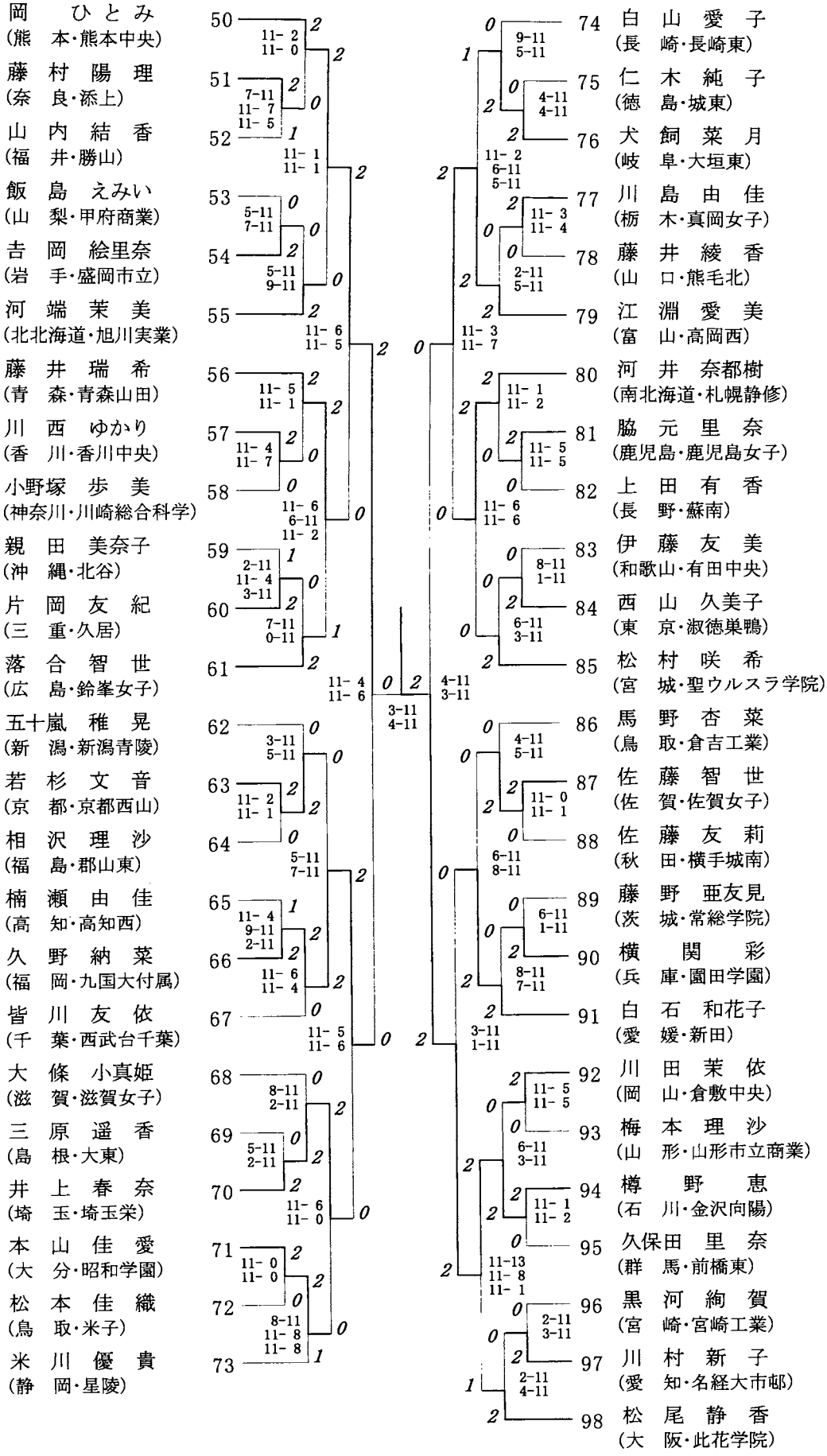
女子シングルス（98名）



決　勝

今別府　香　里　②　11－6　11－7　0　樽　野　恵
(青　森・青森山田)　(石　川・金沢向陽)

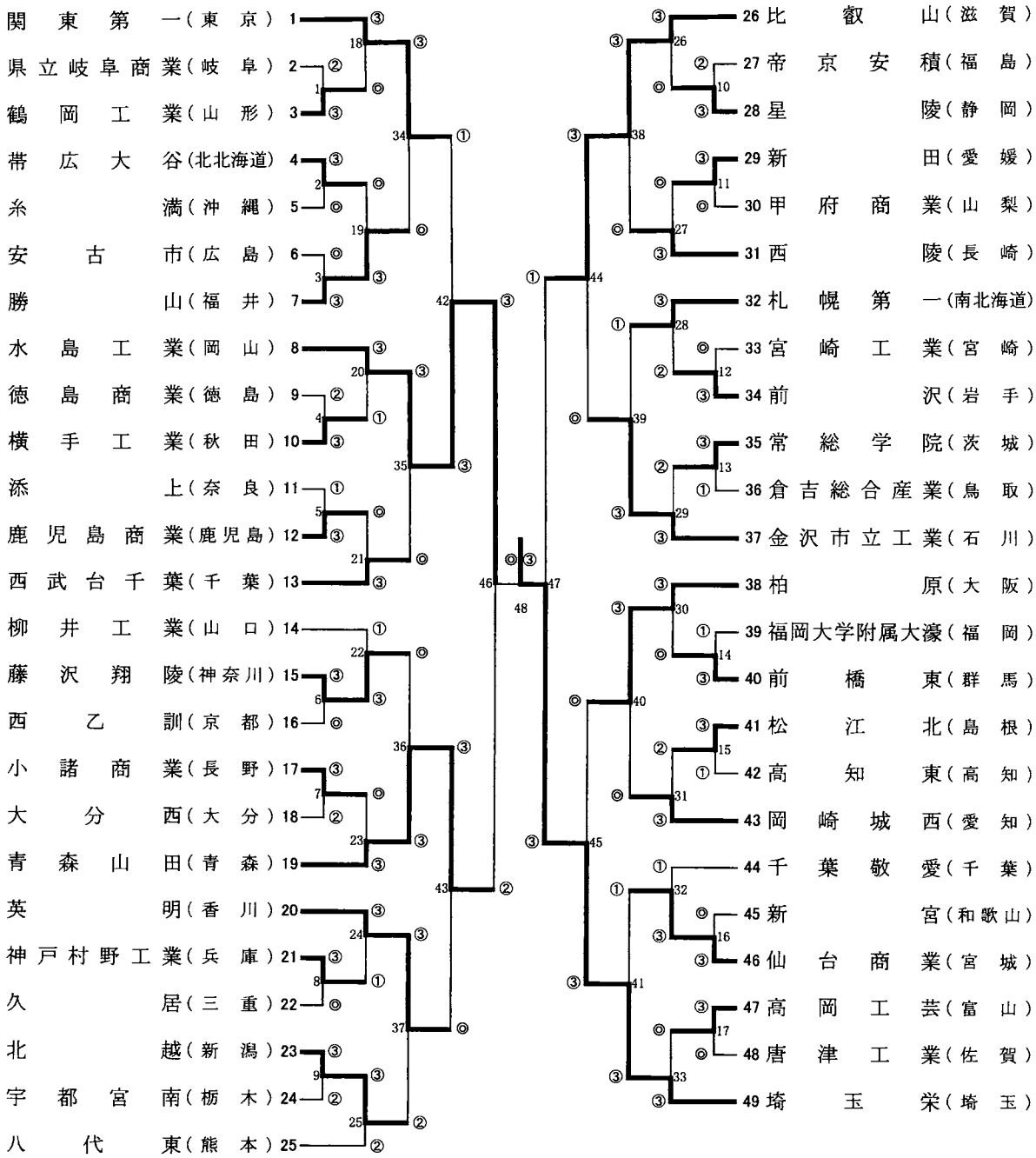
No. 2


50 岡 ひとみ (熊 本・熊本中央)
51 藤村陽理 (奈 良・添上)
52 山内結香 (福 井・勝山)
53 飯島えみい (山 梨・甲府商業)
54 吉岡絵里奈 (岩 手・盛岡市立)
55 河端茉美 (北北海道・旭川実業)
56 藤井瑞希 (青 森・青森山田)
57 川西ゆかり (香 川・香川中央)
58 小野塚歩美 (神奈川・川崎総合科学)
59 親田美奈子 (沖 縄・北谷)
60 片岡友紀 (三 重・久居)
61 落合智世 (広 島・鈴峯女子)
62 五十嵐稚晃 (新 潟・新潟青陵)
63 若杉文音 (京 都・京都西山)
64 相沢理沙 (福 島・郡山東)
65 楠瀬由佳 (高 知・高知西)
66 久野納菜 (福 岡・九国大付属)
67 皆川友依 (千 葉・西武台千葉)
68 大條小真姫 (滋 賀・滋賀女子)
69 三原遥香 (島 根・大東)
70 井上春奈 (埼 玉・埼玉栄)
71 本山佳愛 (大 分・昭和学園)
72 松本佳織 (鳥 取・米子)
73 米川優貴 (静 岡・星陵)
74 白山愛子 (長 崎・長崎東)
75 仁木純子 (徳 島・城東)
76 犬飼菜月 (岐 阜・大垣東)
77 川島由佳 (栃 木・真岡女子)
78 藤井綾香 (山 口・熊毛北)
79 江淵愛美 (富 山・高岡西)
80 河井奈都樹 (南北海道・札幌静修)
81 脇元里奈 (鹿児島・鹿児島女子)
82 上田有香 (長 野・蘇南)
83 伊藤友美 (和歌山・有田中央)
84 西山久美子 (東 京・淑徳巣鴨)
85 松村咲希 (宮 城・聖ウルスラ学院)
86 馬野杏菜 (鳥 取・倉吉工業)
87 佐藤智世 (佐 賀・佐賀女子)
88 佐藤友莉 (秋 田・横手城南)
89 藤野亜友見 (茨 城・常総学院)
90 横関彩 (兵 庫・園田学園)
91 白石和花子 (愛 媛・新田)
92 川田茉依 (岡 山・倉敷中央)
93 梅本理沙 (山 形・山形市立商業)
94 樽野恵 (石 川・金沢向陽)
95 久保田里奈 (群 馬・前橋東)
96 黒河絢賀 (宮 崎・宮崎工業)
97 川村新子 (愛 知・名経大市邨)
98 松尾静香 (大 阪・此花学院)

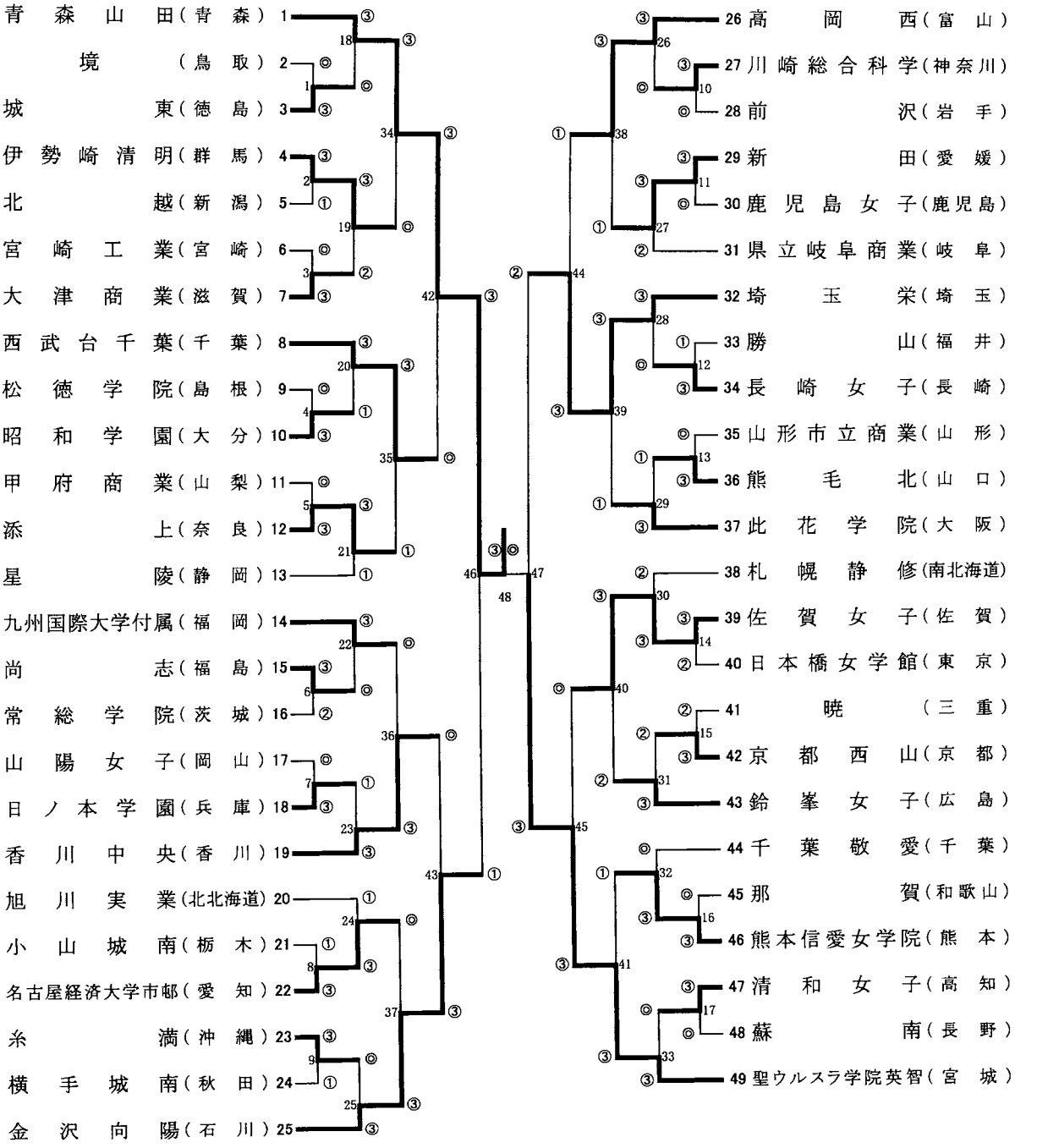
第56回全国高等学校バドミントン選手権大会（2005年度）

期日▶平成17年８月１日～６日
会場▶男子／野田市総合公園体育館・武陽学園・西武台千葉高等学校第1･2体育館・野田市立第一中学校体育館
女子／野田市関宿総合公園体育館・東京理科大学森戸記念体育館・千葉県立清水高等学校体育館

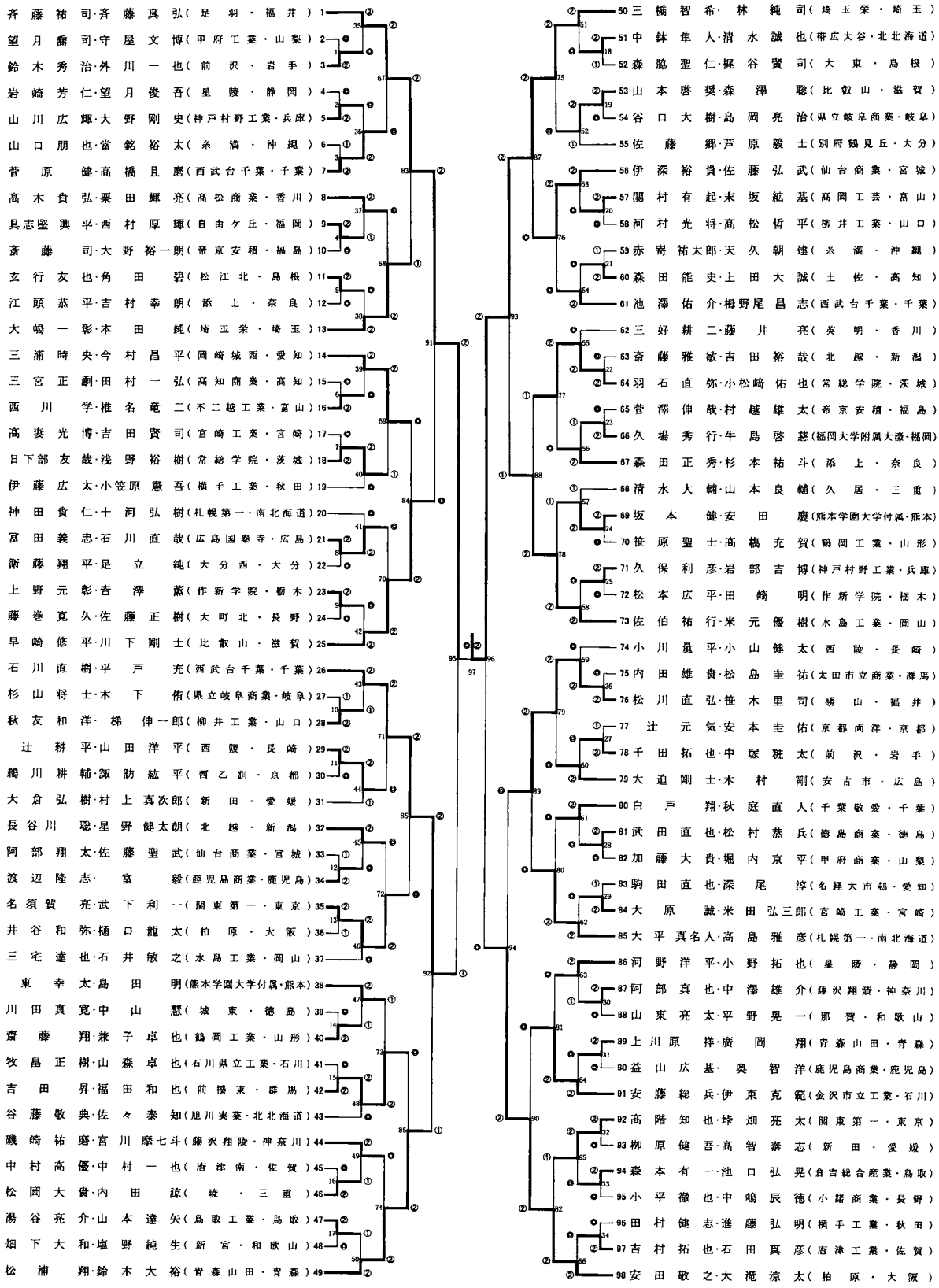
男子団体（49校）



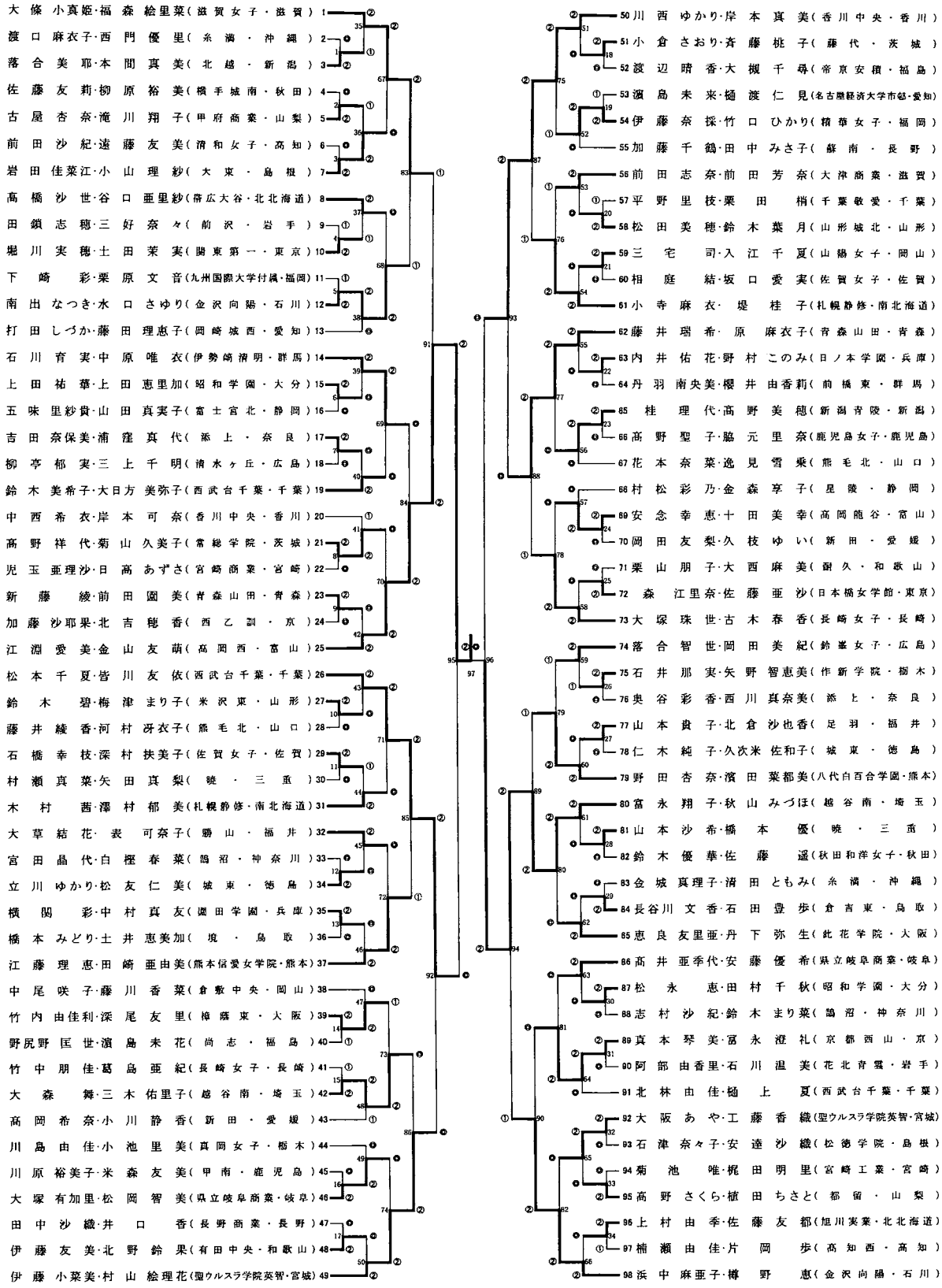
女子団体（49校）


青森山田（青森）1
境（鳥取）2
城東（徳島）3
伊勢崎清明（群馬）4
北越（新潟）5
宮崎工業（宮崎）6
大津商業（滋賀）7
西武台千葉（千葉）8
松徳学院（島根）9
昭和学園（大分）10
甲府商業（山梨）11
添上（奈良）12
星陵（静岡）13
九州国際大学付属（福岡）14
尚志（福島）15
常総学院（茨城）16
山陽女子（岡山）17
日ノ本学園（兵庫）18
香川中央（香川）19
旭川実業（北北海道）20
小山城南（栃木）21
名古屋経済大学市邨（愛知）22
糸満（沖縄）23
横手城南（秋田）24
金沢向陽（石川）25
高岡西（富山）26
川崎総合科学（神奈川）27
前沢（岩手）28
新田（愛媛）29
鹿児島女子（鹿児島）30
県立岐阜商業（岐阜）31
埼玉栄（埼玉）32
勝山（福井）33
長崎女子（長崎）34
山形市立商業（山形）35
熊毛北（山口）36
此花学院（大阪）37
札幌静修（南北海道）38
佐賀女子（佐賀）39
日本橋女学館（東京）40
暁（三重）41
京都西山（京都）42
鈴峯女子（広島）43
千葉敬愛（千葉）44
那賀（和歌山）45
熊本信愛女学院（熊本）46
清和女子（高知）47
蘇南（長野）48
聖ウルスラ学院英智（宮城）49

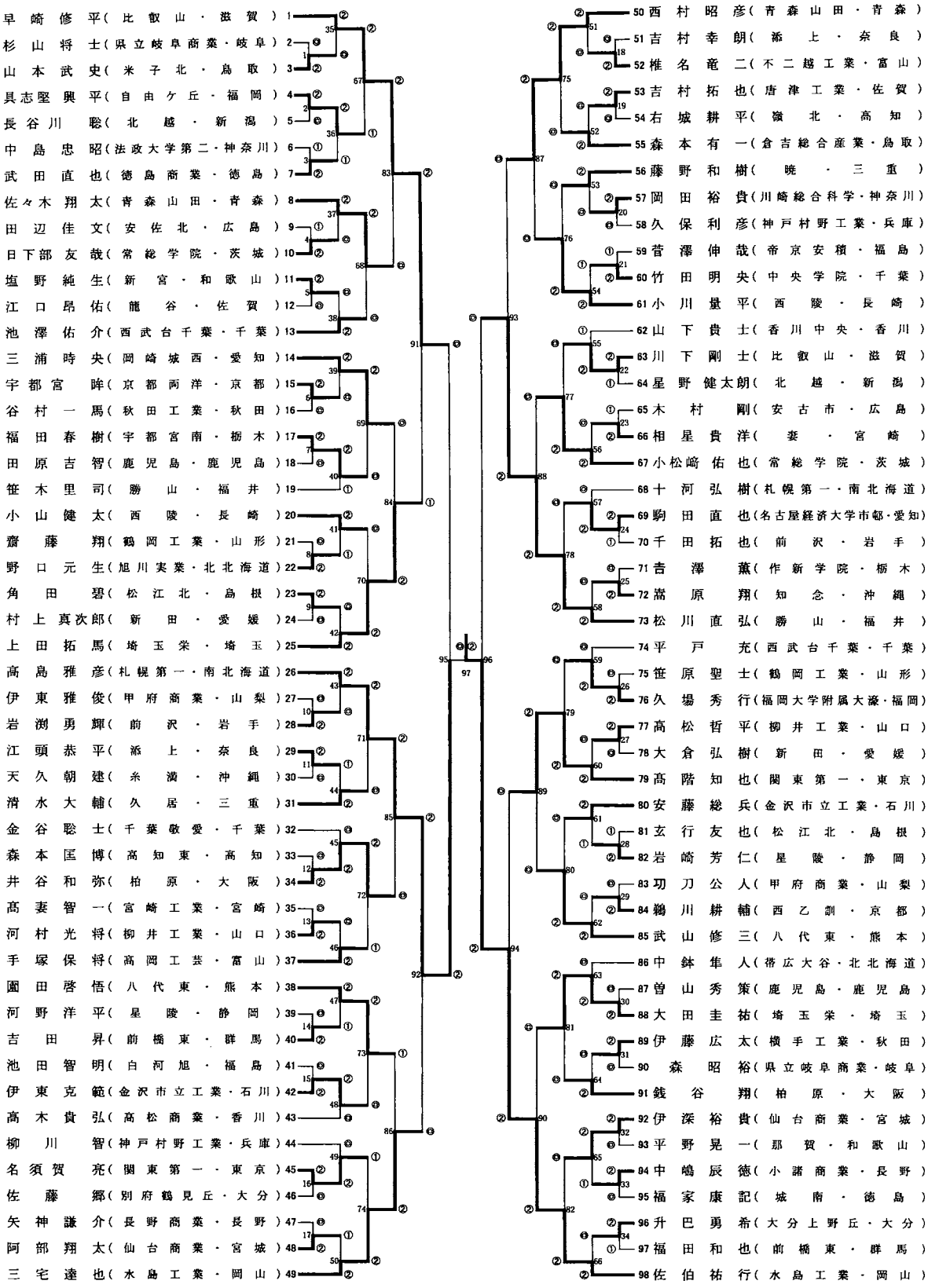
男子ダブルス（98組）


1 斉藤祐司・斉藤真弘（足羽・福井）
2 望月番司・守屋文博（甲府工業・山梨）
3 鈴木秀治・外川一也（前沢・岩手）
4 岩崎芳仁・望月俊吾（星陵・静岡）
5 山川広輝・大野剛史（神戸村野工業・兵庫）
6 山口朋也・當銘裕太（糸満・沖縄）
7 菅原健・高橋且磨（西武台千葉・千葉）
8 高木貴弘・栗田輝亮（高松商業・香川）
9 具志堅興平・西村厚輝（自由ケ丘・福岡）
10 斎藤司・大野裕一朗（帝京安積・福島）
11 玄行友也・角田碧（松江北・島根）
12 江頭恭平・吉村幸朗（添上・奈良）
13 大嶋一彰・本田純（埼玉栄・埼玉）
14 三浦時央・今村昌平（岡崎城西・愛知）
15 三宮正嗣・田村一弘（高知商業・高知）
16 西川学・椎名竜二（不二越工業・富山）
17 高妻光博・吉田賢司（宮崎工業・宮崎）
18 日下部友哉・浅野裕樹（常総学院・茨城）
19 伊藤広太・小笠原憲吾（横手工業・秋田）
20 神田貴仁・十河弘樹（札幌第一・南北海道）
21 冨田義忠・石川直哉（広島国泰寺・広島）
22 衛藤翔平・足立純（大分西・大分）
23 上野元彰・吉澤薫（作新学院・栃木）
24 藤巻寛久・佐藤正樹（大町北・長野）
25 早崎修平・川下剛士（比叡山・滋賀）
26 石川直樹・平戸充（西武台千葉・千葉）
27 杉山将士・木下侑（県立岐阜商業・岐阜）
28 秋友和洋・梯伸一郎（柳井工業・山口）
29 辻耕平・山田洋平（西陵・長崎）
30 鵜川耕輔・諏訪紘平（西乙訓・京都）
31 大倉弘樹・村上真次郎（新田・愛媛）
32 長谷川聡・星野健太朗（北越・新潟）
33 阿部翔太・佐藤聖武（仙台商業・宮城）
34 渡辺隆志・富毅（鹿児島商業・鹿児島）
35 名須賀亮・武下利一（関東第一・東京）
36 井谷和弥・樋口龍太（柏原・大阪）
37 三宅達也・石井敏之（水島工業・岡山）
38 東幸太・島田明（熊本学園大学付属・熊本）
39 川田真寛・中山慧（城東・徳島）
40 齋藤翔・兼子卓也（鶴岡工業・山形）
41 牧島正樹・山森卓也（石川県立工業・石川）
42 吉田昇・福田和也（前橋東・群馬）
43 谷藤敬典・佐々泰知（旭川実業・北北海道）
44 磯崎祐磨・宮川慶七斗（藤沢翔陵・神奈川）
45 中村高優・中村一也（唐津南・佐賀）
46 松岡大貴・内田諒（暁・三重）
47 湯谷亮介・山本達矢（鳥取工業・鳥取）
48 畑下大和・塩野純生（新宮・和歌山）
49 松浦翔・鈴木大裕（青森山田・青森）
50 三橋智希・林純司（埼玉栄・埼玉）
51 中鉢隼人・清水誠也（帯広大谷・北北海道）
52 森脇聖仁・梶谷賢司（大東・島根）
53 山本啓斐・森澤聡（比叡山・滋賀）
54 谷口大樹・島岡亮治（県立岐阜商業・岐阜）
55 佐藤郷・芦原毅士（別府鶴見丘・大分）
56 伊深裕貴・佐藤弘武（仙台商業・宮城）
57 関村有起・末坂紘基（高岡工芸・富山）
58 河村光将・高松哲平（柳井工業・山口）
59 赤嵜祐太郎・天久朝達（糸満・沖縄）
60 森田能史・上田大誠（土佐・高知）
61 池澤佑介・梶野尾昌志（西武台千葉・千葉）
62 三好耕二・藤井亮（英明・香川）
63 斎藤雅敏・吉田裕哉（北越・新潟）
64 羽石直弥・小松崎佑也（常総学院・茨城）
65 菅澤伸哉・村越雄太（帝京安積・福島）
66 久場秀行・牛島啓慈（福岡大学附属大濠・福岡）
67 森田正秀・杉本祐斗（添上・奈良）
68 清水大輔・山本良輔（久居・三重）
69 坂本健・安田慶（熊本学園大学付属・熊本）
70 笹原聖士・高橋充賀（鶴岡工業・山形）
71 久保利彦・岩部吉博（神戸村野工業・兵庫）
72 松本広平・田崎明（作新学院・栃木）
73 佐伯祐行・米元優樹（水島工業・岡山）
74 小川量平・小山健太（西陵・長崎）
75 内田雄貴・松島圭祐（太田市立商業・群馬）
76 松川直弘・笹木里司（勝山・福井）
77 辻元気・安本圭佑（京都両洋・京都）
78 千田拓也・中塚琥太（前沢・岩手）
79 大迫剛士・木村剛（安古市・広島）
80 白戸翔・秋庭直人（千葉敬愛・千葉）
81 武田直也・松村恭兵（徳島商業・徳島）
82 加藤大貴・堀内京平（甲府商業・山梨）
83 駒田直也・深尾淳（名経大市邨・愛知）
84 大原誠・米田弘三郎（宮崎工業・宮崎）
85 大平真名人・高島雅彦（札幌第一・南北海道）
86 河野洋平・小野拓也（星陵・静岡）
87 阿部真也・中澤雄介（藤沢翔陵・神奈川）
88 山東亮太・平野晃一（那賀・和歌山）
89 上川原拝・廣岡翔（青森山田・青森）
90 益山広基・奥智洋（鹿児島商業・鹿児島）
91 安藤総兵・伊東克範（金沢市立工業・石川）
92 高階知也・垰畑亮太（関東第一・東京）
93 柳原健吾・高智泰志（新田・愛媛）
94 森本有一・池口弘晃（倉吉総合産業・鳥取）
95 小平徹也・中嶋辰徳（小諸商業・長野）
96 田村健志・進藤弘明（横手工業・秋田）
97 吉村拓也・石田真彦（唐津工業・佐賀）
98 安田敬之・大滝涼太（柏原・大阪）

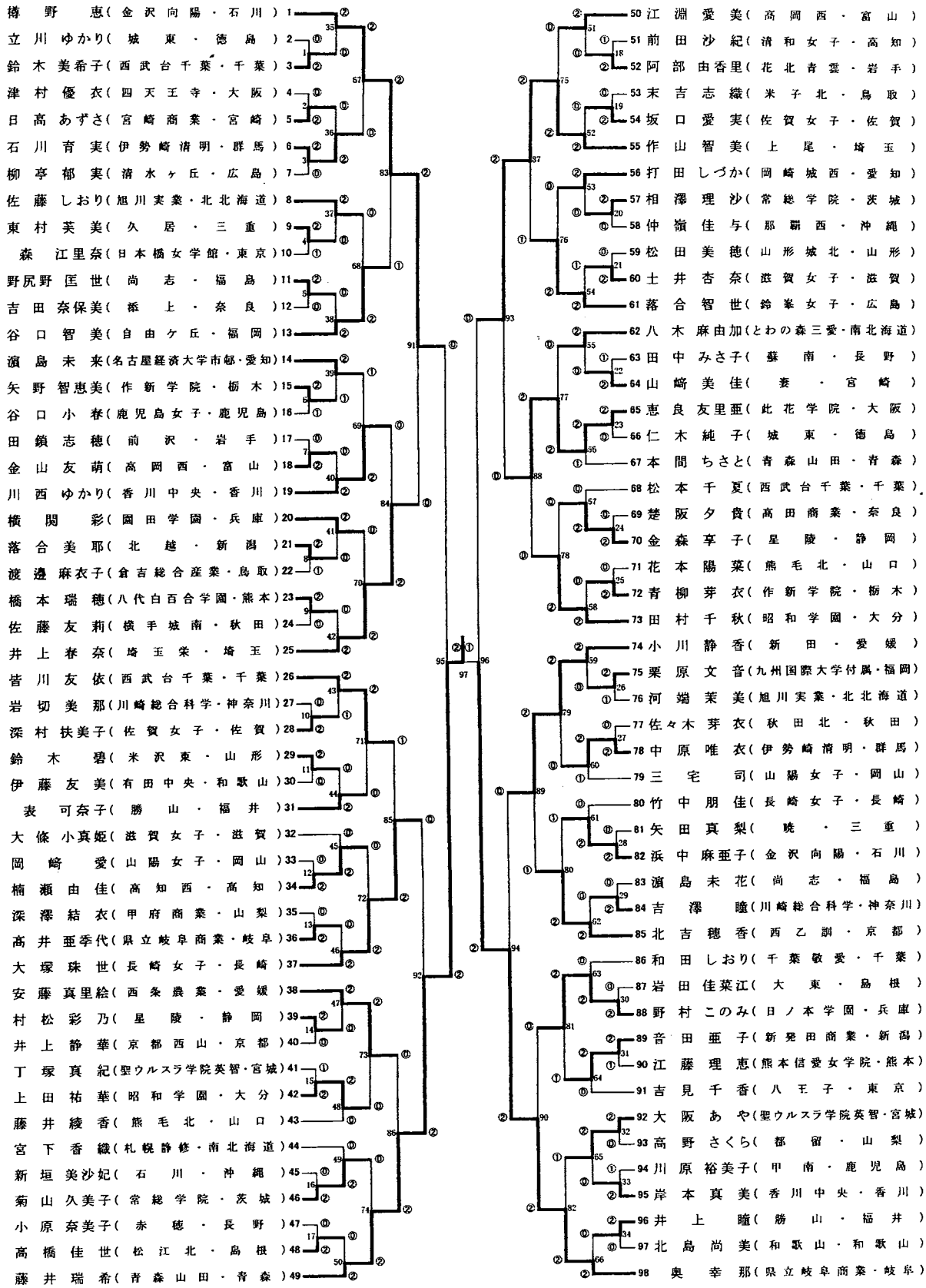
女子ダブルス（98組）


1 大條小真姫・福森絵里菜（滋賀女子・滋賀）
2 渡口麻衣子・西門優里（糸満・沖縄）
3 落合美耶・本間真美（北越・新潟）
4 佐藤友莉・柳原裕美（横手城南・秋田）
5 古屋杏奈・滝川翔子（甲府商業・山梨）
6 前田沙紀・遠藤友美（清和女子・高知）
7 岩田佳菜江・小山理紗（大東・島根）
8 髙橋沙世・谷口亜里紗（帯広大谷・北北海道）
9 田鎖志穂・三好奈々（前沢・岩手）
10 堀川実穂・土田茉実（関東第一・東京）
11 下崎彩・栗原文音（九州国際大学付属・福岡）
12 南出なつき・水口さゆり（金沢向陽・石川）
13 打田しづか・藤田理恵子（岡崎城西・愛知）
14 石川育実・中原唯衣（伊勢崎清明・群馬）
15 上田祐華・上田恵里加（昭和学園・大分）
16 五味里紗貴・山田真実子（富士宮北・静岡）
17 吉田奈保美・浦窪真代（添上・奈良）
18 柳亭郁実・三上千明（南水ヶ丘・広島）
19 鈴木美希子・大日方美弥子（西武台千葉・千葉）
20 中西希衣・岸本可奈（香川中央・香川）
21 髙野祥代・菊山久美子（常総学院・茨城）
22 児玉亜理沙・日高あずさ（宮崎商業・宮崎）
23 新藤綾・前田園美（青森山田・青森）
24 加藤沙耶果・北吉穂香（西乙訓・京）
25 江淵愛美・金山友萌（高岡西・富山）
26 松本千夏・皆川友依（西武台千葉・千葉）
27 鈴木碧・梅津まり子（米沢東・山形）
28 藤井綾香・河村冴衣子（熊毛北・山口）
29 石橋幸枝・深村扶美子（佐賀女子・佐賀）
30 村瀬真菜・矢田真梨（暁・三重）
31 木村茜・澤村郁美（札幌静修・南北海道）
32 大草結花・表可奈子（勝山・福井）
33 宮田晶代・白樫春菜（鶴沼・神奈川）
34 立川ゆかり・松友仁美（城東・徳島）
35 横関彩・中村真友（園田学園・兵庫）
36 橋本みどり・土井恵美加（境・鳥取）
37 江藤理恵・田崎亜由美（熊本信愛女学院・熊本）
38 中尾咲子・藤川香菜（倉敷中央・岡山）
39 竹内由佳利・深尾友里（柏藤東・大阪）
40 野尻野匡世・濱島未花（尚志・福島）
41 竹中朋佳・葛島亜紀（長崎女子・長崎）
42 大森舞・三木佑里子（越谷南・埼玉）
43 高岡希奈・小川静香（新田・愛媛）
44 川島由佳・小池里美（真岡女子・栃木）
45 川原裕美子・米森友美（甲南・鹿児島）
46 大塚有加里・松岡智美（県立岐阜商業・岐阜）
47 田中沙織・井口香（長野商業・長野）
48 伊藤友美・北野鈴果（有田中央・和歌山）
49 伊藤小菜美・村山絵理花（聖ウルスラ学院英智・宮城）
50 川西ゆかり・岸本真美（香川中央・香川）
51 小倉さおり・斉藤桃子（藤代・茨城）
52 渡辺晴香・大槻千尋（帝京安積・福島）
53 濵島未来・樋渡仁見（名古屋経済大学市邨・愛知）
54 伊藤奈採・竹口ひかり（精華女子・福岡）
55 加藤千鶴・田中みさ子（鮮南・長野）
56 前田志奈・前田芳奈（大津商業・滋賀）
57 平野里枝・栗田梢（千葉敬愛・千葉）
58 松田美穂・鈴木葉月（山形城北・山形）
59 三宅司・入江千夏（山陽女子・岡山）
60 相庭結・坂口愛実（佐賀女子・佐賀）
61 小寺麻衣・堤桂子（札幌静修・南北海道）
62 藤井瑞希・原麻衣子（青森山田・青森）
63 内井佑花・野村このみ（日ノ本学園・兵庫）
64 丹羽南央美・櫻井由香莉（前橋東・群馬）
65 桂理代・髙野美穂（新潟青陵・新潟）
66 髙野聖子・脇元里奈（鹿児島女子・鹿児島）
67 花本奈菜・逸見雪乗（熊毛北・山口）
68 村松彩乃・金森享子（星陵・静岡）
69 安念幸恵・十田美幸（高岡龍谷・富山）
70 岡田友梨・久枝ゆい（新田・愛媛）
71 栗山朋子・大西麻美（酣久・和歌山）
72 森江里奈・佐藤亜沙（日本橋女学館・東京）
73 大塚珠世・古木春香（長崎女子・長崎）
74 落合智世・岡田美紀（鈴峯女子・広島）
75 石井那実・矢野智恵美（作新学院・栃木）
76 奥谷彩香・西川真奈美（添上・奈良）
77 山本貴子・北倉沙也香（足羽・福井）
78 仁木純子・久次米佐和子（城東・徳島）
79 野田杏奈・濱田菜都美（八代白百合学園・熊本）
80 富永翔子・秋山みづほ（越谷南・埼玉）
81 山本沙希・橋本優（暁・三重）
82 鈴木優華・佐藤遥（秋田和洋女子・秋田）
83 金城真理子・清田ともみ（糸満・沖縄）
84 長谷川文香・石田豊歩（倉吉東・鳥取）
85 恵良友里亜・丹下弥生（此花学院・大阪）
86 髙井亜季代・安藤優希（県立岐阜商業・岐阜）
87 松永恵・田村千秋（昭和学園・大分）
88 志村沙紀・鈴木まり菜（鶴沼・神奈川）
89 真本琴美・冨永澄礼（京都西山・京）
90 阿部由香里・石川温美（花北青雲・岩手）
91 北林由佳・樋上夏（西武台千葉・千葉）
92 大阪あや・工藤香織（聖ウルスラ学院英智・宮城）
93 石津奈々子・安達沙織（松徳学院・島根）
94 菊池唯・梶田明里（宮崎工業・宮崎）
95 髙野さくら・植田ちさと（都留・山梨）
96 上村由季・佐藤友都（旭川実業・北北海道）
97 楠瀬由佳・片岡歩（高知西・高知）
98 浜中麻亜子・樽野恵（金沢向陽・石川）

男子シングルス（98名）


1 早崎修平（比叡山・滋賀）
2 杉山将士（県立岐阜商業・岐阜）
3 山本武史（米子北・鳥取）
4 具志堅興平（自由ケ丘・福岡）
5 長谷川聡（北越・新潟）
6 中島忠昭（法政大学第二・神奈川）
7 武田直也（徳島商業・徳島）
8 佐々木翔太（青森山田・青森）
9 田辺佳文（安佐北・広島）
10 日下部友哉（常総学院・茨城）
11 塩野純生（新宮・和歌山）
12 江口昂佑（龍谷・佐賀）
13 池澤佑介（西武台千葉・千葉）
14 三浦時央（岡崎城西・愛知）
15 宇都宮眸（京都両洋・京都）
16 谷村一馬（秋田工業・秋田）
17 福田春樹（宇都宮南・栃木）
18 田原吉智（鹿児島・鹿児島）
19 笹木里司（勝山・福井）
20 小山健太（西陵・長崎）
21 齋藤翔（鶴岡工業・山形）
22 野口元生（旭川実業・北北海道）
23 角田碧（松江北・島根）
24 村上真次郎（新田・愛媛）
25 上田拓馬（埼玉栄・埼玉）
26 高島雅彦（札幌第一・南北海道）
27 伊東雅俊（甲府商業・山梨）
28 岩渕勇輝（前沢・岩手）
29 江頭恭平（添上・奈良）
30 天久朝建（糸満・沖縄）
31 滑水大輔（久居・三重）
32 金谷聡士（千葉敬愛・千葉）
33 森本匡博（高知東・高知）
34 井谷和弥（柏原・大阪）
35 髙妻智一（宮崎工業・宮崎）
36 河村光将（柳井工業・山口）
37 手塚保将（高岡工芸・富山）
38 園田啓悟（八代東・熊本）
39 河野洋平（星陵・静岡）
40 吉田昇（前橋東・群馬）
41 池田智明（白河旭・福島）
42 伊東克範（金沢市立工業・石川）
43 高木貴弘（高松商業・香川）
44 柳川智（神戸村野工業・兵庫）
45 名須賀亮（関東第一・東京）
46 佐藤郷（別府鶴見丘・大分）
47 矢神謙介（長野商業・長野）
48 阿部翔太（仙台商業・宮城）
49 三宅達也（水島工業・岡山）
50 西村昭彦（青森山田・青森）
51 吉村幸朗（添上・奈良）
52 椎名竜二（不二越工業・富山）
53 吉村拓也（唐津工業・佐賀）
54 右城耕平（嶺北・高知）
55 森本有一（倉吉総合産業・鳥取）
56 藤野和樹（暁・三重）
57 岡田裕貴（川崎総合科学・神奈川）
58 久保利彦（神戸村野工業・兵庫）
59 菅澤伸哉（帝京安積・福島）
60 竹田明央（中央学院・千葉）
61 小川量平（西陵・長崎）
62 山下貴士（香川中央・香川）
63 川下剛士（比叡山・滋賀）
64 星野健太朗（北越・新潟）
65 木村剛（安古市・広島）
66 相星貴洋（妻・宮崎）
67 小松﨑佑也（常総学院・茨城）
68 十河弘樹（札幌第一・南北海道）
69 駒田直也（名古屋経済大学市邨・愛知）
70 千田拓也（前沢・岩手）
71 吉澤薫（作新学院・栃木）
72 嵩原翔（知念・沖縄）
73 松川直弘（勝山・福井）
74 平戸充（西武台千葉・千葉）
75 笹原聖士（鶴岡工業・山形）
76 久場秀行（福岡大学附属大濠・福岡）
77 高松哲平（柳井工業・山口）
78 大倉弘樹（新田・愛媛）
79 髙階知也（関東第一・東京）
80 安藤総兵（金沢市立工業・石川）
81 玄行友也（松江北・島根）
82 岩崎芳仁（星陵・静岡）
83 刃刀公人（甲府商業・山梨）
84 鞠川耕輔（西乙訓・京都）
85 武山修三（八代東・熊本）
86 中鉢隼人（帯広大谷・北北海道）
87 曽山秀策（鹿児島・鹿児島）
88 大田圭祐（埼玉栄・埼玉）
89 伊藤広太（横手工業・秋田）
90 森昭裕（県立岐阜商業・岐阜）
91 銭谷翔（柏原・大阪）
92 伊深裕貴（仙台商業・宮城）
93 平野晃一（那賀・和歌山）
94 中嶋辰徳（小諸商業・長野）
95 福家康記（城南・徳島）
96 升巴勇希（大分上野丘・大分）
97 福田和也（前橋東・群馬）
98 佐伯祐行（水島工業・岡山）

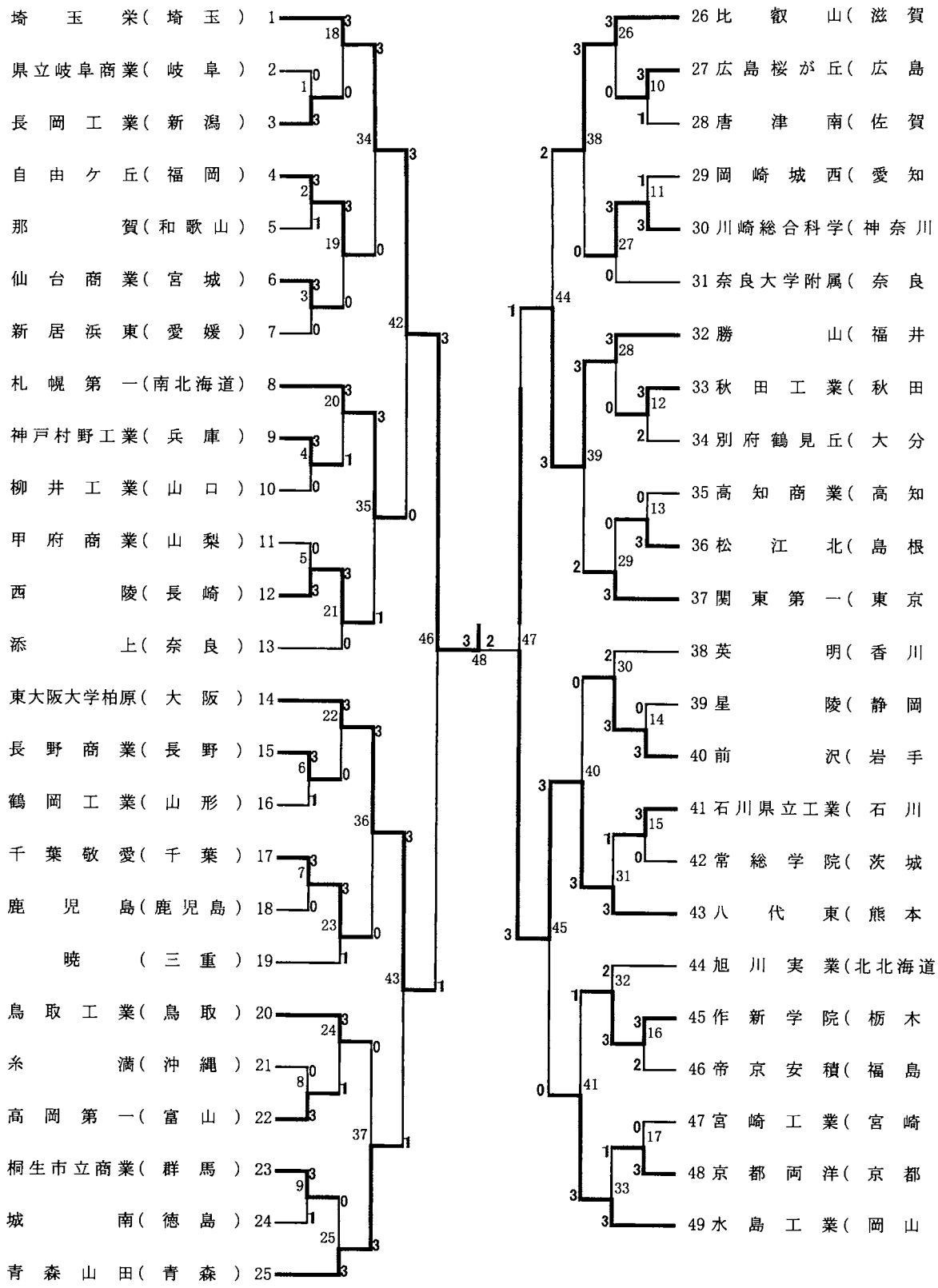
女子シングルス（98名）


樽野恵（金沢向陽・石川）1
立川ゆかり（城東・徳島）2
鈴木美希子（西武台千葉・千葉）3
津村優衣（四天王寺・大阪）4
日高あずさ（宮崎商業・宮崎）5
石川育実（伊勢崎清明・群馬）6
柳亭郁実（清水ヶ丘・広島）7
佐藤しおり（旭川実業・北北海道）8
東村芙美（久居・三重）9
森江里奈（日本橋女学館・東京）10
野尻野匡世（尚志・福島）11
吉田奈保美（郡上・奈良）12
谷口智美（自由ケ丘・福岡）13
濵島未来（名古屋経済大学市邨・愛知）14
矢野智恵美（作新学院・栃木）15
谷口小春（鹿児島女子・鹿児島）16
田鎖志穂（前沢・岩手）17
金山友萌（高岡西・富山）18
川西ゆかり（香川中央・香川）19
横関彩（園田学園・兵庫）20
落合美耶（北越・新潟）21
渡邊麻衣子（倉吉総合産業・鳥取）22
橋本瑞穂（八代白百合学園・熊本）23
佐藤友莉（横手城南・秋田）24
井上春奈（埼玉栄・埼玉）25
皆川友依（西武台千葉・千葉）26
岩切美那（川崎総合科学・神奈川）27
深村扶美子（佐賀女子・佐賀）28
鈴木碧（米沢東・山形）29
伊藤友美（有田中央・和歌山）30
表可奈子（勝山・福井）31
大條小真姫（滋賀女子・滋賀）32
岡崎愛（山陽女子・岡山）33
楠瀬由佳（高知西・高知）34
深澤結衣（甲府商業・山梨）35
髙井亜季代（県立岐阜商業・岐阜）36
大塚珠世（長崎女子・長崎）37
安藤真里絵（西条農業・愛媛）38
村松彩乃（星陵・静岡）39
井上静華（京都西山・京都）40
丁塚真紀（聖ウルスラ学院英智・宮城）41
上田祐華（昭和学園・大分）42
藤井綾香（熊毛北・山口）43
宮下香織（札幌静修・南北海道）44
新垣美沙妃（石川・沖縄）45
菊山久美子（常総学院・茨城）46
小原奈美子（赤穂・長野）47
高橋佳世（松江北・島根）48
藤井瑞希（青森山田・青森）49
江淵愛美（高岡西・富山）50
前田沙紀（清和女子・高知）51
阿部由香里（花北青雲・岩手）52
末吉志織（米子北・鳥取）53
坂口愛実（佐賀女子・佐賀）54
作山智美（上尾・埼玉）55
打田しづか（岡崎城西・愛知）56
相澤理沙（常総学院・茨城）57
仲嶺佳与（那覇西・沖縄）58
松田美穂（山形城北・山形）59
土井杏奈（滋賀女子・滋賀）60
落合智世（鈴峯女子・広島）61
八木麻由加（とわの森三愛・南北海道）62
田中みさ子（蘇南・長野）63
山崎美佳（姜・宮崎）64
恵良友里亜（此花学院・大阪）65
仁木純子（城東・徳島）66
本間ちさと（青森山田・青森）67
松本千夏（西武台千葉・千葉）68
楚阪夕貴（高田商業・奈良）69
金森享子（星陵・静岡）70
花本陽菜（熊毛北・山口）71
青柳芽衣（作新学院・栃木）72
田村千秋（昭和学園・大分）73
小川静香（新田・愛媛）74
栗原文音（九州国際大学付属・福岡）75
河端茉美（旭川実業・北北海道）76
佐々木芽衣（秋田北・秋田）77
中原唯衣（伊勢崎清明・群馬）78
三宅司（山陽女子・岡山）79
竹中朋佳（長崎女子・長崎）80
矢田真梨（暁・三重）81
浜中麻亜子（金沢向陽・石川）82
濵島未花（尚志・福島）83
吉澤瞳（川崎総合科学・神奈川）84
北吉穂香（西乙訓・京都）85
和田しおり（千葉敬愛・千葉）86
岩田佳菜江（大東・島根）87
野村このみ（日ノ本学園・兵庫）88
音田亜子（新発田商業・新潟）89
江藤理恵（熊本信愛女学院・熊本）90
吉見千香（八王子・東京）91
大阪あや（聖ウルスラ学院英智・宮城）92
高野さくら（都留・山梨）93
川原裕美子（甲南・鹿児島）94
岸本真美（香川中央・香川）95
井上瞳（勝山・福井）96
北島尚美（和歌山・和歌山）97
奥幸那（県立岐阜商業・岐阜）98

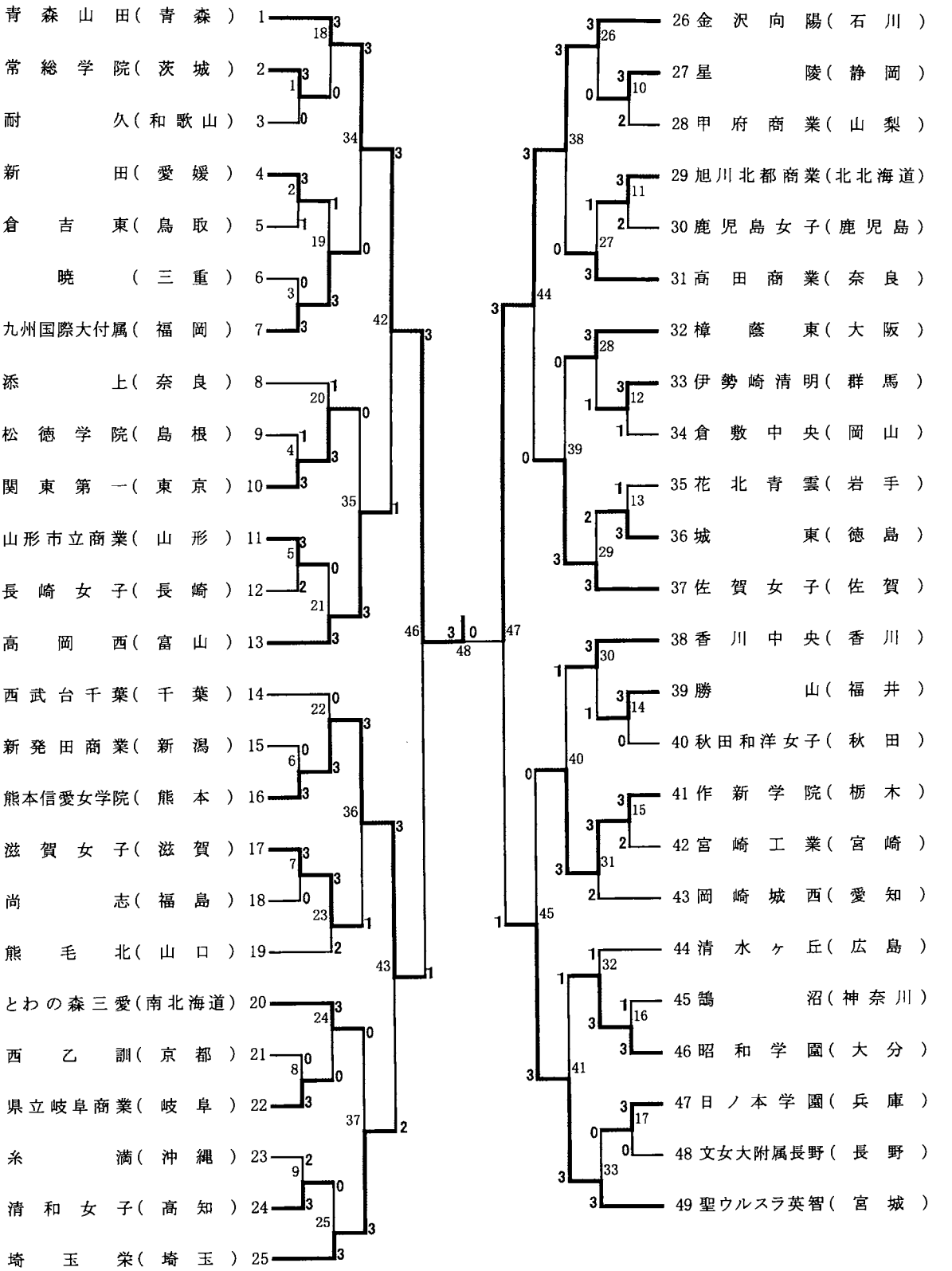
第57回全国高等学校バドミントン選手権大会（2006年度）

期日▶平成18年８月１日～６日
会場▶男子／奈良市中央体育館・奈良大学附属高等学校体育館・東大寺学園高等学校体育館
女子／大和郡山市総合公園多目的体育館・奈良大学体育館・奈良市西部生涯スポーツセンター体育館

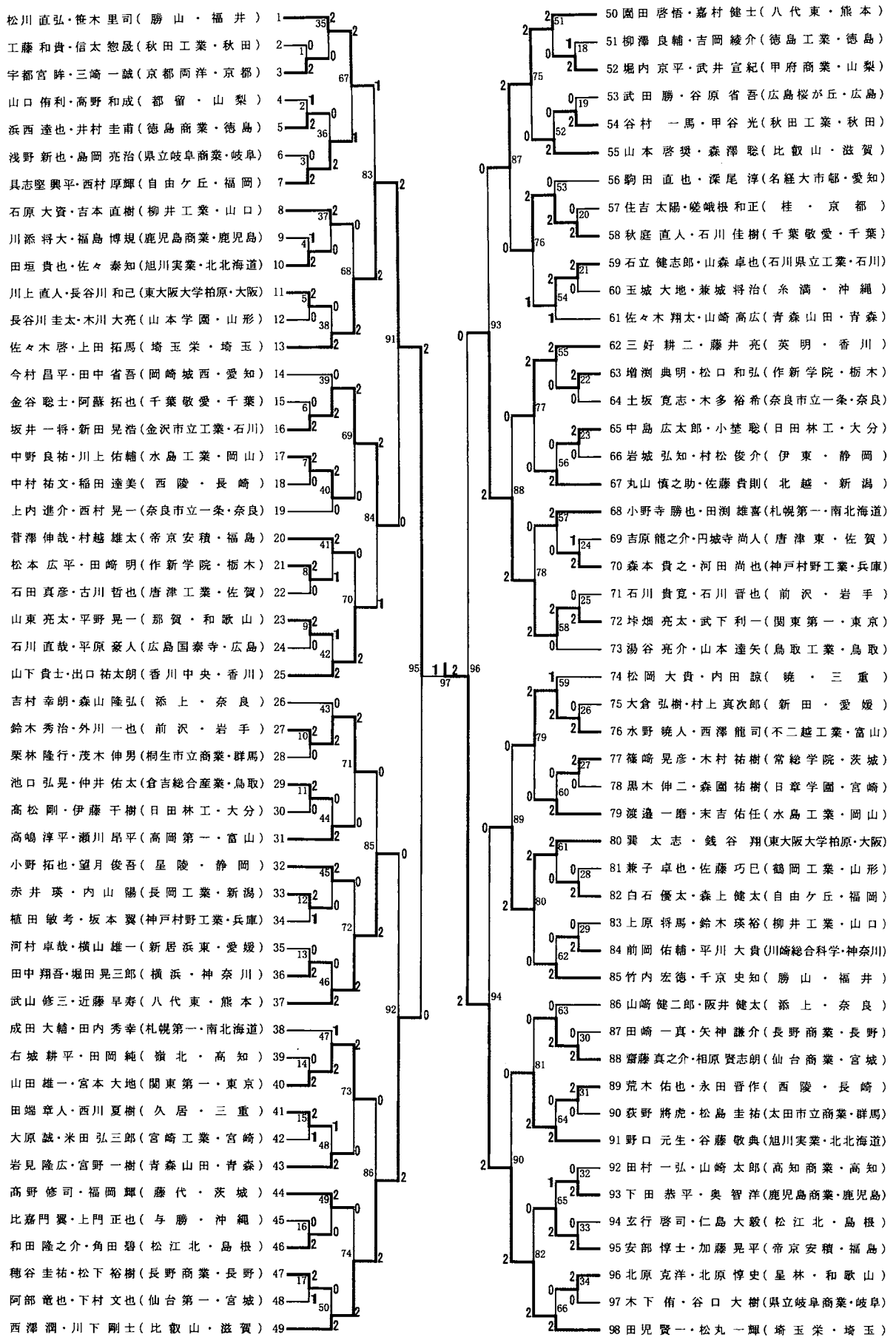
男子団体（49校）



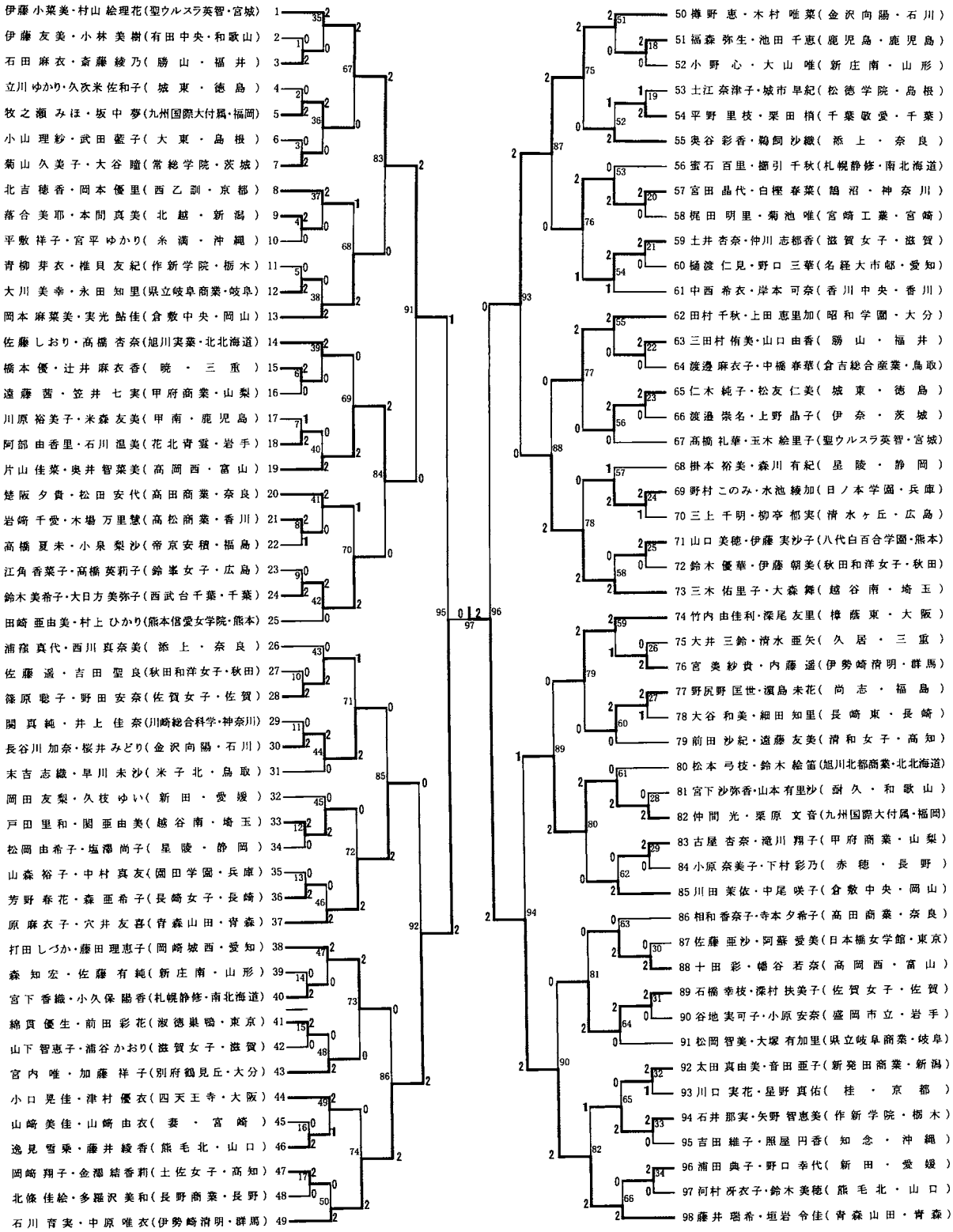
女子団体（49校）


青森山田（青森） 1
常総学院（茨城） 2
耐久（和歌山） 3
新田（愛媛） 4
倉吉東（鳥取） 5
暁（三重） 6
九州国際大付属（福岡） 7
添上（奈良） 8
松徳学院（島根） 9
関東第一（東京） 10
山形市立商業（山形） 11
長崎女子（長崎） 12
高岡西（富山） 13
西武台千葉（千葉） 14
新発田商業（新潟） 15
熊本信愛女学院（熊本） 16
滋賀女子（滋賀） 17
尚志（福島） 18
熊毛北（山口） 19
とわの森三愛（南北海道） 20
西乙訓（京都） 21
県立岐阜商業（岐阜） 22
糸満（沖縄） 23
清和女子（高知） 24
埼玉栄（埼玉） 25
26 金沢向陽（石川）
27 星陵（静岡）
28 甲府商業（山梨）
29 旭川北都商業（北北海道）
30 鹿児島女子（鹿児島）
31 高田商業（奈良）
32 樟蔭東（大阪）
33 伊勢崎清明（群馬）
34 倉敷中央（岡山）
35 花北青雲（岩手）
36 城東（徳島）
37 佐賀女子（佐賀）
38 香川中央（香川）
39 勝山（福井）
40 秋田和洋女子（秋田）
41 作新学院（栃木）
42 宮崎工業（宮崎）
43 岡崎城西（愛知）
44 清水ヶ丘（広島）
45 鵠沼（神奈川）
46 昭和学園（大分）
47 日ノ本学園（兵庫）
48 文女大附属長野（長野）
49 聖ウルスラ英智（宮城）

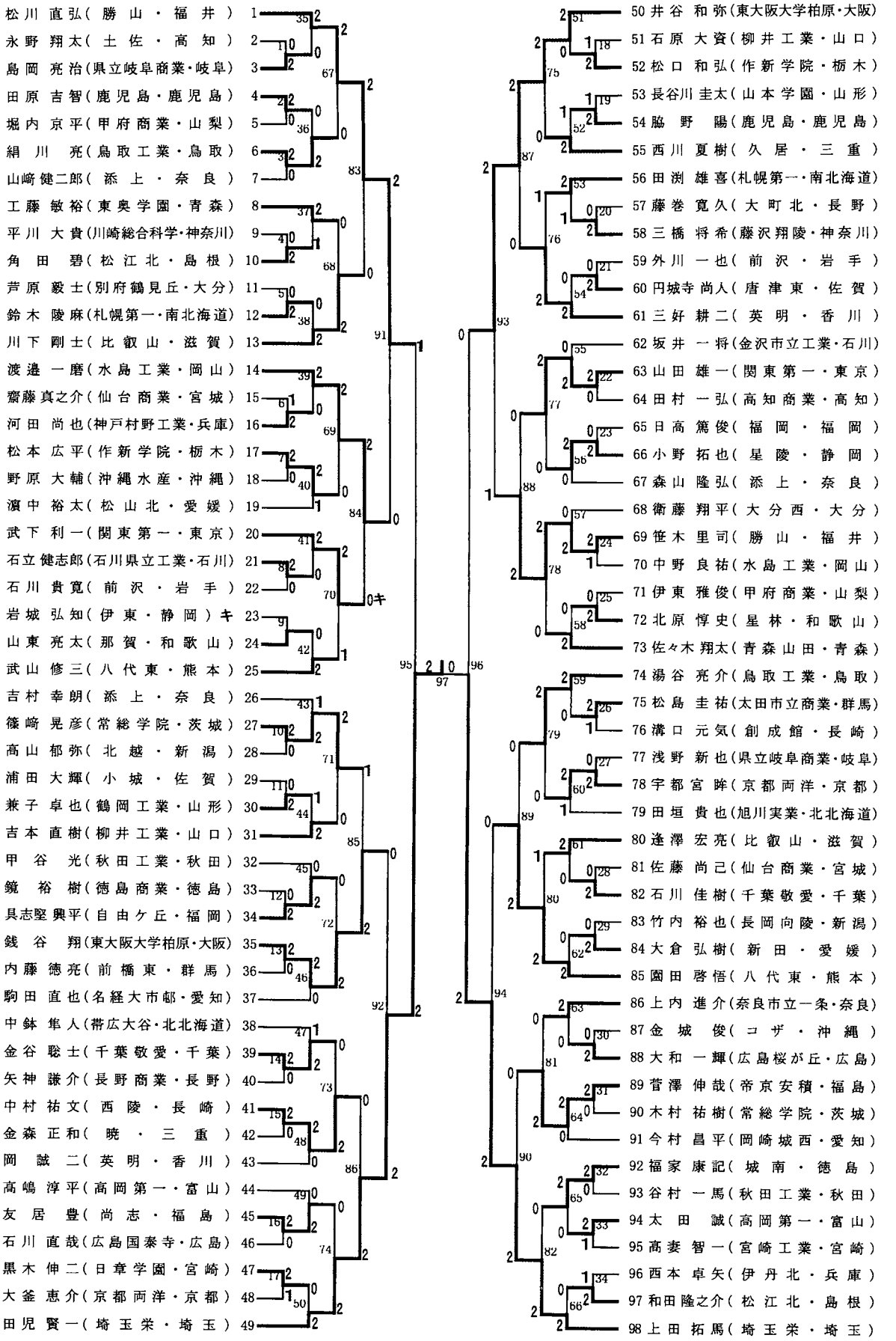
男子ダブルス（98組）


1 松川直弘・笹木里司（勝山・福井）
2 工藤和貴・信太惣晟（秋田工業・秋田）
3 宇都宮眸・三崎一誠（京都両洋・京都）
4 山口侑利・高野和成（都留・山梨）
5 浜西達也・井村圭甫（徳島商業・徳島）
6 浅野新也・島岡亮治（県立岐阜商業・岐阜）
7 具志堅興平・西村厚輝（自由ケ丘・福岡）
8 石原大資・吉本直樹（柳井工業・山口）
9 川添将大・福島博規（鹿児島商業・鹿児島）
10 田垣貴也・佐々泰知（旭川実業・北北海道）
11 川上直人・長谷川和己（東大阪大学柏原・大阪）
12 長谷川圭太・木川大亮（山本学園・山形）
13 佐々木啓・上田拓馬（埼玉栄・埼玉）
14 今村昌平・田中省吾（岡崎城西・愛知）
15 金谷聡士・阿蘇拓也（千葉敬愛・千葉）
16 坂井一将・新田晃浩（金沢市立工業・石川）
17 中野良祐・川上佑輔（水島工業・岡山）
18 中村祐文・稲田達美（西陵・長崎）
19 上内進介・西村晃一（奈良市立一条・奈良）
20 菅澤伸哉・村越雄太（帝京安積・福島）
21 松本広平・田崎明（作新学院・栃木）
22 石田真彦・古川哲也（唐津工業・佐賀）
23 山東亮太・平野晃一（那賀・和歌山）
24 石川直哉・平原豪人（広島国泰寺・広島）
25 山下貴士・出口祐太朗（香川中央・香川）
26 吉村幸朗・森山隆弘（添上・奈良）
27 鈴木秀治・外川一也（前沢・岩手）
28 栗林隆行・茂木伸男（桐生市立商業・群馬）
29 池口弘晃・仲井佑太（倉吉総合産業・鳥取）
30 高松剛・伊藤干樹（日田林工・大分）
31 高嶋淳平・瀬川昂平（高岡第一・富山）
32 小野拓也・望月俊吾（星陵・静岡）
33 赤井瑛・内山陽（長岡工業・新潟）
34 植田敏考・坂本翼（神戸村野工業・兵庫）
35 河村卓哉・横山雄一（新居浜東・愛媛）
36 田中翔吾・堀田晃三郎（横浜・神奈川）
37 武山修三・近藤早寿（八代東・熊本）
38 成田大輔・田内秀幸（札幌第一・南北海道）
39 右城耕平・田岡純（嶺北・高知）
40 山田雄一・宮本大地（関東第一・東京）
41 田端章人・西川夏樹（久居・三重）
42 大原誠・米田弘三郎（宮崎工業・宮崎）
43 岩見隆広・宮野一樹（青森山田・青森）
44 高野修司・福岡輝（藤代・茨城）
45 比嘉門翼・上門正也（与勝・沖縄）
46 和田隆之介・角田碧（松江北・島根）
47 穂谷圭祐・松下裕樹（長野商業・長野）
48 阿部竜也・下村文也（仙台第一・宮城）
49 西澤潤・川下剛士（比叡山・滋賀）
50 園田啓悟・嘉村健士（八代東・熊本）
51 柳澤良輔・吉岡綾介（徳島工業・徳島）
52 堀内京平・武井宣紀（甲府商業・山梨）
53 武田勝・谷原省吾（広島桜が丘・広島）
54 谷村一馬・甲谷光（秋田工業・秋田）
55 山本啓奨・森澤聡（比叡山・滋賀）
56 駒田直也・深尾淳（名経大市邨・愛知）
57 住吉太陽・嵯峨根和正（桂・京都）
58 秋庭直人・石川佳樹（千葉敬愛・千葉）
59 石立健志郎・山森卓也（石川県立工業・石川）
60 玉城大地・兼城将治（糸満・沖縄）
61 佐々木翔太・山崎高広（青森山田・青森）
62 三好耕二・藤井亮（英明・香川）
63 増渕典明・松口和弘（作新学院・栃木）
64 土坂寛志・木多裕希（奈良市立一条・奈良）
65 中島広太郎・小埜聡（日田林工・大分）
66 岩城弘知・村松俊介（伊東・静岡）
67 丸山慎之助・佐藤貴則（北越・新潟）
68 小野寺勝也・田渕雄喜（札幌第一・南北海道）
69 吉原龍之介・円城寺尚人（唐津東・佐賀）
70 森本貴之・河田尚也（神戸村野工業・兵庫）
71 石川貴寛・石川晋也（前沢・岩手）
72 垰畑亮太・武下利一（関東第一・東京）
73 湯谷亮介・山本達矢（鳥取工業・鳥取）
74 松岡大貴・内田諒（暁・三重）
75 大倉弘樹・村上真次郎（新田・愛媛）
76 水野暁人・西澤龍司（不二越工業・富山）
77 篠崎晃彦・木村祐樹（常総学院・茨城）
78 黒木伸二・森園祐樹（日章学園・宮崎）
79 渡邉一磨・末吉佑任（水島工業・岡山）
80 龔太志・銭谷翔（東大阪大学柏原・大阪）
81 兼子卓也・佐藤巧巳（鶴岡工業・山形）
82 白石優太・森上健太（自由ケ丘・福岡）
83 上原将馬・鈴木瑛裕（柳井工業・山口）
84 前岡佑輔・平川大貴（川崎総合科学・神奈川）
85 竹内宏徳・千京史知（勝山・福井）
86 山崎健二郎・阪井健太（添上・奈良）
87 田崎一真・矢神謙介（長野商業・長野）
88 齋藤真之介・相原賢志朗（仙台商業・宮城）
89 荒木佑也・永田晋作（西陵・長崎）
90 荻野將虎・松島圭祐（太田市立商業・群馬）
91 野口元生・谷藤敬典（旭川実業・北北海道）
92 田村一弘・山崎太郎（高知商業・高知）
93 下田恭平・奥智洋（鹿児島商業・鹿児島）
94 玄行啓司・仁島大毅（松江北・島根）
95 安部惇士・加藤晃平（帝京安積・福島）
96 北原克洋・北原惇史（星林・和歌山）
97 木下侑・谷口大樹（県立岐阜商業・岐阜）
98 田児賢一・松丸一輝（埼玉栄・埼玉）

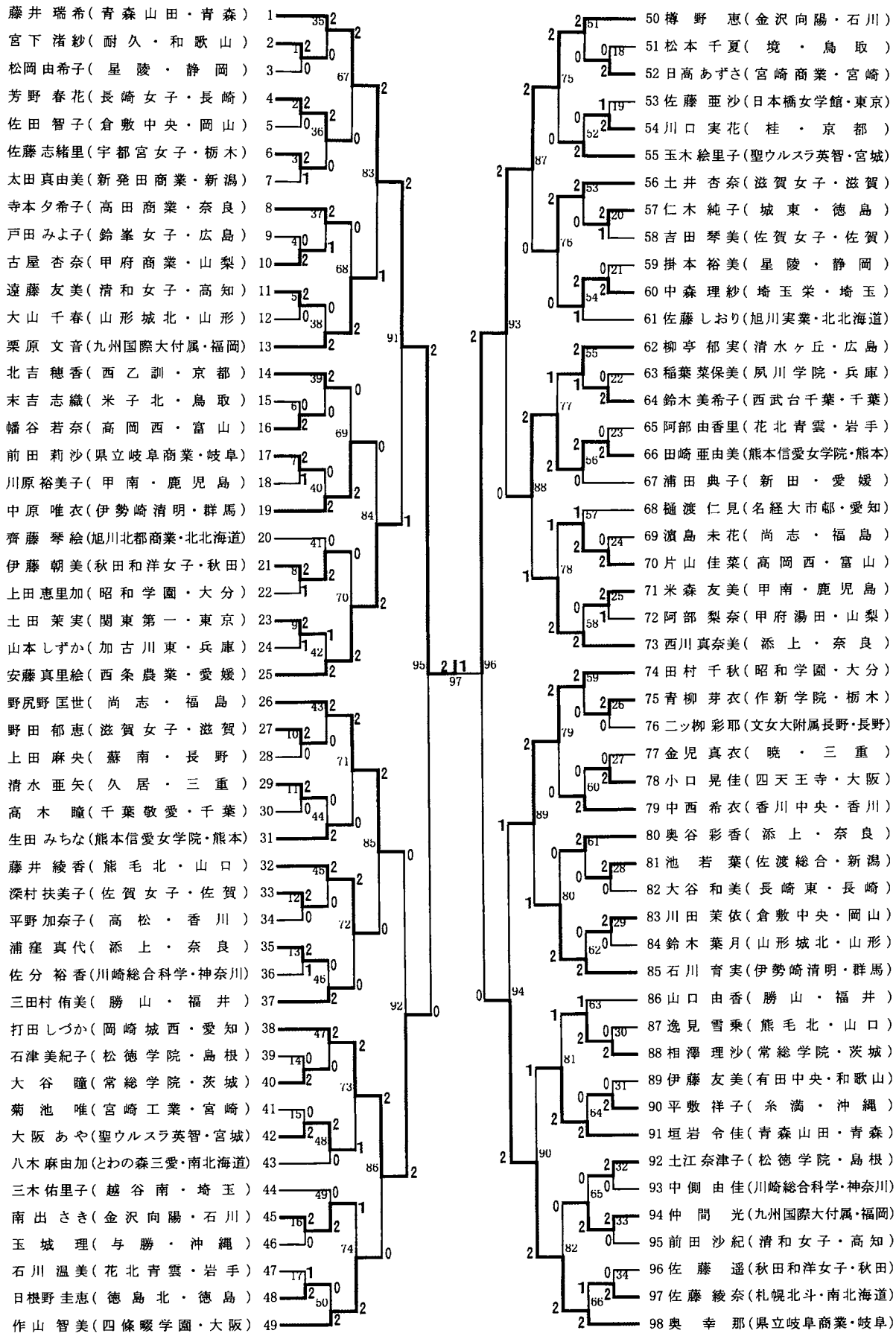
女子ダブルス（98組）


伊藤小菜美・村山絵理花（聖ウルスラ英智・宮城） 1
伊藤友美・小林美樹（有田中央・和歌山） 2
石田麻衣・斎藤綾乃（勝山・福井） 3
立川ゆかり・久次米佐和子（城東・徳島） 4
牧之瀬みほ・坂中夢（九州国際大付属・福岡） 5
小山理紗・武田藍子（大東・島根） 6
菊山久美子・大谷瞳（常総学院・茨城） 7
北吉穂香・岡本優里（西乙訓・京都） 8
落合美耶・本間真美（北越・新潟） 9
平敷祥子・宮平ゆかり（糸満・沖縄） 10
青柳芽衣・椎貝友紀（作新学院・栃木） 11
大川美幸・永田知里（県立岐阜商業・岐阜） 12
岡本麻菜美・実光鮎佳（倉敷中央・岡山） 13
佐藤しおり・高橋杏奈（旭川実業・北北海道） 14
橋本優・辻井麻衣香（暁・三重） 15
遠藤茜・笠井七実（甲府商業・山梨） 16
川原裕美子・米森友美（甲南・鹿児島） 17
阿部由香里・石川温美（花北青雲・岩手） 18
片山佳菜・奥井智菜美（高岡西・富山） 19
楚阪夕貴・松田安代（高田商業・奈良） 20
岩崎千愛・木場万里慧（高松商業・香川） 21
高橋夏未・小泉梨沙（帝京安積・福島） 22
江角香菜子・高橋英莉子（鈴峯女子・広島） 23
鈴木美希子・大日方美弥子（西武台千葉・千葉） 24
田崎亜由美・村上ひかり（熊本信愛女学院・熊本） 25
浦窪真代・西川真奈美（添上・奈良） 26
佐藤遥・吉田聖良（秋田和洋女子・秋田） 27
篠原聡子・野田安奈（佐賀女子・佐賀） 28
関真純・井上佳奈（川崎総合科学・神奈川） 29
長谷川加奈・桜井みどり（金沢向陽・石川） 30
末吉志織・早川未沙（米子北・鳥取） 31
岡田友梨・久枝ゆい（新田・愛媛） 32
戸田里和・関亜由美（越谷南・埼玉） 33
松岡由希子・塩澤尚子（星陵・静岡） 34
山森裕子・中村真友（園田学園・兵庫） 35
芳野春花・森亜希子（長崎女子・長崎） 36
原麻衣子・穴井友喜（青森山田・青森） 37
打田しづか・藤田理恵子（岡崎城西・愛知） 38
森知宏・佐藤有純（新庄南・山形） 39
宮下香織・小久保陽香（札幌静修・南北海道） 40
綿貫優生・前田彩花（淑徳巣鴨・東京） 41
山下智恵子・浦谷かおり（滋賀女子・滋賀） 42
宮内唯・加藤祥子（別府鶴見丘・大分） 43
小口晃佳・津村優衣（四天王寺・大阪） 44
山崎美佳・山崎由衣（妻・宮崎） 45
逸見雪乗・藤井綾香（熊毛北・山口） 46
岡崎翔子・金澤結香莉（土佐女子・高知） 47
北條佳絵・多羅沢美和（長野商業・長野） 48
石川育実・中原唯衣（伊勢崎清明・群馬） 49
樽野恵・木村唯菜（金沢向陽・石川） 50
福森弥生・池田千恵（鹿児島・鹿児島） 51
小野心・大山唯（新庄南・山形） 52
土江奈津子・城市早紀（松徳学院・島根） 53
平野里枝・栗田梢（千葉敬愛・千葉） 54
奥谷彩香・鞠飼沙織（添上・奈良） 55
蜜石百里・櫛引千秋（札幌静修・南北海道） 56
宮田晶代・白樫春菜（鶴沼・神奈川） 57
梶田明里・菊池唯（宮崎工業・宮崎） 58
土井杏奈・仲川志都香（滋賀女子・滋賀） 59
樋渡仁見・野口三華（名経大市邨・愛知） 60
中西希衣・岸本可奈（香川中央・香川） 61
田村千秋・上田恵里加（昭和学園・大分） 62
三田村侑美・山口由香（勝山・福井） 63
渡邊麻衣子・中橋春華（倉吉総合産業・鳥取） 64
仁木純子・松友仁美（城東・徳島） 65
渡邉崇名・上野晶子（伊奈・茨城） 66
高橋礼華・玉木絵里子（聖ウルスラ英智・宮城） 67
掛本裕美・森川有紀（星陵・静岡） 68
野村このみ・水池綾加（日ノ本学園・兵庫） 69
三上千明・柳亭郁実（清水ヶ丘・広島） 70
山口美穂・伊藤実沙子（八代白百合学園・熊本） 71
鈴木優華・伊藤朝美（秋田和洋女子・秋田） 72
三木佑里子・大森舞（越谷南・埼玉） 73
竹内由佳利・深尾友里（樟蔭東・大阪） 74
大井三鈴・清水亜矢（久居・三重） 75
宮美紗貴・内藤遥（伊勢崎清明・群馬） 76
野尻野匡世・濵島未花（尚志・福島） 77
大谷和美・細田知里（長崎東・長崎） 78
前田沙紀・遠藤友美（清和女子・高知） 79
松本弓枝・鈴木絵笛（旭川北都商業・北北海道） 80
宮下沙弥香・山本有里沙（耐久・和歌山） 81
仲間光・栗原文音（九州国際大付属・福岡） 82
古屋杏奈・滝川翔子（甲府商業・山梨） 83
小原奈美子・下村彩乃（赤穂・長野） 84
川田茉依・中尾咲子（倉敷中央・岡山） 85
相和香奈子・寺本夕希子（高田商業・奈良） 86
佐藤亜沙・阿蘇愛美（日本橋女学館・東京） 87
十田彩・幡谷若奈（高岡西・富山） 88
石橋幸枝・深村扶美子（佐賀女子・佐賀） 89
谷地実可子・小原安奈（盛岡市立・岩手） 90
松岡智美・大塚有加里（県立岐阜商業・岐阜） 91
太田真由美・音田亜子（新発田商業・新潟） 92
川口実花・星野真佑（桂・京都） 93
石井那実・矢野智恵美（作新学院・栃木） 94
吉田維子・照屋円香（知念・沖縄） 95
浦田典子・野口幸代（新田・愛媛） 96
何村冴衣子・鈴木美穂（熊毛北・山口） 97
藤井瑞希・垣岩令佳（青森山田・青森） 98

男子シングルス（98名）


1 松川直弘（勝山・福井）
2 永野翔太（土佐・高知）
3 島岡亮治（県立岐阜商業・岐阜）
4 田原吉智（鹿児島・鹿児島）
5 堀内京平（甲府商業・山梨）
6 絹川亮（鳥取工業・鳥取）
7 山崎健二郎（添上・奈良）
8 工藤敏裕（東奥学園・青森）
9 平川大貴（川崎総合科学・神奈川）
10 角田碧（松江北・島根）
11 芦原毅士（別府鶴見丘・大分）
12 鈴木陵麻（札幌第一・南北海道）
13 川下剛士（比叡山・滋賀）
14 渡邉一磨（水島工業・岡山）
15 齋藤真之介（仙台商業・宮城）
16 河田尚也（神戸村野工業・兵庫）
17 松本広平（作新学院・栃木）
18 野原大輔（沖縄水産・沖縄）
19 濵中裕太（松山北・愛媛）
20 武下利一（関東第一・東京）
21 石立健志郎（石川県立工業・石川）
22 石川貴寛（前沢・岩手）
23 岩城弘知（伊東・静岡）キ
24 山東亮太（那賀・和歌山）
25 武山修三（八代東・熊本）
26 吉村幸朗（添上・奈良）
27 篠崎晃彦（常総学院・茨城）
28 高山郁弥（北越・新潟）
29 浦田大輝（小城・佐賀）
30 兼子卓也（鶴岡工業・山形）
31 吉本直樹（柳井工業・山口）
32 甲谷光（秋田工業・秋田）
33 鏡裕樹（徳島商業・徳島）
34 具志堅興平（自由ケ丘・福岡）
35 銭谷翔（東大阪大学柏原・大阪）
36 内藤徳亮（前橋東・群馬）
37 駒田直也（名経大市邨・愛知）
38 中鉢隼人（帯広大谷・北北海道）
39 金谷聡士（千葉敬愛・千葉）
40 矢神謙介（長野商業・長野）
41 中村祐文（西陵・長崎）
42 金森正和（暁・三重）
43 岡誠二（英明・香川）
44 高嶋淳平（高岡第一・富山）
45 友居豊（尚志・福島）
46 石川直哉（広島国泰寺・広島）
47 黒木伸二（日章学園・宮崎）
48 大釜恵介（京都両洋・京都）
49 田児賢一（埼玉栄・埼玉）
50 井谷和弥（東大阪大学柏原・大阪）
51 石原大資（柳井工業・山口）
52 松口和弘（作新学院・栃木）
53 長谷川圭太（山本学園・山形）
54 脇野陽（鹿児島・鹿児島）
55 西川夏樹（久居・三重）
56 田渕雄喜（札幌第一・南北海道）
57 藤巻寛久（大町北・長野）
58 三橋将希（藤沢翔陵・神奈川）
59 外川一也（前沢・岩手）
60 円城寺尚人（唐津東・佐賀）
61 三好耕二（英明・香川）
62 坂井一将（金沢市立工業・石川）
63 山田雄一（関東第一・東京）
64 田村一弘（高知商業・高知）
65 日高篤俊（福岡・福岡）
66 小野拓也（星陵・静岡）
67 森山隆弘（添上・奈良）
68 衛藤翔平（大分西・大分）
69 笹木里司（勝山・福井）
70 中野良祐（水島工業・岡山）
71 伊東雅俊（甲府商業・山梨）
72 北原惇史（星林・和歌山）
73 佐々木翔太（青森山田・青森）
74 湯谷亮介（鳥取工業・鳥取）
75 松島圭祐（太田市立商業・群馬）
76 溝口元気（創成館・長崎）
77 浅野新也（県立岐阜商業・岐阜）
78 宇都宮眸（京都両洋・京都）
79 田垣貴也（旭川実業・北北海道）
80 逢澤宏亮（比叡山・滋賀）
81 佐藤尚己（仙台商業・宮城）
82 石川佳樹（千葉敬愛・千葉）
83 竹内裕也（長岡向陵・新潟）
84 大倉弘樹（新田・愛媛）
85 園田啓悟（八代東・熊本）
86 上内進介（奈良市立一条・奈良）
87 金城俊（コザ・沖縄）
88 大和一輝（広島桜が丘・広島）
89 菅澤伸哉（帝京安積・福島）
90 木村祐樹（常総学院・茨城）
91 今村昌平（岡崎城西・愛知）
92 福家康記（城南・徳島）
93 谷村一馬（秋田工業・秋田）
94 太田誠（高岡第一・富山）
95 髙妻智一（宮崎工業・宮崎）
96 西本卓矢（伊丹北・兵庫）
97 和田隆之介（松江北・島根）
98 上田拓馬（埼玉栄・埼玉）

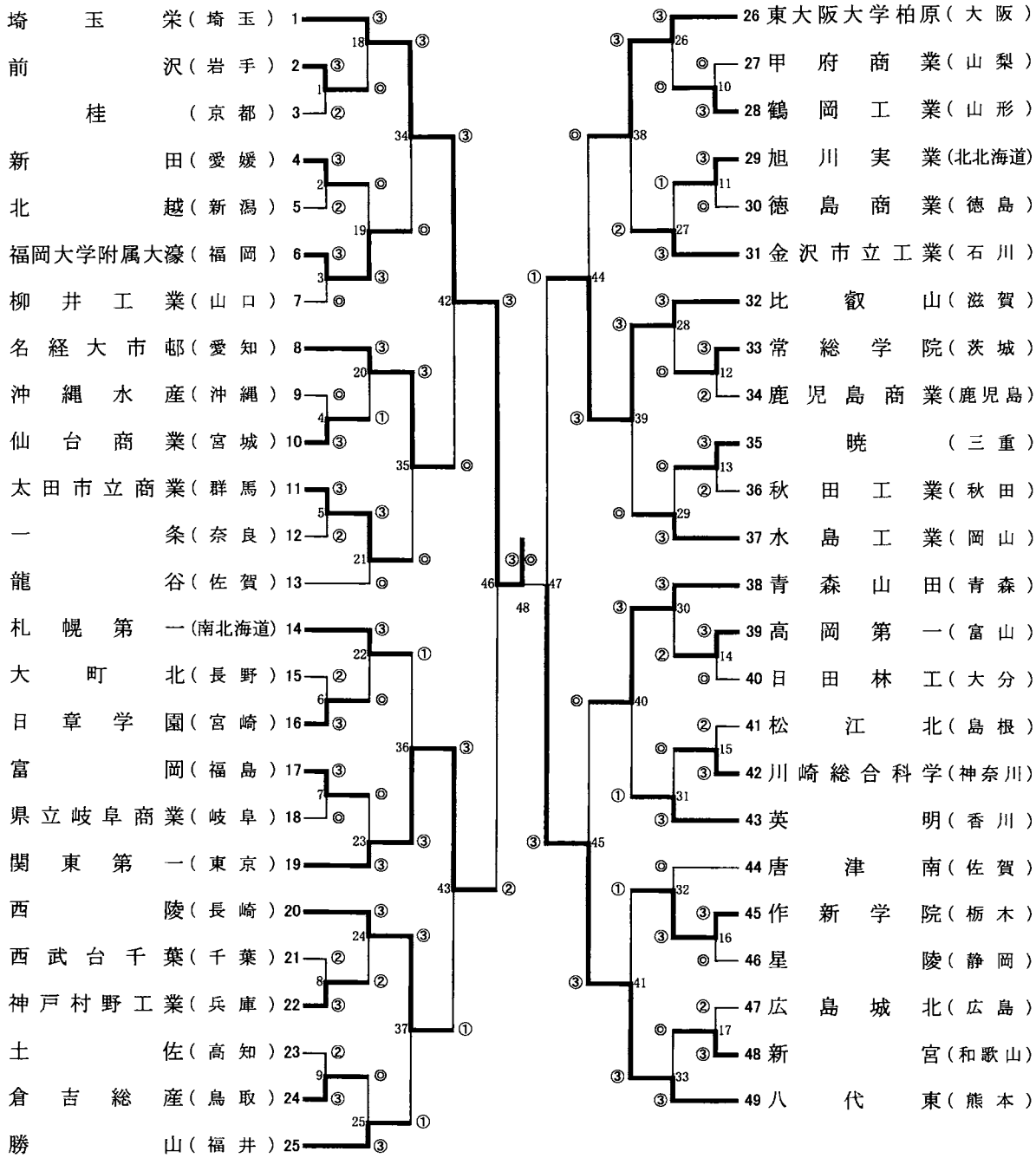
女子シングルス（98名）


藤井瑞希(青森山田・青森) 1
宮下渚紗(耐久・和歌山) 2
松岡由希子(星陵・静岡) 3
芳野春花(長崎女子・長崎) 4
佐田智子(倉敷中央・岡山) 5
佐藤志緒里(宇都宮女子・栃木) 6
太田真由美(新発田商業・新潟) 7
寺本夕希子(高田商業・奈良) 8
戸田みよ子(鈴峯女子・広島) 9
古屋杏奈(甲府商業・山梨) 10
遠藤友美(清和女子・高知) 11
大山千春(山形城北・山形) 12
栗原文音(九州国際大付属・福岡) 13
北吉穂香(西乙訓・京都) 14
末吉志織(米子北・鳥取) 15
幡谷若奈(高岡西・富山) 16
前田莉沙(県立岐阜商業・岐阜) 17
川原裕美子(甲南・鹿児島) 18
中原唯衣(伊勢崎清明・群馬) 19
齊藤琴絵(旭川北都商業・北北海道) 20
伊藤朝美(秋田和洋女子・秋田) 21
上田恵里加(昭和学園・大分) 22
土田茉実(関東第一・東京) 23
山本しずか(加古川東・兵庫) 24
安藤真里絵(西条農業・愛媛) 25
野尻野匡世(尚志・福島) 26
野田郁恵(滋賀女子・滋賀) 27
上田麻央(蘇南・長野) 28
清水亜矢(久居・三重) 29
高木瞳(千葉敬愛・千葉) 30
生田みちな(熊本信愛女学院・熊本) 31
藤井綾香(熊毛北・山口) 32
深村扶美子(佐賀女子・佐賀) 33
平野加奈子(高松・香川) 34
浦窪真代(添上・奈良) 35
佐分裕香(川崎総合科学・神奈川) 36
三田村侑美(勝山・福井) 37
打田しづか(岡崎城西・愛知) 38
石津美紀子(松徳学院・島根) 39
大谷瞳(常総学院・茨城) 40
菊池唯(宮崎工業・宮崎) 41
大阪あや(聖ウルスラ英智・宮城) 42
八木麻由加(とわの森三愛・南北海道) 43
三木佑里子(越谷南・埼玉) 44
南出さき(金沢向陽・石川) 45
玉城理(与勝・沖縄) 46
石川温美(花北青雲・岩手) 47
日根野圭恵(徳島北・徳島) 48
作山智美(四條畷学園・大阪) 49
樽野恵(金沢向陽・石川) 50
松本千夏(境・鳥取) 51
日高あずさ(宮崎商業・宮崎) 52
佐藤亜沙(日本橋女学館・東京) 53
川口実花(桂・京都) 54
玉木絵里子(聖ウルスラ英智・宮城) 55
土井杏奈(滋賀女子・滋賀) 56
仁木純子(城東・徳島) 57
吉田琴美(佐賀女子・佐賀) 58
掛本裕美(星陵・静岡) 59
中森理紗(埼玉栄・埼玉) 60
佐藤しおり(旭川実業・北北海道) 61
柳亭郁実(清水ヶ丘・広島) 62
稲葉菜保美(夙川学院・兵庫) 63
鈴木美希子(西武台千葉・千葉) 64
阿部由香里(花北青雲・岩手) 65
田崎亜由美(熊本信愛女学院・熊本) 66
浦田典子(新田・愛媛) 67
樋渡仁見(名経大市邨・愛知) 68
濱島未花(尚志・福島) 69
片山佳菜(高岡西・富山) 70
米森友美(甲南・鹿児島) 71
阿部梨奈(甲府湯田・山梨) 72
西川真奈美(添上・奈良) 73
田村千秋(昭和学園・大分) 74
青柳芽衣(作新学院・栃木) 75
二ッ柳彩耶(文女大附属長野・長野) 76
金児真衣(暁・三重) 77
小口晃佳(四天王寺・大阪) 78
中西希衣(香川中央・香川) 79
奥谷彩香(添上・奈良) 80
池若葉(佐渡総合・新潟) 81
大谷和美(長崎東・長崎) 82
川田茉依(倉敷中央・岡山) 83
鈴木葉月(山形城北・山形) 84
石川育実(伊勢崎清明・群馬) 85
山口由香(勝山・福井) 86
逸見雪乗(熊毛北・山口) 87
相澤理沙(常総学院・茨城) 88
伊藤友美(有田中央・和歌山) 89
平敷祥子(糸満・沖縄) 90
垣岩令佳(青森山田・青森) 91
土江奈津子(松徳学院・島根) 92
中側由佳(川崎総合科学・神奈川) 93
仲間光(九州国際大付属・福岡) 94
前田沙紀(清和女子・高知) 95
佐藤遥(秋田和洋女子・秋田) 96
佐藤綾奈(札幌北斗・南北海道) 97
奥幸那(県立岐阜商業・岐阜) 98

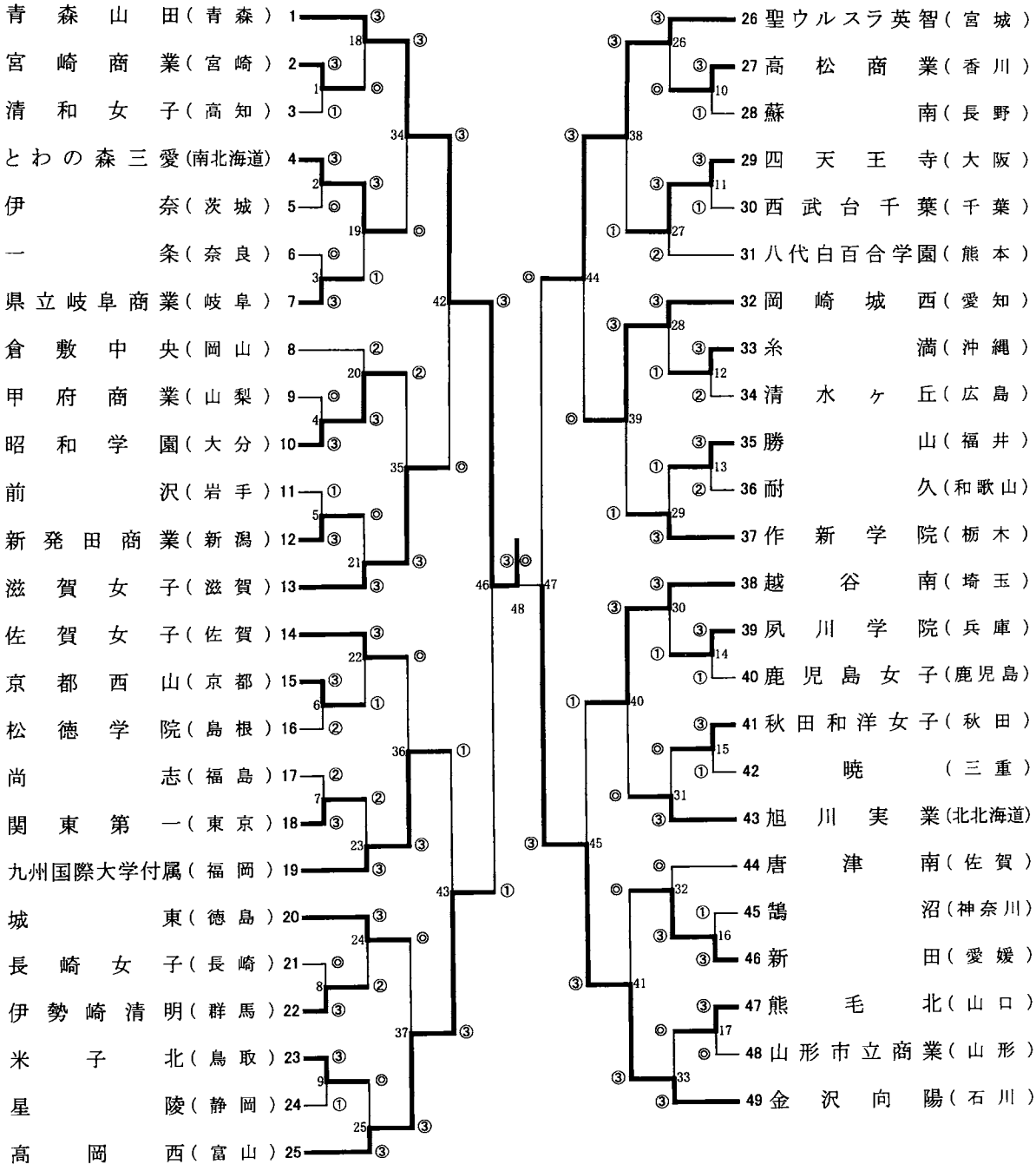
第58回全国高等学校バドミントン選手権大会（2007年度）

期日▶平成19年７月28日～８月２日
会場▶佐賀のへそ・ふれあい交流センター「ネイブル」・小城市牛津体育センター・小城市立牛津中学校体育館
大町町立大町中学校体育館・武雄市白岩体育館・佐賀県立武雄青陵高等学校体育館
武雄市立北方中学校体育館・武雄市立山内中学校体育館

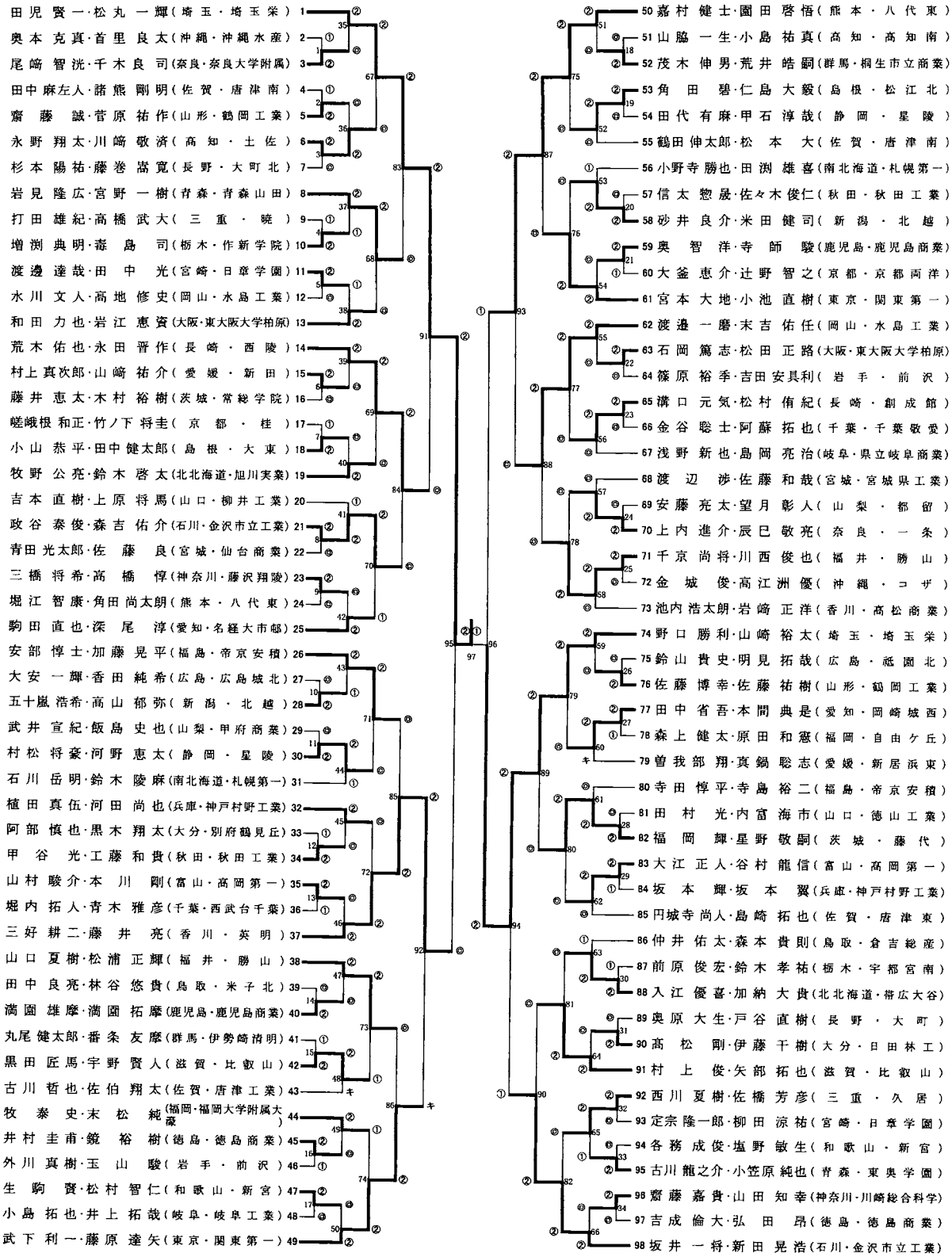
男子団体（49校）



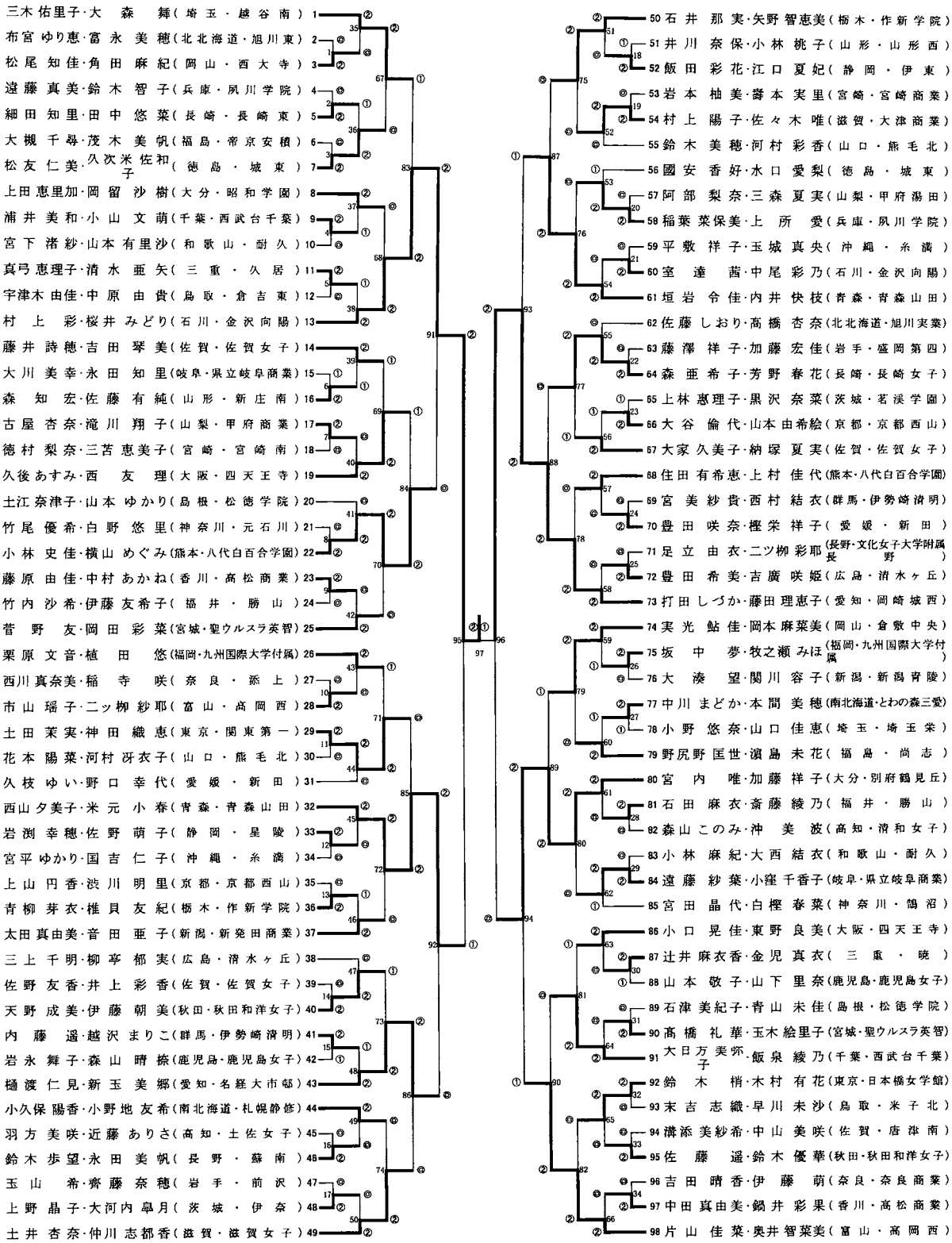
女子団体（49校）


青森山田（青森）1
宮崎商業（宮崎）2
清和女子（高知）3
とわの森三愛（南北海道）4
伊奈（茨城）5
一条（奈良）6
県立岐阜商業（岐阜）7
倉敷中央（岡山）8
甲府商業（山梨）9
昭和学園（大分）10
前沢（岩手）11
新発田商業（新潟）12
滋賀女子（滋賀）13
佐賀女子（佐賀）14
京都西山（京都）15
松徳学院（島根）16
尚志（福島）17
関東第一（東京）18
九州国際大学付属（福岡）19
城東（徳島）20
長崎女子（長崎）21
伊勢崎清明（群馬）22
米子北（鳥取）23
星陵（静岡）24
高岡西（富山）25
26 聖ウルスラ英智（宮城）
27 高松商業（香川）
28 蘇南（長野）
29 四天王寺（大阪）
30 西武台千葉（千葉）
31 八代白百合学園（熊本）
32 岡崎城西（愛知）
33 糸満（沖縄）
34 清水ヶ丘（広島）
35 勝山（福井）
36 耐久（和歌山）
37 作新学院（栃木）
38 越谷南（埼玉）
39 夙川学院（兵庫）
40 鹿児島女子（鹿児島）
41 秋田和洋女子（秋田）
42 暁（三重）
43 旭川実業（北北海道）
44 唐津南（佐賀）
45 鵠沼（神奈川）
46 新田（愛媛）
47 熊毛北（山口）
48 山形市立商業（山形）
49 金沢向陽（石川）

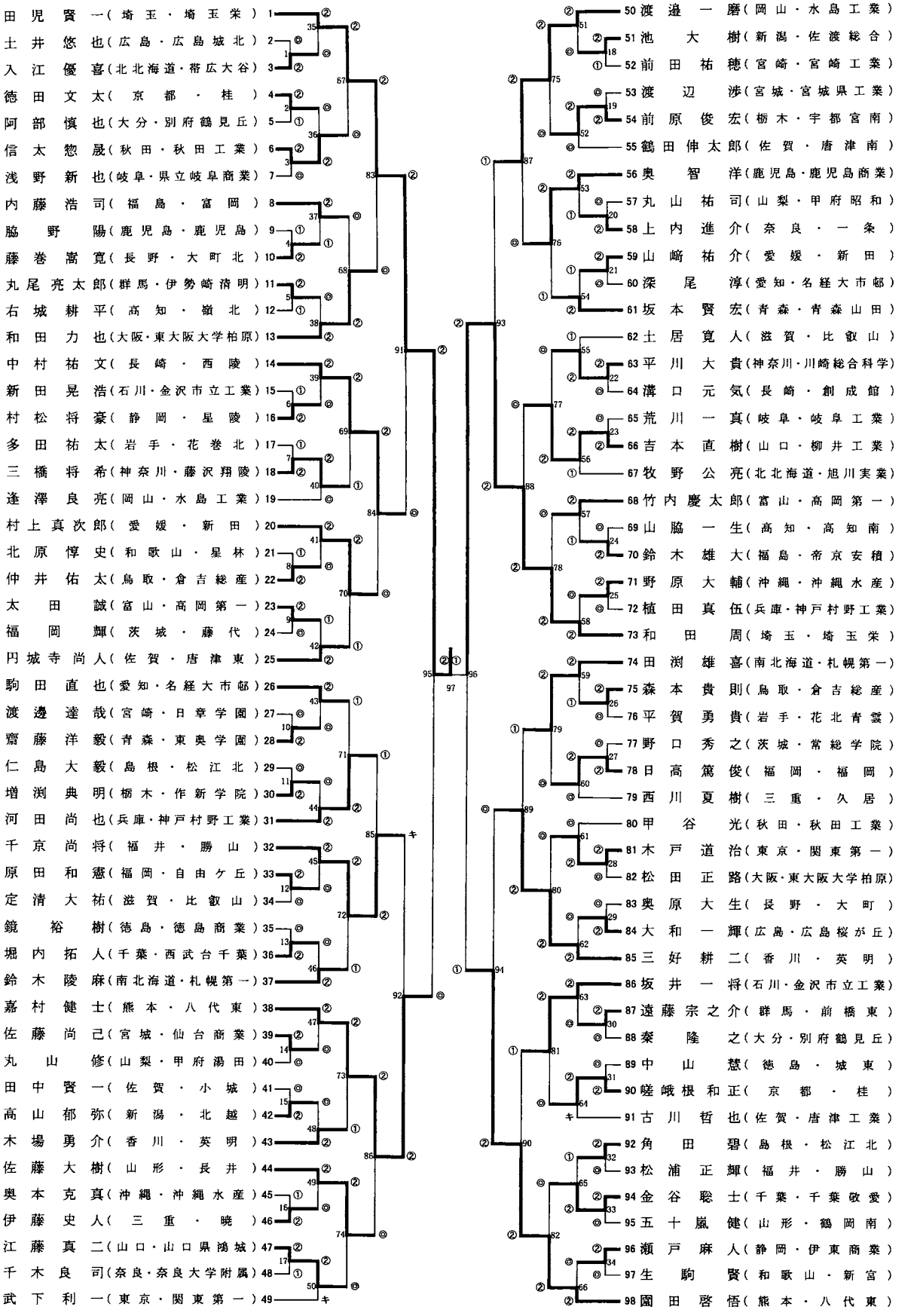
男子ダブルス（98組）


1 田児賢一・松丸一輝（埼玉・埼玉栄）
2 奥本克真・首里良太（沖縄・沖縄水産）
3 尾﨑智洸・千木良司（奈良・奈良大学附属）
4 田中麻左人・諸熊剛明（佐賀・唐津南）
5 齋藤誠・菅原祐作（山形・鶴岡工業）
6 永野翔太・川﨑敬済（高知・土佐）
7 杉本陽祐・藤巻嵩寛（長野・大町北）
8 岩見隆広・宮野一樹（青森・青森山田）
9 打田雄紀・高橋武大（三重・暁）
10 増渕典明・毒島司（栃木・作新学院）
11 渡邊達哉・田中光（宮崎・日章学園）
12 水川文人・高地修史（岡山・水島工業）
13 和田力也・岩江恵資（大阪・東大阪大学柏原）
14 荒木佑也・永田晋作（長崎・西陵）
15 村上真次郎・山﨑祐介（愛媛・新田）
16 藤井恵太・木村裕樹（茨城・常総学院）
17 嵯峨根和正・竹ノ下将圭（京都・桂）
18 小山恭平・田中健太郎（島根・大東）
19 牧野公亮・鈴木啓太（北北海道・旭川実業）
20 吉本直樹・上原将馬（山口・柳井工業）
21 政谷泰俊・森吉佑介（石川・金沢市立工業）
22 青田光太郎・佐藤良（宮城・仙台商業）
23 三橋将希・髙橋惇（神奈川・藤沢翔陵）
24 堀江智康・角田尚太朗（熊本・八代東）
25 駒田直也・深尾淳（愛知・名経大市邨）
26 安部惇士・加藤晃平（福島・帝京安積）
27 大安一輝・香田純希（広島・広島城北）
28 五十嵐浩希・高山郁弥（新潟・北越）
29 武井宣紀・飯島史也（山梨・甲府商業）
30 村松将豪・河野恵太（静岡・星陵）
31 石川岳明・鈴木陵麻（南北海道・札幌第一）
32 植田真伍・河田尚也（兵庫・神戸村野工業）
33 阿部慎也・黒木翔太（大分・別府鶴見丘）
34 甲谷光・工藤和貴（秋田・秋田工業）
35 山村駿介・本川剛（富山・高岡第一）
36 堀内拓人・青木雅彦（千葉・西武台千葉）
37 三好耕二・藤井亮（香川・英明）
38 山口夏樹・松浦正輝（福井・勝山）
39 田中良亮・林谷悠貴（鳥取・米子北）
40 満園雄摩・満園拓摩（鹿児島・鹿児島商業）
41 丸尾健太郎・番条友摩（群馬・伊勢崎清明）
42 黒田匠馬・宇野賢人（滋賀・比叡山）
43 古川哲也・佐伯翔太（佐賀・唐津工業）
44 牧泰史・末松純（福岡・福岡大学附属大濠）
45 井村圭甫・鏡裕樹（徳島・徳島商業）
46 外川真樹・玉山駿（岩手・前沢）
47 生駒賢・松村智仁（和歌山・新宮）
48 小島拓也・井上拓哉（岐阜・岐阜工業）
49 武下利一・藤原達矢（東京・関東第一）
50 嘉村健士・園田啓悟（熊本・八代東）
51 山脇一生・小島祐真（高知・高知南）
52 茂木伸男・荒井皓嗣（群馬・桐生市立商業）
53 角田碧・仁島大毅（島根・松江北）
54 田代有麻・甲石淳哉（静岡・星陵）
55 鶴田伸太郎・松本大（佐賀・唐津南）
56 小野寺勝也・田渕雄喜（南北海道・札幌第一）
57 信太惣晟・佐々木俊仁（秋田・秋田工業）
58 砂井良介・米田健司（新潟・北越）
59 奥智洋・寺師駿（鹿児島・鹿児島商業）
60 大釜恵介・辻野智之（京都・京都両洋）
61 宮本大地・小池直樹（東京・関東第一）
62 渡邉一磨・末吉佑任（岡山・水島工業）
63 石岡篤志・松田正路（大阪・東大阪大学柏原）
64 篠原裕季・吉田安貝利（岩手・前沢）
65 濵口元気・松村侑紀（長崎・創成館）
66 金谷聡士・阿蘇拓也（千葉・千葉敬愛）
67 浅野新也・島岡亮治（岐阜・県立岐阜商業）
68 渡辺渉・佐藤和哉（宮城・宮城県工業）
69 安藤亮太・望月彰人（山梨・都留）
70 上内進介・辰巳敬亮（奈良・一条）
71 千京尚将・川西俊也（福井・勝山）
72 金城俊・高江洲優（沖縄・コザ）
73 池内浩太朗・岩﨑正洋（香川・高松商業）
74 野口勝利・山崎裕太（埼玉・埼玉栄）
75 鈴山貴史・明見拓哉（広島・祇園北）
76 佐藤博幸・佐藤祐樹（山形・鶴岡工業）
77 田中省吾・本間典是（愛知・岡崎城西）
78 森上健太・原田和憲（福岡・自由ケ丘）
79 曽我部翔・真鍋聡志（愛媛・新居浜東）
80 寺田惇平・寺島裕二（福島・帝京安積）
81 田村光・内富海市（山口・徳山工業）
82 福岡輝・星野敬嗣（茨城・藤代）
83 大江正人・谷村龍信（富山・高岡第一）
84 坂本輝・坂本翼（兵庫・神戸村野工業）
85 円城寺尚人・島崎拓也（佐賀・唐津東）
86 仲井佑太・森本貴則（鳥取・倉吉総産）
87 前原俊宏・鈴木孝祐（栃木・宇都宮南）
88 入江優喜・加納大貴（北北海道・帯広大谷）
89 奥原大生・戸谷直樹（長野・大町）
90 髙松剛・伊藤干樹（大分・日田林工）
91 村上俊・矢部拓也（滋賀・比叡山）
92 西川夏樹・佐橋芳彦（三重・久居）
93 定宗隆一郎・柳田涼祐（宮崎・日章学園）
94 各務成俊・塩野敏生（和歌山・新宮）
95 古川龍之介・小笠原純也（青森・東奥学園）
96 齋藤嘉貴・山田知幸（神奈川・川崎総合科学）
97 吉成倫大・弘田昂（徳島・徳島商業）
98 坂井一将・新田晃浩（石川・金沢市立工業）

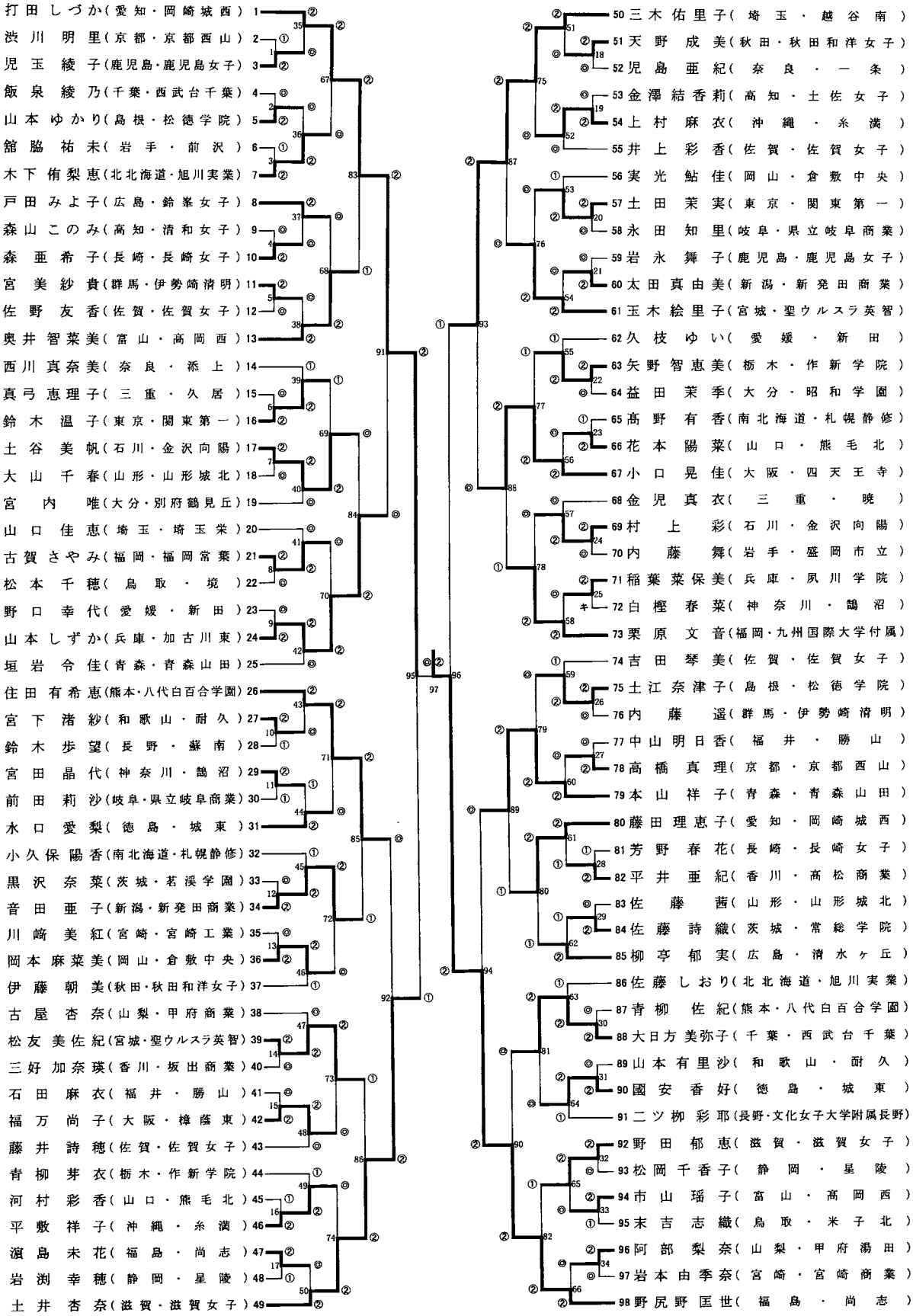
女子ダブルス（98組）


1 三木佑里子・大森舞（埼玉・越谷南）
2 布宮ゆり恵・富永美穂（北北海道・旭川東）
3 松尾知佳・角田麻紀（岡山・西大寺）
4 遠藤真美・鈴木智子（兵庫・夙川学院）
5 細田知里・田中悠菜（長崎・長崎東）
6 大槻千尋・茂木美帆（福島・帝京安積）
7 松友仁美・久次米佐和子（徳島・城東）
8 上田恵里加・岡留沙樹（大分・昭和学園）
9 浦井美和・小山文萌（千葉・西武台千葉）
10 宮下渚紗・山本有里沙（和歌山・耐久）
11 真弓恵理子・清水亜矢（三重・久居）
12 宇津木由佳・中原由貴（鳥取・倉吉東）
13 村上彩・桜井みどり（石川・金沢向陽）
14 藤井詩穂・吉田琴美（佐賀・佐賀女子）
15 大川美幸・永田知里（岐阜・県立岐阜商業）
16 森知宏・佐藤有純（山形・新庄南）
17 古屋杏奈・滝川翔子（山梨・甲府商業）
18 徳村梨奈・三苫恵美子（宮崎・宮崎南）
19 久後あすみ・西友理（大阪・四天王寺）
20 土江奈津子・山本ゆかり（島根・松徳学院）
21 竹尾優希・白野悠里（神奈川・元石川）
22 小林史佳・横山めぐみ（熊本・八代白百合学園）
23 藤原由佳・中村あかね（香川・高松商業）
24 竹内沙希・伊藤友希子（福井・勝山）
25 菅野友・岡田彩菜（宮城・聖ウルスラ英智）
26 栗原文音・植田悠（福岡・九州国際大学付属）
27 西川真奈美・稲寺咲（奈良・添上）
28 市山瑶子・二ツ柳紗耶（富山・高岡西）
29 土田茉実・神田織恵（東京・関東第一）
30 花本陽菜・河村冴衣子（山口・熊毛北）
31 久枝ゆい・野口幸代（愛媛・新田）
32 西山夕美子・米元小春（青森・青森山田）
33 岩渕幸穂・佐野萌子（静岡・星陵）
34 宮平ゆかり・国吉仁子（沖縄・糸満）
35 上山円香・渋川明里（京都・京都西山）
36 青柳芽衣・椎貝友紀（栃木・作新学院）
37 太田真由美・音田亜子（新潟・新発田商業）
38 三上千明・柳亭郁実（広島・清水ヶ丘）
39 佐野友香・井上彩香（佐賀・佐賀女子）
40 天野成美・伊藤朝美（秋田・秋田和洋女子）
41 内藤遥・越沢まりこ（群馬・伊勢崎清明）
42 岩永舞子・森山晴捺（鹿児島・鹿児島女子）
43 樋渡仁見・新玉美郷（愛知・名経大市邨）
44 小久保陽香・小野地友希（南北海道・札幌静修）
45 羽方美咲・近藤ありさ（高知・土佐女子）
46 鈴木歩望・永田美帆（長野・蘇南）
47 玉山希・齊藤奈穂（岩手・前沢）
48 上野晶子・大河内皐月（茨城・伊奈）
49 土井杏奈・仲川志都香（滋賀・滋賀女子）
50 石井那実・矢野智恵美（栃木・作新学院）
51 井川奈保・小林桃子（山形・山形西）
52 飯田彩花・江口夏妃（静岡・伊東）
53 岩本柚美・髙本実里（宮崎・宮崎商業）
54 村上陽子・佐々木唯（滋賀・大津商業）
55 鈴木美穂・河村彩香（山口・熊毛北）
56 國安香好・水口愛梨（徳島・城東）
57 阿部梨奈・三森夏実（山梨・甲府湯田）
58 稲葉菜保美・上所愛（兵庫・夙川学院）
59 平敷祥子・玉城真央（沖縄・糸満）
60 室達茜・中尾彩乃（石川・金沢向陽）
61 垣岩令佳・内井快枝（青森・青森山田）
62 佐藤しおり・髙橋杏奈（北北海道・旭川実業）
63 藤澤祥子・加藤宏佳（岩手・盛岡第四）
64 森亜希子・芳野春花（長崎・長崎女子）
65 上林惠理子・黒沢奈菜（茨城・茗渓学園）
66 大谷倫代・山本由希絵（京都・京都西山）
67 大家久美子・納塚夏実（佐賀・佐賀女子）
68 住田有希恵・上村佳代（熊本・八代白百合学園）
69 宮美紗貴・西村結衣（群馬・伊勢崎清明）
70 豊田咲奈・樫栄祥子（愛媛・新田）
71 足立由衣・二ツ柳彩耶（長野・文化女子大学附属長野）
72 豊田希美・吉廣咲姫（広島・清水ヶ丘）
73 打田しづか・藤田理恵子（愛知・岡崎城西）
74 実光鮎佳・岡本麻菜美（岡山・倉敷中央）
75 坂中夢・牧之瀬みほ（福岡・九州国際大学付属）
76 大湊望・関川容子（新潟・新潟青陵）
77 中川まどか・本間美穂（南北海道・とわの森三愛）
78 小野悠奈・山口佳恵（埼玉・埼玉栄）
79 野尻野匡世・濵島未花（福島・尚志）
80 宮内唯・加藤祥子（大分・別府鶴見丘）
81 石田麻衣・斎藤綾乃（福井・勝山）
82 森山このみ・沖美波（高知・清和女子）
83 小林麻紀・大西結衣（和歌山・耐久）
84 遠藤紗葉・小窪千香子（岐阜・県立岐阜商業）
85 宮田晶代・白樫春菜（神奈川・鵠沼）
86 小口晃佳・東野良美（大阪・四天王寺）
87 辻井麻衣香・金児真衣（三重・暁）
88 山本敬子・山下里奈（鹿児島・鹿児島女子）
89 石津美紀子・青山未佳（島根・松徳学院）
90 髙橋礼華・玉木絵里子（宮城・聖ウルスラ英智）
91 大日方芙咲子・飯泉綾乃（千葉・西武台千葉）
92 鈴木悟・木村有花（東京・日本橋女学館）
93 末吉志織・早川未沙（鳥取・米子北）
94 溝添美紗希・中山美咲（佐賀・唐津南）
95 佐藤遥・鈴木優華（秋田・秋田和洋女子）
96 吉田晴香・伊藤萌（奈良・奈良商業）
97 中田真由美・鍋井彩果（香川・高松商業）
98 片山佳菜・奥井智菜美（富山・高岡西）

男子シングルス（98名）


1 田児賢一（埼玉・埼玉栄）
2 土井悠也（広島・広島城北）
3 入江優喜（北北海道・帯広大谷）
4 徳田文太（京都・桂）
5 阿部慎也（大分・別府鶴見丘）
6 信太惣晟（秋田・秋田工業）
7 浅野新也（岐阜・県立岐阜商業）
8 内藤浩司（福島・富岡）
9 脇野陽（鹿児島・鹿児島）
10 藤巻嵩寛（長野・大町北）
11 丸尾亮太郎（群馬・伊勢崎清明）
12 右城耕平（高知・嶺北）
13 和田力也（大阪・東大阪大学柏原）
14 中村祐文（長崎・西陵）
15 新田晃浩（石川・金沢市立工業）
16 村松将豪（静岡・星陵）
17 多田祐太（岩手・花巻北）
18 三橋将希（神奈川・藤沢翔陵）
19 逢澤良亮（岡山・水島工業）
20 村上真次郎（愛媛・新田）
21 北原惇史（和歌山・星林）
22 仲井佑太（鳥取・倉吉総産）
23 太田誠（富山・高岡第一）
24 福岡輝（茨城・藤代）
25 円城寺尚人（佐賀・唐津東）
26 駒田直也（愛知・名経大市邨）
27 渡邊達哉（宮崎・日章学園）
28 齋藤洋毅（青森・東奥学園）
29 仁島大毅（島根・松江北）
30 増渕典明（栃木・作新学院）
31 河田尚也（兵庫・神戸村野工業）
32 千京尚将（福井・勝山）
33 原田和憲（福岡・自由ケ丘）
34 定清大祐（滋賀・比叡山）
35 鏡裕樹（徳島・徳島商業）
36 堀内拓人（千葉・西武台千葉）
37 鈴木陵麻（南北海道・札幌第一）
38 嘉村健士（熊本・八代東）
39 佐藤尚己（宮城・仙台商業）
40 丸山修（山梨・甲府湯田）
41 田中賢一（佐賀・小城）
42 高山郁弥（新潟・北越）
43 木場勇介（香川・英明）
44 佐藤大樹（山形・長井）
45 奥本克真（沖縄・沖縄水産）
46 伊藤史人（三重・暁）
47 江藤真二（山口・山口県鴻城）
48 千木良司（奈良・奈良大学附属）
49 武下利一（東京・関東第一）
50 渡邉一磨（岡山・水島工業）
51 池大樹（新潟・佐渡総合）
52 前田祐穂（宮崎・宮崎工業）
53 渡辺渉（宮城・宮城県工業）
54 前原俊宏（栃木・宇都宮南）
55 鶴田伸太郎（佐賀・唐津南）
56 奥智洋（鹿児島・鹿児島商業）
57 丸山祐司（山梨・甲府昭和）
58 上内進介（奈良・一条）
59 山﨑祐介（愛媛・新田）
60 深尾淳（愛知・名経大市邨）
61 坂本賢宏（青森・青森山田）
62 土居寛人（滋賀・比叡山）
63 平川大貴（神奈川・川崎総合科学）
64 溝口元気（長崎・創成館）
65 荒川一真（岐阜・岐阜工業）
66 吉本直樹（山口・柳井工業）
67 牧野公亮（北北海道・旭川実業）
68 竹内慶太郎（富山・高岡第一）
69 山脇一生（高知・高知南）
70 鈴木雄大（福島・帝京安積）
71 野原大輔（沖縄・沖縄水産）
72 植田真伍（兵庫・神戸村野工業）
73 和田周（埼玉・埼玉栄）
74 田渕雄喜（南北海道・札幌第一）
75 森本貴則（鳥取・倉吉総産）
76 平賀勇貴（岩手・花北青雲）
77 野口秀之（茨城・常総学院）
78 日高篤俊（福岡・福岡）
79 西川夏樹（三重・久居）
80 甲谷光（秋田・秋田工業）
81 木戸道治（東京・関東第一）
82 松田正路（大阪・東大阪大学柏原）
83 奥原大生（長野・大町）
84 大和一輝（広島・広島桜が丘）
85 三好耕二（香川・英明）
86 坂井一将（石川・金沢市立工業）
87 遠藤宗之介（群馬・前橋東）
88 秦隆之（大分・別府鶴見丘）
89 中山慧（徳島・城東）
90 嵯峨根和正（京都・桂）
91 古川哲也（佐賀・唐津工業）
92 角田碧（島根・松江北）
93 松浦正輝（福井・勝山）
94 金谷聡士（千葉・千葉敬愛）
95 五十嵐健（山形・鶴岡南）
96 瀬戸麻人（静岡・伊東商業）
97 生駒賢（和歌山・新宮）
98 園田啓悟（熊本・八代東）

女子シングルス（98名）


打田しづか（愛知・岡崎城西）1
渋川明里（京都・京都西山）2
児玉綾子（鹿児島・鹿児島女子）3
飯泉綾乃（千葉・西武台千葉）4
山本ゆかり（島根・松徳学院）5
舘脇祐未（岩手・前沢）6
木下侑梨恵（北北海道・旭川実業）7
戸田みよ子（広島・鈴峯女子）8
森山このみ（高知・清和女子）9
森亜希子（長崎・長崎女子）10
宮美紗貴（群馬・伊勢崎清明）11
佐野友香（佐賀・佐賀女子）12
奥井智菜美（富山・高岡西）13
西川真奈美（奈良・添上）14
真弓恵理子（三重・久居）15
鈴木温子（東京・関東第一）16
土谷美帆（石川・金沢向陽）17
大山千春（山形・山形城北）18
宮内唯（大分・別府鶴見丘）19
山口佳恵（埼玉・埼玉栄）20
古賀さやみ（福岡・福岡常葉）21
松本千穂（鳥取・境）22
野口幸代（愛媛・新田）23
山本しずか（兵庫・加古川東）24
垣岩令佳（青森・青森山田）25
住田有希恵（熊本・八代白百合学園）26
宮下渚紗（和歌山・耐久）27
鈴木歩望（長野・蘇南）28
宮田晶代（神奈川・鵠沼）29
前田莉沙（岐阜・県立岐阜商業）30
水口愛梨（徳島・城東）31
小久保陽香（南北海道・札幌静修）32
黒沢奈菜（茨城・茗渓学園）33
音田亜子（新潟・新発田商業）34
川崎美紅（宮崎・宮崎工業）35
岡本麻菜美（岡山・倉敷中央）36
伊藤朝美（秋田・秋田和洋女子）37
古屋杏奈（山梨・甲府商業）38
松友美佐紀（宮城・聖ウルスラ英智）39
三好加奈瑛（香川・坂出商業）40
石田麻衣（福井・勝山）41
福万尚子（大阪・樟蔭東）42
藤井詩穂（佐賀・佐賀女子）43
青柳芽衣（栃木・作新学院）44
河村彩香（山口・熊毛北）45
平敷祥子（沖縄・糸満）46
濵島未花（福島・尚志）47
岩渕幸穂（静岡・星陵）48
土井杏奈（滋賀・滋賀女子）49
三木佑里子（埼玉・越谷南）50
天野成美（秋田・秋田和洋女子）51
児島亜紀（奈良・一条）52
金澤結香莉（高知・土佐女子）53
上村麻衣（沖縄・糸満）54
井上彩香（佐賀・佐賀女子）55
実光鮎佳（岡山・倉敷中央）56
土田茉実（東京・関東第一）57
永田知里（岐阜・県立岐阜商業）58
岩永舞子（鹿児島・鹿児島女子）59
太田真由美（新潟・新発田商業）60
玉木絵里子（宮城・聖ウルスラ英智）61
久枝ゆい（愛媛・新田）62
矢野智恵美（栃木・作新学院）63
益田茉季（大分・昭和学園）64
髙野有香（南北海道・札幌静修）65
花本陽菜（山口・熊毛北）66
小口晃佳（大阪・四天王寺）67
金児真衣（三重・暁）68
村上彩（石川・金沢向陽）69
内藤舞（岩手・盛岡市立）70
稲葉菜保美（兵庫・夙川学院）71
白樫春菜（神奈川・鵠沼）72
栗原文音（福岡・九州国際大学付属）73
吉田琴美（佐賀・佐賀女子）74
土江奈津子（島根・松徳学院）75
内藤遥（群馬・伊勢崎清明）76
中山明日香（福井・勝山）77
高橋真理（京都・京都西山）78
本山祥子（青森・青森山田）79
藤田理恵子（愛知・岡崎城西）80
芳野春花（長崎・長崎女子）81
平井亜紀（香川・高松商業）82
佐藤茜（山形・山形城北）83
佐藤詩織（茨城・常総学院）84
柳亭郁実（広島・清水ヶ丘）85
佐藤しおり（北北海道・旭川実業）86
青柳佐紀（熊本・八代白百合学園）87
大日方美弥子（千葉・西武台千葉）88
山本有里沙（和歌山・耐久）89
國安香好（徳島・城東）90
二ツ柳彩耶（長野・文化女子大学附属長野）91
野田郁恵（滋賀・滋賀女子）92
松岡千香子（静岡・星陵）93
市山瑶子（富山・高岡西）94
末吉志織（鳥取・米子北）95
阿部梨奈（山梨・甲府湯田）96
岩本由季奈（宮崎・宮崎商業）97
野尻野匡世（福島・尚志）98

第59回全国高等学校バドミントン選手権大会（2008年度）

期日▶平成20年７月28日～８月２日
会場▶所沢市民体育館・所沢市民武道館・所沢高等学校体育館
所沢北高等学校体育館・所沢西高等学校体育館

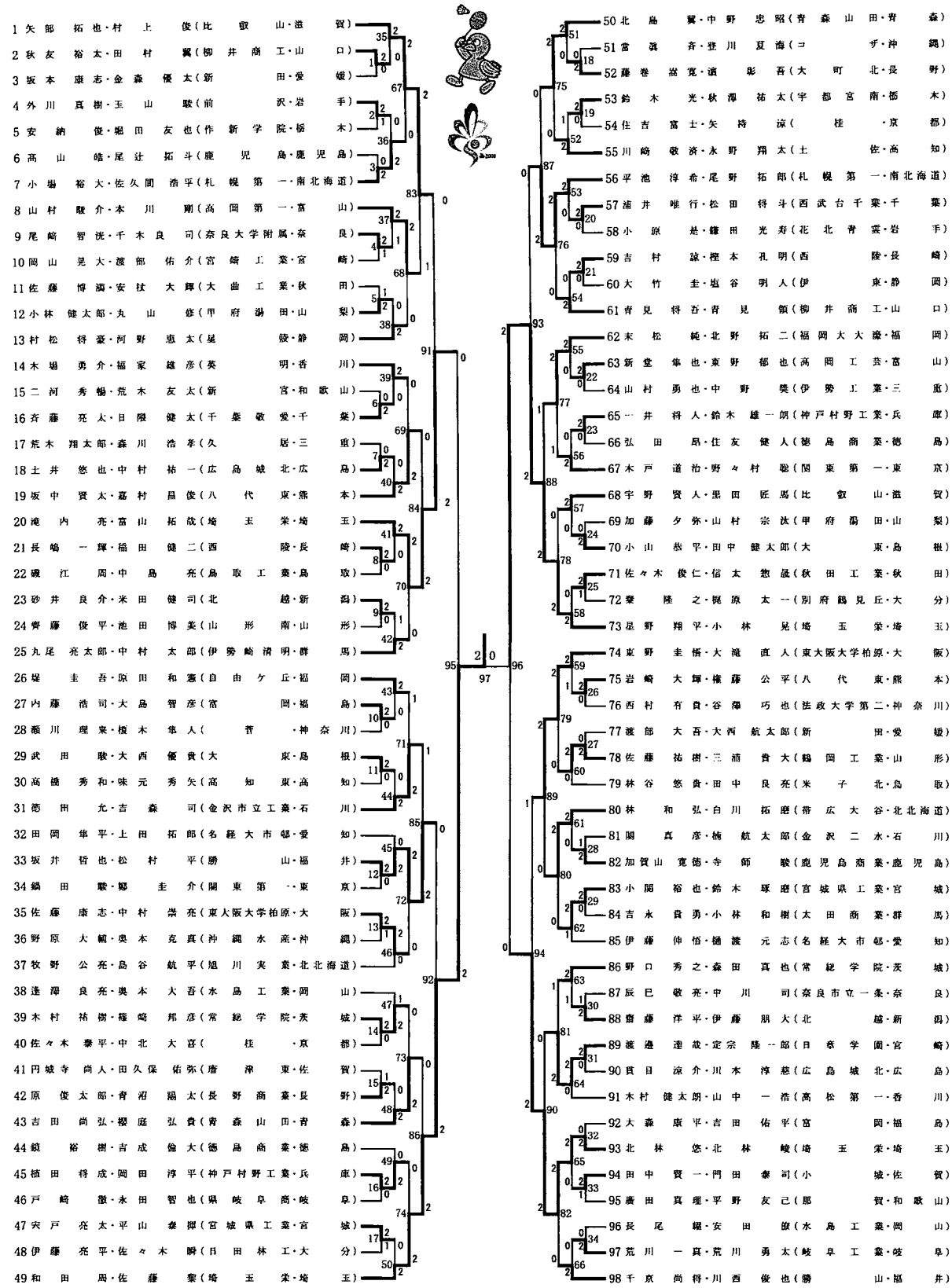
男子団体（49校）

1 埼玉栄（埼玉）
2 柳井商工（山口）
3 大町北（長野）
4 星陵（静岡）
5 秋田工業（秋田）
6 神戸村野工業（兵庫）
7 福岡大大濠（福岡）
8 高松商業（香川）
9 西武台千葉（千葉）
10 前沢（岩手）
11 鹿児島商業（鹿児島）
12 広島城北（広島）
13 札幌第一（南北海道）
14 青森山田（青森）
15 久居（三重）
16 日章学園（宮崎）
17 京都両洋（京都）
18 宇都宮南（栃木）
19 勝山（福井）
20 川崎総合科学（神奈川）
21 唐津南（佐賀）
22 鳥取工業（鳥取）
23 金沢市立工業（石川）
24 新田（愛媛）
25 比叡山（滋賀）
26 関東第一（東京）
27 新宮（和歌山）
28 県岐阜商（岐阜）
29 徳島商業（徳島）
30 沖縄水産（沖縄）
31 小松原（埼玉）
32 水島工業（岡山）
33 奈良大学附属（奈良）
34 富岡（福島）
35 高岡第一（富山）
36 常総学院（茨城）
37 西陵（長崎）
38 東大阪大学柏原（大阪）
39 別府鶴見丘（大分）
40 伊勢崎清明（群馬）
41 山形南（山形）
42 大東（島根）
43 岡崎城西（愛知）
44 北越（新潟）
45 宮城県工業（宮城）
46 旭川実業（北北海道）
47 甲府商業（山梨）
48 土佐（高知）
49 八代東（熊本）

女子団体（49校）

1 青森山田（青森）
2 星陵（静岡）
3 勝山（福井）
4 京都西山（京都）
5 山陽女子（岡山）
6 千葉敬愛（千葉）
7 八代白百合学園（熊本）
8 高松商業（香川）
9 新潟青陵（新潟）
10 鶴鳴学園長崎女子（長崎）
11 加古川東（兵庫）
12 関東第一（東京）
13 松徳学院（島根）
14 滋賀短大附属（滋賀）
15 蘇南（長野）
16 倉吉東（鳥取）
17 別府鶴見丘（大分）
18 黒沢尻北（岩手）
19 伊勢崎清明（群馬）
20 名経大市邨（愛知）
21 宮崎商業（宮崎）
22 旭川実業（北北海道）
23 土佐女子（高知）
24 甲府湯田（山梨）
25 聖ウルスラ英智（宮城）
26 高岡西（富山）
27 城東（徳島）
28 糸満（沖縄）
29 作新学院（栃木）
30 富岡（福島）
31 樟蔭東（大阪）
32 とわの森三愛（南北海道）
33 川崎総合科学（神奈川）
34 県岐阜商（岐阜）
35 佐賀女子（佐賀）
36 清水ヶ丘（広島）
37 越谷南（埼玉）
38 九州国際大学付属（福岡）
39 常総学院（茨城）
40 耐久（和歌山）
41 久居（三重）
42 山形城北（山形）
43 埼玉栄（埼玉）
44 熊毛北（山口）
45 鹿児島女子（鹿児島）
46 新田（愛媛）
47 秋田北（秋田）
48 高田商業（奈良）
49 金沢向陽（石川）

男子ダブルス（98組）


1 矢部 拓也・村上 俊（比叡山・滋賀）
2 秋友 裕太・田村 翼（柳井商工・山口）
3 坂本 康志・金森 優太（新田・愛媛）
4 外川 真樹・玉山 駿（前沢・岩手）
5 安納 俊・堀田 友也（作新学院・栃木）
6 高山 皓・尾辻 拓斗（鹿児島・鹿児島）
7 小場 裕大・佐久間 浩平（札幌第一・南北海道）
8 山村 駿介・本川 剛（高岡第一・富山）
9 尾崎 智洸・千木良 司（奈良大学附属・奈良）
10 岡山 晃大・渡部 佑介（宮崎工業・宮崎）
11 佐藤 博満・安杖 大輝（大曲工業・秋田）
12 小林 健太郎・丸山 修（甲府湯田・山梨）
13 村松 将豪・河野 恵太（星陵・静岡）
14 木場 勇介・福家 雄彦（英明・香川）
15 二河 秀暢・荒木 友太（新宮・和歌山）
16 斉藤 亮太・日隈 健太（千葉敬愛・千葉）
17 荒木 翔太郎・森川 浩孝（久居・三重）
18 土井 悠也・中村 祐一（広島城北・広島）
19 坂中 賢太・嘉村 昌俊（八代東・熊本）
20 滝内 亮・富山 拓哉（埼玉栄・埼玉）
21 長嶋 一輝・福田 健二（西陵・長崎）
22 磯江 周・中島 亮（島取工業・島取）
23 砂井 良介・米田 健司（北越・新潟）
24 齊藤 俊平・池田 博美（山形南・山形）
25 丸尾 亮太郎・中村 太郎（伊勢崎清明・群馬）
26 堤 圭吾・原田 和憲（自由ケ丘・福岡）
27 内藤 浩司・大島 智彦（富岡・福島）
28 瀬川 理来・檀木 隼人（香・神奈川）
29 武田 駿・大西 優貴（大東・島根）
30 高橋 秀和・味元 秀矢（高知東・高知）
31 徳田 允・吉森 司（金沢市立工業・石川）
32 田岡 隼平・上田 拓郎（名経大市邨・愛知）
33 坂井 哲也・松村 平（勝山・福井）
34 鍋田 駿・郷 圭介（開東第一・東京）
35 佐藤 康志・中村 崇亮（東大阪大学柏原・大阪）
36 野原 大輔・奥本 克真（沖縄水産・沖縄）
37 牧野 公亮・島谷 航平（旭川実業・北北海道）
38 逢澤 良亮・奥本 大吾（水島工業・岡山）
39 木村 祐樹・籏崎 邦彦（常総学院・茨城）
40 佐々木 泰平・中北 大喜（桂・京都）
41 円城寺 尚人・田久保 佑弥（唐津東・佐賀）
42 原 俊太郎・青沼 陽太（長野商業・長野）
43 吉田 尚弘・樫庭 弘貴（青森山田・青森）
44 鏡 裕樹・吉成 倫大（徳島商業・徳島）
45 植田 将成・岡田 淳平（神戸村野工業・兵庫）
46 戸崎 徹・永田 智也（県岐阜商・岐阜）
47 宍戸 亮太・平山 泰揮（宮城県工業・宮城）
48 伊藤 亮平・佐々木 瞬（日田林工・大分）
49 和田 周・佐藤 黎（埼玉栄・埼玉）
50 北島 翼・中野 忠昭（青森山田・青森）
51 富満 斉・登川 夏海（コザ・沖縄）
52 藤巻 滋寛・濱 彰吾（大町北・長野）
53 鈴木 光・秋澤 祐太（宇都宮南・栃木）
54 住吉 富士・矢持 涼（桂・京都）
55 川崎 敬済・永野 翔太（土佐・高知）
56 平池 淳希・尾野 拓郎（札幌第一・南北海道）
57 浦井 唯行・松田 将斗（西武台千葉・千葉）
58 小原 是・鎌田 光寿（花北青雲・岩手）
59 吉村 涼・樫本 孔明（西陵・長崎）
60 大竹 圭・塩谷 明人（伊東・静岡）
61 青見 将吾・青見 領（柳井商工・山口）
62 末松 純・北野 拓二（福岡大大濠・福岡）
63 新堂 隼也・東野 都也（高岡工芸・富山）
64 山村 勇也・中野 葵（伊勢工業・三重）
65 一井 将人・鈴木 雄一朗（神戸村野工業・兵庫）
66 弘田 昂・住友 健人（徳島商業・徳島）
67 木戸 道治・野々村 聡（関東第一・東京）
68 宇野 賢人・黒田 匠馬（比叡山・滋賀）
69 加藤 夕弥・山村 宗汰（甲府湯田・山梨）
70 小山 恭平・田中 健太郎（大東・島根）
71 佐々木 俊仁・信太 惣盛（秋田工業・秋田）
72 秦 陸之・梶原 太一（別府鶴見丘・大分）
73 星野 翔平・小林 晃（埼玉栄・埼玉）
74 東野 圭悟・大滝 直人（東大阪大学柏原・大阪）
75 岩崎 大輝・権藤 公平（八代東・熊本）
76 西村 有貴・谷澤 巧也（法政大学第二・神奈川）
77 渡部 大吾・大西 航太郎（新田・愛媛）
78 佐藤 祐樹・三浦 貴大（鶴岡工業・山形）
79 林谷 悠貴・田中 良亮（米子北・鳥取）
80 林 和弘・白川 拓磨（帯広大谷・北北海道）
81 関 真彦・梅航太郎（金沢二水・石川）
82 加賀山 寛徳・寺師 駿（鹿児島商業・鹿児島）
83 小関 裕也・鈴木 琢磨（宮城県工業・宮城）
84 吉永 貴勇・小林 和樹（太田商業・群馬）
85 伊藤 伸悟・樋渡 元志（名経大市邨・愛知）
86 野口 秀之・森田 真也（常総学院・茨城）
87 辰巳 敬亮・中川 司（奈良市立一条・奈良）
88 齋藤 洋平・伊藤 朋大（北越・新潟）
89 渡邊 連哉・定宗 隆一郎（日章学園・宮崎）
90 貫目 涼介・川本 淳慈（広島城北・広島）
91 木村 健太朗・山中 一浩（高松第一・香川）
92 大森 康平・吉田 佑平（宮岡・福島）
93 北林 悠・北林 峻（埼玉栄・埼玉）
94 田中 賢一・門田 泰司（小城・佐賀）
95 廣田 真理・平野 友己（那賀・和歌山）
96 長尾 耀・安田 旗（水島工業・岡山）
97 荒川 一真・荒川 勇太（岐阜工業・岐阜）
98 千原 尚将・川西 俊也（勝山・福井）

女子ダブルス（98組）

1 高橋 礼華・松友 美佐紀（聖ウルスラ英智・宮城）
2 山崎 直美・山本 由里耶（添上・奈良）
3 佐野 晃子・佐々木 梨花（旭川北・北北海道）
4 福森 弥生・池田 千恵（鹿児島・鹿児島）
5 岡田 奏世・只木 美羽（鷲沼・神奈川）
6 大湊 望・関川 容子（新潟青陵・新潟）
7 小窪 千香子・遠藤 紗葉（県岐阜商・岐阜）
8 名田 瑞希・福万 尚子（椿 蔭東・大阪）
9 高橋 菜摘・七谷 真穂（富岡・福島）
10 井上 彩香・藤原 あすか（佐賀女子・佐賀）
11 越沢 まりこ・石関 彩乃（伊勢崎清明・群馬）
12 鍋井 彩果・三枝 幸奈（高松商業・香川）
13 鈴木 美穂・河村 彩香（熊毛北・山口）
14 土谷 美帆・三谷 美菜津（金沢向陽・石川）
15 内田 紗恵・山中 美幸（宇治山田商業・三重）
16 山本 沙紀・福田 菜摘（宇都宮南・栃木）
17 久保 春菜・山本 ゆかり（松徳学院・島根）
18 河崎 綾佳・安居 里彩（大津商業・滋賀）
19 石垣 明日香・井上 樹理（九州国際大学付属・福岡）
20 柏原 未久・原 香織（越谷南・埼玉）
21 岩本 柚美・壽本 実里（宮崎商業・宮崎）
22 湯谷 佳菜・井田 詩織（鳥取敬愛・鳥取）
23 大山 千春・佐藤 茜（山形城北・山形）
24 池上 美里佳・東山 明加（高知西・高知）
25 鈴木 福子・神田 織恵（関東第一・東京）
26 瀬川 桜子・平山 佑香（埼玉栄・埼玉）
27 吉村 裕那・松林 葵（鶴鳴学園長崎女子・長崎）
28 伊藤 朝美・中道 澄夏（秋田和洋女子・秋田）
29 竹内 沙希・石井 愛奈（勝山・福井）
30 横関 唯・原田 奈緒（園田学園・兵庫）
31 國安 香好・宮崎 友望（城東・徳島）
32 佐藤 詩織・井筒 恵理子（常総学院・茨城）
33 上山 円香・渋川 明里（京都西山・京都）
34 小田 一美・實金 由起（山陽女子・岡山）
35 米元 陽花・市丸 美里（青森山田・青森）
36 松永 志保・東 夏美（昭和学園・大分）
37 與猶 くるみ・峰 歩美（岡崎城西・愛知）
38 本間 美穂・中川 まどか（とわの森三愛・南北海道）
39 高橋 沙也加・古西 佳那子（高岡西・富山）
40 柳 麻美・大島 唯（西武台千葉・千葉）
41 望月 歩音・川村 みのり（星陵・静岡）
42 玉城 真央・上村 麻衣（糸満・沖縄）
43 森賀 佳奈・程栄 祥子（新田・愛媛）
44 鈴木 歩望・太田 百香（藤南・長野）
45 登田 希美・吉廣 咲姫（清水ヶ丘・広島）
46 守屋 真衣・相馬 咲美（都留・山梨）
47 熊谷 安乃・八重樫 瑠子（黒沢尻北・岩手）
48 平野 祐花・中野 由美（那賀・和歌山）
49 村岡 尚実・横山 めぐみ（八代白百合学園・熊本）
50 西 友理・久後 あすみ（四天王寺・大阪）
51 兼清 由香理・濱田 有希子（熊毛北・山口）
52 石塚 絵利香・村山 果帆（新潟青陵・新潟）
53 榎本 琴海・関根 早織（日本橋女学館・東京）
54 山崎 友恵・原口 志織（妻・宮崎）
55 松尾 薫乃・鍛沙 姫（とわの森三愛・南北海道）
56 岡田 彩菜・菅野 友（聖ウルスラ英智・宮城）
57 大條 祐佳李・矢部 由貴（新田・愛媛）
58 三森 夏実・宮美 咲（甲府勝田・山梨）
59 後藤 仁美・大迫 晴加（大垣西・岐阜）
60 大園 千裕・藤原 舞（佐賀女子・佐賀）
61 合田 侑希・古田 麻衣子（越谷南・埼玉）
62 宇津木 由佳・中原 由貴（倉吉東・鳥取）
63 岩永 舞子・森山 晴瑛（鹿児島女子・鹿児島）
64 手塚 陽菜・青木 優子（千葉敬愛・千葉）
65 高橋 麻耶・高橋 千晶（山形城北・山形）
66 高橋 真理・松本 茜（京都西山・京都）
67 安田 若菜・塩澤 麻帆（富山商業・富山）
68 真弓 恵理子・清水 亜矢（久居・三重）
69 黒沢 奈菜・村井 花圭（若葉学園・茨城）
70 宮下 渚紗・山本 有里沙（耐久・和歌山）
71 松井 翔子・兼光 沙紀（九州国際大学付属・福岡）
72 吉田 聖良・斉藤 莉子（秋田和洋女子・秋田）
73 水口 愛梨・若田 美沙（城東・徳島）
74 新玉 美郷・城口 優里花（名経大市邨・愛知）
75 砂川 侑里英・花城 里奈（コザ・沖縄）
76 白井 千都・小林 美紀（作新学院・栃木）
77 倭 奈々恵・伊丹 美佐子（倉敷中央・岡山）
78 木戸 よし美・篠田 未来（宮岡・福島）
79 遠藤 真美・鈴木 智子（夙川学院・兵庫）
80 久木田 幸穂・青柳 佐紀（八代白百合学園・熊本）
81 椙本 若菜・吉川 純子（安芸府中・広島）
82 児島 亜紀・島崎 美穂（奈良市立一条・奈良）
83 中村 あかね・平井 亜紀（高松商業・香川）
84 井上 佳奈・小野塚 愛美（川崎総合科学・神奈川）
85 三納 英莉佳・疋島 千奈美（金沢向陽・石川）
86 木下 侑梨恵・福谷 梓（旭川実業・北北海道）
87 本郷 由貴・山中 千里（滋賀短大附属・滋賀）
88 宮副 奈々・田中 悠菜（長崎東・長崎）
89 斉藤 奈穂・高橋 南（前沢・岩手）
90 伊藤 友希子・伊藤 友紀（勝山・福井）
91 内藤 遥・宮美 紗貴（伊勢崎清明・群馬）
92 土江 奈津子・城市 早紀（松徳学院・島根）
93 岩渕 幸穂・佐野 萌子（星陵・静岡）
94 津田 真由佳・澤田 彩香（高知東・高知）
95 栁里 奈・伊藤 衣世（別府鶴見丘・大分）
96 山田 真央・神中 成緒（埼玉栄・埼玉）
97 永田 美帆・田口 紗衣（藤南・長野）
98 橋本 由衣・米元 小春（青森山田・青森）

男子シングルス（98名）

1 和田　周（埼玉栄・埼玉）
2 佐々木　俊仁（秋田工業・秋田）
3 土橋　拓弥（板野・徳島）
4 的場　勇人（鳥取工業・鳥取）
5 三浦　健豊（金沢市立工業・石川）
6 門元　謙都（神戸村野工業・兵庫）
7 坂中　賢太（八代東・熊本）
8 伊藤　伸悟（名経大市邨・愛知）
9 伊藤　輝（帝京安積・福島）
10 岡山　晃大（宮崎工業・宮崎）
11 辻野　智之（京都両洋・京都）
12 新堂　隼也（高岡工芸・富山）
13 野口　秀之（常総学院・茨城）
14 吉田　尚弘（青森山田・青森）
15 大滝　直人（東大阪大学柏原・大阪）
16 奥本　克真（沖縄水産・沖縄）
17 荒川　勇太（岐阜工業・岐阜）
18 山本　翔太（川崎総合科学・神奈川）
19 大和　一輝（広島桜が丘・広島）
20 伊藤　朋大（北越・新潟）
21 永野　翔太（土佐・高知）
22 武田　駿（大東・島根）
23 小林　健太郎（甲府湯田・山梨）
24 円城寺　尚人（唐津東・佐賀）
25 牧野　公亮（旭川実業・北北海道）
26 村上　俊（比叡山・滋賀）
27 長嶋　一輝（西陵・長崎）
28 小池　毅（作新学院・栃木）
29 外川　真樹（前沢・岩手）
30 坂井　哲也（勝山・福井）
31 星野　翔平（埼玉栄・埼玉）
32 伊藤　史人（暁・三重）
33 間瀬　俊介（関東第一・東京）
34 寺師　駿（鹿児島商業・鹿児島）
35 青見　将吾（御井商工・山口）
36 中村　隆志（札幌第一・南北海道）
37 木場　勇介（英明・香川）
38 逢澤　良亮（水島工業・岡山）
39 楽　隆之（別府鶴見丘・大分）
40 尾崎　智洸（奈良大学附属・奈良）
41 慶野　光（伊勢崎清明・群馬）
42 小関　裕也（宮城県工業・宮城）
43 藤巻　嵩寛（大町北・長野）
44 浦井　唯行（西武台千葉・千葉）
45 新居　克哉（新田・愛媛）
46 佐藤　祐樹（鶴岡工業・山形）
47 河野　恵太（星陵・静岡）
48 廣田　真理（那賀・和歌山）
49 末松　純（福岡大大濠・福岡）
50 木戸　道治（関東第一・東京）
51 諸熊　剛明（唐津南・佐賀）
52 廣川　拓巳（長岡工業・新潟）
53 荒川　一真（岐阜工業・岐阜）
54 松岡　弘樹（祇上・奈良）
55 中木　広大（旭川実業・北北海道）
56 福原　忠宜（松江北・島根）
57 齊藤　俊平（山形南・山形）
58 嘉村　昌俊（八代東・熊本）
59 高橋　秀和（高知東・高知）
60 青木　雅彦（西武台千葉・千葉）
61 松原　司（比叡山・滋賀）
62 渡邊　達哉（日章学園・宮崎）
63 鈴木　雄一朗（神戸村野工業・兵庫）
64 鈴木　光（宇都宮南・栃木）
65 山村　駿介（高岡第一・富山）
66 田村　翼（柳井商工・山口）
67 信太　惣晟（秋田工業・秋田）
68 岡村　大（新田・愛媛）
69 吉村　諒（西陵・長崎）
70 村松　将豪（星陵・静岡）
71 奥原　大生（大町・長野）
72 菊池　長（前沢・岩手）
73 佐藤　黎（埼玉栄・埼玉）
74 平池　淳希（札幌第一・南北海道）
75 加賀山　寛徳（鹿児島商業・鹿児島）
76 加藤　夕弥（甲府湯田・山梨）
77 大森　康平（富岡・福島）
78 土井　悠也（広島城北・広島）
79 東野　圭悟（東大阪大学柏原・大阪）
80 櫻庭　弘貴（青森山田・青森）
81 木村　祐樹（常総学院・茨城）
82 鏡　裕樹（徳島商業・徳島）
83 関　真彦（金沢二水・石川）
84 塚本　晋平（久居・三重）
85 野原　大輔（沖縄水産・沖縄）
86 藤田　康史（岡崎城西・愛知）
87 奥本　大吾（水島工業・岡山）
88 寺村　拓人（耐久・和歌山）
89 丸尾　亮太郎（伊勢崎清明・群馬）
90 甲斐　光（大分西・大分）
91 栗田　純貴（高松商業・香川）
92 原田　和憲（自由ケ丘・福岡）
93 鈴木　琢磨（宮城県工業・宮城）
94 麻生　賢太郎（西城陽・京都）
95 滝内　亮（埼玉栄・埼玉）
96 谷澤　巧也（法政大学第二・神奈川）
97 田中　良亮（米子北・鳥取）
98 千京　尚将（勝山・福井）

女子シングルス（98名）

1 山本 しずか（加古川東・兵庫）
2 佐藤 茜（山形城北・山形）
3 玉城 理（与勝・沖縄）
4 岡田 奏世（鵠沼・神奈川）
5 宇津木 由佳（倉吉東・鳥取）
6 國安 香好（城東・徳島）
7 伊藤 友香（新発田商業・新潟）
8 鈴木 温子（関東第一・東京）
9 清水 亜矢（久居・三重）
10 吉廣 咲姫（清水ヶ丘・広島）
11 河崎 綾佳（大津商業・滋賀）
12 森山 晴捺（鹿児島女子・鹿児島）
13 佐藤 冴香（常盤木学園・宮城）
14 新玉 美郷（名経大市邨・愛知）
15 森山 葉月（九州国際大学付属・福岡）
16 野田 奈々瀬（作新学院・栃木）
17 鈴木 歩望（藤南・長野）
18 三上 亜砂美（山口県鴻城・山口）
19 森賀 佳奈（新田・愛媛）
20 平山 佑香（埼玉栄・埼玉）
21 伊藤 朝美（秋田和洋女子・秋田）
22 小高 詩歩（此花学院・大阪）
23 小野寺 晴香（帯広大谷・北北海道）
24 田上 菜美子（鶴鳴学園長崎女子・長崎）
25 土谷 美帆（金沢向陽・石川）
26 柏原 未久（越谷南・埼玉）
27 岩本 柚美（宮崎商業・宮崎）
28 古西 佳那子（高岡西・富山）
29 佐藤 詩織（常総学院・茨城）
30 平井 亜紀（高松商業・香川）
31 髙橋 真理（京都西山・京都）
32 山本 ゆかり（松徳学院・島根）
33 児島 亜紀（奈良市立一条・奈良）
34 三森 夏実（甲府湯田・山梨）
35 佐野 萌子（星陵・静岡）
36 石畠 由美（花北青雲・岩手）
37 青柳 佐紀（八代白百合学園・熊本）
38 本間 美穂（とわの森三愛・南北海道）
39 飯高 香菜（西武台千葉・千葉）
40 井上 彩香（佐賀女子・佐賀）
41 小田 一美（山陽女子・岡山）
42 髙木 美季（富岡・福島）
43 竹内 沙希（勝山・福井）
44 前田 莉沙（県岐阜商・岐阜）
45 山本 有里沙（御坊久・和歌山）
46 今井 瞳（大分西・大分）
47 内藤 遥（伊勢崎清明・群馬）
48 森島 綾香（土佐女子・高知）
49 橋本 由衣（青森山田・青森）
50 松友美佐紀（聖ウルスラ英智・宮城）
51 加藤 静（伊東・静岡）
52 合田 侑希（越谷南・埼玉）
53 堀場 果林（厚木東・神奈川）
54 上村 麻衣（糸満・沖縄）
55 髙橋 沙也加（高岡西・富山）
56 福万 尚子（樟蔭東・大阪）
57 中原 由貴（倉吉東・鳥取）
58 横尾 咲希（西武台千葉・千葉）
59 小野 裕美（新庄南・山形）
60 壽本 実里（宮崎商業・宮崎）
61 水口 愛梨（城東・徳島）
62 福田 菜摘（宇都宮南・栃木）
63 竹内 千晶（勝山・福井）
64 二神 智恵（新田・愛媛）
65 大迫 晴加（大垣西・岐阜）
66 杉尾 智里（滋賀短大附属・滋賀）
67 室園 菜摘（九州国際大学付属・福岡）
68 阿部 嘉織（札幌北斗・南北海道）
69 浦谷 夏未（尚志・福島）
70 大園 千裕（佐賀女子・佐賀）
71 黒沢 奈菜（若葉学園・茨城）
72 渋川 明里（京都西山・京都）
73 土江 奈津子（松徳学院・島根）
74 村岡 尚実（八代白百合学園・熊本）
75 漆崎 真子（伊丹北・兵庫）
76 宮 美紗貴（伊勢崎清明・群馬）
77 二ツ柳 彩耶（文大長野・長野）
78 佐藤 楓（青森山田・青森）
79 豊田 希美（清水ヶ丘・広島）
80 大嶋 ゆかり（高松商業・香川）
81 岩永 舞子（鹿児島女子・鹿児島）
82 宮下 渚紗（御坊久・和歌山）
83 宮 美咲（甲府湯田・山梨）
84 河村 彩香（熊毛北・山口）
85 城口 優里花（名経大市邨・愛知）
86 森 詩織（埼玉栄・埼玉）
87 関川 容子（新潟青陵・新潟）
88 熊谷 安乃（黒沢尻北・岩手）
89 杉本 悠（高知西・高知）
90 小森 愛美（鶴鳴学園長崎女子・長崎）
91 木下 侑梨恵（旭川実業・北北海道）
92 山本 架奈子（関東第一・東京）
93 藤山 千尋（添上・奈良）
94 真弓 恵理子（久居・三重）
95 柳 里奈（別府鶴見丘・大分）
96 吉田 聖良（秋田和洋女子・秋田）
97 伊丹 美佐子（倉敷中央・岡山）
98 三谷 美菜津（金沢向陽・石川）

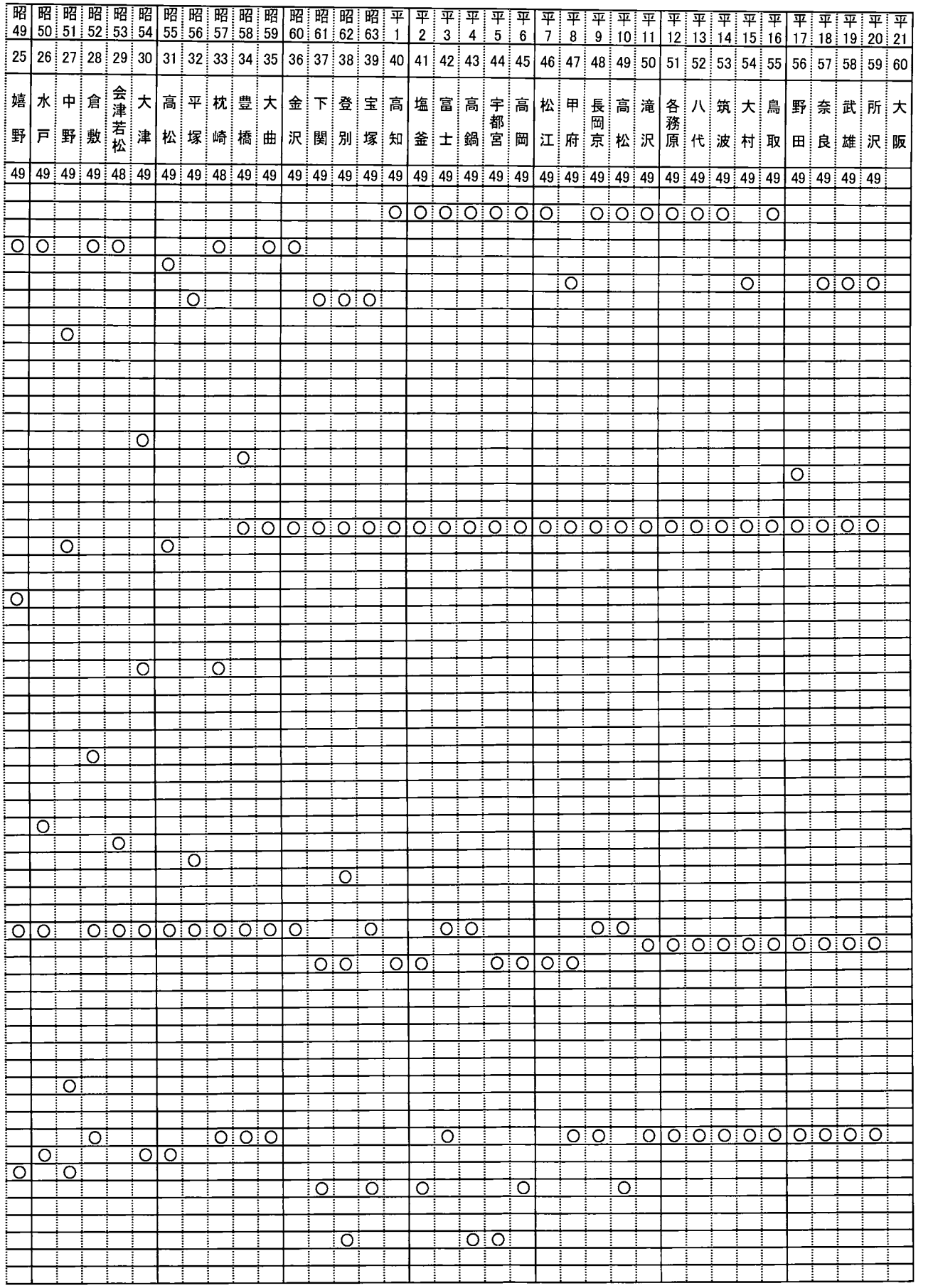
栄光のあと

回数	種別	1位	2位	3位	
第50回 **1999年度（平成11年度）** **岩手県滝沢村** 岩手産業文化センター 滝沢村総合公園体育館 盛岡大学体育館 滝沢村東部体育館 8月1日～8月6日	男子	関東第一 (東京)	八代東 (熊本)	延暦寺学園比叡山 (滋賀)	札幌第一 (北海道)
	女子	九州国際大付 (福岡)	金沢向陽 (石川)	埼玉栄 (埼玉)	熊本信愛女学院 (熊本)
	男複	安村　康介 全　仁徹 (関東第一)	佐藤　翔治 佐々木　翔 (関東第一)	稲垣　翔悟 谷口　斉 (比叡山)	山下　淳 広瀬　雅士 (金沢市立工)
	女複	野村由貴子 脇坂　郁 (精華女子)	田上　千晴 松本　舞子 (熊本信愛女学院)	赤尾　美代 赤尾　亜希 (昭和女子)	謝　婷婷 陳　暁娜 (本庄第一)
	男単	佐藤　翔治 (関東第一)	佐々木　翔 (関東第一)	新開　裕介 (此花学院)	稲垣　翔悟 (比叡山)
	女単	赤尾　美代 (昭和女子)	楊　蕊琳 (青森山田)	松田　友美 (長崎女子)	松尾美穂子 (九州国際大付)
第51回 **2000年度（平成12年度）** **岐阜県各務原市** 各務原市総合体育館 各務原高校体育館 蘇原中学校体育館 東海女子大学体育館 東海女子短期大学体育館 岐阜商業高校体育館 8月1日～8月6日	男子	関東第一 (東京)	埼玉栄 (埼玉)	柏原 (大阪)	延暦寺学園比叡山 (滋賀)
	女子	滋賀女子 (滋賀)	高岡西 (富山)	埼玉栄 (埼玉)	県立岐阜商業 (岐阜)
	男複	佐藤　翔治 佐々木　翔 (関東第一)	劉　志遠 川口　佳介 (高岡工芸)	米　隆夫 平田　典靖 (高岡工芸)	新開　裕介 伊藤　博哲 (此花学院)
	女複	楊　蕊琳 廣瀬栄理子 (青森山田)	下野　鈴佳 小椋久美子 (四天王寺)	高橋　晴香 波多野友美 (富士見丘)	加賀　裕美 西村木綿香 (金沢向陽)
	男単	佐藤　翔治 (関東第一)	佐々木　翔 (関東第一)	川前　直樹 (柏原)	榎本　良永 (比叡山)
	女単	刘　晶 (高岡龍谷)	多谷　郁恵 (滋賀女子)	楊　蕊琳 (青森山田)	廣瀬栄理子 (青森山田)
第52回 **2001年度（平成13年度）** **熊本県八代市** **宮原町・竜北町** 八代市総合体育館 宮原町民体育館 竜北町体育センター 八代高校体育館 八代東高校体育館 八代工業高校体育館 八代白百合学園高校体育館 8月1日～8月6日	男子	関東第一 (東京)	八代東 (熊本)	延暦寺学園比叡山 (滋賀)	埼玉栄 (埼玉)
	女子	青森山田 (青森)	滋賀女子 (滋賀)	県立岐阜商業 (岐阜)	金沢向陽 (石川)
	男複	平田　典靖 劉　志遠 (高岡工芸)	佐伯　浩一 麻生　将豊 (水島工業)	鈕　佳平 長原　克博 (青森山田)	佐藤　孝一 山浦　尚仁 (関東第一)
	女複	金上　路子 佐野　志緒梨 (聖ウルスラ)	楊　蕊琳 廣瀬栄理子 (青森山田)	潮田　玲子 春田　衣麻 (九州国際大付)	服部　麻衣 倉満　一美 (昭和女子)
	男単	池田　雄一 (関東第一)	鈕　佳平 (青森山田)	劉　志遠 (高岡工芸)	佐伯　浩一 (水島工業)
	女単	楊　蕊琳 (青森山田)	刘　晶 (高岡龍谷)	多谷　郁恵 (滋賀女子)	廣瀬栄理子 (青森山田)
第53回 **2002年度（平成14年度）** **茨城県つくば市** **牛久市** つくばカピオ 竹園高校体育館 桜圏民センター体育館 牛久運動公園体育館 牛久栄進高校体育館 東洋大学附属牛久高校体育館 8月1日～8月6日	男子	関東第一 (東京)	延暦寺学園比叡山 (滋賀)	埼玉栄 (埼玉)	八代東 (熊本)
	女子	青森山田 (青森)	県立岐阜商業 (岐阜)	金沢向陽 (石川)	九州国際大学付属 (福岡)
	男複	池田　雄一 新開　慎士 (関東第一)	土田　匡泰 高木　洋平 (関東第一)	井上　知也 新井　克己 (埼玉栄)	竹村　祥吾 堂下　智寛 (北越)
	女複	林　裕佳 脇田　侑 (岐阜商業)	清水　陽子 岡本　望良 (常総学院)	浅原さゆり 黒田　香織 (笠岡商業)	廣瀬栄理子 今別府靖代 (青森山田)
	男単	池田　雄一 (関東第一)	新開　慎士 (関東第一)	山口　公洋 (比叡山)	庄　旭明 (柏原)
	女単	平山　優 (聖ウルスラ)	廣瀬栄理子 (青森山田)	岩田　新菜 (埼玉栄)	松尾　静香 (此花学院)
第54回 **2003年度（平成15年度）** **長崎県長崎市** **大村市** 大村市体育文化センター 大村高校体育館 長崎市民体育館 長崎女子短期大学体育館 長崎南高校体育館 7月28日～8月2日	男子	埼玉栄 (埼玉)	関東第一 (東京)	足羽 (福井)	柏原 (大阪)
	女子	聖ウルスラ学院 (宮城)	青森山田 (青森)	熊本中央 (熊本)	星陵 (静岡)
	男複	黒田　俊明 中尾　祐介 (埼玉栄)	高木　洋平 松本　久雄 (関東第一)	黒瀬　尊敏 玉澤　輝之 (高岡工芸)	多谷　公志 早川　賢一 (比叡山)
	女複	金森　裕子 村松　瑞穂 (星陵)	平山　優 村松　咲希 (聖ウルスラ)	木村　咲絵 木村　綾 (金沢向陽)	伊東　可奈 今井　杏莉 (金沢向陽)
	男単	数野　健太 (延暦寺学園比叡山)	早川　賢一 (延暦寺学園比叡山)	川内　崇士 (青森山田)	庄　旭明 (柏原)
	女単	今別府香里 (青森山田)	平山　優 (聖ウルスラ)	吉村　征美 (熊本中央)	伊東　可奈 (金沢向陽)

回　数	種別	1　位	2　位	3　位	
第55回 **2004年度（平成16年度）** **鳥取県鳥取市** 鳥取産業体育館 鳥取市民体育館 鳥取県民体育館 鳥取東高校体育館 ８月１日～８月６日	男子	関東第一 （東京）	埼玉栄 （埼玉）	延暦寺学園比叡山 （滋賀）	八代東 （熊本）
	女子	青森山田 （青森）	聖ウルスラ学院 （宮城）	高岡西 （富山）	金沢向陽 （石川）
	男複	遠藤　大由 山田　和司 （小松原）	早川　賢一 早崎　修平 （延暦寺学園比叡山）	喜多　勝人 浦窪　文也 （柏原）	藤田　真生 堀川　善生 （関東第一）
	女複	佐々木彩香 水間　可奈 （聖ウルスラ）	松尾　静香 恵良友里亜 （此花学院）	今別府　香里 藤井　瑞希 （青森山田）	岡　ひとみ 西　郁美 （熊本中央）
	男単	藤田　真生 （関東第一）	早崎　修平 （延暦寺学園比叡山）	浦窪　文也 （柏原）	佐伯　祐行 （水島工業）
	女単	今別府香里 （青森山田）	樽野　恵 （金沢向陽）	奥　幸那 （県岐阜商業）	岡　ひとみ （熊本中央）
第56回 **2005年度（平成17年度）** **千葉県野田市** 野田市総合公園体育館 西武台千葉高校体育館 野田第一中学校体育館 関宿総合公園体育館 東京理科大学森戸記念体育館 清水高校体育館 ８月１日～８月６日	男子	埼玉栄 （埼玉）	水島工業 （岡山）	延暦寺学園比叡山 （滋賀）	青森山田 （青森）
	女子	青森山田 （青森）	聖ウルスラ学院英智 （宮城）	金沢向陽 （石川）	埼玉栄 （埼玉）
	男複	三橋　智希 林　純司 （埼玉栄）	斉藤　祐司 斉藤　真弘 （足羽）	安田　敬之 大滝　涼太 （柏原）	石川　直樹 平戸　充 （西武台千葉）
	女複	江淵　愛美 金山　友萌 （高岡西）	富永　翔子 秋山みづほ （越谷南）	松本　千夏 皆川　友依 （西武台千葉）	川西ゆかり 岸本　真美 （香川中央）
	男単	佐伯　祐行 （水島工業）	高島　雅彦 （札幌第一）	松川　直弘 （勝山）	早崎　修平 （比叡山）
	女単	藤井　瑞希 （青森山田）	奥　幸那 （県岐阜商業）	樽野　恵 （金沢向陽）	作山　智美 （上尾）
第57回 **2006年度（平成18年度）** **奈良県奈良市** **大和郡山市** 奈良市中央体育館 奈良大学附属高校体育館 東大寺学園高校体育館 大和郡山市総合公園多目的体育館 奈良大学体育館 奈良市西部生涯スポーツセンター体育館 ８月１日～８月６日	男子	埼玉栄 （埼玉）	八代東 （熊本）	東大阪大学柏原 （大阪）	勝山 （福井）
	女子	青森山田 （青森）	金沢向陽 （石川）	熊本信愛女学院 （熊本）	聖ウルスラ学院英智 （宮城）
	男複	田児　賢一 松丸　一輝 （埼玉栄）	佐々木　啓 上田　拓馬 （埼玉栄）	垰畑　亮太 武下　利一 （関東第一）	西澤　潤 川下　剛士 （比叡山）
	女複	藤井　瑞希 垣岩　令佳 （青森山田）	石川　育実 中原　唯衣 （伊勢崎清明）	樽野　恵 木村　唯菜 （金沢向陽）	伊藤小菜美 村山絵理花 （聖ウルスラ）
	男単	田児　賢一 （埼玉栄）	上田　拓馬 （埼玉栄）	松川　直弘 （勝山）	井谷　和弥 （東大阪大学柏原）
	女単	藤井　瑞希 （青森山田）	樽野　恵 （金沢向陽）	打田しづか （岡崎城西）	奥　幸那 （県立岐阜商業）
第58回 **2007年度（平成19年度）** **佐賀県武雄市** **江北町・小城市・大町町** 佐賀のへそ・ふれあい交流センター「ネイブル」 大町中学校体育館 牛津体育センター 牛津中学校 武雄市白岩体育館 武雄青陵高校体育館 山内中学校体育館 北方中学校体育館 ７月28日～８月２日	男子	埼玉栄 （埼玉）	八代東 （熊本）	関東第一 （東京）	延暦寺学園比叡山 （滋賀）
	女子	青森山田 （青森）	金沢向陽 （石川）	高岡西 （富山）	聖ウルスラ学院英智 （宮城）
	男複	田児　賢一 松丸　一輝 （埼玉栄）	野口　勝利 山崎　裕太 （埼玉栄）	三好　耕二 藤井　亮 （英明）	嘉村　健士 園田　啓悟 （八代東）
	女複	村上　彩 桜井みどり （金沢向陽）	打田しづか 藤田理恵子 （岡崎城西）	西山夕美子 米元　小春 （青森山田）	宮内　唯 加藤　祥子 （別府鶴見丘）
	男単	田児　賢一 （埼玉栄）	和田　周 （埼玉栄）	嘉村　健士 （八代東）	園田　啓悟 （八代東）
	女単	野尻野匡世 （尚志）	打田しづか （岡崎城西）	三木佑里子 （越谷南）	土井　杏奈 （滋賀女子）
第59回 **2008年度（平成20年度）** **埼玉県所沢市** 所沢市民体育館 所沢市民武道館 所沢高校体育館 所沢北高校体育館 所沢西高校体育館 ７月28日～８月２日	男子	埼玉栄 （埼玉）	八代東 （熊本）	延暦寺学園比叡山 （滋賀）	関東第一 （東京）
	女子	聖ウルスラ学院英智 （宮城）	埼玉栄 （埼玉）	八代白百合学園 （熊本）	越谷南 （埼玉）
	男複	和田　周 佐藤　黎 （埼玉栄）	星野　翔平 小林　晃 （埼玉栄）	滝内　亮 富山　拓哉 （埼玉栄）	北林　悠 北林　峻 （埼玉栄）
	女複	高橋　礼華 松友美佐紀 （聖ウルスラ）	西　友理 久後あすみ （四天王寺）	高橋沙也加 古西佳那子 （高岡西）	橋本　由衣 米元　小春 （青森山田）
	男単	和田　周 （埼玉栄）	佐藤　黎 （埼玉栄）	末松　純 （福岡大大濠）	平池　淳希 （札幌第一）
	女単	松友美佐紀 （聖ウルスラ）	佐藤　冴香 （常盤木学園）	三谷美菜津 （金沢向陽）	橋本　由衣 （青森山田）

全国高等学校総合体育大会 学校対抗出場校一覧(男子)

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄	四日市
	出場数	42	43	63	65	70	38	40	41	40	44	43	42	42	44	45	47	46	46	47	48	47	47	47	49
北北海道																									
旭川工業	14																								
帯広三条	9	○	○			○	○			○	○	○	○		○										
帯広柏葉	8	○																							
帯広農業	6																	○	○		○		○		○
旭川実業	5																								
滝川工業	4																								
旭川北	2													○			○								
釧路商業・定	2																							○	
釧路湖陵	1					○																			
釧路江南	1								○																
旭川商業	1															○									
留萌	1																			○					
羽幌	1																					○			
滝川西	1																								
滝川	1																								
帯広大谷	1																								
南北海道																									
札幌第一	26																								
北海	13	○	○	○	○			○	○	○		○											○	○	○
札幌工業(札幌伏見)	5		○	○		○							○		○										
札幌東	3	○														○		○							
函館東	3										○			○											
江別	3																		○	○		○			
札幌南	2		○					○																	
札幌商業	2	○															○								
札幌清田	2																								
小樽商業(小樽緑陵)	2		○	○																					
小樽湖陵	2		○		○																				
函館工業	2	○	○																						
小樽工業(小樽千秋)	1		○																						
札幌創成	1																								
札幌西	1																				○				
札幌北	1	○																							
夕張緑ヶ丘(夕張北)	1		○																						
函館中部	1																								
栗山	1																								
森	1																								
登別南	1																								
青森																									
東奥義塾	26		○	○	○												○	○		○		○	○	○	○
青森山田	10																								
弘前工業	8																								
弘前実業(弘前商業)	6			○			○			○	○			○				○							
黒石	5				○	○		○	○										○						
青森商業	4											○	○		○	○									
青森	3	○	○										○												
弘前	3	○	○			○																			
浪岡	1																				○				
弘前南	1																								
岩手																									
前沢	18								○																
千厩	6	○											○												○
専修大学北上	6															○	○			○		○			
花巻農業	5																								
盛岡第一	4					○					○	○		○											
岩谷堂	4						○			○					○			○							
盛岡市立	3																								
盛岡第二	3				○	○		○																	
盛岡第四	3																				○		○	○	


昭49 25 嬉野 49
昭50 26 水戸 49
昭51 27 中野 49
昭52 28 倉敷 49
昭53 29 会津若松 48
昭54 30 大津 49
昭55 31 高松 49
昭56 32 平塚 49
昭57 33 枕崎 48
昭58 34 豊橋 49
昭59 35 大曲 49
昭60 36 金沢 49
昭61 37 下関 49
昭62 38 登別 49
昭63 39 宝塚 49
平1 40 高知 49
平2 41 塩釜 49
平3 42 富士 49
平4 43 高鍋 49
平5 44 宇都宮 49
平6 45 高岡 49
平7 46 松江 49
平8 47 甲府 49
平9 48 長岡京 49
平10 49 高松 49
平11 50 滝沢 49
平12 51 各務原 49
平13 52 八代 49
平14 53 筑波 49
平15 54 大村 49
平16 55 鳥取 49
平17 56 野田 49
平18 57 奈良 49
平19 58 武雄 49
平20 59 所沢 49
平21 60 大阪

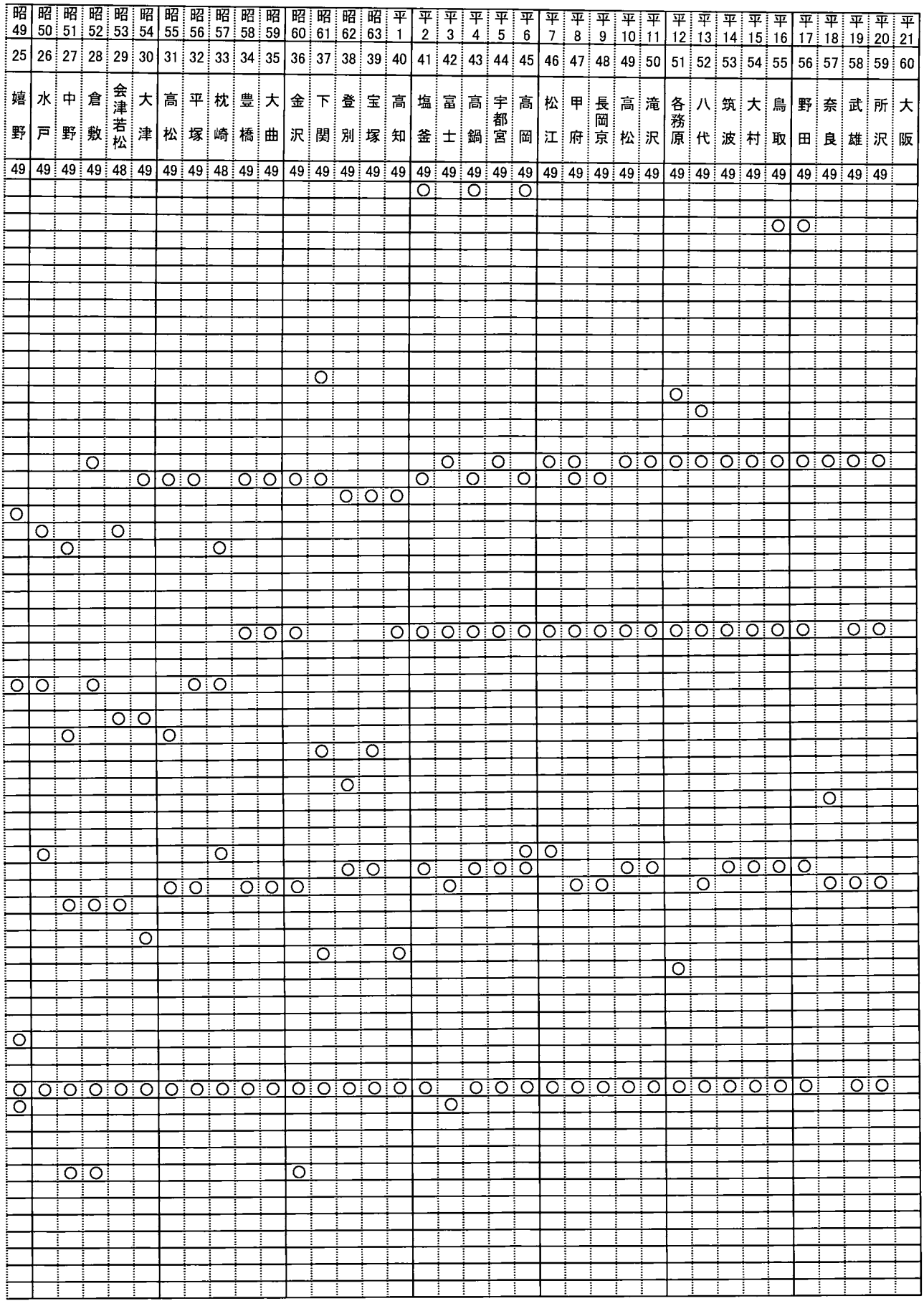
都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄	四日市
	出場数	42	43	63	65	70	38	40	41	40	44	43	42	42	44	45	47	46	46	47	48	47	47	47	49
花北商業	2																								
盛岡大学附属	2																								
一関(一ノ関)	1	○																							
盛岡	1	○																							
遠野	1				○																				
東和	1																		○						
岩谷堂農業	1																								
水沢農業	1																								
宮城																									
宮城県工業	33								○		○	○		○	○		○	○	○	○	○	○			
仙台商業	8																		○						
白石	7		○	○	○	○	○	○					○												
仙台第二	4			○	○	○																			
仙台育英	3							○		○															○
大河原商業	2																								
仙台	1															○									
東北工大(東北工大電子工業)	1																						○		
佐沼	1																							○	
塩釜	1																								
仙台第一	1																								
角田	1																								
米谷工業	1																								
秋田																									
横手工業	22																								
秋田経法大附属 (秋田短大付属・秋田経大付)	14						○			○	○			○		○	○	○			○	○	○	○	
秋田中央(秋田市立)	11	○			○	○							○						○	○					○
秋田	6				○	○		○	○			○													
秋田工業	6														○										
秋田中央・定	1		○																						
大曲工業	1																								
山形																									
日大山形	33														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山形市立商業	11				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○										
鶴岡工業	8																								
山形南	7		○		○	○				○	○	○													
新庄北(新庄)	7		○	○	○	○							○												
山形東	2		○		○																				
鶴岡南(鶴岡)	2	○																							
山形工業	1																							○	
福島																									
会津工業	29			○	○	○					○						○	○			○	○		○	○
若松商業	15			○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○						
帝京安積	10																								
福島商業	4	○																		○			○		
富岡	2																								
会津	1												○												
郡山商業	1																								
白河	1																								
茨城																									
常総学院	23																								
石岡第一	13																								○
土浦第一	2															○	○								
高萩	1										○														
谷田部	1																				○				
霞ケ浦	1																							○	
江戸崎西	1																								
藤代	1																								
栃木																									
作新学院	19									○				○					○				○		○

昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
49	49	49	49	48	49	49	49	48	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	
											○				○																					
																					○				○										
				○																															
							○																												
								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○				○	
	○		○				○																				○				○	○	○		
○																																			
				○	○																														
		○																																	
						○										○																				
																									○										
					○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○		○	○	○	○			○	○		○	○	○	○				
				○								○						○																	
		○	○							○												○	○												
○	○																										○					○	○	○	
																											○								
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○		○	○	○			○						○	○	○	
																				○				○	○			○		○	○	○	○		
							○				○																							○	
													○																							
																					○		○	○											
	○				○																	○			○	○	○	○	○	○	○	○			
○																																	○	○	
					○															○															
												○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																								
	○																																		
																												○							
								○	○	○	○	○													○	○	○	○	○	○			○	○		

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄	四日市
	出場数	42	43	63	65	70	38	40	41	40	44	43	42	42	44	45	47	46	46	47	48	47	47	47	49
宇都宮工業	13					○		○	○		○				○	○	○	○							
宇都宮南	10																								
今市	5																								
真岡工業	3																				○	○		○	
宇都宮商業	2				○	○																			
石橋	2												○							○					
真岡農業	2																								
宇都宮商業・定	1						○																		
宇都宮工業・定	1											○													
群馬																									
桐生市立商業	21										○	○				○	○	○		○	○	○	○	○	○
前橋東	15																								
桐生	13	○	○	○	○	○			○				○	○											
前橋商業	11	○	○	○	○	○	○	○		○					○				○						
太田市立商業	2																								
前橋	1		○																						
東京農業大学第二	1																				○				
新島学園	1																								
伊勢崎清明	1																								
埼玉																									
上尾	12																								
埼玉栄	10																								
小松原	8											○	○	○			○		○						
越谷南	6																								
春日部	5										○				○			○						○	
浦和・定	3							○	○	○															
浦和西	3															○					○	○			
大宮西	3																						○		
越ヶ谷	2																								
川口工業・定	1																			○					
鴻巣	1																								○
千葉																									
木更津(木更津第一)	19	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○		
千葉敬愛	17																								
西武台千葉	7																								
千葉南	4																								
千葉商業	3			○		○								○											
成田農業	2																					○		○	
京葉	2																								○
印旛	2																								
中央学院	2																								
我孫子	1																								
君津商業	1																								
若松	1																								
東京																									
関東第一	20																								
聖学院	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		○			
日本大学鶴ヶ丘	18																				○		○	○	○
麻布	8	○	○	○	○	○		○				○			○										
都立港	1	○																							
都立九段	1	○																							
都立第四商業	1										○														
淑徳巣鴨(巣鴨女子)	1																								
神奈川																									
川崎総合科学(川崎市立工業)	13																								
関東学院六浦	12		○	○	○		○	○		○					○	○	○		○	○	○				
横浜緑ヶ丘	7	○	○	○		○					○	○	○												
日本大学	7																								
関東学院	6	○	○	○	○	○			○																
逗子開成	6																							○	
横浜立野	4																						○		

昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
49	49	49	49	48	49	49	49	48	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄	四日市
	出場数	42	43	63	65	70	38	40	41	40	44	43	42	42	44	45	47	46	46	47	48	47	47	47	49
法政大学第二	3																								
鶴見工業	2	○	○																						
藤沢翔陵	2																								
翠嵐	1	○																							
関東学院商工	1	○																							
横須賀	1	○																							
希望ヶ丘	1	○																							
慶應義塾	1													○											
横浜商業	1																	○							
平塚商業	1																					○			
県立商工	1																								○
横浜商科大学	1																								
元石川	1																								
横浜	1																								
山梨																									
市立甲府商業	33		○				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○
日川	13																					○			
甲府工業	10	○	○	○	○	○		○											○						
巨摩	3			○	○																				
機山工業	2																								
東海大甲府	2																								
甲府第一	1		○																						
甲府西(甲府第二)	1					○																			
新潟																									
北越(北越商業)	25					○										○	○								
新潟	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○											○
新潟商業	10											○	○	○	○	○		○	○		○	○		○	
三条商業(三条実業)	7									○										○					
新潟市立工業	4	○	○	○	○																				
吉田商業	3																						○		
中条工業	2																								
燕	2																								
村上	1		○																						
新潟東	1																								
長岡工業	1																								
富山																									
富山商業	15										○		○	○	○	○	○	○			○	○	○		○
高岡工芸	14	○								○															
高岡第一	12																								
高岡商業	10																○	○	○	○	○		○	○	
高岡	5					○	○	○	○			○													
福野	2	○																							
不二越工業	2																								
高岡工業	2					○																			
新湊	1			○																					
富山中部	1				○																				
富山工業	1													○											
滑川	1																								
石川																									
金沢市立工業	41																	○	○	○	○	○	○	○	○
金沢二水	9	○	○	○	○	○	○	○																	
金沢泉ヶ丘	6	○	○	○	○	○	○																		
津幡	5								○	○	○		○				○								
金沢	4													○	○	○			○						
七尾工業	3																								
金沢桜ヶ丘	2	○	○																						
大聖寺	2																			○		○			
金沢革台	1	○																							
羽咋	1				○																				
七尾	1					○																			
小松実業	1					○																			
小松	1											○													


昭49 昭50 昭51 昭52 昭53 昭54 昭55 昭56 昭57 昭58 昭59 昭60 昭61 昭62 昭63 平1 平2 平3 平4 平5 平6 平7 平8 平9 平10 平11 平12 平13 平14 平15 平16 平17 平18 平19 平20 平21
25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60
嬉野 水戸 中野 倉敷 会津若松 大津 高松 平塚 枕崎 豊橋 大曲 金沢 下関 登別 宝塚 高知 塩釜 富士 高鍋 宇都宮 高岡 松江 甲府 長岡京 高松 滝沢 各務原 八代 筑波 大村 鳥取 野田 奈良 武雄 所沢 大阪
49 49 49 49 48 49 49 49 48 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49

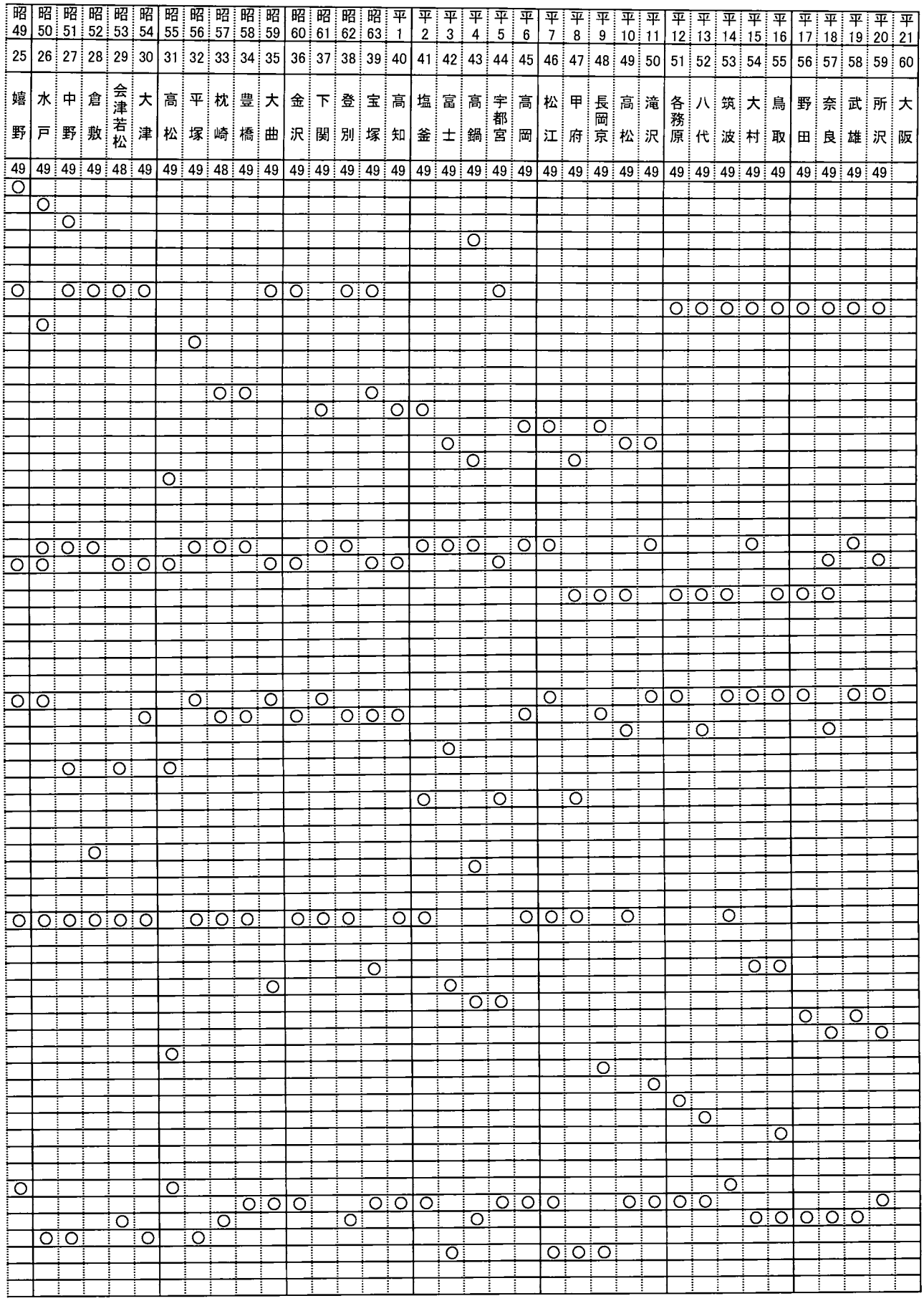
都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄	四日市
	出場数	42	43	63	65	70	38	40	41	40	44	43	42	42	44	45	47	46	46	47	48	47	47	47	49
石川県立工業	1																								
福井																									
勝山	20																						○	○	○
足羽	14																								
武生	6				○	○		○		○	○		○												
大野	6						○		○			○		○		○		○							
敦賀	4														○		○			○	○				
勝山精華	3				○	○													○						
福井商業	2																								
三国	1			○																					
鯖江	1			○																					
福井	1																					○			
藤島	1																								
北陸	1																								
長野																									
松本深志	8	○		○	○	○	○	○		○															
中野実業	8																								
伊那北	7											○	○			○		○		○	○	○			
長野商業	7																								
長野	5								○		○				○										
大町北	4																								
諏訪清陵	3																○		○					○	
須坂	3																						○		○
上田	2																								
更級農業	2																								
中野	2																								
小諸商業	2																								
岡谷南	1					○																			
須坂西	1													○											
長野東	1																								
長野中央	1																								
木曽	1																								
松代	1																								
岡谷工業	1																								
岐阜																									
岐阜商業	27							○	○	○	○														
岐阜工業	14		○	○	○	○						○				○		○							
岐阜東	11													○	○		○		○	○	○	○	○	○	○
本巣	4				○	○	○						○												
岐阜	2		○	○																					
大垣工業	2																								
加納	2																								
鶯谷	1																								
静岡																									
富士	13			○	○	○		○	○		○	○	○	○					○	○					
吉原工業	8															○	○	○			○	○		○	○
沼津学園	8																								
沼津東	7			○	○	○				○															
星陵	7																								
伊東	6																								
伊東商業	5																								
富士宮北	3																						○		
沼津商業	2						○								○										
沼津工業	2																								
愛知																									
岡崎城西	17																								
愛知工大名電(名古屋電気工業)	14																○	○	○	○	○	○	○	○	
東海	9																					○			○
松蔭	8	○		○	○	○							○	○	○	○									
瑞陵	8			○	○	○	○		○	○	○	○													
大府	2																								

昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
49	49	49	49	48	49	49	49	48	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄	四日市
	出場数	42	43	63	65	70	38	40	41	40	44	43	42	42	44	45	47	46	46	47	48	47	47	47	49
名古屋西	1							○																	
時習館	1																								
天白	1																								
向陽	1																								
名経大市邨	1																								
三重																									
伊勢工業	25														○	○			○	○	○	○	○	○	○
宇治山田	9			○			○	○	○					○			○								
暁	7																								
久居	6																								
宇治山田商業	3										○	○	○												
四日市	2			○	○																				
河原田	2				○	○																			
四日市工業	2																	○							○
鳥羽	2																								
宇治山田商工	1					○																			
松坂工業	1									○															
相可	1																								
滋賀																									
比叡山	34																								
長浜商工	6														○	○	○	○		○			○		
彦根西	5							○	○		○	○	○												
長浜西	3				○	○				○															
彦根工業	3													○					○			○			
滋賀短大付属工業	2					○	○																		
草津	2																							○	
彦根	1			○																					
長浜中	1			○																					
能登川	1																				○				
石山	1																								○
近江兄弟社	1																								
京都																									
西乙訓	15																								
洛星	9																				○	○			
鴨沂	7							○		○		○	○	○	○					○					
平安	5		○	○	○	○	○																		
東山	5																							○	
京都両洋	5																								
紫野	3				○				○										○						
洛北	3			○		○					○														
洛水	2																								
桂	2																○								
伏見工業	1															○									
朱雀	1															○									
東舞鶴	1																	○							
京都商業	1																						○		
嵯峨野	1																								○
同志社	1																								
洛西	1																								
大阪																									
柏原	23																								
茨木(三島野)	15			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○		○		
大阪学芸(成器)	4																								
生野	2				○	○																			
高津	2																○	○							
茨木工業	2																					○			○
交野	2																								
此花学院	2																								
西野田工業	1			○																					
近畿大付属	1															○									
佐野工業	1																		○						
市岡	1																							○	

昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
49	49	49	49	48	49	49	49	48	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	
		○																																	
																									○										
																										○							○		
		○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○					○										
○					○										○																					
																					○	○	○	○		○						○	○			
																											○	○	○	○	○	○		○		
											○							○																		
	○																																		
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
					○																														
																				○																
														○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○					
			○		○	○	○	○		○	○																								
○	○	○		○																			○				○	○				○		○	
																					○														
																																	○		
									○																										
												○																								
					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
																				○	○	○	○												
			○	○													○			○															

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄	四日市
	出場数	42	43	63	65	70	38	40	41	40	44	43	42	42	44	45	47	46	46	47	48	47	47	47	49
布施工業	1																								
大和川	1																								
枚方	1																								
大阪桐蔭	1																								
兵庫																									
三田学園	10																								
神戸村野工業	9																								
神戸商業	8								○	○	○	○	○		○	○									
甲南	7																	○	○	○		○		○	○
星陵	6			○	○	○	○	○															○		
神戸	6				○	○	○							○			○				○				
市立尼崎	3																								
加古川西	3																								
東播磨	3																								
加古川東	3																								
御影工業	2																								
北須磨	1																								
加古川北	0																								
奈良																									
奈良一条	19							○											○					○	
奈良大学附属(正強)	17																○					○	○	○	○
奈良商工	12			○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○		○							
添上	11																				○				○
奈良	5	○	○	○	○								○												
奈良女子大学附属	1					○																			
天理	1																			○					
和歌山																									
新宮	25							○	○	○						○	○	○	○	○	○		○	○	
新宮商業	10																					○			
那賀	7		○		○						○	○													
向陽	4			○		○							○												
御坊商工	4																								○
和歌山工業	3				○	○								○											
星林	3																								
光風工業	1			○																					
大成	1														○										
耐久	1																								
近畿大学附属和歌山	1																								
鳥取																									
境港工業	24																				○	○	○	○	○
倉吉東	8						○	○	○	○	○			○	○	○									
鳥取西	5											○	○				○	○	○						
倉吉工業	4																			○					
境	2																								
由良育英	2																								
倉吉総合産業	2																								
鳥取工業	2																								
倉吉西	1																								
米子東	1																								
米子西	1																								
米子商業	1																								
米子松蔭	1																								
米子北	1																								
島根																									
松江商業	20				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○	
大東	14																								
松江北	13																○				○	○			○
出雲農林	4																								
松江西	4																								
松江	3				○	○			○																
松江産	1			○																					


昭49 昭50 昭51 昭52 昭53 昭54 昭55 昭56 昭57 昭58 昭59 昭60 昭61 昭62 昭63 平1 平2 平3 平4 平5 平6 平7 平8 平9 平10 平11 平12 平13 平14 平15 平16 平17 平18 平19 平20 平21
25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60
嬉野 水戸 中野 倉敷 会津若松 大津 高松 平塚 枕崎 豊橋 大曲 金沢 下関 登別 宝塚 高知 塩釜 富士 高鍋 宇都宮 高岡 松江 甲府 長岡京 高松 滝沢 各務原 八代 筑波 大村 鳥取 野田 奈良 武雄 所沢 大阪
49 49 49 49 48 49 49 49 48 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄	四日市
	出場数	42	43	63	65	70	38	40	41	40	44	43	42	42	44	45	47	46	46	47	48	47	47	47	49
出雲	1																								
出雲商業	1																								
岡山																									
倉敷工業(倉敷老松)	19		○	○	○	○														○		○			
水島工業	19																						○		
西大寺	12			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
倉敷青陵	4		○		○																			○	○
備南	4															○	○	○	○						
玉野光南	2																								
天城	1																				○				
東岡山工業	1																								
瀬戸南	1																								
広島																									
広島国泰寺	8																								
福山葦陽	7								○											○					○
安佐北	6																								
北川工業	4																○	○				○	○		
広島電機大学附属	4																								
福山電波工業	3																		○	○	○				
福山	3																								
広島大学附属福山(広島大学附属)	3			○			○				○														
広島城北	3																								
府中	2																								
安古市	2																								
近畿大学附属福山	1																							○	
福山南	1	○																							
呉港	1			○																					
安芸	1																								
祇園北	1																								
広島桜が丘	1																								
山口																									
柳井工業(柳井商工)	27							○			○				○		○			○					
山口	12			○			○		○	○		○	○	○		○									
下関中央工業	8																								○
下関商業	5																				○	○	○	○	
野田学園	1																								
西京	1																								
徳島																									
日和佐	17								○						○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
城東	10																								
徳島商業	10																								
徳島市立	5																								
小松島西	1																			○					
阿南工業	1																								
小松島	1																								
富岡西	1																								
城南	1																								
香川																									
高松商業	40			○		○			○	○	○			○	○		○	○	○	○			○	○	○
高松	5			○	○	○						○	○												
高松西	4																								
坂出	3			○			○	○																	
高松第一	3																					○			
英明	3																								
高松南(香川)	2															○									
坂出工業	2																						○		
丸亀商業(丸亀第二)	1			○																					
高松・定	1				○																				
善通寺第一	1																				○				

昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
49	49	49	49	48	49	49	49	48	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄	四日市
	出場数	42	43	63	65	70	38	40	41	40	44	43	42	42	44	45	47	46	46	47	48	47	47	47	49
愛媛																									
西条農業	14																								
松山商業	10			○	○		○		○	○	○									○	○		○		
新田	10																								
今治北	8				○	○		○				○			○	○									
松山南	8			○		○								○				○						○	
松山東	6					○											○		○			○			○
新居浜東	3																								
西条	1																								
松山	1												○												
高知																									
高知商業	19			○	○	○			○	○	○	○	○	○	○		○					○			
土佐	18																			○				○	○
須崎	6			○	○		○	○								○		○							
高知学芸	6																				○		○		
高知西	6																								
高知追手前	2																								
高知	1		○																						
高知小津	1																		○						
高知東工業	1																								
高知東	1																								
福岡																									
明善	20			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○		○
九州国際大学付属(八幡大学付属)	14																								
福岡大学付属大濠	7																								
明善・定	4											○							○					○	
山門	4																								
城南	2																								
自由ヶ丘	2																								
大牟田北	1																	○							
北九州	1																								
田川東	1																								
大川工業	1																								
春日	1																								
佐賀																									
唐津工業	10																								○
唐津南	7																								
塩田工業	6																								
佐賀工業	6																								
白石	4																								
鳥野商業	3																								
佐賀北	1																								
龍谷	1																								
長崎																									
瓊浦	29															○				○	○	○		○	○
西陵	8																								
長崎東	7											○		○	○		○	○	○				○		
長崎日大	1																								
佐世保南	1																								
大村	1																								
長崎北	1																								
佐世保北	1																								
大分																									
日田林工	13																○	○	○	○	○	○	○		
別府鶴見丘	9																								
竹田商業	4																								
三重農業久住分校	3																								
日田三隅	2																								
情報科学	2																								
別府青山	1																								
白杵商業	1																								

昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
49	49	49	49	48	49	49	49	48	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47	昭48
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄	四日市
	出場数	42	43	63	65	70	38	40	41	40	44	43	42	42	44	45	47	46	46	47	48	47	47	47	49
大分西	1																								
熊本																									
九州学院	15																					○	○	○	
八代東	13																								
熊本	11										○	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○
熊本学園大学付属 (熊本商科大学附属)	11																○			○					
芦北	2																								
宮崎																									
宮崎工業	18																								
妻	8																								
日向工業	3																								○
富島	2																								
高千穂	2																								
日向	2																								
日章学園	2																								
鹿児島																									
鹿児島商業	28																				○				○
鹿児島	16											○	○		○	○		○	○	○		○	○	○	
川内	3										○														
串木野	1																○								
川内商工	1																								
鹿児島中央	1																								
沖縄																									
那覇商業	9																	○	○	○	○	○	○	○	○
糸満	8																								
豊見城	4																								
南風原	4																								
那覇	3																								
豊見城南	3																								
沖縄水産	3																								
与勝	2																								
石川	2																								
読谷	2																								
那覇工業	1																								
南部商業	1																								
首里	1																								

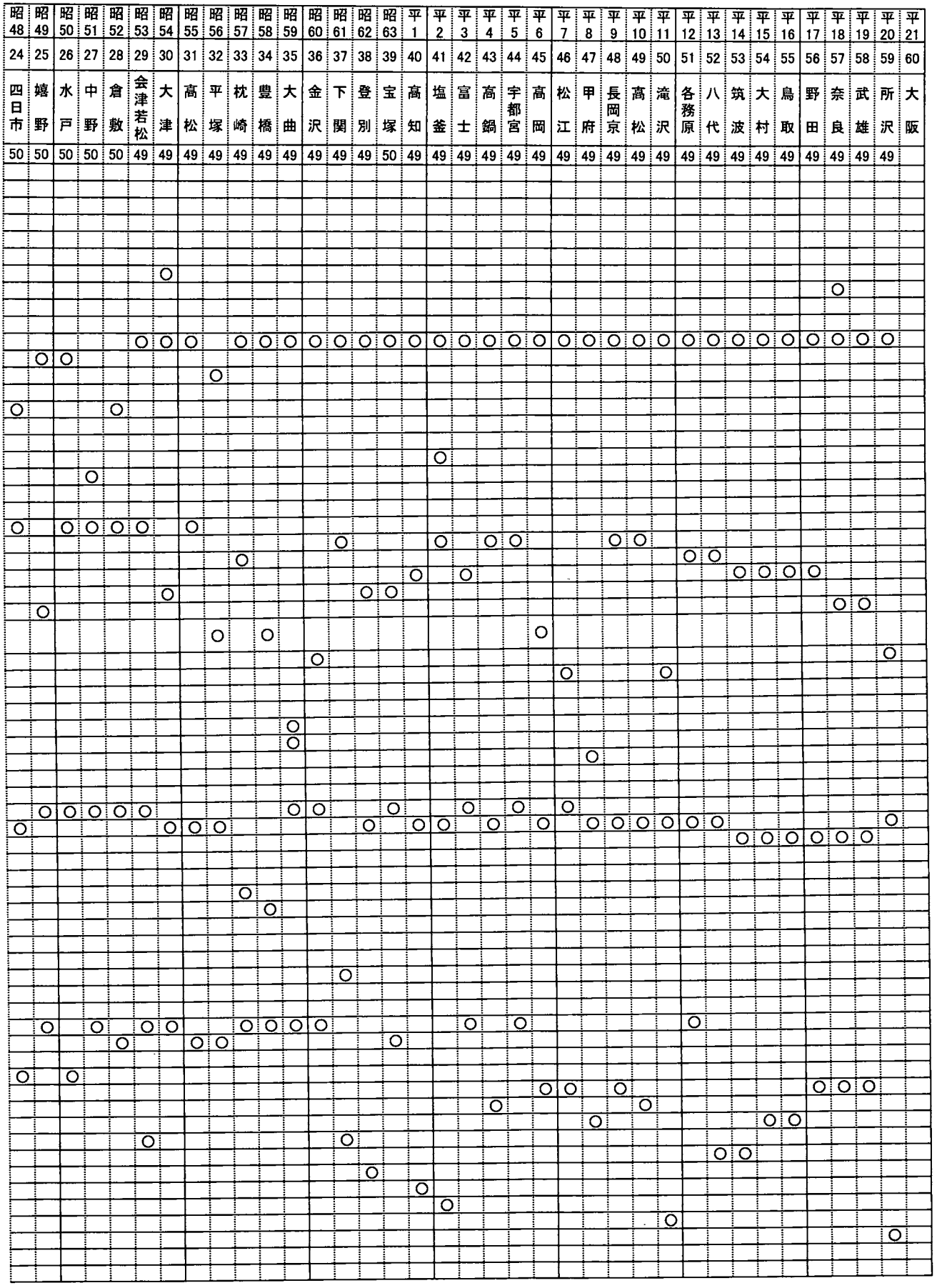
昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
49	49	49	49	48	49	49	49	48	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	
																															○				
○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○															○								
																						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
								○			○		○	○	○	○			○	○	○															
																	○	○																		
			○	○	○	○	○	○	○		○		○				○	○					○			○	○		○	○	○	○			
										○		○			○					○	○	○			○				○						
○		○																			○														
	○													○				○																	
																○		○																		
																						○			○										
																																	○	○	
○				○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○
	○						○								○												○		○			○			
		○						○																												
			○						○																											
○																																			
				○				○			○				○	○										○						○	○			
						○						○	○	○					○			○	○				○								
	○	○					○													○					○				○						
																									○								○	○	
			○		○				○								○											○	○						
										○																									
											○							○																	
																					○														

全国高等学校総合体育大会 学校対抗出場校一覧(女子)

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄
	出場数	30	38	61	66	71	39	40	40	40	41	43	42	43	45	46	45	47	48	48	48	47	49	49
北北海道																								
旭川実業	16										○	○	○											○
帯広大谷	8								○	○				○	○		○							
芽室	5																							
砂川南	5																							
旭川商業	4																							
帯広三条	3	○	○		○																			
帯広柏葉	2			○																				
釧路江南	2		○	○																				
名寄	2															○		○						
新得	2																				○		○	
滝川西	2																							
釧路商業	1																							
釧路商業・定	1																							
釧路星園	1																							
旭川西	1																		○					
旭川大学(北日本学院)	1																			○				
留萌	1																					○		
旭川北都商業	1																							
南北海道																								
札幌静修	28										○		○								○	○		○
札幌北斗	8									○		○		○	○	○	○	○					○	
函館東	5		○				○	○	○										○					
札幌東	4	○	○	○		○																		
札幌南	3		○	○				○																
啓北商業	3																							
とわの森三愛	3																							
室蘭栄	2		○			○																		
函館白百合	2		○		○																			
江別	2																			○				
北星学園女子	2																							
登別南	2																							
長沼	1																							
札幌聖園	1		○																					
札幌東商業	1																							
札幌開成	1																							
小樽桜陽	1		○																					
小樽工業(小樽千秋)	1				○																			
具知安	1		○																					
青森																								
千葉学園	20																							○
弘前学院聖愛	11					○												○	○	○	○	○		
青森山田	9																							
黒石	6	○	○	○	○		○			○														
青森中央	6										○	○	○	○	○									
柴田女子	4	○		○	○	○																		
浪岡	3												○			○							○	
青森商業	2							○									○							
八戸東	2								○									○						
東奥義塾	1		○																					
木造	1																							
白菊学園	1																							
岩手																								
前沢	16										○													
盛岡市立	11		○	○				○				○		○					○					
盛岡第二	5		○		○	○							○		○									
花巻農業	5																							
千厩	4															○				○	○			○
遠野	3																							
黒沢尻南	2																	○						
岩谷堂	2						○			○														
花北商業	2																							
千厩農業	2																							
黒沢尻北	3																							

昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
四日市	嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
50	50	50	50	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	
																		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	
○	○											○					○																			
				○			○	○	○	○			○	○	○										○											
											○																									
					○	○																														
		○																																		
			○													○																				
				○		○		○		○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		○			○		○																													
																																	○	○	○	
○																																				
									○			○																									
														○		○																					
			○																																	
	○																																			
											○																									
			○	○	○	○	○			○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○										
								○	○		○					○							○													
																											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○																																			
○																																				
		○																																		
												○				○	○		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	
								○		○					○			○								○										
	○												○	○										○												
					○		○		○																												
											○																										
		○																		○																
○			○	○																											○				○	

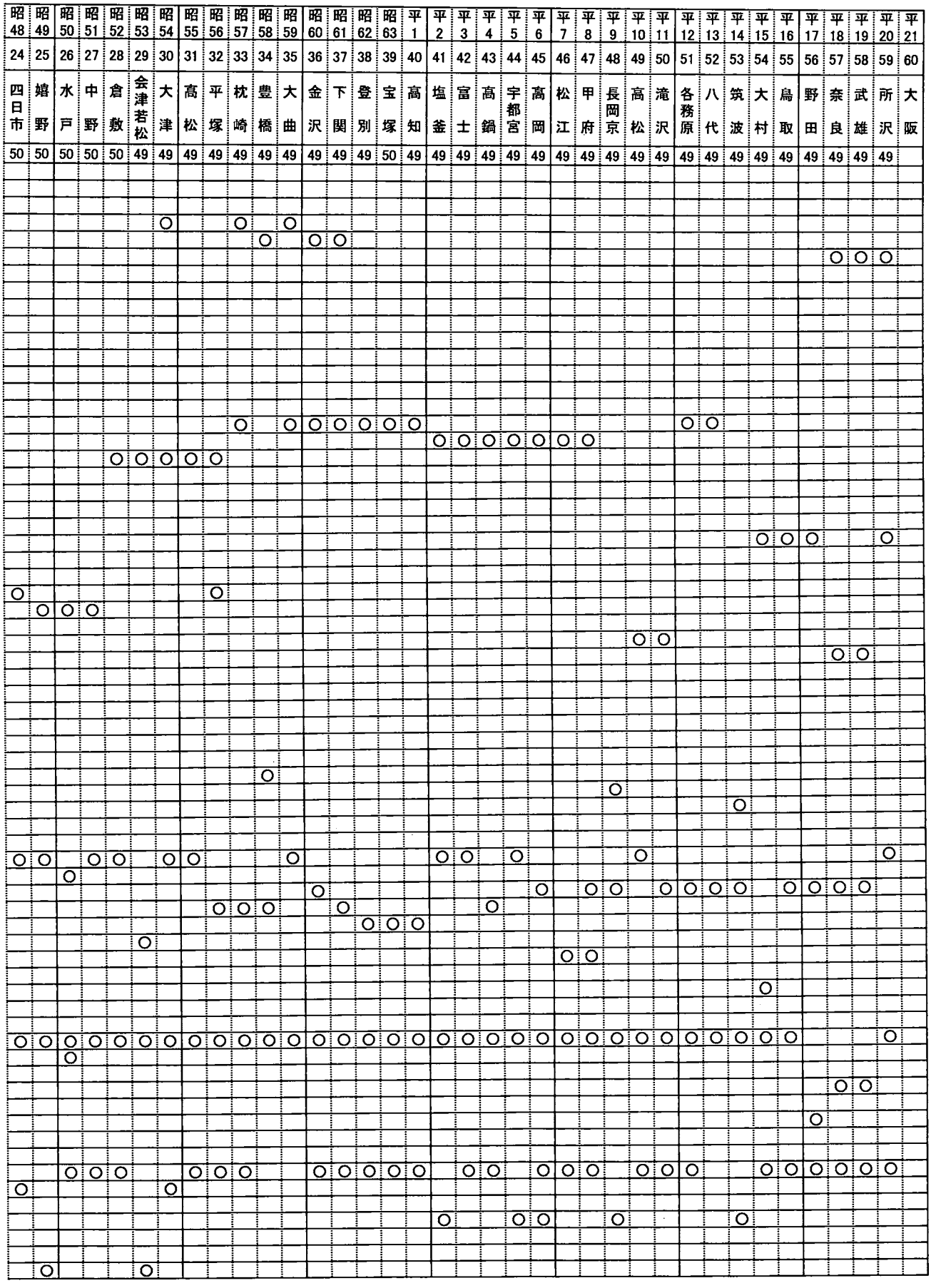
都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄
	出場数	30	38	61	66	71	39	40	40	40	41	43	42	43	45	46	45	47	48	48	48	47	49	49
盛岡白梅	1	○																						
盛岡	1				○																			
釜石	1								○															
盛岡白百合学園	1																○							
釜石南	1																					○		
盛岡第四	1																						○	
水沢商業	1																							
花北青雲	1																							
宮城																								
聖ウルスラ学院(聖ウルスラ学院英智)	30																							
尚絅女学院	17		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○		○			○	○	○		
宮城第二女子	4										○							○	○					
常盤木学園	4		○			○		○						○										
塩釜女子	4															○							○	
古川女子	3			○	○	○																		
聖和学園(聖和学園吉田)	1																							○
角田女子	1																							
宮城第三女子	1																							
秋田																								
国学館(敬愛学園)	25			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○
能代西(能代農業)	6																							
羽後	6																		○		○		○	
横手城南	6																							
能代北	4					○																		
秋田和洋女子	4													○										
秋田経法大附属 (秋田短大付属・秋田経大付)	3																							
秋田北	2																							
新屋	2																							
秋田中央(秋田市立)	1		○																					
秋田南	1																○							
米内沢	1																							
大館桂	1																							
大曲工業	1																							
山形																								
新庄南	27					○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山形城北女子	19				○									○	○									
山形市立商業	7									○														
新庄北(新庄)	3		○	○	○																			
鶴岡南(鶴岡)	3	○	○		○																			
山形北	2				○																			
真室川	2																							○
鶴岡北	1					○																		
山形中央	1								○															
山形南	1		○																					
鶴岡家政	1																							
福島																								
若松女子	21				○	○			○	○	○	○		○	○			○		○				
磐城女子	7					○										○	○							
安積女子	6	○	○	○	○		○						○											
平商業	6																		○		○	○	○	
尚志	6																							
会津女子	5							○			○													○
帝京安積	3																							
郡山商業	2																							
清陵情報	2																							
郡山女子	1																							
川俣	1																							
会津若松ザベリオ学園	1																							
郡山東	1																							
富岡	1																							


昭48 昭49 昭50 昭51 昭52 昭53 昭54 昭55 昭56 昭57 昭58 昭59 昭60 昭61 昭62 昭63 平1 平2 平3 平4 平5 平6 平7 平8 平9 平10 平11 平12 平13 平14 平15 平16 平17 平18 平19 平20 平21
24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60
四日市 嬉野 水戸 中野 倉敷 会津若松 大津 高松 平塚 枕崎 豊橋 大曲 金沢 下関 登別 宝塚 高知 塩釜 富士 高鍋 宇都宮 高岡 松江 甲府 長岡京 高松 滝沢 各務原 八代 筑波 大村 鳥取 野田 奈良 武雄 所沢 大阪
50 50 50 50 50 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 50 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄
	出場数	30	38	61	66	71	39	40	40	40	41	43	42	43	45	46	45	47	48	48	48	47	49	49
茨城																								
常総学院	19																							
大成女子	5										○	○	○	○					○					
土浦第三	5																							
太田第二	4														○	○		○						
石岡第二	4																○					○	○	
下館第二	4																			○				
鉾田第二	4																							
明野	3																							
日立第二	2																							○
小瀬	1																				○			
伊奈	1																							
栃木																								
真岡女子	26										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小山城南	18																							
作新学院	5							○		○														
宇都宮南	4																							
宇都宮女子商業	3					○	○											○						
宇都宮松原	2				○	○																		
宇都宮学園	1				○																			
宇都宮女子	1								○															
真岡農業	1																						○	
群馬																								
前橋東	15																							
渋川女子	14	○	○		○	○															○		○	○
桐生女子	9	○		○	○	○					○	○	○	○			○							
市立前橋(前橋市立女子)	8	○	○				○	○	○	○					○						○			
前橋東商業	5																							
境	4															○		○	○	○				
伊勢崎清明	4																							
桐生市立商業	3																					○		
新島学園	2																							
群馬桐ヶ丘	1	○																						
明照学園樹徳	1																							
埼玉																								
埼玉栄	17																							
川口総合(川口女子)	10															○	○	○	○		○	○	○	
上尾	6																							
行田女子	5					○		○	○			○	○											
小松原女子	5				○	○	○			○	○													
越谷南	5																							
熊谷女子	4													○	○					○				
川越女子	4																							○
宮崎高等家政	1				○																			
鴻巣	1																							
越ヶ谷	1																							
千葉																								
木更津東(木更津第二)	16				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
昭和学院	10																			○		○		
西武台千葉	10																							
東葉(船橋学園女子)	6																							
茂原	5																							
我孫子二階堂	4																						○	○
千葉敬愛	4																							
千葉女子(千葉第二)	3	○			○	○																		
木更津	1			○																				
渋谷教育学園幕張	1																							
中央学院	1																							
東京																								
淑徳巣鴨(巣鴨女子)	16																							
日本橋女学館	11																							
女子聖学院	7			○	○	○	○	○	○		○													
八汐	4	○	○		○	○																		

昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
四日市	嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
50	50	50	50	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄
	出場数	30	38	61	66	71	39	40	40	40	41	43	42	43	45	46	45	47	48	48	48	47	49	49
十文字	3												○	○	○									
淑徳学園	3																○		○	○				
桐朋女子	3																				○	○	○	
日本大学鶴ヶ丘	3																							
桜華女学院(日体桜華女子)	3																							
関東第一	3																							
都立九段	2	○		○																				
二階堂	2																	○						○
白鴎	1	○																						
武蔵	1		○																					
千代田女学院	1									○														
都立第三商業	1											○												
南葛飾	1															○								
神奈川																								
富士見丘	9																							
北鎌倉女子学園	7																							
横浜立野	5																							
横須賀第二	4	○	○			○						○												
横浜緑ヶ丘	4			○	○				○	○														
伊勢原	4												○	○		○	○							
平塚商業	4																			○	○	○		○
川崎総合科学	4																							
横須賀第一	3						○	○							○									
厚木東	3										○							○					○	
横浜女子商業	3																		○					
川崎工業	3																							
関東学院	2			○	○																			
県立柏陽	2																							
鵠沼	2																							
関東学院六浦	1	○																						
横浜国大神奈川師範分校	1	○																						
希望ヶ丘	1	○																						
平沼	1		○																					
県立川崎	1		○																					
小田原城内	1					○																		
多摩	1																							
県立弥栄西	1																							
大和西	1																							
山梨																								
甲府湯田(伊藤学園)	21			○	○	○	○				○	○	○					○		○				
甲府西(甲府第二)	14		○	○		○		○	○	○					○	○			○		○	○	○	○
市立甲府商業	12																							
増穂商業	5																							
山梨	4													○										
巨摩	2				○																			
東海大甲府	2																							
山梨英和	1																○							
都留	1																							
新潟																								
新潟青陵(新潟女子工芸)	47	○	○							○		○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○
新潟中央	14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○				○				
三条東	4	○		○	○																	○		
新発田商業	2																							
中越(長岡家政学園)	1					○																		
北越	1																							
富山																								
高岡西(高岡女子)	31										○	○	○	○	○	○								
高岡商業	9								○						○		○	○	○	○	○			
上市	4			○										○								○		○
富山商業	5																							
富山北部	3	○			○	○																		
富山中部	3					○	○	○																
藤園女子	2																							


昭48 昭49 昭50 昭51 昭52 昭53 昭54 昭55 昭56 昭57 昭58 昭59 昭60 昭61 昭62 昭63 平1 平2 平3 平4 平5 平6 平7 平8 平9 平10 平11 平12 平13 平14 平15 平16 平17 平18 平19 平20 平21
24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60
四日市 嬉野 水戸 中野 倉敷 会津若松 大津 高松 平塚 枕崎 豊橋 大曲 金沢 下関 登別 宝塚 高知 塩釜 富士 高鍋 宇都宮 高岡 松江 甲府 長岡京 高松 滝沢 各務原 八代 筑波 大村 鳥取 野田 奈良 武雄 所沢 大阪
50 50 50 50 50 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 50 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄
	出場数	30	38	61	66	71	39	40	40	40	41	43	42	43	45	46	45	47	48	48	48	47	49	49
滑川	2																							
富山北	1			○																				
高岡	1									○														
清光女子	1																						○	
高岡龍谷	1																							
石川																								
金沢向陽	25																							
藤花	10													○	○	○	○	○	○	○	○			
金沢二水	9	○		○	○		○	○																
津幡	9	○		○	○	○						○										○	○	○
金城	8								○	○	○		○											
金沢泉ヶ丘	2	○				○																		
金沢桜ヶ丘	1		○																					
七尾	1		○																					
金沢革台	1					○																		
小松	1					○																		
金沢商業	1																		○					
藤花学園尾山台	1																							
福井																								
勝山	17																		○					
足羽	10																							
武生	7					○		○	○			○	○	○			○							
大野	6			○	○	○	○			○	○													
福井商業	5																							○
福井工業大学附属福井(福井)	5																							
敦賀	3																	○		○	○			
藤島	2														○	○								
高志	2																					○	○	
乾徳	1			○																				
勝山精華	1				○																			
羽水	1																							
長野																								
諏訪二葉	10								○								○					○	○	
長野西	9				○					○		○	○	○		○		○			○			
長野商業	6																							
岡谷東	5					○		○							○				○	○				
須坂東	5																							
伊那弥生ヶ丘	4																							○
中野実業	4																							
篠ノ井	3					○	○				○													
蘇南	3																							
松代	2																							
須坂	2																							
伊那北	1			○																				
飯田	1																							
大町北	1																							
田川	1																							
小諸	1																							
文化女子大学附属長野	1																							
岐阜																								
県立岐阜商業	21											○												
富田(富田女子)	18									○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜女子商業	11																							
岐阜	5			○	○	○		○	○															
本巣	2				○						○													
高山	2					○	○																	
済美女子	1			○																				
多治見西	1																							
静岡																								
吉原	22			○	○	○						○				○	○	○		○	○	○	○	○
富士見	13			○	○	○	○	○		○	○			○	○				○					
富士宮東	8																							

昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
四日市	嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
50	50	50	50	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	
										○	○																									
						○	○	○					○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	○	○																																		
				○					○	○	○																									
○																																				
			○		○							○		○																						
												○									○															
		○											○		○		○				○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
										○	○			○		○		○	○	○			○	○				○								
○			○	○	○																															
						○	○	○	○			○																									
	○																																			
○				○	○			○					○																	○						
															○					○					○	○	○	○		○						
			○			○	○		○	○																											
	○	○	○											○						○	○															
											○					○								○													
												○					○													○						
																																	○				
																○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○																																
					○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○																			
																											○									
○	○	○	○		○	○	○	○	○				○																							
															○	○		○																			
												○		○			○		○	○	○	○	○	○													

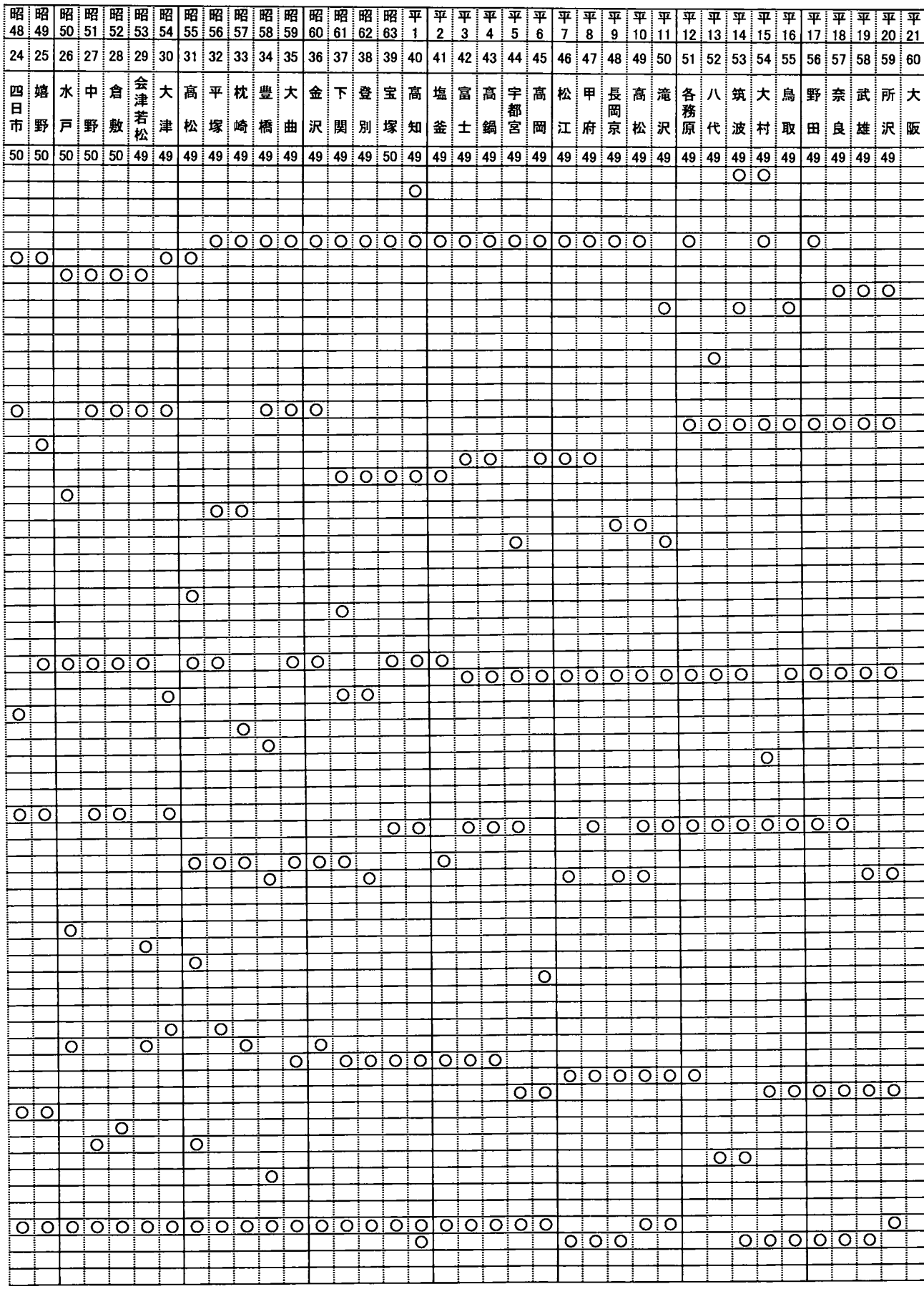
都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄
	出場数	30	38	61	66	71	39	40	40	40	41	43	42	43	45	46	45	47	48	48	48	47	49	49
星陵	8																							
静岡城北	4																							
掛川西	2								○				○											
伊東	2																							
藤枝西	1																							
伊東商業	1																							
愛知																								
愛知淑徳	18																							
市邨学園(名古屋女子商業)	13																					○		
高蔵女子商業	10													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
瑞陵	9			○	○	○		○	○	○	○	○	○											
名古屋西	3	○		○	○																			
松蔭	2					○	○																	
守山女子商業	2																							○
大府	2																							
岡崎城西	2																							
名古屋女子大学	1																							
佐屋	1																							
三重																								
暁	16																							
宇治山田	15			○	○	○		○	○	○	○			○	○			○				○	○	○
松阪	12											○	○											
河原田	3			○	○	○																		
宇治山田商業	3																		○					
久居	3																							
四日市商業	2															○								
四日市農芸	1						○																	
亀山	1																○							
員弁	1																			○				
長島	1																				○			
四日市	1																							
松阪商業	1																							
鳥羽	1																							
滋賀																								
滋賀短大附属(滋賀女子)	22																							
彦根西	15					○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		
比叡山	11																							
大津	4																		○					○
彦根東	2				○	○																		
伊香	2									○	○													
草津	1																						○	
大津商業	1																							
京都																								
成安女子	30															○	○	○	○	○	○	○	○	○
西乙訓	9																							
平安女学院	6			○	○	○			○	○														
西山(京都西山)	5																							
朱雀	3			○	○			○																
鴨沂	3										○	○	○											
桂	3													○	○	○								
同志社女子	2					○	○																	
洛水	1																							
大阪																								
四条畷学園	29																				○	○	○	○
東大阪(布施女子)	10											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
樟蔭東	7			○	○		○			○	○													
四天王寺	6																							
此花学院	3																							
大阪女子(大阪女子商業)	2							○	○															
大谷	2																							○
茨木(三島野)	2				○	○																		
扇町	1			○																				

昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
四日市	嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
50	50	50	50	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄
	出場数	30	38	61	66	71	39	40	40	40	41	43	42	43	45	46	45	47	48	48	48	47	49	49
梅花	1					○																		
精華女子	1																							
市岡商業	1																							
大阪薫英女学院(薫英)	1																							
兵庫																								
園田学園	23																					○		
親和女子	14	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○					○	○			
夙川学院	10																							
加古川東	4			○	○		○																	
神戸野田	3																○	○	○					
日ノ本学園	3																							
神戸商業	2											○				○								
園田女子	1	○																						
加古川西	1					○																		
尼崎西	1																						○	
松蔭	1																							○
尼崎	1																							
奈良																								
奈良一条	34				○	○				○	○			○					○		○	○	○	○
添上	7																			○				
高田商業	5																							
郡山	4					○	○	○	○															
奈良商工	3											○	○		○									
帝塚山	3																○							
奈良女子大学附属	2		○	○																				
奈良育英	2			○	○																			
天理	2															○		○						
和歌山																								
新宮	16																	○	○	○		○		
耐久	15				○	○			○	○		○			○	○	○							
新宮商業	8																						○	
御坊商工	7												○								○			○
那賀	6				○						○			○										
向陽	4			○		○																		
星林	2			○				○																
伊都	1																							
鳥取																								
倉吉西	20					○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○		○	○	○	○
境	17																							
米子西	8																							
倉吉工業	4																							
倉吉東	3														○									
鳥取西	1																	○						
鳥取東	1																			○				
米子東	1																							
米子北	1																							
島根																								
松江商業	27				○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○				○	
大東	12																							
松江家政	5																			○	○	○		
松江市立女子	4													○			○							
松徳学院	4																							
松江	3				○	○			○															
松江西	3																							
隠岐	2																							○
松江産	1			○																				
岡山																								
山陽女子(山陽学園)	50			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
倉敷青陵	4		○	○	○														○					
倉敷中央	4																							
井原	3		○			○		○																

昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
四日市	嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
50	50	50	50	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	
○																																				
			○																																	
				○																																
○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○				○	○			○		○	○	○	○	○		○			○	○					
												○	○	○	○		○	○		○						○		○					○			
																																			○	
																														○		○	○			
				○																																
○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○	○	○							○		
																				○	○		○					○	○	○	○		○	○		○
																																	○			
						○	○																													
○	○		○					○	○						○				○	○		○		○		○	○								
											○	○				○					○									○	○	○		○	○	○
		○		○	○								○															○							
						○	○			○							○						○													
														○				○																		
																									○											
													○			○																				
																										○										
			○			○	○		○		○	○	○		○	○	○		○								○	○								
					○								○						○		○			○	○	○	○		○	○	○	○				
○				○																																
	○	○																														○	○	○	○	
									○											○		○	○													
○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○			○	
			○	○																													○	○		

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄
	出場数	30	38	61	66	71	39	40	40	40	41	43	42	43	45	46	45	47	48	48	48	47	49	49
笠岡商業	2																							
倉敷翠松	1																							
広島																								
鈴峯女子	21																							
福山葦陽	12						○	○											○	○	○	○	○	○
広島第一女子商業	4																							
清水ヶ丘	4																			○				
広島桜が丘	3																							
福山南	1	○																						
門田	1			○																				
祇園北	1																							
山口																								
下関南	13						○											○	○	○	○			
熊毛北	9																							
徳山	7									○	○	○		○		○	○							
柳井商工(柳井工業)	7								○						○									
高森	6																					○		
下関商業	2																							○
岩陽	2																							
中村女子	2																							
山口中央	2																							
山口	1			○																				
長府	1																						○	
早鞆	1																							
新南陽	1																							
徳島																								
日和佐	20														○	○		○	○	○		○	○	○
城東	17																							
徳島商業	3																							
小松島西	2																				○			
富岡東	1																							
富岡西	1																							
徳島北	1																							
香川																								
善通寺第一	27		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
香川中央	15																							
坂出	10		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○											
高松中央(高松女子商業)	8																						○	
高松商業	7																							
高松南(香川)	1			○																				
高松	1			○																				
琴平	1																							
高松第一	1																							
高松西	1																							
明善	1																							
愛媛																								
松山南	11			○	○		○	○			○	○	○		○			○						
今治北	10				○	○														○		○	○	○
西条	8																							
新居浜西	8			○		○																		
新田	8																							
松山商業	7								○	○				○			○				○			
松山東	3															○			○					
西条農業	2																							
新居浜東	2																							
東温	1																							
高知																								
土佐女子	36									○	○		○		○			○	○	○	○	○	○	○
清和女子	10																							
高知丸の内	5								○			○		○		○	○							
須崎	3			○			○	○																


昭48 昭49 昭50 昭51 昭52 昭53 昭54 昭55 昭56 昭57 昭58 昭59 昭60 昭61 昭62 昭63 平1 平2 平3 平4 平5 平6 平7 平8 平9 平10 平11 平12 平13 平14 平15 平16 平17 平18 平19 平20 平21
24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60
四日市 嬉野 水戸 中野 倉敷 会津若松 大津 高松 平塚 枕崎 豊橋 大曲 金沢 下関 登別 宝塚 高知 塩釜 富士 高鍋 宇都宮 高岡 松江 甲府 長岡京 高松 滝沢 各務原 八代 筑波 大村 鳥取 野田 奈良 武雄 所沢 大阪
50 50 50 50 50 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 50 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄
	出場数	30	38	61	66	71	39	40	40	40	41	43	42	43	45	46	45	47	48	48	48	47	49	49
安芸	2																							
福岡																								
九州国際大学付属(八幡大学付属)	25																							
明善	16			○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○					○	○	○		○
精華女子	5																							
門司南	3											○	○			○								
門司商業	3																○	○	○					
九州女子	3																						○	
大牟田北	1					○																		
明善・定	1																							
福岡女子	1																							
大川	1																							
佐賀																								
佐賀女子	36																							
嬉野商業	1																							
唐津南	1																							
長崎																								
長崎女子(鶴鳴女子	33															○			○				○	
長崎商業	9													○						○	○	○		○
長崎東	4												○					○						
活水	2														○		○							
聖和女子学院	1																							
大分																								
昭和女子(昭和学園)	40																○	○	○	○		○		○
扇城	3															○					○		○	
東豊	1			○																				
大分女子	1																							
別府鶴見丘	1																							
熊本																								
熊本中央女子(熊本中央)	19																							
熊本信愛女学院	18											○	○	○		○	○							
九州女学院	7														○		○	○		○	○			○
熊本市立	3																		○			○	○	
八代白百合	3																							
熊本国府(熊本女子商業)	1																							
宮崎																								
宮崎商業	25																							
都城商業	5																							○
宮崎女子	2																						○	
富島	2																							
都城聖ドミニコ学園	2																							
宮崎工業	2																							
延岡商業	1																							
鹿児島																								
鹿児島女子	21																							
川内	7											○			○		○	○	○	○			○	
鹿児島	6																							○
鹿児島南	4																							
串木野	3																				○	○		
知覧	3																							
鹿児島純心女子	1															○								
伊集院	1																							
川内商工	1																							
沖永良部	1																							
沖縄																								
那覇商業	11																	○	○	○	○	○	○	○
糸満	11																							
南風原	9																							
石川	3																							

昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
四日市	嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
50	50	50	50	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	
																											○	○								
				○			○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	○																																			
														○					○	○		○	○														
○	○																																			
			○																																	
					○																															
						○																															
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	○																																			
																																		○		
	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	
○		○	○	○																										○	○						
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
													○																								
																																			○	
				○	○	○	○	○		○			○	○	○	○		○	○		○		○		○			○	○	○	○			○	○		
		○	○						○		○	○					○			○			○		○	○		○				○	○			
○																																				
																											○							○	○	
	○																																			
						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
○	○	○		○												○																					
			○		○																		○	○													
																			○													○	○				
	○																	○																		
					○			○	○																												
				○			○																														
						○																															
							○																														
								○																													
○		○		○												○																				
													○	○	○									○				○	○		○		○	○	○	○	
									○	○								○	○	○	○	○	○														
			○		○		○																														

都道府県 学校名	年度	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41	昭42	昭43	昭44	昭45	昭46	昭47
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	開催地	横浜	札幌	善通寺	山形	金沢	神戸	仙台	松江	新潟	会津若松	久留米	弘前	高岡	鶴岡	京都	熊本	弘前	金沢	福山	桐生	名古屋	善通寺	新庄
	出場数	30	38	61	66	71	39	40	40	40	41	43	42	43	45	46	45	47	48	48	48	47	49	49
小禄	2																							
豊見城南	2																							
首里	1																							
那覇	1																							
南部商業	1																							
知念	1																							
北谷	1																							

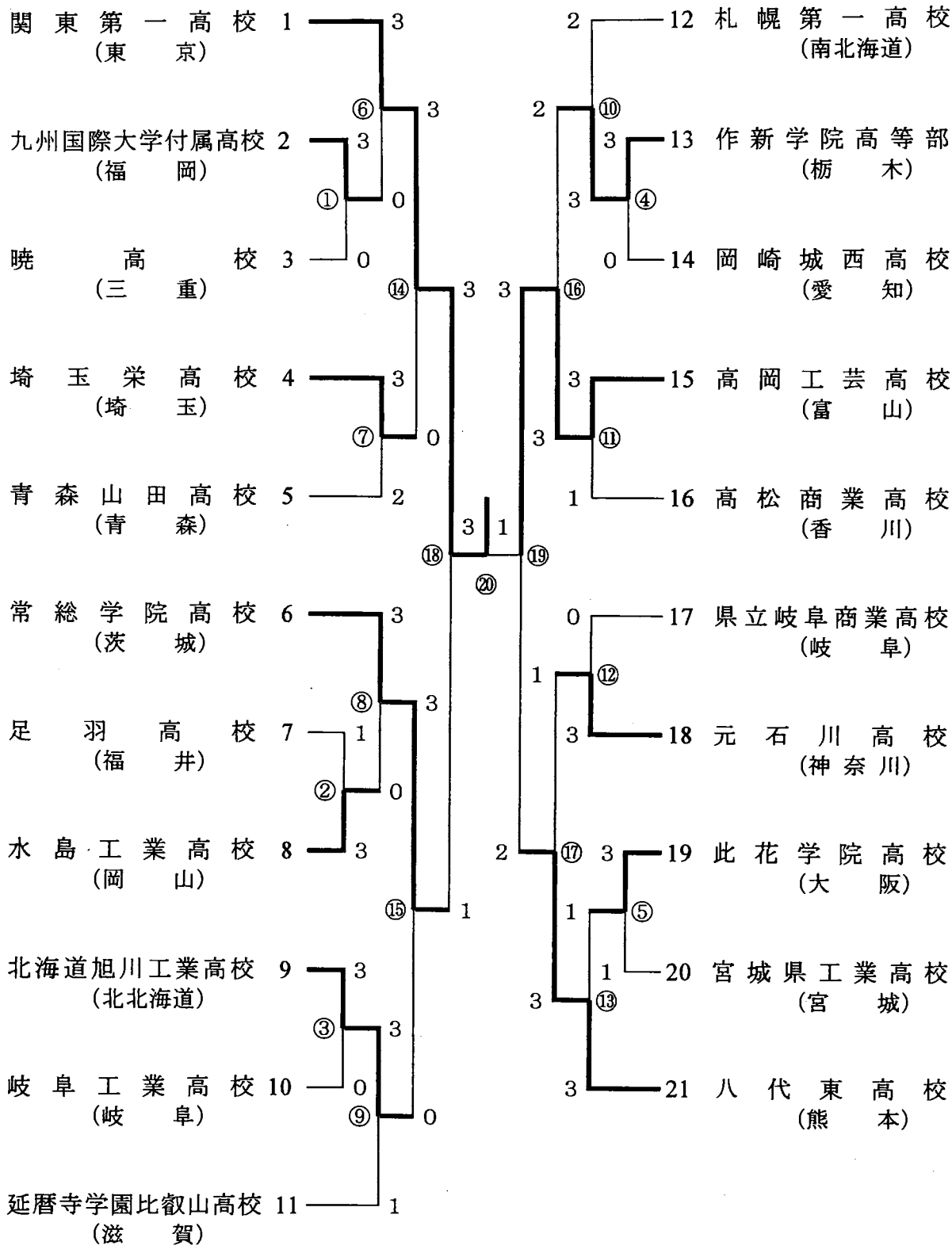
昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
四日市	嬉野	水戸	中野	倉敷	会津若松	大津	高松	平塚	枕崎	豊橋	大曲	金沢	下関	登別	宝塚	高知	塩釜	富士	高鍋	宇都宮	高岡	松江	甲府	長岡京	高松	滝沢	各務原	八代	筑波	大村	鳥取	野田	奈良	武雄	所沢	大阪
50	50	50	50	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	
											○	○																									
																									○	○										
	○																																			
						○																															
								○																													
																													○							
																															○					

全国高等学校選抜
バドミントン大会の記録

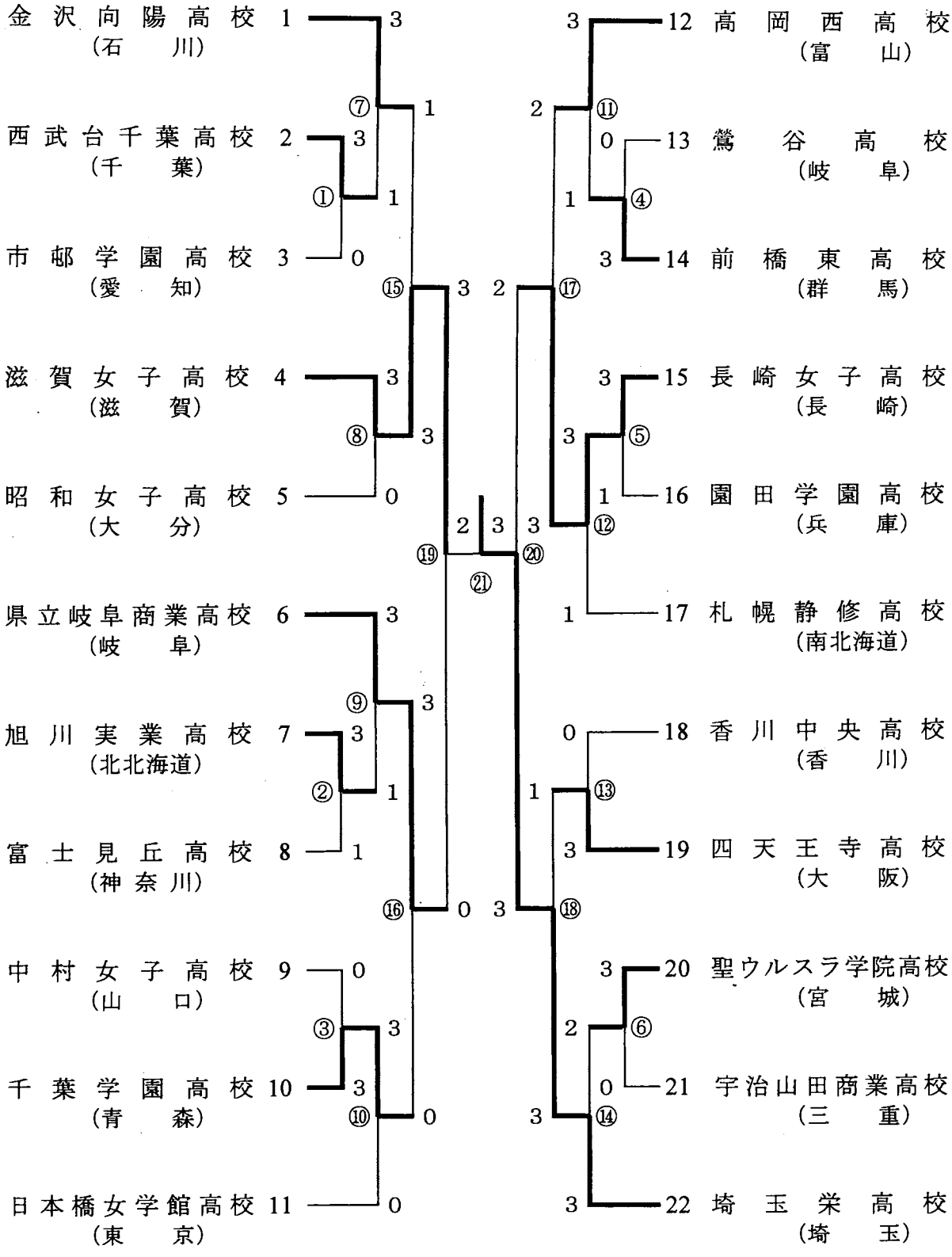
第28回全国高等学校選抜バドミントン大会（1999年度）

期日▶平成12年３月25日～28日
会場▶各務原市民会館・各務原市総合体育館・岐阜女子商業高等学校体育館

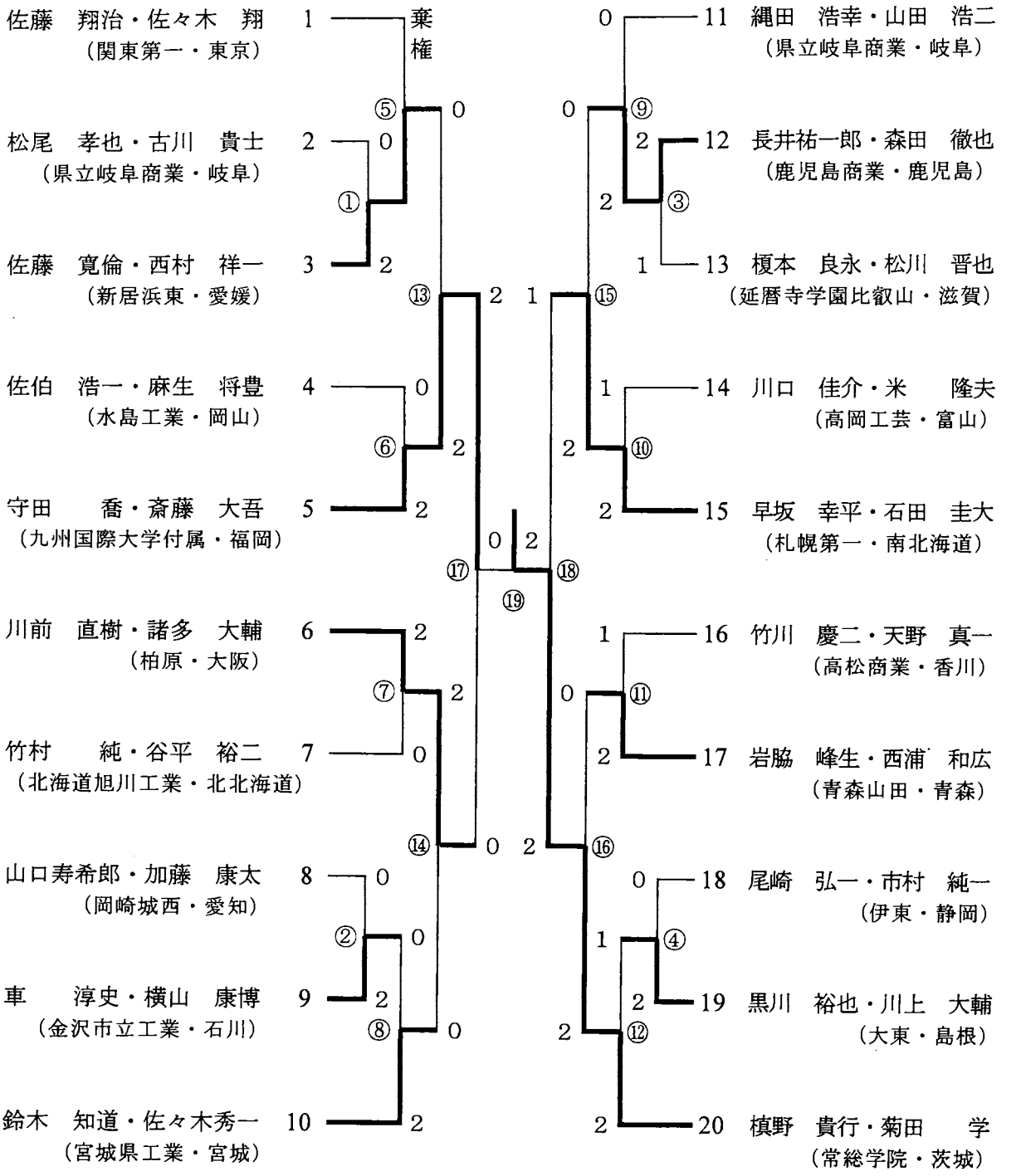
男子団体（21校）



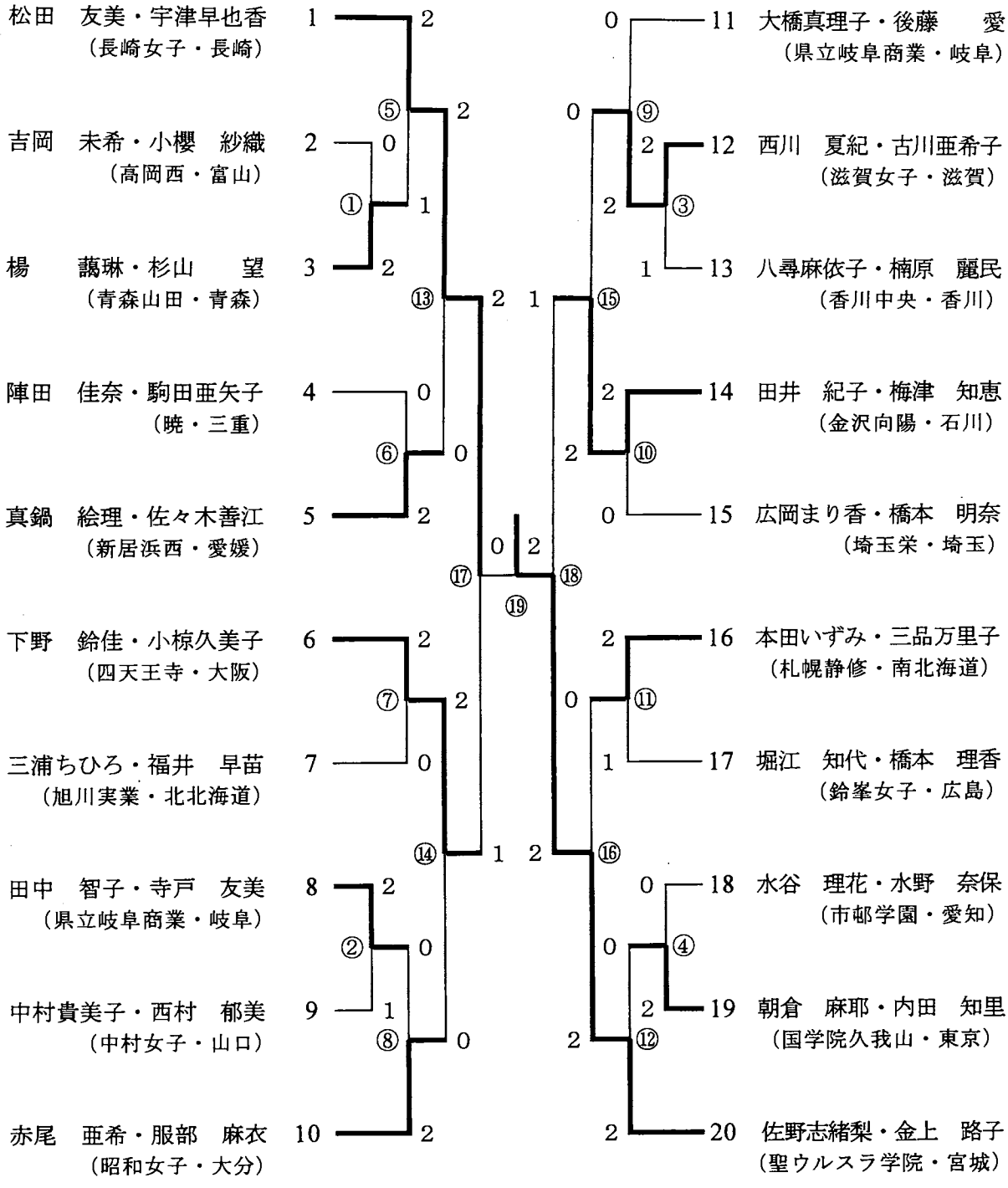
女子団体（22校）


金沢向陽高校 1
（石川）
西武台千葉高校 2
（千葉）
市邨学園高校 3
（愛知）
滋賀女子高校 4
（滋賀）
昭和女子高校 5
（大分）
県立岐阜商業高校 6
（岐阜）
旭川実業高校 7
（北北海道）
富士見丘高校 8
（神奈川）
中村女子高校 9
（山口）
千葉学園高校 10
（青森）
日本橋女学館高校 11
（東京）
12 高岡西高校
（富山）
13 鶯谷高校
（岐阜）
14 前橋東高校
（群馬）
15 長崎女子高校
（長崎）
16 園田学園高校
（兵庫）
17 札幌静修高校
（南北海道）
18 香川中央高校
（香川）
19 四天王寺高校
（大阪）
20 聖ウルスラ学院高校
（宮城）
21 宇治山田商業高校
（三重）
22 埼玉栄高校
（埼玉）

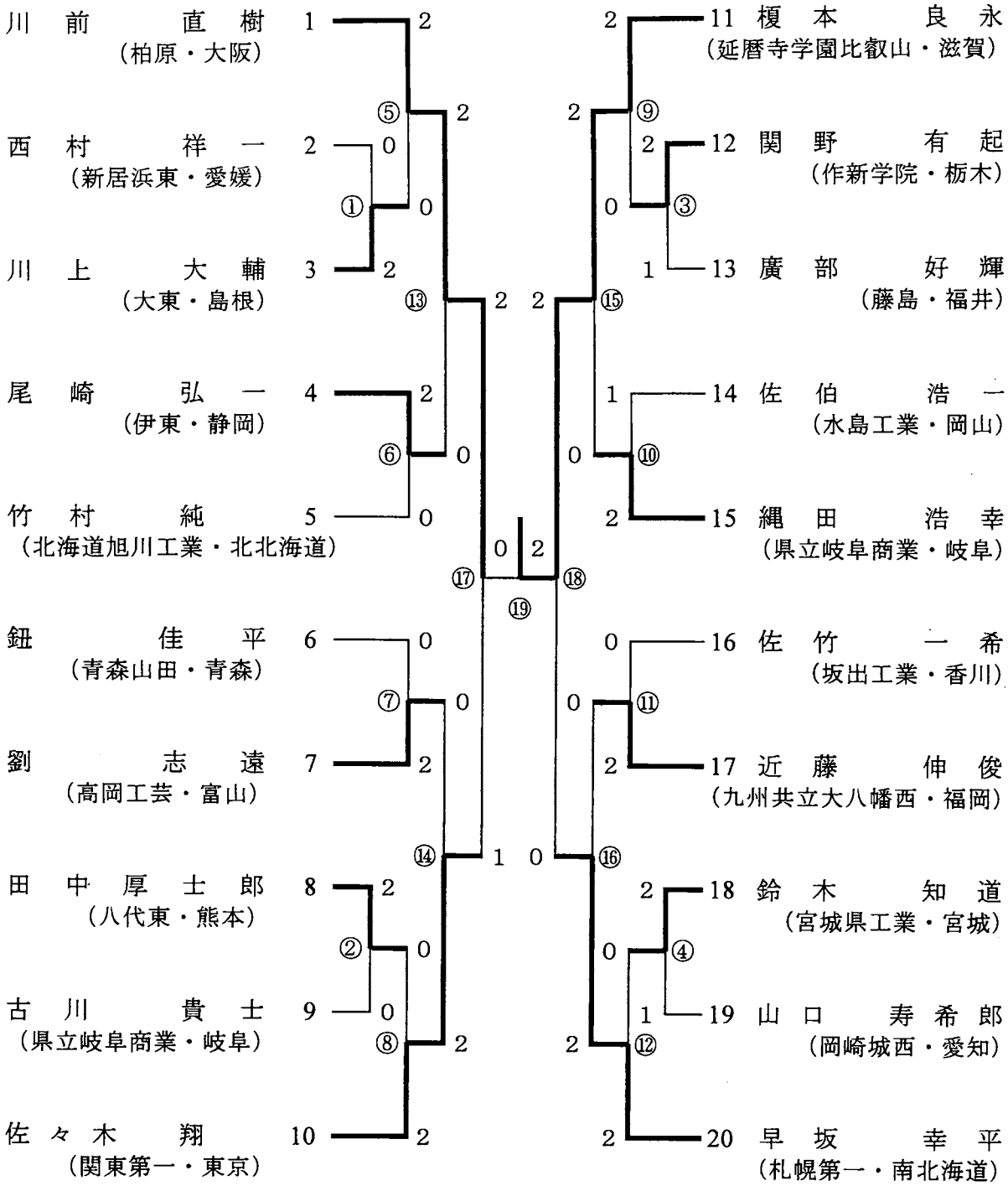
男子ダブルス（20組）


佐藤　翔治・佐々木　翔
（関東第一・東京）
1
棄権
⑤
0
松尾　孝也・古川　貴士
（県立岐阜商業・岐阜）
2
0
①
佐藤　寛倫・西村　祥一
（新居浜東・愛媛）
3
2
⑬
2
1
⑮
佐伯　浩一・麻生　将豊
（水島工業・岡山）
4
0
⑥
2
守田　喬・斎藤　大吾
（九州国際大学付属・福岡）
5
2
0
2
⑰
⑱
⑲
川前　直樹・諸多　大輔
（柏原・大阪）
6
2
⑦
2
竹村　純・谷平　裕二
（北海道旭川工業・北北海道）
7
0
⑭
0
2
⑯
山口寿希郎・加藤　康太
（岡崎城西・愛知）
8
0
②
0
車　淳史・横山　康博
（金沢市立工業・石川）
9
2
⑧
0
鈴木　知道・佐々木秀一
（宮城県工業・宮城）
10
2
0
11
縄田　浩幸・山田　浩二
（県立岐阜商業・岐阜）
0
⑨
2
12
長井祐一郎・森田　徹也
（鹿児島商業・鹿児島）
2
③
1
13
榎本　良永・松川　晋也
（延暦寺学園比叡山・滋賀）
1
14
川口　佳介・米　隆夫
（高岡工芸・富山）
⑩
2
2
15
早坂　幸平・石田　圭大
（札幌第一・南北海道）
1
16
竹川　慶二・天野　真一
（高松商業・香川）
0
⑪
2
17
岩脇　峰生・西浦　和広
（青森山田・青森）
0
18
尾崎　弘一・市村　純一
（伊東・静岡）
1
④
2
19
黒川　裕也・川上　大輔
（大東・島根）
2
⑫
2
20
槙野　貴行・菊田　学
（常総学院・茨城）

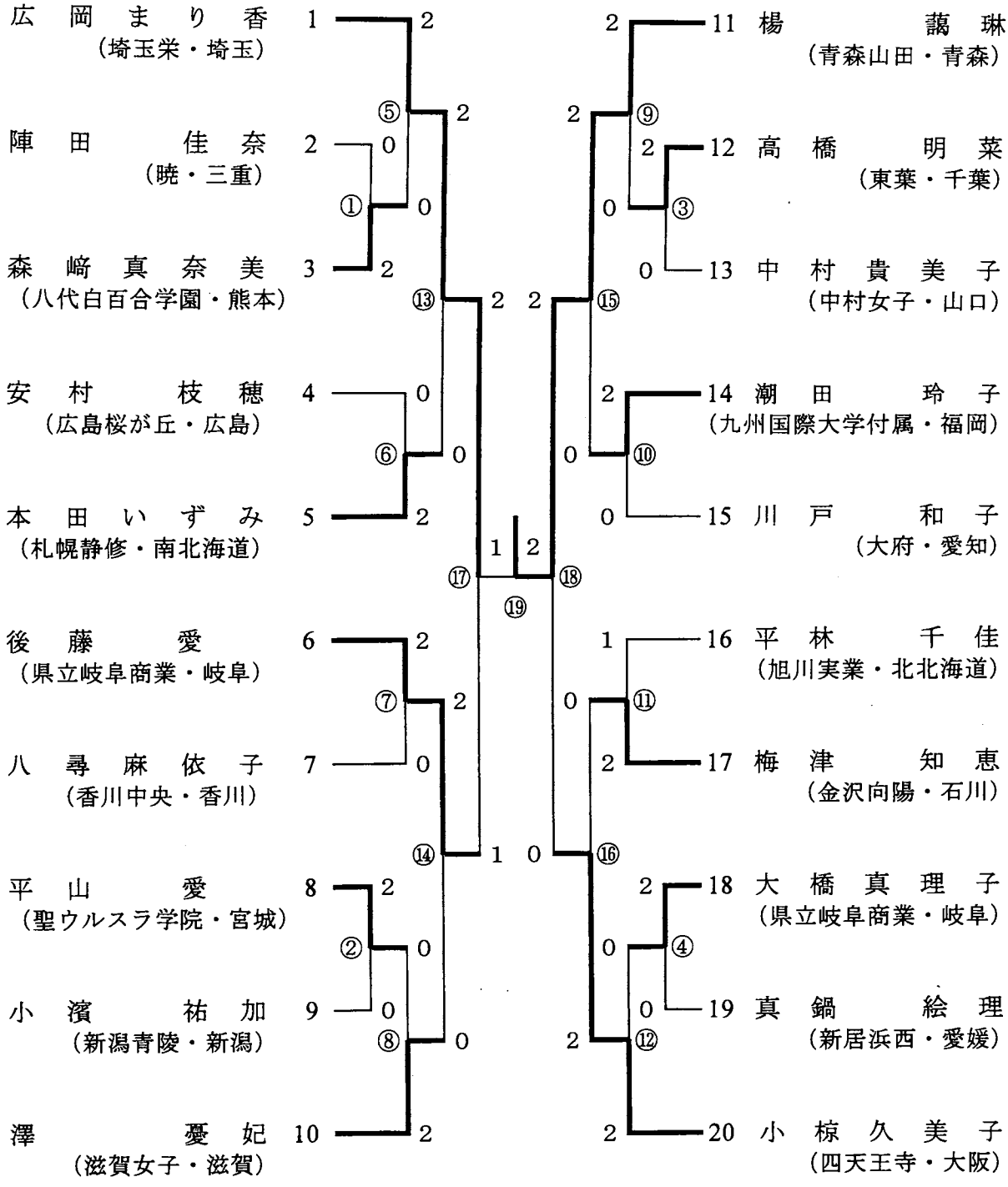
女子ダブルス（20組）


1 松田 友美・宇津早也香（長崎女子・長崎）
2 吉岡 未希・小櫻 紗織（高岡西・富山）
3 楊 藹琳・杉山 望（青森山田・青森）
4 陣田 佳奈・駒田亜矢子（暁・三重）
5 真鍋 絵理・佐々木善江（新居浜西・愛媛）
6 下野 鈴佳・小椋久美子（四天王寺・大阪）
7 三浦ちひろ・福井 早苗（旭川実業・北北海道）
8 田中 智子・寺戸 友美（県立岐阜商業・岐阜）
9 中村貴美子・西村 郁美（中村女子・山口）
10 赤尾 亜希・服部 麻衣（昭和女子・大分）
11 大橋真理子・後藤 愛（県立岐阜商業・岐阜）
12 西川 夏紀・古川亜希子（滋賀女子・滋賀）
13 八尋麻依子・楠原 麗民（香川中央・香川）
14 田井 紀子・梅津 知恵（金沢向陽・石川）
15 広岡まり香・橋本 明奈（埼玉栄・埼玉）
16 本田いずみ・三品万里子（札幌静修・南北海道）
17 堀江 知代・橋本 理香（鈴峯女子・広島）
18 水谷 理花・水野 奈保（市邨学園・愛知）
19 朝倉 麻耶・内田 知里（国学院久我山・東京）
20 佐野志緒梨・金上 路子（聖ウルスラ学院・宮城）

男子シングルス（20名）


川前　直樹 1
（柏原・大阪）
西村　祥一 2
（新居浜東・愛媛）
川上　大輔 3
（大東・島根）
尾崎　弘一 4
（伊東・静岡）
竹村　純 5
（北海道旭川工業・北北海道）
鈕　佳平 6
（青森山田・青森）
劉　志遠 7
（高岡工芸・富山）
田中　厚士郎 8
（八代東・熊本）
古川　貴士 9
（県立岐阜商業・岐阜）
佐々木　翔 10
（関東第一・東京）
11 榎本　良永
（延暦寺学園比叡山・滋賀）
12 関野　有起
（作新学院・栃木）
13 廣部　好輝
（藤島・福井）
14 佐伯　浩一
（水島工業・岡山）
15 縄田　浩幸
（県立岐阜商業・岐阜）
16 佐竹　一希
（坂出工業・香川）
17 近藤　伸俊
（九州共立大八幡西・福岡）
18 鈴木　知道
（宮城県工業・宮城）
19 山口　寿希郎
（岡崎城西・愛知）
20 早坂　幸平
（札幌第一・南北海道）

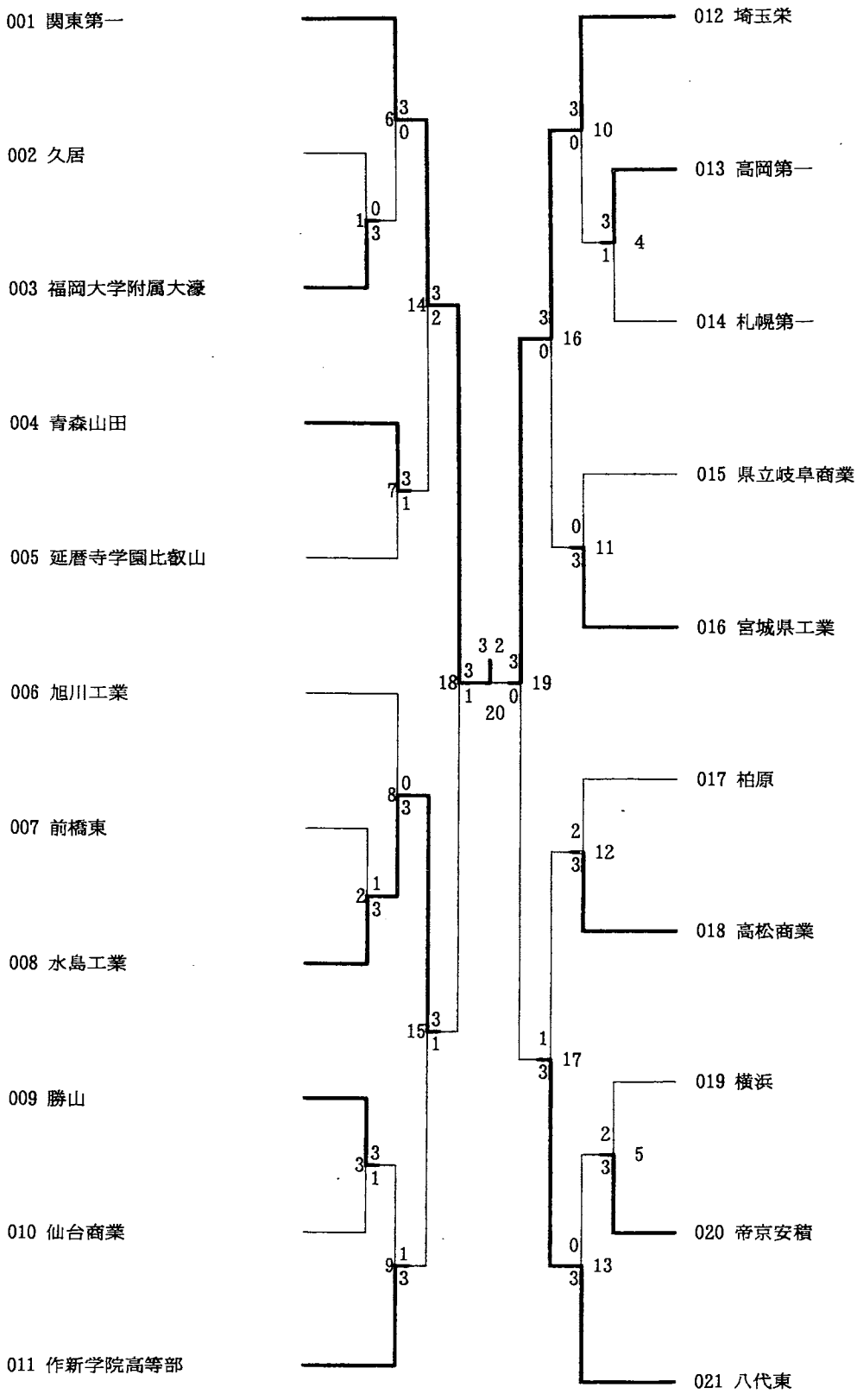
女子シングルス（20名）


広岡まり香 1
（埼玉栄・埼玉）
陣田佳奈 2
（暁・三重）
森﨑真奈美 3
（八代白百合学園・熊本）
安村枝穂 4
（広島桜が丘・広島）
本田いずみ 5
（札幌静修・南北海道）
後藤愛 6
（県立岐阜商業・岐阜）
八尋麻依子 7
（香川中央・香川）
平山愛 8
（聖ウルスラ学院・宮城）
小濱祐加 9
（新潟青陵・新潟）
澤憂妃 10
（滋賀女子・滋賀）
11 楊藹琳
（青森山田・青森）
12 高橋明菜
（東葉・千葉）
13 中村貴美子
（中村女子・山口）
14 潮田玲子
（九州国際大学付属・福岡）
15 川戸和子
（大府・愛知）
16 平林千佳
（旭川実業・北北海道）
17 梅津知恵
（金沢向陽・石川）
18 大橋真理子
（県立岐阜商業・岐阜）
19 真鍋絵理
（新居浜西・愛媛）
20 小椋久美子
（四天王寺・大阪）

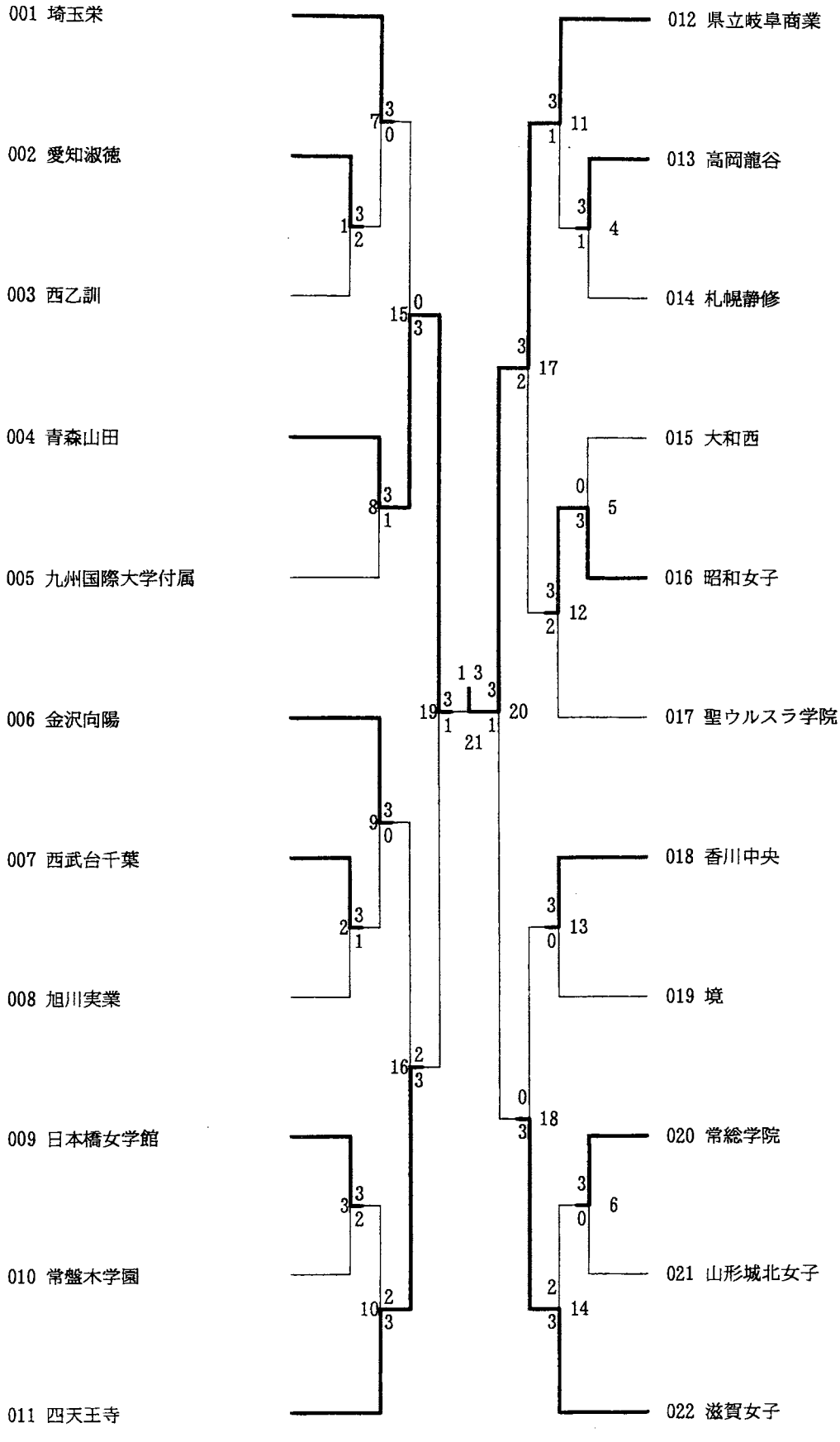
第29回全国高等学校選抜バドミントン大会（2000年度）

期日▶平成13年３月24日～27日
会場▶塩竈市体育館

男 子 団 体（21校）



女 子 団 体 (22校)


001 埼玉栄
002 愛知淑徳
003 西乙訓
004 青森山田
005 九州国際大学付属
006 金沢向陽
007 西武台千葉
008 旭川実業
009 日本橋女学館
010 常盤木学園
011 四天王寺
012 県立岐阜商業
013 高岡龍谷
014 札幌静修
015 大和西
016 昭和女子
017 聖ウルスラ学院
018 香川中央
019 境
020 常総学院
021 山形城北女子
022 滋賀女子

男子ダブルス（20組）

001 岩脇　峰生　（青森山田）
　　西浦　和広　（青森山田）

002 古川　貴士　（県立岐阜商業）
　　山田　浩二　（県立岐阜商業）

003 小瀬　広晃　（柏原）
　　増井　弘行　（柏原）

004 天野　真一　（高松商業）
　　穴吹　康隆　（高松商業）

005 高畠　茂樹　（旭川工業）
　　大泉　陽介　（旭川工業）

006 劉　志遠　（高岡工芸）
　　平田　典靖　（高岡工芸）

007 左村　正和　（八代東）
　　宮崎　晃平　（八代東）

008 佐藤　孝一　（関東第一）
　　柴原　啓紀　（関東第一）

009 竹光　章浩　（柳井工業）
　　竹光　唯至　（柳井工業）

010 畑山　辰徳　（宮城県工業）
　　秋山　裕　（宮城県工業）

011 佐伯　浩一　（水島工業）
　　麻生　将豊　（水島工業）

012 今野　雅史　（宮城県工業）
　　角田　淳司　（宮城県工業）

013 岩堀　将治　（足羽）
　　三反崎　俊介　（足羽）

014 森澤　駿　（延暦寺学園比叡山）
　　銭谷　公浩　（延暦寺学園比叡山）

015 斉藤　元伸　（埼玉栄）
　　堤　敦史　（埼玉栄）

016 池添　尚貴　（札幌第一）
　　山田　光大　（札幌第一）

017 市村　純一　（伊東）
　　大川　康雄　（伊東）

018 森田　広貴　（福岡大学附属大濠）
　　斉藤　篤史　（福岡大学附属大濠）

019 鹿目　佳太　（帝京安積）
　　菅野　俊助　（帝京安積）

020 西村　祥一　（新居浜東）
　　佐藤　寛倫　（新居浜東）

女子ダブルス（20組）

001 楊　譞琳　（青森山田）
　 廣瀬　栄理子　（青森山田）

002 佐伯　綾子　（西条農業）
　 安藤　朋恵　（西条農業）

003 綿引　悠貴　（常総学院）
　 清水　陽子　（常総学院）

004 林　裕佳　（県立岐阜商業）
　 脇田　侑　（県立岐阜商業）

005 岩島　恵里子　（札幌静修）
　 阿野　加代子　（札幌静修）

006 小椋　久美子　（四天王寺）
　 宮崎　優花　（四天王寺）

007 佐伯　美沙都　（高岡龍谷）
　 対　晶　（高岡龍谷）

008 三木　彩恵子　（山陽女子）
　 緒方　敬子　（山陽女子）

009 小林　麻衣　（聖ウルスラ学院）
　 永澤　美佳　（聖ウルスラ学院）

010 宇津　早也香　（長崎女子）
　 小森　美希　（長崎女子）

011 西塚　司　（聖ウルスラ学院）
　 田島　朝美　（聖ウルスラ学院）

012 末吉　都　（境）
　 森山　理恵子　（境）

013 梅田　佳奈　（足羽）
　 山崎　優希子　（足羽）

014 楠原　麗民　（香川中央）
　 明石　光世　（香川中央）

015 服部　麻衣　（昭和女子）
　 倉満　一美　（昭和女子）

016 広岡　まり香　（埼玉栄）
　 小池　由子　（埼玉栄）

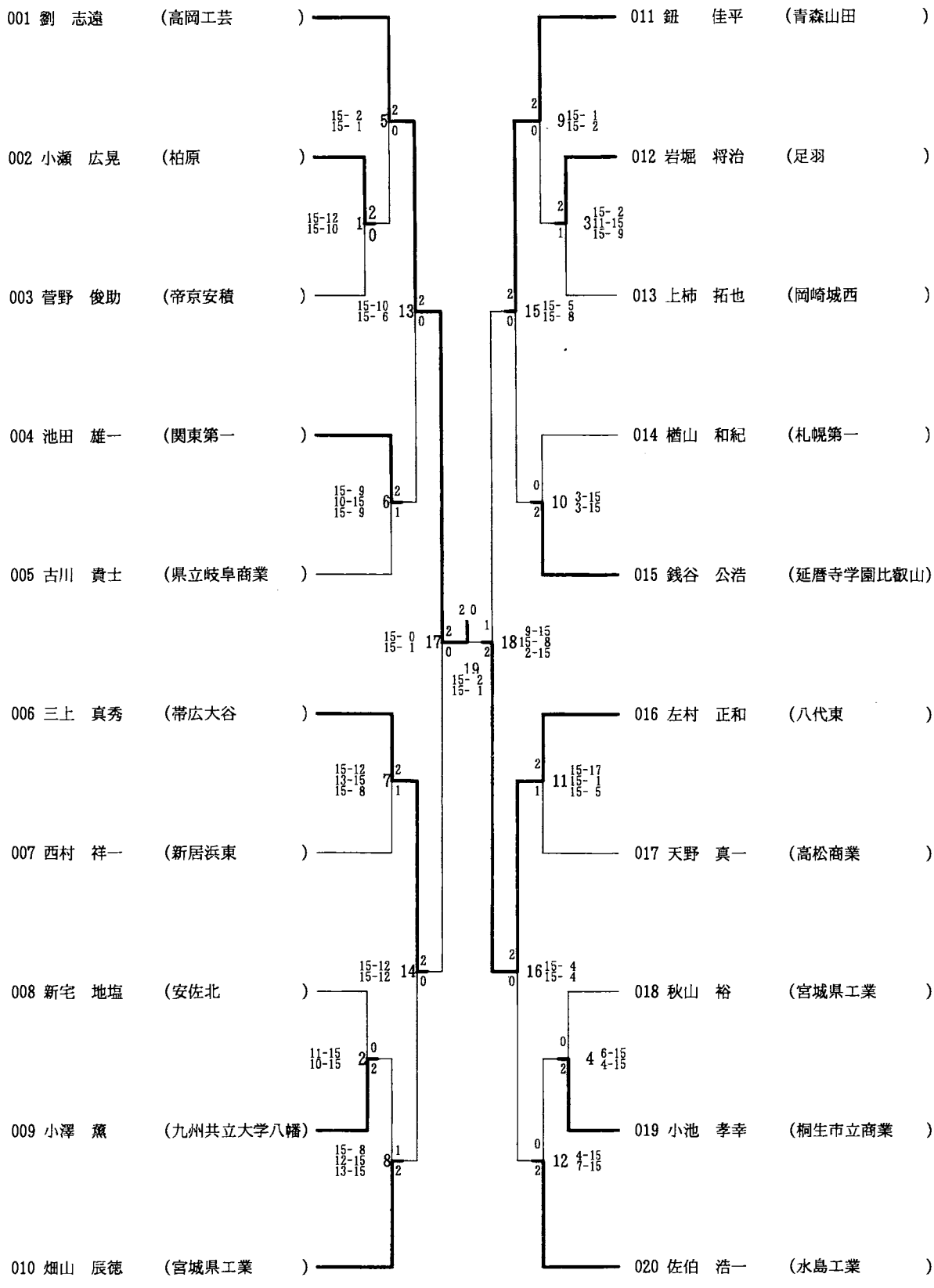
017 和泉　奈々恵　（旭川実業）
　 平林　亜希　（旭川実業）

018 澤田　妙　（愛知淑徳）
　 西屋　綾　（愛知淑徳）

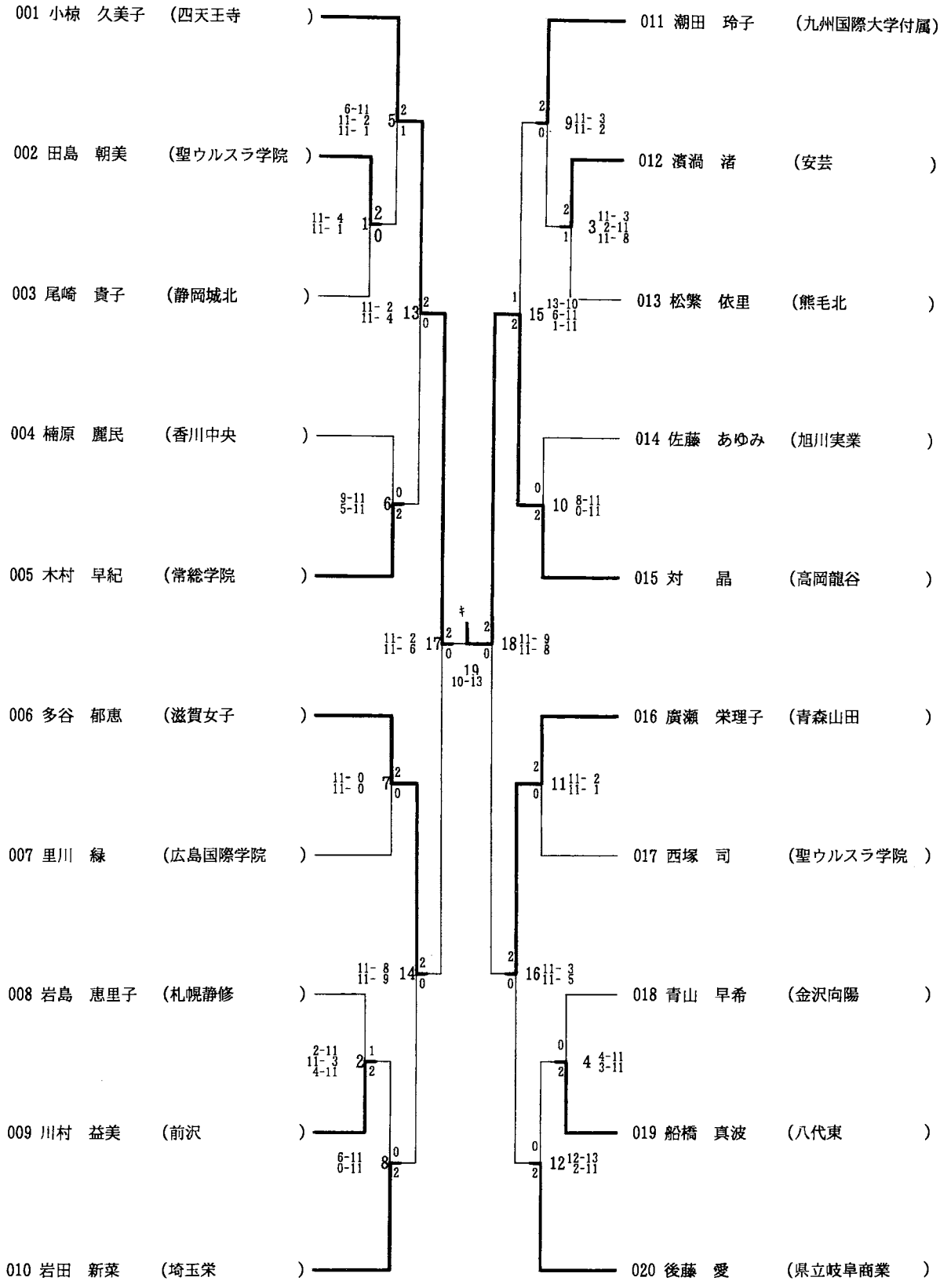
019 川村　益美　（前沢）
　 千葉　孝美　（前沢）

020 多谷　郁恵　（滋賀女子）
　 早川　由希子　（滋賀女子）

男子シングルス（20名）


001 劉　志遠　（高岡工芸　）
002 小瀬　広晃　（柏原　）
003 菅野　俊助　（帝京安積　）
004 池田　雄一　（関東第一　）
005 古川　貴士　（県立岐阜商業　）
006 三上　真秀　（帯広大谷　）
007 西村　祥一　（新居浜東　）
008 新宅　地塩　（安佐北　）
009 小澤　薫　（九州共立大学八幡）
010 畑山　辰徳　（宮城県工業　）
011 鈕　佳平　（青森山田　）
012 岩堀　将治　（足羽　）
013 上柿　拓也　（岡崎城西　）
014 楢山　和紀　（札幌第一　）
015 銭谷　公浩　（延暦寺学園比叡山）
016 左村　正和　（八代東　）
017 天野　真一　（高松商業　）
018 秋山　裕　（宮城県工業　）
019 小池　孝幸　（桐生市立商業　）
020 佐伯　浩一　（水島工業　）

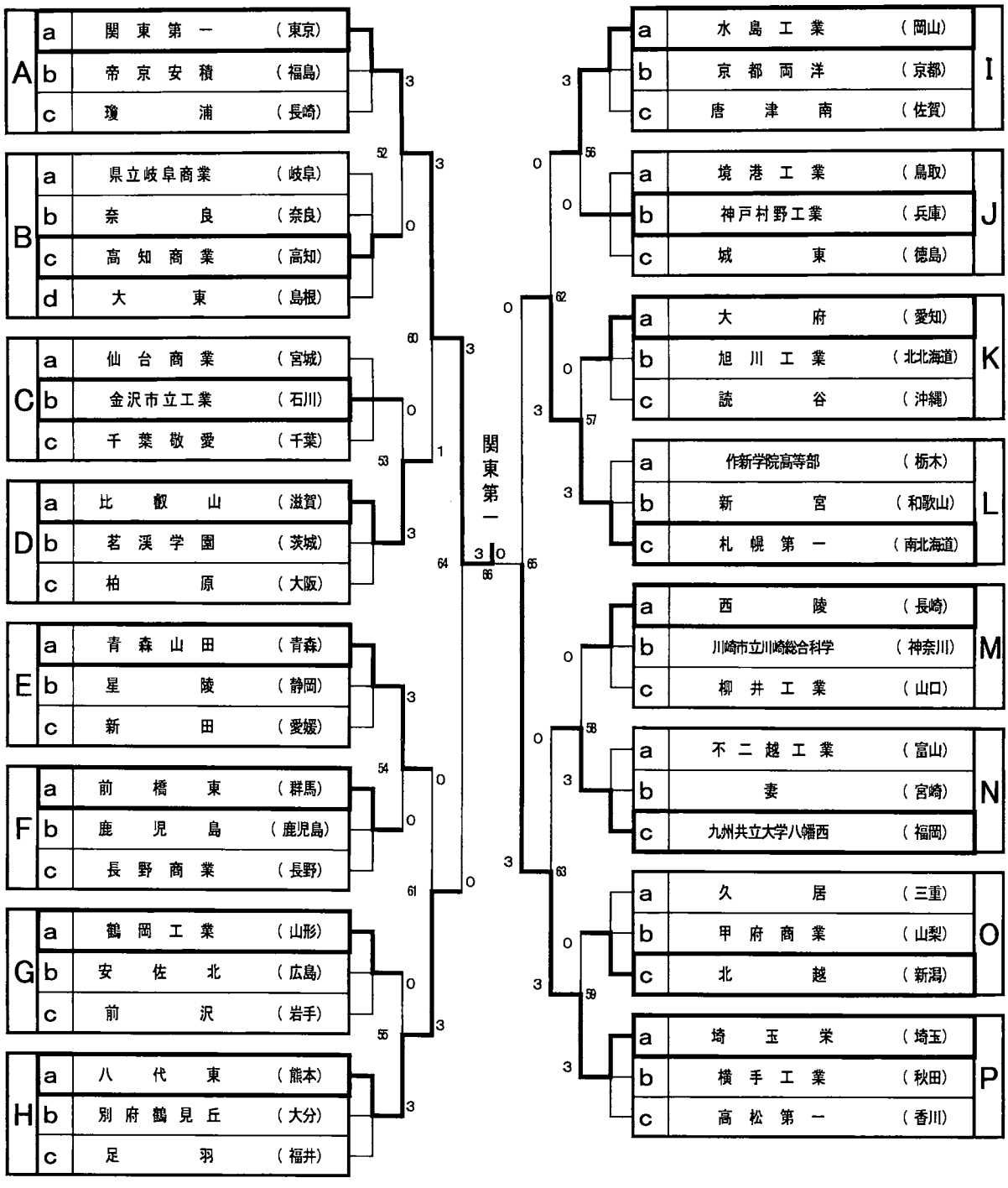
女子シングルス（20名）


001 小椋　久美子　（四天王寺　）
002 田島　朝美　（聖ウルスラ学院　）
003 尾崎　貴子　（静岡城北　）
004 楠原　麗民　（香川中央　）
005 木村　早紀　（常総学院　）
006 多谷　郁恵　（滋賀女子　）
007 里川　緑　（広島国際学院　）
008 岩島　恵里子　（札幌静修　）
009 川村　益美　（前沢　）
010 岩田　新菜　（埼玉栄　）
011 潮田　玲子　（九州国際大学付属）
012 濱渦　渚　（安芸　）
013 松繁　依里　（熊毛北　）
014 佐藤　あゆみ　（旭川実業　）
015 対　晶　（高岡龍谷　）
016 廣瀬　栄理子　（青森山田　）
017 西塚　司　（聖ウルスラ学院　）
018 青山　早希　（金沢向陽　）
019 船橋　真波　（八代東　）
020 後藤　愛　（県立岐阜商業　）

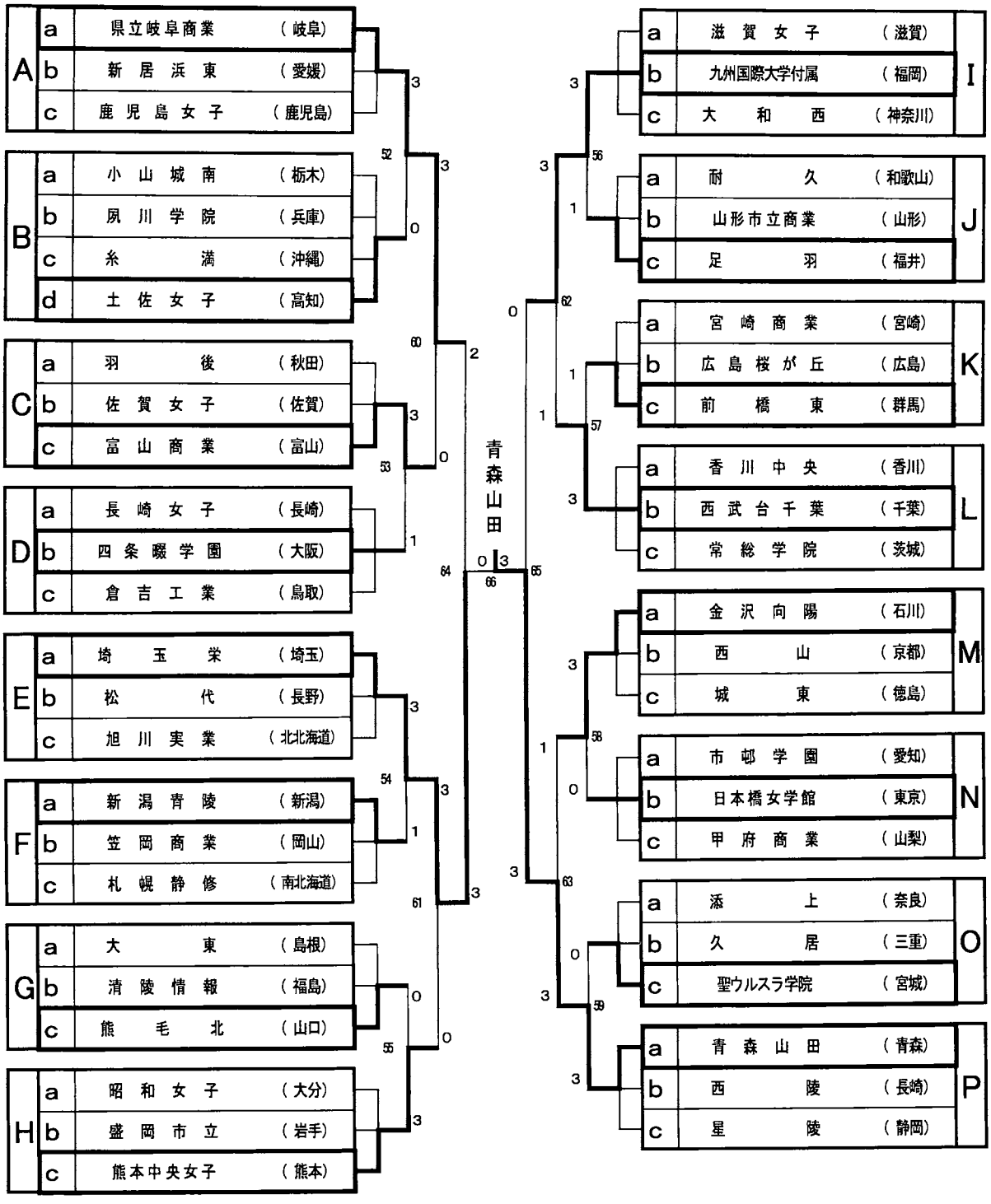
第30回全国高等学校選抜バドミントン大会（2001年度）

期日▶平成14年３月23日～26日
会場▶長崎県総合体育館・大村市体育文化センター

男子団体（49校）



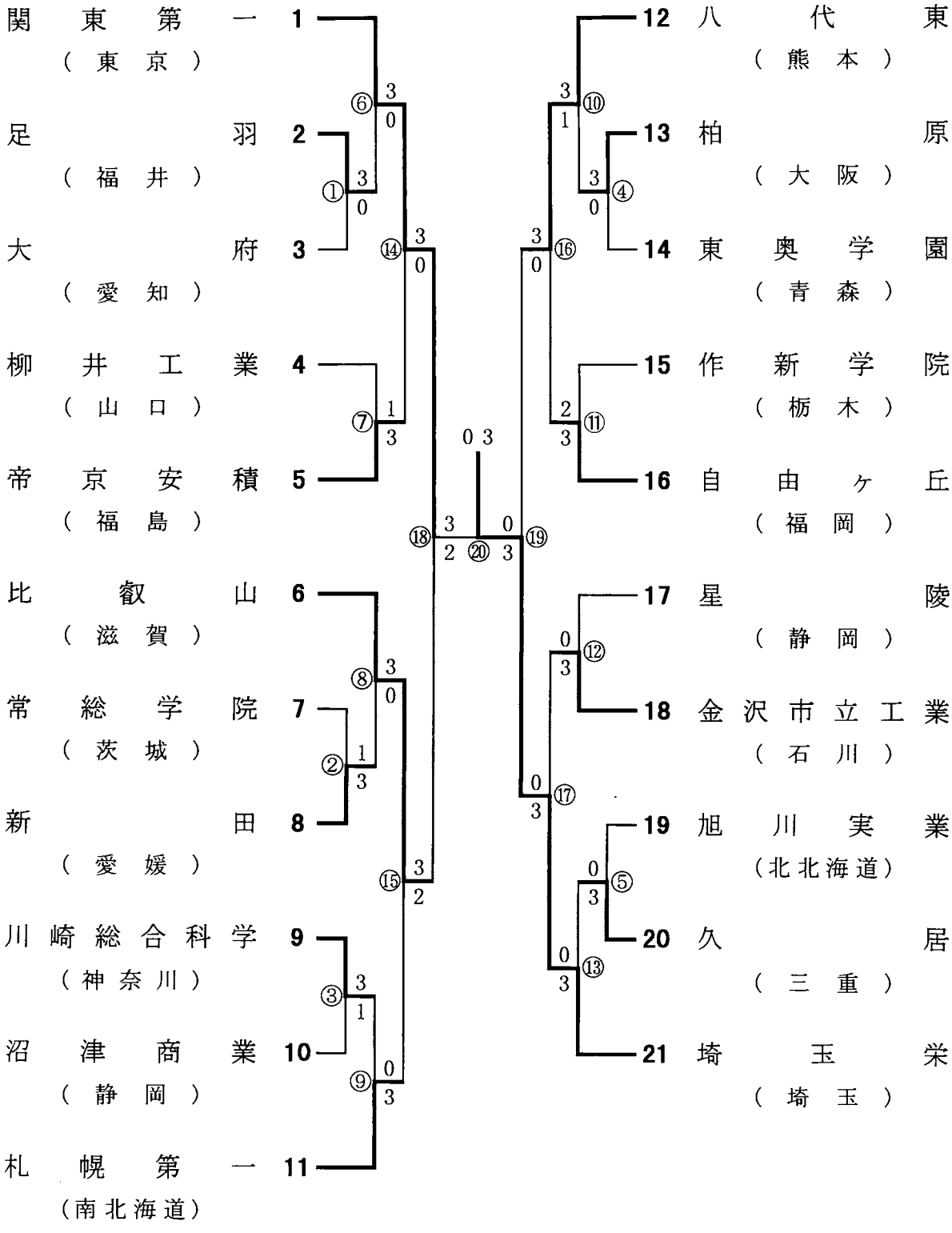
女子団体（49校）


A
a 県立岐阜商業 （岐阜）
b 新居浜東 （愛媛）
c 鹿児島女子 （鹿児島）
B
a 小山城南 （栃木）
b 夙川学院 （兵庫）
c 糸満 （沖縄）
d 土佐女子 （高知）
C
a 羽後 （秋田）
b 佐賀女子 （佐賀）
c 富山商業 （富山）
D
a 長崎女子 （長崎）
b 四条畷学園 （大阪）
c 倉吉工業 （鳥取）
E
a 埼玉栄 （埼玉）
b 松代 （長野）
c 旭川実業 （北北海道）
F
a 新潟青陵 （新潟）
b 笠岡商業 （岡山）
c 札幌静修 （南北海道）
G
a 大東 （島根）
b 清陵情報 （福島）
c 熊毛北 （山口）
H
a 昭和女子 （大分）
b 盛岡市立 （岩手）
c 熊本中央女子 （熊本）
青森山田
I
a 滋賀女子 （滋賀）
b 九州国際大学付属 （福岡）
c 大和西 （神奈川）
J
a 耐久 （和歌山）
b 山形市立商業 （山形）
c 足羽 （福井）
K
a 宮崎商業 （宮崎）
b 広島桜が丘 （広島）
c 前橋東 （群馬）
L
a 香川中央 （香川）
b 西武台千葉 （千葉）
c 常総学院 （茨城）
M
a 金沢向陽 （石川）
b 西山 （京都）
c 城東 （徳島）
N
a 市邨学園 （愛知）
b 日本橋女学館 （東京）
c 甲府商業 （山梨）
O
a 添上 （奈良）
b 久居 （三重）
c 聖ウルスラ学院 （宮城）
P
a 青森山田 （青森）
b 西陵 （長崎）
c 星陵 （静岡）

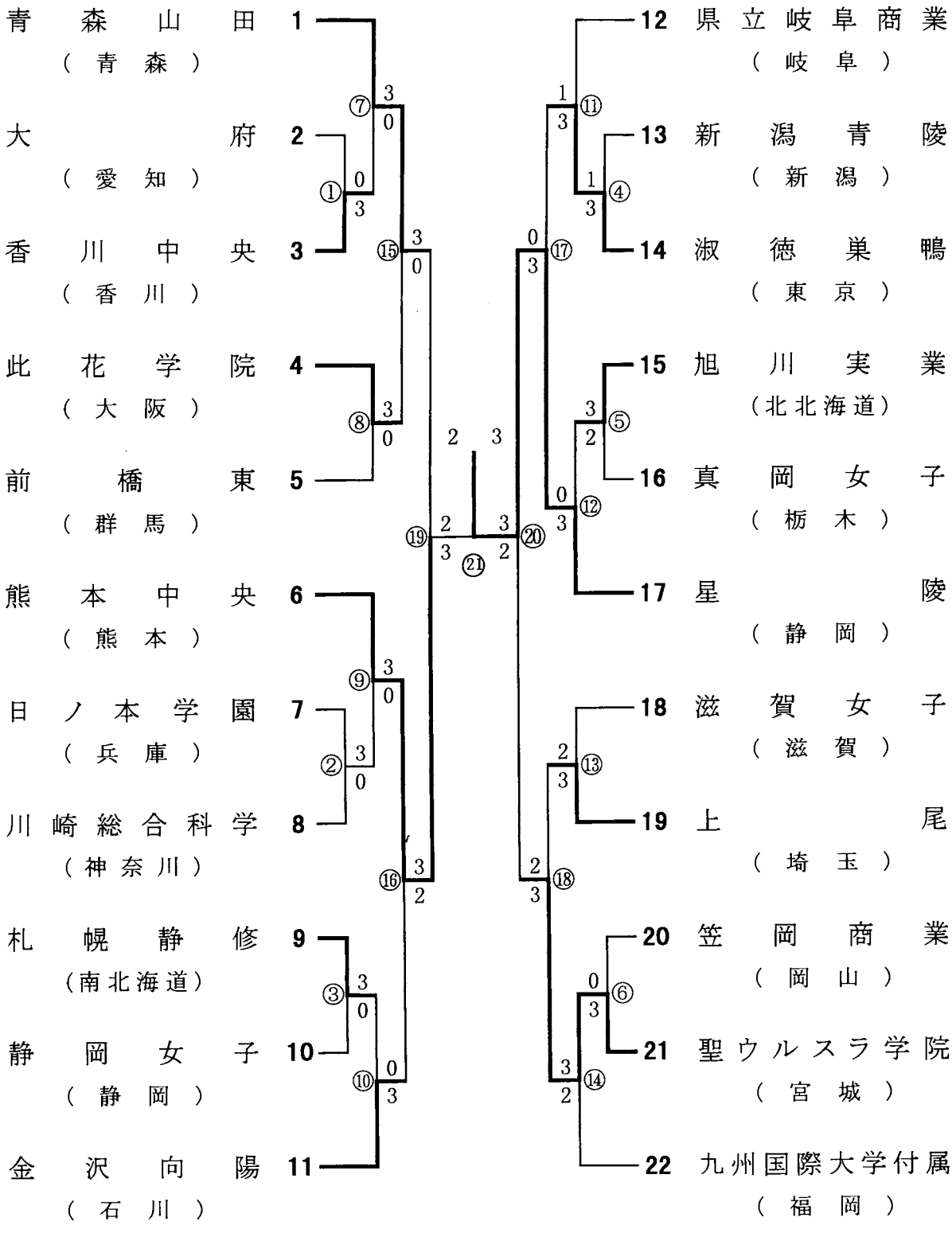
第31回全国高等学校選抜バドミントン大会（2002年度）

期日▶平成15年３月21日～24日
会場▶富士宮市民体育館

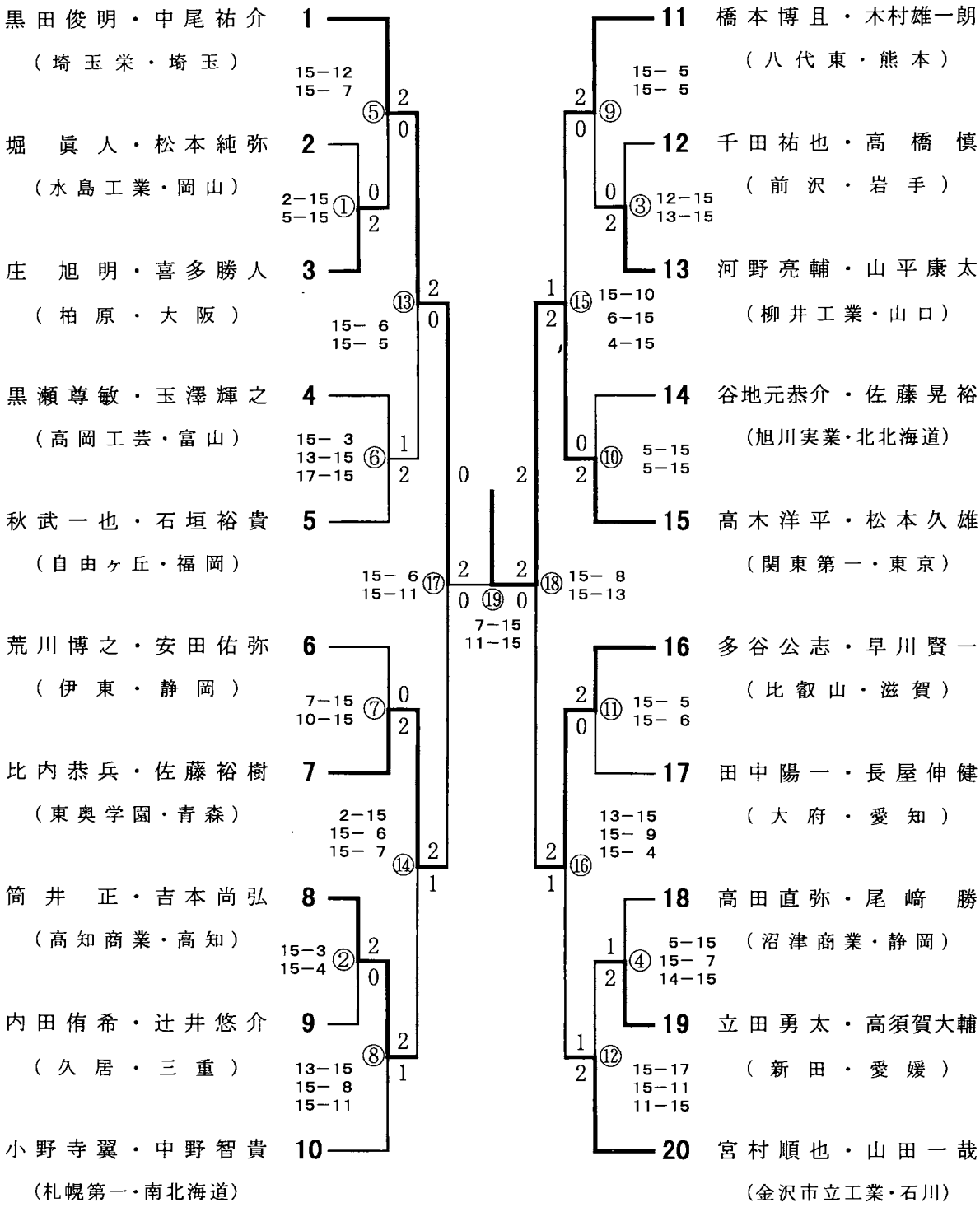
男子団体（21校）



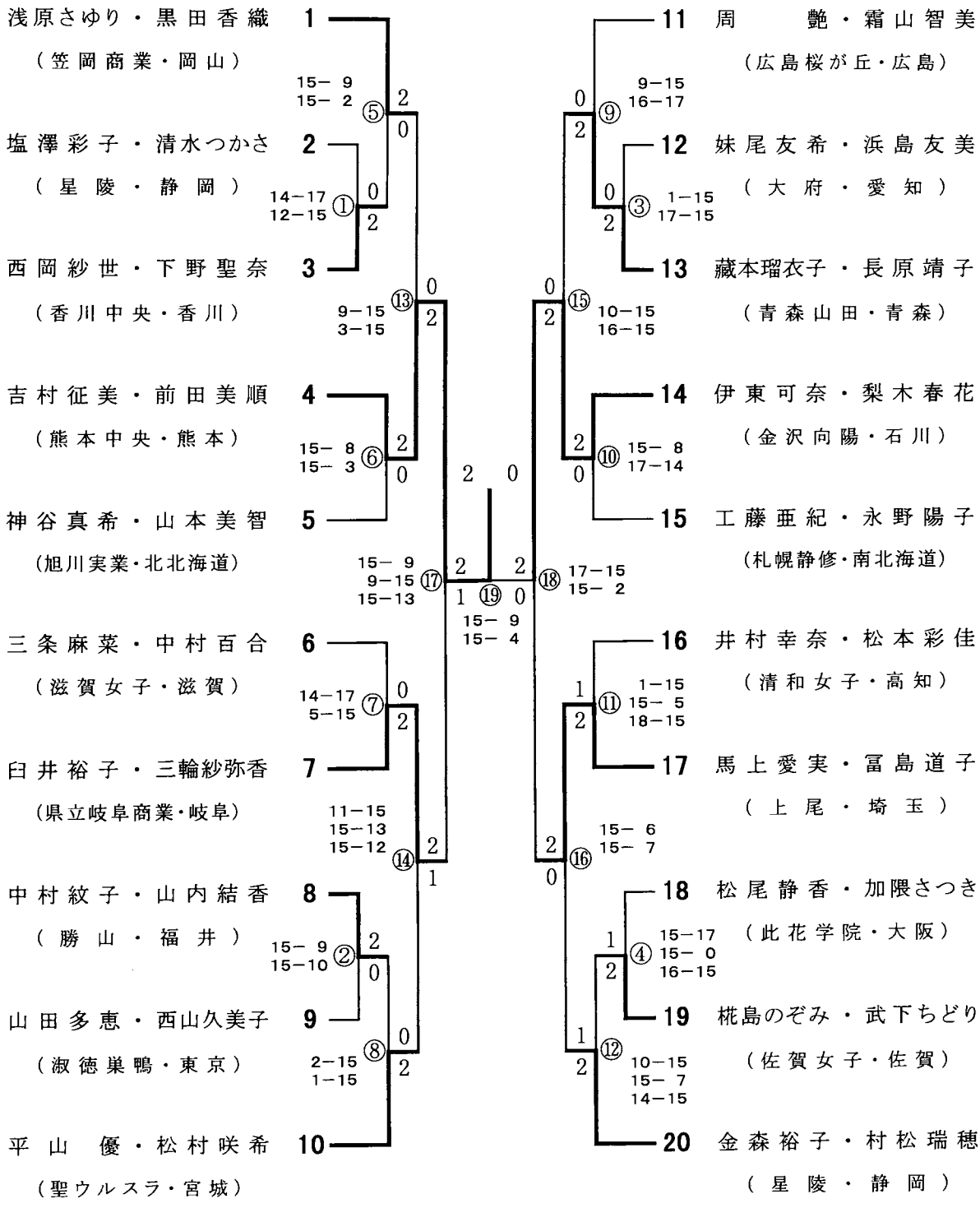
女子団体（22校）


青森山田 1
（青森）
大府 2
（愛知）
香川中央 3
（香川）
此花学院 4
（大阪）
前橋東 5
（群馬）
熊本中央 6
（熊本）
日ノ本学園 7
（兵庫）
川崎総合科学 8
（神奈川）
札幌静修 9
（南北海道）
静岡女子 10
（静岡）
金沢向陽 11
（石川）
12 県立岐阜商業
（岐阜）
13 新潟青陵
（新潟）
14 淑徳巣鴨
（東京）
15 旭川実業
（北北海道）
16 真岡女子
（栃木）
17 星陵
（静岡）
18 滋賀女子
（滋賀）
19 上尾
（埼玉）
20 笠岡商業
（岡山）
21 聖ウルスラ学院
（宮城）
22 九州国際大学付属
（福岡）

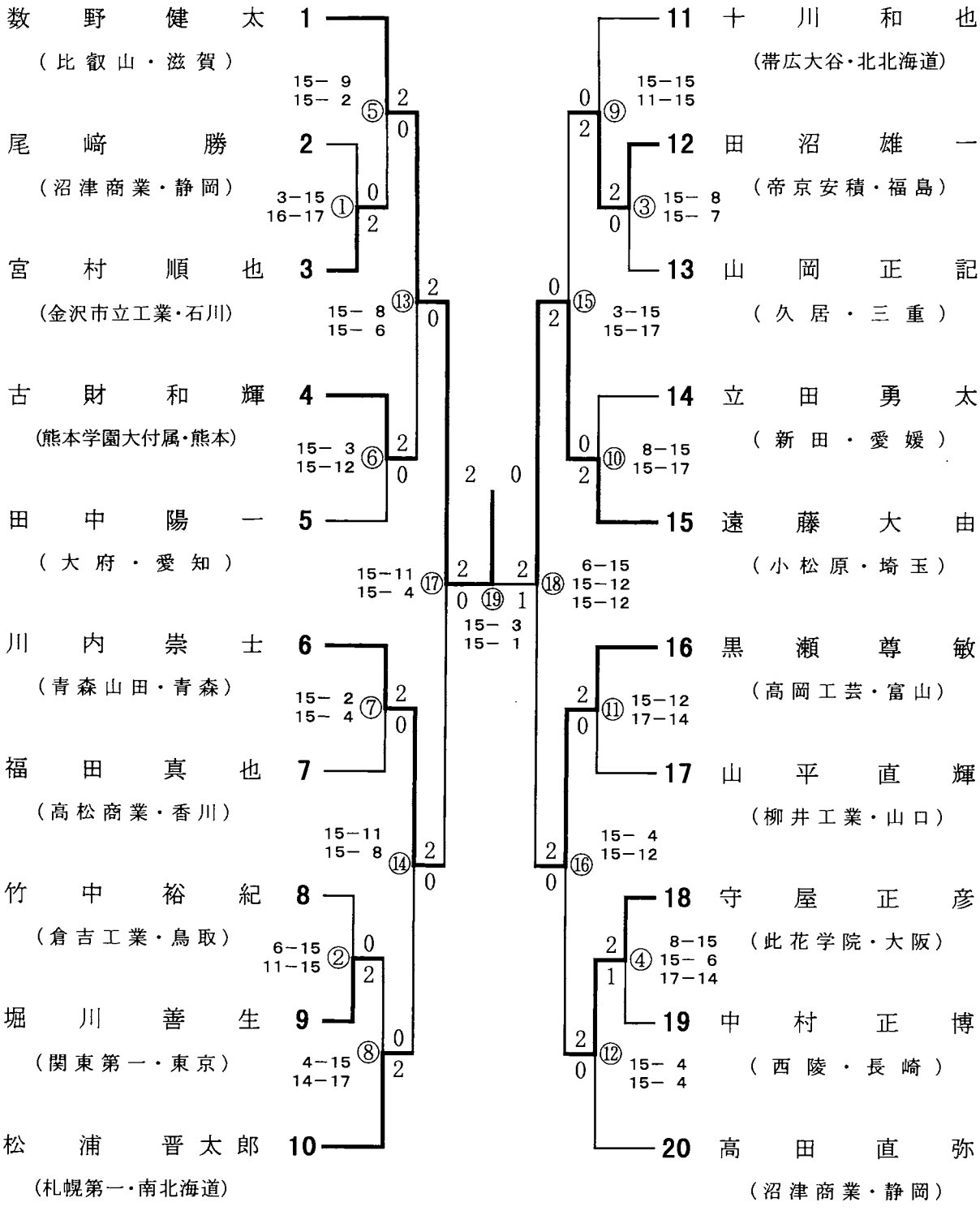
男子ダブルス（20組）


黒田俊明・中尾祐介
（埼玉栄・埼玉）
1
堀　眞人・松本純弥
（水島工業・岡山）
2
庄　旭明・喜多勝人
（柏原・大阪）
3
黒瀬尊敏・玉澤輝之
（高岡工芸・富山）
4
秋武一也・石垣裕貴
（自由ヶ丘・福岡）
5
荒川博之・安田佑弥
（伊東・静岡）
6
比内恭兵・佐藤裕樹
（東奥学園・青森）
7
筒井　正・吉本尚弘
（高知商業・高知）
8
内田侑希・辻井悠介
（久居・三重）
9
小野寺翼・中野智貴
（札幌第一・南北海道）
10
橋本博且・木村雄一朗
（八代東・熊本）
11
千田祐也・高橋慎
（前沢・岩手）
12
河野亮輔・山平康太
（柳井工業・山口）
13
谷地元恭介・佐藤晃裕
（旭川実業・北北海道）
14
高木洋平・松本久雄
（関東第一・東京）
15
多谷公志・早川賢一
（比叡山・滋賀）
16
田中陽一・長屋伸健
（大府・愛知）
17
高田直弥・尾崎勝
（沼津商業・静岡）
18
立田勇太・高須賀大輔
（新田・愛媛）
19
宮村順也・山田一哉
（金沢市立工業・石川）
20
15−12
15− 7
2−15
5−15
15− 6
15− 5
15− 3
13−15
17−15
15− 6
15−11
7−15
10−15
2−15
15− 6
15− 7
15−3
15−4
13−15
15− 8
15−11
7−15
11−15
15− 8
15−13
15− 5
15− 5
12−15
13−15
15−10
6−15
4−15
5−15
5−15
15− 5
15− 6
13−15
15− 9
15− 4
5−15
15− 7
14−15
15−17
15−11
11−15

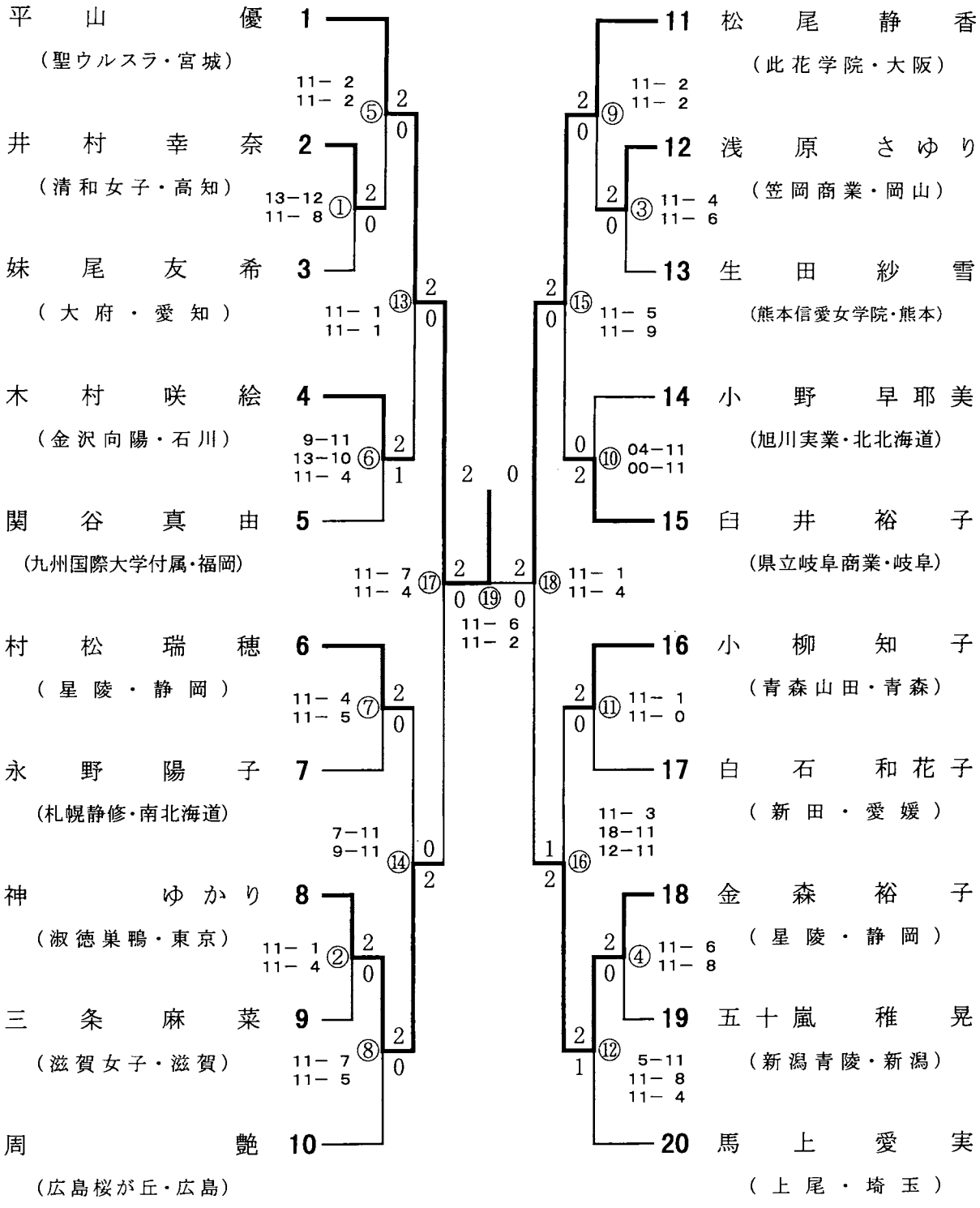
女子ダブルス（20組）


浅原さゆり・黒田香織
1
（笠岡商業・岡山）
塩澤彩子・清水つかさ
2
（星陵・静岡）
西岡紗世・下野聖奈
3
（香川中央・香川）
吉村征美・前田美順
4
（熊本中央・熊本）
神谷真希・山本美智
5
（旭川実業・北北海道）
三条麻菜・中村百合
6
（滋賀女子・滋賀）
臼井裕子・三輪紗弥香
7
（県立岐阜商業・岐阜）
中村紋子・山内結香
8
（勝山・福井）
山田多恵・西山久美子
9
（淑徳巣鴨・東京）
平山優・松村咲希
10
（聖ウルスラ・宮城）
11
周艶・霜山智美
（広島桜が丘・広島）
12
妹尾友希・浜島友美
（大府・愛知）
13
藏本瑠衣子・長原靖子
（青森山田・青森）
14
伊東可奈・梨木春花
（金沢向陽・石川）
15
工藤亜紀・永野陽子
（札幌静修・南北海道）
16
井村幸奈・松本彩佳
（清和女子・高知）
17
馬上愛実・冨島道子
（上尾・埼玉）
18
松尾静香・加隈さつき
（此花学院・大阪）
19
桃島のぞみ・武下ちどり
（佐賀女子・佐賀）
20
金森裕子・村松瑞穂
（星陵・静岡）
15− 9
15− 2
14−17
12−15
9−15
3−15
15− 8
15− 3
15− 9
9−15
15−13
14−17
5−15
11−15
15−13
15−12
15− 9
15− 2
2−15
1−15
9−15
16−17
1−15
17−15
10−15
16−15
15− 8
17−14
17−15
15− 2
15− 9
15− 4
1−15
15− 5
18−15
15− 6
15− 7
15−17
15− 0
16−15
10−15
15− 7
14−15

男子シングルス（20名）


1 数野健太（比叡山・滋賀）
2 尾崎勝（沼津商業・静岡）
3 宮村順也（金沢市立工業・石川）
4 古財和輝（熊本学園大付属・熊本）
5 田中陽一（大府・愛知）
6 川内崇士（青森山田・青森）
7 福田真也（高松商業・香川）
8 竹中裕紀（倉吉工業・鳥取）
9 堀川善生（関東第一・東京）
10 松浦晋太郎（札幌第一・南北海道）
11 十川和也（帯広大谷・北北海道）
12 田沼雄一（帝京安積・福島）
13 山岡正記（久居・三重）
14 立田勇太（新田・愛媛）
15 遠藤大由（小松原・埼玉）
16 黒瀬尊敏（高岡工芸・富山）
17 山平直輝（柳井工業・山口）
18 守屋正彦（此花学院・大阪）
19 中村正博（西陵・長崎）
20 高田直弥（沼津商業・静岡）
15－9 15－2
3－15 16－17
15－8 15－6
15－3 15－12
15－11 15－4
15－2 15－4
15－11 15－8
6－15 11－15
4－15 14－17
15－15 11－15
15－8 15－7
3－15 15－17
8－15 15－17
6－15 15－12 15－12
15－12 17－14
15－4 15－12
8－15 15－6 17－14
15－4 15－4
15－3 15－1

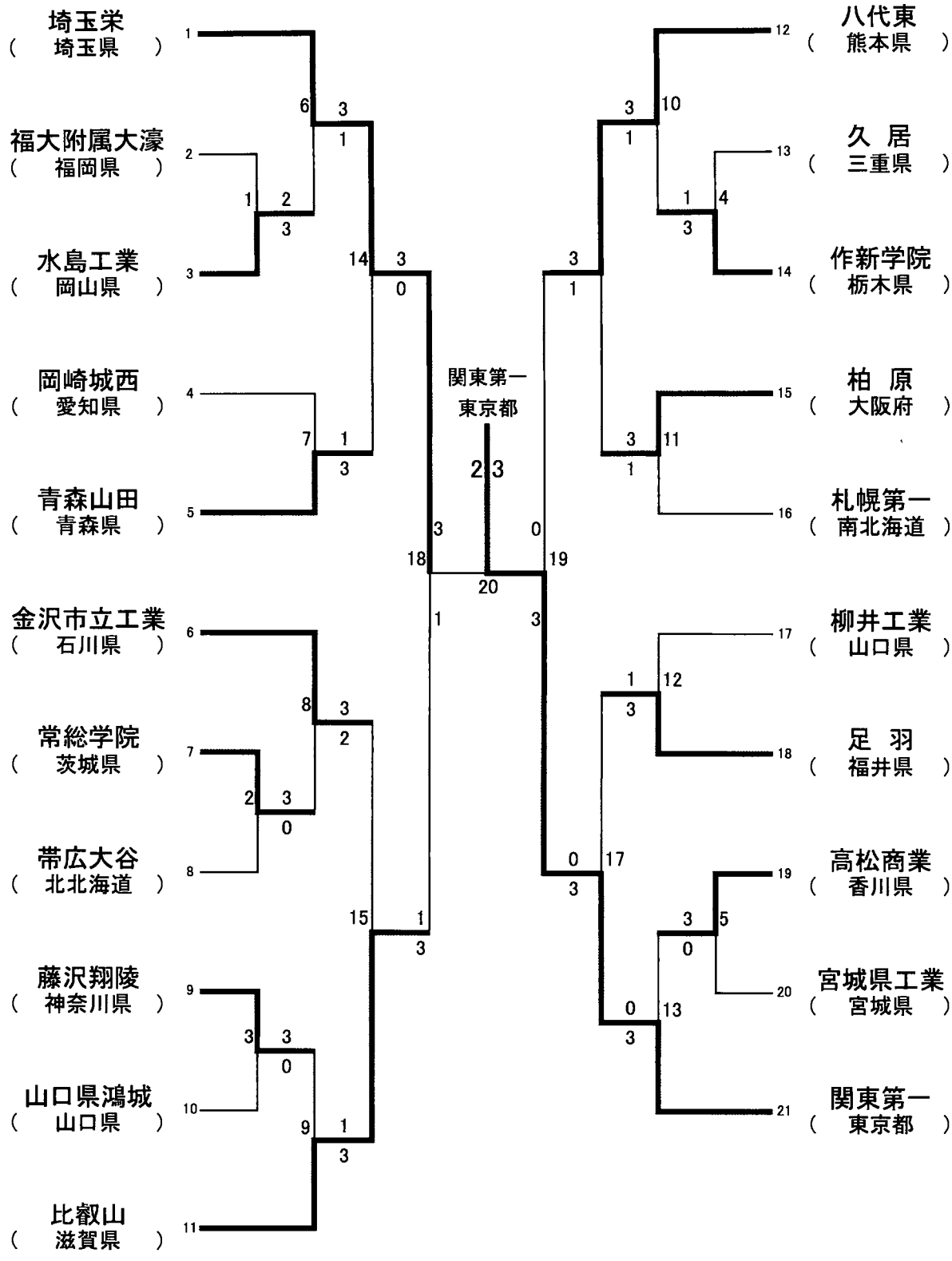
女子シングルス（20名）


平山 優 1
（聖ウルスラ・宮城）
井村 幸奈 2
（清和女子・高知）
妹尾 友希 3
（大府・愛知）
木村 咲絵 4
（金沢向陽・石川）
関谷 真由 5
（九州国際大学付属・福岡）
村松 瑞穂 6
（星陵・静岡）
永野 陽子 7
（札幌静修・南北海道）
神 ゆかり 8
（淑徳巣鴨・東京）
三条 麻菜 9
（滋賀女子・滋賀）
周 艶 10
（広島桜が丘・広島）
11 松尾 静香
（此花学院・大阪）
12 浅原 さゆり
（笠岡商業・岡山）
13 生田 紗雪
（熊本信愛女学院・熊本）
14 小野 早耶美
（旭川実業・北北海道）
15 臼井 裕子
（県立岐阜商業・岐阜）
16 小柳 知子
（青森山田・青森）
17 白石 和花子
（新田・愛媛）
18 金森 裕子
（星陵・静岡）
19 五十嵐 稚晃
（新潟青陵・新潟）
20 馬上 愛実
（上尾・埼玉）
11- 2
11- 2
⑤
13-12
11- 8
①
11- 1
11- 1
⑬
9-11
13-10
11- 4
⑥
11- 7
11- 4
⑰
11- 4
11- 5
⑦
7-11
9-11
⑭
11- 1
11- 4
②
11- 7
11- 5
⑧
11- 2
11- 2
⑨
11- 4
11- 6
③
11- 5
11- 9
⑮
04-11
00-11
⑩
11- 1
11- 4
⑱
11- 6
11- 2
⑲
11- 1
11- 0
⑪
11- 3
18-11
12-11
⑯
11- 6
11- 8
④
5-11
11- 8
11- 4
⑫

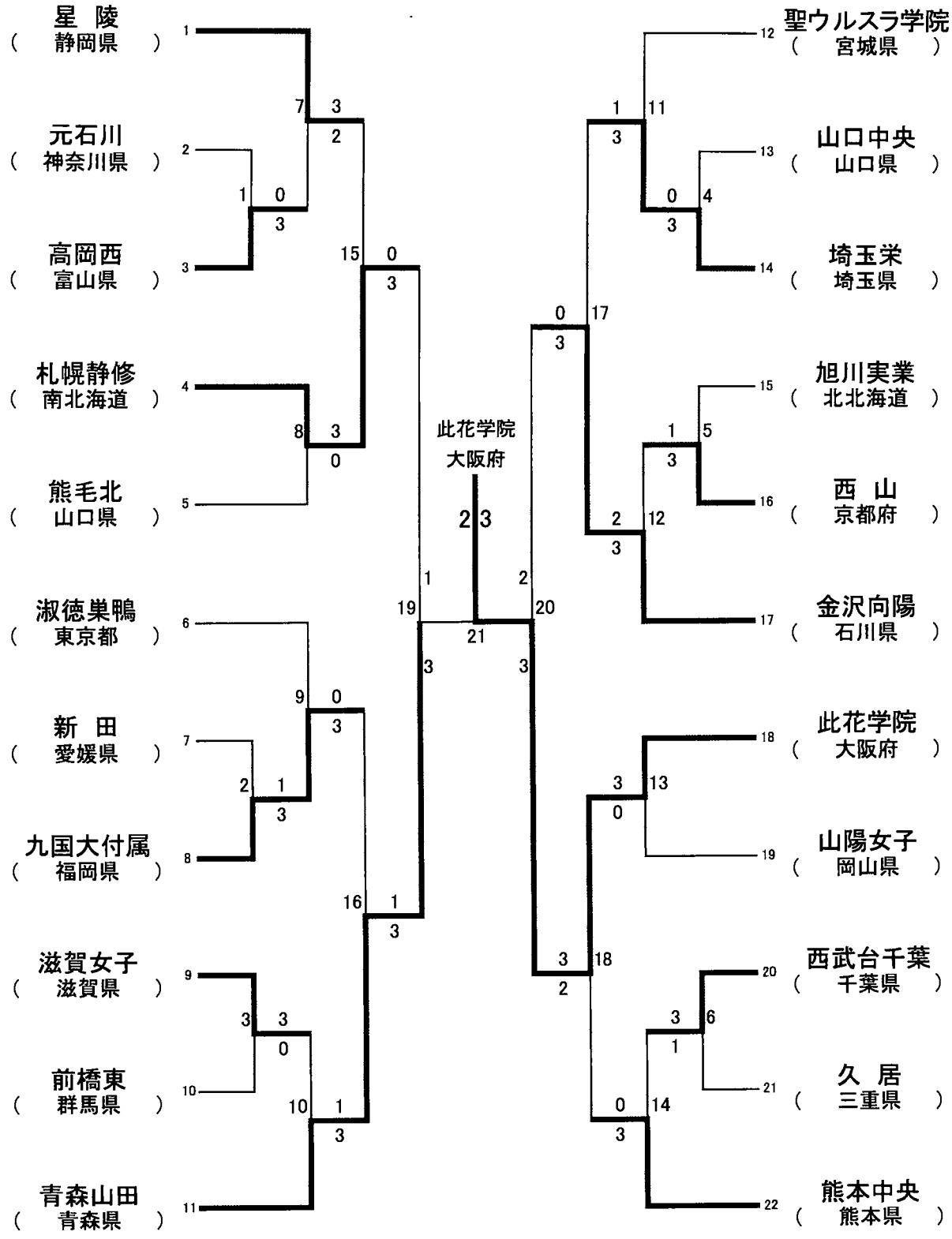
第32回全国高等学校選抜バドミントン大会（2003年度）

期日▶平成16年３月25日～28日
会場▶山口市民会館・山口県維新百年記念公園山口県スポーツ文化センター

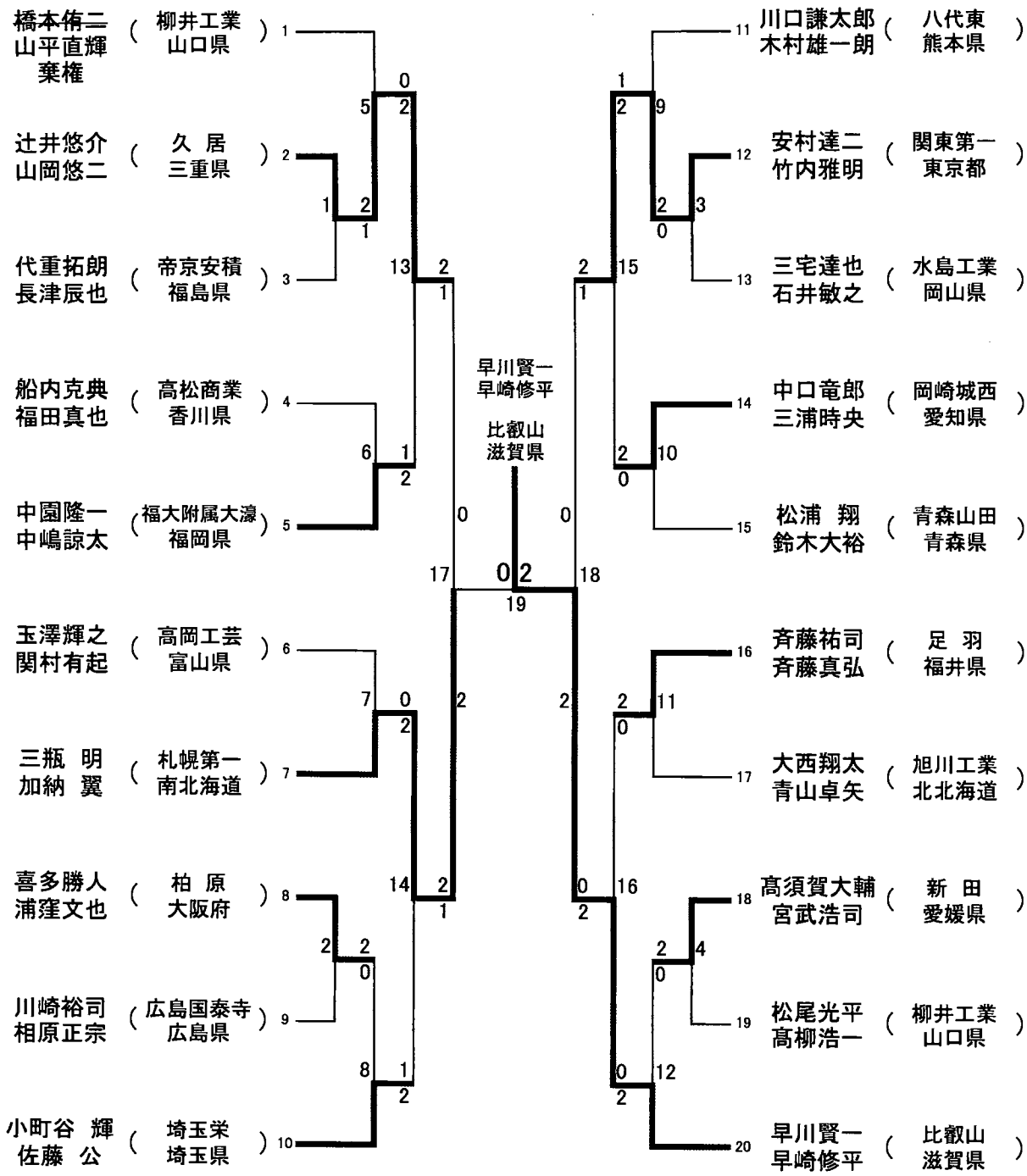
男 子 団 体（21校）



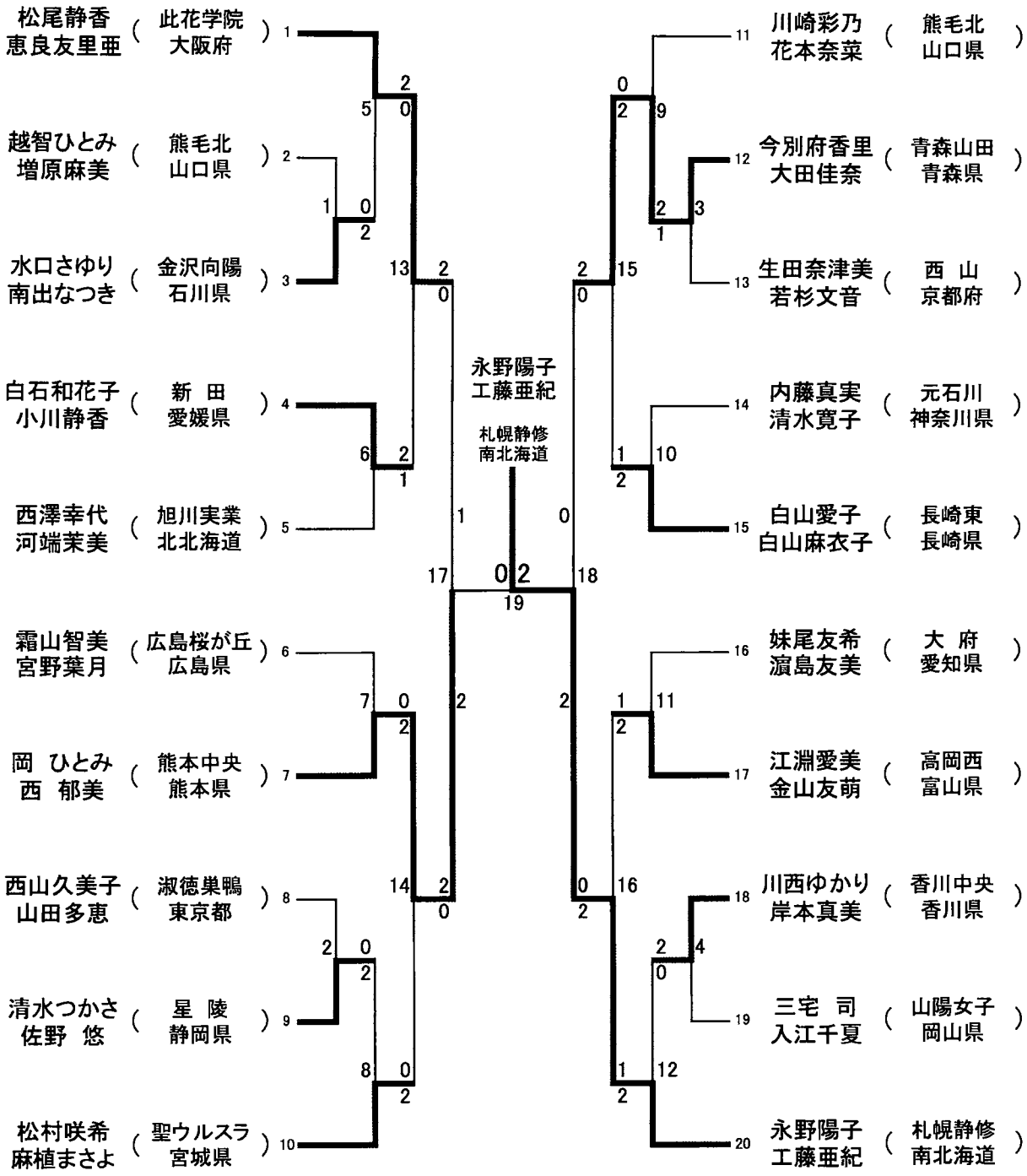
女 子 団 体 (22校)


星 陵
(静岡県)
元石川
(神奈川県)
高岡西
(富山県)
札幌静修
(南北海道)
熊毛北
(山口県)
淑徳巣鴨
(東京都)
新 田
(愛媛県)
九国大付属
(福岡県)
滋賀女子
(滋賀県)
前橋東
(群馬県)
青森山田
(青森県)
聖ウルスラ学院
(宮城県)
山口中央
(山口県)
埼玉栄
(埼玉県)
旭川実業
(北北海道)
西 山
(京都府)
金沢向陽
(石川県)
此花学院
(大阪府)
山陽女子
(岡山県)
西武台千葉
(千葉県)
久 居
(三重県)
熊本中央
(熊本県)
此花学院
大阪府
2 3

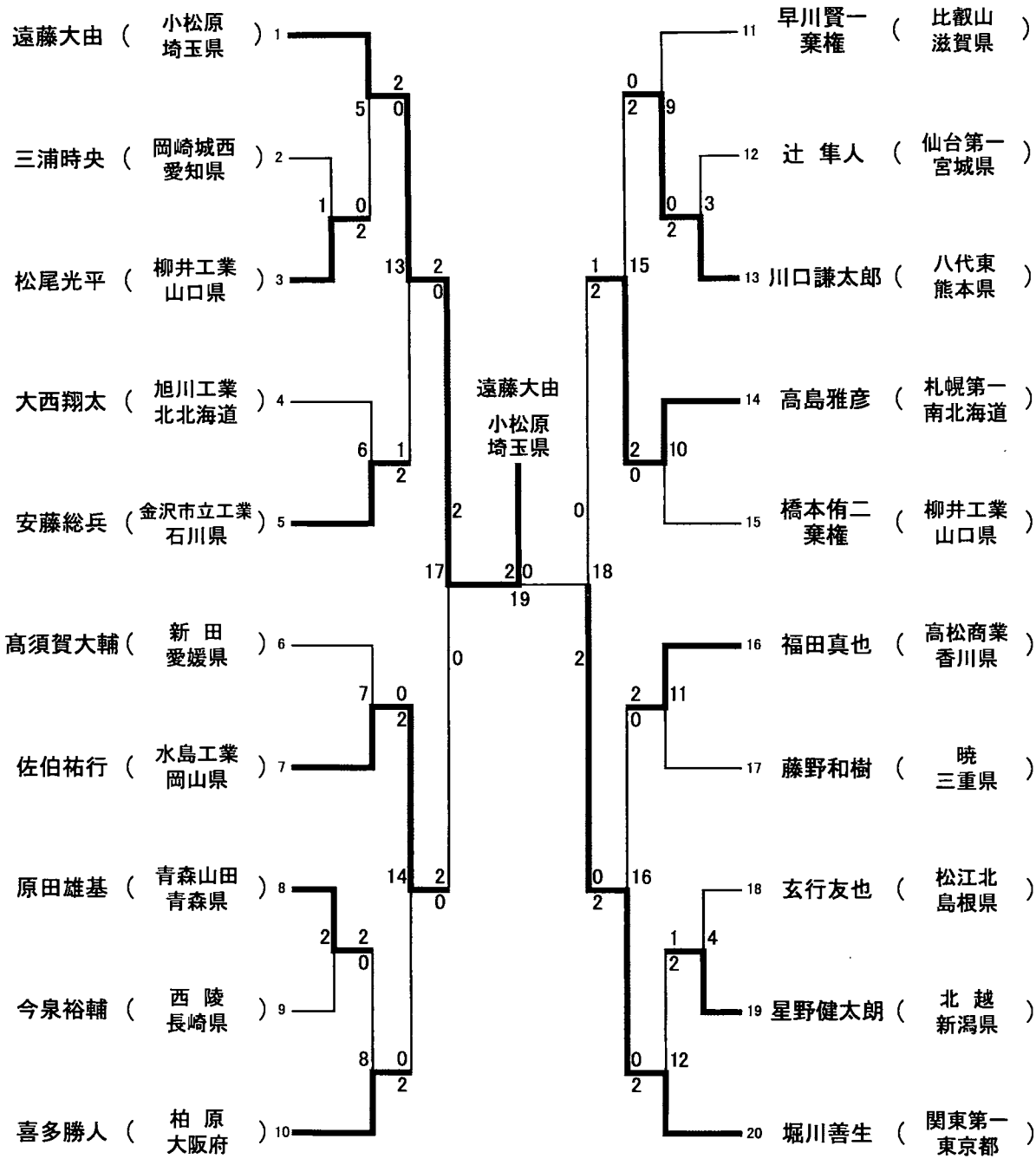
男子ダブルス（20組）


橋本侑二 山平直輝 棄権 （柳井工業 山口県） 1
辻井悠介 山岡悠二 （久居 三重県） 2
代重拓朗 長津辰也 （帝京安積 福島県） 3
船内克典 福田真也 （高松商業 香川県） 4
中園隆一 中嶋諒太 （福大附属大濠 福岡県） 5
玉澤輝之 関村有起 （高岡工芸 富山県） 6
三瓶 明 加納 翼 （札幌第一 南北海道） 7
喜多勝人 浦窪文也 （柏 原 大阪府） 8
川崎裕司 相原正宗 （広島国泰寺 広島県） 9
小町谷 輝 佐藤 公 （埼玉栄 埼玉県） 10
川口謙太郎 木村雄一朗 （八代東 熊本県） 11
安村達二 竹内雅明 （関東第一 東京都） 12
三宅達也 石井敏之 （水島工業 岡山県） 13
中口竜郎 三浦時央 （岡崎城西 愛知県） 14
松浦 翔 鈴木大裕 （青森山田 青森県） 15
斉藤祐司 斉藤真弘 （足 羽 福井県） 16
大西翔太 青山卓矢 （旭川工業 北北海道） 17
髙須賀大輔 宮武浩司 （新 田 愛媛県） 18
松尾光平 髙柳浩一 （柳井工業 山口県） 19
早川賢一 早崎修平 （比叡山 滋賀県） 20
早川賢一 早崎修平 比叡山 滋賀県

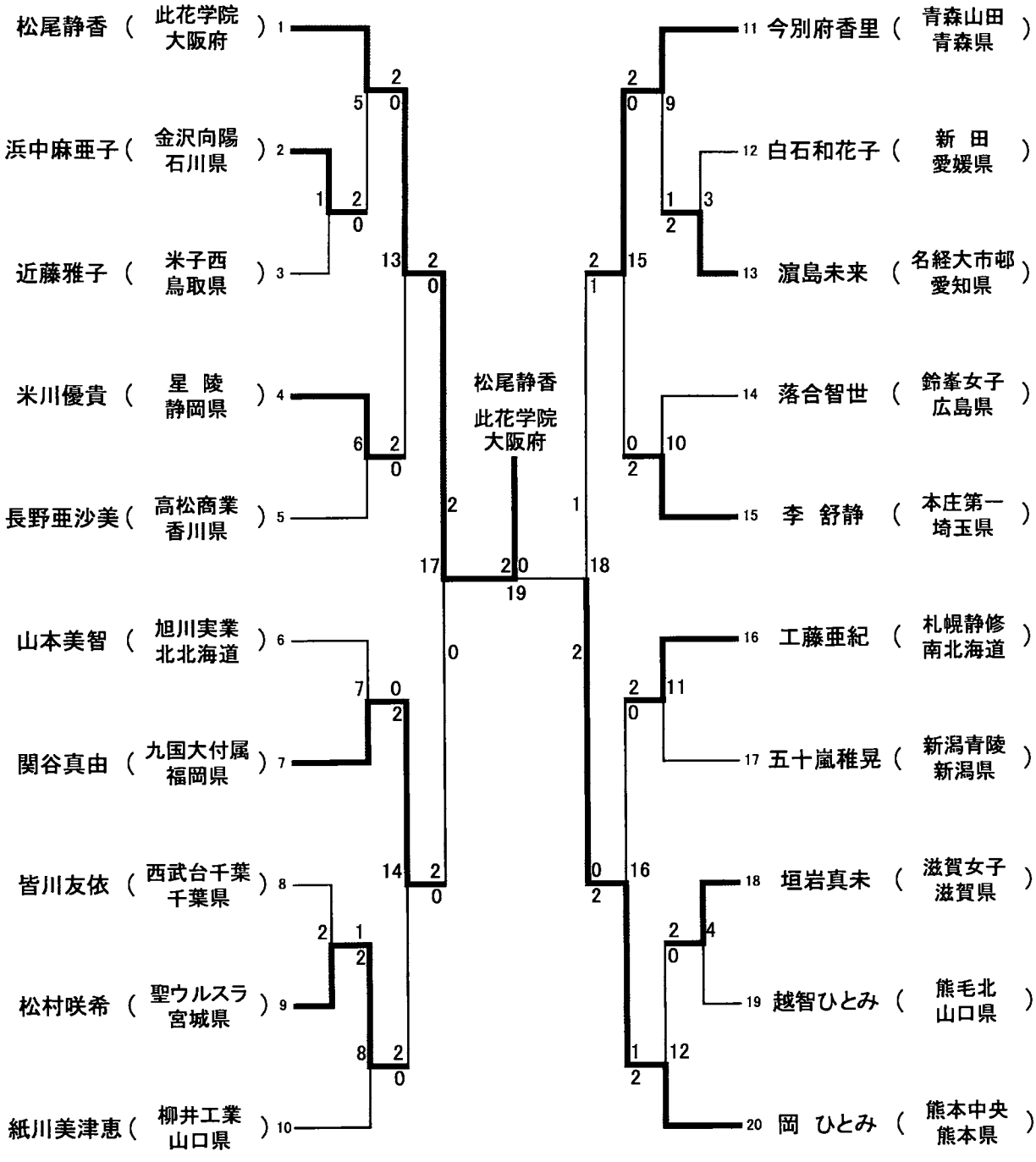
女子ダブルス（20組）


松尾静香 恵良友里亜 (此花学院 大阪府) 1
越智ひとみ 増原麻美 (熊毛北 山口県) 2
水口さゆり 南出なつき (金沢向陽 石川県) 3
白石和花子 小川静香 (新 田 愛媛県) 4
西澤幸代 河端茉美 (旭川実業 北北海道) 5
霜山智美 宮野葉月 (広島桜が丘 広島県) 6
岡 ひとみ 西 郁美 (熊本中央 熊本県) 7
西山久美子 山田多恵 (淑徳巣鴨 東京都) 8
清水つかさ 佐野 悠 (星 陵 静岡県) 9
松村咲希 麻植まさよ (聖ウルスラ 宮城県) 10
川崎彩乃 花本奈菜 (熊毛北 山口県) 11
今別府香里 大田佳奈 (青森山田 青森県) 12
生田奈津美 若杉文音 (西 山 京都府) 13
内藤真実 清水寛子 (元石川 神奈川県) 14
白山愛子 白山麻衣子 (長崎東 長崎県) 15
妹尾友希 濵島友美 (大 府 愛知県) 16
江淵愛美 金山友萌 (高岡西 富山県) 17
川西ゆかり 岸本真美 (香川中央 香川県) 18
三宅 司 入江千夏 (山陽女子 岡山県) 19
永野陽子 工藤亜紀 (札幌静修 南北海道) 20
永野陽子 工藤亜紀
札幌静修
南北海道

男子シングルス（20名）


遠藤大由 (小松原 埼玉県) 1
三浦時央 (岡崎城西 愛知県) 2
松尾光平 (柳井工業 山口県) 3
大西翔太 (旭川工業 北北海道) 4
安藤総兵 (金沢市立工業 石川県) 5
髙須賀大輔 (新 田 愛媛県) 6
佐伯祐行 (水島工業 岡山県) 7
原田雄基 (青森山田 青森県) 8
今泉裕輔 (西 陵 長崎県) 9
喜多勝人 (柏 原 大阪府) 10
早川賢一 葉権 (比叡山 滋賀県) 11
辻 隼人 (仙台第一 宮城県) 12
川口謙太郎 (八代東 熊本県) 13
高島雅彦 (札幌第一 南北海道) 14
橋本侑二 葉権 (柳井工業 山口県) 15
福田真也 (高松商業 香川県) 16
藤野和樹 (暁 三重県) 17
玄行友也 (松江北 島根県) 18
星野健太朗 (北 越 新潟県) 19
堀川善生 (関東第一 東京都) 20
遠藤大由
小松原
埼玉県

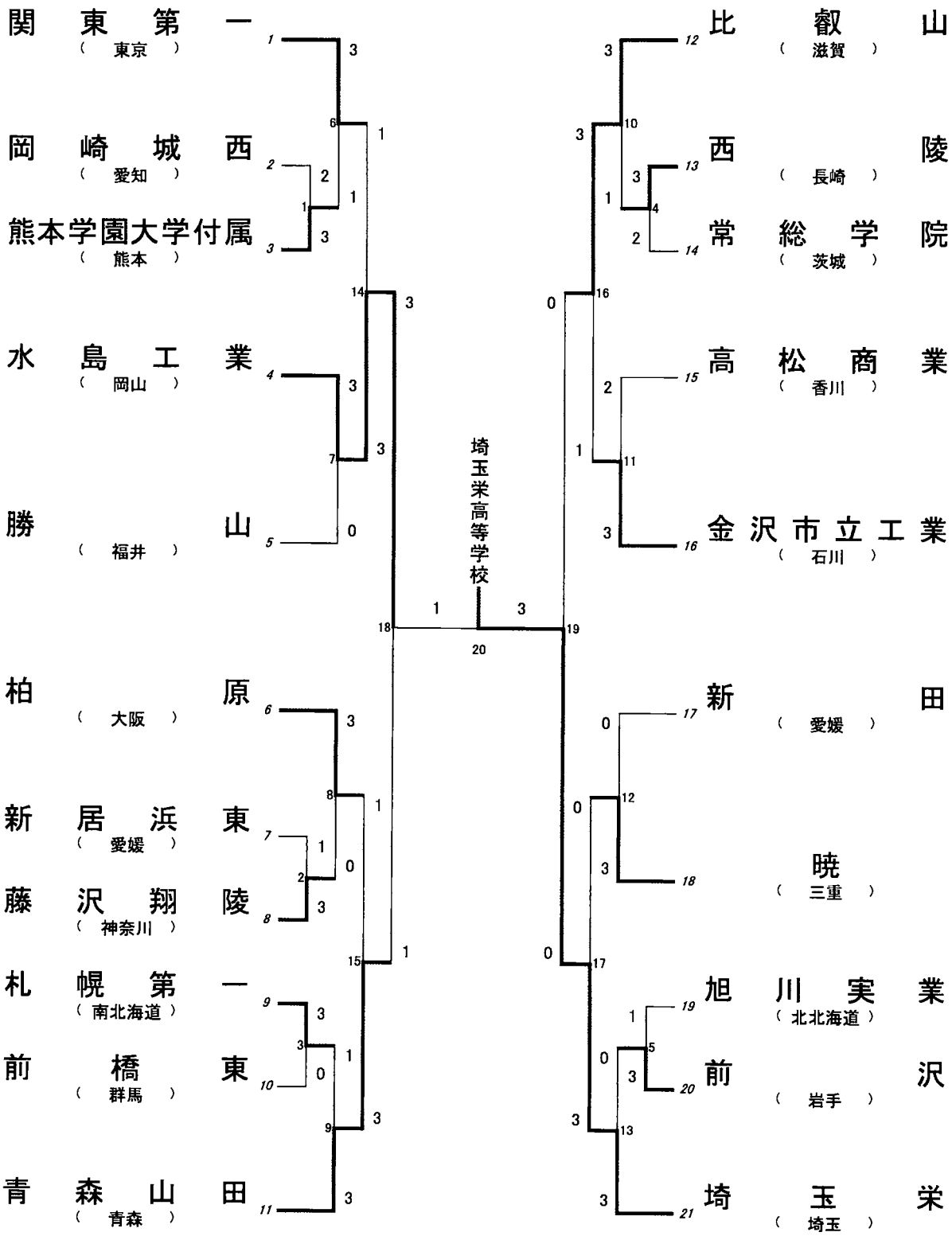
女子シングルス（20名）


松尾静香 (此花学院 大阪府) 1
浜中麻亜子 (金沢向陽 石川県) 2
近藤雅子 (米子西 鳥取県) 3
米川優貴 (星 陵 静岡県) 4
長野亜沙美 (高松商業 香川県) 5
山本美智 (旭川実業 北北海道) 6
関谷真由 (九国大付属 福岡県) 7
皆川友依 (西武台千葉 千葉県) 8
松村咲希 (聖ウルスラ 宮城県) 9
紙川美津恵 (柳井工業 山口県) 10
11 今別府香里 (青森山田 青森県)
12 白石和花子 (新 田 愛媛県)
13 濵島未来 (名経大市邨 愛知県)
14 落合智世 (鈴峯女子 広島県)
15 李 舒静 (本庄第一 埼玉県)
16 工藤亜紀 (札幌静修 南北海道)
17 五十嵐稚晃 (新潟青陵 新潟県)
18 垣岩真未 (滋賀女子 滋賀県)
19 越智ひとみ (熊毛北 山口県)
20 岡 ひとみ (熊本中央 熊本県)
松尾静香
此花学院
大阪府

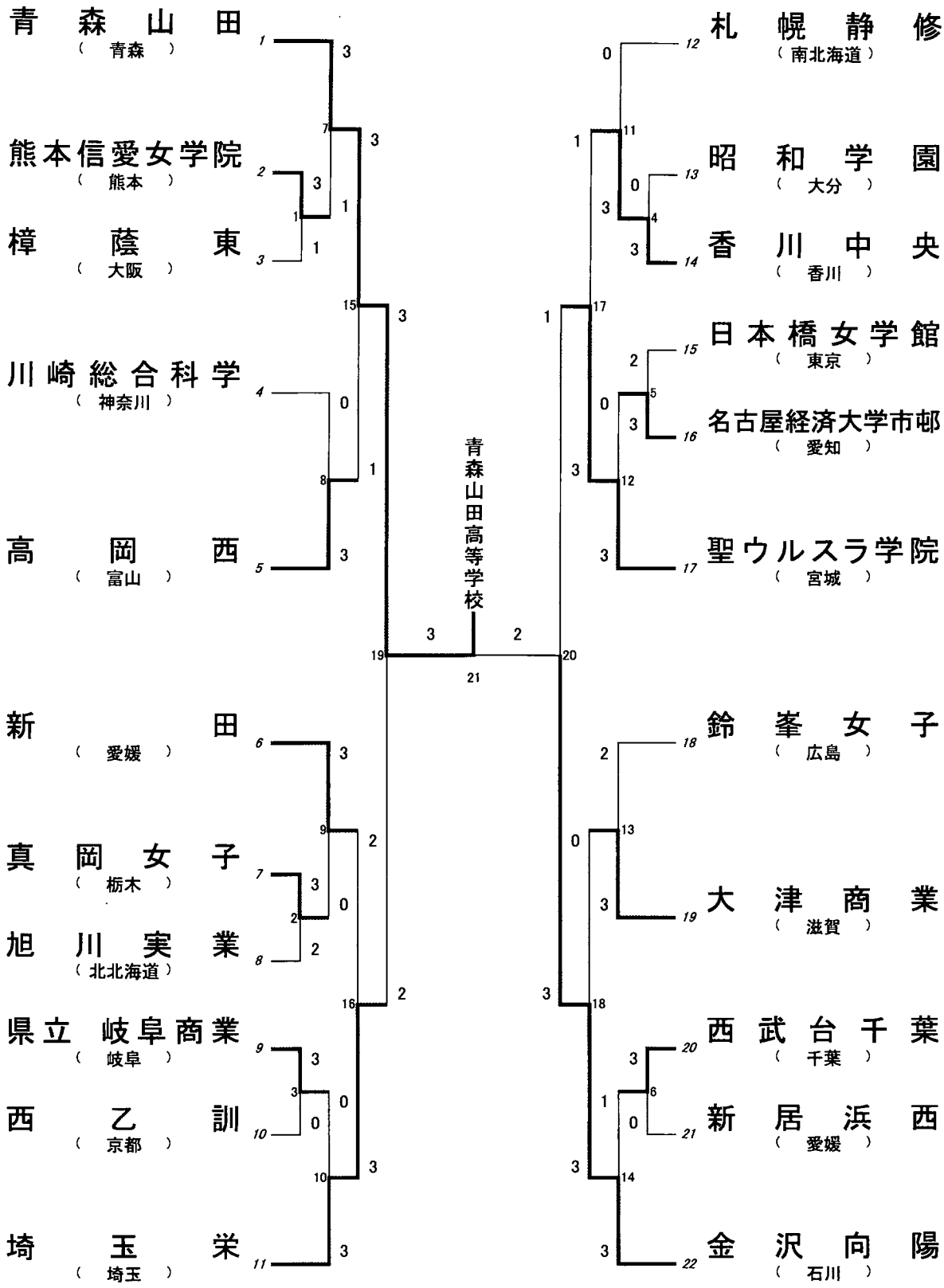
第33回全国高等学校選抜バドミントン大会（2004年度）

期日▶平成17年３月24日～27日
会場▶松山市総合コミュニティーセンター体育館

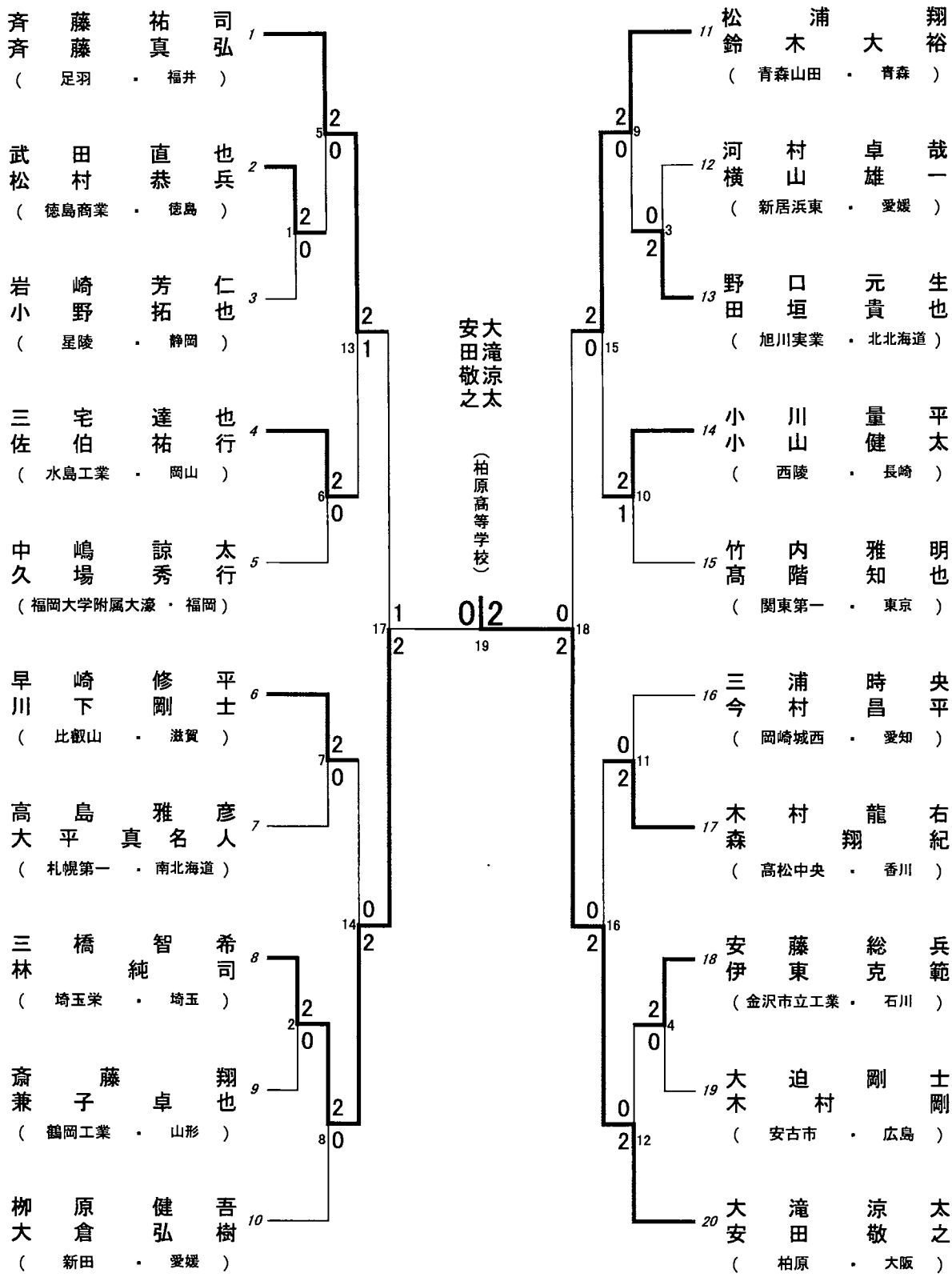
男子団体（21校）



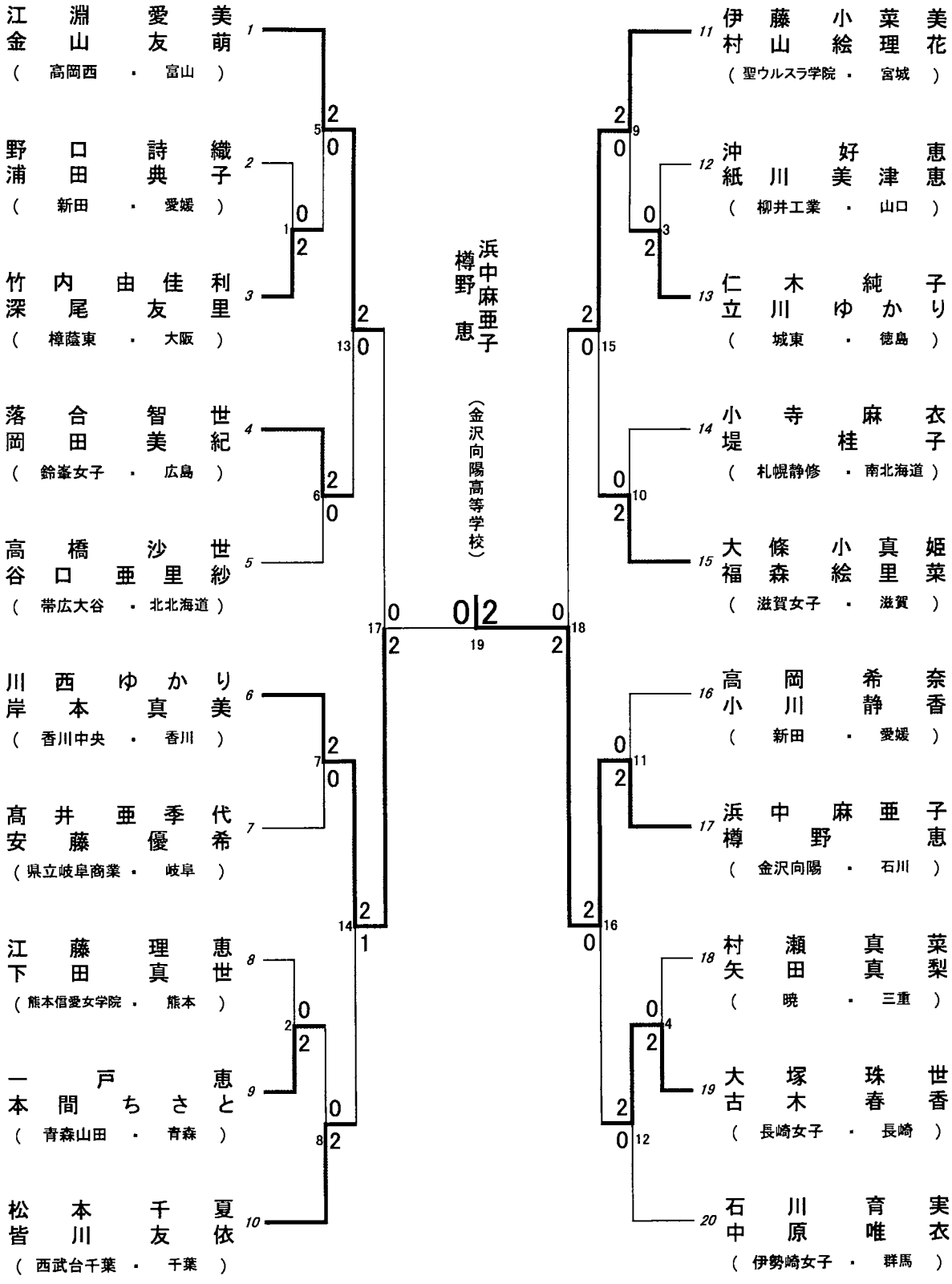
女子団体（22校）


青森山田（青森）
熊本信愛女学院（熊本）
樟蔭東（大阪）
川崎総合科学（神奈川）
高岡西（富山）
新田（愛媛）
真岡女子（栃木）
旭川実業（北北海道）
県立岐阜商業（岐阜）
西乙訓（京都）
埼玉栄（埼玉）
札幌静修（南北海道）
昭和学園（大分）
香川中央（香川）
日本橋女学館（東京）
名古屋経済大学市邨（愛知）
聖ウルスラ学院（宮城）
鈴峯女子（広島）
大津商業（滋賀）
西武台千葉（千葉）
新居浜西（愛媛）
金沢向陽（石川）
青森山田高等学校

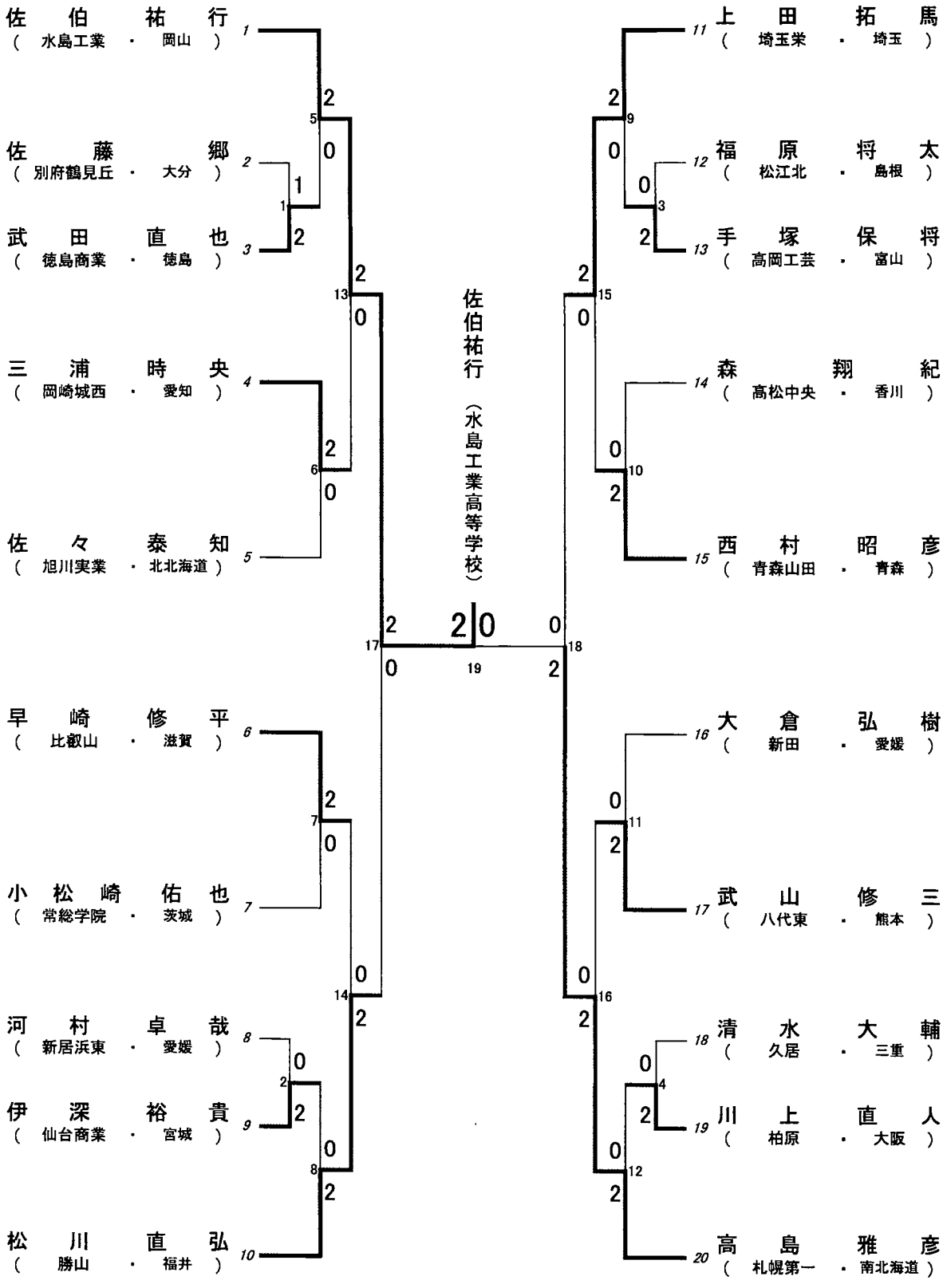
男子ダブルス（20組）


斉藤 祐司
斉藤 真弘
（ 足羽 ・ 福井 ）
武田 直也
松村 恭兵
（ 徳島商業 ・ 徳島 ）
岩崎 芳仁
小野 拓也
（ 星陵 ・ 静岡 ）
三宅 達也
佐伯 祐行
（ 水島工業 ・ 岡山 ）
中嶋 諒太
久場 秀行
（福岡大学附属大濠 ・ 福岡）
早崎 修平
川下 剛士
（ 比叡山 ・ 滋賀 ）
高島 雅彦
大平 真名人
（ 札幌第一 ・ 南北海道 ）
三橋 智希
林 純司
（ 埼玉栄 ・ 埼玉 ）
斎藤 翔
兼子 卓也
（ 鶴岡工業 ・ 山形 ）
栁原 健吾
大倉 弘樹
（ 新田 ・ 愛媛 ）
松浦 翔
鈴木 大裕
（ 青森山田 ・ 青森 ）
河村 卓哉
横山 雄一
（ 新居浜東 ・ 愛媛 ）
野口 元生
田垣 貴也
（ 旭川実業 ・ 北北海道 ）
小川 量平
小山 健太
（ 西陵 ・ 長崎 ）
竹内 雅明
髙階 知也
（ 関東第一 ・ 東京 ）
三浦 時央
今村 昌平
（ 岡崎城西 ・ 愛知 ）
木村 龍右
森 翔紀
（ 高松中央 ・ 香川 ）
安藤 総兵
伊東 克範
（金沢市立工業 ・ 石川 ）
大迫 剛士
木村 剛
（ 安古市 ・ 広島 ）
大滝 涼太
安田 敬之
（ 柏原 ・ 大阪 ）
大滝涼太
安田敬之
（柏原高等学校）

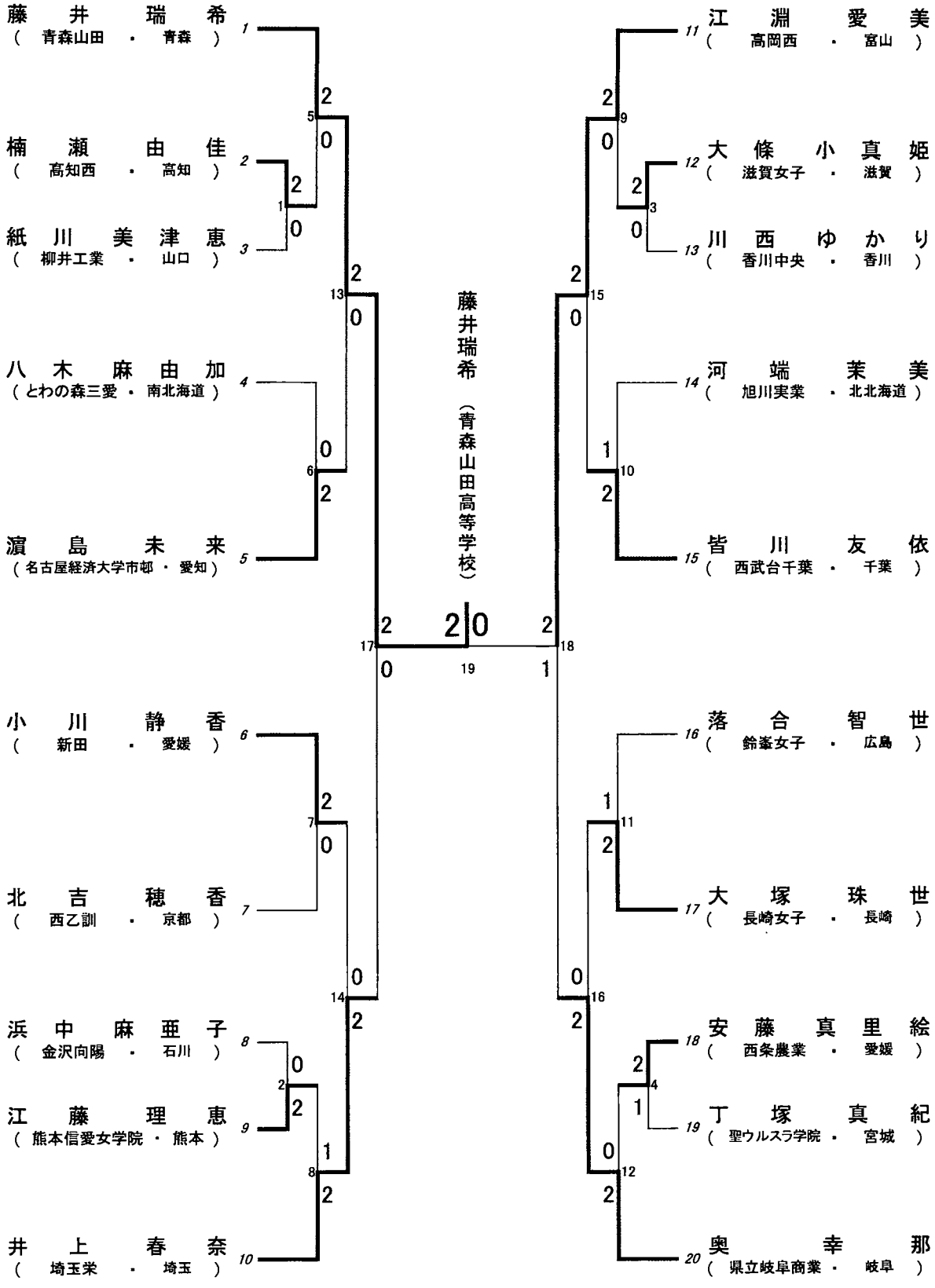
女子ダブルス（20組）


江淵 愛美
金山 友萌
（高岡西・富山）
野口 詩織
浦田 典子
（新田・愛媛）
竹内 由佳利
深尾 友里
（樟蔭東・大阪）
落合 智世
岡田 美紀
（鈴峯女子・広島）
高橋 沙世
谷口 亜里紗
（帯広大谷・北北海道）
川西 ゆかり
岸本 真美
（香川中央・香川）
髙井 亜季代
安藤 優希
（県立岐阜商業・岐阜）
江藤 理恵
下田 真世
（熊本信愛女学院・熊本）
一戸 恵
本間 ちさと
（青森山田・青森）
松本 千夏
皆川 友依
（西武台千葉・千葉）
伊藤 小菜美
村山 絵理花
（聖ウルスラ学院・宮城）
沖 好恵
紙川 美津恵
（柳井工業・山口）
仁木 純子
立川 ゆかり
（城東・徳島）
小寺 麻衣
堤 桂子
（札幌静修・南北海道）
大條 小真姫
福森 絵里菜
（滋賀女子・滋賀）
高岡 希奈
小川 静香
（新田・愛媛）
浜中 麻亜子
樽野 恵
（金沢向陽・石川）
村瀬 真菜
矢田 真梨
（暁・三重）
大塚 珠世
古木 春香
（長崎女子・長崎）
石川 育実
中原 唯衣
（伊勢崎女子・群馬）
浜中麻亜子
樽野恵
（金沢向陽高等学校）

男子シングルス（20名）


佐伯祐行（水島工業高等学校）
佐伯　祐行（水島工業・岡山）
佐藤　郷（別府鶴見丘・大分）
武田　直也（徳島商業・徳島）
三浦　時央（岡崎城西・愛知）
佐々　泰知（旭川実業・北北海道）
早崎　修平（比叡山・滋賀）
小松崎　佑也（常総学院・茨城）
河村　卓哉（新居浜東・愛媛）
伊深　裕貴（仙台商業・宮城）
松川　直弘（勝山・福井）
上田　拓馬（埼玉栄・埼玉）
福原　将太（松江北・島根）
手塚　保将（高岡工芸・富山）
森　翔紀（高松中央・香川）
西村　昭彦（青森山田・青森）
大倉　弘樹（新田・愛媛）
武山　修三（八代東・熊本）
清水　大輔（久居・三重）
川上　直人（柏原・大阪）
高島　雅彦（札幌第一・南北海道）

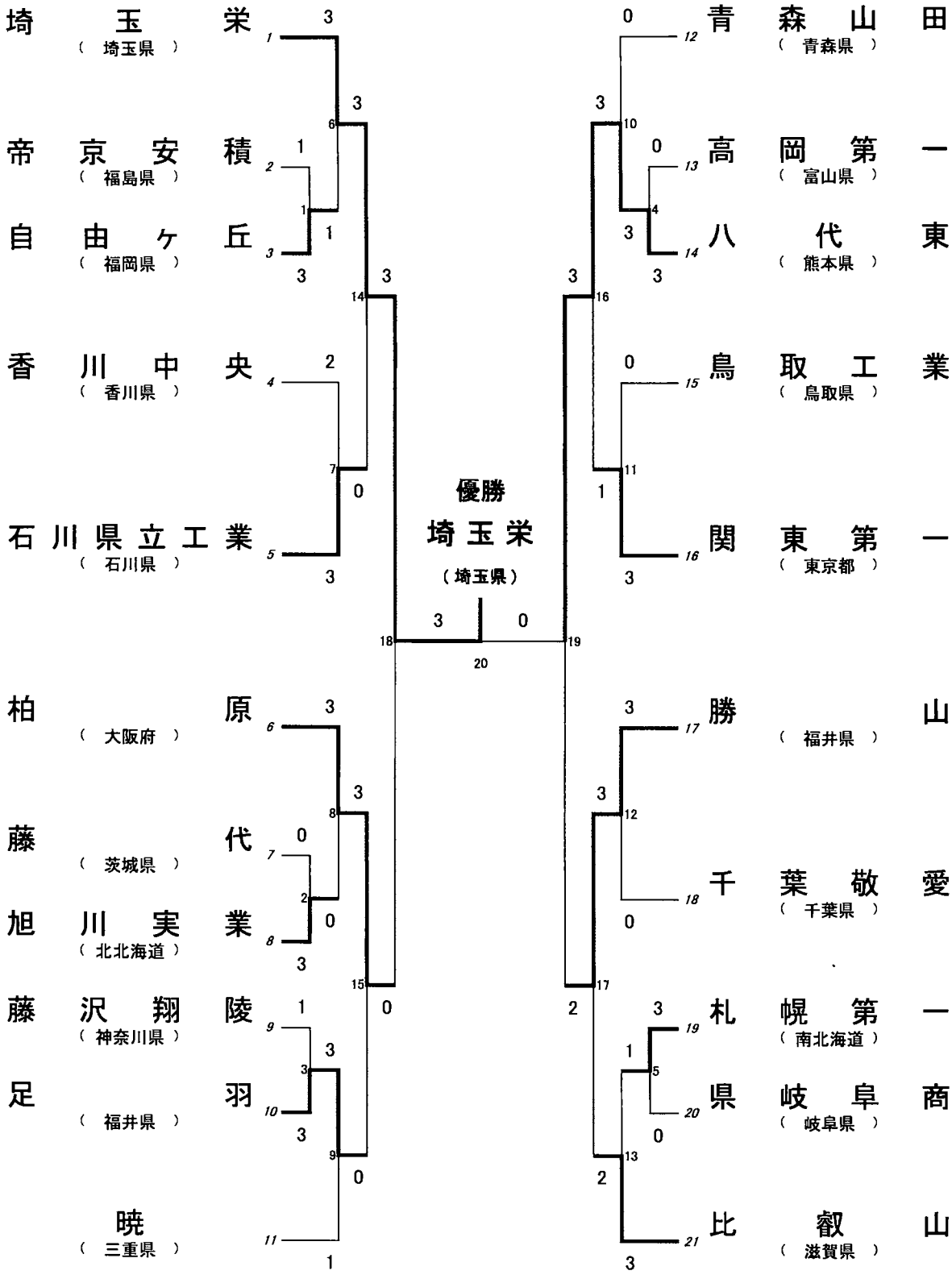
女子シングルス（20名）


藤井瑞希 1 （青森山田・青森）
楠瀬由佳 2 （高知西・高知）
紙川美津恵 3 （柳井工業・山口）
八木麻由加 4 （とわの森三愛・南北海道）
濵島未来 5 （名古屋経済大学市邨・愛知）
小川静香 6 （新田・愛媛）
北吉穂香 7 （西乙訓・京都）
浜中麻亜子 8 （金沢向陽・石川）
江藤理恵 9 （熊本信愛女学院・熊本）
井上春奈 10 （埼玉栄・埼玉）
江淵愛美 11 （高岡西・富山）
大條小真姫 12 （滋賀女子・滋賀）
川西ゆかり 13 （香川中央・香川）
河端茉美 14 （旭川実業・北北海道）
皆川友依 15 （西武台千葉・千葉）
落合智世 16 （鈴峯女子・広島）
大塚珠世 17 （長崎女子・長崎）
安藤真里絵 18 （西条農業・愛媛）
丁塚真紀 19 （聖ウルスラ学院・宮城）
奥幸那 20 （県立岐阜商業・岐阜）
藤井瑞希（青森山田高等学校）

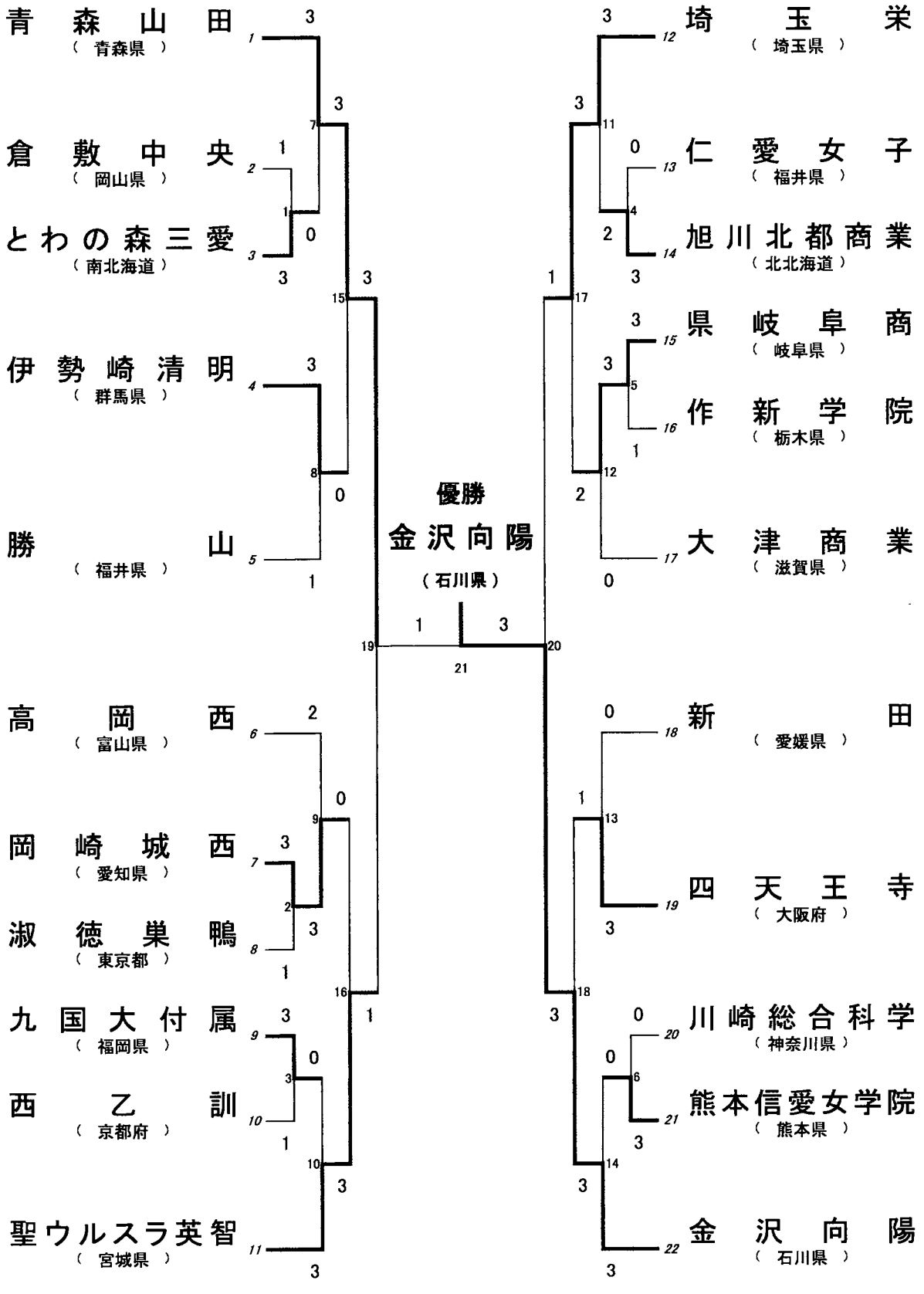
第34回全国高等学校選抜バドミントン大会（2005年度）

期日▶平成18年３月24日～27日
会場▶福井県敦賀市総合運動公園体育館

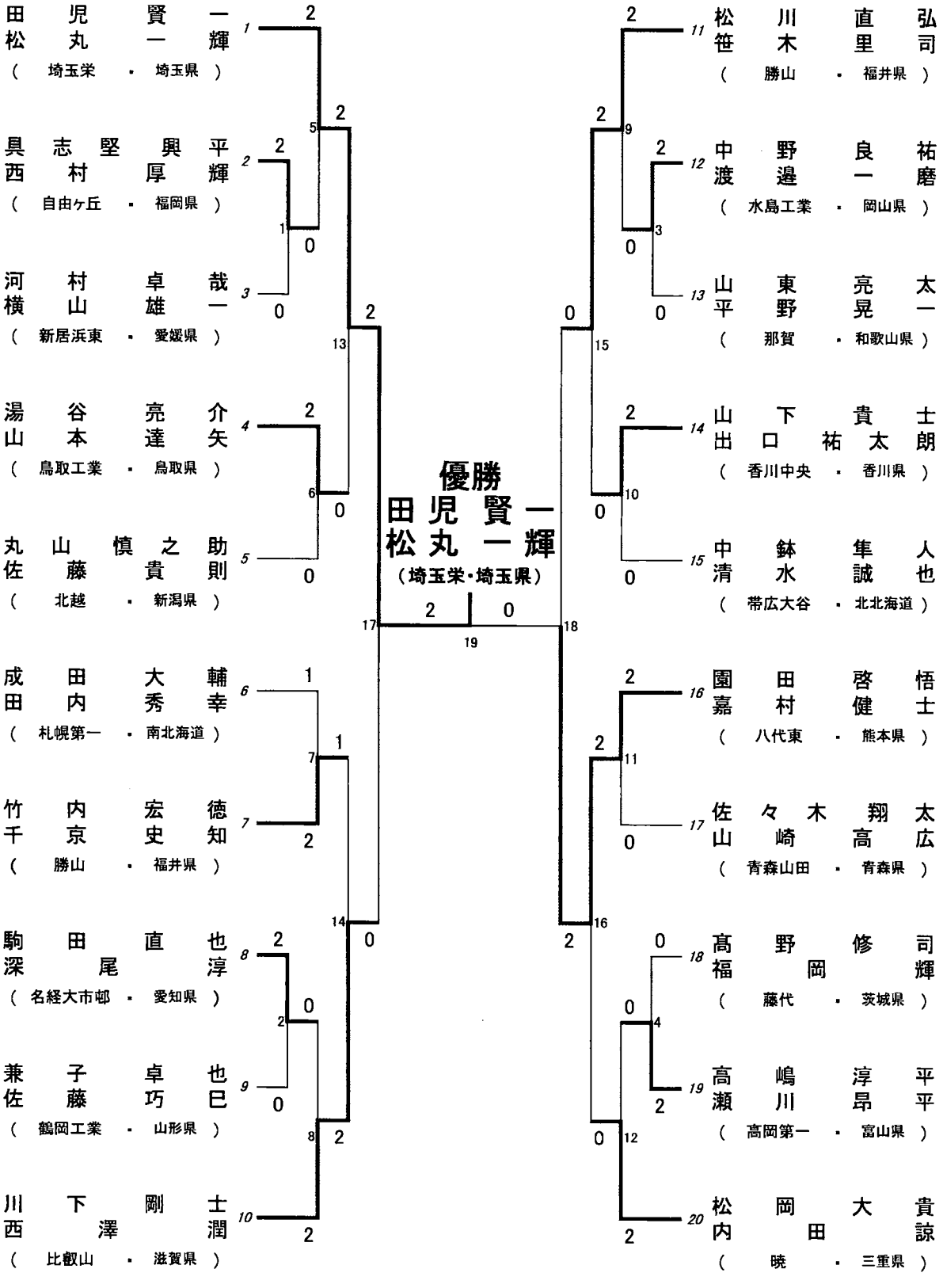
男子団体（21校）



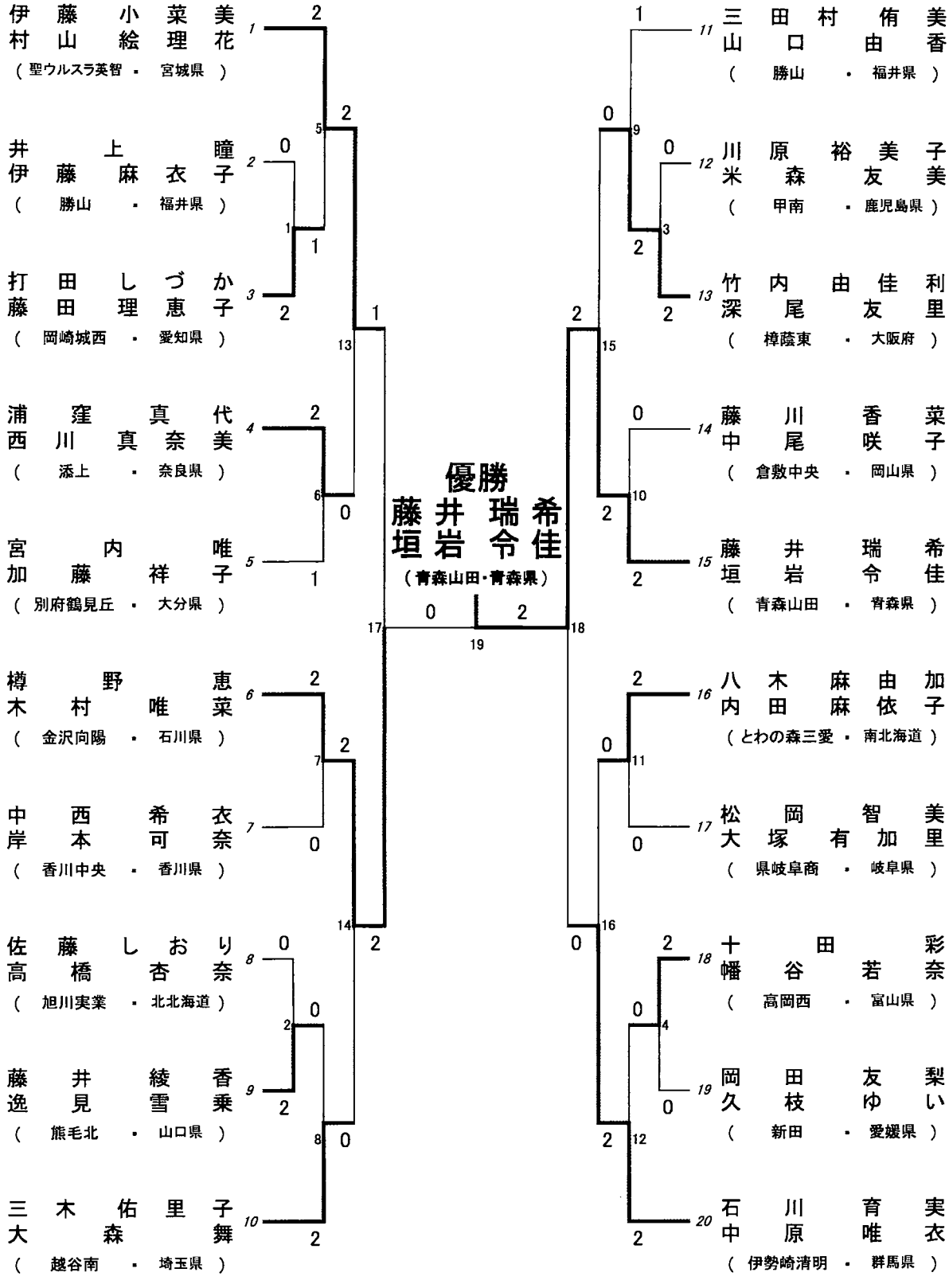
女子団体（22校）


青森山田
（青森県）
倉敷中央
（岡山県）
とわの森三愛
（南北海道）
伊勢崎清明
（群馬県）
勝山
（福井県）
高岡西
（富山県）
岡崎城西
（愛知県）
淑徳巣鴨
（東京都）
九国大付属
（福岡県）
西乙訓
（京都府）
聖ウルスラ英智
（宮城県）
埼玉栄
（埼玉県）
仁愛女子
（福井県）
旭川北都商業
（北北海道）
県岐阜商
（岐阜県）
作新学院
（栃木県）
大津商業
（滋賀県）
新田
（愛媛県）
四天王寺
（大阪府）
川崎総合科学
（神奈川県）
熊本信愛女学院
（熊本県）
金沢向陽
（石川県）
優勝
金沢向陽
（石川県）

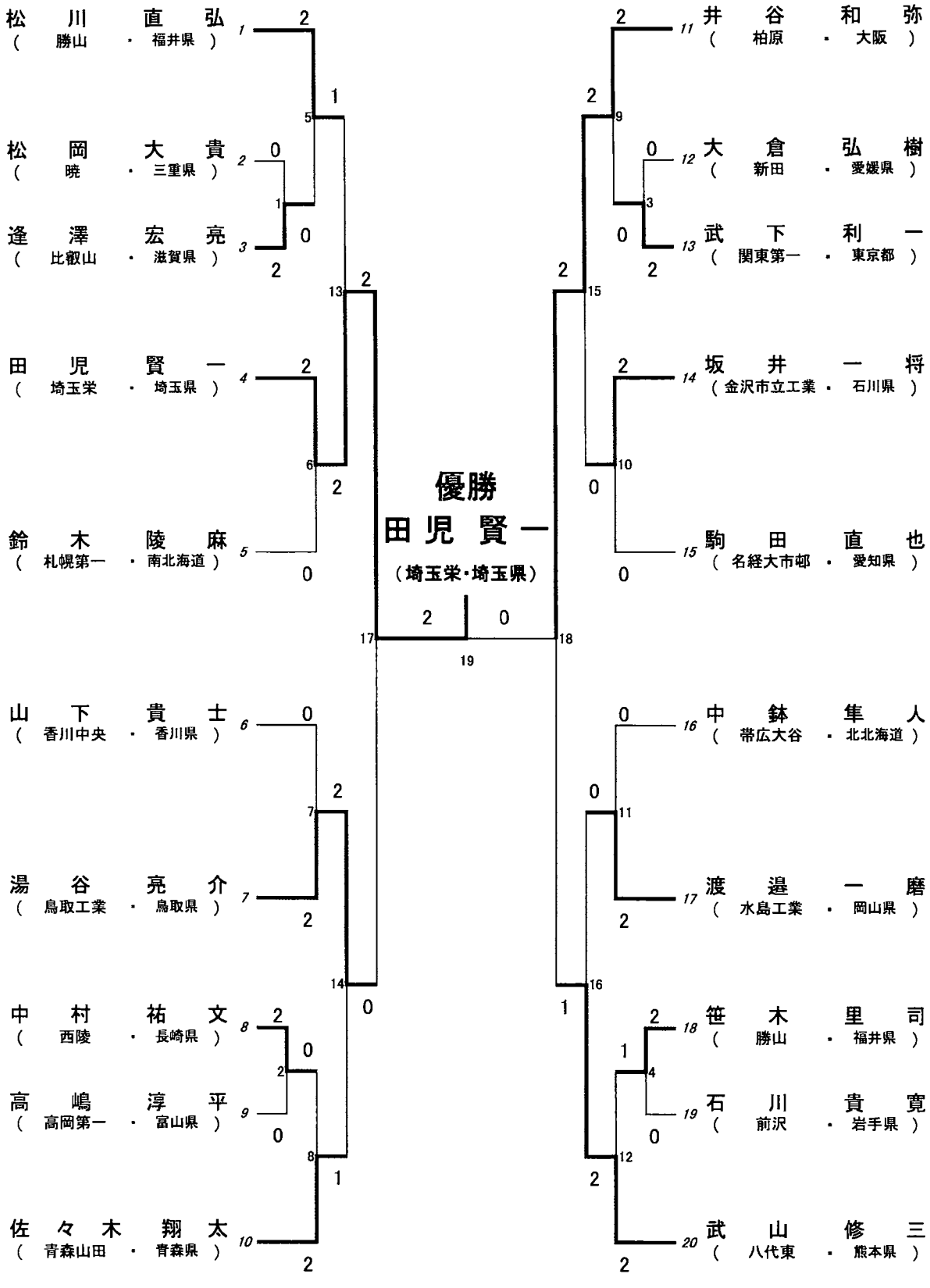
男子ダブルス（20組）


田児賢一
松丸一輝
（埼玉栄・埼玉県）
具志堅興平
西村厚輝
（自由ヶ丘・福岡県）
河村卓哉
横山雄一
（新居浜東・愛媛県）
湯谷亮介
山本達矢
（鳥取工業・鳥取県）
丸山慎之助
佐藤貴則
（北越・新潟県）
成田大輔
田内秀幸
（札幌第一・南北海道）
竹内宏徳
千京史知
（勝山・福井県）
駒田直也
深尾淳
（名経大市邨・愛知県）
兼子卓也
佐藤巧巳
（鶴岡工業・山形県）
川下剛士
西澤潤
（比叡山・滋賀県）
松川直弘
笹木里司
（勝山・福井県）
中野良祐
渡邉一磨
（水島工業・岡山県）
山東亮太
平野晃一
（那賀・和歌山県）
山下貴士
出口祐太朗
（香川中央・香川県）
中鉢隼人
清水誠也
（帯広大谷・北北海道）
園田啓悟
嘉村健士
（八代東・熊本県）
佐々木翔太
山崎高広
（青森山田・青森県）
髙野修司
福岡輝
（藤代・茨城県）
高嶋淳平
瀬川昂平
（高岡第一・富山県）
松岡大貴
内田諒
（暁・三重県）
優勝
田児賢一
松丸一輝
（埼玉栄・埼玉県）

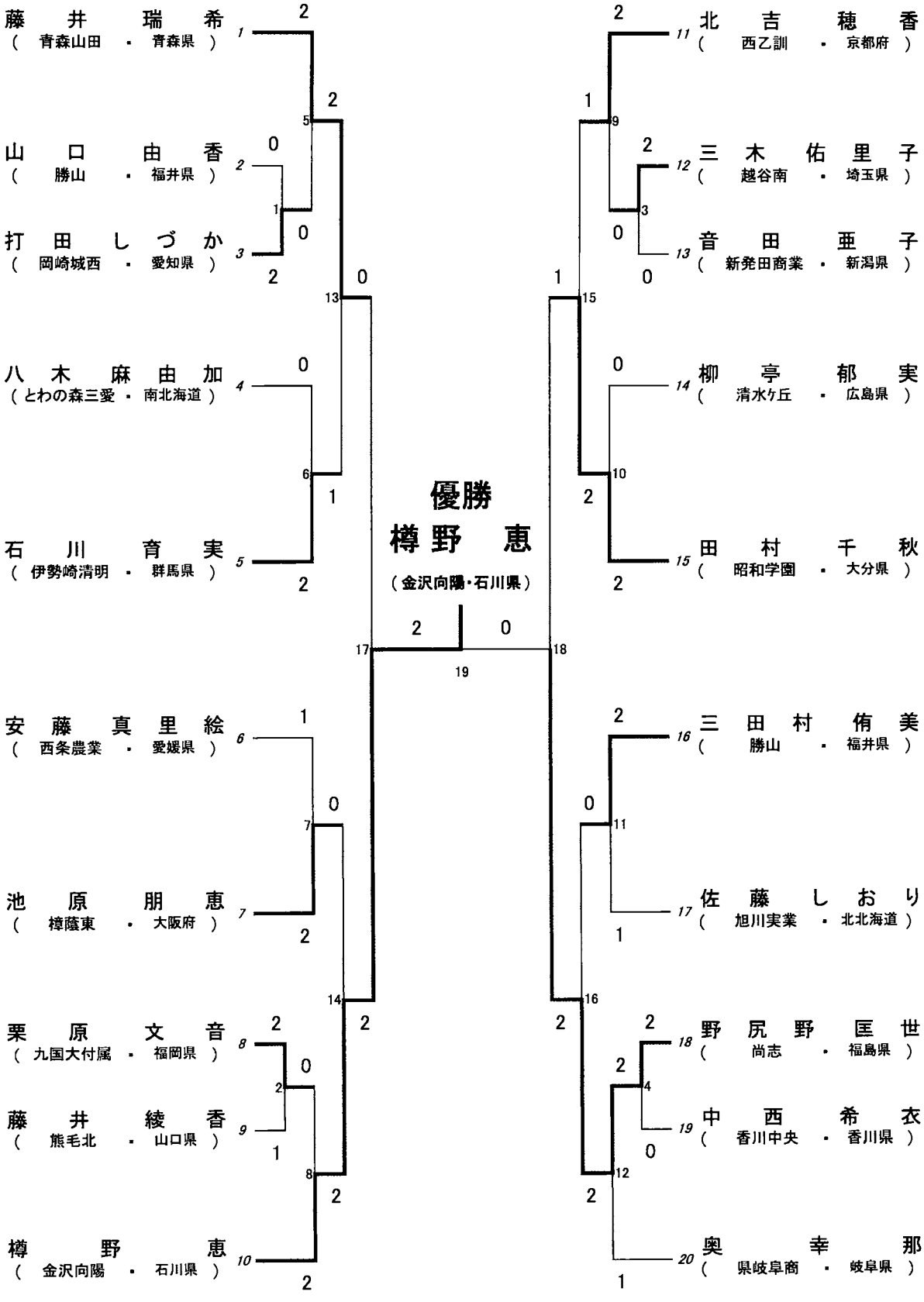
女子ダブルス（20組）


伊藤小菜美
村山絵理花
（聖ウルスラ英智・宮城県）
井上瞳
伊藤麻衣子
（勝山・福井県）
打田しづか
藤田理恵子
（岡崎城西・愛知県）
浦窪真代
西川真奈美
（添上・奈良県）
宮内唯
加藤祥子
（別府鶴見丘・大分県）
樽野恵
木村唯菜
（金沢向陽・石川県）
中西希衣
岸本可奈
（香川中央・香川県）
佐藤しおり
高橋杏奈
（旭川実業・北北海道）
藤井綾香
逸見雪乗
（熊毛北・山口県）
三木佑里子
大森舞
（越谷南・埼玉県）
三田村侑美
山口由香
（勝山・福井県）
川原裕美子
米森友美
（甲南・鹿児島県）
竹内由佳利
深尾友里
（樟蔭東・大阪府）
藤川香菜
中尾咲子
（倉敷中央・岡山県）
藤井瑞希
垣岩令佳
（青森山田・青森県）
八木麻由加
内田麻依子
（とわの森三愛・南北海道）
松岡智美
大塚有加里
（県岐阜商・岐阜県）
十田彩
幡谷若奈
（高岡西・富山県）
岡田友梨
久枝ゆい
（新田・愛媛県）
石川育実
中原唯衣
（伊勢崎清明・群馬県）
優勝
藤井瑞希
垣岩令佳
（青森山田・青森県）

男子シングルス（20名）


松川 直弘 (勝山 ・ 福井県) 1
松岡 大貴 (暁 ・ 三重県) 2
逢澤 宏亮 (比叡山 ・ 滋賀県) 3
田児 賢一 (埼玉栄 ・ 埼玉県) 4
鈴木 陵麻 (札幌第一 ・ 南北海道) 5
山下 貴士 (香川中央 ・ 香川県) 6
湯谷 亮介 (鳥取工業 ・ 鳥取県) 7
中村 祐文 (西陵 ・ 長崎県) 8
高嶋 淳平 (高岡第一 ・ 富山県) 9
佐々木 翔太 (青森山田 ・ 青森県) 10
井谷 和弥 (柏原 ・ 大阪) 11
大倉 弘樹 (新田 ・ 愛媛県) 12
武下 利一 (関東第一 ・ 東京都) 13
坂井 一将 (金沢市立工業 ・ 石川県) 14
駒田 直也 (名経大市邨 ・ 愛知県) 15
中鉢 隼人 (帯広大谷 ・ 北北海道) 16
渡邉 一磨 (水島工業 ・ 岡山県) 17
笹木 里司 (勝山 ・ 福井県) 18
石川 貴寛 (前沢 ・ 岩手県) 19
武山 修三 (八代東 ・ 熊本県) 20
優勝
田児 賢一
（埼玉栄・埼玉県）

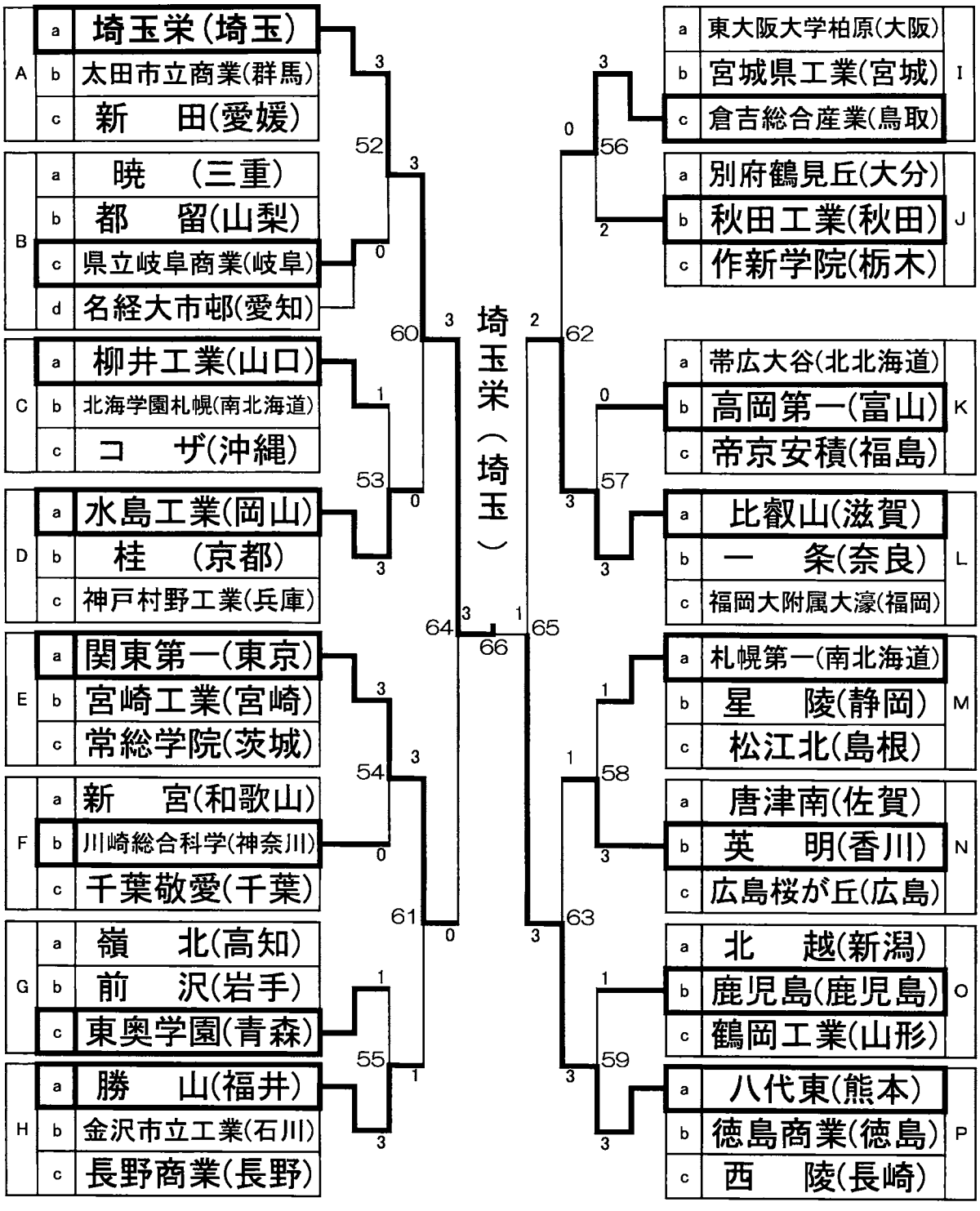
女子シングルス（20名）


藤井瑞希
（青森山田・青森県）
山口由香
（勝山・福井県）
打田しづか
（岡崎城西・愛知県）
八木麻由加
（とわの森三愛・南北海道）
石川育実
（伊勢崎清明・群馬県）
安藤真里絵
（西条農業・愛媛県）
池原朋恵
（樟蔭東・大阪府）
栗原文音
（九国大付属・福岡県）
藤井綾香
（熊毛北・山口県）
樽野恵
（金沢向陽・石川県）
北吉穂香
（西乙訓・京都府）
三木佑里子
（越谷南・埼玉県）
音田亜子
（新発田商業・新潟県）
柳亭郁実
（清水ヶ丘・広島県）
田村千秋
（昭和学園・大分県）
三田村侑美
（勝山・福井県）
佐藤しおり
（旭川実業・北北海道）
野尻野匡世
（尚志・福島県）
中西希衣
（香川中央・香川県）
奥幸那
（県岐阜商・岐阜県）
優勝
樽野恵
（金沢向陽・石川県）

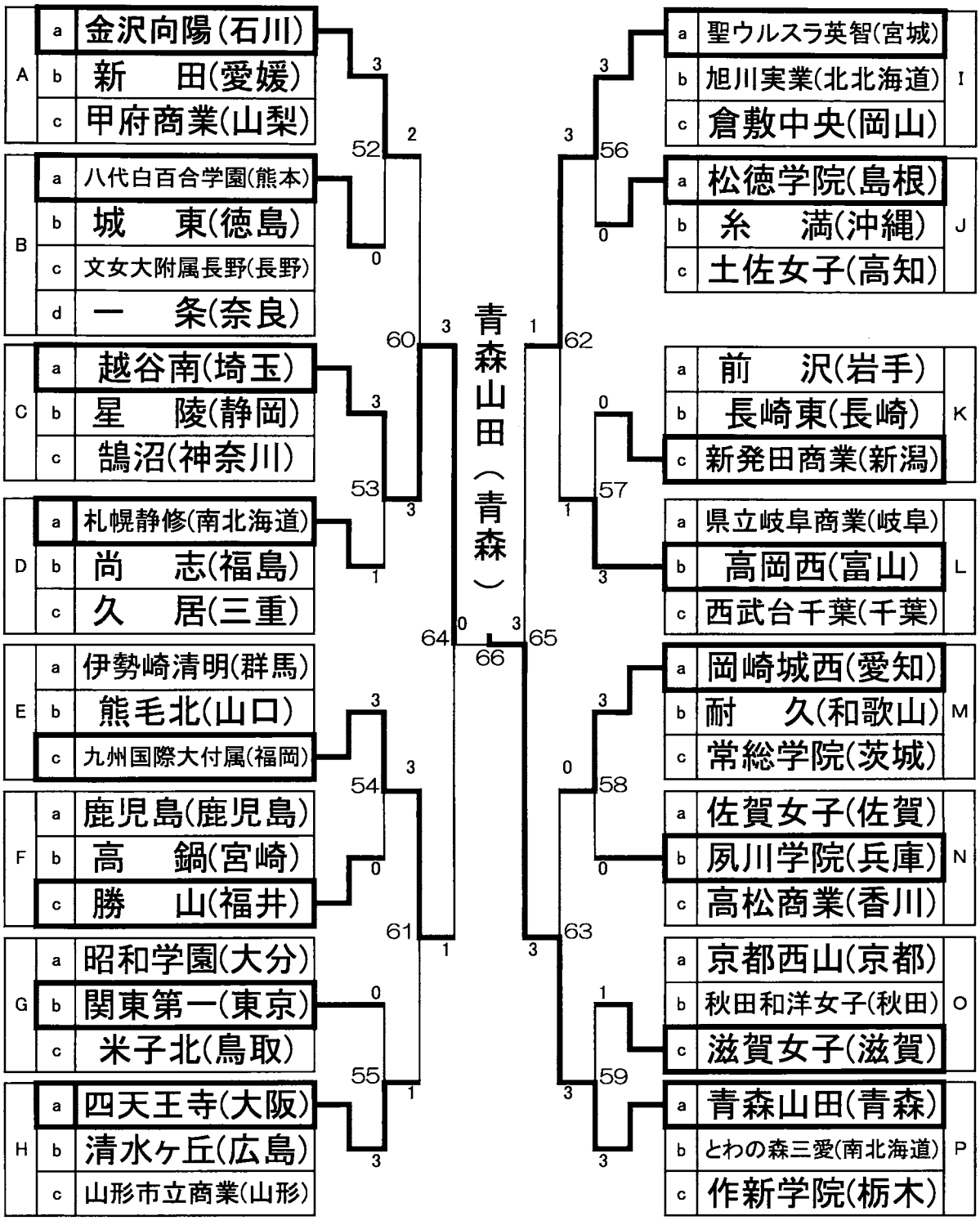
第35回全国高等学校選抜バドミントン大会（2006年度）

期日▶平成19年３月25日～28日
会場▶北海道立総合体育センター「きたえーる」

男子団体（49校）



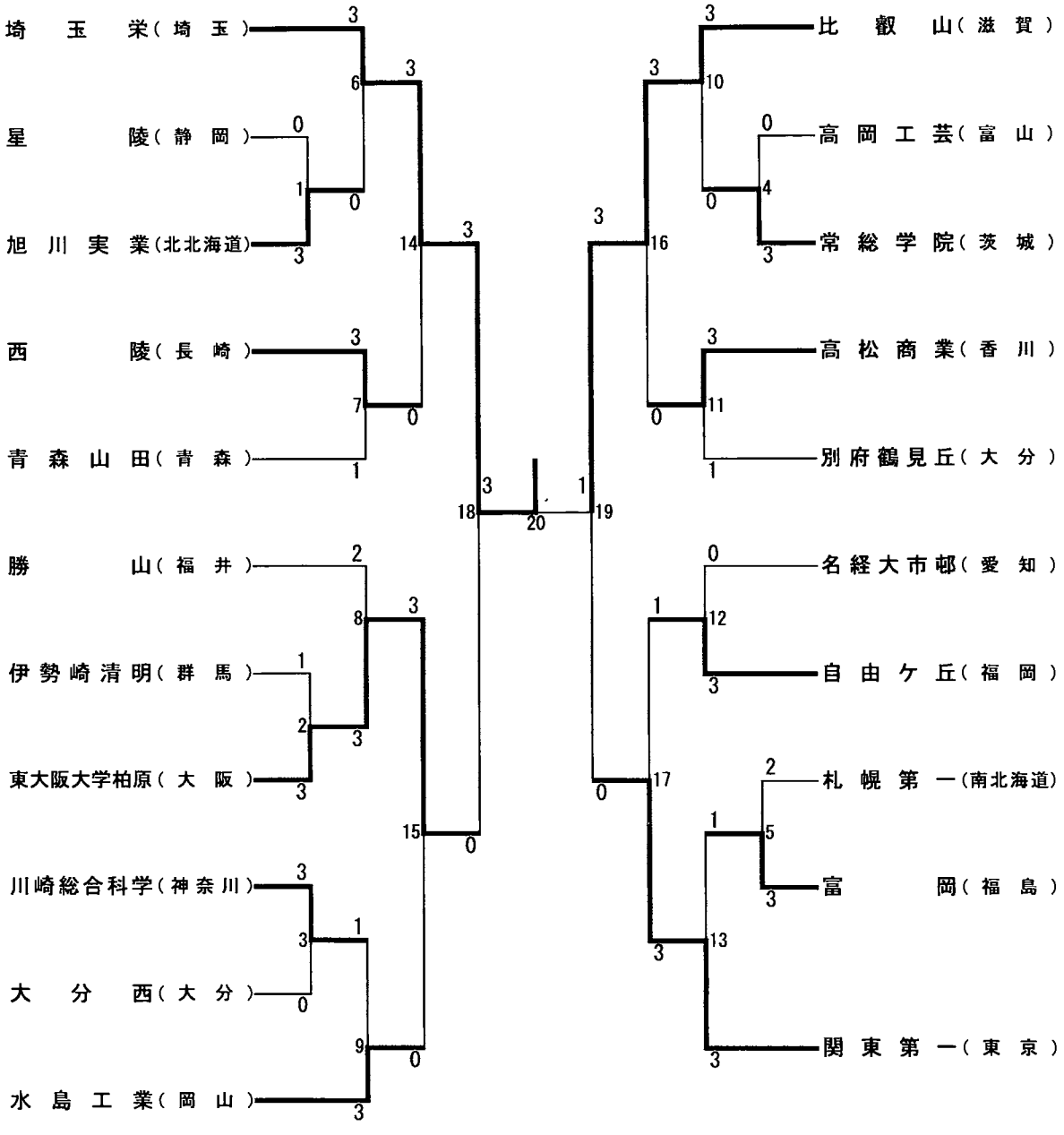
女 子 団 体 (49校)


A
a 金沢向陽(石川)
b 新　田(愛媛)
c 甲府商業(山梨)
B
a 八代白百合学園(熊本)
b 城　東(徳島)
c 文女大附属長野(長野)
d 一　条(奈良)
C
a 越谷南(埼玉)
b 星　陵(静岡)
c 鵠沼(神奈川)
D
a 札幌静修(南北海道)
b 尚　志(福島)
c 久　居(三重)
E
a 伊勢崎清明(群馬)
b 熊毛北(山口)
c 九州国際大付属(福岡)
F
a 鹿児島(鹿児島)
b 高　鍋(宮崎)
c 勝　山(福井)
G
a 昭和学園(大分)
b 関東第一(東京)
c 米子北(鳥取)
H
a 四天王寺(大阪)
b 清水ヶ丘(広島)
c 山形市立商業(山形)
I
a 聖ウルスラ英智(宮城)
b 旭川実業(北北海道)
c 倉敷中央(岡山)
J
a 松徳学院(島根)
b 糸　満(沖縄)
c 土佐女子(高知)
K
a 前　沢(岩手)
b 長崎東(長崎)
c 新発田商業(新潟)
L
a 県立岐阜商業(岐阜)
b 高岡西(富山)
c 西武台千葉(千葉)
M
a 岡崎城西(愛知)
b 耐　久(和歌山)
c 常総学院(茨城)
N
a 佐賀女子(佐賀)
b 夙川学院(兵庫)
c 高松商業(香川)
O
a 京都西山(京都)
b 秋田和洋女子(秋田)
c 滋賀女子(滋賀)
P
a 青森山田(青森)
b とわの森三愛(南北海道)
c 作新学院(栃木)
青森山田（青森）
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66

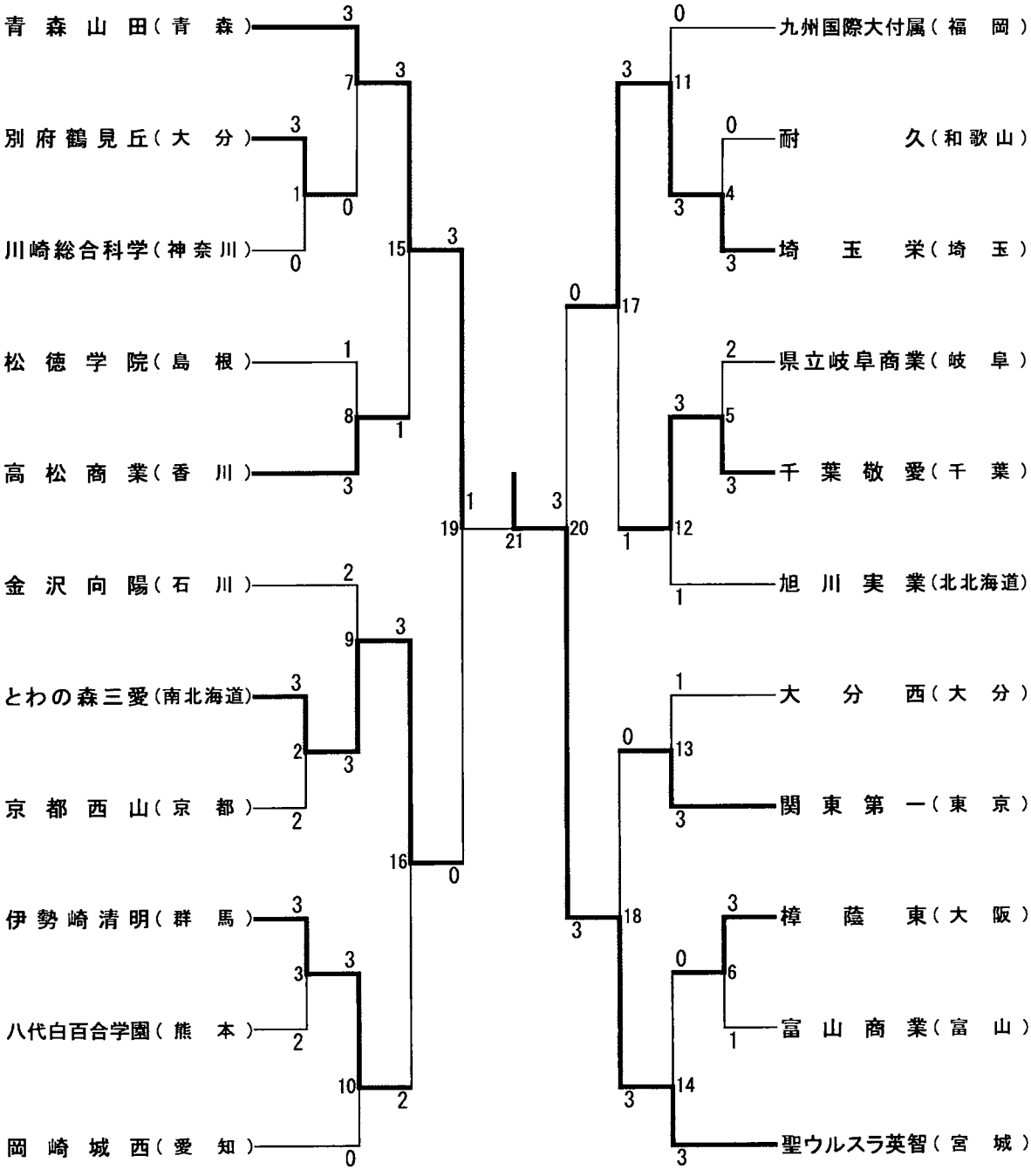
第36回全国高等学校選抜バドミントン大会（2007年度）

期日▶平成20年３月22日～25日
会場▶日田市総合体育館・昭和学園高等学校体育館

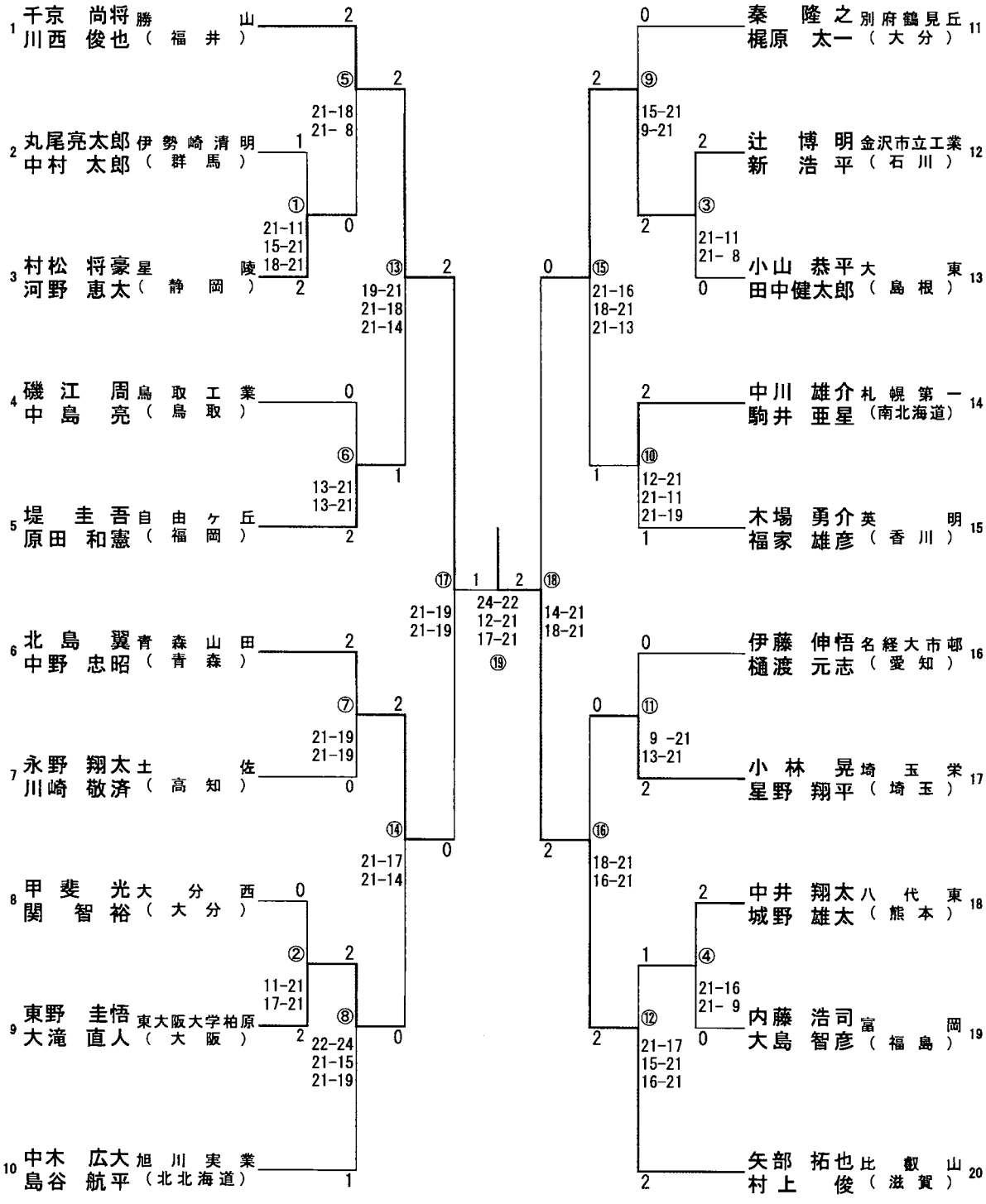
男子団体（21校）



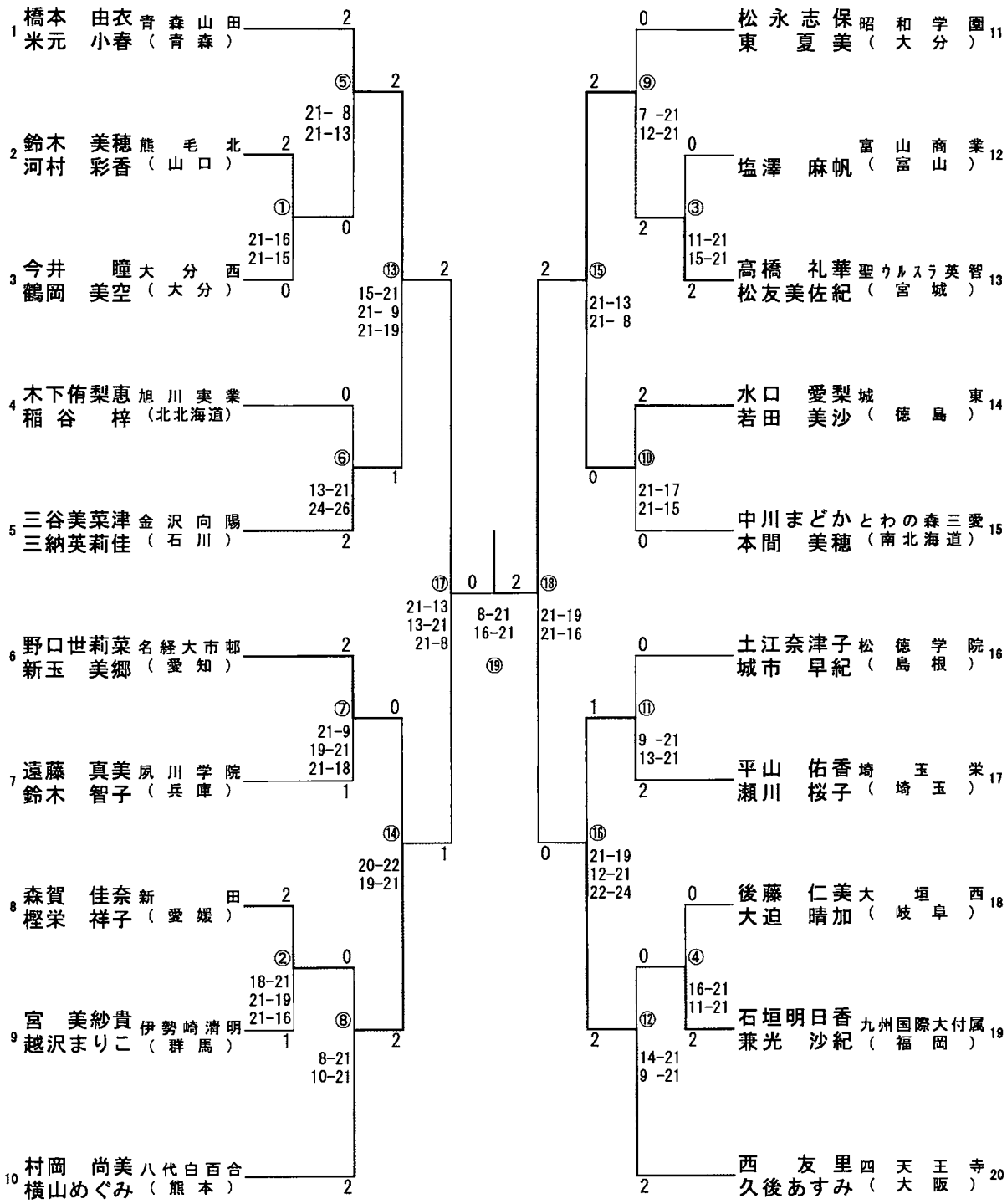
女子団体（22校）


青森山田（青森）
別府鶴見丘（大分）
川崎総合科学（神奈川）
松徳学院（島根）
高松商業（香川）
金沢向陽（石川）
とわの森三愛（南北海道）
京都西山（京都）
伊勢崎清明（群馬）
八代白百合学園（熊本）
岡崎城西（愛知）
九州国際大付属（福岡）
耐久（和歌山）
埼玉栄（埼玉）
県立岐阜商業（岐阜）
千葉敬愛（千葉）
旭川実業（北北海道）
大分西（大分）
関東第一（東京）
樟蔭東（大阪）
富山商業（富山）
聖ウルスラ英智（宮城）

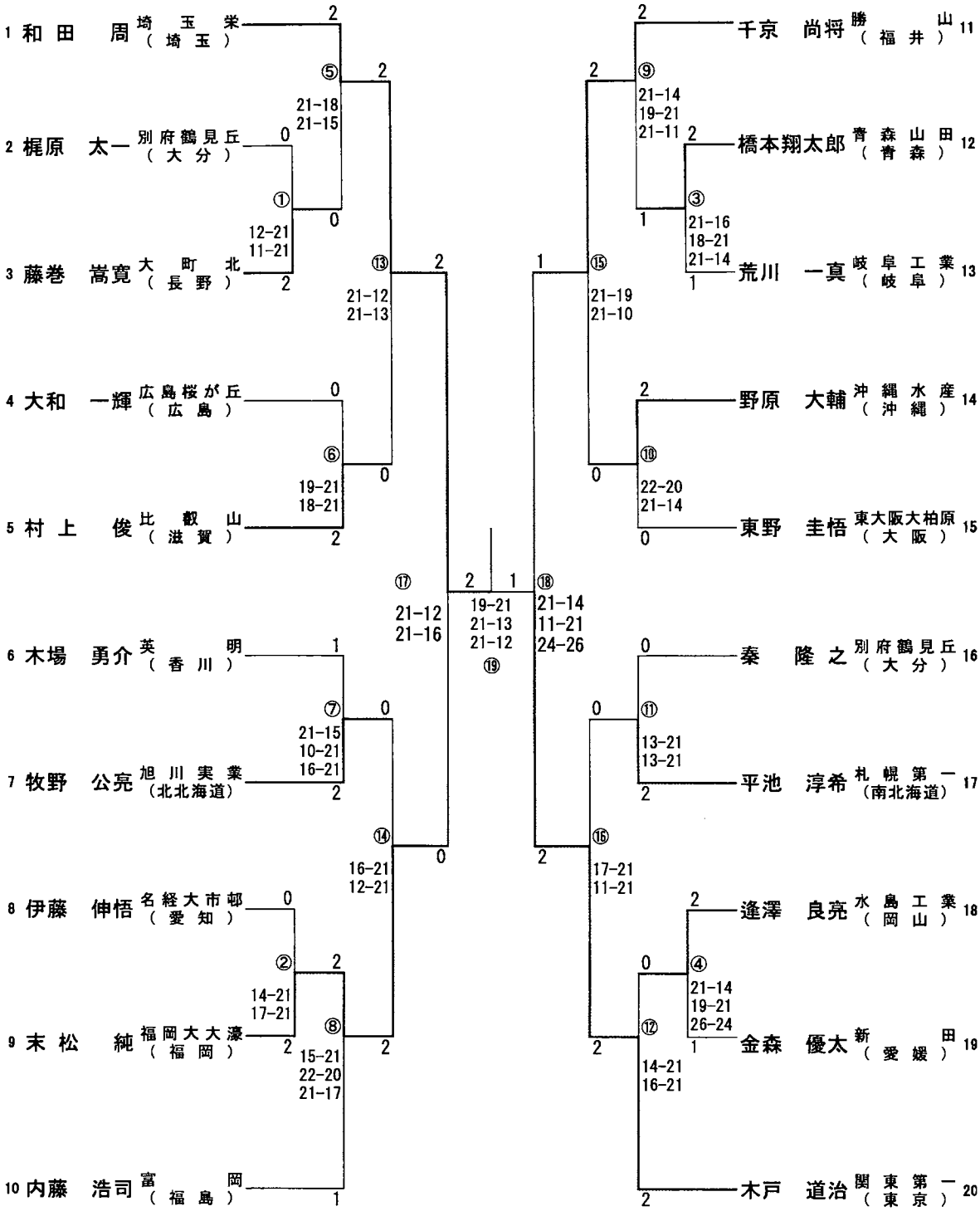
男子ダブルス（20組）


1 千京 尚将 勝山
川西 俊也（福井）
2 丸尾亮太郎 伊勢崎清明
中村 太郎（群馬）
3 村松 将豪 星陵
河野 恵太（静岡）
4 磯江 周 鳥取工業
中島 亮（鳥取）
5 堤 圭吾 自由ヶ丘
原田 和憲（福岡）
6 北島 翼 青森山田
中野 忠昭（青森）
7 永野 翔太 土佐
川崎 敬済（高知）
8 甲斐 光 大分西
関 智裕（大分）
9 東野 圭悟 東大阪大学柏原
大滝 直人（大阪）
10 中木 広大 旭川実業
島谷 航平（北北海道）
11 秦 隆之 別府鶴見丘
梶原 太一（大分）
12 辻 博明 金沢市立工業
新 浩平（石川）
13 小山 恭平 大東
田中健太郎（島根）
14 中川 雄介 札幌第一
駒井 亜星（南北海道）
15 木場 勇介 英明
福家 雄彦（香川）
16 伊藤 伸悟 名経大市邨
樋渡 元志（愛知）
17 小林 晃 埼玉栄
星野 翔平（埼玉）
18 中井 翔太 八代東
城野 雄太（熊本）
19 内藤 浩司 富岡
大島 智彦（福島）
20 矢部 拓也 比叡山
村上 俊（滋賀）
① 21-11 15-21 18-21
② 11-21 17-21
③ 21-11 21-8
④ 21-16 21-9
⑤ 21-18 21-8
⑥ 13-21 13-21
⑦ 21-19 21-19
⑧ 22-24 21-15 21-19
⑨ 15-21 9-21
⑩ 12-21 21-11 21-19
⑪ 9-21 13-21
⑫ 21-17 15-21 16-21
⑬ 19-21 21-18 21-14
⑭ 21-17 21-14
⑮ 21-16 18-21 21-13
⑯ 18-21 16-21
⑰ 21-19 21-19
⑱ 14-21 18-21
⑲ 24-22 12-21 17-21

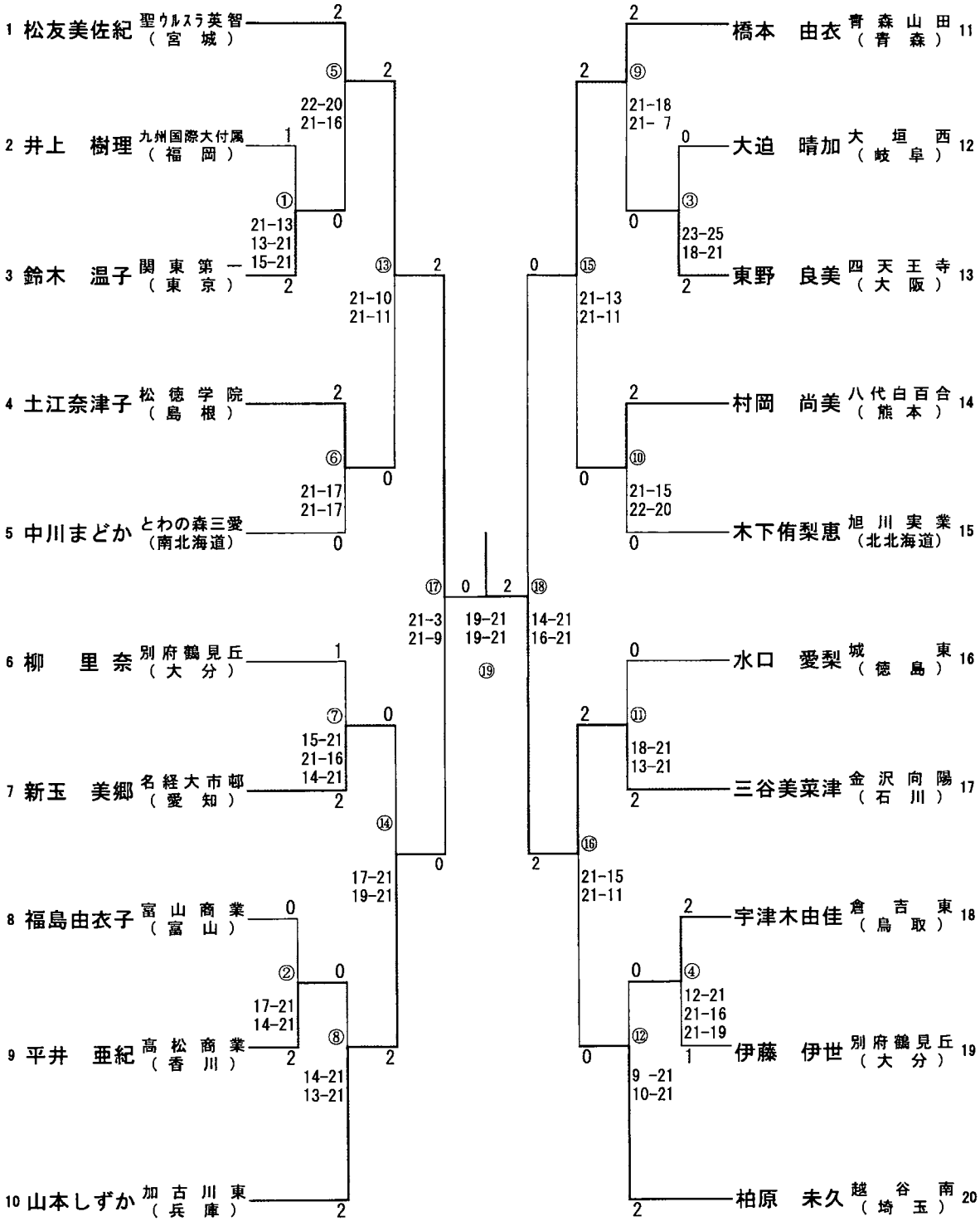
女子ダブルス（20組）


1 橋本 由衣 青森山田
米元 小春 （青森）
2 鈴木 美穂 熊毛北
河村 彩香 （山口）
3 今井 瞳 大分西
鶴岡 美空 （大分）
4 木下侑梨恵 旭川実業
稲谷 梓 （北北海道）
5 三谷美菜津 金沢向陽
三納英莉佳 （石川）
6 野口世莉菜 名経大市邨
新玉 美郷 （愛知）
7 遠藤 真美 夙川学院
鈴木 智子 （兵庫）
8 森賀 佳奈 新田
樫栄 祥子 （愛媛）
9 宮 美紗貴 伊勢崎清明
越沢まりこ （群馬）
10 村岡 尚美 八代白百合
横山めぐみ （熊本）
11 松永志保 昭和学園
東 夏美 （大分）
12 塩澤 麻帆 富山商業
（富山）
13 高橋 礼華 聖ウルスラ英智
松友美佐紀 （宮城）
14 水口 愛梨 城東
若田 美沙 （徳島）
15 中川まどか とわの森三愛
本間 美穂 （南北海道）
16 土江奈津子 松徳学院
城市 早紀 （島根）
17 平山 佑香 埼玉栄
瀬川 桜子 （埼玉）
18 後藤 仁美 大垣西
大迫 晴加 （岐阜）
19 石垣明日香 九州国際大付属
兼光 沙紀 （福岡）
20 西 友里 四天王寺
久後あすみ （大阪）
21-16 21-15
21- 8 21-13
15-21 21- 9 21-19
13-21 24-26
21-9 19-21 21-18
18-21 21-19 21-16
8-21 10-21
20-22 19-21
7 -21 12-21
11-21 15-21
21-13 21- 8
21-17 21-15
9 -21 13-21
21-19 12-21 22-24
16-21 11-21
14-21 9 -21
21-13 13-21 21-8
8-21 16-21
21-19 21-16

男子シングルス（20名）


1 和田 周 埼玉栄（埼玉）
2 梶原 太一 別府鶴見丘（大分）
3 藤巻 嵩寛 大町北（長野）
4 大和 一輝 広島桜が丘（広島）
5 村上 俊 比叡山（滋賀）
6 木場 勇介 英明（香川）
7 牧野 公亮 旭川実業（北北海道）
8 伊藤 伸悟 名経大市邨（愛知）
9 末松 純 福岡大大濠（福岡）
10 内藤 浩司 富岡（福島）
11 千京 尚将 勝山（福井）
12 橋本翔太郎 青森山田（青森）
13 荒川 一真 岐阜工業（岐阜）
14 野原 大輔 沖縄水産（沖縄）
15 東野 圭悟 東大阪大柏原（大阪）
16 秦 隆之 別府鶴見丘（大分）
17 平池 淳希 札幌第一（南北海道）
18 逢澤 良亮 水島工業（岡山）
19 金森 優太 新田（愛媛）
20 木戸 道治 関東第一（東京）
21-18 21-15
12-21 11-21
21-12 21-13
19-21 18-21
21-15 10-21 16-21
14-21 17-21
15-21 22-20 21-17
21-14 19-21 21-11
21-16 18-21 21-14
21-19 21-10
22-20 21-14
13-21 13-21
21-14 19-21 26-24
14-21 16-21
21-12 21-16
19-21 21-13 21-12
21-14 11-21 24-26
16-21 12-21
17-21 11-21

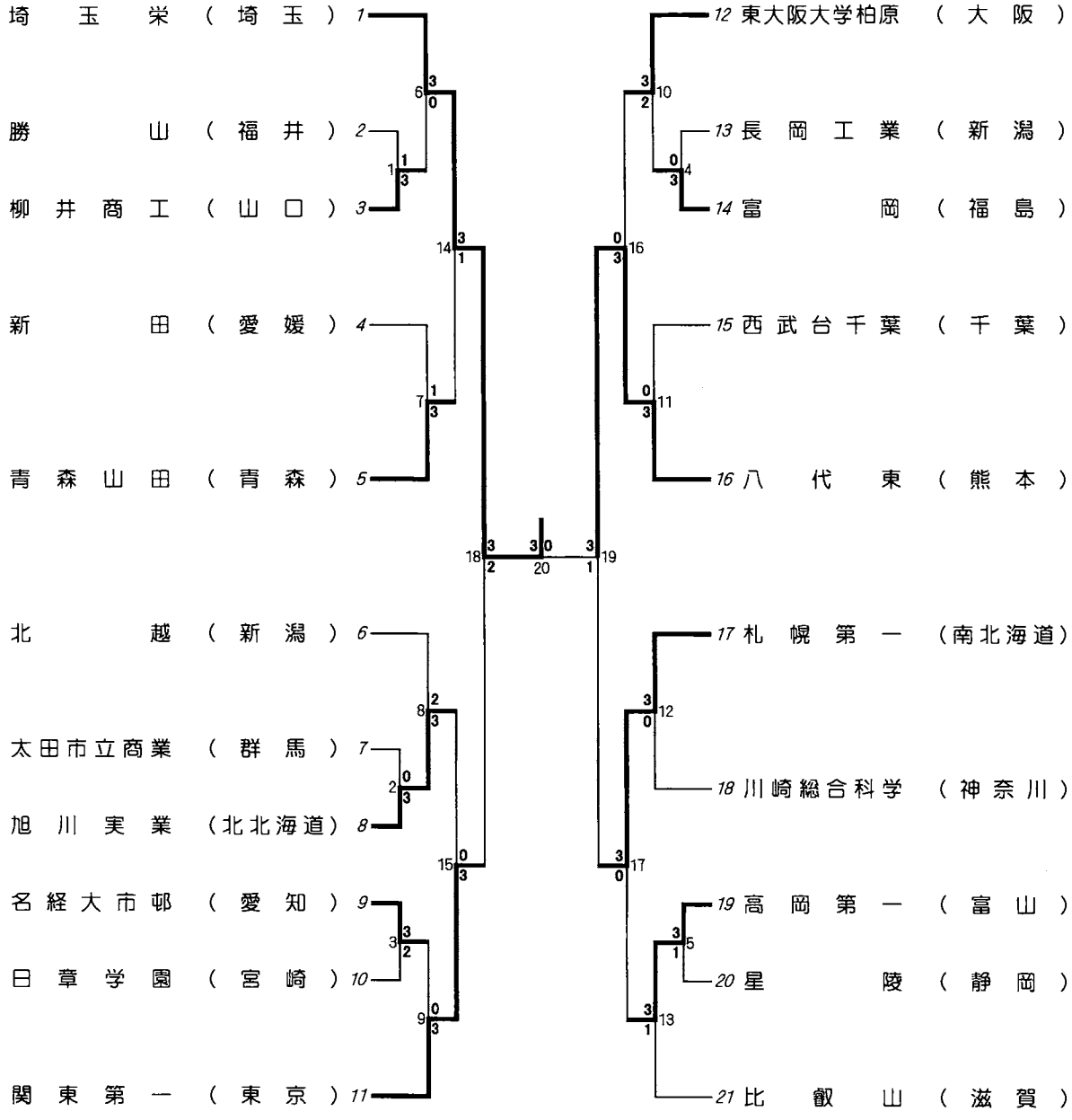
女子シングルス（20名）


1 松友美佐紀 聖ウルスラ英智（宮城）
2 井上 樹理 九州国際大付属（福岡）
3 鈴木 温子 関東第一（東京）
4 土江奈津子 松徳学院（島根）
5 中川まどか とわの森三愛（南北海道）
6 柳 里奈 別府鶴見丘（大分）
7 新玉 美郷 名経大市邨（愛知）
8 福島由衣子 富山商業（富山）
9 平井 亜紀 高松商業（香川）
10 山本しずか 加古川東（兵庫）
11 橋本 由衣 青森山田（青森）
12 大迫 晴加 大垣西（岐阜）
13 東野 良美 四天王寺（大阪）
14 村岡 尚美 八代白百合（熊本）
15 木下侑梨恵 旭川実業（北北海道）
16 水口 愛梨 城東（徳島）
17 三谷美菜津 金沢向陽（石川）
18 宇津木由佳 倉吉東（鳥取）
19 伊藤 伊世 別府鶴見丘（大分）
20 柏原 未久 越谷南（埼玉）
22-20 21-16
21-13 13-21 15-21
21-10 21-11
21-17 21-17
15-21 21-16 14-21
17-21 14-21
14-21 13-21
21-3 21-9
19-21 19-21
14-21 16-21
21-18 21- 7
23-25 18-21
21-13 21-11
21-15 22-20
18-21 13-21
21-15 21-11
12-21 21-16 21-19
9 -21 10-21

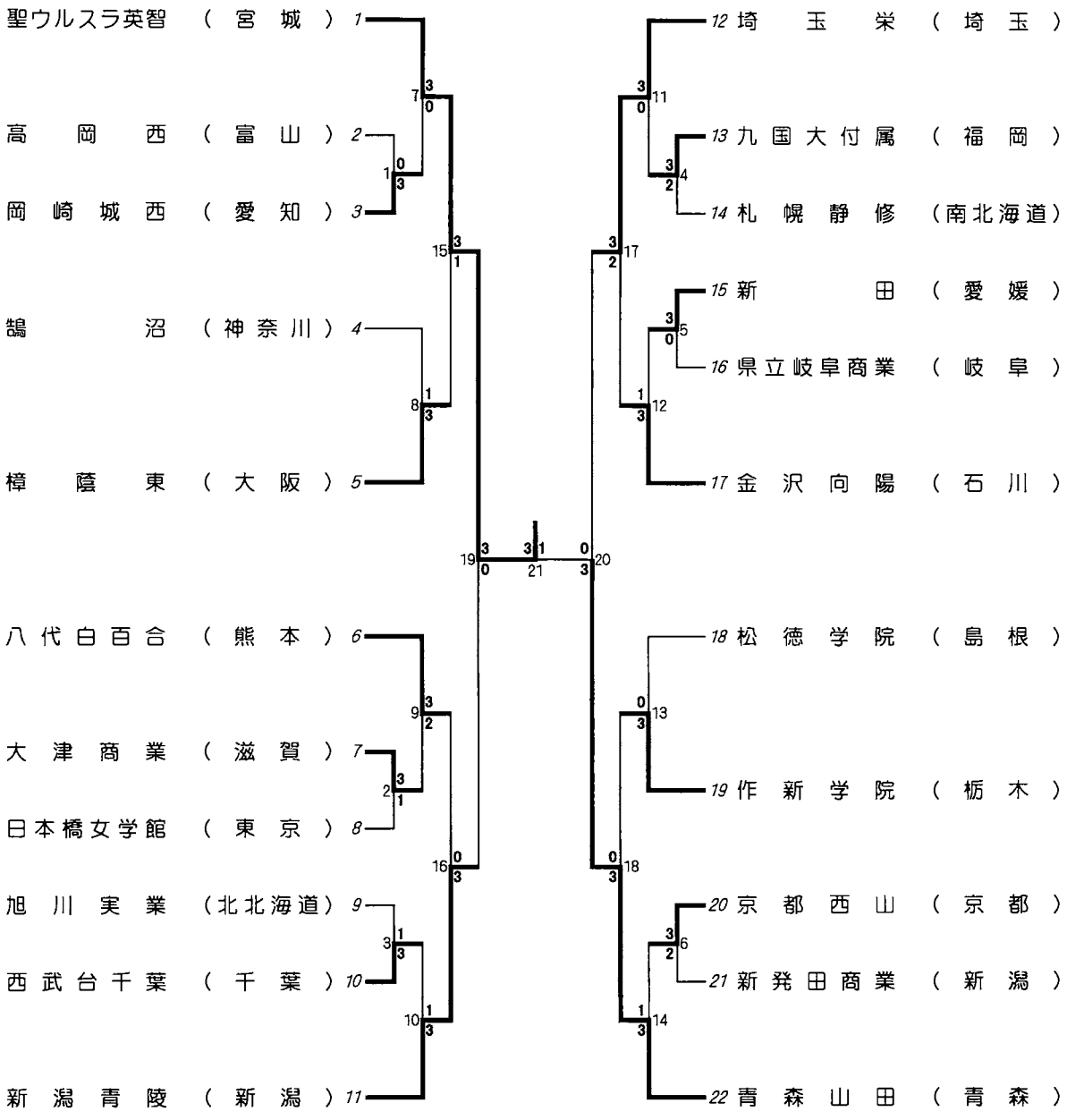
第37回全国高等学校選抜バドミントン大会（2008年度）

期日▶平成21年３月24日～27日
会場▶新潟市東総合スポーツセンター

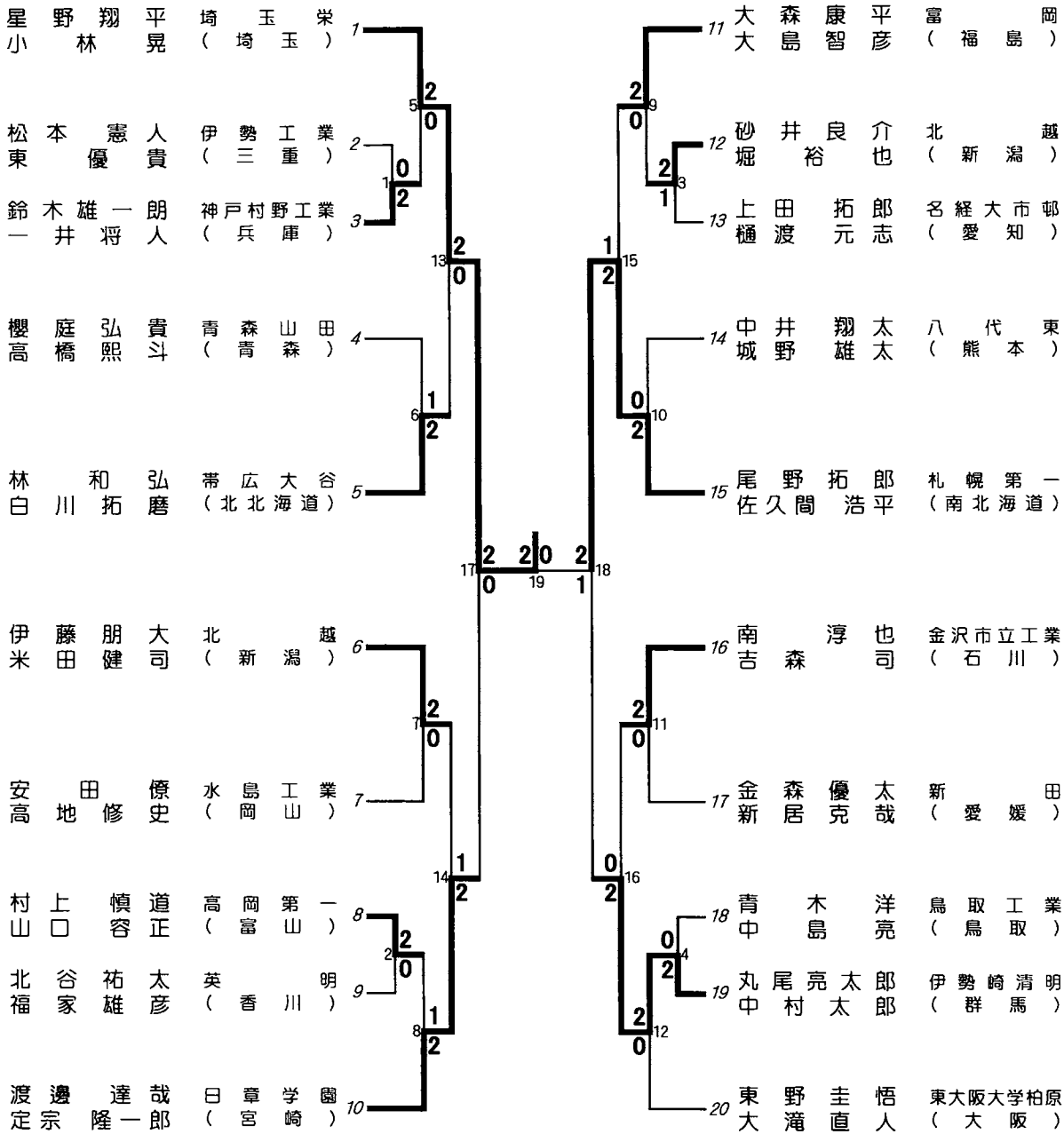
男子団体（21校）



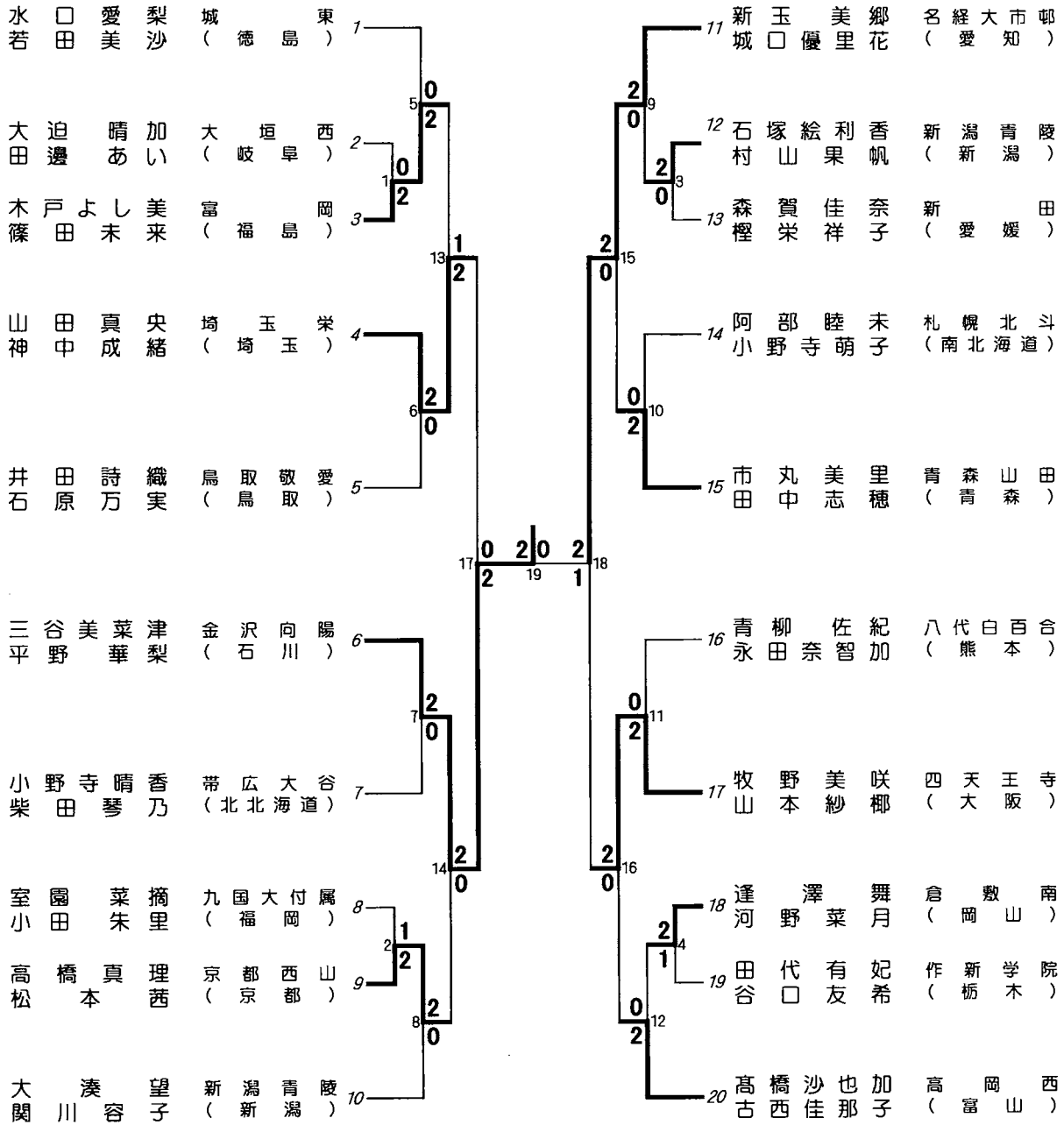
女子団体（22校）


聖ウルスラ英智（宮城）1
高岡西（富山）2
岡崎城西（愛知）3
鵠沼（神奈川）4
樟蔭東（大阪）5
八代白百合（熊本）6
大津商業（滋賀）7
日本橋女学館（東京）8
旭川実業（北北海道）9
西武台千葉（千葉）10
新潟青陵（新潟）11
12 埼玉栄（埼玉）
13 九国大付属（福岡）
14 札幌静修（南北海道）
15 新田（愛媛）
16 県立岐阜商業（岐阜）
17 金沢向陽（石川）
18 松徳学院（島根）
19 作新学院（栃木）
20 京都西山（京都）
21 新発田商業（新潟）
22 青森山田（青森）

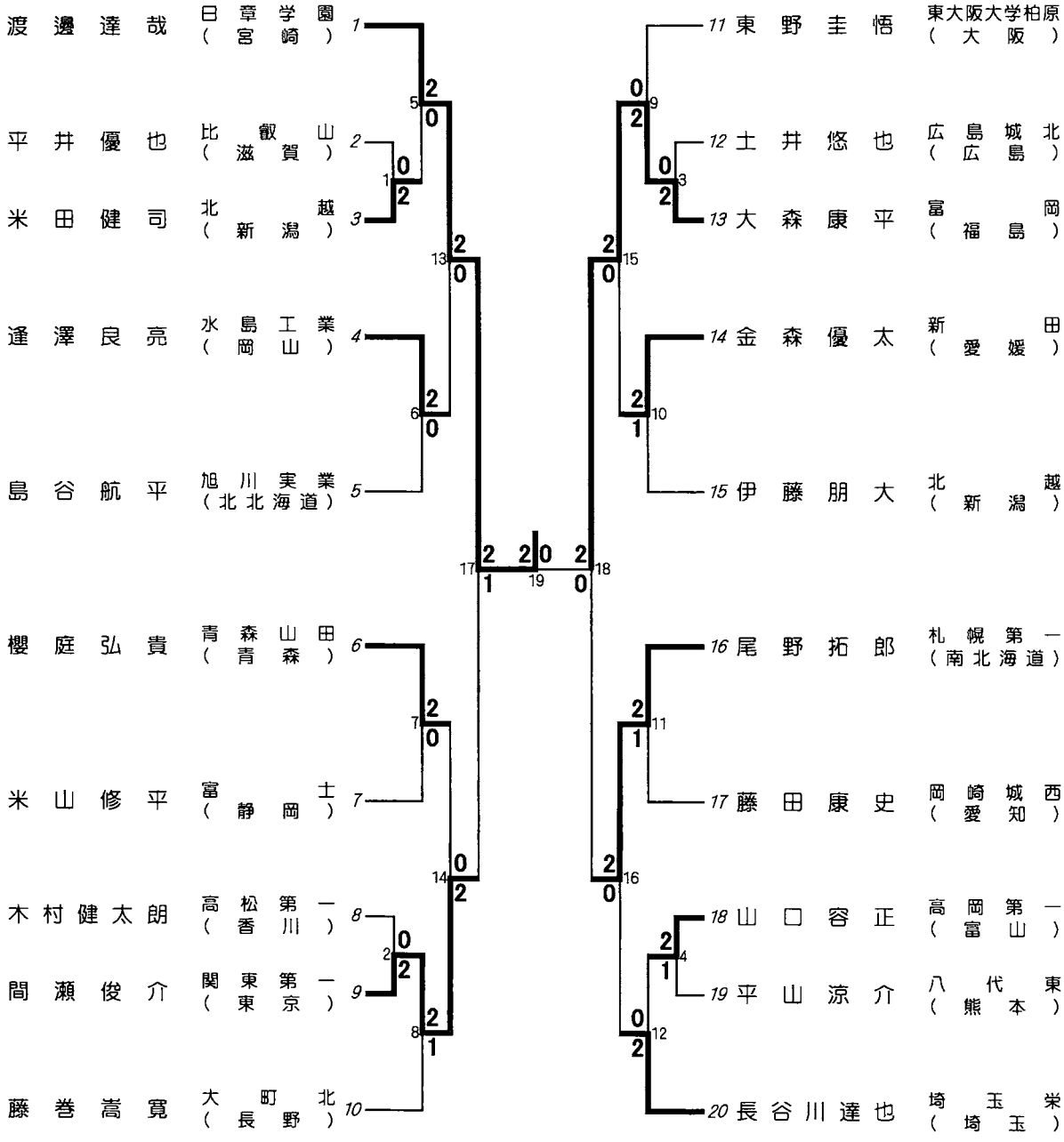
男子ダブルス（20組）


星野翔平 埼玉栄
小林晃 (埼玉)
松本憲人 伊勢工業
東優貴 (三重)
鈴木雄一朗 神戸村野工業
一井将人 (兵庫)
櫻庭弘貴 青森山田
高橋熙斗 (青森)
林和弘 帯広大谷
白川拓磨 (北北海道)
伊藤朋大 北越
米田健司 (新潟)
安田僚 水島工業
高地修史 (岡山)
村上慎道 高岡第一
山口容正 (富山)
北谷祐太 英明
福家雄彦 (香川)
渡邊達哉 日章学園
定宗隆一郎 (宮崎)
大森康平 富岡
大島智彦 (福島)
砂井良介 北越
堀裕也 (新潟)
上田拓郎 名経大市邨
樋渡元志 (愛知)
中井翔太 八代東
城野雄太 (熊本)
尾野拓郎 札幌第一
佐久間浩平 (南北海道)
南淳也 金沢市立工業
吉森司 (石川)
金森優太 新田
新居克哉 (愛媛)
青木洋 鳥取工業
中島亮 (鳥取)
丸尾亮太郎 伊勢崎清明
中村太郎 (群馬)
東野圭悟 東大阪大学柏原
大滝直人 (大阪)

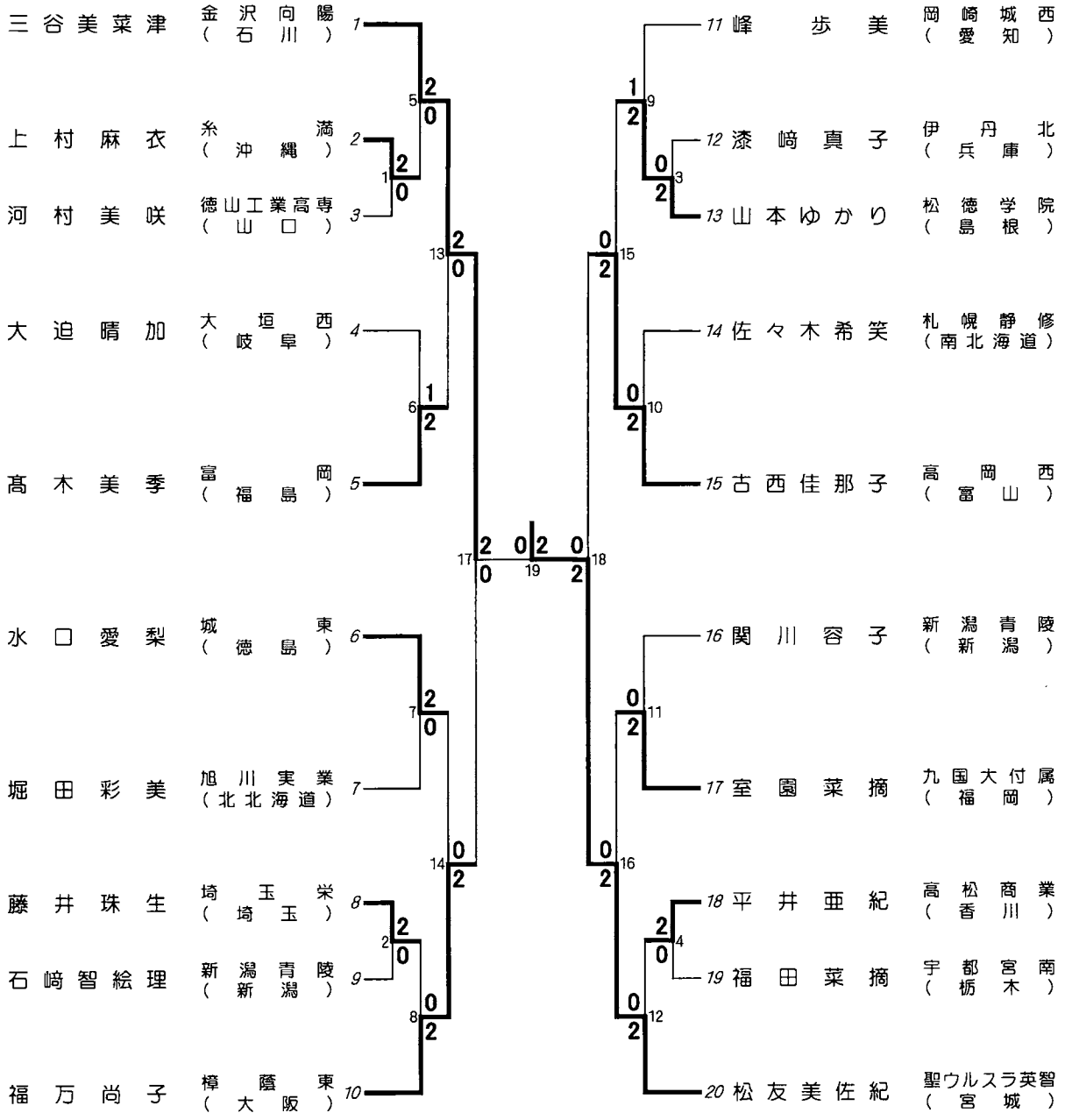
女子ダブルス（20組）


水口愛梨 城東
若田美沙 (徳島)
大迫晴加 大垣西
田邊あい (岐阜)
木戸よし美 富岡
篠田未来 (福島)
山田真央 埼玉栄
神中成緒 (埼玉)
井田詩織 鳥取敬愛
石原万実 (鳥取)
三谷美菜津 金沢向陽
平野華梨 (石川)
小野寺晴香 帯広大谷
柴田琴乃 (北北海道)
室園菜摘 九国大付属
小田朱里 (福岡)
高橋真理 京都西山
松本茜 (京都)
大湊望 新潟青陵
関川容子 (新潟)
新玉美郷 名経大市邨
城口優里花 (愛知)
石塚絵利香 新潟青陵
村山果帆 (新潟)
森賀佳奈 新田
樫栄祥子 (愛媛)
阿部睦未 札幌北斗
小野寺萌子 (南北海道)
市丸美里 青森山田
田中志穂 (青森)
青柳佐紀 八代白百合
永田奈智加 (熊本)
牧野美咲 四天王寺
山本紗椰 (大阪)
逢澤舞 倉敷南
河野菜月 (岡山)
田代有妃 作新学院
谷口友希 (栃木)
髙橋沙也加 高岡西
古西佳那子 (富山)

男子シングルス（20名）


渡邊達哉 日章学園（宮崎） 1
平井優也 比叡山（滋賀） 2
米田健司 北越（新潟） 3
逢澤良亮 水島工業（岡山） 4
島谷航平 旭川実業（北北海道） 5
櫻庭弘貴 青森山田（青森） 6
米山修平 富士（静岡） 7
木村健太朗 高松第一（香川） 8
間瀬俊介 関東第一（東京） 9
藤巻嵩覚 大町北（長野） 10
東野圭悟 東大阪大学柏原（大阪） 11
土井悠也 広島城北（広島） 12
大森康平 富岡（福島） 13
金森優太 新田（愛媛） 14
伊藤朋大 北越（新潟） 15
尾野拓郎 札幌第一（南北海道） 16
藤田康史 岡崎城西（愛知） 17
山口容正 高岡第一（富山） 18
平山涼介 八代東（熊本） 19
長谷川達也 埼玉栄（埼玉） 20

女子シングルス（20名）


三谷美菜津 金沢向陽（石川） 1
上村麻衣 糸満（沖縄） 2
河村美咲 徳山工業高専（山口） 3
大迫晴加 大垣西（岐阜） 4
髙木美季 富岡（福島） 5
水口愛梨 城東（徳島） 6
堀田彩美 旭川実業（北北海道） 7
藤井珠生 埼玉栄（埼玉） 8
石﨑智絵理 新潟青陵（新潟） 9
福万尚子 樟蔭東（大阪） 10
11 峰歩美 岡崎城西（愛知）
12 漆﨑真子 伊丹北（兵庫）
13 山本ゆかり 松徳学院（島根）
14 佐々木希笑 札幌静修（南北海道）
15 古西佳那子 高岡西（富山）
16 関川容子 新潟青陵（新潟）
17 室園菜摘 九国大付属（福岡）
18 平井亜紀 高松商業（香川）
19 福田菜摘 宇都宮南（栃木）
20 松友美佐紀 聖ウルスラ英智（宮城）

栄光のあと

回　数	種別	1　位	2　位	3　位	
第28回 **1999年度（平成11年度）** **岐阜県各務原市** 各務原市総合体育館 2000年（平成12年） 3月25日～3月28日	男子	関東第一 (東京)	高岡工芸 (富山)	常総学院 (茨城)	八代東 (熊本)
	女子	埼玉栄 (埼玉)	滋賀女子 (滋賀)	長崎女子 (長崎)	県立岐阜商業 (岐阜)
	男複	槙野　貴行 菊田　学 (常総学院・茨城)	守田　喬 斎藤　大吾 (九州国際大付・福岡)	早坂　幸平 石田　圭太 (札幌第一・(南)北海道)	川前　直樹 諸多　大輔 (柏原・大阪)
	女複	佐野志緒梨 金上　路子 (聖ウルスラ学院・宮城)	松田　友美 宇津早也香 (長崎女子・長崎)	田井　紀子 梅津　知恵 (金沢向陽・石川)	下野　鈴佳 小椋久美子 (四天王寺・大阪)
	男単	榎本　良永 (比叡山・滋賀)	川前　直樹 (柏原・大阪)	早坂　幸平 (札幌第一・(南)北海道)	佐々木　翔 (関東第一・東京)
	女単	楊　　蔦琳 (青森山田・青森)	広岡まり香 (埼玉栄・埼玉)	小椋久美子 (四天王寺・大阪)	後藤　愛 (県立岐阜商業・岐阜)
第29回 **2000年度（平成12年度）** **宮城県塩竈市** 塩竈市体育館 2001年（平成13年） 3月24日～3月27日	男子	関東第一 (東京)	埼玉栄 (埼玉)	水島工業 (岡山)	八代東 (熊本)
	女子	県立岐阜商業 (岐阜)	青森山田 (青森)	滋賀女子 (滋賀)	四天王寺 (大阪)
	男複	劉　　志遠 平田　典靖 (高岡工芸・富山)	斉藤　元伸 堤　　敦史 (埼玉栄・埼玉)	岩脇　峰生 西浦　和広 (青森山田・青森)	森田　広貴 斉藤　篤史 (福岡大学附属大濠・福岡)
	女複	楊　　蔦琳 廣瀬栄理子 (青森山田・青森)	多谷　郁恵 早川由希子 (滋賀女子・滋賀)	宇津早也香 小森　美希 (長崎女子・長崎)	服部　麻衣 倉満　一美 (昭和女子・大分)
	男単	劉　　志遠 (高岡工芸・富山)	左村　正和 (八代東・熊本)	三上　真秀 (帯広大谷・(北)北海道)	鈕　　佳平 (青森山田・青森)
	女単	対　　晶 (高岡龍谷・富山)	小椋久美子 (四天王寺・大阪)	廣瀬栄理子 (青森山田・青森)	多谷　郁恵 (滋賀女子・滋賀)
第30回 **2001年度（平成13年度）** **長崎県長崎市** 長崎県総合体育館 大村市体育文化センター 2002年（平成14年） 3月23日～3月26日	男子	関東第一 (東京)	埼玉栄 (埼玉)	八代東 (熊本)	札幌第一 ((南)北海道)
	女子	青森山田 (青森)	埼玉栄 (埼玉)	九州国際大付属 (福岡)	県立岐阜商業 (岐阜)
	男複	第30回記念大会のため、個人戦は実施せず			
	女複				
	男単				
	女単				
第31回 **2002年度（平成14年度）** **静岡県富士宮市** 富士宮市体育館 2003年（平成15年） 3月21日～3月24日	男子	埼玉栄 (埼玉)	関東第一 (東京)	八代東 (熊本)	比叡山 (滋賀)
	女子	星陵 (静岡)	熊本中央 (熊本)	聖ウルスラ学院 (宮城)	青森山田 (青森)
	男複	高木　洋平 松本　久雄 (関東第一・東京)	黒田　俊明 中尾　祐介 (埼玉栄・埼玉)	多谷　公志 早川　賢一 (比叡山・滋賀)	比内　恭兵 佐藤　裕樹 (東奥学園・青森)
	女複	吉村　征美 前田　美順 (熊本中央・熊本)	伊東　可奈 梨木　春花 (金沢向陽・石川)	臼井　裕子 三輪紗弥香 (県岐阜商業・岐阜)	馬上　愛実 冨島　道子 (上尾・埼玉)
	男単	数野　健太 (比叡山・滋賀)	遠藤　大由 (小松原・埼玉)	川内　崇士 (青森山田・青森)	黒瀬　尊敏 (高岡工芸・富山)
	女単	平山　　優 (聖ウルスラ学院・宮城)	松尾　静香 (此花学院・大阪)	神　ゆかり (淑徳巣鴨・東京)	金森　裕子 (星陵・静岡)
第32回 **2003年度（平成15年度）** **山口県山口市** 山口市民会館 山口県維新百年記念公園 山口県スポーツ文化センター 2004年（平成16年） 3月25日～3月28日	男子	関東第一 (東京)	埼玉栄 (埼玉)	八代東 (熊本)	比叡山 (滋賀)
	女子	此花学院 (大阪)	青森山田 (青森)	金沢向陽 (石川)	札幌静修 ((南)北海道)
	男複	早川　賢一 早崎　修平 (比叡山・滋賀)	三瓶　　明 加納　　翼 (札幌第一・(南)北海道)	安村　達二 竹内　雅明 (関東第一・東京)	辻井　悠介 山岡　悠二 (久居・三重)
	女複	永野　陽子 工藤　亜紀 (札幌静修・(南)北海道)	岡　ひとみ 西　　郁美 (熊本中央・熊本)	今別府香里 大田　佳奈 (青森山田・青森)	松尾　静香 恵良由里亜 (此花学院・大阪)
	男単	遠藤　大由 (小松原・埼玉)	堀川　善生 (関東第一・東京)	佐伯　祐行 (水島工業・岡山)	高島　雅彦 (札幌第一・(南)北海道)
	女単	松尾　静香 (此花学院・大阪)	岡　ひとみ (熊本中央・熊本)	関谷　真由 (九州国際大学付属・福岡)	今別府香里 (青森山田・青森)

回　数	種別	1　位	2　位	3　位	
第33回 **2004年度（平成16年度）** **愛媛県松山市** 松山市総合コミュニティーセンター 2005年（平成17年） 3月24日～3月27日	男子	埼玉栄 （埼玉）	水島工業 （岡山）	比叡山 （滋賀）	青森山田 （青森）
	女子	青森山田 （青森）	金沢向陽 （石川）	埼玉栄 （埼玉）	聖ウルスラ学院 （宮城）
	男複	大滝　涼太 安田　敬之 （柏原・大阪）	三橋　智希 林　純司 （埼玉栄・埼玉）	松浦　翔 鈴木　大裕 （青森山田・青森）	斉藤　祐司 斉藤　真弘 （足羽・福井）
	女複	浜中麻亜子 樽野　恵 （金沢向陽・石川）	川西ゆかり 岸本　真美 （香川中央・香川）	伊藤小菜美 村山絵理花 （聖ウルスラ学院・宮城）	江淵　愛美 金山　友萌 （高岡西・富山）
	男単	佐伯　祐行 （水島工業・岡山）	高島　雅彦 （札幌第一・(南)北海道）	松川　直弘 （勝山・福井）	上田　拓馬 （埼玉栄・埼玉）
	女単	藤井　瑞希 （青森山田・青森）	江淵　愛美 （高岡西・富山）	井上　春奈 （埼玉栄・埼玉）	奥　幸那 （県立岐阜商業・岐阜）
第34回 **2005年度（平成17年度）** **福井県敦賀市** 敦賀市総合運動公園体育館 2006年（平成18年） 3月24日～3月27日	男子	埼玉栄 （埼玉）	八代東 （熊本）	柏原 （大阪）	勝山 （福井）
	女子	金沢向陽 （石川）	青森山田 （青森）	埼玉栄 （埼玉）	聖ウルスラ英智 （宮城）
	男複	田児　賢一 松丸　一輝 （埼玉栄・埼玉）	園田　啓悟 嘉村　健士 （八代東・熊本）	川下　剛士 西澤　潤 （比叡山・滋賀）	松川　直弘 笹木　里司 （勝山・福井）
	女複	藤井　瑞希 垣岩　令佳 （青森山田・青森）	樽野　恵 木村　唯菜 （金沢向陽・石川）	石川　育実 中原　唯衣 （伊勢崎清明・群馬）	伊藤　小菜美 村山　絵理花 （聖ウルスラ英智・宮城）
	男単	田児　賢一 （埼玉栄・埼玉）	井谷　和弥 （柏原・大阪）	湯谷　亮介 （鳥取工業・鳥取）	武山　修三 （八代東・熊本）
	女単	樽野　恵 （金沢向陽・石川）	野尻野　匡世 （尚志・福島）	藤井　瑞希 （青森山田・青森）	田村　千秋 （昭和学園・大分）
第35回 **2006年度（平成18年度）** **北海道札幌市** 北海道立総合体育センター きたえーる 2007年（平成19年） 3月25日～3月28日	男子	埼玉栄 （埼玉）	熊本県立八代東 （熊本）	関東第一 （東京）	比叡山 （滋賀）
	女子	青森山田 （青森）	埼玉県立越谷南 （埼玉）	聖ウルスラ学院英智 （宮城）	九州国際大学付属 （福岡）
	男複	第35回記念大会のため、個人戦は実施せず			
	女複				
	男単				
	女単				
第36回 **2007年度（平成19年度）** **大分県日田市** 日田市総合体育館 昭和学園高校体育館 2008年（平成20年） 3月22日～3月25日	男子	埼玉栄 （埼玉）	比叡山 （滋賀）	東大阪大学柏原 （大阪）	関東第一 （東京）
	女子	聖ウルスラ英智 （宮城）	青森山田 （青森）	埼玉栄 （埼玉）	とわの森三愛 （(南)北海道）
	男複	矢部　拓也 村上　俊 （比叡山・滋賀）	千京　尚将 川西　俊也 （勝山・福井）	辻　博明 新　浩平 （金沢市立工業・石川）	北島　翼 中野　忠昭 （青森山田・青森）
	女複	高橋　礼華 松友美佐紀 （聖ウルスラ英智・宮城）	橋本　由衣 米本　小春 （青森山田・青森）	西　友里 久後あすみ （四天王寺・大阪）	村岡　尚美 横山めぐみ （八代白百合・熊本）
	男単	和田　周 （埼玉栄・埼玉）	木戸　道治 （関東第一・東京）	末松　純 （福岡大大濠・福岡）	千京　尚将 （勝山・福井）
	女単	三谷美菜津 （金沢向陽・石川）	松友美佐紀 （聖ウルスラ英智・宮城）	橋本　由衣 （青森山田・青森）	山本しずか （加古川東・兵庫）
第37回 **2008年度（平成20年度）** **新潟県新潟市** 新潟市東総合スポーツセンター 2009年（平成21年） 3月24日～3月27日	男子	埼玉栄 （埼玉）	八代東 （熊本）	関東第一 （東京）	札幌第一 （(南)北海道）
	女子	聖ウルスラ英智 （宮城）	青森山田 （青森）	新潟青陵 （新潟）	埼玉栄 （埼玉）
	男複	星野　翔平 小林　晃 （埼玉栄・埼玉）	尾野　拓郎 佐久間浩平 （札幌第一・(南)北海道）	渡邊　達哉 定宗隆一郎 （日章学園・宮崎）	丸尾亮太郎 中村　太郎 （伊勢崎清明・群馬）
	女複	三谷美菜津 平野　華梨 （金沢向陽・石川）	新玉　美郷 城口優里花 （名経大市邨・愛知）	山田　真央 神中　成緒 （埼玉栄・埼玉）	牧野　美咲 山本　紗椰 （四天王寺・大阪）
	男単	渡邊　達哉 （日章学園・宮崎）	大森　康平 （富岡・福島）	間瀬　俊介 （関東第一・東京）	尾野　拓郎 （札幌第一・(南)北海道）
	女単	松友美佐紀 （聖ウルスラ英智・宮城）	三谷美菜津 （金沢向陽・石川）	古西佳那子 （高岡西・富山）	福万　尚子 （樟蔭東・大阪）

全国高等学校選抜バドミントン選手権大会 学校対抗出場校一覧(男子)

都道府県 / 学校名	年度	昭47	昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
	開催地	栃木県	東京都	東京都	群馬県	福島県	奈良県	東京都	栃木県	滋賀県	群馬県	島根県	栃木県	石川県	沖縄県	北海道	兵庫県	栃木県	東京都	富山県	栃木県	新潟県	愛知県	埼玉県	北海道	京都府	東京都	岩手県	岐阜県	滋賀県	長崎県	静岡県	山口県	愛媛県	福井県	北海道	大分県	新潟県
	出場数	0	0	10	10	10	10	10	10	10	16	16	16	16	16	20	20	21	20	21	49	21	21	20	20	49	20	21	21	21	49	21	21	21	21	49	21	21
北海道	5			○	○	○	○	○																														
北北海道	0																																					
旭川工業	14																○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○							
旭川実業	6																							○							○		○	○		○	○
帯広緑陽	2													○		○																						
帯広大谷	2																																○			○		
帯広柏葉	1								○																													
滝川	1										○																											
滝川工業	1															○																						
南北海道	0																																					
札幌第一	27									○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
札幌新川	1																								○													
北海学園札幌	1																																			○		
青森	1					○																																
東奥義塾	10										○	○	○	○	○	○					○	○				○	○											
青森山田	8																											○	○	○		○	○	○		○	○
弘前工業	3																○	○							○												
東奥学園	2																															○				○		
弘前実業	1									○																												
岩手	0																																					
前沢	6																				○					○		○					○			○		
盛岡大学附属	1																											○									
宮城	1				○																																
宮城県工業	16											○	○			○			○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○			○		
仙台商業	2																													○	○						
秋田	0																																					
横手工業	2													○																	○						
秋田経法大附属(秋田短大付属・秋田経大付属)	1																				○																
国学館(敬愛学園)	1																									○											
秋田工業	1																																			○		
山形	3			○			○	○																														
日大山形	9								○		○				○		○	○	○	○	○					○											
鶴岡工業	3																											○			○				○		
福島	1					○																																
帝京安積	6																						○							○	○	○			○	○		
会津工業	4																				○			○		○	○										
富岡	2																																				○	○
茨城	2			○				○																														
常総学院	18														○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			○	○	○		○	○	
石岡第一	1													○																								
茗渓学園	1																														○							
藤代	1																																		○			
栃木	1						○																															
作新学院(作新学院高等部)	11												○			○		○								○	○		○	○	○	○	○			○		
宇都宮南	3																				○		○	○													
宇都宮工業	2																	○			○																
今市	1								○																													
群馬	1				○																																	
前橋東	9																	○			○	○			○	○	○			○	○			○				
桐生市立商業	2										○						○																					
太田市立商業	2																																			○		○
伊勢崎清明	1																																				○	
埼玉	1					○																																
上尾	12										○				○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○											
埼玉栄	10																											○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
越谷南	5										○							○				○		○				○										
小松原	3											○	○	○																								
千葉	0																																					
千葉敬愛	8																		○	○	○					○		○							○	○		
西武台千葉	1																																					○
東京	2			○				○																														
関東第一	20																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日大鶴ヶ丘	3																○	○	○																			
桐朋	1															○																						
淑徳巣鴨(巣鴨女子)	1																										○										

都道府県 学校名	年度	昭47	昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
	開催地	栃木県	東京都	東京都	群馬県	福島県	奈良県	東京都	栃木県	滋賀県	群馬県	島根県	栃木県	石川県	沖縄県	北海道	兵庫県	栃木県	東京都	富山県	栃木県	新潟県	愛知県	埼玉県	北海道	京都府	東京都	岩手県	岐阜県	滋賀県	長崎県	静岡県	山口県	愛媛県	福井県	北海道	大分県	新潟県
	出場数	0	0	10	10	10	10	10	10	10	16	16	16	16	16	20	20	21	20	21	49	21	21	20	20	49	20	21	21	21	49	21	21	21	21	49	21	21
神奈川	1				○																																	
川崎総合科学（川崎市立工業）	10																		○			○		○	○	○				○	○				○	○	○
日本大学	5															○	○	○		○	○																	
横浜	3																										○	○		○								
藤沢翔陵	3																																○	○	○			
横浜立野	1								○																													
法政大学第二	1																						○															
元石川	1																												○									
山梨	0																																					
日川	5									○		○	○			○										○												
市立甲府商業	2																				○										○							
都留	1																																		○			
新潟	0																																					
北越（北越商業）	8													○							○	○				○	○				○					○		○
燕	1										○																											
加茂暁星	1																					○																
長岡工業	1																																					○
富山	1						○																															
高岡第一	9								○											○					○	○		○		○					○	○		○
高岡工芸	7															○		○	○	○	○								○							○	
富山商業	3											○											○	○														
不二越工業	2																○														○							
高岡商業	1														○																							
石川	3			○	○	○																																
金沢市立工業	20									○		○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○		○		
金沢二水	1																			○																		
石川県立工業	1																																		○			
福井	1							○																														
勝山	12													○				○	○	○	○					○				○				○	○	○	○	○
足羽	7										○		○																○		○	○	○		○			
長野	0																																					
中野実業	2																				○	○																
長野商業	2																														○					○		
須坂	1																									○												
岐阜	1							○																														
県立岐阜商業	14																	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○				○	○		
岐阜工業	1																												○									
静岡	0																																					
星陵	6																									○					○	○				○	○	○
伊東商業	4													○		○	○			○																		
伊東	3										○		○		○																							
沼津学園	2																				○				○													
沼津商業	1																															○						
愛知	0																																					
岡崎城西	10																○	○		○	○		○			○		○	○			○	○				
東海	3											○		○									○															
名経大市邨	3																																		○	○	○	○
大府	2																														○	○						
愛知工大名電（名古屋電気工業）	1												○																									
大府東	1														○																							
三重	4			○	○	○	○																															
伊勢工業	8								○	○	○	○				○					○	○	○															
暁	8																							○		○	○	○	○					○	○	○		
久居	4																													○	○	○	○					
鳥羽	1																		○																			
滋賀	2					○	○																															
比叡山	29								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京都	0																																					
西乙訓	2																				○					○												
京都両洋	2																									○					○							
桂	1																																			○		
大阪	0																																					
柏原	13														○		○			○							○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
此花学院	3																		○			○							○									
大阪学芸（成器）	2																								○	○												
大阪桐蔭	1																				○																	
兵庫	0																																					
三田学園	2													○							○																	

都道府県 学校名	年度	昭47	昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
	開催地	栃木県	東京都	東京都	群馬県	福島県	奈良県	東京都	栃木県	滋賀県	群馬県	島根県	栃木県	石川県	沖縄県	北海道	兵庫県	栃木県	東京都	富山県	栃木県	新潟県	愛知県	埼玉県	北海道	京都府	東京都	岩手県	岐阜県	滋賀県	長崎県	静岡県	山口県	愛媛県	福井県	北海道	大分県	新潟県
	出場数	0	0	10	10	10	10	10	10	10	16	16	16	16	16	20	20	21	20	21	49	21	21	20	20	49	20	21	21	21	49	21	21	21	21	49	21	21
神戸村野工業	2																														○					○		
市立尼崎	1																○																					
加古川東	1																									○												
奈良	4			○	○		○	○																														
奈良一条	10									○	○	○	○			○				○	○		○	○												○		
添上	2																									○	○											
奈良大学付属(正強)	1																	○																				
奈良	1																														○							
和歌山	0																																					
新宮	2																														○					○		
新宮商業	1																				○																	
那賀	1																									○												
鳥取	2				○		○																															
境港工業	3									○	○																				○							
米子東	2																				○					○												
鳥取工業	1																																		○			
倉吉総合産業	1																																			○		
島根	0																																					
大東	3											○												○							○							
松江北	2																				○															○		
松江西	1																									○												
岡山	1			○																																		
水島工業	9																									○		○	○	○	○		○	○		○	○	
倉敷工業(倉敷老松)	2																						○		○													
倉敷天城	1								○																													
西大寺	1												○																									
瀬戸南	1																				○																	
広島	1							○																														
安佐北	3																									○	○				○							
広島城北	1																				○																	
広島桜が丘	1																																			○		
山口	1					○																																
柳井商工(柳井工業)	14											○		○	○	○	○	○	○	○	○										○	○	○			○		○
下関中央工業	1																					○																
野田学園	1																									○												
山口県鴻城	1																																○					
徳島	1						○																															
城東	2																									○					○							
日和佐	1																				○																	
徳島商業	1																																			○		
香川	4			○	○	○		○																														
高松商業	20									○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○			○		○
高松西	2										○	○																										
高松第一	1																														○							
香川中央	1																																		○			
英明	1																																			○		
愛媛	0																																					
新田	7																				○					○					○	○		○		○		○
新居浜東	1																																	○				
高知	0																																					
土佐	2												○	○																								
高知商業	2								○																						○							
高知学芸	1																				○																	
高知東工業	1																									○												
嶺北	1																																			○		
福岡	0																																					
九州国際大学付属 (八幡大学付属)	10															○	○			○	○	○	○			○	○	○	○									
福岡大学大濠	5																		○					○						○		○			○		
自由ヶ丘 (九州共立大学八幡西)	4																														○	○			○		○	
佐賀	0																																					
唐津工業	2																				○					○												
唐津南	2																														○					○		
長崎	0																																					
瓊浦	6										○	○	○	○	○																○							
西陵	5																				○										○			○		○	○	
創成館	1																									○												

都道府県 学校名	年度	昭47	昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
	開催地	栃木県	東京都	東京都	群馬県	福島県	奈良県	東京都	栃木県	滋賀県	群馬県	島根県	栃木県	石川県	沖縄県	北海道	兵庫県	栃木県	東京都	富山県	栃木県	新潟県	愛知県	埼玉県	北海道	京都府	東京都	岩手県	岐阜県	滋賀県	長崎県	静岡県	山口県	愛媛県	福井県	北海道	大分県	新潟県
	出場数	0	0	10	10	10	10	10	10	10	16	16	16	16	16	20	20	21	20	21	49	21	21	20	20	49	20	21	21	21	49	21	21	21	21	49	21	21
大分	0																																					
別府鶴見丘	3																														○					○	○	
竹田商業	1																				○																	
日田林工	1																									○												
大分西	1																																				○	
熊本	5			○	○	○	○	○																														
八代東	13																							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○
熊本学園大学付属 (熊本商科大学附属)	9													○	○	○	○	○	○			○	○											○				
九州学院	5								○	○	○	○	○																									
芦北	2																			○	○																	
宮崎	0																																					
宮崎工業	4																				○				○	○										○		
妻	1																														○							
日章学園	1																																					○
鹿児島	0																																					
鹿児島商業	2																				○					○												
鹿児島	2																														○					○		
沖縄	0																																					
豊見城	1														○																							
糸満	1																	○																				
南部商業	1																				○																	
南風原	1																									○												
読谷	1																														○							
コザ	1																																			○		

全国高等学校選抜バドミントン選手権大会 学校対抗出場校一覧(女子)

都道府県 / 学校名	年度	昭47	昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
	開催地	栃木県	東京都	東京都	群馬県	福島県	奈良県	東京都	栃木県	滋賀県	群馬県	島根県	栃木県	石川県	沖縄県	北海道	兵庫県	栃木県	東京都	富山県	栃木県	新潟県	愛知県	埼玉県	北海道	京都府	東京都	岩手県	岐阜県	滋賀県	長崎県	静岡県	山口県	愛媛県	福井県	北海道	大分県	新潟県
		0	0	10	10	10	10	10	10	10	16	16	16	16	16	20	21	22	21	22	49	22	22	21	21	49	21	22	22	22	49	22	22	22	22	49	22	22
北海道	5			○	○	○	○	○																														
北北海道	0																																					
旭川実業	17																				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
帯広大谷	4											○				○			○	○																		
砂川南	2								○	○																												
旭川凌雲	1															○																						
釧路星園	1																○																					
旭川商業	1																	○																				
旭川北都商業	1																																		○			
南北海道	0																																					
札幌静修	22														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○
とわの森三愛	4																								○										○	○	○	
北星学園女子	2												○	○																								
長沼	1										○																											
青森	3				○	○		○																														
千葉学園	17								○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○									
青森山田	9																													○	○	○	○	○	○	○	○	○
弘前学院聖愛	4									○	○											○			○													
岩手	0																																					
盛岡市立	4																				○					○		○		○								
前沢	2																											○								○		
宮城	0																																					
聖ウルスラ学院英智(聖ウルスラ学院)	26												○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
角田女子	1											○																										
常盤木学園	1																													○								
秋田	0																																					
能代西(能代農業)	1																				○																	
新屋	1																									○												
羽後	1																														○							
秋田和洋女子	1																																			○		
山形	1						○																															
山形城北女子	2										○																			○								
山形市立商業	2																														○					○		
新庄南	1																				○																	
米沢工業	1																									○												
福島	2			○		○																																
尚志	2																									○										○		
若松女子	1																				○																	
清陵情報	1																														○							
茨城	0																																					
常総学院	16														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○					○		
土浦第三	1																									○												
栃木	3			○		○	○																															
小山城南	11								○	○	○	○	○	○		○		○			○			○						○								
宇都宮南	3																				○				○	○												
真岡女子	3																	○														○		○				
作新学院	3																																		○	○		○
群馬	1				○																																	
前橋東	12																	○	○	○	○	○	○			○		○	○		○	○	○					
伊勢崎清明	3																																		○	○	○	
新島学園	1										○																											
前橋東商業	1										○																											
埼玉	1							○																														
埼玉栄	19																	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
上尾	6											○	○		○	○	○															○						
越谷南	2																							○												○		
千葉	0																																					
西武台千葉	7																												○	○	○		○	○		○		○
東葉(船橋学園女子)	2																								○	○												
中央学院	1																				○																	
千葉敬愛	1																																				○	

都道府県 学校名	年度	昭47	昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
	開催地	栃木県	東京都	東京都	群馬県	福島県	奈良県	東京都	栃木県	滋賀県	群馬県	島根県	栃木県	石川県	沖縄県	北海道	兵庫県	栃木県	東京都	富山県	栃木県	新潟県	愛知県	埼玉県	北海道	京都府	東京都	岩手県	岐阜県	滋賀県	長崎県	静岡県	山口県	愛媛県	福井県	北海道	大分県	新潟県
		0	0	10	10	10	10	10	10	10	16	16	16	16	16	20	21	22	21	22	49	22	22	21	21	49	21	22	22	22	49	22	22	22	22	49	22	22
東京	3			○	○			○																														
日本橋女学館	10																						○	○		○	○	○	○	○	○			○				○
淑徳巣鴨(巣鴨女子)	8																		○	○	○	○			○							○	○		○			
日本大学鶴ヶ丘	3												○	○		○																						
桜華女学院 (日体桜華女子)	2																○		○																				
関東第一	2																																		○	○		
文化女子大学杉並	1																	○																				
國學院久我山	1																										○											
神奈川	0																																					
北鎌倉女子学園	5																		○		○	○		○	○													
富士見丘	4															○	○	○											○									
川崎総合科学	4																														○			○	○		○	
柏陽	2																									○		○										
大和西	2																													○	○							
横浜立野	1								○																													
厚木東	1																			○																		
鶴見女子	1																						○															
弥栄西	1																										○											
元石川	1																																○					
鵠沼	2																																		○			○
山梨	0																																					
市立甲府商業	3																									○					○				○			
山梨	1																○																					
増穂商業	1																				○																	
新潟	2			○	○																																	
新潟青陵 (新潟女子工芸)	16								○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○					○	○						○
新発田商業	2																																			○		○
新潟商業	1																					○																
富山	2					○	○																															
高岡西(高岡女子)	17									○				○	○	○					○		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○		○
富山商業	4																			○		○									○						○	
藤園女子	1																			○																		
高岡龍谷	1																													○								
石川	1							○																														
金沢向陽	20																○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金城	3										○	○		○																								
金沢二水	3										○		○									○																
福井	0																																					
足羽	4																	○			○					○					○							
勝山	2																																	○	○			
仁愛女子	1																																	○				
長野	0																																					
長野商業	2																				○					○												
松代	1																														○							
文化女子大学附属長野	1																																		○			
岐阜	1						○																															
県立岐阜商業	15																○	○			○		○	○		○			○	○	○	○		○	○	○	○	○
岐阜女子商業	2									○					○																							
鶯谷	1																												○									
静岡	2				○	○																																
富士宮東	4															○			○		○				○													
星陵	4																														○	○	○		○			
静岡女子	2																									○						○						
吉原	1													○																								
愛知	1							○																														
愛知淑徳	15								○		○	○	○	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○				○								
名経大市邨 (市邨学園)	5																○				○								○		○			○				
岡崎城西	4																																		○	○	○	○
大府	3																										○	○				○						
佐屋	2																			○			○															

都道府県 学校名	年度	昭47	昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
	開催地	栃木県	東京都	東京都	群馬県	福島県	奈良県	東京都	栃木県	滋賀県	群馬県	島根県	栃木県	石川県	沖縄県	北海道	兵庫県	栃木県	東京都	富山県	栃木県	新潟県	愛知県	埼玉県	北海道	京都府	東京都	岩手県	岐阜県	滋賀県	長崎県	静岡県	山口県	愛媛県	福井県	北海道	大分県	新潟県
		0	0	10	10	10	10	10	10	10	16	16	16	16	16	20	21	22	21	22	49	22	22	21	21	49	21	22	22	22	49	22	22	22	22	49	22	22
三重	1			○																																		
暁	6																			○		○	○			○	○	○										
松阪	3										○	○									○																	
久居	3																													○		○			○		
鳥羽	1												○																									
宇治山田商業	1																												○									
滋賀	0																																					
滋賀短大附属（滋賀女子）	13										○										○			○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		
比叡山	7									○				○		○	○	○	○				○														
大津商業	3																																	○	○			○
京都	0																																					
京都西山（西山）	6																									○					○		○		○	○	○	
西乙訓	4																									○				○				○	○			
成安女子	2																○				○																	
大阪	5			○	○	○	○	○																														
四条畷学園	14								○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			○						○							
四天王寺	9																						○	○		○	○	○	○	○					○	○		
樟蔭東	3																																	○			○	○
此花学院	2																															○	○					
兵庫	0																																					
園田学園	8											○	○	○			○	○							○	○			○									
夙川学院	7														○				○	○	○	○									○					○		
日ノ本学園	1																															○						
奈良	1						○																															
奈良一条	9														○					○	○		○	○		○	○	○								○		
高田商業	1																					○																
添上	1																														○							
和歌山	0																																					
耐久	3																														○					○	○	
那賀	1																				○																	
新宮	1																									○												
鳥取	0																																					
境	2																									○				○								
米子西	1																				○																	
倉吉工業	1																														○							
米子北	1																																			○		
島根	0																																					
大東	3																				○					○					○							
松徳学院	3																																			○	○	○
松江商業	1											○																										
岡山	5			○	○	○	○	○																														
山陽女子	16								○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○			○	○					○					
倉敷翠松	2																	○								○											
笠岡商業	2																														○	○						
倉敷中央	2																																		○	○		
広島	0																																					
鈴峯女子	6																○		○		○				○	○								○				
広島桜が丘	1																														○							
清水ヶ丘	1																																			○		
山口	0																																					
山口中央	3																				○					○							○					
熊毛北	3																														○		○			○		
中村女子	1																												○									
徳島	0																																					
城東	4																				○					○					○					○		
香川	1			○																																		
香川中央	12																	○		○	○	○		○	○			○	○	○	○	○		○				
高松中央（高松女子商業）	6								○		○	○	○		○				○																			

都道府県 学校名	年度	昭47	昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20
	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
	開催地	栃木県	東京都	東京都	群馬県	福島県	奈良県	東京都	栃木県	滋賀県	群馬県	島根県	栃木県	石川県	沖縄県	北海道	兵庫県	栃木県	東京都	富山県	栃木県	新潟県	愛知県	埼玉県	北海道	京都府	東京都	岩手県	岐阜県	滋賀県	長崎県	静岡県	山口県	愛媛県	福井県	北海道	大分県	新潟県
		0	0	10	10	10	10	10	10	10	16	16	16	16	16	20	21	22	21	22	49	22	22	21	21	49	21	22	22	22	49	22	22	22	22	49	22	22
高松商業	6													○		○										○	○									○	○	
愛媛	0																																					
新田	5																																○	○	○	○		○
西条	2																○				○																	
新居浜西	2																									○								○				
新居浜東	1																														○							
高知	4				○	○	○	○																														
土佐女子	5									○											○		○								○					○		
清和女子	1																									○												
福岡	0																																					
九州国際大学付属 (八幡大学付属)	12														○								○			○		○		○	○	○	○		○	○	○	○
精華女子	5																				○	○		○	○		○											
佐賀	0																																					
佐賀女子	9																○	○	○	○	○		○			○					○					○		
長崎	1			○																																		
長崎女子(鶴鳴女子)	8										○	○		○		○					○					○			○		○							
西陵	1																													○								
長崎東	1																																			○		
大分	0																																					
昭和学園(昭和女子)	8																				○					○	○		○	○	○			○		○		
大分西	1																																				○	
別府鶴見丘	1																																				○	
熊本	4				○	○	○	○																														
熊本中央女子	14								○	○	○		○	○		○	○	○		○				○		○					○	○	○					
熊本信愛女学院	9											○			○				○		○	○			○		○							○	○			
八代白百合	3																																			○	○	○
宮崎	0																																					
宮崎商業	4												○								○					○					○							
高鍋	1																																			○		
鹿児島	0																																					
鹿児島女子	3																				○					○					○							
鹿児島	1																																			○		
沖縄	0																																					
糸満	3																									○					○					○		
那覇商業	1														○																							
南風原	1																				○																	

国際大会での活躍

平成10年度

◎1998年　アジアバドミントン選手権大会

男子団体
　２回戦　　日本（４－１）フィリピン
　準々決勝　日本（０－５）インドネシア
女子団体
　準々決勝　日本（１－４）台湾

◎第６回　中・日・韓ジュニア交流バドミントン競技会

男子　日本（２－３）河北省
　　日本（１－４）韓国
　　日本（０－５）中国
女子　日本（０－５）河北省
　　日本（０－５）韓国
　　日本（０－５）中国

◎オランダジュニア国際競技会'99

男子複　準優勝　　大束・中村

◎日独ジュニア対抗競技会

日本（０－７）ドイツ

◎ドイツジュニアオープン'99

男子複　準優勝　　大束・中村

平成11年度

◎1999年　アジアジュニアバドミントン選手権大会

男子団体
　１回戦　　日本（５－０）ベトナム
　準々決勝　日本（２－３）インドネシア
女子団体
　１回戦　　日本（５－０）ミャンマー
　準々決勝　日本（２－３）中華台北

平成12年度

◎第８回　韓・中・日ジュニア交流バドミントン競技会

男子国別団体戦　日本（４－１）韓国
　　日本（４－１）全羅北海
　　日本（２－３）中国
女子国別団体戦　日本（１－４）韓国
　　日本（０－５）全羅北海
　　日本（０－５）中国

◎第１回　世界ジュニア国別対抗バドミントン選手権大会　及び　第５回　世界ジュニアバドミントン選手権大会

団体戦予選第１回戦
　　日本（５－０）カナダ
予選第２回戦　日本（３－２）シンガポール
本選準々決勝　日本（０－３）インドネシア
５～８位決定戦第１回戦
　　日本（０－３）タイ
７～８位決定戦
　　日本（３－０）イングランド

平成13年度

◎2001年　アジアジュニアバドミントン選手権大会

男子団体
　２回戦　　日本（３－０）フィリピン
　準々決勝　日本（０－３）インドネシア
女子団体
　１回戦　　日本（３－１）ベトナム
　準々決勝　日本（２－３）タイ

◎第９回　中・日・韓ジュニア交流バドミントン競技会

男子国別対抗戦　日本（２－３）瀋陽
　　日本（０－５）韓国
　　日本（０－５）中国
女子国別対抗戦　日本（３－２）瀋陽
　　日本（２－３）韓国
　　日本（０－５）中国

◎オランダジュニア2002

女子複　第２位　小椋久美子／潮田玲子
　　第３位　多谷郁恵／廣瀬栄理子
女子単　第３位　小椋久美子

◎ドイツジュニア2002

女子複　第２位　　小椋久美子／潮田玲子

第３位　　廣瀬栄理子／岩田新菜
女子単　第３位　　小椋久美子

◎クロアチア国際2002

準優勝　　劉　志遠

平成14年度

◎2002年　アジアジュニア バドミントン選手権大会

男子団体
本戦第１回戦　日本（３－０）ミャンマー
準々決勝　　日本（２－３）マレーシア
女子団体
準々決勝　　日本（３－１）マレーシア
準決勝　　日本（０－３）中国

◎オランダジュニア2003

男子単　第３位　　池田雄一
男子複　第３位　　池田／新開
　　第３位　　黒田／仲尾
女子単　優　勝　　平山　優
　　第３位　　岩田新菜
女子複　第３位　　小野／松尾
　　第３位　　鍛治／今別府
混合複　優　勝　　山口／脇田
　　第３位　　新開／今別府

◎日独ジュニア交流競技会

日本（５－２）ドイツ

◎ドイツジュニア

男子単　優　勝　　池田雄一
男子複　第２位　　池田／新開
女子単　第３位　　平山　優
　　第３位　　岩田新菜
女子複　優　勝　　林／脇田
　　第３位　　鍛治／今別府
混合複　優　勝　　山口／脇田

◎平成14年度　台・日・韓高校生 バドミントン競技会

団体戦　男子　　日本（０－５）韓国
　　日本（０－５）台湾Ａ
　　日本（０－５）台湾Ｂ
団体戦　女子　　日本（０－５）韓国
　　日本（０－５）台湾Ａ
　　日本（０－５）台湾Ｂ

平成15年度

◎第11回　韓・中・日ジュニア交流 バドミントン競技会

男子　　日本（０－５）韓国
　　日本（２－３）済州
　　日本（０－５）中国
女子　　日本（１－４）韓国
　　日本（２－３）済州
　　日本（０－５）中国

◎平成15年度　日・韓高校生 バドミントン交流競技会

男子　第１戦　日本（０－５）韓国
　　第２戦　日本（２－３）韓国
　　第３戦　日本（０－５）韓国
女子　第１戦　日本（０－５）韓国
　　第２戦　日本（０－５）韓国
　　第３戦　日本（１－４）韓国
　　第４戦　日本（２－３）韓国

◎マレーシアサテライト

女子複　優勝　松田・赤尾

◎ＭＭＯＡ杯国際ジュニア バドミントン選手権大会

男子　第１戦　日本（２－３）中華台北Ｂ
　　第２戦　日本（０－３）インドネシア
　　第３戦　日本（０－５）中華台北Ａ
　　第４戦　日本（１－３）韓国
女子　第１戦　日本（０－３）韓国
　　第２戦　日本（０－３）中華台北Ｂ
　　第３戦　日本（０－３）インドネシア
　　第４戦　日本（２－３）中華台北Ａ

◎オランダジュニア2004

男子単　第２位　　数野健太
女子単　優　勝　　小柳知子
　　第２位　　今別府香里
　　第３位　　関谷真由
男子複　優　勝　　数野・早川
　　第３位　　黒田・中尾
女子複　優　勝　　小柳・前田
　　第２位　　金森・村松
　　第３位　　関谷・岡／今別府・松尾
混合複　優　勝　　早川・金森

◎日独ジュニア交流競技会

日本（6－1）ドイツ

◎ドイツジュニア2004

男子単	第3位	数野健太
女子単	第2位	小柳知子
	第3位	今別府香里
男子複	第2位	黒田・中尾
混合複	第2位	早川・金森

平成16年度

◎2004年　アジアジュニア
バドミントン選手権大会

男子団体
1回戦　日本（3－0）ドイツ
2回戦　日本（2－3）インドネシア
女子団体
1回戦　日本（3－0）シンガポール
2回戦　日本（0－3）インドネシア
男女共団体ベスト8

◎第12回　中・日・韓ジュニア交流競技会
バドミントン競技

男子	日本（0－5）韓国
	日本（0－5）中国
	日本（1－4）長春
女子	日本（0－5）韓国
	日本（1－4）中国
	日本（0－5）長春

◎2004年　世界ジュニア
バドミントン選手権大会

日本（2－3）香港
日本（1－4）ドイツ
日本（0－5）韓国
13～16位決定戦
日本（3－2）シンガポール
13・14位決定戦
日本（2－3）スウェーデン

◎平成16年度　韓・日高校生
バドミントン交流競技会

男子団体	日本（4－3）韓国
	日本（2－5）韓国
	日本（1－4）韓国
女子団体	日本（2－5）韓国
	日本（3－4）韓国
	日本（3－2）韓国

日韓交流初の1勝

◎オランダジュニア2005

男子複	第3位	小町谷／佐藤
女子単	第3位	今別府香里
女子複	優　勝	内藤／松尾
混合複	第2位	早川／内藤

◎ドイツジュニア2005

男子単	第2位	堀川善生
男子複	優　勝	遠藤／早川
女子単	第3位	今別府香里
混合複	第3位	佐藤／松尾

◎第1回　日中バドミントン交流競技会

男子	日本（0－3）中国
	日本（0－3）中国
女子	日本（0－3）中国
	日本（2－1）中国

平成17年度

◎2005年　台湾バドミントン
招待選手権大会

団体戦		日本（1－4）台湾B
		日本（1－4）マレーシア
		日本（1－4）韓国
		日本（1－4）台湾A
男子単	準優勝	上田拓馬
男子複	第3位	佐伯／上田
女子単	第3位	井上春奈
	第3位	藤井瑞希
女子複	第3位	井上／藤井

◎2005年　アジアジュニア
バドミントン選手権大会

男子団体
2回戦　日本（3－0）ミャンマー
準々決勝　日本（1－3）韓国
女子団体
準々決勝　日本（0－3）マレーシア

◎カーソンチェンマイ
バンコクオープン2005

男子単（U18）	準優勝	上田拓馬
女子複（U18）	優　勝	藤井／樽野

混合複（U18）　優　勝　　佐伯／樽野

◎平成17年度　韓・日高校生
バドミントン交流競技会

男子　　日本（1－6）韓国
　　日本（1－6）韓国
　　日本（2－5）韓国
女子　　日本（1－6）韓国
　　日本（1－6）韓国
　　日本（1－6）韓国

◎日本・マレーシア（U19）交流合宿

男子　　日本（2－7）マレーシア
女子　　日本（5－7）マレーシア

平成18年度

◎2006年　アジアジュニア
バドミントン選手権大会

男子団体
　1回戦　　日本（3－0）ベトナム
　2回戦　　日本（1－3）マレーシア
男子単　　優　勝　　田児賢一

◎第14回　日・韓・中ジュニア交流競技会
バドミントン競技

男子　　日本（0－5）韓国
　　日本（5－0）大邱
　　日本（1－4）中国
女子　　日本（2－3）韓国
　　日本（5－0）大邱
　　日本（0－5）中国

◎平成18年度　韓・日高校生
バドミントン交流競技会

日本（2－10）韓国
日本（2－10）韓国
日本（1－11）韓国

◎2006年　世界ジュニア
バドミントン選手権大会

グループX－2
　第1戦　　日本（5－0）カナダ
　第2戦　　日本（4－1）デンマーク
決勝トーナメント
　準々決勝　日本（1－3）マレーシア
　5～8位決定戦
　　日本（3－1）インド
　5・6位決定戦
　　日本（3－2）シンガポール

平成19年度

◎2007年　アジアジュニア
バドミントン選手権大会

予選リーグ
　第1戦　日本（4－1）タイ
　第2戦　日本（5－0）バングラディシュ
決勝トーナメント
　準々決勝　日本（3－2）韓国
　準決勝　　日本（1－3）マレーシア

◎第15回　日・韓・中ジュニア交流競技会
バドミントン競技

男子　　日本（3－2）韓国
　　日本（4－1）桂林
　　日本（1－4）中国
女子　　日本（0－5）韓国
　　日本（5－0）桂林
　　日本（0－5）中国

◎平成19年度　韓・日高校生
バドミントン交流競技会

男子　　日本（5－4）韓国
　　日本（6－3）韓国
　　日本（6－3）韓国
女子　　日本（3－6）韓国
　　日本（1－8）韓国
　　日本（2－7）韓国

◎カーソンチェンマイ
バンコクオープン2007

準優勝　　女子単（U18）　福万尚子

◎2007年　世界ジュニア
バドミントン選手権大会

団体戦
グループZ－2
　第1戦　日本（5－0）香港
　第2戦　日本（5－0）ドイツ
　第3戦　日本（4－1）チャイニーズタイペイ
決勝トーナメント
　準々決勝　日本（0－3）中国
　5～8位決定戦　日本（3－2）タイ
　5位決定戦　日本（3－2）インドネシア
男子単　準優勝　　田児賢一

◎バドミントン韓国
インターナショナルチャレンジ2007

男子単　準優勝　　田児賢一

◎日中（U17）交流合宿

男子　日本（0－9）中国
　　日本（9－0）マレーシア
女子　日本（2－7）中国
　　日本（4－0）マレーシア
　　日本（0－5）中国

平成20年度

◎2008年　アジアジュニア
バドミントン選手権大会

7／13～20
マレーシア国・クアラルンプール市
団体戦
予選リーグ
日　本（5－0）イラク
日　本（3－2）インド
日　本（2－3）マレーシア
決勝トーナメント・準々決勝
日　本（1－3）中　国

◎第16回　日・韓・中ジュニア
交流競技会

8／25～27　千葉県・千葉市
男　子
日　本（3－2）韓　国
日　本（5－0）千葉県
日　本（2－3）中　国
女　子
日　本（2－3）韓　国
日　本（5－0）千葉県
日　本（1－4）中　国

◎2008年　世界ジュニア
バドミントン選手権大会

10／24～11／2　インド国・プネー市
団体戦
予選リーグ
日　本（5－0）トルコ
日　本（5－0）ニュージーランド
日　本（5－0）カナダ
日　本（0－5）韓　国
決勝トーナメント
5位～8位順位決定戦
日　本（3－0）香　港
5位・6位順位決定戦
日　本（2－3）タ　イ
個人戦
女子シングルス決勝
佐藤　冴香（0－2）NEHWAL Saina
（宮城・常盤木学園）　（インド）

◎平成20年度　韓・日高校生
バドミントン交流競技会

11／18～21　大韓民国　蜜陽市
男　子
日　本（6－3）韓　国
日　本（6－3）韓　国
日　本（4－5）韓　国
女　子
日　本（5－4）韓　国
日　本（6－3）韓　国
日　本（6－3）韓　国

◎平成20年度　日・韓高校生
バドミントン交流競技会

12／14～16
ナショナルトレーニングセンター
男　子
日　本（4－5）韓　国
日　本（2－7）韓　国
日　本（4－5）韓　国
女　子
日　本（2－7）韓　国
日　本（2－7）韓　国
日　本（3－6）韓　国

栄光を目指して　●優勝監督寄稿文●

全国総体・選抜・国体 4年連続優勝

関東第一高等学校
バドミントン部
監督　渋　谷　　実

全国高体連60周年おめでとうございます。

この連盟がバドミントン競技の強化の礎である事は、ゆるがざる事実であり、この連盟の充実、発展こそが、日本バドミントン協会の競技力の向上に直接繋がる事と思います。

是非今後とも、私どもも微力ながら協力させていただきたいと思います。

まず初めに、本校が全国総体、選抜、国体と4年連続勝たしていただいた際、外国人留学生の問題に対し、高体連専門部の先生方には、多大な尽力をいただいた事に大変感謝すると共に、会議などにおきまして、各監督に誤解を生むような発言に改めてお詫び申し上げます。

当時の思い出は、この後どんな事が待っているかも考えずに、ただ目の前の試合に勝たせたい、勝ちたいでなく、勝たせたいという思いでいっぱいでした。毎日、毎日何をするにも勝つためにはポイントを取る事、ポイントをいかに失わない事、一人一人の性格に合わせて、その取り方とまた、失わない方法ばかり考えていた事を記憶しております。

さて、これからの大会の優勝者が、その後日本のバドミントンを支える事となる過程では、先に述べました、ポイントを取る事、又失わない方法が高校生から日本国内で通用するかに自分が挑戦したいと考えるようになりました。

当時本人たちは、そこまで気持ちがなく、私の一人よがりだった様に思います。さらにその一人よがりは、世界へのチャレンジとなり、世界一に勝たせたい、勝つためにはどうしたら良いのかを毎月考えるようになり自然と海外へと目が向いていった事を記憶しております。

最後に、私は育てていただいた高体連に感謝の意味で、よりアカデミックなバドミントン体制を近い将来、本校にて発展し、高体連を通じて、日本バドミントン協会に寄与できれば幸せです。

平成11年度 学校対抗優勝

平成13年度 学校対抗優勝

岩手インターハイ優勝までの道のり

九州国際大学付属高校
バドミントン部
監督　明神憲一

平成10年の「第49回四国インターハイ」で、前年度の京都インターハイ準優勝の悔しさをバネによく練習し、16回目の挑戦で初優勝を果たした。エース中内（元ＮＥＣ九州）を中心として、絶対的な力を持っている選手はいなかったが、隙のないオーダーで、接戦をものにしての優勝だった。しかし、この優勝の裏には、同県の精華女子の存在が大きかった。私が赴任した平成５年、初めてのインターハイ県予選の決勝で精華女子に競り負け、今まで感じたことのない悔しさを感じた。この悔しさが私のバドミントンを指導する原点となっている。その後、４年間で一度しか団体でインターハイに出場することができず、やめようと悩んだ時期もあった。しかし、森かおり（現三洋電機）との出会いで一変した。初めての中学ランキング上位者の入学で、その森が期待通り１年生からインターハイ単３位に入り、ジュニアナショナルチームに入った。森と一緒に海外に行く機会も増え、いつしか私は、本気で日本一になりたい、世界に通用する選手の育成をしたいと思うようになった。その森を中心として臨んだ２年次のインターハイ県予選でまたも精華女子に敗れた。この敗戦で、今のままの指導では、精華女子の浜司先生には勝てないと考え指導方針の転換を図った。怖いものは何もなかった。ただ浜司先生に勝ちたい。その一心で練習に励んだ。お互いに鎬を削り迎えた翌年の総体県予選、一進一退の攻防の末精華女子を倒し、私自身２回目のインターハイ出場を決めた。こんなに緊張をしたこともないし、こんなに勝ちたいと思ったこともなかった。生徒も同じ思いだった。この県大会の雰囲気、戦いが今考えるとインターハイ以上のものであり、この経験がインターハイ優勝の原動力であった。

四国インターハイ優勝に続き、二連覇を狙った岩手インターハイを連覇するにはチーム編成上シングルスがもう１本必要だった。この年、１年生に全中チャンピオンの潮田玲子が入学しこの穴を埋めてくれるものと期待を寄せた。しかし、期待していた以上に動けず、期待と不安を持ちながら第50回岩手インターハイに挑んだ。

大会が始まり２回戦夙川学院、３回戦県立岐阜商に３－０で順当に勝ち上がった。続く準々決勝高岡西戦、準決勝埼玉栄戦第１シングルスに潮田を使ったが、動きに精彩を欠き、同級生に敗退した。しかし、その負けを全員でカバーし決勝に駒を進めた。前年と同じ金沢向陽との対戦となった。決勝戦なのに気負いもなく、みんな生き生きとした表情だった。これも異様な雰囲気で戦った県大会の自信があったのだと思う。しかし、潮田だけは違っていた。この試合は、九国のエース松尾（現長崎東高教諭）の単複をはずしてくる恐れがあったので、当然第１シングルス勝負だった。しかし、潮田はここまで全敗、３年生を出すべきか悩んだが、全国を取ったことのある選手は、何か力を持っているはずだと考え、「負けてもいいから、お前に賭ける」と声をかけた。すると、潮田の顔は緩んだ。第１シングルスはファイナルゲームまでもつれたが、何とか逃げ切った。ダブルスは、１勝１敗で２対１で王手をかけた。第２シングルスの松尾は終始安定したプレーで寄せ付けず、ストレートで下し連覇を達成した。

平成９年・10年・11年は、自分にとっても、九国にとっても大きな転換期となった。このような経験を基にしながら、世界に通用する本物の選手育成のために今後も頑張っていきたいと思う。

平成12年度インターハイ チーム一丸！歓喜の全国優勝!!

滋賀女子高等学校
バドミントン部
監督　濱　　久美雄
（現滋賀短期大学附属高等学校）

岐阜県各務原市において、平成12年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技が開催され、本校は女子学校対抗で念願の全国制覇を成し遂げることができました。

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部の60周年記念誌の発行にあたり、歓喜の全国優勝を振り返ってみます。

平成12年３月の全国高等学校選抜大会では、決勝で埼玉栄高校〔埼玉〕に敗れた本校。優勝をほぼ手中に収めながら「気持ちで負けた」と振り返った悔しい敗戦をバネに、選手たちは「夏のインターハイこそ優勝！」と心に誓って臨んだ全国高校総体でした。

３回戦では今大会の最大のポイントとしてあげていた難敵、昭和女子（現昭和学園）高校〔大分〕戦。負けが幾度となく頭を過ぎりましたが、我慢我慢で３－２で下す辛勝。

準々決勝は旧知のライバル校、金沢向陽高校〔石川〕戦。主力のケガで戦力ダウンの相手を寄せ付けず、３－０の完勝。

いよいよ宿敵、埼玉栄高校との準決勝。第一シングルスの古川亜希子が必死に頑張り、粘り勝つと、第一ダブルスの多谷郁恵・早川由希子組は圧勝し、次につなげました。さらに第二ダブルスの川島彩・西川夏紀組が相手のエースダブルスを撃破し、３－０で見事に３月の全国選抜大会のリベンジを果たしました。

想像を超える夏の暑さ、息苦しいほどの体育館内で迎えた決勝戦。相手は勝負強い名門、高岡西高校〔富山〕。「勝つぞ！」と円陣を組んで、キャプテン川島彩がエールをかけました。

度重なる激戦に疲労困憊し、体力も限界にきていましたが、選手たちは気力を振り絞ってゲームに集中しました。なかでも第二ダブルスの試合では、相手選手が足を痙攣させるアクシデントもあり、川島彩・西川夏紀組が２時間にも及ぶ大接戦を制し、結果３－１で初の栄冠を手にすることができました。

歓喜の渦の中、比叡山高校の男子選手たちも加わり、胴上げをしてもらったことは今でも鮮明に脳裏にあります。

「選手たちがみんなで力を出し切った勝利－念願の初優勝です。みんなご苦労さん。そしてありがとう。」これが私の本心です。

この優勝は、本校始まって以来の快挙であり、歴史に残る名誉であると、その年の９月30日に学校主催で大津プリンスホテルにおいて盛大に祝賀会を開催していただきました。多数の方にお祝いしていただいたことを大変嬉しく感じております。

これまで男子学校対抗では、比叡山高校が優勝ならびにベスト４の常連校であるのに対して女子はどうなんだという声も囁かれていました。そこで女子学校対抗での滋賀県チームの全国優勝を悲願としてジュニアや中学校指導者の方々にご協力を賜り、さらに高校の男子指導者の方々にもお力をお借りした結果、この偉業を達成することができました。

最後になりましたが、関係各位の皆様に厚く御礼を申し上げます。

５回目の全国総体団体優勝に感謝！

埼玉栄高等学校
バドミントン部
監督　大屋貴司

はじめに

平成20年度、全国高校総体が地元、埼玉県所沢市民体育館・他で７月28日より延べ４万300人の来場者を迎え６日間に渡って開催されました。

昨年に続き、４年連続５回目の優勝を目指す埼玉栄高校が準決勝を３－１で勝ち、決勝に駒を進め、一方からは八代東高校が３－２で勝ち決勝進出。男子団体の決勝は３年連続の同カードとなった。第１ダブルス和田・佐藤組が中盤競り合いになったが２－０勝ち。第２ダブルスは、２年の小林・星野藤組が２ゲーム目20点まで競り合ったが何とか２－０で２勝目。３コート同時展開の第１シングルス滝内が１ゲーム目を19点で失ったが、第2. 3ゲームを自分のペースに戻し３勝し、５回目の全国優勝に輝くことができた。苦しい場面もあったが今年も、優勝に導くことができた。高校の指導者として10年。全国大会での団体優勝を目標に掲げた私にとって、５回目の優勝は、今までにない価値ある指導結果と思えます。

埼玉県内初の、地元の全国高校総体開催という事で早くから学校、県高体連、県バドミントン協会その他、関係者からの期待も大きく、選手には大変な努力を課したと思います。戦力的には、昨年を上回る要素は全く期待できなかっただけに、選手は、本当に毎日毎日の練習を頑張ってくれたと思います。この機会に、日頃ご協力いただいております、様々な方に感謝申し上げます。

１．今までの部活指導の経緯

１９９９　埼玉栄高校勤務　男子バドミントン
(H.11)　部の指導　【会澤（２年）１年８名】
勝つための、練習場と量を確保

２０００　全国総体**２位**　準決勝で痙攣２名
(H.12)　決勝戦えず　【３年２名 ２年８名】
２複３単を戦える体力も無く、人数もぎりぎりで戦力不足

２００１　全国総体**３位**　戦力外部員が多い
(H.13)　戦力不足　【３年８名 ２年７名】
目標、関東第一に負けずに頑張る

２００２　全国総体**３位**　関東一比叡山がリード
(H.14)　選抜初優勝　【３年７名 ２年５名】
新チームでの全国優勝への手かがり

２００３　全国総体**優勝**　準決（関東一３-１柏原）
(H.15)　学年の結束　【３年５名 ２年５名】

２００４　全国総体**２位**　準決（３-１比叡山）で疲労
(H.16)　２複で勝つ　【３年５名 ２年５名】

２００５　全国総体**優勝**　大嶋・本田 林・三橋
(H.17)　２複で勝つ　【３年５名 ２年７名】

２００６　全国総体**優勝**　団体　個人単複（田児）
(H.18)　佐々木と上田【３年７名 ２年９名】

２００７　全国総体**優勝**　田児３冠
(H.19)　エースで勝つ【３年９名 ２年10名】

２００８　全国総体**優勝**　和田 佐藤　和田３冠
(H.20)　エースで勝つ【３年10名 ２年８名】

２．戦力分析とチーム作り

全国大会の団体戦は２複３単である。全国優勝を目指すには、各学年が５～６人の選手が必要であり、上級生が下級生に負けるようでは、意味がない。準決勝・決勝の過酷さを考慮するとできれば、２複４人と単は別に４人が切磋琢磨できる人数を確保するように勧誘し、日常配慮した指導や想定した練習が大切である。

育成の要は、全国で戦える戦力を育成することです。とにかく、第一に練習量。その結果として高い技量と体力。人数を確保し、部内に良

いライバルを育てることも大切だと思います。

次に選手の層から「今年はどう戦うかを考え、勝てる形」を目指して育成する。例として、第一の形は２複３単を３年生だけで揃える。この形は人数が確保できれば育成は楽である。

第二の形は、負けないダブルスを２組作ることである。複で２勝するにはシングルスをさせない代わりに、第１第２がひっくり返されても何が何でも勝てるダブルスを作り上げる。複の育成は、時間がかかる。人数も必要である。

第三の形は、決勝では２人で３ポイントをとる複、単、単を勝ち取る。人数に限りがあり、核になる選手が２人と中堅が３～４人のチーム事情の場合である。 第四の形は、第三の形の変形である。第１単をとり、エースが複と単を取りに行く通常の策である。しかし、他の選手にある程度の力量がないと準々、準決、決勝とエースが勝ちきれず優勝は難しい。だいたい準決勝で疲労が重なり決勝で戦う体力が消耗してしまう。今年は、どう出来上がるか、部員の経験、実績、伸び率を加算し、練習に励むことは監督、選手ともに楽しみである。

日々の練習では、計算通りに行かずやり直し、修正の連続である。しかし、今年はこれで何とか決勝を戦えると、練習に取り組む日々の中で形が一歩一歩完成していくことは、指導者としての苦しみであり、楽しみである。そして、やり遂げた分が全国優勝への一段、一段である。後は、仕上げの６月、７月である。体力、気力の充実、そして勝負への意欲付けが最終の仕上げと思います。

過去にも多くの指導者が、高校生の指導に苦慮しながら「勝負」にこだわり意欲を燃やし続け努力されてきたことが、今日の日本バドミントン界を向上させてきたものと思います。微力ながら、今後も選手と共に、日々努力精進を重ね日本バドミントン界に恩返しをしていきたいと思います。

最後になりましたが、全国高等学校バドミントン専門部創設60周年、誠におめでとうございます。今回、専門部60周年記念誌作成に当たり、このような機会を頂き、誠に感謝しております。

今後とも若い選手のため、日本バドミントン界のため、更なるご尽力をいただき、70周年、100周年が迎えられますよう、衷心よりご祈念申し上げます。関係の諸先生方、諸先輩方のご苦労に、感謝申し上げます。誠に、ありがとうございます。

インターハイ2008三冠達成を振り返って

聖ウルスラ学院
英智高等学校
バドミントン部
監督　田所光男

全国高体連バドミントン専門部創立60周年おめでとうございます。歴史のある高体連記念誌に原稿を書かせていただけることに感謝申し上げます。

私の指導歴としては、ＮＴＴ東北チーム（現ＮＴＴグループ東北）の監督を昭和58年～平成元年までの７年間男子を指導、平成元年に日本リーグ入りをきっかけに監督を退き５年間仕事に従事した。平成７年に当時の学校法人聖ウルスラ学院理事長からの熱心な誘いがあり、本校バドミントン部のコーチとしてお世話になりました。その頃の戦績は常に選抜、インターハイ等で上位入賞している常連高として活躍していた部であり、これから優勝を目指せる土台はできている部でもあった。しかしその後コーチとして指導してきたが、インターハイの戦績は数年間ベスト16に入る程度で全国の壁は厚く、指導者３人で思考錯誤しながらの指導でした。

平成10年に仙台で全国中学校大会が開催され、本校中学生が団体戦３位、個人ダブルス３位に入賞し、そのメンバーが高校へ入学し全国で戦えるようになってきて、やっと、指導者として光が見えてきた感じでした。

本校は私学特有の中高６年間一貫指導ができ、６年間かけてインターハイで優勝させる体制にあり、幸いなことに地元塩竈ジュニアの佐々木巌監督が熱心に指導され常に全国小学生大会で優勝もしくは入賞している子供達が本校中学校へ入学して頂き、６年間一貫指導体制が取れているのも強みです。

ラケットを初めて持つ小さな子供達にバドミントンの基本を指導されている佐々木監督に敬意を表するしだいです。

「聖ウルスラ三冠達成」スポーツ、地元新聞等の見出しを見た時はあらためて嬉しさがこみ上げてきました。三冠達成した選手の高校３年高橋、北、岡田、菅野、玉木（塩竈ジュニア３名、県外２名）は、本校中学校へ入学し６年間一貫指導体制で指導してきた選手で、2005年全国中学校大会（岐阜市）で三冠達成したメンバーでもあり、その中に松友美佐紀（２年）が加わりインターハイに臨むにあたって絶対に負けられないプレッシャーがあった。練習も十分やってきたし、選手の体調も良いし勝てるかも？勝たなければいけない！緊張の毎日でした。その瞬間が絶望に変わったのは、埼玉県所沢市に入った日の練習時に、大黒柱でありキャプテンの高橋が自分の汗で滑り、右足首の捻挫で腫れ上がった。その瞬間、優勝の文字が消えたように思った。団体戦は２日後、重度の捻挫状態と診断を受けた。高橋抜きで戦うしかないと選手に話し、高橋・松友のダブルスも玉木・松友のペアに替え臨むことになった。選手は心の中でかなりの動揺があったようだが、３年生のチームということもあり、キャプテンの怪我をはね返すように、いままで以上の結束が生まれた。一戦一戦チーム一丸となり、いい戦いをしてくれました。一試合も落とすことなく決勝まで進出し、決勝は開催県の埼玉栄高校と対戦。ほとんど完璧な試合で悲願の団体優勝をなし遂げた。その瞬間、今までの緊張が吹っ飛び安堵感に変わった。個人戦も団体優勝の勢いが止まらず、高橋の足首の捻挫も帯同したトレーナーの治療もあり動けるような状態まで回復した。高橋・松友のダブルスも一ゲームも落とさず優勝、続くシングルスもダブルス優勝した直後であったが、松友が完璧な試合運びで決勝戦を快勝し、堂々２年生で三冠を達成することができた。

試合後のインタビューで、高橋が優勝した喜びと団体戦に出られなかった悔しさと仲間への感謝を涙ながらに話していたのが印象的でした。

2008埼玉インターハイ三冠達成できたのも、大学、実業団チームとの練習、学校、協会関係者、保護者のご協力があってこそだと思い感謝申し上げます。

最後に全国高体連バドミントン専門部の今後の益々の発展を心からお祈りしています。

全国高等学校総合体育大会に優勝して

青森山田高校
バドミントン部
監督　藤田真人

全国高校総体学校対抗に平成18年・19年と２回の優勝をすることができました。各世代の選手に恵まれ、また多くの方々に御指導を受けながら達成できた優勝であったと思っております。

私は平成18年３月から中学時代の恩師であり、前監督の高屋仁先生より本校女子バドミントン部を引き継ぎました。平成11年の発足以来、高屋先生の圧倒的な指導力において、短期間で全国のトップチームに押し上げ、廣瀬栄理子選手(現三洋電機)をはじめとする数々の名選手を輩出してきた「伝統山田」を引き継いだことは思った以上に大変なものであり、目に見えないプレッシャーが重くのしかかりました。そんな自分に自信の持てない監督に「日本一」をプレゼントしてくれたのが初回の優勝メンバーでした。藤井瑞希（現ＮＥＣＳＫＹ）を単複の柱とし、脇を固める選手も中学時代の実績が豊富な選手ばかりで、周囲からは全国選抜、インターハイと優勝間違いなしと言われていたチームでありました。しかし、私の初采配でもあった全国選抜大会では決勝戦で金沢向陽高校に敗れました。理由は明らかに私の勉強不足と経験不足でした。勉強不足というのは私自身、長く高校バドミントンを離れていながら、大会本番までに他校の選手の特徴と戦力を全く把握していなかったという点でした。経験不足というのは、自信を持っている選手達に対して警戒心を持たせるということを全くしていなかったという点でした。その未熟さが出たのが、決勝の金沢向陽戦。こちらはエースの藤井を第１ダブルスと、第２シングルスに置きましたが相手校のエースの樽野さんは第２ダブルスと第３シングルスにきました。藤井の単複を外されることは想像していましたが、当時、藤井と並んで超高校級と評されていた樽野さんの実力を知らなかった私は、もし仮に外されても他の選手で勝てると考えていました。また第１シングルスも問題ないと思っていました。結果、第２ダブルスと第１、３シングルスで敗れ、３対２でチームは敗北しました。この敗戦から学んだことは、監督の立場から念入りに相手チームのエースとエース以外の実力を知っておくことと、100％確実に勝てる試合などないと選手に言い聞かせ、監督自らも思いチャレンジャーの立場で試合に入ることだと反省しました。また、たとえオーダーが噛み合わなくても勝てる状態にしておかないと、夏の優勝はないと思い、青森に戻ってからは「藤井に頼るな」を合言葉に藤井以外の単複を徹底的に鍛えました。そして迎えたインターハイでは、初戦から順調に勝ち上がり、決勝戦はやはり春と同じ顔合わせとなりました。結果、春の教訓を生かし、３対０で優勝することができました。平成19年度のインターハイでも、垣岩令佳（現ＮＥＣＳＫＹ）が単複の柱で前年度のチーム構成と、勝つためにしなければいけないことが類似していたため、優勝することができたのだと思います。いずれにしても指導経験が浅く、まだまだ未熟な監督にしっかりついてきてくれた子供達に感謝の気持ちを忘れてはならないと思います。

今後は高屋前監督が築いてこられた基盤と方針をしっかり受け継ぎながら、創部当時より歴史と共に歩まれてきた男子監督の戸祭潤先生と共に「男女アベック優勝」を夢見て頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、高体連バドミントン専門部の創立60周年を心よりお祝い申し上げますと共に今後ますますの発展を心から祈念して終わりといたします。

２回目の全国高校選抜大会優勝に感謝

埼玉栄高等学校
バドミントン部
監督　加　藤　　勝

はじめに

全国高等学校バドミントン専門部創設60周年、誠におめでとうございます。今回、専門部60周年記念誌作成にあたり、このような機会を頂き、誠に感謝しております。

１．全国大会団体優勝を目指して

昭和63年より「関東に埼玉栄高校ありを誇示する」ために高等学校バドミントン指導の仲間入り、同年の全国高校選抜大会では、井田貴子を中心に１年生６人だけで第３位、翌平成元年は、全国高校選抜大会で第２位。３年計画の最終年、平成２年の全国高校総体では、団体優勝を目指し決勝まで進んだが、佐賀女子高校に３－２で敗れ苦しい思い出となった。

その後、平成に入り順調に向上の一途をたどり全国高校選抜大会、全国高校総体共に第３位入賞が何度か続くが団体優勝までの道のりは長かった。平成８年山梨県での全国高校総体では井川里美を中心とする３年生４人と岩脇史、久家あす加の２年生の強力な選手が揃い、初の全国高校総体優勝へと導いてくれた。平成８年度最後を飾る全国高校選抜大会では、岩脇、久家に加えて２年生の村上・原田組、複の巧者１年生大熊倫子を起用し、夏に続く全国優勝を飾った。続く、平成９年京都長岡京市での全国高校総体は、前年の選抜優勝メンバーが危なげない戦いをし、優勝を飾ることができ、インターハイ２年連続優勝をとげることができました。

２．全国選抜大会優勝２回までの道のり

平成８年及び平成９年、２年連続の全国高校総体優勝と平成８年全国高校選抜大会、そして国民体育大会では、平成２年福岡国体、平成８年広島国体の優勝と２回ずつの全国大会団体優勝の目標を達成してきました。全国高校選抜大会だけが１回のみの優勝でした。

平成11年度、３月の末を飾る全国高校選抜大会が岐阜各務原市で開催されました。全国的には２年生に、田井、梅津（金沢向陽）、佐野、金上（ウルスラ）、松田（長崎女子）、後藤愛（県岐阜商）、１年生には、楊、広瀬（青森山田）、小椋（四天王寺）、多谷、早川（滋賀女子）、劉晶（高岡龍谷）、潮田（九州国際大付）等が在学。現在、振り返っても優秀な選手と外国人選手の華やかな頃であった。

埼玉栄高校は、初戦からウルスラ学院と対戦。単、複を取られ第２複から逆転、３－２で粘り勝ち。準々決勝では四天王寺と対戦。３－１で勝ち、何とかベスト４に進出。準決勝では長崎女子の松田に単・複を失うが３－２で辛勝。決勝戦の相手は滋賀女子である。全国小学生大会、全国中学生大会と勝ち上がってきた滋賀県内の経験豊富な選手達、選手層も厚い。澤、川島・西川、多谷・早川と穴のない滋賀女子と対戦。単、複と簡単に取られ、第２複１ゲームを６点で取られ２ゲーム目３－９とリードされた場面。普通はここで勝負は終わる。全国大会は、何が起こるかわからない。ここから広岡・橋本組が強力なクロスショットで逆転、２－１で第２複を取った。ここから橋本、広岡が次の単を連取。奇跡的な３－２の優勝が転がり込んだ。勝利の女神の悪戯か、日頃の努力の賜か。全国高校選抜大会２回目の優勝の瞬間であった。初戦から決勝まで、どのゲームも楽ではなかった。

終わりに

今年の夏も埼玉県で４万3000人の観客を動員し、感動に沸いた。選手やボランティア活動の高校生にとっても貴重な体験となった。単なるスポーツ活動でなく日本の将来を背負う若人の一大イベントであります。今後も日々ご努力頂いております全国高体連の諸先生方の更なるご尽力をお願い申し上げます。

全国高等学校選抜大会に優勝して

元岐阜県立
岐阜商業高等学校
バドミントン部

監督　大橋　浩
(岐阜県立大垣西高等学校)

全国高体連バドミントン専門部創立60周年誠におめでとうございます。その輝かしい歴史に、改めて敬意を表したいと思います。また、その記念誌の１ページに私も寄稿させていただき光栄に思います。

私が、県立岐阜商業高校に赴任しましたのは、昭和63年で、それまで県岐阜商バドミントン部を育ててくださった田中常隆先生（現岐阜県バドミントン協会理事長）のご尽力もあり、男子はその年から、そして女子は平成３年から平成20年まで全国高校総体に連続出場しています。しかし、当初は全国大会に出場しても、なかなか勝ち進むことができず、せいぜいベスト８を目標にしていました。ただ、個人では、尾藤伸治（現東海学院大監督）、石川澄（現ユニシス）など全国で活躍できる選手も出ておりました。

そんな状況の中で、平成12年に岐阜総体が開催されることになり、いよいよ出場するだけでは許されない状況になってきました。しかし、物事の成否は、すべて「努力とタイミング」に尽きると言いますが、まさにその時はそれを実感しました。結局、この岐阜総体が県岐阜商が飛躍するきっかけになったのです。

平成11年度の全国選抜大会は、岐阜総体のリハーサルも兼ねて、岐阜で開催されました。後藤愛（現ＮＴＴ東日本）以外はめだった選手もいませんでしたが、組み合わせの幸運もあり、全国選抜大会では岐阜県勢として初めて３位に入賞することができました。

４月には、後藤舞（現広島ガス）、林裕佳、脇田侑（ともに現岐阜トリッキーパンダース）が新戦力として入学し、夏の岐阜総体でも３位に入賞しました。地元開催のプレッシャーを集中力に変えて成し遂げた快挙でした。

そして、翌平成13年３月、宮城県での全国選抜に出場。決して楽に勝ち上がったわけではありませんでしたが、プレッシャーもなく、のびのびとプレーができたこともあり、全国大会で初の決勝進出を果たしました。決勝の相手は、当時最有力の青森山田高校で、楊藹琳、廣瀬栄理子、今別府靖代ら豪華メンバーを揃え、誰が考えても青森山田楽勝の予想でした。こちらは、開き直って思い切りやるしかありません。１年生はまだ経験不足であり、特に脇田は第２複で使うくらいでしたので、シングルスはほとんど練習していませんでした。ところが、ダブルスを１勝１敗でシングルス勝負に持ち込むと様相が一変しました。ダブルスと並行して進行中の第１単後藤舞が杉谷をファイナルで破り、主将の後藤愛が第２単で廣瀬とファイナルを演じている途中で、この大会でブレークした第３単脇田が今別府を接戦で下ろして初優勝を決めたのです。この時の会場の状況は、下馬評で圧倒的に不利な県岐阜商への応援がほとんどでした。役員や関係者の方々からも、地元の県内選手だけで頑張っているローカルチームが、豪華なスター軍団を接戦で下ろしたのは、とても感動的だったと言われました。

その後も、平成13年度全国総体３位、全国選抜３位、平成14年度全国総体準優勝と、３年間に渡り、県岐阜商バドミントン部は黄金期を経験しました。特に、平成14年度全国総体では、決勝で青森山田高校に破れはしましたが、岐阜県勢として史上最強のチームができたと思います。各選手の努力もさることながら、ジュニア時代から手塩にかけて育てていただいた指導者・関係者の方々のおかげであると心から感謝しています。

現在、平成24年岐阜国体に向けて岐阜県が一丸となって強化を図っています。私は、今は大垣西高校に勤務しておりますが、何らかの形で一助になれればと頑張っています。

平成14年度全国高等学校選抜大会に優勝して

静岡県星陵高等学校
バドミントン部
監督　吉氷将史

㈶全国高体連バドミントン専門部　創立60周年おめでとうございます。

輝かしい結果を歴史に刻まれた指導者の皆様と同じ紙面に載せていただくような者ではありませんが思い出を述べさせていただきます。

平成15年に静岡国体をひかえた同年３月に静岡県富士宮市で全国高等学校選抜大会は国民体育大会リハーサル大会として開催されました。私ども星陵高校は同じ富士宮市内にあり、会場となった富士宮市民体育館は本校部員たちが小中学生時代に練習や大会に通いなれた、まさに地元でありました。その体育館で全国大会が開催されることになり、何とか出場したいというのが開催決定した頃の思いでした。

出場権も得ることができ、会場準備が進み、通いなれた体育館が立派な全国大会の会場に変身してゆきました。

いよいよ大会がスタートし、初日は２試合でした。大きな問題もなく、無事にトーナメントを勝ち上がることができ、ベスト４に進出することができました。星陵高校の女子は、前年の長崎大会に初めて出場し、記念大会のため、すべての都道府県から出場できるという年、予選リーグ敗退という結果でありました。インターハイも過去２度ともに２回戦で負けていました。ですからベスト４に進んだことは夢のようでした。

決勝は、前年インハイ２回戦０－３で負けた名門熊本中央女子高校との対戦でした。決勝前に工藤先生に「静岡は験のよいところ、平成３年のインハイ(富士市)で優勝しているから。」とジャブをいただきました。実は私自身、20年ほど前の同大会準優勝だったこともあり、選手たちに「ここから先の世界を先生は知らないからあなたたちがそこへ連れて行ってくれ。」と話をしました。最終シングルスまでもつれ、選手が懸命にシャトルを追う姿を見て、もしかしたらと思いましたが最後の１本まで本当に勝てるとは思いませんでした。最後はカットをロビングしようとした相手がネットにひっかけ、ゲームオーバー、初優勝となりました。

この時は４つのポイントがあったと思います。①戦いやすい組み合わせであったこと。②レベルの高い選手が揃ったこと。③オーダーが当たったこと。④地元の大声援。どれか一つ欠けても優勝はなかったと思います。実は縁起もいっぱいかつぎました。会場までの道のりやひげを伸ばすこと。今思い出しても、胸が熱くなります。

この後、国内はもちろん、海外の多くの大会に指導者・引率として遠征させていただきました。この経験が自分自身の大切なものとなって今に生きていると実感しております。

最後に、このような経験を私にくださった選手や保護者、学校関係者、高体連や協会の皆様、ボランティアで大会運営に携わっていただいた方々にあらためて感謝申し上げます。そしてこれから時代が変わっても不変であってほしい高校生の大会を運営してくださる全国高体連バドミントン専門部のますますのご発展を祈念いたします。

全国高等学校選抜大会に優勝して（平成16年３月）

此花学院高等学校
バドミントン部
監督　谷田尚嗣

全国高体連バドミントン専門部創立60周年おめでとうございます。この専門部に関係するすべての先生方に敬意を表します。これからも発展し続けていただくものと願っております。

本来男子部員のみであったところに女子部員が入るところから、少し変わった経緯がありました。たまたま松尾静香という優秀な選手が本校を受験してくれることになり、それに続くように他の選手も揃って５名の女子部員が集まりました。自分としては女子選手の指導経験もなく実績もないものですから、専ら男子と同じ指導もしくは男子とか女子とかでなくただバドミントン選手として個人個人をできるだけ理想にちかづけていこうという考えでした。彼女たちはとまどったかもしれません。しかし松尾はいきなりのインターハイ大阪府予選で単複優勝と、素材の違いを見せつけました。しかも１年生で出場したインターハイでも３位入賞・つぎの初めて団体出場を果たした選抜大会ではシングルス準優勝と孤軍奮闘しました。

次の年になって、２人の新入生が入ってきました。そのうちの一人がのちの松尾のパートナーとなる恵良友里亜でした。女子部員が７人となり少しチームらしくなってきました。インターハイ予選も団体優勝・ダブルス２位・シングルスは松尾恵良で独占しました。ただ夏のインターハイはどの種目もパッとせず、唯一ベスト４は確実と思われた松尾もベスト８に終わりました。そのころは松尾自身U19ジュニアナショナルに選ばれ、遠征にも参加していたので何か感じるものがあったでしょうか。

その約半年後選抜大会に臨みました。もちろん団体戦のことも頭にありましたが、私としては松尾の単複個人戦に体力的な負担をかけたくないと思い、他の選手たちにもそう伝えてありました。ですから勝てる試合は松尾まで回さない、松尾の２本勝負の場合は松尾の試合を後ろにする。オーダーも何も相手の戦力分析さえしてませんし、自分のチームの都合だけで戦いました。長い時間戦って終わってみればベスト４に勝ち残りました。コーチでＯＢの荒井君とも「もうこれくらいでええわ。」と話していたのに、団体戦用に組み替えた松尾・山崎組が苦しい試合をしのいで勝ってくれ、恵良は１年生ながら全勝です。加隈・東野が本来の実力を出せていないのが残念なだけでした。翌日準決勝も勝ち、青森山田との決勝もオーダーに変化はなし、松尾は単複ともに相手校のエース今別府との対決となりました。

第１シングルス恵良が競り合いをものにして先勝。第１ダブルスは逆に松尾・山崎が初の敗戦、勝負は後半戦へ。ここで踏ん張ったのがこれまで活躍できていなかった加隈・東野組。第１ゲームをとり、気が抜けたか第２ゲームを大きくリードされた後、二人が抜群の集中力を発揮して大逆転。２－１と王手をかけました。第２シングルスの石岡が負け、２－２。

勝負は最終シングルスにもちこまれました。

皆が固唾を呑んで見守る中、松尾はいつも通り淡々とゲームを進めます。特に時々緊張した表情を見せていた今別府選手とは対称的に落ち着いて、またこの日はほとんどミスというミスがなく丁寧な戦いぶりでした。結局２－０で勝利し、此花学院の初優勝が決まったのです。

選手は大喜びする中で私とコーチの荒井君は少し実感なく軽く握手を交わしただけでした。勝つときってこんなものか。本当にこれが実感です。何度も団体優勝をされている名門校とは此花学院は違うなと実感しています。よき思い出とさせてもらっています。

全国高等学校選抜大会に優勝して

石川県立金沢向陽高等学校
バドミントン部
監督　車　　浩　明

私が、初任として向陽高校に赴任することになり、何もかもが初めて状態で、前監督である和田修先生や彼島重範先生のあとを受け継ぎ、輝かしい成績をおさめている向陽高校での監督がはじまった。不安を抱え出発したのですが、自分の不安をよそに、生徒達はとても頑張ってくれた。向陽高校の部訓でもある「日々努力　継続は力なり」のもと、選手もそうであるが、監督である自分もそれ以上に努力をし、全国制覇を胸に選手の指導にあたった。今まで６年間向陽高校で指導を行ってきたがいろいろな体験をすることができた。勝つことの喜び、生徒の指導の苦労、石川県のバドミントンでは初めての越境選手の指導などいろいろあった。

平成17年度、福井で選抜大会が行われ周囲の予想で青森山田と向陽の２強と言われる中大会に臨んだ。隣県であるということもあり、石川からも学校をあげての応援や保護者の応援もあり、選手達も気負うことなく試合を行うことができたと思う。決勝まで順調に勝ち上がり、決勝の相手は予想どおり青森山田であった。監督に就任して以来、何度となく青森山田に苦杯をなめさせられてきた。今回こそはと言う気持ちで臨んだ決勝戦。ダブルスが１－１になり、シングルス勝負になった。シングルスでは、樽野という絶対的なエースが控えており勝負はトップシングルスにかかっていた。向陽は南出、青森山田は原という対戦であった。序盤は南出の得意なショットが決まり、11－７で奪った。２セット目は一進一退の攻防が続くなか、粘り強く攻めた南出が13－12で奪い、２－０で勝利を収めた。第２シングルスは青森山田のエース藤井と木村、第３シングルスは向陽のエース樽野と垣岩という対戦であった。同時に試合が始まり、両エースが力を発揮しそれぞれ１セットを先取した。一方的な展開で樽野が先取したが、前年度の不安が頭をよぎった。前年度の選抜大会も同じカードでの決勝であり同じような対戦であった。２－２で今回と同様樽野にまわり流れも展開もその時とほぼ同じであり、優勝を手中におさめたと思った瞬間、流れが変わり準優勝であった。その経験があり、今回はベンチから樽野にずっと檄を飛ばし続けた。一瞬ひやりとする場面もあったが、きっちりゲームをこなし11－７で勝利をし、11年ぶりの全国の頂点にたつことができた。就任してから３年目で優勝できるとは思っていなかった。喜びと驚きでいっぱいであった。その後行われた個人シングルスでも樽野が優勝しとても監督冥利につきる大会になった。この年のインターハイは青森山田に雪辱をされたが、国体においては雪辱を果たし優勝することができた。

このように結果を残すことができたのは、決して監督、選手だけでは決して残すことができない。バドミントン部に対して学校をあげての強力なバックアップ、石川県バドミントン協会や、教育委員会などの支援、そのほか、強化合宿や休日にかかわらず選手強化のために練習相手に来て厳しく指導してくださった社会人の方々や金沢学院の学生、ＯＧ。向陽高校に選手を送ってくださる中学校の指導者の方々の理解があってのものである。いろいろな方の協力があったからこそ、このような結果を残すことはない。

団体戦で向陽高校は選抜、国体において過去に二度ずつ全国制覇を成し遂げている。しかし、インターハイでの優勝はなく準優勝は数多くしている。私の悲願はそのインターハイの優勝である。インターハイで優勝したいという気持ちを特に強く持っている。現在はそれを目標としているが、目の前に控える大会で一つ一つ結果を残せるように、「日々努力　継続は力なり」で日々の練習に精進していきたい。

栄光を目指して　●優秀選手代表寄稿文●

『インターハイ』

(九州国際大学附属高等学校出身)
野 辺 加 恵
(旧姓　奥村)

当時、福岡ではバドミントンで実力を付けるのならば、九国に・・・。

その高校に入学した時には、『全国を制覇する』ということだけが頭にありました。『インターハイ優勝・全国制覇』。その言葉がいつから私達の合言葉になったのか・・・。

その言葉が大きな意味をもって私達の心に膨らんでいったのは、一緒に戦っていく先生と最高の仲間との出会いがあったからなのです。この仲間とは、小学校時代から常に一緒に戦ってきた良きライバルで、そのライバルたちが一つの高校に集結したことが、今思えば、私にとって運命の出会いだったのです。

私達の中高時代は、九州のレベルがたいへん高く、『九州を制するものは全国を制する』と言われていました。しかし、私達にとっては九州や全国を制する前に、県大会で代表になることが先決で、インターハイよりも県大会が一番の山場でした。県代表になるために、アップダウンの激しいコースをランニングして体力を作り、実力だけではなく、練習の初めと終わりには5分間のメンタルトレーニングで精神力をつけていくように努めていきました。その時は無我夢中でしたが、きつい練習にも笑いがあり、またそれを楽しさに変えるソフトな一面もありました。そしてもう一つ、実力をつけることができたのは同県最強ライバル『精華女子高校』の存在があったからです。それらが功を奏したのか、インターハイ出場の切符を手にすることができたのです。

九国には『小さな巨人』という絶対的なエース松尾の存在、また『期待のルーキー』潮田(オグシオこと潮田玲子)を含む部員15人で全国大会に挑みました。

インターハイ本番では、県大会の試合とは比べものにならないくらい、良いムードの緊張感で1試合1試合勝ち進むことができました。しかし、決して楽な試合ばかりではありませんでした。先生から『エースが負けたらチームは負ける』と言われていましたが、私達はそのエースを100%信用していたので、本番で『負ける』という気は全くしませんでした。そして、エースも私達の期待を裏切りませんでした。私達チームの信頼感と団結力で念願の全国優勝を果たすことができました。

高校を卒業して10年になりますが、高校3年間で得たたくさんのものがあります。仲間を信頼し合う心、バドミントンができる健康な体を持った幸せ、他者に感謝する気持ち、そして笑顔の大切さ、これらの経験が私に、はかりしれない大きな財産をもたらしてくれました。楽しい思い出や辛い体験も、これからの自分の人生にもきっと底力となっていきてくる時がくると思います。

「輪・人・夢」

東日本電信電話株式会社
(NTT 東日本)
(関東第一高等学校出身)
佐 藤 翔 治

この度、財団法人全国高等学校体育連盟バドミントン専門部が創立60周年を迎え、記念事業の一環として記念誌が発行されますことを心よりお祝い申し上げます。

僕はこの執筆を担うことで、自分自身のバドミントン人生を振り返ることができ、同時に、高校３年間での経験が、直接現在の自分を構築していると再認識することができました。なぜならば、自分自身の高校バドミントンでの経験を通じて、表面的な結果や成績の裏にある、コミュニケーションの大切さ、集団行動や勝負の意義など、スポーツの本質に触れることができたからです。

高校時代の中で最も印象に残る大会は、夏の全国高校総体です。初めて出場したのは高校１年時の1998年、香川県高松市で行われた第49回大会でした。次いで２年時は岩手県滝沢村での第50回大会、３年時は岐阜県各務原市での第51回大会でした。どの大会も、酷暑の中で過酷な試合の連続だったことを、今でも鮮明に覚えています。僕が在籍していたチームは、全国高校総体で優勝することを目標に、日々の練習に打ち込んでいました。そしてその背景には、チームの結束を高めるため、高い意識を継続して持ち続けるために、日々のコミュニケーションが大きな役割を果たしていたように思えます。

優勝を目指すチームの中にも様々な役割が混在しています。組織を統括する監督、戦術を考案し伝達するコーチ、戦う選手、選手を支えるようにして戦うマネージャー。部員はみな与えられた役割はそれぞれことなりましたが、人数分以上の力を生成することができたのは、それぞれ自分の役割に誇りと責任を持っていたこと、そして頻繁に意見を交換することで同じ目標を継続して見据えていたからだと思います。

また、自分自身の技術を磨く上で、チームメイトやライバル達の存在は、とても大切な存在でした。人間が一人きりで目標を達成することが難しいように、対人競技であるバドミントンにおいても、自分一人で上達することはできません。毎日のように熱い指導をしてくれた監督・コーチの愛情に加え、自分に刺激を与えてくれるライバル達のおかげで、大きく成長することができたと思っています。また、このような高校時代の貴重な経験を通じて、数多くのバドミントンの側面を発見できたことを、大変幸せに思います。

現代のバドミントンとは、幅広い年齢層に浸透し、取り組む目的も多様化しつつあるように思えます。スポーツらしい勝利主義という概念に加えて、健康促進、ストレス解消、人間関係の構築のためのツールとしても機能しているようです。このようなバドミントン競技の意義の拡大は、プレーヤーである僕にとっても大変興味深いことですし、嬉しいことでもあります。しかし一方で少子化は進み、子供達のスポーツ離れが深刻視されているのも現状です。柔軟なコミュニケーション力・表現力が失われつつある若い年齢層に、バドミントン競技の魅力がより浸透し、バドミントンが親しみあるスポーツとして確立することを願っています。

プレーヤーである僕の役割は、バドミントンを愛する全ての人に夢を与え、魅力を伝えることだと自覚しています。高い志を持つ高校生プレーヤーにも刺激を与えられるよう、今後とも自分自身の可能性を貪欲に追求していきたいと思います。最後になりましたが、この場をお借りしまして本誌の発刊に至るまで尽力された編集者の方々、ならびに関係者の方々に深く感謝と敬意を表します。

『私のバドミントン人生』

昭和学園高校
（昭和女子高等学校出身）
赤尾美代

この度は60周年記念おめでとうございます。

私がバドミントンを始めたきっかけは、小学１年生の時に、伯母がやっていたクラブに入部しました。それは毎日毎日が楽しくて、学校の通学路はフットワークで通っていたみたいです。

中学生になり、昭和女子高校の選手と互角に戦えるようになり、その時の目標はもちろん‘日本一になる’でした。私の身近な人には赤尾香さんや石井知恵美さん、山崎雅美さんなどトップで戦う選手がいたので、私にもなれると思いました。そして高校選抜大会で山崎雅美さんと梶原景子さんがダブルスで優勝した時、私は恩師である吉田信之監督をシングルスでも日本一の監督にするとみんなに宣言しました。私が中学２年生の時、日本一になれたのはこうした人たちが環境を作ってくれ、応援してくれたおかげだと思っています。

高校に入学し、目標はやはりインターハイ団体・個人優勝でした。１年生のときに団体３位、２年生の時もまた３位でした。この時の３位は私にとって屈辱の１戦でした。２対２で回ってきた第３シングルス、九州国際大学付属高校の松尾美穂子選手でした。中学生の頃からライバルで絶対に負けたくない１戦でしたが重圧もあって、ファイナルの末負けてしまい団体優勝することが出来ませんでした。この日、私はショック状態になり宿舎に戻り、先生に個人戦には出たくない事を告げてしまった記憶があります。しかし、監督は「今の悔しさを個人戦で発揮して来い」と私の背中を押してくれました。その結果私は、末綱聡子さんと組んだダブルスで優勝、シングルスでは２位という結果を残すことが出来ました。監督の言葉というものは大きく、心から信頼してコートに立つことが今でも出来ています。これから私が指導していく中で肝に銘じておかなければならない事です。

高校３年生の夏、私はこの岩手インターハイのシングルスが一番印象に残っています。決勝の相手は青森山田高校・中国人留学生の１年生楊アイ琳選手でした。私は、試合を見ていなかったので弱点がわかりませんでした。後から聞いたのですが、妹の亜希は２回戦で当たっていて、２本しか取れなかったし、あれは強すぎると思っていたらしく、姉は勝てないだろうと思っていたそうです。ただ無我夢中で何をしたのか覚えていませんが、チームが一つになって応援してくれて、きついというより楽しかったという思い出が残っています。何より監督の声が聞こえ、それを信じるしか私にはなかったのです。技術より、体力より、精神力で勝ったとしか言いようがありません。自分の心が一番正直で何としてでも勝って世界で戦いたいと思ったのが勝因ではないかと思います。

今までの経験の中で大切なことは、監督・コーチを信頼してついていく事だと思います。その結果優勝することが出来ましたし、世界ジュニア選手権やアジアジュニア選手権に出場し世界を見ることが出来ました。そこから私の夢は世界を回る事という新たな夢を持つことができました。そして私は実業団には行かず、どこまでやれるのか試したいと思ったのです。私はみんながやれないことをしてみたかった。それが本音です。自分の意志を通してきたので悔いはありません。アテネオリンピックを目指しましたが、残念ながら、出場は出来ませんでした。が、世界を回ったこと、挑戦できたこと、色々な経験を積んだこと、これは私にとって何物にも代えられない宝物です。

私はバドミントンが大好きです。この気持ちが今指導している生徒に伝わるようこれからも精進していきたいと思っています。

自分を信じた高校３年間

トナミ運輸株式会社
(関東第一高等学校出身)
佐々木　翔

僕がインターハイに出場したのは、いまから９年前になります。

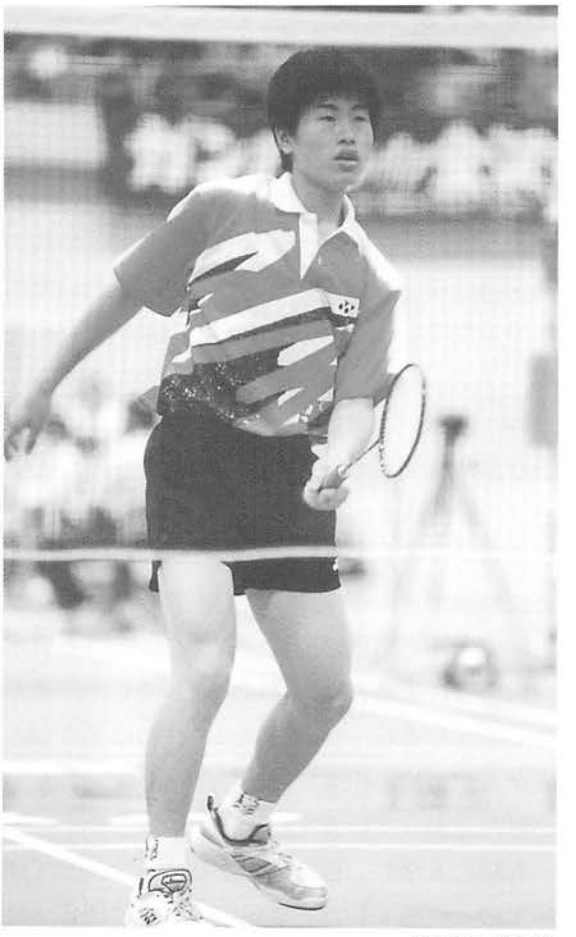
いま、その当時を振り返ってみると、とにかく暑かったな～っという印象が一番であり、同時に高校生の一番のビッグイベントなので気持ちも熱くなれた大会でもありました。

１年生の時は、レギュラーではなかったのでレギュラーの選手のサポートや洗濯をして、上の観覧席から応援していましたが、全国の選手はみんなすごいレベルが高いなというふうに感じ、まだ敵としてではなく少しでもトップの選手に近づいて試合をしてみたいと目標をもつことができました。

２年生の時は、団体と単複の３種目に出場できることになったんですが、もうがむしゃらにやったという事しか、あまり覚えてないですね…。ほんと体力的にもきつくてギリギリのとこだったんですが、「チームのためにも代表として出場してるんだから」諦めないでやろうという気持ちを、強く最後まで持てたのが良かったと思います。

３年生のインターハイになると、ある程度周りの選手の強さを把握できていたのでペース配分に気を使って臨んでいました。それでも狙って頂点を目指すというのは、決して簡単なことではなく、このときも２年生のときとは違った嬉しさがありましたね。

こうして振り返ってみると当時の大会にかけた気持ちや努力、そして試合本番でのプレッシャーや仲間との信頼感など鮮明に思い出され、いまの自分の基盤となっているように思います。現在も毎年インターハイが行われていますが、出場する選手は今後の通過点に過ぎないとは思いますが、この大会に向けて頑張ったことは、たとえ納得のいくような結果が残らなくても決して無駄にはなりません。今後、必ずその成果は現れると信じ、頑張ってもらいたいとこです。



H11年（岩手）

昨日・今日・明日

トナミ運輸株式会社
バドミントン部
（高岡工芸高等学校出身）
劉　　志遠

全国高体連バドミントン専門部創立60周年誠におめでとうございます。

そのような、節目の年に寄稿させて戴く機会を与えていただき心より感謝申し上げます。

今回は、「昨日・今日・明日」という題名で、日本へ来てからのバドミントン人生について振り返ってみたいと思います。

私の一番の思い出は、高校時代に２回出場しました全国高校選抜大会の中でも２年生の時の宮城選抜大会でのシングルス優勝です。

１回戦から順当に勝ち進み迎えた決勝戦、１ゲーム２本、２ゲーム１本と内容は完勝でしたが、２ゲームに迎えたマッチポイント、相手のヘアピンがネットにかかった瞬間、私は大きな雄叫びをあげラケットを放り上げて、優勝の喜びを味わいました。試合前、自分は「絶対に負けないんだ」「必ずチャンピオンになるんだ」という強い気持ちを持って臨み、それが結果となって現れたことに対し喜びで胸が一杯になったことを今でも鮮明に記憶しています。

私の父は、バスケットボールの中国ナショナルチームの選手であり、遼寧省のバドミントン部の監督と友人であったことから私にバドミントンを勧めてくれました。自分が成し得なかった「全国優勝」を息子に託してのことでした。そして、最初に出た遼寧省の大会で、シングルス２位となり、富山県で開催された環日本海インターハイ（中国・遼寧省、韓国・江原道、ロシア・ウラジオストック）に中国・遼寧省代表として出場しました。

これが、初めての日本訪問でした。

当時、富山県と中国・遼寧省は、教育・文化交流を締結しており、そのことがきっかけとなり、私は交換留学生として、富山県立高岡工芸高校に迎えられ、そこで、バドミントンに取り組むこととなりました。当初は、生活習慣や練習内容の違いに戸惑いもありましたが、そのことにも徐々に慣れ、厳しい練習環境の中、山形先生や多くの方々に支えられながら、大きな目標に向かって一歩一歩進んで行くこととなりました。当時私は、高岡工芸高校の松澤教頭先生のお宅に寄宿しておりました。松澤教頭先生から、「朝５時30分に起きなさい、そして一緒に走りましょう」と言われ、時には自転車でのこともありましたが、毎日付き合って戴きました。そして、ランニングから帰ると奥さんが、朝ご飯を用意して待っておられました。

そのお二人の優しさも、自分自身の大きな支えでありました。

その後、日本体育大学に入学し、団体戦・個人戦と幾つかのタイトルをとることが出来、高校時代に練習をさせてもらった縁もあり、私の日本での故郷でもあります、富山県の実業団チームのトナミ運輸バドミントン部に入部しました。トナミ運輸に入部して迎えた２年目の平成19年の全日本実業団選手権大会での決勝戦、対戦相手はＮＴＴ東日本でした。２ダブルス３シングルスで戦う団体戦において、トップシングルスに起用され、自分自身で優勝を決めることが出来たことが、また頑張って良い思いをしたいという気持ちを強くして行ったことを覚えております。私は、日本に来て今年で10年になり、現在、日本国籍を取得すべく帰化申請しております。

日本国籍を有することになった暁には、トナミ運輸バドミントン部の一員として「日本一」に貢献することは勿論のこと、日本代表としてオリンピックに出場してみたいという大きな目標があります。

その大きな目標に向かって、今後さらなる精進を重ねて行かなければならないと考えており、そのことが、中国の両親や大変お世話になった富山県の多くの皆様方への一番の恩返しになると思っております。

終わりになりましたが、全国高体連バドミントン専門部の今後ますますのご発展を心よりご祈念申し上げます。

仲間と勝ち取った団体12連覇！

日本ユニシス株式会社
(関東第一高等学校出身)
池田雄一

選抜、インターハイ、国体と団体戦を連覇している関東第一高校に進路が決まり、期待と不安の中僕の高校生活は始まりました。毎朝５時からの早朝トレーニング、午後９時門限の寮生活、厳しいスケジュールでした。僕は、せっかく親元を離れ、プライベートの時間も削ってまでバドミントンをしているなら「強くなってやる」と言う気持ちで毎日練習していました。普通ならバドミントンが好きだから強くなりたいと思う人が多いと思いますが、自分は少し変わっていましたね。正直、もっと高校生活を楽しみたい気持ちがあったと思います。例えば文化祭や、修学旅行のハワイは遠征で行けなかったり、体育祭も試合が近い為におとなしくしたりと３年間バドミントン中心で学校の行事を参加できず辛い思いをしました。こういう思いをただ辛いと思わず、僕は試合に勝つ為のモチベーションにして頑張っていました。逆の発想ですね。だから負けん気も人一倍ありました。入学してからは、信頼できる監督、コーチ、目標とする先輩、チームメイトに恵まれました。１年生のときには、３年生に今も日本のトップで活躍している、佐藤翔治さん、佐々木翔さんがいて、そのとき全国団体戦連覇数は３。１年生から団体戦のレギュラーとして使ってもらっていた僕はなんとか先輩の足を引っ張らないように必死で試合をしていました。インターハイデビュー戦の戦績は５戦全勝。優勝にも貢献でき、とてもいいスタートでした。バドミントンにはバドミントンマガジンという専門雑誌があり、インターハイでの僕の写真が載って嬉しかったことを記憶しています。その後も団体戦連覇数を伸ばし６連覇になったところで佐藤、佐々木両先輩が卒業してしまいました。２年生になり、チームにエースが不在の中、この連覇をどうつなげるか。チーム全員が不安に掻き立てられたと思います。そんな時、監督からは「守りじゃなく奪いにいく気持ちで練習しろ。」と言葉をもらったのを覚えています。力あるものは守る気持ちでいいものだが、ないものは奪う気持ちを持たないと得るものも得られない。このときのチームには奪うという気持ちが大切で監督の言葉は的確だったと思います。初心に戻り、連覇に向けて戦い、エース不在の中、仲間の負けをカバーしあう試合内容でまさにチーム一丸となって連覇数を伸ばしていきました。このときの優勝が３年間の優勝の中で一番嬉しかったですね。正直、心の中では負けたと思った戦いが多く本当にぎりぎりだったから。３年生になり、この時の団体戦連覇数は９。エースとして後輩を引っ張っていく立場になり「自分の代で連覇を終わらせないように」、この気持ちを強く持ち練習していました。同級生も同じ気持ちで頑張ってくれて、この年のチームはとても強く頼もしかったですね。一人一人がエースにもなれるチームで、実力は全国レベルでも試合に出られない選手もいました。実際３年生の時のインターハイでは個人戦のシングルス、ダブルスの決勝を同高決勝という偉業ができたくらい。３年間で一番余裕を持って戦い抜けた一年だったと思います。これで先輩方から受け継いだ団体戦連覇数を12まで伸ばすことができ、僕の高校生活は終わりました。残念ながら翌年、連覇は途切れましたが連覇はいつか終わるものだと思います。３年間、選抜、インターハイ、国体と団体戦連覇を続けることができました。３年生でのインターハイでは団体戦、個人戦シングルス、ダブルスの３冠をとったけれど、その中でもやっぱり団体戦の優勝が一番嬉しかったですね。それは、３年間一緒に生活し、苦しい練習も励ましあい、チーム一丸となって日本一を勝ち取れたからです。バドミントンはコートの中では個人競技だけれど応援やサポートなしでは勝てない。僕は、バドミントンは団体競技だと思っています。周りのサポートに感謝の気持ちを忘れずこれからもバドミントン人生を歩んで行きたいと思います。

「願いをこめて」

日本ユニシス株式会社
(聖ウルスラ学院英智
高等学校出身)
平山　優

高校生の３年間、インターハイは私にとって一番大切な大会なので、そこで優勝することを目標にしていました。

初めてのインターハイは１年生で、団体戦とシングルスに出場しました。どこまで戦えるのか自分でも予想ができなかったので、ただがむしゃらに試合をしていた記憶があります。結果はシングルスでベスト８。とても悔しくてそれからさらに練習をするようになりました。

そして２年生の茨城インターハイ。目標は優勝でした。普段から、自分が優勝するというイメージを強く持っていたので自信はあったと思います。決勝まで順調に勝ち進み、決勝戦でもその勢いのまま勝利することができました。

イメージしていた通りの展開でしたので、嬉しいのと同時に驚きもありました。

しかし、２年生でシングルス優勝という結果を出したのですが、団体戦では優勝することができませんでした。

３年生になり、目標は団体、ダブルス、シングルスで優勝するという三冠になりました。

初めに団体戦です。私は聖ウルスラのキャプテンでしたのでチームを引っ張り、初優勝を掴むために必死でした。１日目を勝ち抜き、２日目は準々決勝、準決勝、決勝の３試合です。１試合目から最後のシングルスまでまわる接戦で私はダブルスとシングルスの両方を戦いながら決勝まで進みました。決勝戦は青森山田高校との対戦となり、２対２の場面で私のシングルスにまわってきました。この日だけで６試合目となり、体力は限界に達していましたが絶対に優勝したいという気持ちと監督、コーチ、仲間の応援があって最後はギリギリのところで勝つことができ、団体戦初優勝を掴むことができました。チーム全員で勝ち取った優勝なので個人戦では味わうことができない嬉しさがありました。

次は個人戦です。私のブロックはダブルス、シングルスとも高校の体育館で行われました。

長崎はとても暑く、体育館はまるでサウナの中にいるかのような暑さで、想像以上に体力を奪われていきました。ダブルス、シングルスともなんとか勝ち進むことができましたが、団体戦の疲労と灼熱の中での戦いで、最終日の前日は今まで感じた事のない疲れと体の火照りで眠れませんでした。

翌日の最終日はダブルス、シングルスの準決勝と決勝が行われました。18試合目のダブルス準決勝を戦い、勝ちましたがすぐにシングルス準決勝が入りました。このときはすでに足に力が入らず、気持ちだけで戦っていました。

前にも書きましたが、私の目標は三冠でした。どちらも決勝戦に進み、あと一歩のところまできていたのですが20試合目のダブルスで敗戦し、準優勝という結果になりました。ショックでしたが、シングルスは勝ちたいという気持ちでコートに立ちました。しかし、21試合目となったシングルス決勝戦は全身に力が入らず、立っているのもやっと、シャトルを拾うのが辛いという状態でした。それでも絶対に諦めたくなかったので気持ちだけで戦いましたが、最後はヘヤピンのミスで負けてしまいました。

結果は団体優勝、ダブルス・シングルス準優勝でした。目標だった三冠はとることができずに本当に悔しい思いをしたのを今でも覚えています。でも最後まで諦めず自分の限界を超えてまで戦えたということは、それから先のバドミントン人生に活きていると思います。

私のインターハイは２年生でシングルス優勝、３年生で団体優勝という嬉しい思いと、逆に三冠を取れなかった悔しい思いの両方を経験することができ、またたくさんのことを学んだインターハイでした。

「涙を止めた僕のバドミントン」

日本ユニシス株式会社
(比叡山高等学校出身)
数野健太

その日、体育館はうだるような暑さだった。2003年８月、長崎県で行われたインターハイ男子シングルス決勝。吹き出す汗をぬぐいながら、僕はコートに立っていた。不思議と緊張はなく、その場にいるだけで、心の中は幸福感に満ちあふれていた。

当時、僕ら高校生にとってインターハイは、まさに最高峰の舞台だった。全国のバドミントンを志す高校生全てが、その頂点に立つことを夢見た。この時のために、誰もが毎日の練習に明け暮れた。僕の通っていた比叡山高校は、前年団体戦で準優勝だった。その雪辱を果たし、今年こそ王手を刺す、「どうしても勝ちたい」そんな思いで、僕らはインターハイ優勝を目標に努力を積んだ。

放課後の練習は厳しさを極めた。しかしチームの誰も根をあげなかった。キャプテンだった僕は、折れない心を持ちたいと、さらに、毎朝５キロのランニングを自分に課した。

そして、インターハイの団体戦が始まった。１回戦を順調に勝ち上がり、２回戦。しかし、そこで僕らは思いもしない試練にぶち当たる。「当然勝つ」と信じていた試合で僕らは負けた。気合いが空回りし、全くいつもの動きがとれなかった。いったい、これまでやって来たことはなんだったのか・・。悔しくて、チーム全員が溢れる涙を抑えることができなかった。キャプテンだった僕は、みんなを鼓舞しながら、一人隠れて泣いた。

涙でにじむ目で、僕は客席に目をやった。自分を応援してくれた人たちの顔が次々と目に飛び込んできた。怪我をしないようにと、自分のコンディションをいつも気遣ってくれた整体師の先生。そして忙しい仕事の合間をぬって、自分のために練習後、筋トレのメニューを組み、できる限り付き添って応援してくれた皆さん。

その時、ハッとした。僕は何のためにインターハイに向け闘っているのか？なぜ、今悔し涙を流しているのか、自分達が勝って喜びたいからではないか・・・・。そうであってはならない。闘っているのは、自分だけではない。今日まで、貴重な時間を割き、僕らがバドミントンに打ち込める環境を必死に整えてくれた人たちも同じ思いなのではないか・・。

子供の頃から送り迎えをしてくれた父、体の弱い僕のことを心配して、野菜ひとつまで選びに選んで料理を作ってくれた母。みんな同じ思いで闘っているんだ。なぜ、そんな当たり前のことを忘れていたのか？自分のことしか考えていなかった自分自身が、猛烈に恥ずかしく思えた。

そのことに気づいたとき、涙はとまった。泣いている場合ではない。自分のために勝つのではなく、今日まで支えてくれた人に恩返しをする。なぜ闘うのか、その時初めて、バドミントンをやる根元的な理由に気づかされた。

シングルス男子。無我夢中に闘った。気づけば決勝戦。相手は同じ比叡山高校の早川だった。団体戦で地獄をみた二人が、決勝のコートで闘う。団体戦のぶざまな負けの後、もう一度闘う気持を取り戻すために、早川も、もしかしたら僕と同じ心の軌跡を辿って、この決勝の舞台にいるのかもしれない。勝ち負けよりも、大切なものに気づいたことで、僕は心底幸せだった。あの時決勝で感じた震えは、後にも先にも体験したことがない。

今、奇しくもインターハイの決勝で戦った早川と僕はダブルスを組んでいる。

そして今年、僕は「ＪＡＰＡＮ」のエンブレムを胸に戦う幸運に恵まれた。世界と相手に打ちのめされ、絶望する日もある。そんな時、思い出す。あの日、インターハイが教えてくれた、僕がバドミントンをやる理由を。そして、僕の心は奮い立たされ、闘う力が沸いてくる。

全国選抜大会を振り返って（第31回シングルス優勝）

日本体育大学４年
（小松原高等学校出身）
遠藤大由

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部創立60周年、誠に、おめでとうございます。

記念誌の発刊に際して、私が全国高等学校選抜バドミントン大会に出場し、シングルスで優勝した当時を振り返ってみたいと思います。

まず、中学を卒業し小松原高校に入学したのは、小さい頃からお世話になっていた、帰山先生と中山先生を慕っての事でした。進学に関しての迷いは当時を思い起こしても全くなかったことを覚えています。そして、目標の全国優勝を目指して高校生活がスタートしました。初めに、私のつらい思いで１番は、時々足を痙攣させてしまったことです。それは、大事な試合で、よく起きました。自分でもなぜ痙攣するのか理由もわからず、練習ではクリアーしているはずなのにと悩んだ日々でした。今では笑い話ですが、“緊張しすぎ”から起こっていたようで、当時は先生方にもご迷惑をかけたと反省しています。実際に今回の全国高校選抜大会は、前年度決勝での痙攣という苦い思い出を払拭するためにも頑張らなくてはならない大会でした。関東高校選抜大会シングルス２連覇、前年度準優勝という実績から否が応でも期待は周りからも自分自身でも高まってきます。回想すれば、厳しかった基礎トレーニングで、毎日、毎日、筋肉痛で学校に行ったこと、当時大学界でもトッププレーヤーの先輩方と何回も試合をしてもらい、技術的なことやメンタル面のことに関して教えてもらったこと、そして、その技術が試合でも使えるように、何回も必死で反復練習したことなどが昨日のことのように思い出されます。そして、いよいよ静岡県富士宮市で第31回全国高校選抜大会が始まりました。会場に着くと見慣れた顔ぶればかりで、余計に緊張してしまいました。リラックスしてやろうと自分に言い聞かせ試合に入って行きましたが、第１試合は案の定、手が縮こまりフットワークもガタガタでしたが、なんとか勝つことができました。やっと、体も温まったこともあり、少し吹っ切れた気がしました。次の２回戦、相手は年下の元中学生チャンピオンでした、ここは自分でもビックリするぐらい落ち着いて相手のペースにのらず、勝利を挙げることができました。その後は少し余裕が出て、何とか決勝戦まで辿り着きました。決勝は、何回かやっている選手で、ここまでは負けたことのない相手でした。しかし、試合が始まる前に「ここでまた足が痙攣してしまうんじゃないか」などの不安材料が頭をよぎり、それを取り除くために十分なアップをしましたが、思うように緊張が解けず、そのまま試合に入ってしまいました。出だしよくリードしたら少しは落ち着くと思い、最初から飛ばして勝負を賭け、うまく自分のペースに持って行くことに成功しました。１ゲーム目と２ゲーム目の後半まで、無我夢中であまり覚えていません。後半になり勝ちを意識するにつれ、ドキドキしてシャトルを持つ手が震えましたが、ラスト一本を決め、念願の全国優勝というタイトルを取ることができました。本当は最高に嬉しかったのですが、シャイな性格の為、派手なガッツポーズは残念ながら出来ませんでした。帰山先生、中山先生と一緒に辛い練習を乗り切った仲間達、小松原高校ＯＢの方や毎日のように練習相手をしてくれた大学生の皆様には大変感謝しています。

今後も、初心を忘れず、常に高い志をもって自分の最終目標“オリンピック入賞”まで頑張って行きたいと思います。

最後に、ここまでいろいろお世話になりました、全国高体連バドミントン専門部のますますのご発展を心からお祈りいたします。

「感謝の気持ち」

三洋電機株式会社
（青森山田高等学校出身）
今別府　香里

私は青森山田高校に入学し、素晴らしい先生やたくさんの仲間と出会いました。中でも高屋先生には３年間本当にいろんな事を教わり多くの事を学びました。先生は「バドミントンだけ強くても、人間性がしっかりしていないとダメだ！！」といつも言っていたので日常生活の事やマナーの事などについてはとても厳しい先生でした。怒られた事も多々あるけど、その時は何でそこまで怒られているのか分からなかった事でも今になっては理解し先生が怒っていた理由が分かる事もあります。その度に思い出しては先生のありがたさを感じています。他にも、自分の為に何かしてくれている人に対して感謝の気持ちを忘れない事、常に謙虚な気持ちでいる事、いろんな人に思いやりの気持ちを持つ心や周りに気配りをする事など本当に厳しく指導して下さいました。先生は、いろんな事を教えて下さっただけではなく、負けてもいつも「また次頑張ればいいからな。」と言って後押しをし励ましてくれていました。でもそうやって言っている時の先生の目が悲しい目をしていたのを今でも覚えています。自分も悔しいけど同じように先生も悔しい思いをしているのだと分かった時は先生をもっと喜ばせたいと先生のためにも、もちろん自分のためにも、またインターハイで優勝できるように頑張ろうと思いました。そして、２年生で優勝してから３年生のインターハイまでいろんな困難があり辛い時期もあったけど、自分を信じていたし、先生も私を信じてくれていたので最後にまた優勝する事ができ、先生を喜ばせる事が出来ました。先生の笑った顔を見た時はすごく嬉しくて、その笑った顔は忘れられません。だけどこうして優勝し先生を喜ばせる事が出来たのも仲間のお陰です。負けてしまいそうな時でも皆の応援があったからこそ最後まで諦めずに頑張れたし、試合以外の時も私を支えてくれたからこそ試合だけに集中して挑む事ができ、その結果２連覇が出来たのだと思います。また、自分一人の力ではなく皆で掴んだ優勝だなと感じました。

このような伝統ある大会で自分が２連覇したのだと思うと今でも信じられないし、先生や部の皆、私を支えて下さった方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、長いようで短かった高校生活は中身が詰まっていて、とても充実した３年間でした。青森山田高校に入学して心から良かったなと思っています。もし、高屋先生に出会っていなければ今の私はなかったと思います。そんな恩師である高屋先生は今、病気で入院されています。なかなかお見舞いにも行けず心配だけど、先生が私を信じたように、先生ならきっとまた元気になってくれると私も信じています。そしてまた元気に笑っている先生に会いたいです。私が先生にしてあげられる事はこうして勇気づけるような事しか言えないけど、この文書を読んで少しでも先生が元気になればなと思っています。

「一生忘れられない インターハイ」

日本大学４年
（水島工業高等学校出身）
佐伯祐行

2005年、千葉インターハイの年、地元岡山国体もあり迷いもなく岡山県立水島工業高等学校に入学し“優勝”という高い目標を持ち、良き仲間、良きライバルと一緒に３年後に向けていつも刺激を受けながら頑張りました。高校１年生の時、僕たちは埼玉へ練習試合に行きましたが全国トップレベルにはほど遠く、遊ばれて帰ってきたことを覚えています。すごく悔しくてこんなに力の差があるのかと実感しました。とにかくパワー不足、スピード不足に気付かされました。そして強い選手にでも常に勝つための努力をしようと決めました。しかし、身長が月に２センチ伸びる時期もあり成長痛との戦いでもありました。膝が痛く、病院に通う日々が続き気持ちだけが焦り、なかなか思うような練習ができないこともありました。パワーをつけるために筋力トレーニングを行い、父にも誘われ以前兄も通っていたスポーツジムに通い、毎日泳いで体力作りも行い、チームのため、自分のために毎日課題を持って取り組んでいました。気付くと成長痛もなくなり、短い練習時間の中でスピードについていけるフットワークに努め、まだまだ細身の体でパワー不足はありましたが、粘る力、体力は３年間通して少しずつついたと思いました。僕にとってインターハイ前に大きな自信となる出来事がありました。それは７月にインドネシアのジャカルタで行われたアジアジュニア大会に日本代表として出場した時にがむしゃらに体が動けなくなるくらい動いて、競った場面で勝てて３位に入賞できたことです。メンタル的にも体力的にも、やればできるという前向きな気持ちになり、その数週間後、千葉インターハイに望み、自分の力が試せる、試合が楽しみという気持ちと周りの期待に応えられるだろうか、自分の力が100%発揮できるだろうかという不安な気持ちとが交錯していました。出場したくてもできない選手が大勢いること、僕たちは、岡山県代表として自信を持ちみんなで頑張れば結果は必ずついてくると信じ、まず団体戦に望みました。40度近い体育館の中で順当に勝ち進み、準決勝で一番思い出深い青森山田高校と対戦しました。２対２になり最終シングルスの三宅君と相手は廣岡君との試合でファイナルゲームまでもつれてセッティングラストオールで大きな勝利をあげてくれて最高の気分でした。この準決勝ですべての力を使い果たしたような感じでした。しかし僕達の目標は全国優勝だったのでこれからが本当の勝負で絶対優勝したい、岡山弁で通じ合う仲間、田舎の学校からでも頑張れば日本一になれることを証明したいという思いが強くあったが、暑さと体力消耗で足が止まってしまい決勝では埼玉栄高校に完敗でした。負けはしましたが、悔しさもありましたが、自分たちにとって満足感は得られました。この負けた悔しさをシングルスにぶつけ、接戦になっても受け身にならず向かっていく気持ちを強く持ちながら全力で一戦一戦集中していきました。体力的にも団体戦、ダブルス、シングルスの連日の試合でピークにきていましたが、優勝したいという気持ちが強かったからか自分でも不思議なくらいにシャトルがよく見え、決勝では札幌第一高校の高島君と対戦しパワーがあるので打たれる前に仕掛けていこうと思い、いいリズムで試合ができ、そして、優勝することができました。その瞬間は涙が溢れ出そうなるくらい嬉しく、いままでやってきたことが報われたような気持ちでした。ここまで指導してくださった方々をはじめ、多くの方々に応援、支えられていたことに感謝し続けたいと思います。バドミントンを通じて多くのことを学ばせてもらいました。本当にこの高校のインターハイというのは特別な大会で一生心に残る、忘れられない大会になると思います。

僕とバドミントン
期待に応える！

東日本電信電話株式会社
(NTT 東日本)
(埼玉栄高等学校出身)
田 児 賢 一

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部、創設60周年おめでとうございます。記念誌作成にあたり、機会を頂き、感謝申し上げます。

僕は、物心がついた時から、家の中では、ラケットとシャトルで遊んでいました。小学校に入学するまでは、母に連れられ、練習や社会人の大会をたくさん見せてもらいました。小学校入学を境に母と出かけることが無くなり、学校では、サッカークラブに入り、サッカーに夢中になっていました。しかし、バドミントンもやりたいという気持ちがあり、地元のクラブへ父と一緒に練習に行きました。サッカーとバドミントンの掛け持ちで楽しく遊んでいました。

バドミントンの初めての大会は、ダブルスでした。松丸一輝君と、小学校３年生の終わり頃から組み、大会に出ました。その頃は、松丸君のお父さんにコーチをして貰い、いろいろな大会に連れて行ってもらいました。大変お世話になりました。同時期に戸田市のジュニアクラブ「シャトラーズ」にも所属させて頂き、能登則男先生からフットワークやバドミントンの基本を教えて貰い、少しずつ気持ちが固まりました。６年生になり、サッカーをやめ、バドミントン一本に集中することを決めました。

松丸一輝君とは、小学校は別々でしたが、中学、高校と同じ埼玉栄中学・高等学校へと進むことになりました。10年間パートナーとしてトップを目指す同志として、頑張りました。良くふたりでビデオを見たり、研究しました。

松丸君とは、小学校５年生の時ダブルスで全国大会初優勝。その後、中学校２年・３年とダブルスで全国中学校大会優勝。高校２年・３年でもダブルスで全国高校総体優勝を遂げることができました。僕にとって、欠くことのできない最良の最高のパートナーでした。

また、中学校３年間、高校３年間、総て団体優勝を経験することができました。良い先輩や仲間に恵まれ、最高の成績を残せたことに感謝しています。また、チームを支え、毎日指導してくれた加藤先生、名倉先生、大屋先生、山田先生に、本当にお世話になりました。

中学校２年生の時、ＪＯＣカップジュニア大会新人の部シングルスで初めて優勝。僕にとって初のシングルス全国制覇、初のタイトルでした。大会の前日に加藤先生に食事をしながらアドバイスを受けたのが良く、リラックスして大会に臨めたお陰と思います。この時から、僕はシングルス、ダブルスと両方やっていく自信ができたと思います。

高校に入学後、１年時の全国総体埼玉県予選でシングルス、ベスト４に残り、ここから勝負と言う大事なときに脚が痙攣。ベスト４からのリーグ戦では、戦うことができませんでした。僕にとって初めての経験でした。この経験がその後のトレーニングや試合への取り組み方に生かされています。しかし、１年時に団体戦でインターハイに団体メンバーとして出場させて頂いたことも、貴重な経験になりました。その後の高校２年・３年と全国高校総体では単・複の優勝。特に３年生では、３冠を取ることができました。これも経験の賜と思えます。

また、高校２年生の時から海外に派遣して頂き、アジアジュニア大会で優勝。その後もナショナルメンバーとして様々な世界大会を経験させて頂いております。高校３年では世界ジュニア大会で準優勝でき、最高の思い出ができた高校生活でした。

中学、高校の６年間で体力も徐々に付き、持病の喘息も無くなり、これからは、皆様の声援に応えられるよう、夢大きくオリンピック目指して頑張っていきたいと思います。

高校時代で学んだこと

東日本電信電話株式会社
(NTT 東日本)
バドミントン部
(金沢向陽高等学校出身)
樽野　恵

私は５歳からバドミントンを始め、高校は親元を離れて全国優勝すると決め金沢向陽高校へ進学しました。

１年の時からインターハイで準優勝しましたが全国優勝をなかなかすることができませんでした。１年生の高校選抜大会。団体決勝。その夢を叶えることができるチャンスが巡ってきました。私が勝てば優勝という状況でしたがプレッシャーで足が止まり優勝を逃してしまいました。この時に今まで以上に優勝に対する思いが強くなり、絶対に成し遂げると心に誓いました。

それでも勝負の世界は甘くなく、インターハイでも国体でもかなわず、自分がキャプテンになった２年の時の高校選抜。前年と同じ状況たち、凄いプレッシャーがありました。でも、前年と比較して精神的な面で自信がありました。先生方に指導してもらいやれることは全部やってきたという自信でした。結果は全国選抜団体優勝。本当に嬉しかったです。個人戦も単優勝、複準優勝と３冠までとはいきませんでしたが自分では納得のいく結果を残すことができました。

でも、インターハイでは完敗。このままじゃ終われないと思い、残りの試合は国体のみ。インターハイで部活動に区切りをつけた仲間もいましたが、国体に出場する３年生３人で最後は笑って終わろうと言い合い練習に励みました。

国体の決勝は小学校時代からの良き仲でありライバルである藤井選手率いる青森。自分たちは挑戦であるという気持ちを持ち、目の前の試合に全力でがむしゃらに立ち向かいました。その結果、最後に有終の美を飾ることができ、皆で笑って最後の大会を締めくくりました。

でも、最後に笑えて終わることができたのは自分たちの力だけではなく、遠く離れた地から応援してくれた両親、いつも厳しく指導してくださった先生方、私を実の子供のように面倒をみてくださり、悩みを聞いてくださったり栄養面に関しても気をつかってくださった下宿の家族の皆さん、常にバドミントン部をバックアップしていただいた学校、休日を返上して練習相手をしてくださったOGや社会人の方、つらい練習も常に一緒に乗り越えてきた先輩や同級生、そして後輩などたくさんの人の支えがあって私はここまでやってこれました。

あと、良き仲であり良きライバルであった藤井瑞希選手の存在も大きなものがあります。小学校時代からいろいろな場所で戦ってきて「瑞希には負けたくない」と言う思いを持ちながら練習に励んできました。お互い切磋琢磨し、最後のインターハイも決勝で試合ができたことを本当に嬉しく思いました。結果は負けてしまいましたが、自分の持っているものを全部出し切れたので悔いはありません。本当にいいライバルがいて良かったと思います。これからもチームは違いますが良き仲間良きライバルとして頑張っていきたいと思います。

ここに書ききることはできませんでしたが、本当にたくさんの方にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。右も左も分からない私を温かく迎え入れてくださり支えてくださった方のためにもこれからもしっかりと成績を残して恩を返していきたいと思います。

常に感謝の気持ちを忘れないことを高校で一番に学びました。これからも初心を忘れず日々精進したいと思います。

あの頃を思う・・・

九州日本電気株式会社
(NEC 九州)
(青森山田高校出身)
藤 井 瑞 希

私は５歳の誕生日からバドミントンを始めました。姉２人のクラブの迎えに親と行き、クラブの監督に毎日毎日お願いして、ようやく誕生日に入れてもらえるようになりました。今となっては、私とバドミントンを結びつけてくれた大切な誕生日プレゼントになったと思います。始めた頃はラケットが大きく振る度に床を擦ってしまい、アッという間にラケットは傷だらけになりました。しかし、バドミントンの魅力に引きこまれ週３回の練習は殆んど休まず楽しくて仕方ありませんでした。毎日の練習の成果が徐々に出始め、小学生になると上級生に勝つようになり益々強くなりたいという気持ちが強くなりました。そんな私の気持ちを後押ししてくれるかのように、両親をはじめ家族全員がサポートしてくれました。小学生のときは片道40分、中学生になると片道１時間30分かけて送り迎えしてくれたことを思うと、今でも感謝しています。

何から何までサポートしてくれていた親に甘えていた私は高校進学と共に、親元を離れ自立しようと決断しました。個人戦でしか全国制覇のない私は、どうしても団体戦で全国制覇したいと思い、同じ目標を持ったトップの人達が集まる青森山田高校への進学を決心したのです。

両親は「瑞希が決めたのだから」と言い賛成してくれました。その時の私は、熊本を離れる寂しさよりも新しい環境での新しい生活への期待の方が大きかったのを覚えています。私の学年はとても仲が良く、３年生のインターハイでは絶対６人全員で全国制覇しようと目標を決め毎日毎日練習に励みました。

１年生のインターハイでは個人・団体ともに出場し、団体戦では優勝できたものの個人戦では納得のいく結果は出せませんでした。最後は疲れが出て体力不足を痛感させられました。その反省を活かし、毎日苦手なランニングやノック・ラリーを続ける打ち合い等、毎日自分を追い込んでの練習ばかりで途中投げ出したくなる程でした。そんな時は仲間との目標を思い出し、そして皆で励まし合いひたすら練習に取り組みました。２年生ではシングルスと団体戦、そして３年生の時は三冠を達成し念願であった仲間との目標である皆で全国制覇を達成できました。優勝が決まった瞬間は皆で抱き合い喜びました。それは涙が出るほど本当に嬉しかったです。

自分がやってきたことは正しかった、間違ってなかったんだ、自分を信じ仲間を信じて本当に良かった。今でもあの日のことは忘れられません。一生こころに残るインターハイになりました。

今までのバドミントン生活を振り返って思ったことは、常に目標を持ち目標を達成するために毎日の努力をおしまないこと。自分１人だけの力では何もできません。サポートしてくれる人、応援してくれる人達に感謝してこれからも頑張っていきたいと思います。

「私の出会いに ありがとう」

日本ユニシス株式会社
（尚志高等学校出身）
野尻野 匡世

私にとってインターハイは、必ず優勝しなければいけない大会でした。これは、私だけでなく先生も同じ気持ちだったと思います。

尚志高校に入学して、すぐに福島県体育協会からの「日本一育成モデル事業」が始まりました。この事業は、日本一の選手を作るために様々な面でサポートしてくれるものでした。このサポートのおかげで私はたくさんの先生方に出会うことができました。そしてこの出会いが私の人生を大きく変えてくれたと思います。寮生活を送りながらの食事管理、門限や入浴時間が決まった中での練習やトレーニングは辛かったです。もし、寮ではなく実家で生活していればもっと食事も管理してもらえるし、練習が足りなければ補うこともできるといつも思っていました。でもこれはただの言い訳で、結局は私の頑張りが足りなかっただけだと思います。食事だって自分が気をつけようと思えば簡単に改善できるものだし、練習が足りなければ部屋でもトレーニングはある程度できます。もっとできることはたくさんあったはずなのに、逃げてばかりでした。

しかし、こんな私をスタッフの先生はいつも支えてくれ、困ったときは電話をしてくれたり、会う時間を作って相談にのってくれました。その中でプラスの気持ちになるアドバイスをもらい、徐々に自分を変えていくことができました。また、練習では、部員のみんなが文句を言わずにコートを使わせてくれて、大会でもたくさん応援してくれました。顧問の先生も、遠征のときは車で送り迎えをしてくれたり、食事に連れて行ってくれたりと私がやりやすい環境を作ってくれました。こうした素晴らしいスッタフや先生、仲間に恵まれていたからインターハイで優勝することができたし、今もバドミントンを続けることができていると思います。

一、二年生のインターハイでは、思うような結果は出すことができませんでしたが、まだ課題が多すぎたのでこの結果だったと思います。三年生のインターハイでは、今までの大会で一番緊張しました。三年間サポートしてくれた人たちに感謝の気持ちを伝えるために絶対優勝しなければいけなかったからです。この気持ちが強くなるほど、不安になり、眠れない日が続きました。でも実際にコートに立つと、その不安が楽しさに変わり、負けることも怖くなくなりました。もちろん優勝したい気持ちはありましたが、それよりも私にしかできないプレーを今まで支えてくれた先生にも部員にも見てほしかったからです。また、一番大きかったのは、先生のことを信じていたからだと思います。バドミントンは個人競技でコートに立ったら誰も助けてはくれないし、何を打つかは自分で決めなければなりません。でも、戦うのは自分ひとりではありません。インターバルで先生がアドバイスする時間があるのは、先生も一緒に戦っているからだと思います。先生と同じ目標を目指してきたから、そしてそうなれることを信じているから、一緒に戦うことができたと思います。インターハイの結果は全て、先生に預けていました。私は今までやってきたことを出せるように、そして笑顔で試合ができるように考えただけです。私は運がよく、先生が結果を持っていてくれたので優勝することができました。三年間の「日本一育成モデル事業」も高校生の中でですが無事に成功することができてホッとしました。この成功の為に、お金も時間もかけてもらいました。そしてたくさんの先生や仲間にも出会わせてもらいました。高校三年間は遠い福島県まで行って本当に良かったと思います。

これからも私はバドミントンを続けていきますが、どんな時でも自分に関わったスタッフや先生たちを信じていきたいと思います。そして出会いを大切にして、出会った人に支えられている気持ちを忘れずに、プレーしていきたいです。そして笑顔で試合している姿をまたみんなに見てもらえるように頑張ります。

全国高等学校総合体育大会を開催して

50回総体 ● 平成11年 ● 岩手

「'99岩手総体」を開催して

岩手県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
元委員長 伊藤張二
(岩手県立前沢高等学校)
(現　盛岡市立高等学校)

この度、全国高等学校体育連盟バドミントン専門部が60周年を迎えますこと、誠におめでとうございます。

前回50周年記念式典を開催したのが、平成11年岩手インターハイの時であったことが懐かしく思い出されます。役員宿舎でもあった雫石プリンスホテルがその会場でした。当時専門部長の保坂和也先生、事務局長の伊佐山正和先生、東北委員長の木戸純一先生（現専門部長）の指導をいただきながら準備したことを今でも鮮明に思い出すことができます。３月の全国選抜大会の開催と８月のインターハイの開催準備に戸惑っていた私ですが、先生方の懇切丁寧な指導により、何とか50周年記念式典とインターハイを開催することができました。

大会は滝沢村で行われ、岩手県産業文化センターを主会場に滝沢村総合体育館、滝沢村東部体育館、盛岡大学体育館の４会場を使っての競技となりました。特に主会場である岩手県産業文化センターは17コートの大きな会場での競技となり、大会運営も順調に進んだものと自負しております。しかし、例年になく暑い夏となり、連日気温が35℃ を超す日が続いたため、連続した試合の中で体調を崩す選手が多く出たことを残念に思います。せめて主会場だけでも冷房施設を完備しておけばと反省しました。今後行われる開催地におきましては、全国高体連専門部の指導のもと、選手の健康管理を第一に考えた体制で臨んでほしいと切にお願いしたいと思います。真夏に行われるインターハイですので、体育館には冷房施設を備えることを原則とする会場準備について、開催地大会実行委員会に強くお願いするのも一つの方法ではないでしょうか。今、この不況の中で大会運営予算が十分確保できない状況となっておりますが、岩手インターハイを振り返ってみると、全施設に仮設の冷房施設は完備できたものと、今日になってもつくづく残念に思っています。開会式や装飾等にお金をかけず、せめて仮設でも冷房施設を完備して、選手が力を発揮できる環境を整えてあげたいものです。

この大会の一番の課題は宿舎の確保にありました。開催前から各県の専門委員長等多くの皆様から「村」でインターハイを開催できるのかと心配をいただきました。体育館や宿舎を確保できるのか不安視していたようです。盛岡のベッドタウンとして発展している地域でしたので、村には宿舎がありませんでした。しかし、隣接した雫石町には、スキー場のリゾートホテルや民宿が数多くあり、選手をバスで輸送することで対応しました。滝沢村からは、実行委員会に６人の常駐スタッフを配置いただき、全国から集う高校生に最高の思い出を作ってもらいたいという思いで、準備をしていただきました。県高体連バドミントン専門部や県バドミントン協会の力だけでは、このインターハイは成功できなかったと思います。滝沢村に感謝の気持ちでいっぱいです。

『人口日本一の村』『チャグチャグ馬コ』の滝沢村での「'99岩手インターハイ」はこの60周年に向けての第一歩でした。後にも先にも唯一「村」で開催されたインターハイでした。多くの方に支えられ、多くの方の協力により開催された大会でした。ほんとうにありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

大阪大会が70周年に向けての充実した大会となり、輝かしい歴史を刻む第一歩となることを祈念しております。

平成12年度全国高等学校総合体育大会を開催して

岐阜県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
前委員長　岩田甲司
（岐阜県立池田高等学校）

平成12年度全国高等学校総合体育大会バドミントン選手権大会は、日本列島の中心にある岐阜県各務原市に、全国高校総体実行委員会が設置され、市役所担当者、高体連バドミントン専門部、県バドミントン協会等によって準備に取りかかりました。前年度は開催地にて実行委員が担当ごとに分かれ大会運営の流れや裏方の仕事等を視察しました。

12年の４月から、私は、各務原市役所のバドミントン競技専門部の専務となり、視察資料の確認と整理をしながら先催県からお借りした関係書類等と見比べると、見落としの部分があったり、やらなければならないことが山積みでした。経験のない私は、どうなることかと不安でいっぱいでした。実行委員の方々と夜遅くまで資料作りをし家に着くと日が変わっていることもありました。

試合会場・宿舎等の手配には苦労しました。試合会場となる体育館コート面数が少ないため、各務原市総合体育館・各務原高校体育館・岐阜女子商業高校体育館・蘇原中学校体育館・東海女子大学体育館・東海女子短期大学体育館となり、練習会場は、各務原市立那加第一・第二・第三小学校、蘇原第二小学校、中央小学校、那加中学校、鵜沼中学校、中央中学校、桜丘中学校、岐阜県立各務原東高校、各務原西高校となりました。会場移動はどのコースを通ると一番良いのか、また、監督・選手・大会役員等が宿泊する施設が各務原市には少ないため、名古屋駅周辺までどの交通機関を利用するとどのくらいの時間で移動できるのか、自動車移動の場合はどのあたりまでか、など調べていると大変でした。

審判員については、県バドミントン協会の協力を得て養成事業等を重ねていただきましたが、必要人数の確保ができず県外の協会の方にも応援をお願いしました。競技・運営役員も多くの方々のご協力をいただきました。

補助員も担当高校バドミントン部員を対象に各種大会ごとに何度も実技研修を行い、また各学校においても練習してもらいました。

問題がでたときは、岩手県の伊藤先生や全国高体連バドミントン専門部部長の保坂先生や県協会の方々のアドバイスを受け、一つ一つが解決でき乗り越えることができました。

重要課題としては、選手の育成・強化です。地元の期待は大きく、選手養成のための練習日程・内容等の計画に力が入り、県協会や専門部、また、バドミントン関係者のご尽力はたいへんなものだったと思います。

「切り開け岐阜から未来の１ページ」のスローガンのもと、高校生が「一人一役」を合い言葉に炎天下で、また、室内にあっては40度近い蒸し風呂状態の中でこまめに動く姿には頭が下がりました。大会役員及び補助員は、一人一役どころか、一人何役も積極的に果たしてくれました。また、ボランティアの方々のお手伝いもあり大会を支えていただきました。

本大会は、予想を超す猛暑の日が続き、メイン会場においては、私が知る限り初めて窓を開けての進行となりました。その中で、地元の岐阜県立岐阜商業高等学校女子が、学校対抗において、第３位に入賞するなど盛り上がりのあるすばらしい大会となりました。

この大会を成功に終わらせることができたのは、準備から後片付けまで多くの方々のご協力をいただいたお陰であります。私にとって忘れることのできない、12年総体となりました。本当にありがとうございました。

平成13年「ひのくに新世紀総体」を振り返って

熊本県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
元委員長　茂見　正
（熊本県立玉名高等学校）

まるで、頂上のない山のてっぺんに、ひたすら登り続けているような作業であった。

また、登っている途中でどんな化け物に出会うかわからないような不安を抱えての毎日でもあった。

平成８年に専門委員長を仰せつかった時、５年後には熊本にインターハイが来るんだ、との思いを抱いてその役目を引き受けた記憶がある。

しかし、いざ専門委員長の任務に当たってみると、インターハイへの取り組みどころか、県内大会を切り回すのが精一杯の毎日であった。

また、バドミントン競技においては、平成９年から13年の「ひのくに新世紀総体」まで毎年全国規模の大会が予定されており、果たしてバドミントン関係者のエネルギーがインターハイまで持つのだろうか、協力して貰えるのだろうかとの不安もあった。

高体連バドミントン専門部の加盟チームは、この数年で男女合わせて100チームを超えた。つまり顧問の先生も100人以上おられる。この顧問の先生方との信頼関係をいかに創り、協力してもらえるかがインターハイ成功への最も重要なカギと考えていた。

もう一つは、パソコンの競技運営への導入である。このことについても、顧問の先生の中に力強い味方が現れ、インターハイ終了まで惜しみない協力と努力を頂いた。

最初の４年間は頂上をめざして右往左往したが、平成12年に現地入りし、実行委員会という強力なスタッフを得て、やっと山の形が見えてきた。それでも12年度は頂上がどこにあるのか掴めなかった。

13年度に入り、山の形や大きさは見えてきたものの、依然として頂上は見えない。しかし、ひたすら登らざるをえないことには間違いない。ここでやめたらインターハイは？

そのような中、こちらから頂上をめざして積極的に攻めた場面もある。開会式での学校対抗出場校全員入場行進、大会参加事前調査にてパソコンでの調査依頼、補助員の下衣ユニフォームを中・高校生問わずハーフパンツに統一、役員機構で記録パソコン関係を競技役員側に統括、種目の特性を鑑み、従来の係に用具管理係を新設、配宿センターを通していない参加校の公表等々試みた。

５日間に渡る競技は、初日に皇太子殿下のご臨席を賜り、栄誉あるスタートを切った。

期間中猛暑が続き、競技者のみならず役員・補助員等大会関係者一同の健康安全面に相当気を遣ったが、大過なく運営するに至った。観客も各会場とも盛大で、バドミントン競技への関心の深さを伺えた。特にメイン会場の八代市総合体育館は初日から足の踏み場もないくらい盛況で、２日目の学校対抗決勝時には、地元八代東高校の出場を迎え、その応援の凄さは２年前の「くまもと未来国体」を再現するものとなった。その興奮を肌で感じた時、大会は成功の方へ向かっている、頂上はもうすぐなのだとの思いを深くした。

頂上に登り着くために、どれ程のバックアップを頂いたことだろう。ただただ感謝するばかりであった。もう７年も経つ、毎年のインターハイの成功を祈る今日この頃である。

全国高等学校総合体育大会を開催して

茨城県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　志子田 勝敏
（茨城県立石岡第一高等学校）

㈶全国高体連バドミントン専門部が創立60周年を迎えられ、記念誌を発行されるにあたり、心よりお祝いを申し上げます。

私達茨城県高体連バドミントン専門部も平成14年度に高校スポーツの最も大きな大会である、インターハイを開催することになりました。私達にとって、全国規模の大きな大会を開催することは初めての事でありましたので、勝手を知っている人間もおらず、毎日が戸惑いの連続であったことを思い出します。しかし、県内役員の先生方をはじめ、加盟校顧問の先生方、つくば市・牛久市の実行委員会の皆様、補助員として活躍してくれた各校部員の諸君、一人一役運動で手を貸してくださった協力校の皆様など、枚挙にいとまがない程の多くの方々のご協力のお陰を持ちまして何とか無事に終了することができました。この紙面を借りて心より御礼を申し上げたいと存じます。本当にありがとうございました。

さて、原稿を書きながら少しずつ６年前の記憶を呼び起こしておりますが、本当に大変だったなという思いが何度も呼び起こされます。先催県視察は、開催３年前の岐阜・２年前の岩手・前年の熊本と３回行いました。どの県に伺っても、役員の先生方が生き生きと活動なされており、はたして茨城でも同じようなことができるのか、不安がよぎったことを思い出されます。特に前年の熊本県を視察したときには、準備の段階から詳しく視察させていただきました。熊本県は何度も全国クラスの大会を開催されているということで、いろいろとコツをご教授いただきました。私達にとっては、細々した所まで教えていただき、大変参考になりました。

また、私達にとって苦労した一つに二つの市にまたがって開催したことがあげられます。本県には、施設の関係で一つの市町村で開催することが難しかった経緯があります。そのため、二つの市で様々なことを調整しなければならず、開会式や閉会式をどちらにもっていくのかなど難しい問題が山積しておりました。サッカーワールドカップの日韓共済と同じ年であったので私達と共通する課題もあり、いろいろ共感する部分もありました。

競技の部分では、本県常総学院の女子が頑張ってくれ、開催県の面目を保ってくれました。学校対抗戦ではベスト８に入賞してくれ、個人戦でも清水・岡本のダブルスが全国準優勝をという偉業を達成してくれました。地元の大声援に応えることができ、本当に良かったと思います。また男子シングルスでも青山（藤代）がベスト８入賞を果たし、大会を盛り上げてくれました。数年前から強化事業を継続して行った成果が出た形となり、役員一同安堵の念を持ちました。

大会では予期せぬ様々なトラブルが発生しました。コートマットを何度も張り替えたり、選手がムカデに刺されるなどの事件も発生しましたが、関係者の素早い対応のお陰で大きな問題にもならずに済みました。改めて人の力の偉大さを感じさせられました。また私の力量不足のためいろいろな方々にご迷惑をお掛けすることとなり、今でも心苦しい気持ちでいっぱいです。しかし各方面からの多大なるご協力を得ることができ、お陰様を持ちまして大会を無事終了させることができました。改めて感謝の意をお伝え申し上げたいと存じます。本当にありがとうございました。

最後に㈶全国高体連バドミントン専門部の益々のご発展を御祈念申し上げ、筆を置きたいと思います。

長崎インターハイを開催して

長崎県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
元委員長　春野良三
（鶴鳴学園長崎女子高等学校）

平成15年度に長崎インターハイの開催が決定し、14年度から私は長崎市民会館の実行委員会に、中尾先生は大村市役所の実行委員会に隔日勤務が始まった。学校の授業をしながらの勤務で、私は学校から勤務先までは、中古のバイクを購入しての通勤であった。陸上やバスケット等、他の種目の先生方も一緒の勤務で、色々大変だったが良い経験になった。

長崎市と大村市の共同開催で各市との調整が大変だった。そのひとつに、大会プログラムの表紙に両市から１点ずつの「２枚の絵を表紙にしてくれないか」との要望があり、全国専門部にも協力をいただき、了承を得て、事なきを得た。今までにないプログラムの表紙が出来上がった。

また、開催日が例年のとおりだと、長崎原爆記念日と重なり宿舎や会場の確保が難しいということで、「開催日を前倒しで出来ないか」と長崎市からの要望があり、すぐに専門部長の伊佐山先生に相談したところ、快く引き受けてくれて、実行委員会からも大変感謝されたことを思い出す。その結果、開会式が例年の８月１日から７月28日に開催となった。これも前例のないことであった。

平成15年度は４月から８月まで毎日実行委員会勤務となった。参加申込の準備、宿舎準備、調整など直前の準備が忙しくなった。

しかし、各競技に２名ずつの市職員が配置され、その２名の濱、松田両名が良くがんばってくれ何とか大会を迎えることが出来た。

彼らは主に、用具関係の準備、予算の作成、執行などを中心に頑張ってくれた。

そうこうしているうちに、７月に入り、抽選会が開催された。その抽選会のことで頭に残っていることがある。

８シードの同じ山に九州勢が２チーム入ったことであった。それは、８シードの長崎東のところに同じ九州１位の熊本中央がきたのである。どうして九州がくるのかということで質問したところ、例年の基準でいくとこうせざるを得ないという、全国専門部の話しであったが、その決定までに相当長い時間がかかってしまったことであった。決定までの長い時間、関係者に大変迷惑をかけてしまった。もう少し早くきちんと説明してもらえれば、この件はこれほど時間が必要なかったと思う。

組み合わせ基準を、地域性も含め、直近の成績を基礎として決定するなど、考え直す余地があると思った。

そんなこんなで、バタバタしながら、いよいよ大会も近まり、長崎市のメイン会場の市民会館では１週間前からコートマットの設置を行い、いよいよ大会という、緊張感が増してきた。「大丈夫だろうか」という不安のなか、開会式のリハーサルなど順調に進んだ。

しかし、組合せ用看板やプラカードなど備品類の準備が前日にようやく間に合い、何とか開会式を迎えることが出来た。

「ハラハラドキドキ」のまま、大会が始まってしまった。 試合が始まり、大会役員や補助員達の暑さに負けない頑張り、また選手たちのハッスルプレーのおかげで、何とか大会を無事終えることが出来、本当に良かったと思う。

今から考えると、ああしておけば良かったとか、こうして居れば良かったと思うこともあったが、専門部長の伊佐山先生から大会の最後に、役員や補助員の前で「ここ数年で１番良い大会だった」と、お礼を言っていただいたときには、本当に肩の荷が下りた感じがした。「有難うございました。」

中国04総体「鳥取大会」を開催して

鳥取県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
前委員長　三村俊彦
（鳥取県立倉吉総合産業高等学校）

全国高体連バドミントン専門部が創立60周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

平成16年夏、「君の輝く一瞬が　今伝説となる」の大会スローガンのもと「全国高等学校体育大会　高松宮記念杯　第55回全国高等学校バドミントン選手権大会」は、８月１日鳥取県民文化会館梨花ホールにおいて開会式を実施し８月６日の閉会式まで、円滑に運営することができました。

平成10年10月中国ブロックで16年のインターハイを開催することが決定し、12年２月鳥取市でバドミントン競技を行うことが決まりました。全国で一番人口の少ない県、競技人口も他県と比べ決して多くはなく、大会を成功させるためにはたくさんの問題もあり、不安でいっぱいでした。

まず最初に選手強化の資金を確保するため県内の顧問の先生にご協力いただき、そうめんや記念Ｔシャツ（現在も在庫あり笑）等の販売から始めました。この資金をもとに13年から毎月１回の強化選手の合同練習会、14年から県外へ選手を派遣し強化に努めました。結果として皆さんの期待に応えるべく上位進出はなりませんでしたが、この大会が現在のジュニアの活躍の元になったと信じています。

競技会場は、鳥取県民体育館（観客席2000席）をメインとし、鳥取産業体育館、鳥取市民体育館、鳥取東高体育館の４会場。体育館施設に問題はありませんでしたが、経費削減のためコートマットや支柱を購入することが出来ず県外からお借りしました。香川県、広島県、島根県の協会には本当に感謝をしています。

役員養成の審判については、15年から検定会、講習会を県内で開催し、大会に間に合うよう審判員の人数を揃えましたが、期間中は平日だったため動員の目途がなかなかつかず２交代という厳しいローテーションで審判をお願いせざるをえませんでした。また、運営役員につきましても東部地区から競技以外の先生方や生徒達にお手伝いしていただき、暑い中でのご協力が大会成功の原動力になりました。

大会１ケ月前になると抽選会、開・閉会式、表彰式リハーサル、審判研修、会場設営他、急に慌ただしくなり、一週間前ともなると実行委員会へ毎日足を運び、あまりの忙しさに帰宅が夜中となるほど準備に追われました。

また、大会直前は台風10号の影響もあり開会式・競技日程等心配していましたが何事もなく競技が開催され、各会場で熱気あるはつらつとしたプレーが展開されました。メイン会場では連日1,500人を超す観客が訪れ、競技への関心の深さと熱意に感動いたしました。

「光陰矢のごとし」鳥取市での開催決定から８年。こうして振り返ってみますと、時の流れの速さを実感するとともに、その間、バドミントンを通して出会ってきた生徒や指導者の方々、役員の皆様に私自身育てていただいたように思います。

最後になりましたが、この大会を無事に終了することが出来ましたのは、前伊佐山部長をはじめ全国専門部の役員の先生方、地元鳥取市行政当局、県協会、その他多数の関係者の方々のご協力の賜物と感謝をしています。本当にありがとうございました。

「2005千葉きらめき総体」を開催して

千葉県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　中村新一
（木更津東高等学校）

平成17年８月に野田市での「2005千葉きらめき総体」開催にあたり多くの方のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。特に開催を引き受けていただいた野田市には大変お世話になり感謝に堪えません。

平成13年３月に平成17年度千葉総体のバドミントン競技会場として野田市が選定されました。野田市は千葉県の最北端に位置し、平成15年６月には隣町の関宿町と合併をし、人口は15万人の南北に細長い都市です。

さて、野田市開催に際し平成15年７月に全国高体連専門部による競技会場の視察があり、準備段階での様々な点について、指摘や指導を受けました。

一番目は施設・用具の問題。競技会場としてふさわしい体育館が少なく、男子会場として野田市総合公園体育館５面・西武台千葉高８面・野田一中４面、女子会場として野田市関宿総合公園体育館８面・東京理科大学５面・県立清水高４面の計34面、練習会場として市内小・中・高・企業の体育館で47面の確保。メイン会場としての観客席を充分満たす会場がなく、大会２日目の学校対抗戦の会場として野田市関宿総合公園体育館８面の設定、５日目の個人対抗戦の最終日は野田市総合公園体育館４面を設定し個人対抗戦の準決勝・決勝の会場としました。両会場も観客席数が極端に少なく、仮設の椅子を設置しどうにかやりくりをしました。

また、各競技会場への臨時のエアコンの設置やコートマットの使用等については、設置理由や費用の負担等で実行委員会の皆様には、ご苦労をおかけしました。

二番目は宿泊・輸送の問題。参加者は選手・監督を含めて例年約1200人程度ですが、野田市には宿泊施設がほとんどないため、県配宿センターとの協議の結果、隣接の埼玉県・茨城県に頼る状況でした。県外に宿泊となると、野田市の会場までの交通手段が大変厳しいものになり、電車ではなく自動車・バス等での移動という条件に頼らなければならないという極めて厳しいお願いを参加校にしました。全国の委員長会議でも事前にお願いするなど説明をさせていただきました。

競技役員、運営役員・補助員等の配置では競技役員として柏市・流山市・野田市の３市内のバドミントン部顧問及び部員に、運営役員・補助員は流山市・野田市の高校の教員と生徒に依頼しました。

一人一役については運営補助員として野田市と流山市内の高校生に依頼しました。なかでも一役の活動として各参加チーム・選手の試合の様子をスナップ写真におさめ、出場記念として大会終了後、ＤＶＤに編集送付し、好評を得ました。

野田市実行委員会が行ったポスターの公募では、野田市内の中学校・高校に依頼し、期限内に提出された作品は、選考するだけの充分な枚数は集まらず、数点の中より選考しました。

野田市実行委員会と一人一役事務局が同一ではなかったことから連絡体制に多少の不備があり、準備期間をはじめ大会期間中も各担当者にはご苦労をかけました。

運営面では平成14年に国体の関東ブロック大会、平成15年に関東高校選抜大会、平成16年に関東大会を開催しました。これらの大会を通じて競技役員及び補助員が大会運営の経験を積み、養成事業を進めてきました。また、専門部でも５年前より全国総体の視察を開始しました。事前にいろいろな準備をしてきたつもりですが、インターハイの規模を知らない先生方も多く、専門部の事前準備でも、役割分担をしても何をしてよいのかわからないのか、作業が進まないこともありました。ですが、さすがに大会を迎えると先生方は臨機応変に対処していただき、

無事に大会を終えることができ、大変助けていただきました。

競技結果は地元開催として、千葉県としては過去最高の成績を収めることができました。開催が決定した年より中体連、県協会、高体連との連携を図りながら、選手強化も進めてきました。その結果、学校対抗戦で女子西武台千葉高がベスト８、男子ダブルスで西武台千葉高の石川・白戸組、女子でも皆川・松本組が共に３位に入賞することができ、役員も疲れが吹き飛んだ思いがしました。

この大会を開催して得たものは、バドミントンに精通していない方との協力体制が思った以上に取れたこと、関係者の大会運営能力の強化がはかられ、以降の県内バドミントンの質的向上につながったことが挙げられます。また、人は財産といいますが、県内のバドミントン部顧問の輪が今まで以上に強力になったことは委員長としても心強いことです。

全国総体を実施して終わりに大会を盛り上げてくれた選手、指導者、関係各位、全国高体連専門部、特に野田市の高校総体実行委員会や社会体育課の方々をはじめ野田市教育委員会皆様方に対し厚く御礼申し上げます。

2005千葉きらめき総体

輝きを胸に 夢をその手に 房総の夏

全国高等学校総合体育大会を顧みて

奈良県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 錦　秀知
（奈良市立一条高等学校）

「君がひかり　近畿の空は　青くそまる」を大会スローガンに掲げ、平成18年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技大会・高松宮記念杯・第57回全国高等学校バドミントン選手権大会は、平成18年８月１日、なら100年会館大ホールにおいての開会式にその幕を開け、８月６日、奈良市中央体育館においての個人対抗表彰式・閉会式にて無事閉じることができました。

競技は奈良市中央体育館を主会場に、奈良大学附属高等学校体育館、東大寺学園高等学校体育館、大和郡山市総合公園多目的体育館、奈良大学体育館、奈良市西部生涯スポーツセンター体育館の６会場で実施されました。真夏の好天の下、一部の会場では空調をおこないましたが、全ての会場で整えることが困難な折、熱気あふれる体育館内の気温は体温を超え換気を繰り返しながらの競技となりました。しかし、懸念された熱中症等による大きな事故もなく、選手たちのはつらつとしたプレーが展開されたことに大きな喜びを感じております。また、競技者としてのマナー意識の高さにも接する場面がありました。競技力向上のみならず指導者各位のご指導の成果であると敬服いたします。今大会に参加した選手の中から、将来オリンピックをはじめ世界の舞台で活躍する選手が出てくることを期待します。

全国各地から多くの観客のみなさまをお迎えし、奈良市中央体育館の客席に立ち見がでる日もありました。また、㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部ホームページへの連日5000件を超えるアクセス数等、バドミントン競技への興味、関心の深さと熱意に感動いたしました。

今大会を成功裏に終えることができましたのも、奈良県実行委員会、奈良県教育委員会、奈良市、奈良市教育委員会はじめ関係諸機関ならびに諸団体、そして、競技会場や練習会場としてご協力いただいた各施設、学校等の多大なるご支援、ご指導の賜と存じ、深甚なる謝意を表します。

大会運営に携わっていただいた県内外役員の方々、補助員のみなさんの献身的な働きぶりには、ただただ頭の下がる思いでした。心からお礼を申し上げます。

来年度「この夏　佐賀に　君色の風が吹く」を大会スローガンに、佐賀県武雄市、江北町、小城市、大町町の２市２町で開催されます、「2007青春・佐賀総体」の成功をお祈り申し上げますとともに、㈶日本バドミントン協会ならびに㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部の益々の発展をご祈念申し上げ、大会報告とさせていただきます。

これは、大会結果報告書に綴らせていただきました挨拶文です。今更ながら感動の日々を送らせていただいたことが甦ります。国内バドミントン競技大会の中でも最大規模の大会であり、県庁で平成18年度に開催予定であると伺ったとき、会場・役員・審判員・補助員・施設・備品など準備すべき様々なことが私の脳裏を駆けめぐったのを覚えています。後、２年半の時間と、関わっていただいた方々の英知により、見事な大会を創り出すことができました。関係諸機関・各位、大会役員ならびに大会補助員として活躍いただいた皆さまに、心からの感謝とお礼を申し上げます。数多くの皆さまの支えを振り返り、熱くなる思いに浸っています。唯一心残りは、奈良県選手を十分に強化できなかったこと。今後は、「奈良県から世界へ羽ばたく選手を」生み出すべく努めたいと存じます。

2007青春・佐賀総体を開催して

佐賀県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 築地孝彦
(佐賀女子高等学校)

2007青春・佐賀総体は、「この夏　佐賀に　君色の風が吹く」のスローガンのもと、バドミントン競技大会は、平成19年７月28日に佐賀県総合運動場にて開催された総合開会式後、武雄市文化会館において種目別開会式を実施しました。競技は，男子メイン会場として「佐賀のへそ・ふれあい交流センターネイブル」、「小城市立小城中学校」、「小城市牛津体育センター」、「大町町立大町中学校体育館」、女子メイン会場に「武雄市白岩体育館」、「佐賀県立武雄青陵高等学校体育館」、「武雄市立北方中学校体育館」、「武雄市立山内中学校体育館」の二市二町全８会場で７月29日から８月２日までの５日間に渡って熱戦が繰り広げられました。

今大会は、競技会場の都合で初めて学校対抗戦から個人対抗戦、表彰式・閉会式まで男女別会場で実施させていただきました。配宿についても広域配宿となり、参加校の皆様には大変ご不便をおかけしました。また、初日は参議院選挙と重なりご心配いただき、最終日は台風上陸で帰路にご迷惑をおかけいたしました。

大会期間中は猛暑の中、競技が実施されました。競技初日には皇太子殿下に武雄市白岩体育館にて競技（女子学校対抗戦）を御覧いただき、大会自体も盛り上がりました。メイン会場を除く６会場は室温が34度～36度、湿度も70％を超え何度か換気をしながら競技を実施しましたが、それでも各競技会場で熱気あるはつらつとしたプレーが展開されたことに大きな喜びを感じております。全国各地よりたくさんの観客の皆様を迎え、バドミントン競技への興味・関心の深さと熱意に感動しました。

また、大会運営につきましては、30数年前の昭和49年の嬉野・塩田町でのインターハイ・昭和51年の牛津町での国体以来の全国規模の大会で運営・競技及び審判の役員そしてそれぞれの補助員養成が一番の事業となりました。

大会に携わってもらう役員及び先生方、そして補助員としての高校生等の講習会を２年前から行いましたが数回行うのがやっとの状態で本番突入は、不安でいっぱいでした。しかしながら本番が近づいて来て周りを見ていると何とかやれるのでは、という気持ちになりました。それは、役員・補助員等の準備している様子があわただしく動いているけど眼の色、体の動きなど活き活きとして全体から自信に満ちた雰囲気を感じ取ることができました。実際始まってみると運営・競技の役員・補助員がそれぞれの場所・場面で各自の係を超えて黙々と汗を流し献身的な働きぶりには、頭の下がる思いでした。心よりお礼申し上げます。

おわりに、競技会場も少なく施設も不十分で競技人口も少ない本県において無事大会を終了することができましたことは、佐賀県実行委員会、武雄市・小城市・大町町・江北町実行委員会、関係諸機関・団体の多大なるご支援、ご協力・ご指導のおかげと深く感謝申し上げますとともに大会準備・運営を支えていただきました開催地二市二町のみなさん、県内外の役員の方々、そしてサポート高校の先生方・補助員生徒のみなさん、ありがとうございました。

「彩夏到来08埼玉総体」を開催して

埼玉県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　上田敏之
（埼玉県立所沢西高等学校）

埼玉総体開催にあたり多くの方のご理解とご協力、誠にありがとうございました。

さて、埼玉総体開催に際し、平成14年の国体開催の影響は大きく、特に開催地決定には困難を極めました。多くの競技が国体開催地で決まる中、開催地発表予定日になっても数競技決まらず発表も先送りになっていました。その数競技の中にバドミントン競技がありました。国体は久喜市で行われたのですが総体の開催に関しては真っ先に断られてしまいました。これ以上延ばせない中、県実行委員会の働きかけもありスーパーアリーナでの開催も視野にいれ、コートマットを引いて試打も試みました。その数日後、所沢市で受けていただくことになり、ほっとしたものでした。

ところが、ようやく会場の選定が始まったばかりの頃、大学の試験や中学校は部活動のため使用を断られ、開催に必要な34面（競技コート）、49面（練習コート）がそろわず四苦八苦でした。

それに加え全国専門部の視察を受けた際様々な指摘をされ、今度は実行委員会が『開催を返上する』とまで発展してしまいました。何とか妥協点を見つけ納得していただき、準備に入ることができました。

さらに待ち受けていたのが一人一役でした。何を頼んでよいのかわからない実行委員会側と自主性を重んじて動いていた一人一役事務局側。そして各学校の関心の低さから係決めもスムーズにとはいきませんでした。特にポスターの公募では、事務局から各学校へ案内をしていただきましたが期日には、選ぶだけの数は集まりませんでした。連絡はされていたのですが、聞き流されていたようでした。期日の延期を一人一役事務局にお願いしましたが、期日は守ってとの平行線で幾度か県の推進室にも助けていただき前途多難なスタートを切りました。しかし、その後は実行委員会と一人一役事務局と密に連絡をとっていただいたことにより連携が図れるようになりました。

所沢市では国体開催（９人制バレーボール）の経験から様々な啓発活動（カウントボード、ラッピングバス、フェスティバル等）を始め、鍼灸・接骨サービスや医師・看護師、体育協会、商店街、ロータリークラブ、写真連盟などの協力体制は万全でした。初めて行ったクリーニングサービスではクリーニング組合の理解と協力によって実現することができ、実行委員会の力に感激したものでした。

運営面では多くの大会を経験されている高体連専門部の先生が多く、不安はありませんでしたが学校対抗を16面一気に行うことは試合開始時間もありオーダーの交換からスコアシートの打ち出しまで心配されたことでした。様々な協力をいただき無事乗り切ることができました。

会議も十分でない中、協力いただいた先生方には臨機応変に対処していただき感謝しております。

競技結果は地元開催として最高の成績を収めることができました。男子では埼玉栄が団体で４年連続５回目の優勝を飾り、シングルス１位に和田、２位に佐藤（いずれも埼玉栄）。ダブルスでは１位に和田・佐藤、２位に星野・小林、３位に富山・滝内と北林・北林（いずれも埼玉栄）と大会史上初めてとなるベスト４独占。和田（埼玉栄）は団体、シングルス、ダブルス優勝で三冠を達成しました。女子も団体で２位に埼玉栄、３位に越谷南がはいりました。

終わりに大会を盛り上げてくれた選手、指導者、関係各位に対し感謝申し上げます。

全国高等学校選抜大会を開催して

第28回全国高等学校選抜バドミントン大会を開催して

岐阜県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
前委員長　岩田甲司
（岐阜県立池田高等学校）

第28回全国高等学校選抜バドミントン大会は、平成12年３月25日㈯から28日㈫まで、各務原市民会館で開会式を行い、各務原市民総合体育館（９コート）・岐阜女子商業高等学校体育館（４コート）の２会場にて開催しました。全国高等学校選抜大会の準備は、この年の８月に開催される岐阜インターハイのバドミントン競技の会場となるところです。現在は、岐阜インターハイの開催に向けて各務原市・高体連バドミントン専門部・県バドミントン協会・県内バドミントン関係者皆様のご協力を得て諸準備を進めて来ました。

そして、この第28回全国高等学校選抜バドミントン大会を、岐阜インターハイのリハーサル大会として実施しようという意見がでました。

岐阜インターハイの会場が各務原市に決定してからは、競技会場・練習会場等の確保のため多くの施設の調査を行いました。各務原市は、宿泊施設が少ないため確保するのがたいへんでした。岐阜インターハイもあるため数多くの施設をまわりました。また、宿泊所と競技会場・練習会場の交通手段・時間・駐車場等についても調査を行いました。大会以外にいろいろなことがたくさんあると思いました。この様な大きな大会を開くことは初めてなので、わからないことが数多くでて関係者の方々には大変御苦労とお世話になりました。

次に審判員・補助員の確保でした。審判員については、県バドミントン協会審判委員の協力を得て養成事業等を重ねていただき、県内のバドミントン関係者のご協力を受け確保することができました。岐阜インターハイに向けては、県内だけでなく県外の方々にもご協力をお願いすることになりました。

補助員については、担当高校部員を対象に大会ごとに実施をくり返し行ってもらいました。大会では、日ごろの練習の成果がだせたと思います。また、心配していた各部署の大会運営も皆様の協力があり成功に終わったかと思います。

試合結果は、女子団体準決勝で県岐阜商業高校は滋賀女子高校と対戦し、敗れてしまったが３位に入賞しました。また、女子個人では、県岐阜商業高校の後藤愛選手は準決勝で第１シードの広岡まり香（埼玉栄）選手と対戦をし、敗れて３位に入賞しました。

この夏に行う岐阜インターハイに向けての前哨戦にふさわしい盛り上がった全国高等学校選抜大会になりました。この背景には県バドミントン協会強化本部の方々をはじめ多くの関係者のご協力があったからだと思います。この雰囲気の波に乗って岐阜インターハイも大会関係者全員が盛り上げていこうという気持ちになりました。ほんとうに多くの方々のご協力ありがとうございました。よい思い出となりました。

「21世紀最初の全国大会」

宮城県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
元委員長　木戸純一
（常盤木学園高等学校）

2201年、第29回全国高等学校選抜バドミントン大会は平成13年３月24日から27日までの４日間、塩釜市体育館で開催されました。

21世紀、最初の全国大会ということで、地元関係者にとって大変意義深く関心を強く持ち、やりがいのある大会として取り組みました。開催地塩釜市は、平成２年インターハイを開催して以来、バドミントンの街としてジュニアや家庭婦人が盛んなところでこの年の10月に新世紀みやぎ国体（第56回国民体育大会）が開催されました。

前年の９月に全日本社会人大会を国体リハーサル大会として実施しましたが、いくつか改善点があり、競技運営（オーダー交換など）と式典（開・閉会式）を国体リハーサルとして位置づけ、国体塩釜実行委員会の協力・支援を受け、今大会実施しました。特に開会式のプラカード保持者や演奏は、地元塩釜市内の高校生、中学生が担当しましたアトラクションでは、地元ボランティア団体による「よさこい踊り」やゴスプルによる合唱を披露し、大変盛り上がりました。

参加人数は、学校対抗男子21校・女子22校、男・女単20名、男女複20組、320名の選手が参加しました。試合結果は、学校対抗男子は関東一高校（東京）が三連覇を達成、同女子は県立岐阜商業高校（岐阜）が初優勝を成し遂げました。個人対抗は男子単劉志遠（高岡工芸高）、同複劉志遠・平田組（高岡工芸高）、女子単対晶（高岡龍谷高）、同複爪楊・廣瀬組（青森山田高）と全て外国人留学生がかかわっての優勝となりました。そのため、夏のインターハイでは日本選手の更なる活躍を期待することが課題としてあげられました。また、地元勢はこれまでの強化の成果を期待されましたが宮城工業高校がベスト８、男子単畑山辰徳（宮城工業高）、女子複西塚・田島組（聖ウルスラ高）がベスト８にとどまり、国体を真近に控え、今後の強化策が指摘されました塩釜市内には、宿泊設備が少ないため、選手団には日本三景で有名な隣町の松島で宿泊を提供したところ、監督・選手の皆さんに大変好評だったと記憶しております。

最後になりましたが、大会成功に向け、国体塩釜市実行委員会をはじめ、関係機関諸団体などの多大なご支援を頂き、また、国体を控えていたこともあり役員・補助員の養成に熱心にご指導して頂きました宮城県協会・地元競技団体や高校の先生方、生徒諸君の献身的な取り組みに、心より厚く御礼申し上げます。

第30回記念
全国選抜大会を開催して

長崎県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
元委員長　春野良三
（鶴鳴学園長崎女子高等学校）

第30回の記念大会を長崎市の県立総合体育館と大村市の体育文化センターで平成14年３月に実施した。初めての全国大会で試行錯誤しながらの大会開催であった。

まだ組織作りも充分ではなく、バタバタして試合が始まり、終わった感じであった。しかし、この大会での色々な反省点が15年度の長崎ゆめ総体に生かされて成功裏に終わることが出来たと思う。

この大会の一番の問題点は資金不足であった。ゆめ総体のリハーサル大会という位置づけで、県などからの補助金も充分貰えると思っていたのだが、リハーサル大会の補助金支給は14年度からということで、補助金の支給がなかったことが大誤算であった。

しかし、大会において手抜きは出来ない。役員や補助員にも肩身の狭い思いはさせられないということで、大変だったことを思い出す。県協会にも迷惑をかけてしまった。

開会式の折の抽選ボードはステージの上に縦５m、横15mの大きなボードを準備し、抽選をして校名ボードをかけたり、アトラクションでは長崎でも人気の龍踊りを選手たちに見てもらったりして喜んでもらった。

また、この大会のプログラムでは普段からこういうのがあればいいなと思っていたことを載せてみた。それは、バドミントンマガジンには載せているけど、競技プログラムには載っていない出場校の出場回数（連続出場回数含む）が一目でわかる一覧表を男女別に各ページに載せたことであった。

左のページに男子出場校の一覧、右のページに女子出場校の一覧を載せた。これにより出場校の概要が簡単に把握でき、良かったのではないかと思う。

もうひとつは、大会要項を確認しやすいように、プログラムに載せたことであった。これは自分自身で「プログラムにあったほうが良い」と以前から思っていた。少し自分勝手ではあったが、何のお咎めもなかったので安心した。

表紙には長崎らしいものをということで、何をしたら良いか悩んだが、長崎くんち（長崎の有名な祭り）で人気の高い、龍踊りの龍（玉を追う龍）に決定し、あちこち探し、ようやく気に入ったものがあり、表紙に決定した。なかなか良い表紙になったと思う。

試合は順調に進んだが、予選リーグの試合中の、主審の判定で、試合が一時中断したことがあり、競技役員長や審判部長に迷惑をかけた。

競技役員長、審判部長の権限について考えさせられる場面であった。長崎ゆめ総体の課題としてよい勉強になった。

この大会で、長崎県から男女2チームずつ出場したが、残念ながら予選突破したチームは、男子の西陵高校のみで寂しかった。

地元開催なので、女子の長崎女子などもう少し頑張って決勝トーナメントに残って欲しかった。残念であった。

しかし、役員や補助員などは、戸惑いながらも頑張って、なんとか無事大会を終了することができ、本当に良かった。

準備委員会や各係の打合せ等をもう少し多く開催し、各役員や補助員の仕事内容の確認や意志の疎通を図ればもっと良い大会になっていたと思う。

これらの反省点を生かし、長崎ゆめ総体が長崎市、大村市の両市で成功裡に終了することが出来たと思う。そういう意味では、この記念大会は長崎ゆめ総体の、良いリハーサルになったと思う。協力有難うございました。

第31回全国高等学校選抜大会兼第58回国民体育大会リハーサル大会を開催して

静岡県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
前委員長　渡邉　治
（静岡県修繕寺工業高等学校）

平成15年３月21日より24日にかけて、静岡県富士宮市民体育館において、全国高等学校選抜大会を開催しました。この大会は、団体戦形式の全国選抜大会をリハーサルにとの県協会の意向により国民体育大会のリハーサル大会をも兼ねた大会でした。そのため前委員長である杉山敏充先生に打診があり、調整中に私が委員長を引き継ぐこととなりました。そのため、就任早々の全国大会であり大変な思い出とともに、充実した思い出ともなっております。就任早々の12月に全国選抜の静岡開催が決定したとの連絡が入り、半信半疑でした。過去に全国選抜大会を国体のリハーサルに行った例はなく、全国でも初の試みでした。例年全国総体開催県が、そのリハーサルとして担当しており、突然その流れを変えることになるため、全国高体連、日本バドミントン協会、静岡県協会での慎重な協議を行い、開催が決定されました。大会準備につきましては、国体のリハーサル大会ということで過去の開催県とは様々な点で異なっており全国高体連事務局長（当時）伊佐山正和先生はじめ全国高体連の事務局の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて、改めてお礼申し上げます。さて、肝心の大会については、大会前日の練習会場巡視から始まり、監督会議、開会式と大過なく終わらせることができました。競技運営も二日間順調に運営することができ、ひとえに県協会、富士宮市役所をはじめとする関係各位のお陰だと思います。反省点としては、練習会場の少なさ、練習時間の設定などで出場校にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げたいと思います。また、個人的な事柄ですが全国高体連専門部長保坂先生が部長として最後の全国大会を奇しくも昔から交流のある富士宮市で開催するということで、多くの関係者と保坂先生の慰労会を開いたことも思い出されます。

大会結果は、女子学校対抗戦決勝で熊本中央高校を地元富士宮の星陵高校が３－２で下し、初優勝を飾りました。この快挙で会場を、さらに大会を大いに盛り上げてくれました。このことが、リハーサル大会として国体の地元優勝への期待を大いに高めてくれました。男子学校対抗戦の優勝校は埼玉栄高校で残念ながら、本県代表２校は１回戦敗退でした。個人戦につきましては、男子複、関東第一高校の高木洋平・松本久雄組、女子複、熊本中央高校の吉村征美・前田美順組、男子単、比叡山高校の数野健太選手、女子単、聖ウルスラ学院高校の平山優選手がそれぞれ激戦を制し優勝しました。まさに、全国総体に向けての熱い前哨戦であったと思います。

また、本県高校生選手には、間近で全国のトップレベルのプレーを見るいい機会となり、あらためてバドミントン競技に対する意識の向上につながったと思います。

最後にこの大会に関係した全ての皆様に対する感謝と、60周年を迎える全国高体連バドミントン専門部のさらなる発展を祈念して終わりたいと思います。

第32回全国高等学校選抜バドミントン大会を開催して

山口県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
元委員長　佐々木 辰博
(山口県立翔陽高等学校)

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部創立60周年おめでとうございます。

私が第32回全国高等学校選抜バドミントン選手権大会に山口県高体連バドミントン専門部委員長として携わったのは平成16年３月のことでした。

平成11年８月に岩手県雫石で行われたインターハイに監督として出場していたとき、その当時の専門委員長が宿舎に来られ、中国地区で全国選抜を引き受けることになったのだが山口県で引き受けることが可能だろうか、と聞かれました。山口県の施設、競技役員となる顧問の先生の数、補助員となる生徒の数、等を考えて、とても不可能だから絶対に断ってほしいと、同じ宿舎の谷口先生（当時山口高校）ともども、答えたことを今でも覚えています。

その後、中国地区の専門委員長会議等において山口県内の多くの先生方の反対もむなしく、山口県開催が平成12年に決定されました。当時、私は全国選抜があっても、手伝いをする程度だと思っており、あまり深くは考えていませんでした。ところが、全国選抜を引き受けてきた前専門委員長から、平成14年は学校の事情でどうしても委員長を続けることができなくなった。だれか委員長を引き受けてくれる人はいないだろうか、という相談を受けました。単なる委員長ではなく、もれなく全国選抜がついてくるのですから、引き受けてくれる人がいるわけはありません。その後、色々あったのですが、結局私が委員長を引き受けることになってしまいました。

自分が中心になって準備を始めて、全国選抜の難しさを実感しました。主催が日本バトミントン協会で高体連は共催にすぎません。ところが出場選手が高校生ですから、運営は高体連が主体にならざるを得ません。この矛盾が色々なところに現れます。運営面の相談は伊佐山先生（当時全国高体連専門部長）にするのですが、重要な書類の発行は日本バドミントン協会にお願いしなければなりません。これが、色々大変でした。伊佐山先生お世話になりました。

さらに平成15年に静岡県開催の全国選抜に視察に行きたいへん驚かされました。大会運営の責任者は県協会の理事の方だったのです。しかも、色々な書類の電子データーは無いと言われ、コピーのみ渡されたのです。当時はすでにコンピューター主体の大会運営になっていたのですから、色々な書類の原本は電子データーになって、次の年の開催県に回されるものだと思っていたので私の驚きは察していただけるものだと思います。

必要な書類は全て一から作り直し、経費が少ないので、大会運営のソフトも自作しました。最も苦労したのがプログラムに載せる栄光の記録です。電子データーがなくその年ごとに自作するので間違いが多いのです。その当時、私は次の開催県には電子データーを渡そうと考えていたので、記録もできるだけ正しいものをと思い、不明瞭なところは直接該当校に電話したりしました。

大会を運営するための補助員確保のため、中体連の専門委員長の野村先生（当時大内中学校）にお願いし、中学生に得点係をお願いしました。競技役員の確保のため県内全域の高校の顧問の先生にお願いし、それでも足りないので自分の教え子も動員しました。

万全の準備をしたつもりで大会に臨んだのですが、大失敗が待っていました。団体戦のオーダー用紙が新ルール対応の形式だったのです。（16年４月大会から変更）気づいたのが夜の７時、今から作り直すわけにもいかず、そのまま使用することを出場校の監督に連絡する必要に迫られたのです。このとき、田部井先生が殆どの出場監督の携帯電話の番号を把握しておられ、安心するとともに驚かされました。田部井先生ありがとうございました。

以上のように、全国大会の運営は多くの方々の献身的な努力により成り立つものだと実感させられました。携わっていただいた多くの方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

平成16年度全国高等学校選抜バドミントン大会（愛媛大会）を顧みて

愛媛県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　樽島博幸
（愛媛県立伊予農業高等学校）

「第33回全国高等学校選抜バドミントン大会」が、平成17年３月24日㈭から27日㈰の４日間、松山市総合コミュニティセンター体育館において開催され、全日程を無事終了することができました。

思えば、平成11年度に前専門委員長の垣生雅孝先生が在任中、全国専門部において愛媛県での開催が正式に承認されました。翌平成12年度、私が、垣生先生の後任で専門委員長に再度就任することとなり、重大な責務を引き受けることとなりました。平成14年度、今度は前代常任委員の岡野佳浩先生（現県立香川中央高校）より、四国ブロック常任委員を引き継ぐことになりました。それは、愛媛大会が、無事に運営できるようにとの心遣いでした。岡野先生の配慮のお陰で大会期間中も全国専門部役員の先生方との連携も円滑に取れ、落ち着いて運営を行うことができました。

今大会は、愛媛県高等学校体育連盟バドミントン専門部としては初めての全国大会開催でした。役員全員が大会への期待と開催への不安が交錯した気持ちの中で、全国よりご参加いただきました選手・役員の皆様を心から歓迎すべく鋭意準備に取り組んで参りました。特に、開会式やアトラクションについては、「愛媛県らしい歓迎・愛媛県でしかできない歓迎」をスローガンに取り組みました。近年、開会式は文化会館等のホールや体育館の観客席からの見学のみで実施されることがほとんどでした。また、アトラクションも高校生のブラス演奏や郷土芸能の鑑賞というものが多く見られました。そこで、愛媛大会の開会式は、参加選手全員の入場行進、「長田智恵」さん（県立松山中央高校コーラス部２年生）による国歌独唱、始球式、アトラクションを盛り込んだ“選手が参加できる式典”を計画しました。

幸いにも、松山市長「中村時広」氏と県協会理事長「濱中　勉」氏は高校・大学から現在に至るバドミントン愛好家ですし、「濵中　勉」氏は現在日本国内に５人しかいない国際審判員でもあります。そこで思いついたのが、この二人による“始球式”です。主審は「濵中　勉」氏、サーバーは「中村時広」氏、レシーバーは「参加選手」という設定で理事長がゲーム開始を高らかにコールし、市長のロングサーブで“始球式”行いました。もう一つは、アトラクションです。翌日からの熱戦のほんの一時のリラックスタイムとして、本県発祥の“本家野球拳”を紹介し、男女ブロック代表がステージに上がって野球拳大会で楽しい時間を過ごしていただきました。このような取組を盛り込みながら「愛媛県らしい歓迎・愛媛県でしかできない歓迎」を企画運営しました。

振り返れば、温暖な瀬戸内海気候とは裏腹に、大会期間中は毎日毎日が予期せぬトラブルの連続でした。しかし、日本バドミントン協会および全国バドミントン専門部役員の先生方の適切な指示と、本県役員の迅速な対応で、無事クリアすることができました。この経験は、本県の関係教員・補助員生徒・代表選手全員の自信となり、必ず今後の愛媛のバドミントンの発展に繋がる財産になったものと確信しております。

終わりになりましたが、愛媛県並びに松山市の関係諸機関、団体の多大なるご支援、ご協力、ご指導を賜り深く感謝しております。また、大会運営にご尽力いただきました愛媛県並びに松山市バドミントン協会の役員の方々、各高等学校教職員、各バドミントン部・放送部・吹奏楽部・コーラス部・農業クラブ員等の高校生補助員、多くの皆様に深く敬意と感謝を表しまして大会報告といたします。

第34回全国高等学校選抜バドミントン大会を開催して

福井県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長 坂井茂則
（福井県立金津高等学校）

この大会を開催するきっかけは、さかのぼること７年前、県協会関係者と高体連バドミントン専門部が協議し、当時低迷していた福井県高校の競技力向上を目的に、全国大会を誘致しようということからであった。県バドミントン協会が音頭をとり、県ジュニア強化部と中学校・高校の間で連携がとられ、小学５年生より７年計画で選手強化が図られた。すでに平成12年全国中学生バドミントン大会が福井で開催されており、中学生はそれ以前より強化が図られており好成績を残していた。その追い風に乗り、強化指定選手たちは、全国小学生大会・全国中学生大会で好成績を挙げていった。

一方、運営面においては、福井県高体連バドミントン専門部として初めての全国大会開催であり、すべてにおいて不安の大きい中での準備となった。まず、最低12面のコートが必要となるが、福井県には唯一敦賀市にしか12面のコートはない。しかし、役員・補助員・宿泊施設を考えると福井市のほうがやりやすいということで議論が交わされた。結果的に、試合会場第一を考慮し、敦賀市開催で決まった。しかし、敦賀市は港町で大きな宿泊施設がなく、広域での小さな民泊を余儀なくされ、不自由をかけた。また公共交通機関も発達しておらず、移動の際もずいぶん不便をかけてしまった。

敦賀市内には高校が２校しかなく、近隣市より大型バスで補助員を動員、線審は市内中学校のバドミントン部員に応援を頼んだ。大会期間中は春とはいえまだ名ばかりで日本海の季節風が冷たく吹いた。しかし、競技会場は連日満員。県外より、そして県内のバドミントン関係者が大勢地元選手の応援にかけつけ、大会を盛り上げてくれた。

また、県内競技役員はとても初めてとは思えないはつらつとした動きで運営にあたっていた。開会式は、選手宣誓で勝山高校の松川直弘君と井上瞳さんが、堂々と力強い宣誓で会場から一番の拍手をもらった。入場行進では、地元の敦賀高校ブラスバンド部の演奏で、各チームキャプテンが元気よく行進。歓迎レセプションでは世界をまたに活躍している「はぐるま太鼓」が迫力ある演奏で選手たちを歓迎してくれた。

試合は地元の大声援を受け本県選手はのびのびはつらつとしたプレーで会場を大いに湧かせて盛り上げてくれた。試合結果は男子団体で勝山高校が３位、足羽高校が５位入賞。個人戦男子ダブルスで、松川・笹木組（勝山）が３位、竹内・千京（勝山）が５位入賞。個人戦男子シングルスでは、松川直弘（勝山）が５位、三田村侑美（勝山）が５位入賞と大健闘であった。

終わりに、今大会は福井県バドミントン界に多大な財産を残してくれた。男子は全国の強豪県に名を連ねることとなったこと、県内ジュニア指導者たちの強化の指針になったこと、ジュニアの選手たちが大会期間中見学に訪れ、計り知れないほど刺激を受けたこと、県協会並びに高体連が運営面で大きな自信を得たこと、本当に多くのかけがえの無いものを残してくれた。

平成24年には福井でインターハイが開催されることになっている。さらなる飛躍を期待したい。

第35回記念全国高等学校選抜バドミントン大会を開催して

北海道高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　酒井智史
（北海道札幌開成高等学校）

平成19年３月25日から28日の４日間の日程で北海道立総合体育センター きたえーる を会場に第35回記念全国高等学校選抜バドミントン大会を開催いたしました。

全県出場の団体戦形式の記念大会として４回目、選手による公開抽選の実施としては京都、長崎に次いで３回目となり、全国専門部の先生方にもノウハウの蓄積がなされていての大会実施となりました。

大会準備は、長崎大会の視察からスタートしました。長崎大会は夏に行われるインターハイと同じ長崎・大村の立派な体育館２会場を使用しての開催でしたが、会場・大会運営ともに他の選抜大会とは全くレベルの違う記念大会の重みを感じる大会でした。札幌大会の運営に当たる多くの人たちはインターハイ、全国選抜という全国大会の運営を知らない人たちであるため、北海道協会・札幌協会にお願いし毎年全国選抜大会の視察に送り、全国大会の運営を知る所から実施いたしました。

やはり準備に当たっては会場の確保、予算の確保、審判・補助員の確保に頭を悩ませました。当初、会場は34面を確保するため北海道立総合体育センター きたえーる と札幌市白石区体育館の２会場を予定していましたが、白石区体育館はギャラリーもなく全国から集まってきた選手には大変申し訳ない思いでいました。

しかし、ここでバドミントン競技にとっておおきな変化が訪れました。それは、平成18年５月のト杯・ユ杯から導入されたラリーポイント制です。ラリーポイント制の導入により試合時間が大幅に短縮されました。そのラリーポイント制が高校生の全国大会としてはその年度の全国選抜大会から導入することが決定されたのでした。新ルールでの大会実施に初め不安を抱きましたが、それによって大会会場を34面から26面に大幅に減らすことができ、きたえーる１会場での実施が可能になりました。それは、運営に当たる人員の削減、経費の削減にも大きく現れ、当初予定していた経費を大幅に抑えることを可能にし大会運営にとって大きなプラス効果と成ってくれたのでした。大会財政は、北海道経済が冷え込んでいる中、プログラム広告も集まりにくく大変厳しいものでしたが何とか無事に赤字を出さずに終えることができ安堵しました。

大会は、全国専門部の先生方のご指導の下、開会式、開会式後の公開抽選もスムーズに進み、競技も流し込みの進行でスムーズに進めることができていく中、地元北海道勢は男女各３チーム出場中、札幌第一、札幌静修が決勝トーナメントに駒を進めました。第24回大会での北海道勢の活躍を再び、という期待の中、残念ながら札幌第一は英明（香川）に、札幌静修は越谷南(埼玉)に破れともにベスト16。男子優勝は第１シードの埼玉栄が３年連続４回目、女子優勝は第２シードの青森山田が２年ぶり３回目を収め大会を終了いたしました。

この記念大会の北海道札幌での開催は、高校生のトップのプレーに触れることによる北海道バドミントンのレベルアップに大きく貢献したものと思います。また、近いうちに北海道札幌でこのような大会が開催できることを願っています。

第36回全国高等学校選抜バドミントン大会を開催して

大分県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　阿南典久

平成20年３月22日㈯から25日㈫の４日間、全国各地より、全日本の高校バドミントン界を代表するトップの選手たちを大分県日田市にお迎えして「第36回全国高等学校選抜バドミントン大会」を開催させて頂き、熱い感動と大きな成果を残して無事終了することができました。これもひとえに、㈶日本バドミントン協会、㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部をはじめ多くの関係の皆さまの絶大なるご支援・ご協力のお陰と心より感謝申し上げます。

大会では、全国各ブロックの厳しい予選を勝ち抜いた団体男子21チーム、女子22チーム、個人戦複男女各20組、単男女各20人の総数403名の選手たちによる素晴らしい熱戦が展開されました。会場の日田市総合体育館と昭和学園体育館の各コートではハイレベルで力の漲るプレーが随所に繰り広げられ、固唾を呑む好試合がいくつも見られました。スリリングな好ゲームを目の当たりにし、全国からの応援の皆様も地元の関係者もバドミントンの競技の魅力と深さに大きな感動を覚えることができました。

全国から参加された選手の皆さんにとりましては、この大会を通じてチームが一層団結し、ライバル達と切磋琢磨し、友情を深め、青春のかけがえのない思い出を心に刻まれたことと思います。また、選手個人としても競技力の面で自信や課題、刺激を手に入れ、その年の夏の埼玉県全国高校総体、秋の第63回国体大分大会へと繋げ、技術力や精神力を向上させていった選手も多かったのではないかと思います。

一方、審判や運営補助員として参加した地元本県中学・高校のバドミントン部員、さらには一般高校生ボランティアにとりましても全国レベルのバドミントン大会運営に関わることができ、プレーを間近で見たり、選手と交流する機会を得たりと、今後、本県で中高校生にバドミントンが普及する上で、大きな財産になった大会であったと思われます。

ところで、大会期間中、お雛祭りが開催されている日田盆地には、まだまだ寒さが残っている時候ではありましたが、2008年は北京オリンピックイヤーということもあり、未来の「オグシオ」「スエマエ」を見ようと競技会場内は連日超満員で熱気に包まれておりました。全国各地より来られたバドミントンファンの皆様の競技への興味・関心の高さと熱意にも大変感激したところです。この様子は近い将来、日本にバドミントンブームが再来する様な予感さえした大会となりました。また、この大会を終え、湯布院や日田天ケ瀬の温泉や日田市の小田焼窯元、天領豆田の町並みを散策され、ひとときの“癒し”を堪能された選手や保護者の方も多く、地方開催大会の楽しみも大いに味わって頂きました。

終わりになりましたが、大会準備・組み合わせから運営までご尽力頂きました全国高体連バドミントン専門部の木戸部長、レフェリーを務めて頂きました河崎副部長、日本バドミントン協会派遣理事を務めて頂きました築地副部長をはじめ専門部役員・事務局の諸先生方のご指導に深く感謝致します。さらには前部長の伊佐山先生には開催３年前よりご指導を頂き、先催の愛媛大会、福井大会、北海道大会の実行委員会の先生方にもご指導・ご助言を頂き大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後、この素晴らしい全国高等学校選抜バドミントン大会の更なる発展と、全国高体連バドミントン専門部のますますのご隆盛をご祈念申し上げて、「第36回全国高校選抜バドミントン大会」を開催してのご報告といたします。

第37回全国高等学校選抜大会を終えて

新潟県高等学校体育連盟
バドミントン専門部
委員長　山縣泰弘
（北越高等学校）

今大会は第21回全国高等学校選抜バドミントン大会を新潟市で開催して以来、２度目の全国選抜大会であった。当時、故佐藤秀夫（元新潟青陵高校監督）先生は、低迷している新潟県の高校生の現状を心配して、「強い新潟県を再び」との思いで、大会の誘致に積極的に取り組みました。全国大会を目の当たりにして、県内の高校生は勿論、教員、指導者にも大変な刺激になったことでした。それから16年後、２度目の全国選抜大会を新潟市で開催できたことはとても嬉しい限りです。

平成20年１月10日、第37回全国高等学校選抜バドミントン大会実行委員会を新潟県、新潟市バドミントン協会、県高体連バドミントン専門部の３者で立ち上げスタートした。県協会・市協会には各分野でお手伝いをいただきましたが、主は県高体連バドミントン専門部の先生方の協力で行った。

スタート時は16年前の運営での経験者がほとんどいなく何からやってよいか分からない状態であった。そこで資料の確保から始めることとし、３年前開催の坂井茂則福井県専門委員長、２年前開催の酒井智史北海道専門委員長、前年度開催県の阿南典久専門委員長にデーターを戴くこととした。しかし規模・予算面等で各県にかなりの違いがあった。福井県は国体のプレ大会として開催、北海道は第35回記念大会での開催であった。大分県も国体のプレ大会ではあったが直近の大会であることから大いに参考にさせてもらいました。特に日田市で行われた組み合わせ会議、３月22日より開催の全国選抜大会の視察では、大変さを知りました。しかし、開催中でありながら阿南委員長と豊田悟先生からは親切にそして丁寧にアドバイスをいただきました。改めて感謝申し上げます。

４月に入り実行委員会の組織が完成する。宮沢稔県高体連バドミントン専門部長を大会副委員長に事務局・総務部・競技部・審判部・式典部が月に１回、各部は月に２～３回、勤務が終わったら集まり、夕食もとらず夜遅くまで話し合い、資料の作成に当たった。

日本バドミントン協会・全国高体連・その他各方面への申請・依頼・案内等の文書も完成し配布段階に入る。各部における必携も改訂の繰り返し作業が行われる。

12月20日～22日に行われる県選抜大会を全国選抜大会のリハーサルとして各部は実践そのもので行う。各部で反省点を修正する。

２月14日、北越高校会議室で組み合わせ会議を行う。事前に全国高体連バドミントン専門部副部長の河崎政紀先生の指導のもとで資料の準備をする。緊張の瞬間であったが何とか無事に終わることができスタッフに笑顔が戻った。３月13日、大会プログラムが完成。15日、スタッフ全体会議（最終）を行う。24日、緊張する中で監督会議・開会式が行われる。25日より競技開始。スタッフ一同、無事に終了してくれることを祈る。

女子学校対抗戦で新潟青陵高校が３位に、男子ダブルスで伊藤・米田組（北越）がベスト８に入る。嬉しい結果であった。

最後に大会の準備段階から閉会式まで多くの方々よりご指導、ご協力を頂き誠に感謝申し上げます。

創立60周年記念表彰

（ホテルアウィーナ大阪　平成21年８月１日）

全国高等学校総合体育大会

優秀校賞男子（34校）

50回大会～59回大会の間

学校名	出場回数
旭川工業（北北海道）	〈14〉
札幌第一（南北海道）	〈26〉
青森山田（青森）	〈10〉
前沢（岩手）	〈18〉
宮城県工業（宮城）	〈33〉
横手工業（秋田）	〈22〉
帝京安積（福島）	〈10〉
常総学院（茨城）	〈23〉
宇都宮南（栃木）	〈10〉
桐生市立商業（群馬）	〈21〉
埼玉栄（埼玉）	〈10〉
関東第一（東京）	〈20〉
川崎総合科学（神奈川）	〈13〉
甲府商業（山梨）	〈33〉
北越（新潟）	〈25〉
高岡第一（富山）	〈12〉
高岡工芸（富山）	〈15〉
金沢市立工業（石川）	〈41〉
勝山（福井）	〈20〉
県立岐阜商業（岐阜）	〈27〉
比叡山（滋賀）	〈34〉
東大阪大学柏原（大阪）	〈23〉
添上（奈良）	〈11〉
新宮（和歌山）	〈25〉
松江北（島根）	〈16〉
松江商業（島根）	〈20〉
水島工業（岡山）	〈19〉
柳井商工（山口）	〈27〉
徳島商業（徳島）	〈10〉
城東（徳島）	〈10〉
高松商業（香川）	〈40〉
新田（愛媛）	〈10〉
唐津工業（佐賀）	〈10〉
八代東（熊本）	〈13〉

優秀校賞女子（33校）

50回大会～59回大会の間

学校名	出場回数
旭川実業（北北海道）	〈17〉
千葉学園（青森）	〈20〉
前沢（岩手）	〈16〉
盛岡市立（岩手）	〈11〉
聖ウルスラ学院英智（宮城）	〈30〉
西武台千葉（千葉）	〈10〉
日本橋女学館（東京）	〈11〉
甲府商業（山梨）	〈12〉
高岡西（富山）	〈31〉
金沢向陽（石川）	〈25〉
足羽（福井）	〈10〉
勝山（福井）	〈17〉
諏訪二葉（長野）	〈10〉
県立岐阜商業（岐阜）	〈21〉
名古屋経済大学市邨（愛知）	〈13〉
暁（三重）	〈16〉
滋賀短期大学附属（滋賀）	〈22〉
夙川学院（兵庫）	〈10〉
耐久（和歌山）	〈15〉
大東（島根）	〈12〉
松江商業（島根）	〈28〉
山陽女子（岡山）	〈50〉
鈴峯女子（広島）	〈21〉
城東（徳島）	〈17〉
香川中央（香川）	〈15〉
清和女子（高知）	〈10〉
九州国際大学付属（福岡）	〈25〉
佐賀女子（佐賀）	〈36〉
長崎女子（長崎）	〈33〉
昭和学園（大分）	〈40〉
宮崎商業（宮崎）	〈25〉
鹿児島女子（鹿児島）	〈21〉
糸満（沖縄）	〈11〉

全国高等学校選抜大会

優秀校賞男子(16校)

28回大会～37回大会の間

学校名	出場回数
札幌第一（南北海道）	〈27〉
作新学院（栃木）	〈11〉
埼玉栄（埼玉）	〈10〉
関東第一（東京）	〈20〉
川崎総合科学（神奈川）	〈10〉
金沢市立工業（石川）	〈20〉
勝山（福井）	〈12〉
県立岐阜商業（岐阜）	〈14〉
岡崎城西（愛知）	〈10〉
比叡山（滋賀）	〈29〉
東大阪大学柏原（大阪）	〈13〉
奈良市立一条（奈良）	〈10〉
柳井商工（山口）	〈14〉
高松商業（香川）	〈20〉
九州国際大学付属（福岡）	〈10〉
八代東（熊本）	〈13〉

優秀校賞女子(10校)

28回大会～38回大会の間

学校名	出場回数
旭川実業（北北海道）	〈17〉
札幌静修（南北海道）	〈22〉
聖ウルスラ学院英智（宮城）	〈26〉
前橋東（群馬）	〈12〉
日本橋女学館（東京）	〈10〉
金沢向陽（石川）	〈20〉
県立岐阜商業（岐阜）	〈15〉
滋賀短期大学附属（滋賀）	〈13〉
香川中央（香川）	〈12〉
九州国際大学付属（福岡）	〈12〉

優秀監督賞(5名)

50回大会～59回大会の間

氏　名
藤田　真人（青森）
高屋　　仁（青森）
田所　光男（宮城）
大屋　貴司（埼玉）
渋谷　　実（東京）

特別功労賞(17名)

全国高体連専門部関係

50回大会～59回大会の間

氏名
河崎　正紀（南北海道）
酒井　智史（南北海道）
沼澤　　隆（宮城）
伊佐山正和（埼玉）
帰山　好和（埼玉）
田部井秀郎（埼玉）
保坂　和也（山梨）
新井　研二（長野）
下込　貞司（愛知）
平田　欽也（三重）
濱　久美雄（滋賀）
足立　弘健（島根）
山田　賢一（岡山）
岡野　佳浩（香川）
樽島　博幸（愛媛）
築地　孝彦（佐賀）
春野　良三（長崎）

功労賞(17名)

都道府県専門部委員長関係

50回大会～59回大会の間

氏名
田中　光彦（北北海道）
伊藤　張二（岩手）
松良　千廣（宮城）
遠藤　淳一（山形）
橋本　遊二（福島）
舘野　政男（栃木）
若狭　孝三（神奈川）
滝川　　修（山梨）
武藤　芳紀（岐阜）
村上　脩一（愛知）
大住　陽一（大阪）
藤本　和幸（兵庫）
錦　　秀知（奈良）
三村　俊彦（鳥取）
桑名　　功（高知）
浜司　　晃（福岡）
松浦　良一（宮崎）
下地　敏彦（沖縄）

全国大会開催都道府県専門部委員長

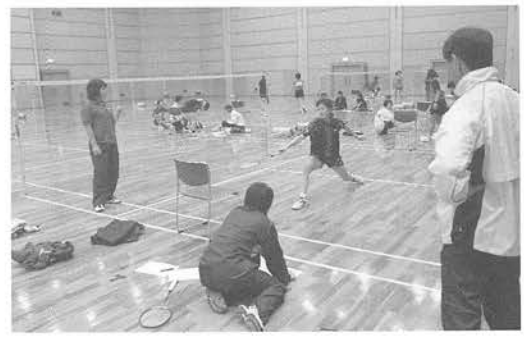
氏名
志子田勝敏（茨城）
上田　敏之（埼玉）
中村　新一（千葉）
山縣　泰弘（新潟）
坂井　茂則（福井）
岩田　甲司（岐阜）
渡辺　　治（静岡）
佐々木辰博（山口）
茂見　　正（熊本）
阿南　典久（大分）

㈶全国高体連専門部規約第15条に限り表彰

第25回全日本ジュニアバドミントン研修合宿スケジュール／スタッフ・選手用

企画作成：飯野佳孝

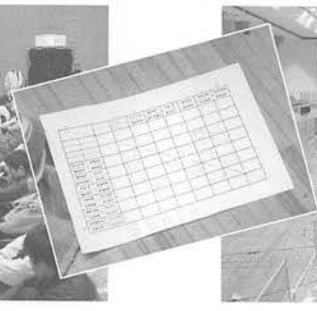
日程	午　前　9時練習開始	午　後　17時練習終了	夜間講義(19時30分～21時)
1月4日(木)		14時00分「サンアリーナ」集合 オリエンテーション シングルスゲーム	研修合宿の練習について バドミントンが強くなる要因 トレーニングの狙い（廣田）
1月5日(金)	男子：シングルスゲーム 女子：シングルスゲーム	男子：シングルス& ダブルスゲーム 女子：シングルス& ダブルスゲーム	シングルスの戦法 練習の狙い（飯野）
1月6日(土)	男子：ダブルスノック練習、 技術練習 女子：フィジカルトレーニング、 技術練習	男子：ダブルスの総合練習、 技術練習 女子：シングルスの総合練習、 ノック練習	体力測定自己評価（廣田）
1月7日(日)	男子：フィジカルトレーニング、 技術練習 女子：シングルスの総合練習、 技術練習	男子：シングルスの総合練習、 ノック練習 女子：ダブルスノック練習、 技術練習	ダブルスの戦法 練習の狙い（飯野）
1月8日(月)	男子：シングルスの総合練習、 技術練習 女子：ダブルスの総合練習、 技術練習		



第26回全日本ジュニア研修合宿スケジュール

日程		練習内容	会場	夜間講義等
1月4日(金)	男子	13時会場別集合　オリエンテーション シングルスゲーム	上尾運動公園体育館	開講式 諸注意
	女子	13時会場別集合　オリエンテーション シングルスゲーム	スポーツ研修センター	
1月5日(土)	男子	AM　体力測定／シングルスゲーム	スポーツ研修センター	「バドミントン競技と からだの働き」 ―働きを高める方法― 宮崎大学　廣田先生
		PM　シングルスゲーム		
	女子	AM　ダブルスゲーム	アスカル幸手	
		PM　ダブルスゲーム		
1月6日(日)	男子	AM　ダブルスゲーム	アスカル幸手	「体力テストの分析と 今後の課題」 ―結果の見方と 生かすためのトレーニング― 宮崎大学　廣田先生
		PM　ダブルスゲーム		
	女子	AM　体力測定／シングルスゲーム	スポーツ研修センター	
		PM　シングルスゲーム		
1月7日(月)	男子	AM　ゲーム	スポーツ研修センター	
		閉講式		
	女子	AM　ゲーム	上尾運動公園体育館	
		閉講式	スポーツ研修センター	

◇新体力テストは研修合宿前に各学校で正確に測定し、データを申し込み時にメール及び書面で提出する。
◇ゲーム練習では、レベル別にグループを作成する。また、ゲームの結果により再編成をする。
◇練習の内容や講義の内容は、若干変更する可能性もあるのでご了承下さい。



全国高等学校体育連盟バドミントン専門部　歴代役員一覧

役職名 年度	昭和23年度	昭和24年度	昭和25年度	昭和26年度	昭和27年度	昭和28年度	昭和29年度	昭和30年度	昭和31年度	昭和32年度	昭和33年度
部長				柳 一夫	柳 一夫	柳 一夫	森 義雄	森 義雄	森 義雄	森 義雄	森 義雄
副部長			伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎
				佐藤 実一	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫
				森 正三							
事務局長											
事務局員											
北海道			森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三
東北											
関東							安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫
東海			谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮
北信越											
近畿				河合 満	河合 満	河合 満	河合 満	河合 満	河合 満	河合 満	河合 満
中国										石原 幸雄	
四国											
九州											

役職名 年度	昭和34年度	昭和35年度	昭和36年度	昭和37年度	昭和38年度	昭和39年度	昭和40年度	昭和41年度	昭和42年度	昭和43年度	昭和44年度
部長	森 義雄	森 義雄	森 義雄	森 義雄	森 義雄	森 義雄	森 義雄	森 義雄	小林 茂	小林 茂	小林 茂
副部長	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎
	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮
事務局長											
事務局員											
北海道	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三	森 正三
東北											
関東	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	安楽 末夫	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	伊沢 三郎	遠井 稔男
東海	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮
北信越											
近畿	河合 満	河合 満	河合 満	河合 満	河合 満	河合 満	河合 満	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博
中国	毛利 清志									毛利 清志	毛利 清志
四国					中川 騰清					野村 淳平	
九州								三原 邦吾	三原 邦吾	本郷 節生	本郷 節生

役職名 年度	昭和45年度	昭和46年度	昭和47年度	昭和48年度	昭和49年度	昭和50年度	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度
部長	小林 茂	川田 勇	川田 勇	川田 勇	遠井 稔男	遠井 稔男	遠井 稔男	遠井 稔男	遠井 稔男	遠井 稔男	遠井 稔男
副部長	遠井 稔男	遠井 稔男	遠井 稔男	遠井 稔男							大世古吉弘
	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博
										森田 精一	森田 精一
事務局長										近藤 満	近藤 満
事務局員											
北海道	平澤 寛	平澤 寛	増田 幸	増田 幸	増田 幸	増田 幸	増田 幸	増田 幸	増田 幸	森田 精一	森田 精一
東北		宮越 龍三	宮越 龍三	宮越 龍三	宮越 龍三	鈴木 祐司	鈴木 祐司	鈴木 祐司	鈴木 祐司	鈴木 祐司	鈴木 祐司
関東	遠井 稔男	遠井 稔男	遠井 稔男	遠井 稔男	新井 威	河辺 満	河辺 満	河辺 満	河辺 満	河辺 満	河辺 満
東海	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	谷 亮	大世古吉弘	大世古吉弘
北信越					長浦 音吉	長浦 音吉	長浦 音吉	長浦 音吉	長浦 音吉	佐藤 秀夫	佐藤 秀夫
近畿	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博	山本 博
中国	石原 幸雄	石原 幸雄	山根 怜	山根 怜	山根 怜	小林 茂	小林 茂	毛利 清志	毛利 清志	山根 怜	山根 怜
四国	森田 桂示		野村 淳平	見元 均	見元 均	越智 幸雄	越智 幸雄	森田 桂示	森田 桂示	森田 桂示	森田 桂示
九州	本郷 節生	本郷 節生	本郷 節生	本郷 節生	本郷 節生	本郷 節生	本郷 節生	本郷 節生	本郷 節生	南 直治	南 直治

役職名 年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成２年度	平成３年度
部　長	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男
副部長	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘
	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司
	森田　精一	森田　精一	森田　精一	森田　精一	森田　精一	森田　精一	森田　精一	森田　精一			
事務局長	近藤　満	近藤　満	近藤　満	近藤　満	近藤　満	近藤　満	近藤　満	近藤　満	近藤　満	近藤　満	近藤　満
事務局員											
北海道	森田　精一	森田　精一	森田　精一	森田　精一	森田　精一	平澤　寛	平澤　寛	平澤　寛	笠井　武彰	笠井　武彰	西村　喜憲
東　北	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司
関　東	河辺　満	河辺　満	西巻　育夫	西巻　育夫	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也
東　海	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘
北信越	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫	河原山晴夫	河原山晴夫	河原山晴夫	河原山晴夫	山内　正孝	山内　正孝	清水　芳隆	清水　芳隆	片岡　和宣
近　畿	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	武田　博利	武田　博利	成田　光生	成田　光生	成田　光生
中　国	吉川　知之	吉川　知之	三浦　捷治	三浦　捷治	安藤　輝夫	安藤　輝夫	平井　謙	平井　謙	小谷　章公	小谷　章公	瀬戸　勝
四　国	勝賀瀬健三	勝賀瀬健三	奥田　啓介	奥田　啓介	瀬島　靖彦	坂東　輝雄	谷岡　敏男	谷岡　敏男	谷岡　敏男	谷岡　敏男	谷岡　敏男
九　州	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治

役職名 年度	平成４年度	平成５年度	平成６年度	平成７年度	平成８年度	平成９年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
部　長	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	大世古弘吉	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也
副部長	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘		成田　光生	成田　光生	成田　光生	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和
	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司		伊佐山正和	成田　光生	成田　光生	成田　光生
				保坂　和也	保坂　和也					木戸　純一	木戸　純一
事務局長	近藤　満	近藤　満	近藤　満	舘野　政男	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和
事務局員									髙橋　清治	髙橋　清治	髙橋　清治
										田部井秀郎	田部井秀郎
北海道	西村　喜憲	西村　喜憲	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀
東　北	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	木戸　純一	木戸　純一	木戸　純一	木戸　純一	木戸　純一	伊藤　張二	伊藤　張二
関　東	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	帰山　好和	帰山　好和	帰山　好和	帰山　好和
東　海	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	大世古吉弘	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也
北信越	片岡　和宣	荒井　和人	荒井　和人	川端　武和	川端　武和	和田　修	和田　修	今井　良彦	今井　良彦	彼島　重範	彼島　重範
近　畿	成田　光生	成田　光生	成田　光生	成田　光生	成田　光生	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄
中　国	瀬戸　勝	新堀　稔文	新堀　稔文	渡辺　光男	渡辺　光男	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一
四　国	谷岡　敏男	谷岡　敏男	谷岡　敏男	岸　輝人	岸　輝人	岸　輝人	岸　輝人	岡野　佳浩	岡野　佳浩	岡野　佳浩	岡野　佳浩
九　州	南　直治	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之

役職名 年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
部　長	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	木戸　純一	木戸　純一	木戸　純一
副部長	木戸　純一	木戸　純一	木戸　純一	木戸　純一	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也
	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀
	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄
							帰山　好和
							山田　賢一
事務局長	髙橋　清治	平田　欽也	新井　研二	新井　研二	新井　研二	新井　研二	新井　研二
事務局員	田部井秀郎	田部井秀郎	田部井秀郎	田部井秀郎	田部井秀郎	田部井秀郎	田部井秀郎
北海道	酒井　智史	酒井　智史	酒井　智史	酒井　智史	酒井　智史	酒井　智史	渡邊　励
東　北	遠藤　淳一	遠藤　淳一	沼澤　隆	沼澤　隆	沼澤　隆	沼澤　隆	沼澤　隆
関　東	帰山　好和	帰山　好和	帰山　好和	帰山　好和	帰山　好和	帰山　好和	岩崎　盛和
東　海	下込　貞司	下込　貞司	下込　貞司	下込　貞司	下込　貞司	下込　貞司	下込　貞司
北信越	新井　研二	新井　研二	麦谷　正二	麦谷　正二	坂井　茂則	坂井　茂則	坂井　茂則
近　畿	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	錦　秀知	錦　秀知	錦　秀知
中　国	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一	山田　賢一	山田　賢一	山田　賢一	足立　弘健
四　国	樽島　博幸	樽島　博幸	樽島　博幸	樽島　博幸	樽島　博幸	樽島　博幸	樽島　博幸
九　州	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦

都道府県高等学校体育連盟バドミントン専門部　歴代部長・委員長一覧

都道府県名＼年度	昭和23年度	昭和24年度	昭和25年度	昭和26年度	昭和27年度	昭和28年度	昭和29年度	昭和30年度	昭和31年度	昭和32年度	昭和33年度
北北海道			中辻　藤雄	中辻　藤雄	平野芳太郎	平野芳太郎	梅村　茂	梅村　茂	小林　純幸	小林　純幸	小林　純幸
南北海道			森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三
青　森			部谷　光延	部谷　光延	部谷　光延	部谷　光延	部谷　光延	部谷　光延	部谷　光延	部谷　光延	部谷　光延
岩　手			小原　亮吉	鈴木　清一	鈴木　清一	鈴木　清一	川村　仙二	川村　仙二	川村　仙二	川村　仙二	川村　仙二
宮　城				鴇田　正男	鴇田　正男	鴇田　正男	高橋　哲男	日下　秀夫	日下　秀夫	日下　秀夫	日下　秀夫
秋　田			伊藤　チエ	伊藤　チエ	伊藤　チエ	中川　鉄男	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三
山　形					熊谷重四郎	熊谷重四郎	熊谷重四郎	熊谷重四郎	熊谷重四郎	熊谷重四郎	熊谷重四郎
福　島					細谷　光	永田保四郎	永田保四郎	小島　博隆	横山　茂	横山　茂	横山　茂
茨　城											
栃　木					松本　弘充	松本　弘充	松本　弘充	松本　弘充	松本　弘充	松本　弘充	松本　弘充
群　馬		上田　敬次	上田　敬次	上田　敬次	上田　敬次	上田　敬次	古川　滋	古川　滋	古川　滋	古川　滋	奥泉　英子
埼　玉								下河辺貫明	下河辺貫明	下河辺貫明	下河辺貫明
千　葉				角田　二郎	角田　二郎	角田　二郎	角田　二郎	角田　二郎	滝　一郎	滝　一郎	滝　一郎
東　京				柳　一夫	安楽　末夫	安楽　末夫	安楽　末夫	安楽　末夫	安楽　末夫	安楽　末夫	安楽　末夫
神奈川			伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎
山　梨			金谷　一雄	金谷　一雄	金谷　一雄	金谷　一雄	橘田　登	橘田　登	橘田　登	橘田　登	田村　博
新　潟			熊倉　光治	熊倉　光治	熊倉　光治	熊倉　光治	矢部　庄吾	矢部　庄吾	矢部　庄吾	矢部　庄吾	矢部　庄吾
富　山			川倉　馨	川倉　馨	川倉　馨	川倉　馨	川倉　馨	松岡　正雄	松岡　正雄	松岡　正雄	松岡　正雄
石　川		杉森喜三吉	杉森喜三吉	南　武典	南　武典	南　武典	森川　憲三	森川　憲三	森川　憲三	森川　憲三	森川　憲三
福　井											関　巌
長　野											
岐　阜			谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮
静　岡				鈴木　清見	植松　忠裕	植松　忠裕	植松　忠裕	植松　忠裕	植松　忠裕	植松　忠裕	植松　忠裕
愛　知											
三　重				伊藤　治郎	長谷川　衛	林　三雄	林　三雄	野呂　巽	野呂　巽	野呂　巽	鈴木　政夫
滋　賀						伊藤　章一	伊藤　章一	伊藤　章一	伊藤　章一	中山　実	中山　実
京　都				久野　龍英	久野　龍英	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博
大　阪	井上　得三	井上　得三	井上　得三	青木　昭二	青木　昭二	青木　昭二	青木　昭二	青木　昭二	青木　昭二	青木　昭二	青木　昭二
兵　庫					河合　満	河合　満	河合　満	河合　満	河合　満	河合　満	河合　満
奈　良			上山　当雄	岩井　由治	岩井　由治	岩井　由治	岩井　由治	岩井　由治	岩井　由治	岩井　由治	岩井　由治
和歌山				島田　実	水崎　広	吉田　正雄	吉田　正雄	吉田　正雄	上田　忠男	上田　忠男	上田　忠男
鳥　取									倉光　忠雄	倉光　忠雄	倉光　忠雄
島　根			石原　幸雄	石原　幸雄	石原　幸雄	石原　幸雄	石原　幸雄	石原　幸雄	広政　敏明	広政　敏明	広政　敏明
岡　山		永井　正	永井　正	永井　正	永井　正	永井　正	永井　正	永井　正	永井　正	永井　正	金尾　善六
広　島											
山　口						庄井　政雄	庄井　政雄	庄井　政雄	庄井　政雄	庄井　政雄	庄井　政雄
徳　島											
香　川					佐藤　実一	穐山　正雄	佐藤実一・穐山正雄	穐山　正雄	穐山　正雄	穐山　正雄	穐山　正雄
愛　媛					片上　進	森部　光雄	森部　光雄	森部　光雄	森部　光雄	森部　光雄	森部　光雄
高　知							見元　均	見元　均	見元　均	山崎　二郎	山崎　二郎
福　岡											
佐　賀											
長　崎											
大　分											
熊　本											
宮　崎											
鹿児島											
沖　縄											

都道府県名	昭和34年度	昭和35年度	昭和36年度	昭和37年度	昭和38年度	昭和39年度	昭和40年度	昭和41年度	昭和42年度	昭和43年度	昭和44年度
北海道	小林　純幸	小林　純幸	小林　純幸	小林　純幸	小林　純幸	小林　純幸	小林　純幸	小林　純幸	小林　純幸	三宅　仁	三宅　仁
南北海道	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三	森　正三
青　森	部谷　光延	部谷　光延	部谷　光延	斎川　俊明	斎川　俊明	斎川　俊明	斎川　俊明	斎川　俊明	斎川　俊明	市川　和司	市川　和司
岩　手	川村　仙二	砂子田智堅	砂子田智堅	砂子田智堅	皆川　三男	皆川　三男	吉丸　尚志	吉丸　尚志	高橋　貞雄	高橋　貞雄	小野寺昭美
宮　城	日下　秀夫	日下　秀夫	日下　秀夫	熱海　文雄	熱海　文雄	熱海　文雄	熱海　文雄	熱海　文雄	熱海　文雄	熱海　文雄	熱海　文雄
秋　田	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三
山　形	熊谷重四郎	熊谷重四郎	熊谷重四郎	熊谷重四郎	熊谷重四郎	深瀬長太郎	深瀬長太郎	深瀬長太郎	豊岡　昭蔵	豊岡　昭蔵	豊岡　昭蔵
福　島	布引　修二	永田保四郎	横山　茂	横山　茂	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和
茨　城	篠塚　芳江	篠塚　芳江	篠塚　芳江	篠塚　芳江	篠塚　芳江	篠塚　芳江	篠塚　芳江	篠塚　芳江	篠塚　芳江	篠塚　芳江	篠塚　芳江
栃　木	松本　弘充	松本　弘充	松本　弘充	松本　弘充	松本　弘充	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男
群　馬	奥泉　英子	奥泉　英子	荻原　房夫	荻原　房夫	荻原　房夫	荻原　房夫	荻原　房夫	新井　威	新井　威	新井　威	新井　威
埼　玉	広沢　昭男	五十里光秋	五十里光秋	五十里光秋	五十里光秋	五十里光秋	五十里光秋	五十里光秋	五十里光秋	五十里光秋	五十里光秋
千　葉	滝　一郎	滝　一郎	滝　一郎	河辺　亨	河辺　亨	河辺　亨	河辺　亨	河辺　亨	河辺　亨	牧野　建夫	牧野　建夫
東　京	安楽　末夫	安楽　末夫	安楽　末夫	安楽　末夫	安楽　末夫	安楽　末夫	安楽　末夫	里見　光徳	里見　光徳	里見　光徳	里見　光徳
神奈川	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎
山　梨	田村　博	田村　博	田村　博	田村　博	田村　博	井上　修吾	井上　修吾	秋山文太郎	秋山文太郎	秋山文太郎	樋口　俊夫
新　潟	矢部　庄吾	矢部　庄吾	矢部　庄吾	矢部　庄吾	矢部　庄吾	矢部　庄吾	矢部　庄吾	熊倉　光治	熊倉　光治	熊倉　光治	熊倉　光治
富　山	松岡　正雄	松岡　正雄	松岡　正雄	松岡　正雄	内多小五郎	内多小五郎	不破　裕	不破　裕	不破　裕	不破　裕	不破　裕
石　川	森川　憲三	森川　憲三	森川　憲三	森川　憲三	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信
福　井	関　巌	関　巌	伊藤　弘	勝矢　文一	勝矢　文一	勝矢　文一	服部　章憲	服部　章憲	服部　章憲	松下幸三郎	松下幸三郎
長　野			和田　圭喜	和田　圭喜	和田　圭喜	和田　圭喜	和田　圭喜	金子　忍	金子　忍	金子　忍	金子　忍
岐　阜	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮
静　岡	植松　忠裕	植松　忠裕	藤江　稔	斎藤　武	植松　忠裕	藤江　稔	雨宮　忠	植松　忠裕	植松　忠裕	植松　忠裕	中嶋　鎮也
愛　知	永田　堯澄	永田　堯澄	永田　堯澄	永田　堯澄	永田　堯澄	永田　堯澄	永田　堯澄	永田　堯澄	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜
三　重	鈴木　政夫	伊豆　晃	伊豆　晃	伊豆　晃	伊豆　晃	伊豆　晃	伊豆　晃	伊豆　晃	伊豆　晃	伊豆　晃	大世古弘吉
滋　賀	堤　庄一	堤　庄一	堤　庄一	金田　赳夫	金田　赳夫	金田　赳夫	寺田　寿	寺田　寿	寺田　寿	辻　広之	辻　広之
京　都	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博
大　阪	青木　昭二	青木　昭二	青木　昭二	青木　昭二	岸　研一	岸　研一	岸　研一	岸　研一	岸　研一	岸　研一	岸　研一
兵　庫	河合　満	河合　満	河合　満	河合　満	河合　満	河合　満	河合　満	河合　満	河合　満	河合　満	手島　司
奈　良	岩井　由治	岩井　由治	岩井　由治	岩井　由治	松尾　良行	松尾　良行	松尾　良行	松尾　良行	松尾　良行	松尾　良行	松尾　良行
和歌山	上田　忠男	魚谷　量雄	木阪　登	木阪　登	木阪　登	木阪　登	木阪　登	木阪　登	佐藤　博	佐藤　博	佐藤　博
鳥　取	倉光　忠雄	倉光　忠雄	倉光　忠雄	倉光　忠雄	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜
島　根	広政　敏明	西野　一雄	西野　一雄	西野　一雄	西野　一雄	石原　幸雄	石原　幸雄	石原　幸雄	石原　幸雄	石原　幸雄	石原　幸雄
岡　山	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志
広　島								広佳　俊士	石井　実	石井　実	石井　実
山　口	庄井　政雄	庄井　政雄	庄井　政雄	庄井　政雄	庄井　政雄	庄井　政雄	庄井　政雄	中村　勇夫	中西　慎二	中西　慎二	中西　慎二
徳　島									野村　淳平	野村　淳平	野村　淳平
香　川	穐山　正雄	穐山　正雄	穐山　正雄	穐山　正雄	穐山　正雄	穐山　正雄	穐山　正雄	穐山　正雄	森田　桂示	藤原　和文	森田　桂示
愛　媛	森部　光雄	森部　光雄	森部　光雄	森部　光雄	森部　光雄	森部　光雄	石丸　良男	石丸　良男	石丸　良男	石丸　良男	石丸　良男
高　知	山崎　二郎	山崎　二郎	山崎　二郎	山崎　二郎	中川　騰清	中川　騰清	中川　騰清	中川　騰清	中川　騰清	中川　騰清	見元　均
福　岡		三原　邦吾	三原　邦吾	三原　邦吾	三原　邦吾	三原　邦吾	三原　邦吾	三原　邦吾	三原　邦吾	今村　正道	今村　正道
佐　賀											
長　崎			埴生美穂子	埴生美穂子	渡辺　威	渡辺　威	山頭　正之	山頭　正之	山頭　正之	山頭　正之	山頭　正之
大　分					佐藤　吉之	佐藤　吉之	佐藤　吉之	工藤　喜一	工藤　喜一	工藤　喜一	吉田　信之
熊　本			益田　隷	益田　隷	益田　隷	益田　隷	益田　隷	益田　隷	益田　隷	本郷　節生	本郷　節生
宮　崎											
鹿児島		別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照
沖　縄							仲村　寛市	仲村　寛市	仲村　寛市	仲村　寛市	仲村　寛市

都道府県名	昭和45年度	昭和46年度	昭和47年度	昭和48年度	昭和49年度	昭和50年度	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度
北海道	三宅　仁	南　武	高橋　昌久	高橋　昌久	高橋　昌久	高橋　昌久	高橋　昌久	高橋　昌久	高橋　昌久	森田　精一	森田　精一
南北海道	平澤　寛	平澤　寛	増田　幸	増田　幸	増田　幸	増田　幸	増田　幸	増田　幸	増田　幸	増田　幸	増田　幸
青　森	市川　和司	市川　和司	横山　正二	横山　正二	横山　正二	横山　正二	横山　正二	横山　正二	横山　正二	横山　正二	横山　正二
岩　手	小野寺昭美	松尾　良一	松尾　良一	松尾　良一	松尾　良一	川村　薫	川村　薫	川村　薫	川村　薫	川村　薫	川村　薫
宮　城	菅原　保	菅原　保	菅原　保	菅原　保	菅原　保	菅原　保	菅原　保	菅原　保	菅原　保	白岩　良治	白岩　良治
秋　田	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	宮腰　龍三	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司
山　形	豊岡　昭蔵	豊岡　昭蔵	豊岡　昭蔵	豊岡　昭蔵	豊岡　昭蔵	豊岡　昭蔵	豊岡　昭蔵	入間　照雄	入間　照雄	入間　照雄	入間　照雄
福　島	中島　俊丈	中島　俊丈	中島　俊丈	中島　俊丈	中島　俊丈	中島　俊丈	中島　俊丈	中島　俊丈	中島　俊丈	阿部　裕和	阿部　裕和
茨　城	篠塚　芳江	篠塚　芳江	辺田　紀	辺田　紀	辺田　紀	辺田　紀	辺田　紀	辺田　紀	紙塚　博	紙塚　博	紙塚　博
栃　木	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男
群　馬	新井　威	新井　威	新井　威	新井　威	新井　威	関　俊夫	西巻　育夫	西巻　育夫	西巻　育夫	西巻　育夫	西巻　育夫
埼　玉	五十里光秋	唐沢　清一	唐沢　清一	唐沢　清一	唐沢　清一	唐沢　清一	唐沢　清一	唐沢　清一	唐沢　清一	柿沼　清	柿沼　清
千　葉	牧野　建夫	河辺　満	河辺　満	河辺　満	河辺　満	河辺　満	河辺　満	河辺　満	河辺　満	河辺　満	河辺　満
東　京	里見　光徳	里見　光徳	里見　光徳	里見　光徳	安野　智	安野　智	安野　智	竜井　昇治	竜井　昇治	前田　耕作	前田　耕作
神奈川	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	伊沢　三郎	斎藤　栄	斎藤　栄	斎藤　栄	斎藤　栄
山　梨	樋口　俊夫	樋口　俊夫	樋口　俊夫	樋口　俊夫	樋口　俊夫	樋口　俊夫	樋口　俊夫	樋口　俊夫	樋口　俊夫	保坂　和也	保坂　和也
新　潟	吉川　勉	吉川　勉	吉川　勉	吉川　勉	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫
富　山	不破　裕	不破　裕	不破　裕	不破　裕	不破　裕	不破　裕	不破　裕	不破　裕	不破　裕	不破　裕	不破　裕
石　川	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信	飯田　良信
福　井	松下幸三郎	松下幸三郎	杉本　悠介	山内　正孝	山内　正孝	野路　恵一	野路　恵一	野路　恵一	野路　恵一	川端　武和	山内　正孝
長　野	金子　忍	金子　忍	百瀬　健司	百瀬　健司	長浦　音吉	長浦　音吉	長浦　音吉	長浦　音吉	長浦　音吉	長浦　音吉	長浦　音吉
岐　阜	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	谷　亮	三間　勝乗	三間　勝乗	三間　勝乗
静　岡	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也
愛　知	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜
三　重	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉
滋　賀	国領　迪則	国領　迪則	沢　長寿	沢　長寿	沢　長寿	沢　長寿	沢　長寿	沢　長寿	沢　長寿	沢　長寿	沢　長寿
京　都	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博
大　阪	岸　研一	岸　研一	岸　研一	岸　研一	藤浪　輝吉	藤浪　輝吉	藤浪　輝吉	石橋　三彦	石橋　三彦	石橋　三彦	石橋　三彦
兵　庫	手島　司	平林　弘嗣	川崎　紘平	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌
奈　良	松尾　良行	松尾　良行	武田　博利	武田　博利	武田　博利	武田　博利	武田　博利	武田　博利	武田　博利	武田　博利	武田　博利
和歌山	佐藤　博	佐藤　博	佐藤　博	佐藤　博	佐藤　博	佐藤　博	佐藤　博	宮本　稔	宮本　稔	宮本　稔	宮本　稔
鳥　取	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜	山根　怜
島　根	石原　幸雄	石原　幸雄	石原　幸雄	小林　茂	小林　茂	小林　茂	小林　茂	小林　茂	星野　幸右	星野　幸右	松尾　益吉
岡　山	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	毛利　清志	三宅　勝	三宅　勝	三宅　勝
広　島	石井　実	石井　実	石井　実	石井　実	石井　実	石井　実	石井　実	石井　実	石井　実	石井　実	吉川　知之
山　口	中西　慎二	中西　慎二	浅谷寿々也	浅谷寿々也	浅谷寿々也	浅谷寿々也	三浦　捷治	三浦　捷治	三浦　捷治	沢田　恭治	沢田　恭治
徳　島	野村　淳平	野村　淳平	野村　淳平	野村　淳平	野村　淳平	野村　淳平	野村　淳平	野村　淳平	野村　淳平	野村　淳平	野村　淳平
香　川	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示
愛　媛	石丸　良男	石丸　良男	石丸　良男	越智　幸雄	越智　幸雄	越智　幸雄	越智　幸雄	越智　幸雄	越智　幸雄	奥田　啓介	奥田　啓介
高　知	見元　均	見元　均	見元　均	見元　均	見元　均	勝賀瀬健三	勝賀瀬健三	勝賀瀬健三	勝賀瀬健三	勝賀瀬健三	勝賀瀬健三
福　岡	佐伯　昌美	佐伯　昌美	平木　武美	平木　武美	平木　武美	金光　政秀	金光　政秀	金光　政秀	金光　政秀	佐伯　昌美	佐伯　昌美
佐　賀				木下　直典	松村　栄	松村　栄	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦
長　崎	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三
大　分	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之
熊　本	本郷　節生	本郷　節生	本郷　節生	本郷　節生	本郷　節生	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治
宮　崎		屋良　勝	屋良　勝	屋良　勝	屋良　勝	屋良　勝	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀
鹿児島	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照	別府　照
沖　縄	仲村　寛市	仲村　寛市	仲村　寛市	仲村　寛市	仲村　寛市	仲村　寛市	屋比久　潔	屋比久　潔	屋比久　潔	屋比久　潔	屋比久　潔

都道府県名 年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成２年度	平成３年度
北北海道	森田　精一	森田　精一	森田　精一	森田　精一	森田　精一	森田　精一	森田　精一	笠井　武彰	笠井　武彰	笠井　武彰	森田　精一
南北海道	増田　幸	増田　幸	増田　幸	増田　幸	平沢　寛	平沢　寛	平沢　寛	平沢　寛	西村　喜憲	西村　喜憲	西村　喜憲
青　森	横山　正二	横山　正二	横山　正二	横山　正二	佐藤　清志	佐藤　清志	佐藤　清志	佐藤　清志	佐藤　清志	佐藤　清志	佐藤　清志
岩　手	佐々木彦士	佐々木彦士	佐々木彦士	佐々木彦士	佐々木彦士	佐々木彦士	佐々木彦士	佐々木彦士	佐々木彦士	佐々木彦士	佐々木彦士
宮　城	白岩　良治	白岩　良治	白岩　良治	白岩　良治	白岩　良治	白岩　良治	白岩　良治	白岩　良治	白岩　良治	白岩　良治	片桐　勉
秋　田	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司
山　形	入間　照雄	入間　照雄	入間　照雄	入間　照雄	入間　照雄	入間　照雄	入間　照雄	高山　昌三	高山　昌三	高山　昌三	高山　昌三
福　島	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和
茨　城	紙塚　博	紙塚　博	紙塚　博	紙塚　博	紙塚　博	緒方　和也	緒方　和也	緒方　和也	緒方　和也	緒方　和也	緒方　和也
栃　木	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	遠井　稔男	武井　祥子
群　馬	西巻　育夫	西巻　育夫	西巻　育夫	西巻　育夫	門倉　憲一	今井　勇司	今井　勇司	今井　勇司	今井　勇司	今井　勇司	今井　勇司
埼　玉	柿沼　清	柿沼　清	柿沼　清	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和
千　葉	河辺　満	河辺　満	牧野　建夫	牧野　建夫	臼井　俊治	臼井　俊治	臼井　俊治	臼井　俊治	臼井　俊治	臼井　俊治	有瀬　浩一
東　京	前田　耕作	前田　耕作	前田　耕作	前田　耕作	前田　耕作	高橋　英夫	高橋　英夫	高橋　英夫	高橋　英夫	高橋　英夫	高橋　英夫
神奈川	斎藤　栄	斎藤　栄	斎藤　栄	斎藤　栄	斎藤　栄	斎藤　栄	斎藤　栄	斎藤　栄	斎藤　栄	若狭　孝三	若狭　孝三
山　梨	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也
新　潟	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫	佐藤　秀夫	吉田　孝良	吉田　孝良	本田　敏彦	本田　敏彦	片岡　和宣
富　山	不破　裕	不破　裕	清水　芳隆	清水　芳隆	清水　芳隆	清水　芳隆	清水　芳隆	清水　芳隆	清水　芳隆	清水　芳隆	清水　芳隆
石　川	飯田　良信	飯田　良信	河原山晴夫	河原山晴夫	河原山晴夫	村西　一	村西　一	村西　一	村西　一	村西　一	村西　一
福　井	山内　正孝	山内　正孝	山内　正孝	山内　正孝	玉木　敏子	玉木　敏子	玉木　敏子	玉木　敏子	玉木　敏子	玉木　敏子	玉木　敏子
長　野	長浦　音吉	長浦　音吉	長浦　音吉	木内　淳	木内　淳	木内　淳	木内　淳	木内　淳	木内　淳	松久　和弘	松久　和弘
岐　阜	三間　勝乗	三間　勝乗	三間　勝乗	三間　勝乗	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司
静　岡	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也	中嶋　鎮也	中田　稔	中田　稔	中田　稔	中田　稔	中田　稔	本多　常民	石川　博義	石川　博義
愛　知	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜
三　重	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉
滋　賀	川戸　健一	川戸　健一	川戸　健一	川戸　健一	川戸　健一	川戸　健一	谷　英明	谷　英明	谷　英明	谷　英明	谷　英明
京　都	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	山本　博	成田　光生	成田　光生	成田　光生	成田　光生	成田　光生	成田　光生
大　阪	石橋　三彦	石橋　三彦	石橋　三彦	石橋　三彦	石橋　三彦	山崎　満彦	山崎　満彦	山崎　満彦	山崎　満彦	山崎　満彦	山崎　満彦
兵　庫	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌
奈　良	武田　博利	武田　博利	武田　博利	武田　博利	武田　博利	武田　博利	武田　博利	武田　博利	吉村　禎訓	吉村　禎訓	吉村　禎訓
和歌山	宮本　稔	宮本　稔	山西　節子	山西　節子	山西　節子	山西　節子	森　隆	森　隆	森　隆	森　隆	武藤　隆志
鳥　取	山根　怜	山根　怜	小谷　章公	小谷　章公	小谷　章公	小谷　章公	小谷　章公	小谷　章公	小谷　章公	小谷　章公	小谷　章公
島　根	松尾　益吉	大北　哲也	大北　哲也	大北　哲也	平井　謙	平井　謙	平井　謙	平井　謙	平井　謙	山本　篤治	山本　篤治
岡　山	三宅　勝	三宅　勝	三宅　勝	三宅　勝	三宅　勝	三宅　勝	瀬戸　勝	瀬戸　勝	瀬戸　勝	瀬戸　勝	瀬戸　勝
広　島	吉川　知之	吉川　知之	勝田　雅史	藤田　雅史	藤田　雅史	藤田　雅史	橋本　忠之	橋本　忠之	新堀　稔文	新堀　稔文	新堀　稔文
山　口	沢田　恭治	沢田　恭治	吉本　侃司	吉本　侃司	安藤　輝夫	安藤　輝夫	池田　信郎	池田　信郎	池田　信郎	池田　信郎	天谷　満徳
徳　島	野村　淳平	野村　淳平	坂東　輝雄	坂東　輝雄	坂東　輝雄	坂東　輝雄	坂東　輝雄	坂東　輝雄	坂東　輝雄	坂東　輝雄	坂東　輝雄
香　川	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示	森田　桂示	瀬島　靖彦	瀬島　靖彦	瀬島　靖彦	瀬島　靖彦	岸　輝人	岸　輝人
愛　媛	奥田　啓介	奥田　啓介	奥田　啓介	奥田　啓介	奥田　啓介	奥田　啓介	池田　節幸	池田　節幸	池田　節幸	池田　節幸	奥田　啓介
高　知	勝賀瀬健三	勝賀瀬健三	勝賀瀬健三	勝賀瀬健三	勝賀瀬健三	谷岡　敏男	谷岡　敏男	谷岡　敏男	谷岡　敏男	谷岡　敏男	谷岡　敏男
福　岡	横溝　安伸	横溝　安伸	横溝　安伸	横溝　安伸	横溝　安伸	横溝　安伸	横溝　安伸	横溝　安伸	横溝　安伸	横溝　安伸	浜司　晃
佐　賀	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦
長　崎	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三
大　分	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之
熊　本	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治	南　直治
宮　崎	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀
鹿児島	原口健二郎	原口健二郎	原口健二郎	原口健二郎	原口健二郎	原口健二郎	原口健二郎	原口健二郎	原口健二郎	原口健二郎	前野親二郎
沖　縄	屋比久　潔	又吉　慧	又吉　慧	上原　武久	上原　武久	上原　武久	上原　武久	屋比久　彰	屋比久　彰	屋比久　彰	屋比久　彰

都道府県名	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
北海道	森田　精一	野坂　政司	野坂　政司	両國　勲	両國　勲	田中　光彦	田中　光彦	田中　光彦	田中　光彦	田中　光彦	田中　光彦
南北海道	西村　喜憲	西村　喜憲	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀	河崎　正紀
青　森	花田　康夫	花田　康夫	花田　康夫	花田　康夫	花田　康夫	花田　康夫	花田　康夫	花田　康夫	花田　康夫	百川　弘通	百川　弘通
岩　手	伊藤　張二	伊藤　張二	伊藤　張二	伊藤　張二	伊藤　張二	伊藤　張二	伊藤　張二	伊藤　張二	伊藤　張二	伊藤　張二	伊藤　張二
宮　城	片桐　勉	片桐　勉	熱海　文雄	木戸　純一	木戸　純一	木戸　純一	木戸　純一	木戸　純一	木戸　純一	木戸　純一	沼澤　隆
秋　田	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	鈴木　祐司	柴田　惣行	柴田　惣行	柴田　惣行	柴田　惣行	柴田　惣行	本間　秀士	本間　秀士
山　形	高山　昌三	高山　昌三	高山　昌三	高山　昌三	高山　昌三	高山　昌三	高山　昌三	遠藤　淳一	遠藤　淳一	遠藤　淳一	遠藤　淳一
福　島	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	阿部　裕和	橋本　遊二	橋本　遊二	橋本　遊二	橋本　遊二	橋本　遊二	橋本　遊二	橋本　遊二
茨　城	志子田勝敏	志子田勝敏	志子田勝敏	志子田勝敏	志子田勝敏	志子田勝敏	征矢　裕	征矢　裕	征矢　裕	征矢　裕	征矢　裕
栃　木	武井　祥子	武井　祥子	別井　晃	森田　昇	森田　昇	森田　昇	舘野　政男	舘野　政男	舘野　政男	舘野　政男	舘野　政男
群　馬	今井　勇司	今井　勇司	今井　勇司	髙田　昌紀	髙田　昌紀	栗原　恒夫	栗原　恒夫	栗原　恒夫	栗原　恒夫	栗原　恒夫	栗原　恒夫
埼　玉	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	伊佐山正和	帰山　好和	帰山　好和	帰山　好和	帰山　好和	帰山　好和	帰山　好和	帰山　好和
千　葉	有瀬　浩一	有瀬　浩一	有瀬　浩一	有瀬　浩一	有瀬　浩一	丸山　秀之	丸山　秀之	丸山　秀之	丸山　秀之	丸山　秀之	丸山　秀之
東　京	髙橋　英夫	髙橋　英夫	髙橋　英夫	髙橋　英夫	髙橋　英夫	髙橋　英夫	髙橋　英夫	髙橋　英夫	関根　忠	関根　忠	関根　忠
神奈川	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三
山　梨	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	保坂　和也	滝川　修	滝川　修	滝川　修	滝川　修	滝川　修	滝川　修
新　潟	片岡　和宣	片岡　和宣	片岡　和宣	片岡　和宣	今井　良彦	今井　良彦	今井　良彦	今井　良彦	今井　良彦	今井　良彦	山縣　泰弘
富　山	二上　敏博	二上　敏博	二上　敏博	二上　敏博	水和　清次	水和　清次	水和　清次	水和　清次	水和　清次	水和　清次	水和　清次
石　川	和田　修	和田　修	和田　修	和田　修	和田　修	和田　修	和田　修	彼島　重範	彼島　重範	彼島　重範	彼島　重範
福　井	川端　武和	川端　武和	川端　武和	川端　武和	川端　武和	川端　武和	川端　武和	川端　武和	川端　武和	川端　武和	川端　武和
長　野	荒井　和人	荒井　和人	荒井　和人	荒井　和人	荒井　和人	荒井　和人	荒井　和人	荒井　和人	荒井　和人	新井　研二	新井　研二
岐　阜	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司	岩田　甲司	武藤　芳紀	武藤　芳紀
静　岡	石川　博義	石川　博義	石川　博義	石川　博義	杉山　敏充	杉山　敏充	杉山　敏充	渡邉　治	渡邉　治	渡邉　治	渡邉　治
愛　知	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	田中　章喜	下込　貞司	下込　貞司	下込　貞司	下込　貞司	下込　貞司	下込　貞司	下込　貞司
三　重	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	大世古弘吉	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也	平田　欽也	淺沼　正義
滋　賀	谷　英明	谷　英明	谷　英明	谷　英明	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄
京　都	成田　光生	成田　光生	成田　光生	成田　光生	成田　光生	髙橋　清治	髙橋　清治	髙橋　清治	髙橋　清治	髙橋　清治	髙橋　清治
大　阪	山崎　満彦	藤本　信之	藤本　信之	藤本　信之	藤本　信之	藤本　信之	藤本　信之	大住　陽一	大住　陽一	大住　陽一	大住　陽一
兵　庫	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	仲山　巌	藤本　和幸	藤本　和幸	藤本　和幸
奈　良	吉村　禎訓	吉村　禎訓	吉村　禎訓	乾　哲司	乾　哲司	乾　哲司	乾　哲司	乾　哲司	錦　秀知	錦　秀知	錦　秀知
和歌山	武藤　隆志	井角　忠彦	井角　忠彦	井角　忠彦	井角　忠彦	井角　忠彦	井角　忠彦	井角　忠彦	井角　忠彦	井角　忠彦	井角　忠彦
鳥　取	小谷　章公	小谷　章公	小谷　章公	小谷　章公	小谷　章公	三村　俊彦	三村　俊彦	三村　俊彦	三村　俊彦	三村　俊彦	三村　俊彦
島　根	山本　篤治	山本　篤治	山本　篤治	山本　篤治	池淵　保正	池淵　保正	池淵　保正	池淵　保正	湯原　基	湯原　基	湯原　基
岡　山	瀬戸　勝	瀬戸　勝	瀬戸　勝	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一
広　島	新堀　稔文	新堀　稔文	新堀　稔文	新堀　稔文	新堀　稔文	新堀　稔文	新堀　稔文	新堀　稔文	新堀　稔文	新堀　稔文	新堀　稔文
山　口	天谷　満徳	渡辺　光男	渡辺　光男	渡辺　光男	渡辺　光男	永茂　勝弘	永茂　勝弘	永茂　勝弘	永茂　勝弘	永茂　勝弘	佐々木辰博
徳　島	坂東　輝雄	坂東　輝雄	坂東　輝雄	坂東　輝雄	平岡　嘉泰	平岡　嘉泰	平岡　嘉泰	平岡　嘉泰	寺内　智子	寺内　智子	寺内　智子
香　川	竹内　秀夫	岸　輝人	岸　輝人	岸　輝人	岸　輝人	岸　輝人	岸　輝人	岡野　佳浩	岡野　佳浩	岡野　佳浩	岡野　佳浩
愛　媛	奥田　啓介	樽島　博幸	樽島　博幸	樽島　博幸	泉　富浩	泉　富浩	垣生　雅孝	垣生　雅孝	垣生　雅孝	樽島　博幸	樽島　博幸
高　知	谷岡　敏男	谷岡　敏男	谷岡　敏男	足達　昇	足達　昇	足達　昇	足達　昇	桑名　功	桑名　功	桑名　功	桑名　功
福　岡	浜司　晃	浜司　晃	浜司　晃	浜司　晃	浜司　晃	浜司　晃	浜司　晃	浜司　晃	浜地　晃	浜地　晃	浜地　晃
佐　賀	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦
長　崎	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三	春野　良三
大　分	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之	吉田　信之
熊　本	南　直治	南　直治	南　直治	工藤　勇参	茂見　正	茂見　正	茂見　正	茂見　正	茂見　正	茂見　正	井上　哲章
宮　崎	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	山内　勇紀	松浦　良一	松浦　良一	松浦　良一	松浦　良一	松浦　良一	松浦　良一	松浦　良一
鹿児島	前野親二郎	前野親二郎	前野親二郎	前野親二郎	前野親二郎	前野親二郎	前野親二郎	前野親二郎	前野親二郎	前野親二郎	前野親二郎
沖　縄	屋比久　彰	屋比久　彰	屋比久　彰	屋比久　彰	渡嘉敷通之	渡嘉敷通之	渡嘉敷通之	屋比久　彰	下地　敏彦	下地　敏彦	下地　敏彦

都道府県名	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
北海道	田中　光彦	田中　光彦	田中　光彦	田中　光彦	水崎　忍	水崎　忍	水崎　忍
南北海道	酒井　智史	酒井　智史	酒井　智史	酒井　智史	酒井　智史	酒井　智史	渡邊　励
青　森	百川　弘通	百川　弘通	百川　弘通	百川　弘通	百川　弘通	百川　弘通	百川　弘通
岩　手	菊地　享	菊地　享	菊地　享	菊地　享	菊地　享	菊地　享	菊地　享
宮　城	沼澤　隆	沼澤　隆	沼澤　隆	沼澤　隆	沼澤　隆	沼澤　隆	沼澤　隆
秋　田	本間　秀士	本間　秀士	本間　秀士	本間　秀士	本間　秀士	藤田　理	藤田　理
山　形	遠藤　淳一	遠藤　淳一	大山　孝光	大山　孝光	大山　孝光	大山　孝光	大山　孝光
福　島	橋本　遊二	斉藤　清人	鈴木　孝幸	鈴木　孝幸	鈴木　孝幸	鈴木　孝幸	鈴木　孝幸
茨　城	志子田勝敏	志子田勝敏	志子田勝敏	志子田勝敏	志子田勝敏	志子田勝敏	志子田勝敏
栃　木	舘野　政男	舘野　政男	舘野　政男	舘野　政男	舘野　政男	遠井　努	遠井　努
群　馬	栗原　恒夫	岩崎　盛和	岩崎　盛和	岩崎　盛和	岩崎　盛和	岩崎　盛和	板垣　厳
埼　玉	帰山　好和	上田　敏之	上田　敏之	上田　敏之	上田　敏之	上田　敏之	上田　敏之
千　葉	中村　新一	中村　新一	中村　新一	中村　新一	中村　新一	中村　新一	中村　新一
東　京	関根　忠	関根　忠	関根　忠	関根　忠	関根　忠	関根　忠	関根　忠
神奈川	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三	若狭　孝三
山　梨	滝川　修	滝川　修	岩佐　宣寿	岩佐　宣寿	岩佐　宣寿	岩佐　宣寿	中山　宗彦
新　潟	山縣　泰弘	山縣　泰弘	山縣　泰弘	山縣　泰弘	山縣　泰弘	山縣　泰弘	山縣　泰弘
富　山	麦谷　正二	麦谷　正二	麦谷　正二	麦谷　正二	麦谷　正二	麦谷　正二	麦谷　正二
石　川	彼島　重範	水内　浩	水内　浩	水内　浩	水内　浩	水内　浩	水内　浩
福　井	川端　武和	坂井　茂則	坂井　茂則	坂井　茂則	坂井　茂則	坂井　茂則	坂井　茂則
長　野	新井　研二	新井　研二	新井　研二	新井　研二	新井　研二	新井　研二	新井　研二
岐　阜	武藤　芳紀	武藤　芳紀	武藤　芳紀	武藤　芳紀	武藤　芳紀	武藤　芳紀	関谷　篤
静　岡	渡邉　治	高嶋　政和	高嶋　政和	高嶋　政和	高嶋　政和	高嶋　政和	高嶋　政和
愛　知	下込　貞司	下込　貞司	下込　貞司	鈴木　敏夫	鈴木　敏夫	鈴木　敏夫	尾関　靖
三　重	淺沼　正義	山本　泰生	山本　泰生	山本　泰生	山本　泰生	宮島　和也	宮島　和也
滋　賀	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	清水　十郎	清水　十郎	清水　十郎
京　都	髙橋　清治	寺田　裕昭	寺田　裕昭	寺田　裕昭	寺田　裕昭	寺田　裕昭	寺田　裕昭
大　阪	大住　陽一	大住　陽一	大住　陽一	大住　陽一	大住　陽一	大住　陽一	大住　陽一
兵　庫	藤本　和幸	藤本　和幸	藤本　和幸	藤本　和幸	藤本　和幸	藤本　和幸	藤本　和幸
奈　良	錦　秀知	錦　秀知	錦　秀知	錦　秀知	錦　秀知	錦　秀知	錦　秀知
和歌山	井角　忠彦	井角　忠彦	井角　忠彦	井角　忠彦	武藤　隆志	武藤　隆志	武藤　隆志
鳥　取	三村　俊彦	三村　俊彦	山下　幸夫	山下　幸夫	山下　幸夫	山下　幸夫	山下　幸夫
島　根	湯原　基	湯原　基	足立　弘健	足立　弘健	足立　弘健	足立　弘健	足立　弘健
岡　山	石田　賢一	石田　賢一	石田　賢一	山田　賢一	山田　賢一	山田　賢一	西崎　文貴
広　島	熊野　一朗	熊野　一朗	熊野　一朗	赤川　雅美	赤川　雅美	赤川　雅美	赤川　雅美
山　口	佐々木辰博	佐々木辰博	佐々木辰博	松原　康則	松原　康則	松原　康則	松原　康則
徳　島	多田　巧	多田　巧	多田　巧	多田　巧	多田　巧	岡佐古拓也	岡佐古拓也
香　川	林　一男	林　一男	林　一男	林　一男	林　一男	林　一男	林　一男
愛　媛	樽島　博幸	樽島　博幸	樽島　博幸	樽島　博幸	樽島　博幸	樽島　博幸	秋山　啓太
高　知	桑名　功	桑名　功	桑名　功	桑名　功	桑名　功	桑名　功	白石　洋一
福　岡	浜地　晃	浜地　晃	明神　憲一	明神　憲一	明神　憲一	明神　憲一	明神　憲一
佐　賀	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦	築地　孝彦
長　崎	春野　良三	春野　良三	春野　良三	中尾　勘治	中尾　勘治	中尾　勘治	駒田　智史
大　分	阿南　典久	阿南　典久	阿南　典久	阿南　典久	阿南　典久	阿南　典久	渡邉　仁友
熊　本	井上　哲章	井上　哲章	井上　哲章	井上　哲章	井上　哲章	井上　哲章	井上　哲章
宮　崎	松浦　良一	松浦　良一	松浦　良一	松浦　良一	石井　正樹	石井　正樹	石井　正樹
鹿児島	前野親二郎	前野親二郎	前野親二郎	前野親二郎	平岡　旭洋	平岡　旭洋	平岡　旭洋
沖　縄	下地　敏彦	下地　敏彦	下地　敏彦	下地　敏彦	下地　敏彦	下地　敏彦	下地　敏彦

平成20年度　全国高等学校体育連盟バドミントン専門部実態調査

		都道府県	都道府県予選出場数						外国人留学生出場数						1条校以外の生徒出場数						平成19年度都道府県大会使用シャトル（ダース）	専門部予算 ・高体連専門部費 ・高体連補助金 ・バド協会補助金 ・その他（強化費等）
			学校対抗		ダブルス		シングルス		学校対抗		ダブルス		シングルス		学校対抗		ダブルス		シングルス			
			男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子		
北海道	1	北海道	203	199	494	495	570	602	0	0	0	0	0	0	45	26	28	17	16	11	2000打	1,055,000円
			402校		989組		1172名		0名		0名		0名		71名		45名		27名			
東北	2	青森	51	56	115	122	116	129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	400打	5,350,000円
			107校		237組		245名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	3	岩手	41	44	195	217	237	250	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	360打	1,974,000円
			85校		412組		487名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	4	宮城	56	58	222	226	249	251	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	480打	3,380,410円
			114校		448組		500名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	5	秋田	21	25	129	124	292	298	0	0	0	0	0	0	8	0	8	2	8	3	300打	1,173,000円
			46校		253組		590名		0名		0名		0名		8名		10名		11名			
	6	山形	33	34	156	166	270	272	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	900打	330,000円
			67校		322組		542名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	7	福島	65	61	410	375	1174	1023	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1100打	1,513,890円
			126校		785組		2197名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
関東	8	茨城	67	69	288	342	464	539	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5000打	729,000円
			136校		630組		1003名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	9	栃木	47	43	102	92	100	92	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	800打	1,210,000円
			90校		194組		192名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	10	群馬	39	44	242	261	516	548	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	350打	693,409円
			83校		503組		1064名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	11	埼玉	155	167	680	840	839	995	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2000打	3,091,600円
			322校		1520組		1834名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	12	千葉	101	121	466	562	632	702	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1042打	2,694,000円
			222校		1028組		1334名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	13	東京	164	233	200	257	193	260	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	230打	5,871,300円
			397校		457組		453名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	14	神奈川	156	171	333	360	351	369	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1500打	8,976,000円
			327校		693組		720名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	15	山梨	20	21	77	86	160	166	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200打	1,489,666円
			41校		163組		326名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
北信越	16	新潟	77	75	343	303	442	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	760打	2,680,690円
			152校		646組		842名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	17	富山	40	40	208	197	246	239	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	700打	3,138,000円
			80校		405組		485名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	18	石川	35	37	234	249	390	431													600打	260,000円
			72校		483組		821名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	19	福井	23	23	105	101	115	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	350打	800,000円
			46校		206組		217名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	20	長野	77	69	292	272	420	394	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	700打	950,000円
			146校		564組		814名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
東海	21	岐阜	37	41	152	182	175	194	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	450打	1,025,279円
			78校		334組		369名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	22	静岡	37	48	226	326	363	396	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	500打	1,996,000円
			85校		552組		759名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	23	愛知	86	109	615	883	941	1177	0	0	0	0	0	0	14	0	18	2	17	3	850打	4,195,498円
			195校		1498組		2118名		0名		0名		0名		14名		20名		20名			
	24	三重	37	40	228	265	475	537	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6000打	3,989,035円
			77校		493組		1012名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
近畿	25	滋賀	32	39	110	133	136	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	180打	2,222,900円
			71校		243組		286名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	26	京都	39	54	233	364	496	740	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	800打	8,805,435円
			93校		597組		1236名		0名		2名		2名		0名		0名		0名			
	27	大阪	32	118	160	575	367	1148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	600打	9,200,000円
			150校		735組		1515名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	28	兵庫	78	105	437	648	909	1331	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1400打	2,333,000円
			183校		1085組		2240名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	29	奈良	22	25	91	106	108	112	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	450打	4,300,000円
			47校		197組		220名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	30	和歌山	11	12	57	60	124	139	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200打	1,754,621円
			23校		117組		263名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			

		都道府県	都道府県予選出場数						外国人留学生出場数						1条校以外の生徒出場数						平成19年度都道府県大会使用シャトル(ダース)	専門部予算 ・高体連専門部費 ・高体連補助金 ・バド協会補助金 ・その他(強化費等)
			学校対抗		ダブルス		シングルス		学校対抗		ダブルス		シングルス		学校対抗		ダブルス		シングルス			
			男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子		
中国	31	鳥取	24	22	106	104	220	211	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300打	220,000円
			46校		210組		431名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	32	島根	10	16	61	87	132	183	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	400打	2,950,000円
			26校		148組		315名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	33	岡山	51	54	388	381	556	508													900打	1,170,000円
			105校		769組		1064名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	34	広島	54	59	253	277	527	567	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	860打	599,000円
			113校		530組		1094名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	35	山口	17	21	82	100	161	174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300打	670,000円
			38校		182組		335名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
四国	36	徳島	19	19	89	103	196	221													4000打	144,000円
			38校		192組		417名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	37	香川	27	29	144	156	190	188													600打	481,000円
			56校		300組		378名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	38	愛媛	21	23	130	119	164	173	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	500打	1,500,000円
			44校		249組		337名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	39	高知	20	22	90	103	160	178			1		1	1							900打	520,000円
			42校		193組		338名		0名		1名		2名		0名		0名		0名			
九州	40	福岡	64	70	230	256	275	307													400打	4,020,000円
			134校		486組		582名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	41	佐賀	17	18	68	68	83	75													250打	481,000円
			35校		136組		158名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	42	長崎	31	42	107	140	116	149	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1000打	2,750,000円
			73校		247組		265名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	43	大分	61	55	220	212	444	420	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	600打	1,300,000円
			116校		432組		864名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	44	熊本	18	14	56	58	95	93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	350打	600,000円
			32校		114組		188名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	45	宮崎	26	39	103	145	217	289	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	500打	1,482,000円
			65校		248組		506名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	46	鹿児島	48	64	180	236	367	486													300打	830,000円
			112校		416組		853名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
	47	沖縄	33	50	84	109	97	110													170打	1,256,500円
			83校		193組		207名		0名		0名		0名		0名		0名		0名			
20年度合計			6708	7678	28291	33753	45431	52741	0	0	9	0	9	3	201	78	162	63	123	51	126,966打	306,676,599円
			14386		62044		98172		0		9		12		279		225		174			
		19年度合計	2338	2733	9378	11623	15486	18194	0	0	0	0	0	0	70	30	58	22	37	15	32,791打	106,341,225円
			5071		21001		33680		0		0		0		100		80		52			
		18年度合計	11138	12879	46708	56299	75659	88122	0	0	12	0	12	4	293	108	246	89	185	72	63,182打	210,351,419円
			24017		103007		163781		0		12		16		401		335		257			
		17年度合計	2392	2771	9492	11594	14582	17570	0	0	0	0	0	0	50	10	50	12	53	13	31,837打	100,600,278円
			5163		21086		32152		0		0		0		60		62		66			
		16年度合計	2384	2770	9480	11491	15075	17743	0	1	0	1	0	1	78	48	66	36	42	25	44,255打	98,575,499円
			5154		20971		32818		1		1		1		126		102		67			
		15年度合計	2339	2778	8769	11072	13758	16449	2	2	1	2	1	2	58	22	84	34	87	25	29,620打	99,080,789円
			5117		19841		30207		4		3		3		80		118		112			
		14年度合計	2267	2717	8468	10994	13596	16600	1	2	0	3	2	3	62	23	77	24	60	20	34,685打	109,338,430円
			4984		19462		30196		3		3		5		85		101		80			
		13年度合計	2144	2713	9086	10395	12797	15623	2	4	2	4	2	4	31	13	44	13	44	15	29,261打	107,028,975円
			4857		19481		28420		6		6		6		44		57		59			
		12年度合計	2049	2698	7284	10097	11541	15271	2	4	2	4	2	4	7	0	18	4	18	6	32,063打	96,655,779円
			4747		17381		26812		6		6		6		7		22		24			
		11年度合計	2016	2617	7004	9732	11304	14689	2	4	2	3	1	4	37	7	23	8	20	7	27,781打	98,286,903円
			4633		16736		25993		6		5		5		44		31		27			
		10年度合計	2005	2621	7214	9836	10890	14286	1	1	1	1	1	1	26	7	38	12	32	19	26,730打	101,993,063円
			4626		17050		25176		2		2		2		33		50		51			
		9年度合計	2154	2699	8361	11117	12091	15214	0	4	0	4	0	4	48	5	48	26	33	18	26,978打	104,066,693円
			4853		19478		27305		4		4		4		53		74		51			
		8年度合計	2159	2714	7659	10031	11399	13996	1	3	2	3	2	3	69	22	60	10	41	7	26,591打	92,785,676円
			4873		17690		25395		4		5		5		91		70		48			

平成20年度　各都道府県高体連登録人員状況　（バドミントン）

㈶全国高等学校体育連盟

地区		都道府県	男子		女子		合計	地区合計
			校数	人数	校数	人数	合計人数	合計人数
北海道	1	北海道	246	3099	268	2853	5952	5952
東北	2	青森	52	650	57	720	1370	
	3	岩手	44	782	50	829	1611	
	4	宮城	67	1014	66	1104	2118	
	5	秋田	23	406	34	380	786	
	6	山形	41	683	41	662	1345	
	7	福島	80	1202	78	1127	2329	9559
関東	8	茨城	78	916	86	1097	2013	
	9	栃木	47	850	43	750	1600	
	10	群馬	44	743	49	784	1527	
	11	埼玉	162	2490	172	2874	5364	
	12	千葉	128	1818	140	2308	4126	
	13	東京	263	2974	312	4335	7309	
	14	神奈川	222	2653	228	3162	5815	
	15	山梨	21	428	22	385	813	28567
北信越	16	新潟	89	1724	89	1250	2974	
	17	富山	44	804	44	699	1503	
	18	石川	35	652	38	714	1366	
	19	福井	28	607	25	404	1011	
	20	長野	90	1591	94	1408	2999	9853
東海	21	岐阜	40	783	46	934	1717	
	22	静岡	39	868	56	1178	2046	
	23	愛知	117	2514	144	3417	5931	
	24	三重	42	809	52	988	1797	11491
近畿	25	滋賀	33	647	40	798	1445	
	26	京都	51	503	63	784	1287	
	27	大阪	117	656	174	2461	3117	
	28	兵庫	106	1403	126	2196	3599	
	29	奈良	27	382	27	501	883	
	30	和歌山	11	144	12	186	330	10661
中国	31	鳥取	30	349	30	384	733	
	32	島根	12	132	18	195	327	
	33	岡山	53	681	52	684	1365	
	34	広島	73	1181	78	1331	2512	
	35	山口	23	344	30	373	717	5654
四国	36	徳島	26	285	25	286	571	
	37	香川	31	386	31	432	818	
	38	愛媛	26	462	30	481	943	
	39	高知	28	197	28	232	429	2761
九州	40	福岡	78	1029	91	1318	2347	
	41	佐賀	18	356	17	255	611	
	42	長崎	42	657	52	915	1572	
	43	熊本	64	951	62	901	1852	
	44	大分	22	168	25	200	368	
	45	宮崎	43	458	51	603	1061	
	46	鹿児島	64	874	77	1192	2066	
	47	沖縄	51	431	55	668	1099	10976
			3071	43736	3428	51738	95474	

財団法人全国高等学校体育連盟バドミントン専門部規約及び運営に関する内規

第１章　　名称及び事務局

第１条　本専門部は、財団法人全国高等学校体育連盟（以下㈶全国高体連と略称）バドミントン専門部（以下㈶全国高体連専門部と略称）と称する。

第２条　本専門部は、会務処理のために、事務局を部長指定の場所に置く。
なお、事務局規程を別に定める。

第２章　　目的及び事業

第３条　本専門部は、㈶全国高体連規約に基づき、財団法人日本バドミントン協会（以下㈶日本バドミントン協会と略称）と緊密な連絡をとり、全国都道府県高等学校におけるバドミントン競技の健全な普及・発展を図ることを目的とする。

第４条　本専門部は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1　バドミントン競技に関する調査研究
2　高等学校生徒のバドミントン競技に関する指導奨励
3　全国高等学校総合体育大会（以下、全国高校総体と略称）の開催に関する審議及び開催
4　全国高等学校選抜バドミントン選手権大会（以下全国高校選抜大会と略称）の開催に関する審議及び開催
5　各都道府県高等学校体育連盟バドミントン専門部（以下、各都道府県高体連専門部と略称）相互の緊密な連絡調整
6　㈶全国高体連との連絡調整
7　関係諸団体との連絡調整
8　関係各種刊行物の発行
9　その他、本専門部の目的達成に必要な事業

第３章　　組　　織

第５条　本専門部は、各都道府県高体連専門部をもって組織する。

第４章　　役職及び職務

第６条　本専門部には、次の役員を置く。
1　顧　　問　　若干名
2　部　　長　　１　名
3　副 部 長　　若干名［全国高校総体開催地委員長を含む］
4　常任委員　　９名以上　［全国９地区各１名、部長指名若干名］
5　事務局長　　１　名
6　事務局員　　若干名［必要により置くことができる］
7　監　　事　　２　名

第７条　役員選出規程を別に定める。

第８条　各役員の職務は、次のとおりとする。
1　顧問は、重要な会務に関し、部長の諮問に応ずる。
2　部長は、本専門部を代表し、会務を統括する。
3　副部長は、部長を補佐し、部長事故ある時は、常任の副部長がその職務を代行する。
4　副部長（全国高校総体開催地委員長）は、全国高校総体開催の準備等全般を行う。

5　常任委員は、会務を処理する。
6　事務局長は、別に定める事務局規程により、事務を処理する。
7　事務局員は、事務局長を補佐する。
8　監事は、会計を監査する。

第９条　役員は、学校教育法第50条・第１項に規定する学校長・教頭・教諭の職にある者があたる。ただし、顧問はこの限りではない。

第10条　1　本専門部の役員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。
なお、監事の任期は２年のみとし、再任はなしとする。
2　補欠又は増員によって就任した役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第５章　会　　議

第11条　㈶全国高体連専門部会（以下、常任委員会と略称）は、次のとおりとする。
1　部長が召集する。
2　定例の会議は、毎年、全国高校総体組み合わせ会議時・全国高校総体開催時・全日本研修合宿開催時・全国高等学校選抜大会組み合わせ会議時とする。
また、全国高校選抜大会開催時に開催することもある。
3　その他必要がある時は、臨時に開催することが出来る。
4　会議は、部長・副部長・常任委員・事務局で構成する。
5　議長は、常任副部長があたる。記録は、事務局があたる。
6　会議は、部長・副部長・常任委員の３分の２以上の出席をもって成立する。
7　会議の表決は、出席者の過半数の決議で決する。可否同数の場合は議長がこれを決する。
8　常任委員会は、以下のような会務を行う。
（１）㈶全国高体連専門部委員長会議（以下、委員長会議と略称）の議案の作成・審議
（２）関係諸団体から委託された事項の審議・処理
（３）関係諸団体で決議された事項の処理
（４）緊急事項の審議・処理
（５）その他の会務の審議・処理

第12条　委員長会議は、次のとおりとする。
1　部長が召集する。
2　役員の承認・予算・決算・規約の改正等重要事項を審議する最高決議機関である。
3　定例の委員長会議は、全国高校総体開催時に開催する。
4　その他必要がある時は、臨時に開催することができる。
5　委員長会議は、顧問・部長・副部長・常任委員・事務局・監事・各都道府県高体連専門部委員長及びその他同会議関係者で構成する。
6　議長は、常任の副部長があたる。記録は、事務局があたる。
7　全国都道府県数（48、北海道は２）を定数とし、その３分の２以上（委任状含）の出席をもって成立する。なお、出席できない時は、同都道府県内の他の者に代行させるか全国専門部長に委任することができる。（委任状による）
8　会議の決議は、出席都道府県（各都道府県１票、北北海道１票、南北海道１票、含委任状）の過半数の決議で決する。可否同数の場合は議長がこれを決する。

第13条　緊急な事項で委員長会議を開催できない場合は、常任委員会がその決定を代行し、次の委員長会議で報告することができる。

第６章　各 種 委 員 会

第14条　本専門部は、事業遂行のため必要あるときは、常任委員会の審議により、各種委員会を設

けることができる。
委員会の名称・目的・委員の定数、その他必要な事項は常任委員会で定める。
なお、各種委員会内規を別に定める。

第7章　表　　彰

第15条　本専門部において、特に功績のあった者を表彰する。
なお、表彰規程を別に定める。

第8章　会　　計

第16条　本専門部の経費は、次にかかげるもので支弁する。
1　㈶全国高体連からの補助金
2　各都道府県専門部（48、北海道は2）からの分担金
3　㈶日本バドミントン協会からの助成金
4　事業による収入
5　寄付金
6　その他の収入

第17条　本専門部の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第18条　会計規程を別に定める。

第9章　規約改正

第19条　本専門部の規約改正は、委員長会議の決議による。

第10章　組み合わせ

第20条　全国高校総体・全国高校選抜大会の組み合わせ基準を別に定める。

附　　則

本規約にて規程なき細則は、必要に応じて常任委員会で作成する。
本規約は、昭和55年7月31日に制定する。
本規約は、昭和55年7月31日に施行する。
本規約は、平成10年7月31日より一部［第4章、第6条・第8条］追加し、施行する。
本規約は、平成20年7月27日より一部［表題、第1章第1条、第2章第3・4条、第3章第5条、第4章第6・8・11条、第5章第11・12・13条、第6章第14条、第7章第15条、第8章第16・17・18条、第9章第19条、第10章第20条］を改定・追加・削除し、施行する。

事務局規程

第１条　本規程は、㈶全国高体連専門部規約第１章第２条により、本専門部の円滑な運営をはかるために定める。

第２条　本事務局は、次の事項について事務を処理する。

1　総務関係
（1）公印の保管
（2）㈶全国高体連との連絡調整
（3）㈶日本バドミントン協会との連絡調整
（4）関係諸団体との連絡調整
（5）運営を推進するための業務
（6）その他総務に関わること

2　庶務・文書関係
（1）文書の収受・処理・発送・整理・保管・処分等
（2）諸会議の会議録・行事等の記録
（3）関係各種刊行物の発行
（4）その他庶務に関わること

3　経理関係
（1）予算・決算
（2）収入・支出
（3）その他経理に関わること

第３条　事務局は、部長の指示を受けて事務を処理する。

附　則　本規程は、昭和47年７月31日より施行する。
本規程は、平成20年７月27日より一部［第１・２・３条］を改定し、施行する。

役員選出規程

第１条　㈶全国高体連専門部規約第４章第７条により、役員規程を次のように定める。

第２条　本専門部の役員は、常任委員会及び選考委員会において選出し、委員長会議の承認を得ることを必要とする。

第３条　顧問は、歴代部長および広く本専門部に関与する者の中より若干名を選出し、部長が推薦する。

第４条　部長は、広く本専門部に関与する者の中より１名を選出し、㈶全国高体連に報告する。
選考委員会（全国９地区より１名ずつ選出）において選出され、委員長会議において承認を得ることとする。
また、部長は、常任委員を兼ねないこととする。

第５条　副部長は、若干名とする。
副部長は、広く本専門部に関与する者、当年度及び翌年度の全国高校総体開催地の委員長とする。
副部長は、選考委員会（全国９地区より１名ずつ選出）において選出され、委員長会議において承認を得ることとする。
また、副部長は、常任委員を兼ねないこととする。

第６条　常任委員は、全国９地区高体連専門部より１名ずつ選出された委員と部長指名委員（若干名）とし、部長が委嘱する。

第７条　事務局長は、各都道府県高体連専門部より１名を選出し、部長が委嘱する。

第８条　事務局員は、必要により広く本専門部に関与する者の中より若干名を選出し、部長が委嘱する。

第９条　監事は、各都道府県高体連専門部より２名を選出する。
選考委員会（全国９地区より１名ずつ選出）において選出され、委員長会議において承認を得ることとする。
また、監事は、常任委員を兼ねることは出来ない。

附　則　本規程は、昭和44年７月31日より施行する。
本規程は、平成10年７月31日より一部［第８条］を追加し、施行する。
本規程は、平成20年７月27日より一部［第１・２・４・５・６・７・９条］を改定・追加・削除し、施行する。

表彰規程

第１条　㈶全国高体連専門部規約第７章第15条により、本専門部の振興発展に貢献した学校･団体･個人に対し、その栄誉を顕彰するために次の表彰規程を定める。

第２条　表彰の種類及び選考（推薦）基準は次のとおりとする。

1　全国高校総体及び全国高校選抜大会の学校対抗・個人対抗（単・複）において１～３位に入賞した学校・個人を表彰する。

2　大会ごと表彰

（１）功労賞　㈶全国高体連専門部役員を退任した者を表彰する。
（全国高校総体時に開催される定例の委員長会議において表彰）
ア、部長・副部長
イ、常任委員・事務局長・事務局員（ともに２期又は４年以上在任した者）

（２）優秀校賞　ア、全国高校総体学校対抗に10の倍数年連続出場した学校を表彰する。
＊10・20・30・40年～　連続出場校
（全国高校総体開会式において表彰）
イ、全国高校選抜大会学校対抗に10の倍数年連続出場した学校を表彰する。
＊10・20・30・40年～　連続出場校
（全国高校選抜大会開会式において表彰）

（３）感謝状　全国高校総体開催市町村への感謝状を㈶日本バドミントン協会へ申請する。（全国高校総体開会式において表彰）

3　特別表彰

＊10の倍数大会ごとの記念大会で行うこととし、成績は前回以後の10年間のものとする。（この10年間に表彰対象になった学校や個人も含む）

＊勤務校が変更になった後の成績や男女別での成績は、通算で考えることとする。

＊同一人の表彰は一回一賞とし、同一人が同時に複数の賞の候補者になった場合の賞の選択は、受賞候補者に任せる。
また、功労賞と感謝状の同一人への表彰は、原則として一回限りとする。
ただし、過去の受賞後も、特に功績があった者又は同等な功績があった者（功労賞は、原則的に、この10年間で３期又は６年以上在任した者）はこの限りではない。

（１）功労賞　各都道府県専門部の部長、委員長で特に功績があった者又は同等な功績があった者（原則的には４期又は８年以上在任した者）を表彰する。

（２）優秀監督賞　ア、全国高校総体学校対抗において２回以上優勝した監督を表彰する。
イ、全国高校選抜大会学校対抗において２回以上優勝した監督を表彰する。

（３）全国高校総体及び全国高校選抜大会開催都道府県専門部委員長表彰
ア、この10年間の開催に貢献した各都道府県専門部委員長を表彰する。

（４）優秀校賞　ア、この10年間で10の倍数を超えた回数出場した学校を表彰する。
（前回と同じ回数の表彰はしない）
（ア）全国高校総体学校対抗に数多く出場した学校を表彰する。
＊ 10・20・30・40回～　出場校
（イ）全国高校選抜大会学校対抗に数多く出場した学校を表彰する。
＊10・20・30・40回～　出場校

イ、この10年間の間に５回以上の優勝に達した学校を表彰する。
（ア）全国高校総体学校対抗に数多く優勝した学校を表彰する。
（イ）全国高校選抜大会学校対抗に数多く優勝した学校を表彰する。

（５）特別功労賞　永年にわたり特に本専門部の振興発展に寄与した個人を表彰する。
ア、元全国専門部長・副部長
イ、常任委員（２期以上）
ウ、元地区委員長（２期以上）
エ、その他、この10年間で特に功労があり、常任委員が推薦する者

（６）感謝状　永年にわたり本専門部の振興発展に寄与した団体又は個人を表彰する。

第３条　推薦の方法は次のとおりとする。
1　㈶全国高体連専門部（部長・副部長・常任委員・事務局）よりの推薦
2　各都道府県専門部よりの推薦
3　各地区（全国９ブロック）専門部よりの推薦

第４条　受賞候補者の推薦は、次のとおりとする。
1　大会ごとの表彰については、㈶全国高体連専門部が行うものとする。
2　特別表彰については、本専門部所定の様式により、当該大会開催年６月末日までに全国専門部長（事務局）あてに送付すること。
ただし、全国高校選抜大会関係は当該大会開催年１月末日までとする。

第５条　前条において推薦された者については、常任委員会において選考決定する。

第６条　表彰は、原則として全国高校総体は委員長会議か開会式又は記念式典で、全国高校選抜大会は開会式又は記念式典で行うこととする。

第７条　表彰は、原則として賞状等を授与する。

第８条　受賞候補者が故人である場合であっても、追彰することとする。

第９条　受賞のため要する経費（旅費・宿泊費）は、本人が負担することとする。

附　則　本規則は、昭和54年７月31日より施行する。
本規程は、平成９年７月31日より一部［第２条２（１）（３）・３（１）（２）（３）（４）・第６条］追加・改正し、施行する。
本規程は、平成10年７月31日より一部［第２条２（２）］追加・削除・改正し、施行する。
本規程は、平成20年７月27日より一部［第１・２・３・４・５・６条」を改定・追加し、施行する。

平成　　年　　月　　日

㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部長　様

推 薦 団 体 名　　高体連バドミントン専門部

役職名・責任者名　　印

平成　　年度㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部 特別表彰 受賞候補者推薦書

下記のようなことで、受賞候補者を推薦いたします。

該当賞名	表彰候補者名･学校名	推　薦　理　由
功　労　賞		
優秀監督賞 (高校総体)		
優秀監督賞 (高校選抜)		
優 秀 校 賞 (高校総体)		
優 秀 校 賞 (高校選抜)		
感　謝　状		

＊全国高校選抜大会関係は、(第　　回大会) 平成　　年１月末日までに提出してください。

＊全国高校総体大会関係は、(第　　回大会) 平成　　年６月末日までに提出してください。

会計規程

第１条　㈶全国高体連専門部規約第８章第18条により、本専門部会計の予算・決算・監査および執行に関することについて次のような会計規程を定める。

第２条　本専門部の会計事務を処理するために、会計担当（事務局長が兼務）を置く。

第３条　会計業務の執行は、部長の承認のもとに事務局長が行う。

第４条　本専門部には、次の諸帳簿を備えることとする。
1　予算書
2　予算差引簿
3　現金出納簿
4　現金通帳

第５条　会計の予算・決算の立案・作成、審議、決定又は承認、監査の機関と時期は、次のようなこととする。
1　予算・決算の立案・作成は、部長の指示のもとに事務局長（会計担当が兼務）が行う。
（1）予算は、前年度中に暫定予算を立案・作成する。
（2）決算は、原則として会計年度終了後、１ヶ月以内に作成する。
2　予算・決算の審議、決定又は承認は、次のようなこととする。
（1）予算は、当該年度の７月又は８月の常任委員会で審議、決定する。
（2）決算は、翌年度の７月又は８月の常任委員会で審議、決定する。
（3）予算・決算ともに、７・８月の委員長会議において承認を得るものとする。
3　監査は、７月又は８月の常任委員会での審議に先立って、原則として、部長・事務局長立会いのもとに受けることとする。

第６条　全国高校総体の10回倍数回大会開催年度において、記念事業を実施する時は、臨時に分担金を徴収することができる。
徴収する場合の金額は、前年度の専門部会において審議、決定する。

第７条　会計の収支項目及びその内容は、次のようなこととする。
1　収入の部
（1）繰越金　　前年度決算における差し引き残高
（2）分担金
ア、分担金額　　各都道府県専門部(48､北海道は２‥南北)から30,000円
イ、納入方法　　（ア）所定の口座への振込み
（イ）７・８月の委員長会議受付時での現金納入
ウ、臨時徴収額　専門部会において審議、決定する。
臨時徴収時も上記の納入方法に準ずる。
（3）補助金・助成金　㈶全国高体連・㈶日本バドミントン協会等からの補助金・助成金
（4）海外派遣基金
ア、負担対象者　全国高校総体参加申込者（監督･コーチ･マネージャー・選手）
イ、分担金額　　１名につき200円
ウ、納入方法　　（ア）所定の口座への振込み
（イ）７・８月の委員長会議受付時での現金納入
（5）寄付金　　本専門部運営のための寄付金
（6）雑収入　　預金利子及び上記（1）～（5）以外の収入
2　支出の部

（1）事務費
　ア、通信費　　郵券・郵便料金・電話電報料金
　イ、印刷費　　専門部運営に関する諸印刷費
　ウ、需用費　　備品・消耗品費
　エ、事務経費　事務連絡のための旅費・宿泊費・日当
　　（別に定める旅費等の支出に関する基準による）
　オ、会議費　　事務関係
　カ、事務雑費　事務執行上の食費、その他の経費
（2）会議費
　　会議費　　各種会議における会場費・食料費
（3）役員経費
　　主要役員費　部長・副部長の旅費・宿泊費・日当
　　（別に定める旅費等の支出に関する基準による）
（4）補助費
　　補助費　　全国高校選抜大会、海外遠征・国際競技会への補助金
（5）分担金
　　分担金　　㈶日本バドミントン協会への分担金
（6）記念事業費
　　積立費　　10の倍数記念大会での記念事業のための特別積立金
（7）雑費（上記（1）～（6）以外の諸経費）
　ア、慶弔費　　別に定める「慶弔費等の支出に関する内規」による
　イ、見舞金　　同上
　ウ、表彰費　　同上
（8）予備費（次年度への繰越金を含む）

附　則　本規程は、昭和55年７月31日より施行する。
本規程は、平成20年７月27日より一部［第１・５・６・７条］を改定・追加し、施行する。

「慶弔費等の支出に関する内規」

第１条　この内規における対象者は次のとおりとする。

1　㈶全国高体連専門部役員（顧問・部長・副部長・常任委員・事務局長・事務局員・監事）
（なお、永年に亘り本専門部の役員として貢献した者については、部長の判断により別に考慮する）

2　全国高校総体・全国高校選抜大会に参加した引率教員・監督・コーチ・マネージャー・選手・大会役員・競技役員
（ただし、競技会（大会）開催期間のみ適用）

3　㈶全国高体連主催又は㈶全国高体連専門部主催・主管の合宿・講習会等に参加した引率教師・選手・指導者・役員
（ただし、合宿・講習会開催期間のみ適用）

4　㈶全国高体連又は㈶全国高体連専門部が関与する海外遠征・国際競技会（国際大会）に参加した監督・コーチ・選手・役員
［ただし、海外遠征・国際競技会（国際大会）開催期間のみ適用］

第２条　弔事に対する儀礼、疾病及び障害に対する見舞金・保険金、大会ごと表彰・特別表彰に関わる費用、海外遠征・国際競技会（国際大会）出場に関わる補助金の支出については、次のとおりとする。
詳細は部長の指示による。

1　弔事に対する儀礼
上記第１条の　１、２、３、４　対象者が死亡の場合→10,000円・花輪１基

2　疾病及び障害に対する見舞金
上記第１条の １ 対象者が疾病又は障害により１ヶ月以上の入院加療を要した場合→10,000円
（該当者等からの㈶全国高体連専門部長への請求による）

3　大会ごと表彰・特別表彰に関わる費用

4　海外遠征・国際競技（国際大会）出場に関わる補助金

第３条　その他必要と思われる場合については、専門部会での検討・決定又は部長の指示により決定する。

附　則　本内規は、昭和55年７月31日より施行する。
本内規は、平成９年７月31日より一部［附則］ 改正し、施行する。
本内規は、平成20年７月27日より一部［１・２・３］を改定・追加し、施行する。

「旅費等の支出に関する基準」

第１条　全国高校総体関係

1　全国高校総体関係打ち合わせ・視察…部長・副部長・常任委員・事務局長・事務局員　→　開催都道府県が負担

2　全国高校総体組み合わせ会議…部長・副部長・常任委員・事務局長・事務局員　→　開催都道府県が負担

3　（７・８月）　全国高校総体…部長・副部長・競技役員　→　開催都道府県が負担

第２条　全国高校選抜大会関係

1　（２月）　全国高校選抜大会組み合わせ会議…部長・副部長・事務局長・事務局員　→　開催都道府県が負担、常任委員　→　全国各地区（ブロック）が負担

2　（３月）　全国高校選抜大会…部長・副部長・事務局長・競技役員　→　開催都道府県が負担

第３条　支給基準［㈶全国高体連専門部が旅費を負担する場合には以下の基準による］

1　交通費は、勤務先と用務先との最寄の駅により起算する。

2　勤務先と用務先の距離が100km 以上あり、新幹線を利用した方がよい場合には、新幹線料金を支給する。ただし、新幹線利用距離が100km 以上の場合とする。

3　航空運賃は、用務時間と旅行経路とを考慮して支給する。

4　㈶全国高体連専門部役員と各都道府県専門部委員長を兼ねている者は、所属都道府県高体連より支給されない部分を支給する。

5　本専門部の用務期間中に、他の用務で他の団体等から旅費等（交通費・宿泊費・日当）の支給があった場合には支給しない。

6　全国高校総体関係用務の場合には、全国高校総体開催都道府県実行委員会旅費基準による。

それ以外の用務については、下記の支給基準による。

対象者	顧問・部長・副部長・常任委員・事務局長・事務局員・監事
宿泊費	全国高校総体・全国高校選抜大会関係の場合→大会規程料金 規程料金・指定料金のない場合→実費 用務の日程・内容により泊数を配慮する。
日　当	全国高校総体開催都道府県実行委員会支給基準による

費　目	交通機関距離	普通旅客運賃	特急指定運賃	特急指定運賃	新幹線指定料金
	～100km	○	○		
	101km ～ 300km	○		○	○
	301km ～ 500km	○		○	○
	501km ～ 700km	○		○	○
	701km ～	○		○	○

附　則　本基準は、昭和55年７月30日より施行する。

本基準は、平成９年７月31日より一部［慶弔費等の支出に関する内規の４旅費等の支出に関する基準の５（６）の日当部分］　改正し、施行する。

本基準は、平成20年７月27日より一部［１・２・３・４・５・表］を改定・追加・削除し、施行する。

㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部委員長会議を欠席する場合には、委任状をお願いします。

平成　　年　　月　　日

委　任　状

㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部長　様

＿＿＿＿＿＿　都・道・府・県バドミントン専門部

平成　　年度㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部委員長会議の案件の議決・承認に関しては、一切㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部長に一任いたします。

専門部委員会規定

第１条　㈶全国高体連専門部規約第６章第14条により、本専門部の円滑な運営をはかるために、専門部委員会を設置する。

第２条　専門部委員会の構成は、委員長（副部長）及び委員（常任委員・事務局長・事務局員）とする。
また、部長は会を統轄する。

第３条　本専門部は、次の委員会を設置し、以下の業務を行う。

1　総務委員会　総務　（１）事務全般
（２）各種会議の運営・資料の作成・記録
（３）諸規定の管理
（４）㈶全国高体連との連絡調整
（５）㈶日本バドミントン協会との連絡調整
（６）各都道府県高体連専門部との連絡調整
（７）その他関係諸団体との連絡調整
財務　会計の管理
広報　（１）ホームページの管理・充実
（２）情報のネットワーク化
登録審査　（１）留学生などの審査
（２）会員登録の審査

2　競技委員会　事業　（１）大会開催の管理・監督
（２）競技規則改正等の連絡・伝達
競技審判　（１）大会役員の配置
（２）競技運営・審判に関わる事項
（３）競技役員(レフェリー)・審判員の養成と派遣
医事管理　（１）選手のドーピングに関する事項
（２）選手の健康管理と医学的サポート
（大会での医師・看護師・トレーナーの配置）

3　強化委員会　選手強化　（１）研修合宿の企画運営
（２）競技力向上のためのチーム編成と強化練習
（３）㈶日本バドミントン協会との連携
（４）高校と中学校・大学等との連携強化の推進
普及指導　（１）選手の普及・開発
（２）指導者の養成
（３）選手のドーピングに関する事項

4　㈶全国高体連バドミントン専門部10の倍数周年記念実行委員会
記念誌　（１）記念誌の編纂
（２）原稿の依頼及び収受
（３）記念誌の配布
（４）その他、必要な事項
記念式典　（１）出席者の依頼文書の作成・発送及び収受
（２）記念式典及び祝賀会の計画立案及び実施
（３）被表彰者の選定及び表彰
（４）その他、必要な事項
総　務　（１）会計に関する事項
（２）文書の発送及び収受
（３）記念品の選定及び配布
（４）記念Ｔシャツ及び記念誌の販売
（５）関係諸団体等との連絡調整
（６）その他、必要な事項

附　則　本（内規）は、平成20年７月27日より施行する。

組み合わせ基準

第１条　㈶全国高体連専門部規約第10章第20条により、全国高校総体の組み合わせ基準を次のように定める。

１　学校対抗（団体戦）

第１条件　前年度ベスト８入賞校を入れる。
※５～８入賞校　→　前年度全国高校選抜大会を優先する。[ベスト４は４分割する]

第２条件　前年度全国高校選抜大会ベスト４入賞校が第１条件によって入っていない時は入れる。
※ベスト４は４分割する。
※同地区（ブロック）は５～８を考える。

第３条件　開催都道府県予選第１位校が第１条件・第２条件によって入っていない時は入れる。

第４条件　第１条件～第３条件によって入っていない地区（ブロック）の第１代表校を入れる。

第５条件　第１条件～第３条件によって入っている地区（ブロック）の第１代表校がまだ入っていない時は入れる。

第６条件　開催都道府県予選第２位校が第１条件～第５条件によって入っていない時は入れる。

第７条件　各地区（ブロック）の第２代表校が第１条件～第６条件によって入っていない時は入れる。
※上記の条件を参考にしてシードを決定する。残りはフリー抽選とする。
※試合番号　1.9.10.17に入るのは、同地区（ブロック）からは２つまでとする。
※初回戦が前年度全国高校総体と同じ対戦にならないようにする。
※初回戦が前年度全国高校選抜大会と同じ対戦にならないようにする。

２　個人対抗（ダブルス）

第１条件　前年度ベスト８入賞者を入れる。
※５～８入賞者　→　前年度全国高校選抜大会を優先する。[ベスト４は４分割する]

第２条件　前年度全国高校選抜大会ベスト４入賞者が第１条件によって入っていない時は入れる。
※ベスト４は４分割する。

第３条件　開催都道府県予選第１代表が第１条件・第２条件によって入っていない時は入れる。

第４条件　前年度ベスト16入賞者が第１条件～第３条件によって入っていない時は入れる。

第５条件　前年度全国高校選抜大会ベスト８入賞者が第１条件～第４条件によって入っていない時は入れる。

第６条件　第１条件・第２条件・第４条件・第５条件の該当者でパートナーの変更（組替）によるときは、第１条件から順に入れる。

第７条件　第１条件～第６条件によって入っていない地区（ブロック）の第１代表を入れる。

第８条件　開催都道府県予選第２代表が第１条件～第７条件によって入っていない時は入れる。

第９条件　各地区（ブロック）からの推薦によって入れる。[上記にない各ブロックの第２代表]
※上記の条件を参考にしてシードを決定する。残りはフリー抽選とする。
※試合番号　1.17.18.34に入るのは、各ブロックからは２つまでとする。
※初回戦が前年度全国高校総体と同じ対戦にならないようにする。

※初回戦が前年度全国高校選抜大会と同じ対戦にならないようにする。

3　個人対抗（シングルス）

第１条件　前年度ベスト８入賞者を入れる。
※５～８入賞者　→　前年度全国高校選抜大会を優先する。［ベスト４は４分割する］

第２条件　前年度全国高校選抜大会ベスト４入賞者が第１条件によって入っていない時は入れる。
※ベスト４は４分割する。

第３条件　開催都道府県予選第１代表が第１条件・第２条件によって入っていない時は入れる。

第４条件　前年度ベスト16入賞者が第１条件～第３条件によって入っていない時は入れる。

第５条件　前年度全国高校選抜大会ベスト８入賞者が第１条件～第４条件によって入っていない時は入れる。

第６条件　第１条件～第５条件によって入っていない地区（ブロック）の第１代表を入れる。

第７条件　開催都道府県予選第２代表が第１条件～第６条件によって入っていない時は入れる。

第８条件　各地区（ブロック）からの推薦によって入れる。［上記にない各ブロックの第２代表］
※上記の条件を参考にしてシードを決定する。残りはフリー抽選とする。
※試合番号　1.17.18.34に入るのは、各ブロックからは２つまでとする。
※初回戦が前年度全国高校総体と同じ対戦にならないようにする。
※初回戦が前年度全国高校選抜大会と同じ対戦にならないようにする。

第２条　㈶全国高体連専門部規約第10章第21条により、全国高校総体の組み合わせ基準（全国高校選抜大会記念大会の翌年のみ適用）を次のように定める。

1　学校対抗（団体戦）

第１条件　前年度ベスト８入賞校を入れる。
※５～８入賞校　→　前年度全国高校選抜大会を優先する。［ベスト４は４分割する］

第２条件　前年度全国高校選抜大会ベスト４入賞校が第１条件によって入っていない時は入れる。
※ベスト４は４分割する。
※同地区（ブロック）は５～８を考える。

第３条件　開催都道府県予選第１位校が第１条件・第２条件によって入っていない時は入れる。

第４条件　第１条件～第３条件によって入っていない地区（ブロック）の第１代表校を入れる。

第５条件　第１条件～第３条件によって入っている地区（ブロック）の第１代表校がまだ入っていない時は入れる。

第６条件　開催都道府県予選第２位校が第１条件～第５条件によって入っていない時は入れる。

第７条件　各地区（ブロック）の第２代表校が第１条件～第６条件によって入っていない時は入れる。
※上記の条件を参考にしてシードを決定する。残りはフリー抽選とする。
※試合番号　1.9.10.17に入るのは、同地区（ブロック）からは２つまでとする。
※初回戦が前年度全国高校総体と同じ対戦にならないようにする。
※初回戦が前年度全国高校選抜大会と同じ対戦にならないようにする。

2　個人対抗（ダブルス）

第１条件　前年度ベスト８入賞者を入れる。
※５～８入賞者　→　前年度全国高校選抜大会を優先する。[ベスト４は４分割する]

第２条件　前年度全日本ジュニア選手権大会ベスト８入賞者が第１条件によって入っていない時は入れる。
※ベスト４は４分割する。

第３条件　開催都道府県予選第１代表が第１条件・第２条件によって入っていない時は入れる。

第４条件　前年度ベスト16入賞者が第１条件～第３条件によって入っていない時は入れる。

第５条件　前年度全日本ジュニア選手権大会ベスト16入賞者が第１条件～第４条件によって入っていない時は入れる。

第６条件　第１条件・第２条件・第４条件・第５条件の該当者でパートナーの変更（組替）によるときは、第１条件から順に入れる。

第７条件　第１条件～第６条件によって入っていない地区（ブロック）の第１代表を入れる。

第８条件　開催都道府県予選第２代表が第１条件～第７条件によって入っていない時は入れる。

第９条件　各地区（ブロック）からの推薦によって入れる。[上記にない各ブロックの第２代表]
※上記の条件を参考にしてシードを決定する。残りはフリー抽選とする。
※試合番号　1.17.18.34に入るのは、各ブロックからは２つまでとする。
※初回戦が前年度全国高校総体と同じ対戦にならないようにする。
※初回戦が前年度全国高校選抜大会と同じ対戦にならないようにする。

3　個人対抗（シングルス）

第１条件　前年度ベスト８入賞者を入れる。
※５～８入賞者　→　前年度全国高校選抜大会を優先する。[ベスト４は４分割する]

第２条件　前年度全日本ジュニア選手権大会ベスト８入賞者が第１条件によって入っていない時は入れる。
※ベスト４は４分割する。

第３条件　開催都道府県予選第１代表が第１条件・第２条件によって入っていない時は入れる。

第４条件　前年度ベスト16入賞者が第１条件～第３条件によって入っていない時は入れる。

第５条件　前年度全日本ジュニア選手権大会ベスト16入賞者が第１条件～第４条件によって入っていない時は入れる。

第６条件　第１条件～第５条件によって入っていない地区（ブロック）の第１代表を入れる。

第７条件　開催都道府県予選第２代表が第１条件～第６条件によって入っていない時は入れる。

第８条件　各地区（ブロック）からの推薦によって入れる。[上記にない各ブロックの第２代表]
※上記の条件を参考にしてシードを決定する。残りはフリー抽選とする。
※試合番号　1.17.18.34に入るのは、各ブロックからは２つまでとする。
※初回戦が前年度全国高校総体と同じ対戦にならないようにする。
※初回戦が前年度全国高校選抜大会と同じ対戦にならないようにする。

第３条　㈶全国高体連専門部規約第10章第20条により、全国高校選抜大会の組み合わせ基準を次のように定める。

1　学校対抗（団体戦）

第１条件　　前年度ベスト８入賞校を入れる。

第２条件　　開催都道府県１位校が第１条件によって入っていない時は入れる。

第３条件　　全国高校総合体育大会ベスト８入賞校が第１条件・第２条件によって入っていない時は入れる。

第４条件　　第１条件～第３条件によって入っていない地区（ブロック）の１位校を入れる。

※ストレート出場の東京（男女）・神奈川（男女）・埼玉（男女）・大阪（女）も１つの地区（ブロック）と考える。

※上記の条件を参考にしてシードを決定し、残りはフリー抽選とする。

※初回戦が前年度と同対戦にならないようにする。

2　個人対抗（ダブルス）

第１条件　　前年度ベスト８入賞者を入れる。

第２条件　　全日本ジュニア選手権大会ベスト８入賞者が第１条件によって入っていない時は入れる。

※ベスト４は４分割する。

第３条件　　全国高校総合体育大会ベスト16入賞者が第１条件・第２条件によって入っていない時は入れる。

第４条件　　開催都道府県１位者が第１条件～第３条件によって入っていない時は入れる。

第５条件　　第１条件～第３条件の該当者でパートナーの変更（組替）によって残された者がいる時は、第１条件～第３条件の順に入れる。

第６条件　　第１条件～第５条件によって入っていない地区（ブロック）の１位者を入れる。

※上記の条件を参考にしてシードを決定し、残りはフリー抽選とする。

※初回戦が前年度と同対戦にならないようにする。

3　個人対抗（シングルス）

第１条件　　前年度ベスト８入賞者を入れる。

第２条件　　全日本ジュニア選手権大会ベスト８入賞者が第１条件によって入っていない時は入れる。

※ベスト４は４分割する。

第３条件　　全国高校総合体育大会ベスト16入賞者が第１条件・第２条件によって入っていない時は入れる。

第４条件　　開催都道府県１位者が第１条件～第３条件によって入っていない時は入れる。

第５条件　　第１条件～第４条件によって入っていない地区（ブロック）の１位者を入れる。

※上記の条件を参考にしてシードを決定、残りはフリー抽選とする。

※初回戦が前年度と同対戦にならないようにする。

第４条　　㈶全国高体連専門部規約第10章第20条により、全国高校選抜大会の組み合わせ基準（記念大会のみ適用）を次のように定める。

1　学校対抗（団体戦）のみ実施する。

＊記念大会であるので、組合せを『公開抽選』で行う。

＊開会式終了後すぐに、会場にて選手（主将）による抽選で行う。

（1）シードは１～８までとする。

（第１条件）　前年度の選抜大会の１位～８位（ランク順）をシードする。

（第２条件）　開催地の１位をシードする。

（第３条件）　当年度の高校総体の１位～８位（ランク順）をシードする。

＊９以降のシードはしない。

＊第１条件～第３条件で８シードまで埋まらなければ空けたままとする。

（２）他はすべて考慮せずにフリー抽選とする。（開催地２校は左右に分ける）

附　則　全国高校総体基準は、昭和55年７月31日に施行する。
全国高校総体基準（全国選抜大会記念大会の翌年のみ適用）は、平成16年７月31日に施行する。
全国高校総体基準、平成17年改正（第２条件と第３条件の入れ替え）する。
全国高校選抜大会基準は、平成13年７月31日に施行する。
本基準は、平成20年７月27日に以下通り、一部追加・削除・改正し、施行する。
第１条、
第１条　１　第１・２・３・４・５・６・７・８・９・10・11・12・13条件
　　２　第１・２・３・４・５・７・８・９・10・11・12・13・14条件
　　３　第１・２・３・４・５・６・７・８・９・10・11・12・13条件
第２条
第２条　１　第１・２・３・４・５・７・８・９・10・11・12・13・14条件
　　２　第１・２・３・４・５・７・８・９・10・11・12・13・14条件
　　３　第１・２・３・４・５・６・７・８・９・10・11・12・13条件
第３条
第３条　１　第２・３・４・５・６・７・８・９・10条件
　　２　第２・３・４・６・７・８・９・10条件
　　３　第２・３・４・５・６・７・８・９条件

編集後記

この度、㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部が創立60周年を迎えるにあたり、60周年記念事業実行委員会を立ち上げ、その中に記念誌係を設置し、準備を進めてまいりました。

前回に50周年記念誌を作成したひとつの大きな目的として、50周年記念誌に全国専門部関係、各ブロック専門部関係、全国各都道府県関係等の資料を10年ごとの周年記念誌として足して行こうということでした。これに伴い、専門部規約の改定から始まり、大会関係資料の収集確認、原稿及び写真等の提出、記念誌の編集など多岐多様に渡る仕事を２年前より始め、会議を重ねて進めてまいりました。

実際に仕事を進めてまいりますと、非常に大変で、50周年記念誌の編纂の際、約半世紀の記録をまとめられた保坂先生、伊佐山先生のご苦労を考えたときに、50年の歴史をまとめて頂いたことと記念誌の形をつくって頂いたことに感謝の気持ちを感じずにはいられません。また、60周年記念誌を作成するにあたり、全国専門部の中心となって献身的にご苦労頂いた常任委員の山田先生に感謝申し上げますと共に、60周年記念誌作成のためにご多忙中にも関わらず原稿や写真をお寄せ戴いたり、貴重な資料を提供戴いた各位、また、ご指導ご協力くださいました方々、並びに60周年記念事業に多大なる援助を賜りました関係各位に心から感謝を申し上げ編集後記とします。

平成21年２月15日㈰　新潟県新潟市（北越高校会議室）

創立60周年記念誌

平成21年７月17日発行

編　集　全国高等学校体育連盟バドミントン専門部

発　行　創立60周年記念事業実行委員会
〒980－0003　宮城県仙台市青葉区小田原４丁目３－20
常盤木学園高等学校内　木　戸　純　一

事務局　全国高等学校体育連盟バドミントン専門部
〒399－0701　長野県塩尻市広丘吉田2645
長野県田川高等学校内　新　井　研　二

印　刷　㈱　二　鶴　堂
〒700－0975　岡山市北区今８丁目２－28
TEL 086-246-1710